

厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患政策研究事業

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究

平成 29 年度～令和元年度 総合研究報告書

研究代表者 鈴木 康夫

令和 2 (2020) 年 3 月

目 次

・総合研究報告（平成29年度～令和元年度）

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	1
鈴木 康夫(東邦大学医療センター佐倉病院 IBDセンター)	

・総合分担研究報告（平成29年度～令和元年度）

1 疫学・データベース作成プロジェクト

疫学・データベース作成 プロジェクト	6
西脇 祐司(東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野)	

2 IBDの病診連携を構築するプロジェクト

IBDの病診連携を構築するプロジェクト	11
久松 理一(杏林大学医学部消化器内科学)	

3 広報活動/研究成果公表/専門医育成プロジェクト

広報活動/研究成果公表/専門医育成プロジェクト	13
岡崎 和一(関西医科大学内科学第三講座)	

4 診断基準の改訂

潰瘍性大腸炎・クローン病の診断基準および重症度基準の改変	16
平井 郁仁(福岡大学医学部消化器内科学講座)	

「潰瘍性大腸炎、Crohn病に合併した小腸、大腸癌の特徴と予後 - Crohn病の直腸肛門管癌(痔瘻癌を含む)に対するsurveillance programの検証」	25
杉田 昭(横浜市立市民病院 臨牀研究部)	

5 治療指針・ガイドラインの改訂

治療指針・ガイドラインの改訂 総括	29
中村 志郎(兵庫医科大学 炎症性腸疾患学講座(内科部門))	
久松 理一(杏林大学医学部消化器内科学)	

外科系プロジェクト研究の現状と方針	34
杉田 昭(横浜市立市民病院臨牀研究部)	

「クローン病校門病変のすべて」第2版の発刊	37
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	
東 大二郎(福岡大学筑紫病院外科)	
平野由紀子(福岡大学筑紫病院外科)	

Crohn病手術例の再発危険因子の検討 多施設共同研究によるprospective study	39
杉田 昭(横浜市立市民病院 臨牀研究部)	

6 新たなIBD診断の開発	
新たなIBD診断の開発	42
緒方 晴彦(慶應義塾大学医学部内視鏡センター)	
新たなIBD診断の開発	
潰瘍性大腸炎に対する大腸カプセル内視鏡のアトラスならびに炎症度評価スコアの作成	
炎症性腸疾患に対する通常内視鏡自動診断システムの開発	46
中野 雅(北里大学北里研究所病院 消化器内科)	
7 合併症・副作用対策プロジェクト	
合併症・副作用への対策プロジェクト 内科系	52
猿田 雅之(東京慈恵会医科大学 内科学講座 消化器・肝臓内科)	
合併症・副作用対策プロジェクト(外科)	57
池内 浩基(兵庫医科大学炎症性腸疾患外科)	
潰瘍性大腸炎治療例の予後 QoLの観点から (prospective study)	60
杉田 昭(横浜市立市民病院 臨牀研究部)	
8 炎症性腸疾患患者の特殊型への対策プロジェクト	
IBDの特殊系(小児)総括	62
清水 俊明(順天堂大学小児科)	
炎症性腸疾患患者の特殊型への対策	73
穂苅 量太(防衛医科大学校内科学)	
9 腸内細菌プロジェクト	
腸内細菌の関与の追究と治療応用	77
安藤 朗(滋賀医科大学消化器内科)	
10 希少疾患プロジェクト	
希少疾患プロジェクト：総括	79
松本 主之(岩手医科大学消化器内科消化管分野)	
11 IBDの遺伝子解析プロジェクト	
IBDの遺伝子解析プロジェクト：総括	82
松本 主之(岩手医科大学消化器内科消化管分野)	
12 バイオマーカーと創薬に関するプロジェクト	
バイオマーカーと創薬に関するプロジェクト 総括	84
金井 隆典(慶應義塾大学医学部消化器内科)	
・研究成果の刊行に関する一覧	88
・学会発表に関する一覧	152
・知的財産権・社会活動報告	237

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究

研究代表者 鈴木康夫 東邦大学医療センター佐倉病院 IBD センター 特任教授

研究要旨：本研究班は、1973年以降炎症性腸疾患に関する研究を長年牽引してきた研究班における臨床研究分野の継続と一層の発展を期して2017年から新たに3年間計画で組織されたものである。本研究班では新たに、従来の潰瘍性大腸炎・クローン病に加え新たに指定難病となった希少疾患クローンカイト・カナダ症候群 多発小腸潰瘍症 腸管型ベーチェット病 家族性地中海熱腸管型を研究対象疾患に加え、各種プロジェクトを立案・遂行された。3年間の研究を通じ4つの研究骨子を掲げ、その骨子に沿った数多くのプロジェクト研究を立案実行し極めて学術的・臨床的に優れた研究結果を得て、広く海外へ論文化を通じ報告した。4つの研究骨子は1) 本邦における炎症性腸疾患・希少疾患の包括的疫学研究を進展させること、2) 炎症性腸疾患・希少疾患患者のQOL向上と診療の適正化を可能にする最適化された診断基準と治療指針を作り上げること、3) 各種臨床的課題を解決するための多施設共同臨床試験を立案実行すること、4) 得られた研究成果を広く発信し、実地医家および患者・家族に対して適正な炎症性腸疾患・希少疾患診療の普及を図ると同時に国民的認知の普及に努めること、を目標とした。疫学研究においては、IBD疾病構造の変遷を解析し発症・増悪因子を抽出、IBDおよび希少疾患患者数を把握し将来の患者動向を予測、適切な医療体制構築に寄与することを目指す研究プロジェクトを実施することとした。QOLの高い診療の適正化に対しては、新知見に基づく診断基準の見直し改訂、新規治療法を組み入れ現状に即した内科・外科・小児治療指針・ガイドラインの逐年的改訂作業を実施した。多施設共同臨床研究の推進としては、診療上の各種課題を抽出・解決し最適な診療体制の確立を目指す目的で、診断面・バイオマーカー・治療法に関する数多くのプロジェクトが立案・実施された成果によって質の高い確かな内科的・外科診療が可能となった。国民および実地医家に本研究成果を普及させる目的でホームページを開設、国民および実地医家の臨床に有益な情報を提供する各種刊行物を作成、同時にネット上で自由に閲覧可能にした。また、IBD及び希少疾患の病態解明と新規治療法確立に向け、他の難病研究班や学会そしてAMED研究班との共同研究を積極的に推進した結果、大きな研究成果が実現し広く世界に向け発信した。

A. 研究目的

本申請研究は、1973年以降「難治性炎症性腸管障害」に関する研究を長年に渡り牽引してきた研究班の継続とさらなる発展を目指し、いまだ原因不明で難治例・重症例を数多く有するにもかかわらず患者数の増大が著しいIBD(潰瘍性大腸炎・クローン病)、さらに新たに指定難病となった希少疾患、クローンカイト・カナダ症

候群と非特異性多発性小腸潰瘍症、腸管型ベーチェット病、家族性地中海熱腸管型を研究対象として、それら疾患の診断・治療法の確立と患者のQOL向上、および医療経済の適正化を図り国民福祉と社会貢献を目指す3年計画の研究班である。

B. 研究方法

本研究班は、1973年以降炎症性腸疾患に関する研究を長年牽引してきた研究班における臨床研究分野の継続と一層の発展を期して2014年から新たに3年間計画で組織されたものである。本研究班では新たに4つの研究骨子を掲げ、その骨子に沿った数多くのプロジェクト研究を開始し結果を得た。即ち、1) 本邦における炎症性腸疾患の包括的疫学研究を進展させること、2) 炎症性腸疾患・希少4疾患患者のQOL向上と診療の適正化を可能にする診断基準と治療指針を作り上げること、3) 各種臨床的課題を解決するための多施設共同臨床試験を計画実行すること、4) 研究成果を広く発信し、実地医療における適正な炎症性腸疾患診療の普及を図り、本疾患の重要性に関する国民的認知の普及に努めること、を目標とした。

- 1) 疫学研究においては、IBDの疾病構造の変遷を解析し将来の患者動向を予測、発症・増悪因子を抽出、適切な医療体制構築に寄与することを目指す研究プロジェクトを実施され、希少疾患腸管型ベーチェット病、Cronkhite Canada症候群、非特異性多発性小腸潰瘍症、家族性地中海熱関連性腸炎においては全国有病数の推計がなされた。
- 2) QOLの高い診療の適正化においては、新規知見が蓄積されるIBDの診断基準の見直し改訂、新規薬剤が次々と導入される新規診療体制に合わせた内科・外科・小児治療指針・ガイドラインの逐年的改訂作業を実施し、新た高齢者潰瘍性大腸炎治療指針案も作成された。希少4疾患の診断基準・治療指針策定に向け研究が開始された。
IBD専門医育成に向け日本炎症性腸疾患学会と共同で検討が開始されることとなった。
- 3) 臨床上の各種課題を解決する多施設共同臨床研究の推進として、最適な内科・

外科治療の確立を目指す多施設共同臨床研究の推進され、診断面・バイオマーカー・治療法に関する数多くのプロジェクトが立案・実施され有益な結果を輩出した。前研究班から継続されてきたIBD関連大腸癌の早期発見を目指すサーベイランス法確立のプロジェクトが完結し、その経過観察研究結果から妥当性が確認された。IBDの各種合併症を明らかにしてその対処法が研究された。

- 4) 研究班の研究成果を広く普及させる目的で、国民および実地医家向けに各種冊子を作成し同時にネット上で自由に閲覧可能に公開した。

C. 研究結果

本研究成果をプロジェクトごとに3年間の結果および経過に関して総括する。

1 疫学プロジェクト

1- a リスク因子に関する多施設共同研究

潰瘍性大腸炎では垂鉛摂取低下が発症リスクを低下、鉄過剰摂取が発症リスク上昇を認めた。クローン病発症では喫煙が発症・増悪リスクを上昇させた。

1- b 希少疾患の疫学研究

クローンカイト・カナダ症候群、非特異性多発性小腸潰瘍症、腸管型ベーチェット病の全国有病数推計が明らかにされ、論文化された。

2 広報活動/専門医育成プロジェクト

一般医の啓発を目的としたIBDに関する知識をまとめた冊子「一目でわかるIBD」第3版を作成、IBDの診断、治療、疫学・予後について自己学習するための問題集をe-learningとして公開、クローン病肛門病変のすべて第2版の発刊、患者・家族対象にIBDの治療薬についてまとめた冊子「知っておきたい治療に必要な基礎知識」(潰瘍性大腸炎及びクローン病)は最新の情報を提供するため、第3版さらに第4版と改訂、患者・家族対象に、「妊娠を迎える炎症性腸疾患患者さんへ知っておきたい基礎知識Q&A」を公開「炎症性腸

疾患の手術について Q&A」「炎症性腸疾患患者さんの就労について Q&A」「炎症性腸疾患患者さんの食事について Q&A」を作成した。また、IBD 専門医を育成するプログラム創成の試みとして、北海道地区におけるクラウド型電子カルテシステムを用いたコホート研究が進行中で、その有効性の実証を東京医科歯科大学関連病院群で実施中。IBD 専門医育成を目指し、日本炎症性腸疾患学会と共同で育成プラン策定に向け準備が開始された。

3 新たな診断基準案作成

カプセル内視鏡を用いたクローン病診断基準を前向きに検討した。クローン病のカプセル内視鏡所見として「縦走する小潰瘍」および「輪走配列するアフタ様潰瘍」が特徴的であることから、この2つの所見を診断基準に追記した。

4 ガイドラインの改訂

日本消化器病学会との連携

前研究班より開始された潰瘍性大腸炎とクローン病診療ガイドラインを統合した新しい炎症性腸疾患ガイドライン作成が日本消化器病学会との共同研究によって完成した。

5 標準化を目指した治療指針の改訂

潰瘍性大腸炎・クローン病の治療指針が逐年的に改訂された。免疫調節薬アザチオプリン投与に際し、保険承認された NUDT15 測定の必要が加筆された。

6 増悪・再燃因子の解析と対策プロジェクト

炎症性腸疾患合併症とリスク因子の解析について、アンケート調査を行い報告された。潰瘍性大腸炎における急性増悪・再燃因子の前向き実態調査（特に腸管感染症について）について、アンケート調査を行い報告された。炎症性腸疾患における血栓症発症の予防・治療に関する研究が行われ、論文化され、現在、「重症・死亡例の全国調査」および、「抗血栓薬による血栓予防効果の前向き試験」が継続して行われている。炎症性腸疾患の合併症としての関節炎・障害の全国一次アンケート調査のデータ解析を行い、「脊椎関節炎の疫学調査・診断基準作成と診療ガイドライン策定を目指

した大規模多施設研究班」(富田班) と共同で「脊椎関節炎診療の手引き」が作成された。本邦の炎症性腸疾患患者における EB ウィルス感染状況に関する多施設共同研究が開始となった。大規模診療報酬データベースを用いたチオプリン製剤関連悪性腫瘍の頻度について検討を行った。

7 的確な診断・治療の確立プロジェクト

7-a 診断面から

潰瘍性大腸炎に対する大腸カプセル内視鏡によるアトラス作成と炎症判定スコアの作成を行い論文化し報告した。潰瘍性大腸炎の組織学的治癒予測のための内視鏡自動診断システムの開発 UC-CAD study) の多施設共同研究を開始した。炎症性腸疾患に対する通常内視鏡診断への AI 適応研究の症例組み入れを開始した。クローン病における MRE+ICS 群 vs MRE+経肛門 BAE 群の小腸活動性粘膜病変有所見率の多施設共同研究を開始した。クローン病におけるカプセル内視鏡検査の有用性・安全性に関する多施設共同研究を開始した

7-b バイオマーカーから

新たな潰瘍性大腸炎活動性マーカーの尿中プロスタグランジン E 主要代謝産物の有用性評価と実用化に向けたプロジェクトが報告された。

7-c 治療面から

数多くの治療法に関する多施設共同臨床研究が計画・実行された。抗 TNF 抗体製剤の休薬の可能性を検討する前向き研究成果が報告された。

8 癌サーベイランス法の確立

8-a 潰瘍性大腸炎に対する癌サーベイランス法の確立

潰瘍性大腸炎関連腫瘍に対する手術症例の多施設後方視的解析し、発生部位や潰瘍性大腸炎経過年数、多発例の頻度などに新たな知見を得た。また、狙撃生検とランダム生検の RCT の追跡調査を行った結果、狙撃生検群、ランダム生検群ともに大腸癌死亡例を認めなかった。

8-b Croh クローン病に関連する悪性疾患に対するサーベイランス法の立案。

大腸肛門癌、小腸癌、腸管外悪性疾患のアンケート調査から、頻度、サーベイランスの有無などの

現状を把握し、大腸肛門部に対するサーベイランス法の立案・作成に向け開始した。

9 外科系プロジェクト

9-a 外科的治療法の工夫

重症潰瘍性大腸炎手術例は新規内科治療前後で分割手術が増加、手術時期の検討の必要性を示した。クローン病における初回手術例での再発危険因子を検討した。

9-b 外科治療後の再燃防止

潰瘍性大腸炎術後の小腸出血について調査研究された。クローン病術後吻合部潰瘍に関する調査研究が報告された。

10 炎症性腸疾患患者の特殊型への対策プロジェクト

10-a 妊娠出産の転帰と治療内容に関する多施設共同研究

妊娠者は、内服薬のアドヒアランスと疾患活動性の関係を二重アンケート法で解析し、アドヒアランスが不良群では疾患活動性が上昇すること、アドヒアランス低下を主治医は認識していないこと、悪阻がその原因で最大であることを解明した。

10-b 高齢者炎症性腸疾患診療の現状把握

高齢者においては潰瘍性大腸炎の臨床調査個人票を用いたデータを年齢別に解析し、高齢者の方が転帰不良であることを論文化した。また、高齢者と非高齢者で白血球除去療法の効果、安全性の違いを検討し、高齢者でも同治療法が安全に施行できる事や、ステロイド未使用者では高齢者の方が効果も高いことを報告した。また高齢者潰瘍性大腸炎の治療指針を策定し、冊子を作成した。これを英文に論文化した。さらに超高齢者の臨床的特徴を検証し、通常診断基準の65歳ではなく、75歳を高齢者のカットオフとした場合、65歳-74歳よりもさらに転帰が不良であることを見出した。

10-c 小児期発症炎症性腸疾患の治療に関する研究

小児期発症のIBD患者における移行期医療の現状を把握し、スムーズなトランジションが行われるようになることを目的に研究を実施した。成人な

らびに小児領域におけるアンケート調査の結果を基に、トランジションマニュアルを作成しその有用性の検証を行った。超早期発症型(V10)IBDの適切な診断および治療を目的に研究を実施した。まず本邦におけるVE0-IBDの実態を調査し、免疫不全関連腸炎が少なからず存在することが明らかになり、mongenic IBDの診療アルゴリズムを作成し遺伝子検査の診療体制を構築した。

11 腸内細菌プロジェクト

粘膜関連細菌叢の解析法を確立しIBDにおける変化を明らかにした。また、腸内真菌叢についてもアジア初の報告として論文化した。原発性胆汁性肝硬変合併潰瘍性大腸炎患者においては病原性K. Pneumoniaeが存在することが判明した。

12 内科治療における個別化と最適化

活動性潰瘍性大腸炎に対して生薬青黛を8週間投与した際の安全性と臨床的・内視鏡的有効性を明らかにするための多施設共同二重盲検比較試験を行い、試験中に重篤な有害事象は認められず、軽微な肝機能障害、消化器症状が認められたがいずれも可逆性であったことが確認された。プラセボ群に比べて1日0.5g,1g,2g青黛投与群において有意に有効率が高いことが明らかになった。本試験においては肺高血圧症患者の発症をみとめなかったものの、類似薬内服により数例肺高血圧症の症例が全国に存在することが明らかとなった。

13 希少疾患プロジェクト

クローンカイトカナダ症候群の症例を班員に広く募集し、アトラスを作成しパブリックコメントを実施した。家族性地中海熱遺伝子関連腸炎病態解明研究が症例の累積によって推進された。非特異性多発性小腸潰瘍症(CEAS)、腸管ベーチェット病(BD)、家族性地中海熱(FMF)、Cronkhite-Canada症候群(CCS)の臨床像を解析し、CEASとFMFでは診断基準の改訂、BDでは診療ガイドラインの作成、CEAS、FMF、CCSではアトラスの作成に着手した。腸管型ベーチェット病診療ガイドラインが作成された。

D. 結論

本邦における炎症性腸疾患・希少疾患患者の実態を正確に把握し将来動向を的確に予測、適正な診断・治療法を確立することは炎症性腸疾患患者のQOL 増大ばかりでなく医療経済の適正化にも大いに寄与し、社会経済と国民福祉の充実に貢献すること大である。内科・外科・小児科を問わず全国から 200 人を超える専門医が参加する本研究班は、まさに全日本体制の研究班として、新たな難病対策研究事業体制のもと、3 年間にそれらの目標を達成にするために計画された各プロジェクトはほぼ終了し大いなる成果を上げ、国民健康福祉と適正医療の実施に大きく貢献することができたと結論される。

疫学・データベース作成 プロジェクト

研究分担者 西脇祐司 東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野 教授

研究要旨：

難病疫学班が作成した調査マニュアルにしたがって、難治性炎症性腸管障害希少疾患（クローンカイト・カナダ症候群、非特異性多発性小腸潰瘍症、腸管型ベーチェット病）の全国疫学調査・一次調査を実施した。調査診療科を内科、外科、小児科、小児外科の 4 科とし、層化無作為抽出した全国 2979 病院を調査対象施設とし、2017 年 1 年間に受診した患者数を調査した。2017 年 12 月に郵送調査を開始、その後未回答施設に対する電話督促を実施した後、2018 年 8 月に終了・集計した。全調査対象施設のうち 2029 施設（回答率 68.1%）から回答があった。推計された全国有病者数はクローンカイト・カナダ症候群で 473 人(95%信頼区間(以下 95%CI):357-589)、うち男性 248 人(95%CI:210-285)、非特異性多発性小腸潰瘍症で 388 人(95%CI:289-486)、うち男性 188 人(95%CI:128-248)、腸管型ベーチェット病で 3139 人(95%CI:2749-3529)、うち男性 1514 人(95%CI:1293-1735)であった。また、「炎症性腸疾患に対する新規薬剤を対象としたレジストリ研究」の研究計画を検討した。

共同研究者

村上義孝(東邦大学医学部社会医学講座医療統計学分野)

大庭真梨(東邦大学医学部社会医学講座医療統計学分野)

朝倉敬子(東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野)

大藤さとこ(大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学)

福島若葉(大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学)

松岡克善(東邦大学医療センター佐倉病院消化器内科)

3. 危険因子探索

4. データベース(レジストリー)の検討

B. 研究方法

・上記目的 1 については、クローンカイト・カナダ症候群、非特異性多発性小腸潰瘍症、腸管型ベーチェット病についての全国疫学調査を実施した。本調査の計画・実施に際しては、難病疫学班が作成した調査マニュアル「難病の患者数と臨床疫学像把握のための全国疫学調査マニュアル第 3 版」の中の一次調査の方法に準拠した。本調査研究を遂行するにあたっては、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」(研究代表者：鈴木康夫(東邦大学医療センター佐倉病院内科))(以下、臨床班)の班員の強力のもと調査を実施した。調査対象機関は全国の病院とし、内科、外科、小児科、小児外科の 4 科に分けて調査した。調査対象期間は、2017 年 1 月 1

A. 研究目的

この疫学・データベース作成プロジェクトグループとしては、以下の 4 つの目的を掲げている。

1. 有病数の把握
2. 臨床像の把握

日～12月31日（過去1年間）初診・再診を問わず受診した患者について尋ねた。調査項目は各疾患の患者の有無、有りの場合に患者数と男性患者数であった。診療科ごとに、病床規模を層とした層化無作為抽出を行った結果、内科1050、外科946、小児科766、小児外科217の病院が調査対象となった。各疾患の診断基準については臨床班作成の診断基準の記載された論文を用い、資料として各調査施設に送付した。無作為抽出した各層の報告患者数に、病院数を分母とした回答割合の逆数をかけて患者数を推計した。推計された各層の患者数をもとに、全層・全診療科の和をとることで全国の患者数を算定した。なお本方法は、調査対象機関が、無作為抽出されていること、回答は偏りなくランダムに返送されていること、の2つの仮定をおいている。今回、回答に偏りがあった場合を考察するため、返送のなかった機関の患者数を0人とおいた感度解析も合わせて実施した。調査票の未記入や回答内容の不整合への対応として、患者数の欄に記入があるが、男性患者数の欄に未記入の場合は男性患者数に患者数の半分を代入した（男性患者数に患者数を代入した感度解析も合わせて実施）。患者数の欄が未記入で、男性患者数の欄に回答がある場合は患者数に男性患者数を使用した。患者数が男性患者数より少ない場合は患者数と男性患者数を交換した。

・目的2と4については、「炎症性腸疾患に対する新規薬剤を対象としたレジストリ研究」の実施計画についての検討を行った。

・目的3については、他施設共同症例対象研究結果に基づき、論文発表を行った。

（倫理面への配慮）

全国疫学調査は医療施設(病院)を対象とし、当該医療施設の患者数をはがきに記載、返送してもらう郵送調査である。調査に関する説明と同意については、依頼状に調査目的を記

載し、同意のもと葉書を返送してもらう旨を明示して実施した。なお調査委託に際し、業者との契約書に守秘義務条項を加えることで、個人情報保護に努めた。本調査に関わる調査計画書は東邦大学医学部倫理委員会で審議され、2017年11月15日に承認された（承認番号A17076）。

C. 研究結果

・全国疫学調査結果については、年度ごとの分担研究報告書に詳述したので、ここでは、最終的な推計数を記述する。推計された全国有病者数はクローンカイト・カナダ症候群で473人(95%信頼区間(以下95%CI):357-589)、うち男性248人(95%CI:210-285)、非特異性多発性小腸潰瘍症で388人(95%CI:289-486)、うち男性188人(95%CI:128-248)、腸管型ベーチェット病で3139人(95%CI:2749-3529)、うち男性1514人(95%CI:1293-1735)であった(表1)。この結果は、英文論文として公表した。¹⁾

・「炎症性腸疾患に対する新規薬剤を対象としたレジストリ研究」については、概要を次のように取りまとめた。「既存治療抵抗性の潰瘍性大腸炎に対して抗TNF抗体製剤に加えて抗4-7インテグリン抗体であるベドリズマブ、JAK阻害薬のトファシチニブが2018年に保険適応になった。抗TNF抗体製剤、ベドリズマブ、トファシチニブは治療上のポジションがほぼ同じであり、今後この3剤をいかに使い分けていくかが課題になる。そこで、これら3剤で治療を行なった潰瘍性大腸炎患者のreal-worldでの有効性・安全性を検証する。」

計画については、以下の通りとした。

研究デザイン：過去起点コホート研究

対象：

適格基準

- 1) 潰瘍性大腸炎と診断されている。
- 2) 16 歳以上、性別不問
- 3) 2018 年 5 月から 2019 年 12 月にベドリズムブ、トファシチニブ、もしくは抗 TNF 製剤の投与を受けた。

除外基準

- 1) 以前にベドリズムブ、トファシチニブ、抗 TNF 製剤、シクロスポリン、もしくはタクロリムスの薬剤を使用した
- 2) 潰瘍性大腸炎に対する手術の既往

参加施設: 班会議参加約 40 施設

観察項目:

- ・ PRO2 PRO2:
 - 便回数; 0. 正常、1. 正常より 1-2 回多い 2. 正常より 3-4 回多い、3. 正常より 5 回以上多い、
 - 血便; 0. なし、1. 少量、2. 中等量、3. 血液のみ
- ・ 血液検査所見 (実施した場合): WBC, WBC 分画, Hb, Alb, TC, CRP
- ・ 便中カルプロテクチン (実施した場合)
- ・ 内視鏡スコア (UCEIS) (実施した場合)
- ・ 併用薬

主要評価項目:

12 ± 2 週後の Patient Reported Outcome (PRO) 2 スコアによる寛解率

寛解: 便回数スコア 1 かつ血便スコア=0
有害事象

副次評価項目

- 治療効果に影響を与える因子
- 各薬剤間で薬剤を変更した場合の有効性

本計画の概要につき、1 月の総会にて承認を受けた。

・ 目的 3 については、他施設共同症例対象研究結果に基づき、英文論文 2 本を公表した。

2,3)

D. 考察

クローンカイト・カナダ症候群、非特異性多発性小腸潰瘍症、腸管型ベーチェット病についての有病数を推計し公表した。今回の有病者数推計の結果を衛生行政報告例における特定医療費 (指定難病) 受給者証所持者数と比較すると、平成 28 年度 (2016 年度) 衛生行政報告例ではクローンカイト・カナダ症候群が 86 人、非特異性多発性小腸潰瘍症は 49 人と少数であり、腸管型ベーチェット病のデータはないものの、ベーチェット病は 19205 人であった。本調査の推計患者数からみると、クローンカイト・カナダ症候群、非特異性多発性小腸潰瘍症の特定医療費受給者数は五分の一にも満たない人数であった。特定医療費 (指定難病) 受給者証所持者は受給者申請が必要であり、軽症例が含まれていない可能性がある。そのため本研究における推計有病者数よりも少ない人数であると考えられる。非特異性多発性小腸潰瘍症は女性が多い (男女比: 1:4) という報告が難病センターホームページにあったが、本調査では男女差はわずかであった。性差などに関してはさらなる調査が必要である。

本調査の限界として、複数医療機関あるいは複数診療科への重複受診を考慮していないことによる過大評価の可能性、患者がいなかったため返送しなかった医療機関があることによる過小評価の可能性が考えられる。これは、調査方法上の問題であり、本疾患に限ったことではないが、継続した課題の一つである。

「炎症性腸疾患に対する新規薬剤を対象としたレジストリ研究」の計画概要については総会にて研究班の承認を得た。次年度よりの 3 年計画を想定しており、1 年目: 研究プロトコル検討開始、2 年目: 研究プロトコル確定、各施設での倫理委員会承認、3 年目: データ収集、解析を予定している。

E. 結論

クロンカイト・カナダ症候群、非特異性多発性小腸潰瘍症、腸管型ベーチェット病についての有病数を推計し公表した。「炎症性腸疾患に対する新規薬剤を対象としたレジストリ研究」の計画を検討した。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Oba MS, Murakami Y, Nishiwaki Y, Asakura K, Ohfuji S, Fukushima W, Nakamura Y, Suzuki Y. Estimated prevalence of Cronkhite-Canada Syndrome, Chronic Enteropathy Associated with SLC02A1 Gene, and Intestinal Behçet's Disease in Japan in 2017: A Nationwide Survey. *Journal of Epidemiology*. 2020 Feb 22. doi: 10.2188/jea.JE20190349. [Epub ahead of print]
- 2) Kobayashi Y, Ohfuji S, Kondo K, Fukushima W, Sasaki S, Kamata N, Yamagami H, Fujiwara Y, Suzuki Y, Hirota Y; Japanese Case-Control Study Group for Ulcerative Colitis. Association between dietary iron and zinc intake and development of ulcerative colitis: A case-control study in Japan. *J Gastroenterol Hepatol*. 2019;34(10):1703-171
- 3) Kondo K, Ohfuji S, Watanabe K, Yamagami H, Fukushima W, Ito K, Suzuki Y, Hirota Y; Japanese Case-Control Study Group for Crohn's disease. The association between environmental factors and the development of Crohn's disease with focusing on passive smoking: A multicenter case-control study in Japan. *PLoS One*. 2019;14(6):e0216429.

- 4) 西脇祐司, 村上義孝. 【炎症性腸疾患診療の update-診断・治療の最新知見】炎症性腸疾患の疫学 本邦における IBD の患者動向. *臨床消化器内科*. 2019; 34 (7) : 710 -713.

2. 学会発表

- 1) Murakami Y, Nishiwaki Y, Erika Kuwahara E, Oba M, Asakura K, Ofuji S, Fukushima W, Suzuki Y, Nakamura Y. Estimated prevalence of ulcerative colitis and Crohn's disease in Japan in 2014: a nationwide survey. The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, Saitama Japan 2017.
- 2) 村上義孝、西脇祐司、桑原絵里加、大庭真梨、朝倉敬子、大藤さところ、福島若葉、中村好一. 潰瘍性大腸炎およびクローン病の有病者数推計に関する全国疫学調査. 第 76 回日本公衆衛生学会総会 鹿児島 2017.
- 3) 大庭真梨, 村上義孝, 西脇祐司, 朝倉敬子, 大藤さところ, 福島若葉. 難治性炎症性腸管障害希少疾患の有病者数推計に関する全国疫学調査. 第 78 回日本公衆衛生学会総会, 高知, 2019/10

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

表 1 推定有病患者数

疾患名		推計患者数	95%信頼区間	
クローンカイト・カナダ症候群	合計	472.9	357.3	588.5
	男性	247.6	210.2	285.1
	女性	225.3	116.6	333.9
	内科	383.9	301.4	466.4
	外科	89.0	8.0	170.0
	小児科	0	0	0
	小児外科	0	0	0
非特異性多発性小腸潰瘍症	合計	387.7	289.1	486.3
	男性	188.1	128.4	247.8
	女性	199.6	127.6	271.7
	内科	289.0	202.7	375.3
	外科	58.6	33.7	83.6
	小児科	36.2	0.0	76.6
	小児外科	3.9	0.0	8.2
腸管型ベーチェット病	合計	3139.3	2749.2	3529.4
	男性	1513.9	1293.3	1734.5
	女性	1625.4	1365.5	1885.4
	内科	2384.7	2066.5	2703.0
	外科	660.8	436.3	885.3
	小児科	87.4	64.9	109.8
	小児外科	6.5	3.2	9.7

IBD の病診連携を構築するプロジェクト

研究分担者 久松理一 杏林大学医学部消化器内科学 教授

研究要旨：炎症性腸疾患患者数の増加に伴い、基幹病院への患者の集中が生じ本来基幹病院が行うべき重症・難治性患者への専門的治療、病態解明への臨床研究、新規治療薬の治験等の業務の効率的な遂行が困難な状況となっている。この問題を解決するために難病指定疾患の拠点化構想が計画されており、炎症性腸疾患においても地域医療機関と基幹施設との医療連携の構築が必須となっている。本プロジェクトでは炎症性腸疾患医療連携を構築するために、まず軽症患者を対象とし地域医療機関への逆紹介システムを構築する。

共同研究者

プロジェクトコアメンバー

久松理一 杏林大学医学部第三内科学
猿田雅之 東京慈恵医科大学消化器・肝臓内科
長堀正和 東京医科歯科大学消化器内科
池内浩基 兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座外科部門
鈴木康夫 東邦大学医療センター佐倉病院消化器内科

プロジェクトメンバー

藤谷幹浩 旭川医科大学内科学講座・消化器血液腫瘍制御内科学分野
仲瀬裕志 札幌医科大学消化器内科学講座
高橋賢一 東北労災病院外科
石黒 陽 独立行政法人国立病院機構弘前病院
加藤真吾 埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科
木村英明 横浜市立大学附属市民総合医療センター
竹内 健 東邦大学医療センター佐倉病院消化器内科
杉本 健 浜松医科大学消化器内科
長坂光夫 藤田保健衛生大学消化管内科
渡辺憲治 兵庫医科大学腸管病態解析学
高木智久 京都府立医科大学消化器内科

石原俊治 島根大学医学部第二内科

平岡佐規子 岡山大学消化器・肝臓内科学

上野義隆 広島大学消化器代謝内科

平井郁仁 福岡大学筑紫病院炎症性腸疾患センター

山本章二郎 宮崎大学医学部内科学講座消化器血液学分野

A. 研究目的

我が国の炎症性腸疾患患者数は特定疾患受給者数では潰瘍性大腸炎 16 万人、クローン病 4 万 5 千人、疫学的推定ではそれ以上の患者数が存在すると考えられている。潰瘍性大腸炎患者数は指定難病の中でも最大であり、この数十年での患者数の急激な増加は限定された基幹病院だけですべての患者の診療を行うことを現実的に困難なものとしている。両疾患はいまだ原因不明の難病であり、専門基幹施設において重症・難治性患者の治療、病態解明への臨床研究、新規治療薬開発のための臨床試験等を行っていかねばならない。専門基幹施設が効率的に機能するためにはすべての患者が集中している現在の状況を変革し、軽症患者あるいはコントロール可能となり病態が安定した患者を対象に地域医療連携

の枠組みを確立することが急務である。本プロジェクトでは炎症性腸疾患の医療連携体制の構築を目指す。

B. 研究方法

- 1) 本プロジェクトは現在進められている難病拠点化構想とリンクして進められる。
- 2) 本プロジェクトの最初の段階として、専門基幹施設から地域医療機関への逆紹介フォーム（潰瘍性大腸炎、クローン病）を作成する。
- 3) プロジェクト委員により逆紹介フォーム案を作成し、各都道府県および医師会の協力のもとヒアリングを行い、その意見を参考に逆紹介フォームを改訂していく。
- 4) 最終案が固定したのち、各都道府県都協議を進めながら運営を開始する。

C. 研究結果

潰瘍性大腸炎、クローン病に関する逆紹介フォーム（案）を作成し、ホームページ上に公開し自由にダウンロード可能とした。

D. 考察

炎症性腸疾患のうち患者数が多い潰瘍性大腸炎がまず対象となると考えられた。特に我が国の潰瘍性大腸炎患者数のうち軽症から中等症の占める割合は高く、地域医療連携の良い対象になると考えられた。一方で逆紹介を受ける患者あるいは患者を引き受ける一般開業医や一般消化器内科医の不安も大きいことが予想される。この不安を解消することが炎症性腸疾患における地域医療連携確立のための鍵となると予想している。現在、作成している逆紹介フォーム（案）については実際に使用する地域の医療機関にヒアリングを行いその意見を反映していく必要がある。また、最終年度の会議で提案されたような民間のネット環境を利用した医療連携システムについても今後検討される余地がある。

E. 結論

潰瘍性大腸炎、クローン病に関する逆紹介フォーム（案）を作成し、公開した。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
該当せず
2. 実用新案登録
該当せず
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
総合研究報告書（平成 29 年度～令和元年度）

広報活動/研究成果公表/専門医育成プロジェクト

研究分担者 岡崎和一 関西医科大学内科学第三講座 教授

研究要旨：「啓発・専門医育成」プロジェクトとして、1. JSIBD と連携し専門家委員会を組織し IBD 診療の現状に適した専門医育成体制構築提案と IBD を専門とする消化器医育成プログラム（案）を提案した。2. 広報：「知っておきたい治療に必要な基礎知識第 3 版、第 4 版」、「一目でわかる IBD」第 2 版、第 3 版、「炎症性腸疾患患者さんの食事について Q&A」を作成した。3. Web を主体とした患者・家族への情報発信と一般医の啓発・教育活動として、e-learning を改訂した。

共同研究者

鈴木康夫¹、竹内 健¹、福井寿朗²、二見喜太郎³、安藤 朗⁴、辻川 知之⁴、渡辺 守⁵、長堀正和⁵、松岡克善⁵、高後 裕⁶、蘆田知史⁷、藤谷幹浩⁸、上野伸典⁸、安藤勝祥⁸、稲場勇平⁹、中村志郎¹⁰、渡辺憲治¹⁰、福島浩平¹¹、松井敏幸¹²、平井郁仁¹²、穂刈量太¹³、金井隆典¹⁴、長沼 誠¹⁴、藤井久男¹⁵、横山 薫¹⁶、木村英明¹⁷

（東邦大学医療センター佐倉病院 内科学講座
1、東京医科歯科大学 消化器内科²、旭川医科大学内科学講座消化器血液腫瘍制御内科学分野³、兵庫医科大学内科学下部消化管科⁴、防衛医科大学校内科⁵、平和会吉田病院消化器内視鏡・IBD センター⁶、関西医科大学内科学第三講座⁷、福岡大学筑紫病院外科⁸、滋賀医科大学消化器内科⁹、福岡大学筑紫病院消化器内科¹⁰、兵庫医科大学腸管病態解析学¹¹、横浜市立大学附属市民総合医療センター炎症性腸疾患（IBD）センター¹²、慶應義塾大学医学部 消化器内科¹³、北里大学病院 消化器内科¹⁴、国立成育医療研究センター消化器科¹⁵）東邦大学医療センター佐倉病院 内科学講座¹、関西医科大学内科学第三講座²、福岡大学筑紫病院外科³、滋賀医科大学消化器内科⁴、東京医科歯科大学 消化器病態学⁵、国際医療福祉大学病院消化器内科⁶、札幌徳州会病院 IBD センター⁷、旭川医科大学内科学講座 消化器血液

腫瘍制御内科学分野⁸、市立旭川病院消化器病センター⁹、兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座内科部門¹⁰、東北大学大学院消化管再建医工学分野分子病態外科学分野¹¹、福岡大学筑紫病院 消化器内科¹²、防衛医科大学校内科¹³、慶應義塾大学消化器内科¹⁴、平和会吉田病院消化器内視鏡・IBD センター¹⁵、北里大学医学部消化器内科¹⁶、横浜市立大学附属市民総合医療センター炎症性腸疾患センター¹⁷）

A. 研究目的

本研究プロジェクトは、炎症性腸疾患（IBD）の診断・治療・予後・管理等に関する知識等を、国民・患者およびその家族、また、一般臨床医・医療従事者に広く普及することと同時に、IBD 専門医を育成するプログラムを創成することを目的とする。

B. 研究方法

(1) 患者・家族を対象にしたプロジェクト

患者および家族、また広く国民にとって必要な IBD に関する知識についての啓発のために、診療状況に応じたトピックについて、段階的に情報冊子を作成する。また、これまでに作成した冊子について、適宜改訂し内容をアップデートしていく。

- ・ 知っておきたい治療に必要な基礎知識（改

訂)

- ・ 就労支援に関する情報冊子作成 (新規)
- ・ 食事を含めた生活習慣に関する情報冊子作成 (新規)

(2) 医療従事者を対象にしたプロジェクト

1) e-learning の拡充

- ・ フィードバックの解析
- ・ 新しい問題の追加
- ・ 教育動画などの新たな内容の追加 (診察、検査・手術手技など)
- ・ 新しい対象者(ナースなど)向けの教育プログラムの検討

2) 短期 IBD フェロシッププログラム

IBD 専門医のいない医療施設から、若手医師を中心に IBD の high volume center に短期間留学し、IBD の診療を学ぶ機会を提供する。

(3) 研究メンバーについて

鈴木班「啓発・専門医育成プロジェクトミーティング」メンバーは日本炎症性腸疾患学会(JSIBD)教育委員会委員会委員と合同で構成する。

(倫理面への配慮)

厚生労働省・文部科学省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」および個人情報保護法に準拠している。

C. 研究結果

1. 「啓発・専門医育成」プロジェクト

1) IBD を専門とする消化器医育成プログラムの開発-

制度設計

全班員に対する IBD 専門医に関する調査結果、専門医の必要性が示唆された。しかし、制度設計上、専門医機構の「専門医」との位置付けなど、検討事項もあり、学会(JSIBD)の「認定医」という名称が適切と思われた。

社会に対する責任から、質の保証が必要であ

り、専門医試験実施や更新のためのルール作りが必要である。専門医試験実施は、会員規模からハードルが高く、指導医・施設認定から開始することも含めて今後の議論が必要である。また教育講演のセミナーなどによる単位取得を更新の条件とすることも必要と考えられる。

プログラム作成

JSIBD と連携してプログラム案を作成する。

インセンティブ

専門医あるいは認定医になるインセンティブも必要であり、JSIBD 学会や厚生省鈴木班の HP に施設名や認定医を掲示したり、難病拠点病院指定の選定基準と関連づけることも重要である。また、ウステキヌマブなど、今後の新規治療を行う上での資格としての「認定医」を検討してもらう。

専門医制度構築における行程表

<1年目>

目標：アンケート調査を行い、班関係者の意見を集約する。

成果：専門医のニーズ確認、専門領域研修終了後(7年目位)

<2年目>

目標：アンケート調査結果、厚生科学審議会疾病対策部会の「難病の医療提供体制の在り方」との整合性を考慮し、JSIBD と連携し IBD 診療の現状に適した専門医育成体制を考案する。

成果：指導医(施設)は班メンバーを指導医(施設)とする。

その他に、JSIBD 名簿の参照、難病相談支援センター(可能なら難病拠点病院も)と相談し、指導医を選出。

認定医の認定方法については、申請条件、試験の方法、更新の条件を決定していく。

<3年目>

目標：前年度考案した専門医育成体制をもとに、JSIBD と協力して IBD を専門とする医師の育成プログラム(案)を作成する。

2. 広報

「知っておきたい治療に必要な基礎知識 第4版」を作成した。

- ・治療ピラミッド（クローン病）ウステキヌマブは抗 TNF 製剤と並列
- ・新規薬剤及び適応の追加

潰瘍性大腸炎では、ペンタサ顆粒、アサコール1日1回の適応追加、リアルダ、ブデソニド注腸、ゴリムマブを追加する。

クローン病ではペンタサ細粒、ゼンタコート、抗 TNF 抗体製剤の投与間隔短縮、増量、ウステキヌマブ、血球成分除去療法：いわゆる intensive 療法、

「一目でわかる IBD」第3版を作成した。

「炎症性腸疾患患者さんの食事について Q&A」を作成した。

3. Web を主体とした患者・家族への情報発信と一般医の啓発・教育活動

1) e-learning の改訂（Web 公開中）

H30 年度 新しい問題の追加 終了
問題へのフィードバックの解析 進行中
IBD 患者の就労に関する情報発信 H30 年度終了予定

H31 年度 教育動画などの新たな内容の追加（診察、検査・手術手技など）
H31 年度へ

2) 「一目でわかる IBD」内容検討 H31 年度へ（WG の編成）

知っておきたい治療に必要な基礎知識（改訂）
食事を含めた生活習慣に関する情報冊子作成

3) 短期 IBD フェロシッププログラム・

Competency-based education

IBD 専門医のいない医療施設から、若手医師を中心に IBD の high volume center に短期間留学し、IBD の診療・研究を学ぶ機会を提供するプログラムを開発する。

4) 炎症性腸疾患患者の就労について Q&A 作成

H30 年度 試案作成

H31 年度 完成・広報

D. 考察

「啓発・専門医育成」プロジェクトでは、1) IBD を専門とする消化器医育成プログラム案の提案に関し、制度設計、インセンティブについて議論し、今後専門学会と連携をとって検討することが重要であると思われる。

広報では、患者・家族や一般医を対象とした

「知っておきたい治療に必要な基礎知識」の改訂を行うとともに、e-learning（Web 公開中）をさらに充実することが重要と思われる。

E. 結論

「啓発・専門医育成」プロジェクトと広報について、基本的な方向性について検討し、一定の成果は得たが、さらに次年度に向けた継続的な取り組みが重要である。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし

潰瘍性大腸炎・クローン病の診断基準および重症度基準の改変

研究分担者 平井郁仁 福岡大学医学部消化器内科学講座 教授
共同研究者 高津典孝、岸 昌廣 福岡大学筑紫病院消化器内科
共同研究者 鈴木康夫 東邦大学医療センター佐倉病院 IBD センター

研究要旨：1．クローン病診断基準の改訂作業を平成 29 年度～令和元年度の年度毎に行ってきた。最新の診断基準は，2020 年 1 月 25 日改訂分である（別紙に全文を掲載）。2．潰瘍性大腸炎診断基準改訂作業を平成 29 年度～令和元年度の年度毎に行ってきた。最新の診断基準は，2020 年 1 月 25 日改訂分である（別紙に全文を掲載）。3．本プロジェクトでは，この他に炎症性腸疾患の疾患活動性指標集の改定，カプセル内視鏡など新規のモダリティによる診断，炎症性腸疾患の診断困難例（Inflammatory bowel disease unclassified, IBDU）の検討に取り組んできた。このうち，炎症性腸疾患の疾患活動性指標集は既に追加記載する指標の選定と改訂作業が終了しており，このプロジェクトの成果として 2020 年度に発刊を予定している。4．長期経過例の増加に伴い潰瘍性大腸炎，クローン病ともに予後に直結する悪性腫瘍の合併が問題となってきたが，本プロジェクトにおいて両疾患の癌サーベイランス方法の確立に向けた各個研究が進行中である。

今後の課題は，早期診断や診断精度の向上に寄与するクローン病および潰瘍性大腸炎の診断基準の作成，クローン病および潰瘍性大腸炎の治療指針やガイドラインを有効に活用する上での診断基準・重症度分類のあり方の模索，診断基準の国際的統一への試み，などがあげられる。診断基準・重症度分類は，疾患の取り扱いの根幹に関わるものであり，今後も研究班での継続した検討，意見集約および広報が望まれる。

A．研究目的

本プロジェクト研究は Crohn 病（CD）と潰瘍性大腸炎（UC）の診断基準を臨床的あるいは病理組織学的に検討し，結果に応じて改訂することを目的とする。CD と UC の診療は日進月歩であり，新たに導入（保険承認）されたバイオマーカーや診断機器を反映させて基本的には毎年度改訂を行っていくことが望ましいと考えている。

B．研究方法

1．CD の診断基準改訂

診断基準改訂プロジェクト委員と協議し，さらに多くの班会議参加者（100 名以上）に意見を求め CD の診断基準を毎年度改訂している。

2. UC 診断基準改訂

診断基準改訂プロジェクト委員と協議し，さらに多くの班会議参加者（100 名以上）に意見を求め UC の診断基準を毎年度改訂する。

3．その他の診断基準・重症度分類に関する検討事項

炎症所見として赤沈に加え CRP を追加記載することを検討し，「潰瘍性大腸炎の臨床的重症度による分類の改定」を進めてきた。

「炎症性腸疾患の疾患活動性指標集」は，平成 21 年の発刊から 8 年が経過しており，新たな指標の追加や指標の使用頻度などの検討を行ってきた。

これまで新規の診断ツールが炎症性疾患の

診断に寄与するか否かを検討してきた。既にカプセル内視鏡所見を取り入れたクローン病診断基準の改定についてプロジェクト研究を行い、成果を報告した。また、「CD術後再発に関するカプセル内視鏡評価の意義に関する検討」を多施設共同試験として進行中である。

2017年に改訂されたクローン病および潰瘍性大腸炎の診断基準には従来の Indeterminate colitis (IC, 術後標本における病理組織学的診断における鑑別困難例)だけでなく、臨床的な診断困難例がIBDUと定義され、追加記載された。本プロジェクトでは診断基準の適正性や経過例の診断変更率などを明らかにする目的で「UC, CD, IBDU, ICにおける診断変遷症例の検討」を進行中である。

4. 炎症性腸疾患における癌サーベイランス法の確立

「潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡におけるNBIと色素内視鏡の比較試験(Navigator Study)」に関しては、解析終了し、学会報告を行い、現在論文投稿予定である。

この他には、「潰瘍性大腸炎に対する癌サーベイランス法の確立-Target vs. Random生検のランダム化比較試験のフォローアップスタディー」、
「潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡におけるNBIと色素内視鏡の比較試験(Navigator Study)の追加検討(Navigator 2)」、「Crohn病に合併した大腸癌のsurveillance program確立の検討の作成」に関するsurveillance programの検証「クローン病に関連する癌サーベイランス法の確立に向けて」、「潰瘍性大腸炎に対する癌サーベイランス法の確立-Target vs Random生検のランダム化比較試験」のフォローアップスタディーと4つの各個研究が進行中である。

(倫理面への配慮)

研究方法1, 2および3は、匿名化されたアンケートまたは、匿名化されたデータベ-

スによる全国調査が主体であるので倫理的問題はない。他のプロジェクト研究については倫理審査を通過したもののみを採択しており、倫理面には十分配慮している。

C. 研究結果

1. CD診断基準を改め、年度毎に改訂を行ってきた。

1) 平成29年度の改訂点

診断の基準の副所見a. 消化管の広範囲に認められる不整形~類円形潰瘍またはアフタの脚注9に「消化管の広範囲とは病変の分布が(胃と小腸, 十二指腸と大腸など)解剖学的に複数の臓器にわたる場合を意味する」を追記した。

2) 平成30年度の改訂点

診断基準の主要事項(6)病理学的所見の脚注に追記(下線部)した。(註3)本症では縦列することがある。また、アフタの肛門側に縦走潰瘍が存在することが少なくない。

診断の基準の副所見副所見aの脚注へ追記した(下線部)。消化管の広範囲とは病変の分布が解剖学的に複数の臓器すなわち上部消化管(食道, 胃, 十二指腸), 小腸および大腸のうち2臓器以上にわたる場合を意味する。典型的には縦列するが、縦列しない場合もある。また、3ヶ月以上恒存することが必要である。なお、カプセル内視鏡所見では、十二指腸・小腸においてKerckring襞上に輪状に多発する場合もある。腸結核、腸管型ベーチェット病、単純性潰瘍、NSAIDs潰瘍、感染性腸炎の除外が必要である。

診断の基準の診断例{1}主要所見のAまたはBを有するものへの脚注に追記した(下線部)。縦走潰瘍のみの場合、虚血性腸病変や潰瘍性大腸炎を除外することが必要である。敷石像のみの場合、虚血性腸病変や4型大腸癌を除外することが必要である。

3) 令和元年度の改訂点

主要所見A. 縦走潰瘍への脚注に追記した(下線部)。腸管の長軸方向に沿った潰瘍で、小腸の

場合は、腸間膜付着側に好発する。典型的には4-5cm以上の長さを有するが、長さは必須ではない。

2. UC診断基準を改め、年度毎に改訂を行ってきた。

1) 平成29年度の改訂点

D. バイオマーカーによる活動性・重症度判定の項目を追加し、以下の文章を記載した。定量的免疫学的便潜血法や便中カルプロテクチンなどのバイオマーカーは活動性・重症度の判定に参考となる。

回腸嚢炎の診断基準 .概念の項の大腸(垂)全摘術の記載を大腸全摘術に変更した。

2) 平成30年度の改訂点

回腸嚢炎の診断基準に以下を追記した。抗菌剤をはじめとする治療に反応しない、治療薬剤の休薬が困難、年3回以上の回腸嚢炎による臨床症状の増悪がある症例は「難治例」と定義する。

J. 潰瘍性大腸炎術後症例の重症度基準を追加した。

.概念と診断基準 潰瘍性大腸炎手術例のうち、以下の症例は術後生活の質(QOL)の低下がみられることから、通常術後治療に加えて新たな治療、または経過観察が必要であり、難治例としての積極的な治療の継続を必要とする症例である。

1) 回腸嚢機能不全

頻回の排便、生活に支障をきたす漏便や排便困難(注17)、持続する肛門周囲瘻孔、骨盤内膿瘍の合併など。

2) 難治性回腸嚢炎

慢性回腸嚢炎、頻回の回腸嚢炎、長期の治療継続例など(注18)。

3) 難治性腸管外合併症(注19)

難治性壊疽性膿皮症、難治性ぶどう膜炎、治療継続が必要な末梢関節炎(関節リウマチ合併例を除く)など。

4) 大腸以外の高度消化管病変

高度の十二指腸炎、小腸炎など。

5) その他

頻回の脱水などの代謝性合併症など。

注17): 常時おむつの使用が必要で肛門周囲のびらんを伴う症例、狭窄などにより自然排便が困難な症例など。

注18): 1. 回腸嚢炎の診断基準の項, -2 診断基準における「難治例」に相当する症例。

注19): 強直性脊椎炎、仙腸関節炎は指定難病271として追加申請する。また、術後改善しない成長障害は除く

*: 人工肛門関連合併症、術後排尿障害は「ぼうこう又は直腸機能障害」で身体障害者の申請を行う。

3) 令和元年度の改訂点

臨床的重症度分類にCRPの基準値を追記した。また、脚注に以下を追記した。注10) CRPの正常値は施設の基準値とする。注12) 中等症は重症と軽症の中間にあたるものとする。注13) 潰瘍性大腸炎による臨床症状(排便回数、顕血便)を伴わない赤沈やCRPの高値のみで中等症とは判定しない。

3. その他の診断基準・重症度分類に関する検討事項

3-

前述のごとく、今回の潰瘍性大腸炎の診断基準の改訂では臨床的重症度分類にCRPの基準値を追記した。実際の数値については2006年の診断基準プロジェクトで検討した以下の結果を参照とした。1. 重症の基準の項目である赤沈30mm/1hrはCRP値では約3.0(2.77-3.18)mg/dlに相当する、2. 重症を規定するCRP値を3.0mg/dlとすると、感度は42%と高くはないものの、特異度は80%と高く、妥当であった。また、European Crohns and Colitis Organisation (ECCO)の基準も重症に相当するCRP値は3.0mg/dlに設定されており、今回はこの値を採択した。

3-

既に「炎症性腸疾患の疾患活動性指標集」の改訂作業は終了しており、今後、診断基準改訂プロ

ジェクトの担当委員，研究班の班員に修正や追記の意見を求める作業を経て，2020年度の発刊を予定している。

3，4，5．

研究結果の一部（3- ， ）は本稿に記載したが，研究の詳細については各研究責任者が別個に報告予定である。既に「炎症性腸疾患の疾患活動性指標集」の改訂作業は終了しており，今後，診断基準改訂プロジェクトの担当委員，研究班の班員に修正や追記の意見を求める作業を経て，2020年度の発刊を予定している。

D．考察

1．現行のCDの診断基準は特に運用上の問題点はなく，この3年間において主要所見および副所見の項目に変更・修正は行っていない。しかしながら，細かい語句の修正や追記，さらに脚注により必要事項の解説を加えた．特にカプセル内視鏡など新規診断機器の導入に伴い，これらの所見を取り入れたことが改訂の主なポイントであった。

2．現行のUCの診断基準は特に運用上の問題点はなく，この3年間においてA.臨床症状，B.内視鏡検査，注腸X線検査およびC.生検組織学的検査の主要項目に変更・修正は行っていない。しかしながら，カルプロテクチンなど新規のバイオマーカーによる活動性・重症度の判定が可能となったこと，術後患者の重症度基準が存在しなかったこと，重症度基準の項目として取り上げられている赤沈値がほとんど測定されていない現状にあること，などを考慮して前述のように，いくつかの大幅な追記や臨床的重症度分類の項目にCRPを取り入れるなどの改訂を行った。

E．結論

診断方法や機器の進歩はめざましく，炎症性腸疾患の診断基準とその改訂は，逐次行うことが肝要である。また，重症度基準は，治療方法の選択に直結するため，診療の現状に配慮し，治療指針やガイドラインの記載内容にも有用な基準であ

る必要がある。また，長期罹患患者の増加に伴い増加し続ける癌の有効なサーベイランス方法の確立も急務である。以上を本プロジェクトの主軸として進めていきたい。

F．健康危険情報
なし

G．研究発表

1．論文発表

1. Inoue N, Kobayashi K, Naganuma M, Hirai F, Ozawa M, Arikan D, Huang B, Robinson AM, Thakkar RB, Hibi T. Long-term safety and efficacy of adalimumab for intestinal Behçet's disease in the open label study following a phase 3 clinical trial. *Intest Res.* 15(3):395-401,2017.
2. 平井郁仁．炎症性腸疾患における内視鏡治療のUp to date. *Ulcer Research.* 44:19-24,2017.
3. Hirai F. Current status of endoscopic balloon dilation for Crohn's disease. *Intest Res.* 15(2):166-173,2017.
4. 岸 昌廣、佐藤祐邦、高橋晴彦、武田輝之、高田康道、矢野 豊、平井郁仁．粘膜治癒の定義の実際と問題点. *IBD Research.* 11(3):143-153, 2017.
5. 安川重義、平井郁仁、高田康道、他．非特異性多発性小腸潰瘍症/CEASにおける十二指腸病変．*胃と腸.*52(11):1478-1483,2017.
6. Hirai F, Andoh A, Ueno F, et al. Efficacy of endoscopic balloon dilation for small bowel strictures in patients with Crohn's disease: A nationwide, multi-center, open-label, prospective cohort study. *J Crohns Colitis.* 12(4):394-401,2018.
7. Naganuma M, Aoyama N, Tada T, Kobayashi K, Hirai F, Watanabe K, Watanabe M, Hibi T. Correction to: Complete mucosal healing of distal lesions induced by twice-daily budesonide 2-mg foam promoted clinical

- remission of mild-to-moderate ulcerative colitis with distal active inflammation: double-blind, randomized study. *J Gastroenterol.* 53(4):579-581,2018.
8. Naganuma M, Aoyama N, Tada T, Kobayashi K, Hirai F, Watanabe K, Watanabe M, Hibi T. Complete mucosal healing of distal lesions induced by twice-daily budesonide 2-mg foam promoted clinical remission of mild-to-moderate ulcerative colitis with distal active inflammation: double-blind, randomized study. *J Gastroenterol.* 53(4):494-506,2018.
9. Hisamatsu T, Kunisaki R, Nakamura S, Tsujikawa T, Hirai F, Nakase H, Watanabe K, Yokoyama K, Nagahori M, Kanai T, Naganuma M, Michimae H, Andoh A, Yamada A, Yokoyama T, Kamata N, Tanaka S, Suzuki Y, Hibi T, Watanabe M; CERISIER Trial group. Effect of elemental diet combined with infliximab dose escalation in patients with Crohn's disease with loss of response to infliximab: CERISIER trial. - *Intest Res.* 16(3):494-498,2018.
10. Yasukawa S, Matsui T, Yano Y, Sato Y, Takada Y, Kishi M, Ono Y, Takatsu N, Nagahama T, Hisabe T, Hirai F, Yao K, Ueki T, Higashi D, Futami K, Sou S, Sakurai T, Yao T, Tanabe H, Iwashita A, Washio M. Crohn's disease-specific mortality: a 30-year cohort study at a tertiary referral center in Japan. - *J Gastroenterol.* 54(1):42-52,2018.
11. Koga A, Matsui T, Takatsu N, Takada Y, Kishi M, Yano Y, Beppu T, Ono Y, Ninomiya K, Hirai F, Nagahama T, Hisabe T, Takaki Y, Yao K, Imaeda H, Andoh A. Trough level of infliximab is useful for assessing mucosal healing in Crohn's disease: a prospective cohort study. - *Intest Res.* 16(2):223-232,2018.
12. Ninomiya K, Hisabe T, Okado Y, Takada Y, Yamaoka R, Sato Y, Kishi M, Takatsu N, Matsui T, Ueki T, Yao K, Hirai F. Comparison of Small Bowel Lesions Using Capsule Endoscopy in Ulcerative Colitis and Crohn's Disease: A Single-Center Retrospective Analysis. - *Digestion.* 98(2):119-126,2018.
13. Matsuoka K, Kobayashi T, Ueno F, Matsui T, Hirai F, Inoue N, Kato J, Kobayashi K, Kobayashi K, Koganei K, Kunisaki R, Motoya S, Nagahori M, Nakase H, Omata F, Saruta M, Watanabe T, Tanaka T, Kanai T, Noguchi Y, Takahashi KI, Watanabe K, Hibi T, Suzuki Y, Watanabe M, Sugano K, Shimosegawa T. Evidence-based clinical practice guidelines for inflammatory bowel disease. - *J Gastroenterol.* 53(3):305-353,2018.
14. Umeno J, Esaki M, Hirano A, Fuyuno Y, Ohmiya N, Yasukawa S, Hirai F, Kochi S, Kurahara K, Yanai S, Uchida K, Hosomi S, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hisamatsu T, Nagayama M, Yamamoto H, Abukawa D, Kakuta F, Onodera K, Matsui T, Hibi T, Yao T, Kitazono T, Matsumoto T; CEAS study group. Clinical features of chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene: a new entity clinically distinct from Crohn's disease. - *J Gastroenterol.* 53(8):907-915, 2018.
15. Hirai F, Andoh A, Ueno F, Watanabe K, Ohmiya N, Nakase H, Kato S, Esaki M, Endo Y, Yamamoto H, Matsui T, Iida M, Hibi T, Watanabe M, Suzuki Y, Matsumoto T. Efficacy of Endoscopic Balloon Dilatation for Small Bowel Strictures in Patients With Crohn's Disease: A Nationwide, Multi-centre, Open-label, Prospective Cohort Study. - *J Crohns Colitis.* 12(4):394-401,2018.
16. Esaki M, Matsumoto T, Ohmiya N, Washio E, Morishita T, Sakamoto K, Abe H, Yamamoto S, Kinjo T, Togashi K, Watanabe K, Hirai F,

- Nakamura M, Nouda S, Ashizuka S, Omori T, Kochi S, Yanai S, Fuyuno Y, Hirano A, Umeno J, Kitazono T, Kinjo F, Watanabe M, Matsui T, Suzuki Y. Capsule endoscopy findings for the diagnosis of Crohn's disease: a nationwide case-control study. - J Gastroenterol. 54(3):249-260,2019.
17. Hirai F, Ishida T, Takeshima F, Yamamoto S, Yoshikawa I, Ashizuka S, Inatsu H, Mitsuyama K, Sou S, Iwakiri R, Nozaki R, Ohi H, Esaki M, Iida M, Matsui T; Additional Power of Elemental Diet on Maintenance Biologics Therapy in Crohn's Disease (ADORE) Study Group. Effect of a concomitant elemental diet with maintenance anti-tumor necrosis factor- antibody therapy in patients with Crohn's disease: A multicenter, prospective cohort study. - J Gastroenterol Hepatol. 34(1)132-139,2019.
18. Hirai F, Takeda T, Takada Y, et al. Efficacy of enteral nutrition in patients with Crohn's disease on maintenance anti-TNF-alpha antibody therapy: a meta-analysis. - J Gastroenterol. 55(2):133-141,2019.
19. Matsuno Y, Umeno J, Esaki M, Hirakawa Y, Fuyuno Y, Okamoto Y, Hirano A, Yasukawa S, Hirai F, Matsui T, Hosomi S, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hisamatsu T, Yanai S, Kochi S, Kurahara K, Yao T, Torisu T, Kitazono T, Matsumoto T.- Measurement of prostaglandin metabolites is useful in diagnosis of small bowel ulcerations.25(14):1753-1763,2019.
20. Hisamatsu T, Kato S, Kunisaki R, Matsuura M, Nagahori M, Motoya S, Esaki M, Fukata N, Inoue S, Sugaya T, Sakuraba H, Hirai F, Watanabe K, Kanai T, Naganuma M, Nakase H, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T, Nojima M, Matsumoto T, DIAMOND2 Study Group- J Gastroenterol . 54(10):860-870,2019.
21. Yoshimura N, Yokoyama Y, Sako M, Aoyama N, Hirai F, Sawada K, Kashiwagi N, Suzuki Y.- Development of a C1q-immobilized(Cim) assay to measure total antibodies to infliximab and its clinical relevance in patients with inflammatory bowel disease- Cytokine. 120:54-61,2019.
22. 平井郁仁 . 潰瘍性大腸炎の診断基準 Japanese Diagnostic Criteria of Ulcerative Colitis-臨牀消化器内科 . 34(7):774-778,2019.
23. 平井郁仁 . 下痢をきたす疾患の診療 炎症性腸疾患-臨牀と研究 . 96(11):6-13,2019.
24. 平井郁仁 . 炎症性腸疾患の内科治療-消化器外科 . 42(12):1645-1652,2019.
2. 学会発表
1. 山崎一朋、平井郁仁、久部高司、他. 潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡の有用性についての検討. 第103回日本消化器内視鏡学会九州支部例会(福岡) 2017年5月19日-20日
2. Takada Y, Yasukawa S, Beppu T, Kishi M, Yano Y, Hirai F. Therapeutic efficacy and predictors of efficacy of infliximab in the treatment of refractory ulcerative colitis. AOCC(Seoul), 2017年6月15日
3. Yasukawa S, Yano Y, Takada Y, Kishi M, Beppu T, Hisabe T, Takaki Y, Hirai F, Yao K, Ueki T, Matsui T. Clinical outcome and predictive factors influencing the efficacy of biological agents for intestinal Beçet disease . AOCC (Seoul), 2017年6月15日
4. Beppu T, Yasukawa S, Yamasaki K, Yano Y, Hirai F, Yao K, Ueki T, Matsui T, Hirano Y, Higashi D, Futami K, Chuman K, Tanabe H, Iwashita A. Clinical and pathological features of 4 cases of small intestinal cancer occurring in association with Crohn's disease, AOCC (Seoul), 2017年6月15日
5. 平井郁仁、矢野 豊、岸 昌廣. クロウン病

狭窄病変に対する内視鏡的バルーン拡張術の有用性 . JDDW(福岡) , 2017 年 10 月 12 日-15 日

6. 岸 昌廣、平井郁仁、矢野 豊、他 .

3.2 鉗子チャンネル搭載 DBE を使用した EBD の有用性に関する検討 . JDDW(福岡) , 2017 年 10 月 12 日-15 日

7. 渡辺憲治、大宮直木、平井郁仁、松井敏幸 . クロウン病診断におけるカプセル内視鏡の有用性 : J-POP Study 追加検討から . 第 55 回日本小腸学会(京都) , 2017 年 10 月 21 日

8. 別府剛志、山崎一朋、武田輝之、矢野 豊、平井郁仁、八尾建史、植木敏晴、松井敏幸、平野由紀子、東大二郎、二見喜太郎、中馬健太、田邊寛、岩下明德 . 術後病理組織検査にて診断し得たクローン病に合併した早期小腸癌の 2 例 . 第 55 回日本小腸学会(京都) , 2017 年 10 月 21 日

9. 平井郁仁、岸 昌廣、高田康道、武田輝之、佐藤祐邦、別府剛志、矢野 豊 . クロウン病狭窄病変に対する内視鏡的バルーン拡張術の有用性 . 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会(福岡) 2017 年 11 月 10 日-11 日

10. 矢野 豊、高田康道、武田輝之、別府剛志、佐藤祐邦、岸 昌廣、平井郁仁、八尾建史、松井敏幸、植木敏晴 . アダリムマブのクローン病に対する長期成績と効果減弱例に対する倍量投与の治療成績 - 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会(福岡) , 2017 年 11 月 10 日-11 日

11. 渡辺憲治、西下正和、嶋本文雄、福知 工、江崎幹宏、岡 志郎、藤井茂彦、平井郁仁、井上拓也、樋田信幸、野崎良一、櫻井俊治、竹内 健、猿田雅之、斎藤彰一、斎藤 豊、大宮直木、味岡洋一、川野怜諸、田中信治 . 潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡における NBI 観察と色素内視鏡観察のランダム化比較試験 : Navigator Study . - 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会(福岡) 2017 年 11 月 10 日-11 日

12. 山崎一朋、平井郁仁、久部高司 他 . 潰瘍性大腸炎における Low grade dysplasia の取り扱いと経過 . 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会

(福岡) , 2017 年 11 月 10 日-11 日

13. 武田輝之、二宮風夫、久部高司、大門裕貴、高田康道、山岡梨乃、金城 健、佐藤祐邦、岸 昌廣、高津典孝、矢野 豊、平井郁仁、松井敏幸、八尾建史、植木敏晴 . カプセル内視鏡による潰瘍性大腸炎と Crohn 病の小腸病変の評価 . 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会(福岡) , 2017 年 11 月 10 日-11 日

14. 小島俊樹、長濱 孝、平井郁仁、八尾建史、植木敏晴、松井敏幸 . 当院における難治性クローン病に対するウステキヌマブの使用経験 . 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会(福岡) , 2017 年 11 月 10 日-11 日

15. 宇野駿太郎、武田輝之、高田康道、山崎一朋、安川重義、別府剛志、岸 昌廣、矢野 豊、平井郁仁、八尾建史、植木敏晴、松井敏幸、平野由紀子、東大二郎、二見喜太郎、中馬健太、田邊寛、岩下明德 . クロウン病に合併した早期小腸癌の一例 . 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会(福岡) , 2017 年 11 月 10 日-11 日

16. 別府剛志、矢野 豊、平井郁仁 他 . クロウン病に合併した小腸癌の臨床的特徴 . 第 110 回日本消化器病学会九州支部例会(沖縄) , 2017 年 11 月 17 日-18 日

17. 平井郁仁、矢野 豊、岸 昌廣 . クロウン病の寛解維持治療における栄養療法の有用性と限界 - 抗 TNF- 抗体との併用例を中心に - . 第 21 回日本病態栄養学会(京都) , 2018 年 1 月 12-14 日

18. Fukushima Y, Kishi M, Yano Y, Hirai F, Ueki T. Use of ustekinumab in patients with refractory Crohn's disease at our hospital. AOCC2018 (上海) 2018 年 6 月 21 日-23 日

19. Kishi M, Hirai F, Yano Y, Takatsu N, Takada Y, Takeda T, Yao K, Ueki T. A Prospective Study to Assess the Effectiveness of Tacrolimus Therapy in Ulcerative Colitis. AOCC2018 (上海) 2018 年 6 月 21 日-23 日

20. 高田康道、平井郁仁、武田輝之、別府剛志、

岸 昌廣、矢野 豊、八尾建史、植木敏晴. 当院における難治性クローン病に対する Ustekinumab の使用経験. JDDW2018(神戸)2018年11月1日-4日

21. Takeda T, Hirai F, Takatsu N, Kishi M, Beppu T, Yao K, Ueki T. Long-term outcomes of endoscopic balloon dilation for small-bowel strictures using double balloon enteroscopy in patients with Crohn's disease. ECCO2019 (コペンハーゲン) 2019年3月6日-9日

22. Kishi M, Hisabe T, Takatsu N, Koga A, Yasukawa S, Takeda T, Yao K, Ueki T. Outcomes of endoscopic balloon dilation for small-bowel strictures using double balloon enteroscopy in patients with Crohn's disease. -A single center, retrospective study- AOCC2019 (台湾) 2019年06月14日-19日

23. Bruce E. Sands, William J. Sandborn, Laurent Peyrin-Biroulet, Peter DR Higgins, Fumihito Hirai, Vipul Jairath, Ruth Belin, Yan Dong, Elisa Gomez Valderas, Debra Miller, MaryAnn Morgan-Cox, April N. Naegeli, Paul Pollack, Jay Tuttle, Toshifumi Hibi. Impact of Mirikizumab Treatment on Inflammatory Bowel Disease Questionnaire Scores in Patients With Moderate to Severely Active Crohn's Disease. 27th UEGW2019 (バルセロナ) 2019年10月19日-23日

24. Takatsu N, Takeda T. Kishi M, Hisabe T, Yao K, Ueki T. Clinical outcome with Ustekinumab in medically-refractory Crohn's disease: real world experience from a single center cohort . JDDW2019 (神戸) 2019年11月21日-24日

25. 阿部光市、今給黎宗、松岡弘樹、向坂秀人、松岡 賢、萱嶋善行、久能宣昭、石橋英樹、船越禎広、竹田津英稔、平井郁仁 . 迅速に行った小腸カプセル内視鏡検査が診断に有用であった小腸

動静脈奇形の一例. 第13回日本カプセル内視鏡学会総会(姫路)2020年2月9日

26. 平井郁仁, Bruce E Sands, William J. Sandborn 他. Mirikizumab(抗 IL23p19 抗体製剤)の日本人を含むクローン病(CD)患者での第 相試験の12週の有効性及び安全性. 第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会(福岡)2019年11月29日

27. 平井郁仁、宇田晃仁、田中圭祐 . 大規模診療データ解析からみた本邦のクローン病治療及び診断の実態. 第27回日本消化器関連学会週間 (JDDW2019)(神戸) 2019年11月21日-24日

28. 今給黎 宗、松岡弘樹、向坂秀人、松岡 賢、萱嶋善行、久能宣昭、阿部光市、船越禎広、石橋英樹、竹田津英稔、平井郁仁 . 回腸末端に高度の潰瘍性病変を認めた IgA 血管炎の一例. 第57回日本小腸学会学術集会(大阪)2019年11月9日

29. 久能宣昭、今給黎 宗、松岡弘樹、向坂秀人、松岡 賢、萱嶋善行、阿部光市、船越禎広、石橋英樹、竹田津英稔、平井郁仁 . 直腸尿道瘻を伴うクローン病に対しウステキヌマブを投与し、外科的治療が回避できた1例. 第114回日本消化器病学会九州支部例会(宮崎)2019年11月8日-9日

30. 柴田 衛、久能宣昭、阿部光市、北口恭規、松岡弘樹、今給黎 宗、向坂秀人、松岡 賢、萱嶋善行、船越禎広、石橋英樹、竹田津英稔、平井郁仁 . 典型的な全身症状を欠き、診断に難渋したループス腸炎の一例. 第114回日本消化器病学会九州支部例会(宮崎)2019年11月8日-9日

31. 岸 昌廣、久部高司、高津典孝、古賀章浩、武田輝之、安川重義、八尾建史 . 当院における難治性潰瘍性大腸炎患者に対するタクロリムス療法の治療成績～単施設後ろ向き研究～ JSIBD2019 (福岡) 2019年11月29日-30日

H . 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1 . 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

「潰瘍性大腸炎、Crohn 病に合併した小腸、大腸癌の特徴と予後
- Crohn 病の直腸肛門管癌（痔瘻癌を含む）に対する surveillance program の検証」

研究分担者 杉田昭 横浜市立市民病院 臨床研究部 部長

研究要旨

本邦の Crohn 病に合併する大腸癌は欧米の報告と異なり、直腸肛門管（痔瘻癌を含む）が多くを占める。本研究班では本症に合併した直腸、肛門管癌に対して早期診断を目的とした surveillance program（案）を作成し、有症状例の診断手順とともに平成 26 年度本研究班業績集に掲載した。10 年以上経過した直腸、肛門病変（痔瘻を含む）をもつ Crohn 病症例を対象とし、症例集積を本研究班協力施設で更に継続しており、本 program での surveillance を施行した症例は 2017 年 1 月で登録 497 例で、25 例（5.0%）に悪性腫瘍が診断され、2019 年 1 月には登録例が 576 例と増加、30 例（5.2%）と高頻度に直腸肛門管の悪性腫瘍が診断されている。内訳は直腸肛門管癌 26 例、痔瘻癌 2 例、直腸 group4 1 例、dysplasia1 例であった。本 surveillance program は直腸肛門管の発見率が高く、癌合併例は初回だけでなく、33%は検査の継続によって診断されていることから、surveillance program として有用と考えられた。今後は更に対象とする症例数を増やすとともに、現在までの登録例のうち癌合併例を除き、現時点で本 program による癌 surveillance が施行されている症例に定期的に施行するとともに、本サーベイランスで診断された癌症例の予後を分析して本 surveillance program が予後に寄与するか否かを検証していく予定である。また、本 surveillance program の施行には経験が重要な要素であることから、施行法の啓蒙や施行施設のセンター化も検討課題とする予定である。

共同研究者

二見喜太郎	福岡大学筑紫病院	外科
根津理一郎	西宮市立中央病院	外科
池内浩基	兵庫医科大学	炎症性腸疾患学講座外科部門
舟山裕士	仙台赤十字病院	外科
渡辺和宏	東北大学	胃腸外科
小金井一隆	横浜市立市民病院	炎症性腸疾患科
古川聡美	東京山手メディカルセンター	大腸肛門病センター
水島恒和	大阪大学	消化器外科
高橋賢一	東北労災病院	大腸肛門病センター
渡辺憲治	大阪市立大学	消化器内科
畑啓介	東京大学	腫瘍外科

A. 研究目的

本プロジェクト研究は本邦での潰瘍性大腸炎に合併した大腸癌、および Crohn 病に合併した小腸、大腸癌の特徴と治療後の予後を分析し、生存率の向上のための指針を考案することを目的としている。

Crohn 病では進行癌で発見されるために予後が不良である大腸癌の早期診断に対する対策が必要である。本邦で本症に合併する大腸癌は、欧米で多く合併する結腸癌もみられるものの、痔瘻癌を含む直腸、肛門管癌が多いことが本研究班の結果を含めて明らかになった。本研究班の癌 surveillance についての pilot study の結果に基づいて、癌の合併を疑わせる有症状例の診断手順の作成に加え、本邦独自の直腸肛門管癌（痔瘻癌を含む）に対する癌 surveillance program（案）

を作成、平成 26 年度業績集に掲載した (1)。

本プロジェクトでは本 surveillance program に参加している各施設での症例を更に集積するとともに、現時点で登録された症例のうち、本 surveillance program を定期的に施行する予定の症例を選定して surveillance を継続し、program の有用性を検討している。

B. 研究方法

本研究班で作成した癌 surveillance program 施行例をさらに増加させ、その有用性を検討するとともに、現時点での各施設で本 surveillance program を定期的に施行する予定の症例を現時点で選定し、癌合併例発見の有無を見ることによりその有用性を検討した。

対象患者を 10 年以上経過した直腸、肛門病変(痔瘻を含む)をもつ Crohn 病症例(直腸空置例を含む)とし、共同研究参加施設で直腸、肛門管病変部および痔瘻から生検、または細胞診を行って直腸肛門管癌の診断を行った。また、選定した定期的癌サーベイランス症例での癌発生率を検証することとした。

(倫理面への配慮)

参加施設の症例を匿名化して結果を集積、分析した。

C. 研究結果

1. 癌診断率 (表 - 1)

本 surveillance program に基づいて検査結果を経時的にみると、増加する施行症例数に対して癌発見率は約 5%と高頻度であった。2020 年 1 月には Crohn 病症例は 576 例と増加し、直腸肛門管の悪性腫瘍(痔瘻癌を含む)は 30 例(5.2%)と高頻度に診断された(直腸癌 26 例、痔瘻癌 2 例、直腸 group 4 1 例、dysplasia 1 例)(表 - 2)。診断方法は大腸内視鏡検査生検が 11 例、麻酔下生検が 14 例(5 例は確認中)であった。癌診断例中 33%(10/30 例)は癌 surveillance program に記載されているように定期的に検査を繰り返した症例であった。

D. 考察

Crohn 病の直腸肛門管癌(痔瘻癌を含む)に対する本 surveillance program 施行症例数が年々経時的に増加した結果は、癌発見率が従来からの結果と同様に約 5%と高値を示しており、本 program は癌 surveillance 法として有効と考えられた。また、癌発見例の 33%が繰り返しの検査で診断されており、本 program の有用性が示されたと考えられる。今後は更に対象とする症例数を増やすとともに、現在までの登録例のうち癌合併例を除き、現時点で本 program による癌 surveillance を定期的に施行するとともに、本サーベイランスで診断された癌症例の予後を分析して本 surveillance program が予後に寄与するか否かを検証していく予定である。

本 surveillance program の施行には経験が重要な要素であることから、施行法の啓蒙や施行施設のセンター化も検討課題とする予定である。s

E. 結論

Crohn 病の直腸肛門管癌(痔瘻癌を含む)に対する本 surveillance program は癌 surveillance として有効と考えられた。今後は本 surveillance program に参加する症例の集積とともに、現時点で登録された症例のうち、本 surveillance program を定期的に施行する予定と選定した症例について surveillance を継続して癌発見に対する本 surveillance program の有用性と患者の予後に寄与するか否かを検証することが必要である。

F. 健康危険情報

なし

G: 研究報告

1. 学会発表

- Sugita A, Futami K, Nezu R, et al: The Analysis of colorectal cancer with Crohn's Disease and pilot study of cancer surveillance by multicenter analysis in Japan. ASCRS Annual Scientific Meeting. May 17-21 2014 Hollywood Florida,

- Sugita A: Cancer surveillance in IBD. 15th Asia Pacific Federation of Coloproctology Congress. October 5-7, 2015 Melbourne,

H. 知的財産権の出願、登録状況
なし

I. 文献

1) 杉田昭：潰瘍性大腸炎、Crohn 病に合併した小腸、大腸癌の特徴と予後 - 第 10 報 - . 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究. 平成 26 年度総括、分担研究報告書. P117-119

表-1. Crohn病に対する直腸肛門管癌surveillance program施行
-全施設(2020/1/23現在)-

◆症例576例(572← 554← 447←422←372←340←302)

◆直腸肛門部悪性腫瘍合併 5.2%(30例)
(4.7%:27例← 4.8%:27例← 5.1%:23例←5.0%:21例←4.8%:18例
←5.3%:18例←4.6%:14例)

直腸癌	26例
痔瘻癌	2
Group 4	1
Dysplasia	1

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究

総合研究報告書（平成 29 年度～令和元年度）

治療指針・ガイドラインの改訂 総括

分担研究者 中村志郎¹(クローン病)、久松理一²(潰瘍性大腸炎)
兵庫医科大学 炎症性腸疾患学講座（内科部門）¹杏林大学医学部 消化器内科学²

研究要旨：まず、R 元年度で炎症性腸疾患における最新の疾患概念、治療目標、モニタリングにもとづいて治療原則の項が、刷新された。内科治療について、潰瘍性大腸炎では、新規承認薬として H29 年度 TNF 阻害薬のゴリムマブ、アンテドラッグ・ステロイドであるブデソニド注腸フォーム剤、H30 年度 4-7 インテグリン阻害薬のベドリズマブ、JAK 阻害薬のトファシチニブ、追加承認として H29 年度 寛解期アサコールの 1 日 1 回 2.4g、H30 年度 劇症に対するインフリキシマブ点滴静注が追記された。クローン病では、新規承認薬として H29 年度 IL-12/23p40 阻害薬のウステキヌマブ、R 元年度 ベドリズマブ、追加承認として H29 年度 TNF 阻害薬であるインフリキシマブの効果減弱例に対する投与期間の短縮、R 元年度 肛門病変に対するウステキヌマブの有効性が追記された。安全対策では、H30 年度に NUDT15 遺伝子多型検査の保険承認を受け、チオプリン製剤使用に伴う早期の重篤副作用との関連性と使用前検査の必要性を追加した。special situation 対策として、H30 年度に高齢潰瘍性大腸炎編が治療指針 supplement として策定された。小児においても、H30 年度に小児潰瘍性大腸炎・クローン病治療指針が新たに策定された。外科治療指針に関しては、H29 年度 クローン病で、在宅中心静脈栄養法と人工肛門増設術の際の注意点、H30 年度では、クローン病肛門部病変のすべて 第二版が策定され、R 元年度では、潰瘍性大腸炎について、小児における術式の選択、高齢者手術例の特徴、タイミング、術式、免疫抑制治療の詳細が追記されている。さらに、消化器病学会編集の炎症性腸疾患 診療ガイドライン 2020 改定では、一部のメンバーが治療指針にも参画し、治療指針とガイドラインの整合性と相補性がより高められている。

潰瘍性大腸炎治療指針改定 分担研究者久松理一¹、共同研究者 平井郁仁²、小金井 一隆³、新井勝大⁴、虻川大樹⁵、小林 拓⁶、長沼 誠⁷、松浦 稔¹、松岡克善⁸、猿田雅之⁹、畑 啓介¹⁰、加藤真吾¹¹、加藤 順¹²、仲瀬裕志¹³、中村志郎¹⁴
（杏林大学医学部 消化器内科学¹、福岡大学医学部 消化器内科²、横浜市立市民病院 炎症性腸疾患科³、国立成育医療研

究センター 器官病態系内科部消化器科⁴、宮城県立こども病院 総合診療科・消化器科⁵、北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター⁶、慶應義塾大学医学部 消化器内科⁷、東邦大学医療センター佐倉病院 消化器内科⁸、東京慈恵会医科大学 消化器・肝臓内科⁹、東京大学医学部 腫瘍外科・血管外科¹⁰、埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科¹¹、

千葉大学大学院医学研究院 消化器内科学¹²、札幌医科大学医学部 消化器内科学講座¹³、兵庫医科大学 炎症性腸疾患学講座 内科部門¹⁴)

クローン病治療指針改訂 共同研究者

松井敏幸¹、杉田 昭²、余田 篤³、安藤 朗⁴、金井隆典⁵、長堀正和⁶、樋田信幸⁷、穂苅量太⁸、渡辺憲治⁹、仲瀬裕志¹⁰、竹内 健¹¹、上野義隆¹²、新井勝大¹³、虻川大樹¹⁴、福島浩平¹⁵、二見喜太郎¹⁶

(福岡大学筑紫病院消化器内科¹、横浜市立市民病院炎症性腸疾患センター²、大阪医科大学小児科³、滋賀医科大学消化器内科⁴、慶應義塾大学消化器内科⁵、東京医科歯科大学消化器内科⁶、兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座内科部門⁷、防衛医科大学校消化器内科⁸、兵庫医科大学 腸管病態解析学講座⁹、札幌医科大学 消化器内科学講座¹⁰、辻中病院柏の葉 消化器内科・IBD センター¹¹、広島原爆障害対策協議会 健康管理・増進センター¹²、国立成育医療研究センター 消化器科¹³、宮城県立こども病院 総合診療科・消化器科¹⁴、東北大学大学院分子病態外科・消化管再建医工学¹⁵、福岡大学筑紫病院臨床医学研究センター外科¹⁶)

潰瘍性大腸炎、クローン病外科治療指針

作成委員 責任者 杉田 昭¹、共同研究者 二見喜太郎²、根津理一郎³、藤井久男⁴、舟山裕士⁵、福島浩平⁶、池内浩基⁷、板橋道朗⁸、小金井一隆⁹、篠崎 大¹⁰、畑 啓介¹¹、亀山仁史¹²、楠 正人¹³、佐々木巖¹⁴、中村志郎¹⁵、平井郁仁¹⁶ (横浜市立市民病院 臨床研究部 炎症性腸疾患科¹、福岡大学筑紫病院 臨床医学研究センター (外科)²、西宮市立中央病院外科³、平和会吉田病院 消化器内視鏡・IBD センター⁴、

仙台赤十字病院 外科⁵、東北大学大学院分子病態外科消化管再建医工学⁶、兵庫医科大学 炎症性腸疾患学外科部門⁷、東京女子医科大学 消化器・一般外科⁸、横浜市立市民病院 炎症性腸疾患科⁹、東京大学医学研究所附属病院 腫瘍外科¹⁰、東京大学医学部 腫瘍外科・血管外科¹¹、新潟大学 消化器・一般外科¹²、三重大学 消化管・小児外科学¹³、みやぎ健診プラザ¹⁴、兵庫医科大学 炎症性腸疾患学講座内科部門¹⁵、福岡大学医学部 消化器内科¹⁶)

小児 IBD 治療指針 2019 改訂ワーキンググループ (清水班)

小児分担研究者 清水俊明¹、総括責任者 田尻 仁²、UC 班リーダー 虻川大樹³、CD 班リーダー 新井勝大⁴、共同研究者 青松友槻⁵、石毛 崇⁶、井上 幹大⁷、岩間 達⁸、内田恵一⁷、工藤孝広¹、国崎玲子⁹、熊谷秀規¹⁰、齋藤 武¹¹、清水泰岳⁴、神保圭佑¹、高橋美智子¹²、立花奈緒¹³、南部隆亮⁸、福岡智哉¹⁴、水落建輝¹⁵ (順天堂大学 小児科¹、大阪府立急性期・総合医療センター 小児科²、宮城県立こども病院 総合診療科・消化器科³、国立成育医療研究センター 器官病態系内科部消化器科⁴、大阪医科大学 小児科⁵、群馬大学医学部 小児科⁶、三重大学 消化管・小児外科⁷、埼玉県立小児医療センター 消化器・肝臓科⁸、横浜市立大学附属市民総合医療センター 炎症性腸疾患センター⁹、自治医科大学 小児科学¹⁰、千葉大学 小児外科¹¹、札幌厚生病院 小児科¹²、東京都立小児総合医療センター 消化器科¹³、大阪大学 小児科¹⁴、久留米大学医学部 小児科¹⁵)

A . 研究目的

一般に臨床医が潰瘍性大腸炎・クローン病の治療を行う際の指針として従来の治療

指針・診療ガイドライン(日本消化器病学会編集)を元に新たなエビデンスや知見・保険適応の改訂や追加などに配慮した治療指針を作成し、診療ガイドラインとの整合性を図ることを目的とした。

B．研究方法

まず、プロジェクトチーム(メンバーは共同研究者一覧を参照)で、従来の治療指針、ならびに国内外のガイドラインやコンセンサス・ステートメントなどを元にして、最近の文献的エビデンスや治療に伴う新たな知見にも基づいて、従来の治療指針の問題点を洗い出し、それぞれに関して改訂素案を分担して作成した。その素案に対して、インターネット上のメーリングリストやプロジェクトミーティングにより討議を行い、コンセンサスを得た。さらにその結果を全分担研究者・研究協力者に送付し意見を求めた。最終的に第2回総会で得られたコンセンサスに基づき修正を行い、改訂案を作成した。

(倫理面への配慮)

あらかじめ各班員に内容を検討いただき問題点を指摘頂いた。

C．研究結果

*まず、炎症性腸疾患においては近年の急速な内科治療の進歩に伴い、疾患概念が変化、治療目標の高度化(粘膜治癒)、さらにはそれらを達成する方略(Treat to Target)が刷新されており、これらをもとに治療原則をR元年度にその内容をupdateされた。
* **内科治療**では、**潰瘍性大腸炎治療指針**において、新規承認薬として、H29年度 TNF 阻害薬のゴリムマブ、アンテドラッグ・ステロイドのブデソニド注腸フォーム剤、H30

年度 JAK 阻害薬のトファシチニブ、4 7 インテグリン阻害薬のベドリズマブが追加され、トファシチニブとベドリズマブは、“H30 年度改訂の要点と解説”の項で、診療に必要な情報が要約された。追加承認としては、H29 年度 寛解期アサコール

1 日 1 回、H30 年度 劇症例に対する TNF 阻害薬インフリキシマブの点滴静注が、追記された。

クローン病治療指針では、新規承認薬として、H29 年度 IL-12/23p40 阻害薬のウステキヌマブ、R 元年度にベドリズマブが追加され、後者については“R 元年度改訂の要点と解説”の項で、最新の診療情報が概説された。追加承認としては、H29 年度 二次無効例に対する TNF 阻害薬インフリキシマブの投与期間短縮が追記され、R 元年度では、ウステキヌマブの肛門病変に対する有効性も追加された。また、H30 年度では近年の本邦専門施設における検討結果に基づいて、TNF 阻害薬と経腸栄養療法の併用効果が、“H30 年度改訂の要点と解説”としてまとめられた。

* 炎症性腸疾患における代表的な special situation として知られている、高齢者と小児については、鈴木班の特殊班(高齢者穂刈班、小児 清水班)と連携し改訂作業を実施した。まず、**高齢者については**、穂刈班と一部プロジェクトメンバーを共有し、H30 年度に、高齢潰瘍性大腸炎編が治療指針サプリメントとして新たに策定¹され、既に公開されている。**小児については**、成人と同様に、治療原則が修正され、H30 年度に**小児潰瘍性大腸炎治療指針**²、**小児クローン病治療指針**³がそれぞれ新たに策定され、日本小児栄養消化器肝臓病学会雑誌で公開され、その抜粋版を鈴木班の治療指針に盛

り込んでいる。R元年度では、については、免疫抑制療法前の生ワクチン接種の推奨と小児薬用量の微修正、免疫調節薬とリンパ増殖性疾患に関する注意喚起、さらにベドリズマブとトファシチニブについても追加された。

***外科治療指針について**、H29年度 クロウン病で、在宅中心静脈栄養法と人工肛門増設術の際の注意点、H30年度では、クロウン病肛門部病変のすべてが改訂され、第二版として策定されている。R元年度では、潰瘍性大腸炎において、小児における術式の選択、高齢者手術例の特徴、タイミング、術式、免疫抑制治療の詳細が追記された。

***さらに新たな治療指針**として本年度、潰瘍性大腸炎治療指針改定作成委員会を中心に、潰瘍性大腸炎とクロウン病でしばしば随伴する腸管外合併症の代表的な関節痛・関節炎、皮膚症状、血栓症、原発性硬化性胆管炎について、実診療の現場で必要となる疫学・診断・治療の指針をまとめた**腸管外合併症治療指針が策定された**。

D．考察

鈴木班後期であるH29年度からR元年度の間に、潰瘍性大腸炎で4剤、クロウン病で2剤の新たな新規承認薬が登場している。治療指針として、これらの新規承認薬については、H30年度以降、“改訂の要点と解説”として、診療現場で必要となる最新情報を概説し、各年度改訂版の冒頭に示すようにした。また、炎症性腸疾患治療のより適正化を目的として小児と高齢者については、別プロジェクト化し、それらメンバーと連携し、作業の効率化により、個別の治療指針、およびサプリメントとして公開している。

安全対策面では、従来から知られ本邦における使用普及の障害となっていたチオプリン製剤使用に伴う早期重篤副作用の問題について、NUDT15 遺伝子多型との関連性が明らかとなった。本研究班で実施されたAMEDプロジェクト研究の成果⁴として保険承認された本遺伝子多型検査を、平成30年度改訂版に盛り込み、各種疾患の中で最も早期に公開し、検査の普及に寄与できた。

さらに、日本消化器病学会が編集する診療ガイドラインの改定については、作成委員、評価委員の一部に治療指針改定委員が参画し、治療指針と診療ガイドラインの内容的な整合性と相補性が図られ、令和2年度内に改訂版となる診療ガイドライン2020が完成される予定となっている。

E．結論

治療の標準化を目指して新たな治療指針改訂が行われた。

F．健康危険情報

治療指針の使用に伴う、健康危険情報は認められない

G．文献

1. Higashiyama M, Hokari R, et al. Management of elderly ulcerative colitis in japan. J Gastroenterol . 2019; 54: 571-586.
2. 新井勝大 ほか. 小児クロウン病治療指針 (2019). 日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌 2019;33:90-109.
3. 虻川大樹、ほか：小児潰瘍性大腸炎治療指針 (2019). 日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌 2019;33:110-109.
4. Kakuta Y, et al. NUDT15 codon 139 is

the best pharmacogenetic marker for predicting thiopurine-induced severe adverse events in Japanese patients with inflammatory bowel disease: a multicenter study. J Gastroenterol. 2018 Sep;53(9):1065-1078.

H. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特記事項なし

令和1年度厚生労働科学研究補助金（難治性疾患政策研究事業）

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究

総合研究報告書（2017-2019）

外科系プロジェクト研究の現状と方針

研究分担者 杉田昭 横浜市立市民病院臨床研究部 部長

研究要旨：炎症性腸疾患に対する治療の目的は患者のQOLの向上であり、外科治療は医学的な内科治療無効例、癌合併例などを対象とするとともに術後経過が良好であれば患者の社会的状況を考慮して適応を拡大して行うことによりQOL向上に大きく寄与すると考えられる。外科治療の適応、手術術式および術後管理の工夫、予後の分析と向上などから外科治療成績の向上、および位置づけを明らかにすることを目的として以下の外科プロジェクト研究を多施設共同で行っている。

潰瘍性大腸炎： 難治性回腸囊炎の治療；本症の治療は抗菌剤が使用されており、平成28年度本研究班業績集の潰瘍性大腸炎外科治療指針に抗菌剤併用、使用期間の延長などを記載したが、中止困難例、無効例が存在する。現在、新しい注腸ステロイド剤、生物学的製剤などが使用される例があり、特に前者について各施設での有効性の分析を行い、効果の検証を行う予定である。大腸癌、dysplasia症例の治療方針の検討（多施設共同研究）；癌サーベイランスプログラムの確立プロジェクトで手術例406例の臨床病理学的検討から癌サーベイランスの有用性と発症時期の遅い症例でサーベイランス開始時期を早めることなどを提唱し、Am J Gastroenterol（2019）に掲載された。本症に合併した大腸癌手術例についての全国でのアンケート調査結果から予後、再発危険因子を検討し、論文作成中である。

本症手術例の血栓塞栓症についての前向きコホート研究の結果について論文作成中である。潰瘍性大腸炎術後の小腸出血について論文投稿中である。本症の治療目的であるQOLの向上のために、外科治療、内科治療を行った症例のQOLを適確に判定する尺度の作成を行い、倫理委員会承認施設で2020年1月から横断研究が開始された。外科治療的確化プロジェクト（2019年開始）：本プロジェクトは新規治療を含めた内科治療の経過、内科治療後の外科治療例の経過からの確な外科治療を行うことを目的とし、外科、内科、小児科医が構成メンバーである。今回は潰瘍性大腸炎重症での手術例について、カルシニューリン阻害剤、生物学的製剤使用開始時期前後で重症手術例は30%で変化がなく、分割手術が増加して手術時の状態が不良である例が増加した可能性が示唆された。

Crohn病： 直腸肛門管癌に対する癌 surveillance program の有用性の検証；症例集積をさらに継続して多数例での結果の解析を継続している。現在までの登録症例のうち定期的検査を継続する症例を選定し、継続例での癌発見率も高いことから本 surveillance program の有用性が示された。大腸癌、小腸癌、腸管外悪性腫瘍の診断について全国アンケート調査結果を含め、2020年クローン病癌サーベイランス指針が作成された。初回腸切除または狭窄形成術後の再発危険因子の検討 - prospective study - ：370例を集積予定で、2020年1月までに308例が登録され、中間結果が報告された。クローン病再手術、再々手術例の分析結果がClinical Gastroenterology and hepatology(2019)に掲載された。術後吻合部潰瘍性病変の評価(再発の評価)；集計した324例の結果により吻合部に生じた潰瘍の形態から再発との関連を分析し、論文作成中である。腸管ベーチェット、単純性潰瘍に対する外科治療の現況調査：研究協力施設からのアン

ケート調査施で 95 例を集積、臨床的特徴、再発などについて論文作成中である。

潰瘍性大腸炎、Crohn 病治療指針改訂プロジェクト（責任者：中村志郎先生）潰瘍性大腸炎で小児、高齢者の手術適応、手術術式などを改定した。今後も両疾患について適宜、改訂予定であ

共同研究者

二見喜太郎（福岡大学筑紫病院外科）
池内浩基（兵庫医科大学炎症性腸疾患講座
外科部門）
福島浩平（東北大学分子病態外科）
畑啓介（東京大学大腸肛門外科）
舟山裕士（仙台赤十字病院外科）
根津理一郎（西宮市立中央病院外科）
板橋道朗（東京女子医科大学消化器、一般外科）
小金井一隆（横浜市民病院炎症性腸疾患科）
篠崎大（東京医科学研究所腫瘍外科）
小山文一（奈良県立医大中央内視鏡部）
亀山仁史（新潟大学消化器、一般外科）

A. 研究目的

炎症性腸疾患に対する外科治療の適応の適正化、適正な手術術式および術後管理、それらに基づく予後の向上の検討によって外科治療の位置づけを明らかにしていくことを目的とし、各種プロジェクト研究をの多施設共同研究で行う。

B. 研究方法

本研究班で潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管ペーチェット病または単純性潰瘍についての現状分析、治療法の改善について外科プロジェクト研究を行う。

（倫理面への配慮）

参加施設の症例を匿名化して結果を集積、分析することとしている。

C. 研究成果

1. 潰瘍性大腸炎

1) 本症の治療は抗菌剤が使用されており、平成 28 年度本研究班業績集の潰瘍性大腸炎外科治療指針に抗菌剤併用、使用期間の延長などを記載したが、中止困難例、無効例が存在する。現在、新

しい注腸ステロイド剤、生物学的製剤などが使用される例があり、特に前者について各施設での有効性の分析を行い、効果の検証を行う予定である。2) 大腸癌、dysplasia 症例の治療方針の検討（多施設共同研究）；癌サーベイランスプログラムの確立プロジェクトで手術例 406 例の臨床病理学的検討から癌サーベイランスの有用性と発症時期の遅い症例でサーベイランス開始時期を早めることなどを提唱し、Am J Gastroenterol（2019）に掲載された。3) 以下のプロジェクトは論文投稿中または作成中である。潰瘍性大腸炎術後の小腸出血：論文投稿中。本症に合併した大腸癌手術例についての予後、再発危険因子を検討（全国でのアンケート調査結果）：論文作成中。本症の治療目的である QOL の向上のために、外科治療、内科治療を行った症例の QOL を適確に判定する尺度の作成を行い、倫理委員会承認施設で 2020 年 1 月から横断研究が開始された。結果の分析後に縦断研究を行う予定である。外科的確化プロジェクト：潰瘍性大腸炎重症での手術例について、カルシニューリン阻害剤、生物学的製剤使用開始時期前後で重症手術例は 30% で変化がなく、分割手術が増加し、手術時に状態が不良である例が増加した可能性が示唆された。更に多数例を集計し、手術時期の検討を行う予定である。

2. Crohn 病

1) 直腸肛門管癌に対する癌 surveillance program の有用性の検証；症例集積をさらに継続して多数例での結果の解析を継続している。現在までの登録症例のうち定期的検査を継続する症例を選定し、継続例での癌発見率も高いことから本 surveillance program の有用性が示された。更に長期の経過を検証する。2) 大腸癌、小腸癌、腸管外悪性腫瘍の診断について全国アンケート調査結果を含め、クローン病癌サーベイランス指針が作成された。3) 初回腸切除または狭窄形成術

後の再発危険因子の検討 - prospective study
- ; 370 例を集積予定であり、倫理委員会での承認を受けた施設で現在までに 308 例が登録され、中間結果が報告された。さらに、症例の登録を継続する。4) クロウン病再手術、再々手術例の分析結果が Clin Gastroenterol and Hepatol (2019) に掲載された。5) 術後吻合部潰瘍性病変の評価 (再発の評価); 集計した 324 例の結果により吻合部に生じた潰瘍の形態から再発との関連を分析し、論文作成中である。

3. 腸管パーチェット、単純性潰瘍に対する外科治療の現況調査

研究協力施設からのアンケート調査で 95 例を集積、臨床的特徴、再発などについて論文作成中である。

4. 潰瘍性大腸炎、Crohn 病治療指針改訂プロジェクト (責任者: 中村志郎先生): 潰瘍性大腸炎で小児、高齢者の手術適応、手術術式などを改定した。今後も両疾患について適宜、改訂予定である。

D. 考察

各種の多施設共同研究により炎症性腸疾患に対する外科治療成績の向上、および外科治療の位置づけを明らかにして、QOL 向上のために適正な外科治療の指針を作成することが必要がある。

E. 結論

炎症性腸疾患に対する外科治療の位置づけは内科治療、外科治療の進歩、変遷によって変化している。各種のプロジェクト研究によって、外科治療の現状と問題点を明らかにして治療成績の向上はかることで、治療の目標である QoL の向上につなげることが重要である。

F: 健康機関情報

特になし

G: 研究発表

今後予定

H: 知的財産権の出願、登録状況

特になし

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究

分担研究報告書（平成 29 年度～令和元年度）

「クローン病肛門部病変のすべて」第 2 版の発刊

研究分担者	二見喜太郎	福岡大学筑紫病院外科	教授
	東 大二郎	福岡大学筑紫病院外科	講師
	平野由紀子	福岡大学筑紫病院外科	助教

研究要旨：診断から治療まで一冊に網羅したクローン病肛門部病変の解説書として、2011 年 10 月に刊行した「クローン病肛門部病変のすべて」は、肛門部の診療になじみのない内科医にも活用できる内容となっている。刊行から 5 年以上経過して、診断的、治療的な研究の進歩により追加すべき新しい事項も増え、肛門部癌の増加は早期診断の必要性に迫られている。今回、これらの事項を加えて、さらに実臨床的なものを目指して改訂案を計画し、コアメンバーによる検証を経て、共同研究者の意見を取り入れて改訂を行い、2019 年 3 月完成に至り第 2 版として発刊した。

共同研究者

杉田 昭、小金井 一隆(横浜市立市民病院)、舟山 裕士(仙台赤十字病院 外科)、根津 理一郎(西宮市立中央病院)、福島 浩平(東北大学大学院 医工学研究科消化管再建医工学分野・医学系研究科分子病態外科分野)、畑 啓介(東京大学 腫瘍外科・血管外科)、池内 浩基、内野 基(兵庫医科大学病院 IBD センター)、藤井 久男(吉田病院)、楠 正人、荒木 俊光(三重大学大学院医学系研究科 消化管・小児外科)、板橋 道朗(東京女子医科大学 消化器外科)、亀山 仁史(新潟大学歯科学総合病院 消化器外科)、高橋 賢一(東北労災病院 大腸肛門外科)、木村 英明(横浜市立大学附属 市民総合医療センター)、水島 恒和(大阪大学 消化器外科)、佐原 力三郎(JCHO 東京山手メディカルセンター)、梅枝 覚(四日市羽津医療センター)、太田 章比古(家田病院)、江崎 幹宏(佐賀大学医学部附属病院)、渡辺 憲治(兵庫医大 腸管病態解析学)、平井 郁仁(福岡大学筑紫病院 IBD センター)

部位で、病変は難治性、易再発性で若年で発症するクローン病の長期経過を左右する重要な因子の一つであるばかりでなく、初期症状として早期診断を導く手掛かりになることもよく知られている。「クローン病肛門部病変のすべて」は 2011 年 10 月に刊行し、肛門部の診療になじみのうすい内科医からも評価を得ているが、5 年を経過して、診断、治療における最新の知見ならびに癌合併の増加など、追加すべき事項が増えており、今回、内容の修正に新たな事項を加えて、診断から治療までを一冊に網羅したさらに実践的な参考書の作成を目指した。

B. 研究方法

初版の「クローン病肛門部病変のすべて」には、64 枚の肉眼所見を含めて診断・治療に関する事項を掲載しており、さらに分かりやすい内容を目指して診断的および治療的な最新の事項に画像所見や図説を加えた。肛門癌についても早期癌を追加してサーベイランスに役立つ内容として改訂案を作成し、外科医 5 名のコアメンバーの検証を経て、肛門科医、内科医も含めた共同研究者の意見を問うた。

A. 研究目的

クローン病において肛門部は罹患頻度の高い

C. 研究結果(改訂の内容)

Perianal fistula に対する呼称の変更はその理由を記載することで同意を得た。診断的事項としては、AGA「Perianal fistula」の分類、肛門部診察の体位、金属ブジーなどを追加した。病変としては、skin tag、edematous pile、ulcerated edematous pile の違いが曖昧になっており解説を加えた。肛門部癌のサーベイランスとしての麻酔下肛門観察(EUA)および生検の意義を解説。治療的事項としては、治療目標の記載、瘻孔例に対する治療法の選択、とくに seton 法については cutting seton と loose seton の手技を具体的に解説、また人工肛門造設および直腸切断術後の合併症についての記載を加えた。症例呈示としては、症状のない軽症例、肛門管 - 腔瘻、尿道瘻の MRI 所見の追加、その他軽症例から癌合併まで病態別に分かりやすく整理した。

D. 考察

初版の「クローン病肛門部病変のすべて」に不足した事項ならびに新しい知見を加えることにより、診断的、治療的に実臨床で、とくに肛門部の診療に不慣れな内科医にも分かりやすいクローン病肛門部病変の解説書になると考える。また、肛門部癌は頻度は低いがクローン病患者の生命予後を左右する重要な因子であり、症例呈示を参考に早期診断さらにサーベイランスへつなげるものと考え。

E. 結論

クローン病において、長期的な QOL の維持に肛門部病変の管理は不可欠であり、一冊の解説書があれば診療科を問わず、より適切な対応につながり、ひいてはクローン病患者の生産性の向上を導くものと考え。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

参考文献

- 1) 渡辺守、佐々木巖、二見喜太郎:クローン病
肛門部病変のすべて - 診断から治療まで - 、
厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」、平成 23 年度研究報告書別冊, 2011.10.
- 2) Irvine EJ. Usual therapy improves perianal Crohn's disease as measured by a new disease activity index. J Clin Gastroenterol 20: 27-32, 1995
- 3) Sandborn WJ, et al. AGA technical review on perianal Crohn's disease. Gastroenterology 125:1508-1530,2003
- 4) Taxonera C, et al. Emerging treatments for complex perianal fistula in Crohn's disease. World J Gastroenterol 15:4263-4272,2009
- 5) Marzo M, et al: Management of perianal fistulas in Crohn's disease: an up-to-date review. World J Gastroenterol. 21:1394-1403, 2015

Crohn 病手術例の再発危険因子の検討 多施設共同研究による prospective study

研究分担者 杉田昭 横浜市立市民病院臨床研究部 部長

研究要旨：Crohn 病は経過中に外科治療を必要とする症例が多く、術後再発が一定の頻度であることから、本症に対する治療目的である QOL の改善に関して術後再発予防は必須の課題である。術後再発危険因子について諸家の意見は一致しておらず、術後再発予防治療を行うにはまず、本邦での再発危険因子を明らかにし、それらを有する治療対象患者を正確に抽出することが必要である。治療対象症例を明確にして適正な再発予防治療を行うことで患者の QOL 改善と医療費や副作用を考慮した適正な再発予防治療を行うことが可能となる。本プロジェクト研究は多施設共同の prospective study により本邦での正確な術後再発危険因子を明らかにすることを目的とした。本プロジェクトでは初回腸切除、または狭窄形成術を施行した Crohn 病症例の再手術を含む再発率と再発危険因子を検討するために 370 例を集積し、術後 5 年間の経過観察を多施設共同による prospective study を行い、本邦での術後再発率、再発危険因子の検討を行うこととした。症例の集積を開始して 3 年 3 カ月経過した現在、倫理委員会で承認を受けた各施設中、8 施設で昨年の 237 例から 308 例に登録症例が増加した。登録期間を延長してさらに症例の集積を継続する予定である。

共同研究者

池内浩基（兵庫医科大学炎症性腸疾患講座外科部門）

二見喜太郎（福岡大学筑紫病院外科）

舟山裕士（仙台赤十字病院外科）

根津理一郎（西宮市立中央病院外科）

藤井久男（吉田病院）

渡辺和宏（東北大学胃腸外科）

高橋賢一（東北労災病院大腸肛門病センター）

畑啓介（東京大学腫瘍外科）

福島浩平（東北大学分子病態外科）

小金井一隆（横浜市立市民病院炎症性腸疾患科）

板橋道朗（東京女子医科大学消化器、一般外科）

水島恒和（大阪大学消化器外科）

亀山仁史（新潟大学消化器、一般外科）

村上義孝（東邦大学医学部社会医学講座

医療統計学分野）

西脇祐司（東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野）

A. 研究目的

Crohn 病は経過中に外科治療を必要とする症例が多く、定の頻度で術後再発がみられる。術後再発危険因子として主に罹病期間、罹患範囲、手術適応、吻合など挙げられているが、諸家の報告で一致していない(表 - 1)。本研究班で行われた retrospective study では初回手術の適応が perforating type が non perforating type に比べて有意に再手術率が高いことが報告されている(1)。現在は術後再発予防治療として免疫調節剤や生物学的製剤などの治療が行われており、治療法によっては医療費の増加や重症の副作用に留意する必要がある。適正な術後再発予防治療を行うためには術後再発危険因子の確定が不可欠である。本プロジェクト研究は多施設共同による prospective study により本邦での正確な術後再発率、再発危険因子を明らかにすることを目的にしている。

B. 研究方法

Crohn 病初回腸切除術、または狭窄形成術後の再発危険因子を多施設共同で prospective study で明らかにすることを目的とし、protocol を作成し、登録症例を 370 例とした（平成 29 年度本研究班業績集に掲載）。

（倫理面への配慮）

参加施設の症例を匿名化して結果を集積、分析する。

C. 研究成果

登録症例数は登録開始から 3 年 3 カ月で倫理委員会承認施設のうち、8 施設で 308 例が登録されている（表-2）。

D. 考察

本プロジェクト研究により本邦での初回腸切除、または狭窄形成術を施行した Crohn 病症例について再手術を含む再発率及び再発危険因子の解析を行って再発予防治療の対象症例を明確にすることが可能となり、治療効率の向上、医療経済、副作用の軽減、観点から重要と考えられる。

E. 結論

本邦の Crohn 病症例で術後再発治療の対象症例が明確にすることにより患者の QOL 改善と医療費や副作用を考慮した適正な再発予防治療を行うことが可能となる。症例の集積を継続する。

F. 健康機関情報

特になし

G. 研究発表

今後予定する。

H. 知的財産権の出願、登録状況

特になし

I: 文献

1) 福島恒男、杉田昭、馬場傷三、ほか：Crohn 病術後因子の検討．厚生省特定疾患難治性炎症性腸管障害調査研究班 平成 7 年度研究報告書．58-60、1

表-1. Crohn病初回腸切除術後再発危険因子

著者	症例数	再発の定義	再発危険因子
Caprilli (1996)	110	内視鏡	端々吻合 (5ASA投与例)
Cattan (2002)	118*	臨床症状または内視鏡	腸管外合併症
Sachar (1983)	93	鏡	術前罹病期間
Heimann (1993)	164	造影または再手術	吻合部の数と断端の炎症
Bernell (2000)	907**	臨床症状	肛門病変、広範囲切除
Bernell (2001)	833***	臨床症状	吻合>人工肛門
Greenstein (1988)	770	臨床症状	Perforating indication
Post (1996)	689	再手術	若年発症、空腸病変、瘻孔
Platell (2001)	228	再手術	術後経過観察期間
Martel (2002)	84***	再手術	手術時年齢 (若年)
Borley (2002)	280	再手術	小腸型

* 回腸直腸吻合 **回盲部、結腸右半切除 ***結腸切除

表-2. Crohn病術後再発危険因子の検討(初回手術例、前向き検討)
-登録症例数(2016.12開始)-

施設	7.26'18	1.17'19	7.25'19	1.23'20
兵庫医科大学炎症性腸疾患講座外科	45	62	88	102
福岡大学筑紫病院外科	19	19	20	20
東北大学胃腸外科	16	16	26	33
大阪大学消化器外科	7	7	21	23
東北労災病院大腸肛門病センター	4	6	8	9
横浜市大市民総合医療センターIBDセンター	4	4	4	4
東京大学腫瘍外科	1	1	1	1
横浜市立市民病院炎症性腸疾患科	73	91	100	111
計	168	206	268	308例

新たな IBD 診断の開発

研究分担者 緒方晴彦 慶應義塾大学医学部内視鏡センター 教授

研究要旨：

- 1 潰瘍性大腸炎に対する大腸カプセル内視鏡アトラス作成および炎症判定スコアの作成
- 2 潰瘍性大腸炎の組織学的治癒予測のための内視鏡自動診断システムの開発（UC-CAD study）
- 3 炎症性腸疾患に対する通常内視鏡診断への AI 適応研究
- 4 クロウン病粘膜病変に対するバルーン小腸内視鏡と MRE の比較試験 Progress Study
- 5 クロウン病におけるカプセル内視鏡検査の有用性・安全性に関する多施設共同研究 SPREAD-J study

共同研究者

- 1 細江直樹、緒方晴彦（慶應義塾大学医学部内視鏡センター）他
- 2 牟田口真、緒方晴彦（慶應義塾大学医学部内視鏡センター）他
- 3 高林馨、緒方晴彦（慶應義塾大学医学部内視鏡センター）他
- 4 渡辺憲治（兵庫医科大学腸管病態解析学）他
- 5 猿田雅之（慈恵会医科大学内科学講座消化器・肝臓内科）他

し AI に学習させることにより CAD system を完成させ内視鏡検査中のリアルタイム診断を実現する。

4 「MRE + 回腸終末部まで観察する ileocolonoscopy (ICS)」群と「MRE + 経肛門的バルーン小腸内視鏡 (BAE)」群の多施設共同前向きランダム化比較試験（Progress Study 2）を行い、欧米の画像診断法の正当性と MRE の有用性を検証する。その study のなかで新内視鏡スコアの validation も行う。

5 診断や病変評価、治療効果 および粘膜治癒判定におけるカプセル内視鏡の有用性につき、わが国初の大規模な症例蓄積検討で評価する。

A. 研究目的

- 1 潰瘍性大腸炎（ulcerative colitis, UC）の炎症粘膜病変に対する大腸内視鏡と大腸用カプセル内視鏡（colon capsule endoscopy; CCE）の画像比較による内視鏡アトラスと重症度評価スコアを作成し、その評価を行う。
- 2 超拡大内視鏡（Endocytoscope; EC）と AI 機能としてのコンピューター診断支援（CAD; computer-assisted diagnosis）システムを構築し疾患活動性をリアルタイムで生検組織を要さず自動診断し、医療従事者・患者双方の負担の低減と医療削減を目指す。
- 3 炎症性腸疾患患者の通常内視鏡画像を集積

B. 研究方法

1 UC 患者を対象に CCE-2 及び CS を実施し、画像を収集する。検査当日は CCE-2 を先行して実施し、同日に CS を実施するが、CS では可能な限り全大腸を観察する。40 例の CCE-2 画像および CS 画像からアトラス作成に必要な画像所見をピックアップし、アトラスを作成する。さらに CCE-2 による炎症度評価スコアを作成する。

(倫理面への配慮)

本研究は各施設の倫理委員会の承認の後に研究を行う。個人情報の保護にも十分に配慮し、各施設間のデータのやり取りには匿名化情報を用いる。

2 各施設に通院中の潰瘍性大腸炎患者が、臨床上の必要性から下部消化管内視鏡検査を施行する際に本研究の説明および同意取得を行う。

内視鏡施行時に取得した EC-NBI 画像と組織サンプルを用いる。なお、病理学的活動評価については各施設より同一の委託業者へ外注委託を行うことにより、施設間の組織学的評価の差をなくし一貫性を保持することとした。

基本情報および臨床情報を、匿名化したデータベースに入力し、必要なデータを取得する。

内視鏡画像の利用

内視鏡の静止画および動画をハードディスクに保存し個人情報を全て削除したうえで、名古屋大学に供与し、自動診断システム開発を行う。一定量の内視鏡画像による開発・学習がなされたのちに内視鏡画像を読影させて組織学的活動度との感度、特異度、正診率などを評価する。

(倫理面への配慮)

本研究は各施設の倫理委員会の承認の後に研究を行う。個人情報の保護にも十分に配慮し、各施設間のデータのやり取りには匿名化情報を用いる

3 事前に各施設における倫理委員会の承認を得た後、各施設に対し、内視鏡画像を集積する。同時に、臨床データ(臨床経過・症状・治療内容・血液検査結果、病理結果など)を集積する。一定量の内視鏡画像を AI に学習させた上で、診断制度の上がる学習方法を検討し、これを繰り返すことで AI の診断能を向上させる。構築した AI による内視鏡検査画像診断システムに、新規の下部消化管内視鏡検査画像を読影さ

せて炎症性腸疾患の診断に関する感度、特異度、正診率などを評価する。炎症性腸疾患の消化管内視鏡検査画像のうち、ランダムにある一定量の症例を選び AI の学習セットとして、残りの症例を評価セットとして炎症性腸疾患診断の感度、特異度、正診率などを算出しリアルタイム内視鏡診断能の構築を行っていく。

(倫理面への配慮)

本研究は各施設の倫理委員会の承認の後に研究を行う。個人情報の保護にも十分に配慮し、各施設間のデータのやり取りには匿名化情報を用いる。

4 適格基準)小腸造影や内視鏡、CT、MRI、超音波検査などにより小腸病変を有すると診断されたクローン病患者

ランダム化割付因子) CRP

MRE プロトコール) 3T 可

内視鏡検査) 全例動画撮影

便カルプロテクチン測定

目標症例数) 132 例(各群 66 例)

主要評価項目) MRE+ICS 群と MRE+BAE 群の回腸終末部を含む小腸活動性粘膜病変有所見率

(倫理面への配慮)

本研究は各研究参加施設の倫理委員会の承認を得て、参加者にインフォームド・コンセントを得て施行する。

5 CD もしくは CD 疑いで、小腸病変精査目的に CE を行う患者を対象とする。目標症例数は 500 例。

主要評価項目: CE による CD 病変評価の達成度

副次的評価項目:

既存の CD 病変の活動性評価方法(CDAI、CECDAI)の相関性

有害事象の発生頻度

他検査方法と比較した CE の受容性評価

パテンシー・カプセルの使用状況

(倫理面への配慮)

本研究は各研究参加施設の倫理委員会の承認を得て、参加者にインフォームド・コンセントを得て施行する。

C. 研究結果

1 平成 28 年度に、第一段階 40 例の画像収集が終了、CCE-2 ビデオから判定した重症度スコアの項目の重みづけ、採用項目の統計学的な解析が終了し、スコアが完成した。カプセル内視鏡アトラスについては、「大腸カプセル内視鏡を用いた潰瘍性大腸炎内視鏡画像アトラス」が完成し、平成 30 年 3 月に発刊した。平成 30 年度には、大腸カプセル内視鏡による潰瘍性大腸炎重症度評価スコアを論文化し公表した。

2 プロトコル構築を行い、各施設の倫理申請を行った。倫理承認後、11 月より患者リクルート、システム開発が開始された。2020 年度中には目標症例に到達する予定。

3 本研究計画の発案、研究体制の構築を行い、慶應義塾大学における倫理委員会申請が通過し現在は得られた画像からアノテーションを開始している。

4 上記 15 施設による多施設共同前向きランダム化比較試験のプロトコルを確定し、UMIN 登録 (UMIN000031261) の後、2018 年 8 月より症例登録を開始した。

2020 年 2 月末時点での症例登録状況は、62 例 (目標症例数 132 例 : 47.0%) である。

5 本研究計画の発案、研究体制の構築を行い、さらに慈恵会医科大学における倫理委員会申請を行い登録症例数が順調に増加している。

D. 考察

1 平成 30 年度は、大腸カプセル内視鏡スコアを英文誌に公表した。今後はこのスコアの再現性、病勢評価の正確性をみるための Validation study を検討する。

3 MRE 所見は、従来の MaRIA スコアに加え、東京医科歯科大 MREC スコア (AJR Am J Roentgenol 2019;212:67-76) もスコアリングするが、Simple MaRIA スコア (Gastroenterology 2019;157:432-

439) はスコアリングに含めない。

JDDW2019 で開催された project meeting で、中間解析は実施せず、新内視鏡スコアの validation を今後行う方向で協議する。

E. 結論

1 大腸カプセル内視鏡による潰瘍性大腸炎重症度評価スコアを論文化し公表した

3 平成 30 年度は、本研究計画の発案、研究体制の構築を行った。さらに慶應義塾大学における倫理委員会申請を行った。次年度は他施設の倫理委員会の承認、画像の収集、AI の学習法の検討、確立を行う。

4 本邦でしか実施できない Progress study 2 で、世界の CD 小腸モニタリング strategy を改革するとともに、臨床現場に有用な CD 新内視鏡スコアを開発して参りたい。

5 本研究によって欧米が主張するクローン病画像診断法の有用性と問題点を検証し、CD 画像診断モニタリング strategy の適正化に寄与して参りたい。また、本邦の CD 小腸病変の正確な location、多発性のデータも提供し、欧米との差異の有無も検証して参りたい。

F. 健康危険情報

1 なし。本研究に起因する有害事象を認めず。

2 個人への危険性として直接的なものは内視鏡を用いた腸管組織の生検による組織の提供が該当する。ただし、本研究は通常診療で必要とされる生検を行うため、通常診療における内視鏡検査に伴うリスクと同等である。現在、上記を含めた健康危険情報は発生していない。

3 MRE+BAE 群で遅発性穿孔例が発生し、本研究の監査委員、モニタリング委員、兵庫医科大学倫理委員会に報告された。審議にて、本研究の継続が承認された。

4 なし。本研究に起因する有害事象を認め

ず。
5なし。本研究に起因する有害事象を認めず。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Hosoe N, Nakano M, Takeuchi K, Endo Y, Matsuoka K, Abe T, Omori T, Hayashida M, Kobayashi T, Yoshida A, Mizuno S, Yoshihiro N, Naganuma M, Kanai T, Watanabe M, Ueno F, Suzuki Y, Hibi T, Ogata H. Establishment of a Novel Scoring System for Colon Capsule Endoscopy to Assess the Severity of Ulcerative Colitis-Capsule Scoring of Ulcerative Colitis. *Inflamm Bowel Dis.* 24(12): 2641-2647, 2018

2. Hosoe N, Ohtsuka K, Endo Y, Naganuma M, Ogata N, Kuroki Y, Sasanuma S, Takabayashi K, Kudo SE, Takahashi H, Ogata H, Kanai T. Insertability comparison of passive bending single-balloon prototype versus standard single-balloon enteroscopy: a multicenter randomized non-blinded trial. *Endosc Int Open.* 6(10): E1184-E1189, 2018

3. Hosoe N, Takabayashi K, Ogata H, Kanai T. Capsule endoscopy for small-intestinal disorders: Current status. *Dig Endosc.* 2019 Jan 17. [Epub ahead of print] Review

4. Hosoe N, Hayashi Y, Ogata H. Colon Capsule Endoscopy for Inflammatory Bowel Disease. *Clin Endosc.* 2020 Jan 9. [Epub ahead of print].

4. Limpas Kamiya KJ, Hosoe N, Takabayashi K, Hayashi Y, Sun X,

Miyanaga R, Fukuhara K, Fukuhara S, Naganuma M, Nakayama A, Kato M, Maehata T, Nakamura R, Ueno K, Sasaki J, Kitagawa Y, Yahagi N, Ogata H, Kanai T. Endoscopic removal of foreign bodies: A retrospective study in Japan. *World J Gastrointest Endosc.* 12(1): 33-41, 2020

2. 学会発表

1. 細江 直樹, 緒方 晴彦, 金井 隆典
潰瘍性大腸炎患者に対する大腸カプセル内視鏡検査 前処置、運用法を含めて(ワークショップ)
第95回日本消化器内視鏡学会総会. 東京, 2018年5月

2. 細江 直樹, 中野 雅, 緒方 晴彦
大腸カプセル内視鏡スコア (Capsule Scoring of Ulcerative Colitis: CSUC) による潰瘍性大腸炎の炎症評価 (開発から Validation まで) (シンポジウム)
JDDW 2018. 神戸, 2018年11月

3. 宮永 亮一, 細江 直樹, 緒方 晴彦
大腸カプセル内視鏡による同種造血幹細胞移植後の全消化管サーベイランス(パネルディスカッション)
第97回日本消化器内視鏡学会総会. 東京, 2019年6月

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
特になし

新たな IBD 診断の開発

潰瘍性大腸炎に対する大腸カプセル内視鏡のアトラスならびに炎症度評価スコアの作成 炎症性腸疾患に対する通常内視鏡自動診断システムの開発

研究分担者 中野 雅 北里大学北里研究所病院 消化器内科 部長

研究要旨

潰瘍性大腸炎に対する大腸カプセル内視鏡のアトラスならびに炎症度評価スコアの作成
本研究は多施設共同により、潰瘍性大腸炎患者に対し大腸内視鏡と大腸カプセル内視鏡を同日に行って活動性炎症所見を比較し、大腸カプセル内視鏡画像アトラスを作成し公表した。さらに集積した画像を元に大腸カプセル内視鏡に特化した炎症度評価スコアを作成（論文発表）し、公表した。

炎症性腸疾患に対する通常内視鏡自動診断システムの開発

炎症性腸疾患患者の消化管内視鏡画像を集積し、その内視鏡画像の特徴を AI（Artificial intelligence）に学習させることにより通常内視鏡診断におけるコンピューター診断支援システム（Computer-aided diagnosis ; CAD system）を完成させ、炎症性腸疾患における内視鏡検査中のリアルタイム内視鏡診断を実現することを目的とする。

共同研究者

潰瘍性大腸炎に対する大腸カプセル内視鏡のアトラスならびに炎症度評価スコアの作成
細江直樹、緒方晴彦（慶應義塾大学医学部内視鏡センター）、水野慎大、長沼誠、金井隆典（慶應義塾大学医学部消化器内科）、渡辺守（東京医科歯科大学消化器内科）、小林拓、日比紀文（北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター）、吉田篤史、遠藤豊、上野文昭（大船中央病院消化器肝臓病センター）、大森鉄平（東京女子医科大学消化器内科）、林田真理、久松理一（杏林大学第三内科）、竹内健、松岡克善、鈴木康夫（東邦大学佐倉病院消化器内科）

炎症性腸疾患に対する通常内視鏡自動診断システムの開発

高林馨、牟田口真、細江直樹、緒方晴彦（慶應義塾大学医学部内視鏡センター）、長沼誠、金井隆典（慶應義塾大学医学部消化器内科）、小林拓、日比紀文（北里大学北里研究所病院炎症性

腸疾患先進治療センター）、松岡克善（東邦大学医療センター佐倉病院）、田中聖人、河村卓二（日本赤十字社京都第二赤十字病院）、佐藤真一（国立情報学研究所）

A. 研究目的

潰瘍性大腸炎に対する大腸カプセル内視鏡のアトラスならびに炎症度評価スコアの作成

潰瘍性大腸炎（UC）は、大腸にびらんや潰瘍を形成する原因不明の炎症性腸疾患である。UC の診断は大腸内視鏡（CS）を行い、連続性に拡がる大腸の炎症の程度、病変の罹患範囲を確認することが主体となる。UC の診療において CS は必須の検査であるが、症状の増悪や疼痛、穿孔のリスクを念頭に置き安全性を考慮して施行の可否を慎重に判断する。カプセル内視鏡（CE）は非侵襲的に腸粘膜の観察が可能であり、本邦では第 2 世代の大腸 CE である PillCam COLON2 カプセル（CCE-2）が 2013 年 7 月より国内で使

用可能となっている。CCE-2の有用性は、主に大腸腫瘍性病変の拾い上げ診断に対して示されており、UCに対する炎症の評価に関しては国内外での少数の報告に限られる。そこで本研究は多施設共同によりUC患者に対してCSとCCE-2を同日に行い、炎症所見を比較検討することで大腸カプセル内視鏡画像アトラスを作成し広く公表することを目的とする。さらに集積した画像を元に大腸カプセル内視鏡に特化した炎症度評価スコアを作成することを目指す。

炎症性腸疾患に対する通常内視鏡自動診断システムの開発

炎症性腸疾患（IBD）の特徴的な内視鏡的所見は明らかとなっている一方、内視鏡診断・評価に関しては内視鏡施行医に委ねられている部分も多いのが現状である。また重症度評価に関しても様々なスコアが存在するが正確にvalidationされたものはない。そこで診断確定済みのIBD症例の内視鏡画像を全国から集積し、その内視鏡画像の特徴をAIに学習させることにより通常内視鏡診断におけるコンピューター診断支援システムの構築を行う。これにより統一した内視鏡診断アルゴリズムの確立をめざし、最終的にはIBDにおける内視鏡検査中のリアルタイム内視鏡診断および重症度評価を実現することを目的とする。

B. 研究方法

潰瘍性大腸炎に対する大腸カプセル内視鏡のアトラスならびに炎症度評価スコアの作成
本研究は、慶應義塾大学医学部内視鏡センター・消化器内科を中心とした、上記施設との多施設共同研究である。UC患者を対象にCCE-2およびCSを同日に実施し、CSならびにCCE-2両内視鏡画像を集積する。検査当日はCCE-2を先行して実施し、同日に施行するCSでは可能な限り全大腸を観察する。40例のCCE-2画像およびCS画像からアトラス作成に必要な画像所見を決定しアトラスを作成する。さらに集積した画像を元に炎症度評価スコアを作成する。

（倫理面への配慮）

本研究は、各施設での倫理委員会の承認を必要とする。個人情報保護の観点からも、集積された内視鏡画像を中心とする臨床情報は慎重に取り扱う。匿名化情報の管理は施設ごとに行い、慶應義塾大学医学部内視鏡センターへのデータの受け渡しも十分な配慮の元に行う。

炎症性腸疾患に対する通常内視鏡自動診断システムの開発

事前に各施設での倫理委員会の承認を得た後、各施設の内視鏡画像を集積する。同時に、臨床データ（臨床経過・症状・治療内容・血液検査結果・病理結果など）も集積する。一定量の内視鏡画像をAIに学習させた上で診断精度の向上に結びつく学習方法を検討し、これを繰り返すことでAI診断能の向上を目指す。構築したAI内視鏡検査画像診断システムに、新規の下部消化管内視鏡検査画像を読影させIBDの内視鏡診断に関する感度・特異度・正診率などを評価する。IBDの内視鏡検査画像のうち一定量の症例をランダムに選びAIの学習セットとする。この学習セットをもとに残りの症例を評価し、IBD診断の感度・特異度・正診率などを算出しリアルタイム内視鏡診断能の構築を行っていく。

（倫理面への配慮）

本研究は各施設での倫理委員会の承認の後に研究を行う。個人情報の保護にも十分に配慮し、各施設間のデータのやり取りには匿名化情報を用いる。

C. 研究結果

潰瘍性大腸炎に対する大腸カプセル内視鏡のアトラスならびに炎症度評価スコアの作成
平成28年度に、第一段階40例の画像収集が終了、CCE-2ビデオから判定した重症度スコアの項目の重みづけ、採用項目の統計学的な解析が終了しスコアが完成した。カプセル内視鏡アトラスについては、「大腸カプセル内視鏡を用いた潰瘍性大腸炎内視鏡画像アトラス」が完成し、平成30年3月に発刊した。平成30年度には、大

腸カプセル内視鏡による潰瘍性大腸炎重症度評価スコアを論文化し公表した。

炎症性腸疾患に対する通常内視鏡自動診断システムの開発

令和元年度は当院を含めた各協力施設の倫理委員会への申請・承認を進めた。関連性のない一対の腸管の炎症・非炎症粘膜の画像の重症度比較を行い、これをAIに深層学習させることでこれまでにない連続変数としての診断・重症度分類システムの構築を開始した。また部位認証システムの構築も行い、これに関してもAIに深層学習を開始した。

D. 考察

潰瘍性大腸炎に対する大腸カプセル内視鏡のアトラスならびに炎症度評価スコアの作成

平成29年度にはアトラスが完成し発刊、平成30年度は、大腸カプセル内視鏡スコアを英文誌に公表した。今後はこのスコアの再現性、病勢評価の正確性をみるためのValidation studyを検討する。

炎症性腸疾患に対する通常内視鏡自動診断システムの開発

次年度は深層学習の結果を評価し、内視鏡診断能、部位認証能の向上を目指す。

E. 結論

潰瘍性大腸炎に対する大腸カプセル内視鏡のアトラスならびに炎症度評価スコアの作成
平成29年度に「大腸カプセル内視鏡を用いた潰瘍性大腸炎内視鏡画像アトラス」が完成した（平成30年3月発刊）。平成30年度には、大腸カプセル内視鏡による潰瘍性大腸炎重症度評価スコアを論文化し公表した。

炎症性腸疾患に対する通常内視鏡自動診断システムの開発

令和元年度は、当院における倫理委員会への申請を行い承認された。また基本データとなる内視鏡画像の集積を開始した。AIの学習法として腸管の診断・重症度判定を連続変数として取

り扱う方法を開発し、それと共に部位認証システムの構築も行った。

F. 健康危険情報

両研究ともなし。本研究に起因する有害事象を認めず。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Okabayashi S, Kobayashi T, Saito E, Toyonaga T, Ozaki R, Sagami S, Nakano M, Tanaka J, Yagisawa K, Kuronuma S, Takeuchi O, Hibi T. Individualized treatment based on CYP3A5 single-nucleotide polymorphisms with tacrolimus in ulcerative colitis. *Intest Res* 17(2) 218-226 2019

2. Sagami S, Kobayashi T, Kikkawa N, Umeda S, Nakano M, Toyonaga T, Okabayashi S, Ozaki R, Hibi T. Combination of colonoscopy and magnetic resonance enterography is more useful for clinical decision making than colonoscopy alone in patients with complicated Crohn's disease. *PLoS One* 14(2) 2019

3. Yagisawa K, Kobayashi T, Ozaki R, Okabayashi S, Toyonaga T, Miura M, Hayashida M, Saito E, Nakano M, Matsubara H, Hisamatsu T, Hibi T. Randomized, crossover questionnaire survey of acceptabilities of controlled-release mesalazine tablets and granules in ulcerative colitis patients. *Intest Res* 17(1) 87-93 2019

4. Ozaki R, Kobayashi T, Okabayashi S, Nakano M, Morinaga S, Hara A, Ohbu M,

Matsuoka K, Toyonaga T, Saito E, Hisamatsu T, Hibi T
Histological Risk Factors to Predict Clinical Relapse in Ulcerative Colitis with Endoscopically Normal Mucosa.
J Crohns Colitis 12(11) 1288-1294 2018

5. Hosoe N, Nakano M, Takeuchi K, Endo Y, Matsuoka K, Abe T, Omori T, Hayashida M, Kobayashi T, Yoshida A, Mizuno S, Yoshihiro N, Naganuma M, Kanai T, Watanabe M, Ueno F, Suzuki Y, Hibi T, Ogata H Establishment of a Novel Scoring System for Colon Capsule Endoscopy to Assess the Severity of Ulcerative Colitis-Capsule Scoring of Ulcerative Colitis. Inflamm Bowel Dis 24(12) 2641-2647 2018

6. Okabayashi S, Kobayashi T, Nakano M, Toyonaga T, Ozaki R, Carla Tablante M, Kuronuma S, Takeuchi O, Hibi T
A Simple 1-Day Colon Capsule Endoscopy Procedure Demonstrated to be a Highly Acceptable Monitoring Tool for Ulcerative Colitis. Inflamm Bowel Dis 24(11) 2404-2412 2018

7. Umeda S, Serizawa H, Kobayashi T, Toyonaga T, Saito E, Nakano M, Higuchi H, Tsunematsu S, Watanabe N, Hibi T, and Morinaga S
Clinical significance of human intestinal spirochetosis: a retrospective study. Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi 114(2) 230-237 2017

8. Toyonaga T, Kobayashi T, Nakano M, Saito E, Umeda S, Okabayashi S, Ozaki R, Hibi T

Usefulness of fecal calprotectin for the early prediction of short-term outcomes of remission-induction treatments in ulcerative colitis in comparison with two-item patient-reported outcome. PLoS One 21;12 9 2017

9. Okabayashi S, Kobayashi T [corresponding author], Sujino T, Ozaki R, Umeda S, Toyonaga T, Saito E, Nakano M, Tablante MC, Morinaga S, Hibi T. Steroid-refractory extensive enteritis complicated with ulcerative colitis successfully treated with adalimumab. Intest Res 15(4) 535-539 2017

2.学会発表

1. S Sagami, T Kobayashi, T Kanazawa, K Aihara, H Morikubo, R Ozaki, S Okabayashi, M Matsubayashi, A Fuchigami, H Kiyohara, M Nakano, T Hibi Accuracy of Doppler transabdominal ultrasound in assessing disease severity and extent in IBD. 14th Congress of ECCO Bella Center Copenhagen 2019.3.7

2. M Matsubayashi, T Kobayashi, S Okabayashi, R Ozaki, S Sagami, H Kiyohara, A Fuchigami, H Morikubo, M Nakano, T Hibi Capsule scoring of ulcerative colitis (CSUC) is useful for monitoring inactive ulcerative colitis. Crohn's & colitis congress Las Vegas Bellagio Hotel and Casino, Las Vegas 2019.2.7

3. 日比則孝、小林 拓、森久保 拓、清原裕

- 貴、松林真央、佐上晋太郎、中野 雅、久松理一、日比紀文 Drug-tolerant assay による抗インフリキシマブ抗体測定の有用性 第 56 回日本消化器免疫学会総会 メルパルク京都 2019 年 8 月 2 日
4. 細江直樹、中野雅、竹内健、遠藤豊、松岡克善、大森鉄平、林田真理、水野慎大、長沼誠、小林拓、吉田篤史、中里圭宏、金井隆典、日比紀文、鈴木康夫、上野文昭、渡辺守、緒方晴彦 カプセル内視鏡による潰瘍性大腸炎の炎症評価スコア : Capsule Scoring of Ulcerative Colitis(CSUC)とその Validation 第 12 回日本カプセル内視鏡学会学術集会 グランデはがくれ (佐賀) 2019 年 2 月 3 日
5. 松林真央、小林拓、岡林慎二、瀧上綾子、尾崎良、佐上晋太郎、清原裕貴、森久保拓、中野雅、日比紀文 非活動期潰瘍性大腸炎患者モニタリングにおける Capsule Scoring of Ulcerative Colitis(CSUC)の意義 第 12 回日本カプセル内視鏡学会学術集会 グランデはがくれ (佐賀) 2019 年 2 月 3 日
6. 佐上晋太郎、小林拓、中野雅、日比紀文 クロウン病の大腸内視鏡前処置中に MR エンテログラフィーを追加すると上乗せ効果は期待できるか? 第 107 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 シェーンバッハ・サポー 2018 年 12 月 16 日
7. 森久保拓、小林拓、尾崎良、清原裕貴、瀧上綾子、松林真央、佐上晋太郎、中野雅、久松理一、日比紀文 潰瘍性大腸炎における 5-ASA 製剤とチオプリン製剤の相互作用に関する研究 第 9 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 メルパルク京都 2018 年 11 月 22 日
8. 金沢徹雄、佐上晋太郎、小林拓、相原佳那子、林規隆、森久保拓、松林真央、瀧上綾子、清原裕貴、尾崎良、岡林慎二、中野雅、日比紀文 潰瘍性大腸炎の活動性評価における腹部超音波検査の精度 第 9 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 メルパルク京都 2018 年 11 月 22 日
9. 清原裕貴、小林拓、瀧上綾子、中野雅、日比紀文 第 73 回日本大腸肛門病学会学術集会 京王プラザホテル 2018 年 11 月 9 日
10. 尾崎 良、小林 拓、岡林慎二、中野 雅、原 敦子、大部 誠、日比紀文 内視鏡的寛解潰瘍性大腸炎における再燃の組織学的リスク因子 第 8 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 海運クラブ 東京 2017 年 12 月 1 日
11. 尾崎 良、小林 拓、齊藤詠子、豊永貴彦、岡林慎二、梅田智子、中野 雅、松岡健太郎、森永正二郎、久松理一、日比紀文 潰瘍性大腸炎における組織学的再燃リスク因子の探索 第 59 回日本消化器病学会大会 マリンメッセ福岡 2017 年 10 月 13 日
12. 原 勇輔、岡林慎二、小林 拓、尾崎良、佐上晋太郎、豊永貴彦、中野 雅、宮本康雄、牧田遊子、常松 令、土本寛二、日比紀文、鈴木雄介 結核スクリーニング陰性にもかかわらず抗 TNF- 抗体治療中に肺結核を発症したクロウン病の 1 例 日本消化器病学会関東支部第 346 回例会 海運クラブ(東京) 2017 年 9 月 30 日
13. 渡辺康博、佐上晋太郎、小林 拓、尾崎良、岡林慎二、豊永貴彦、中野 雅、日比紀文 HIV 感染症を併発した潰瘍性大腸炎の 1 例 日本消化器病学会関東支部第 345 回例会 海運クラブ(東京) 2017 年 7 月 15 日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

- 1 . 特許取得
両研究ともなし
- 2 . 実用新案登録
両研究ともなし
- 3 . その他
両研究ともなし

合併症・副作用対策プロジェクト 内科系

研究分担者 猿田雅之 東京慈恵会医科大学 内科学講座 消化器・肝臓内科 主任教授

研究要旨：本プロジェクトでは、炎症性腸疾患（IBD）診療で経験する様々合併症・副作用に関する現状調査および解析を目的に、(1)炎症性腸管疾患合併症とリスク因子の解析、(2)潰瘍性大腸炎における急性増悪・再燃因子の前向き調査（特に腸管感染症との関連性）、(3)CMV 感染合併潰瘍性大腸炎を対象とした定量的 PCR 法に基づく抗ウイルス療法の適応選択と有効性に関する臨床試験、(4)IBD における血栓症発症の予防・治療に関する研究、(5)IBD における骨・関節合併症の実態調査、(6)本邦の IBD 患者における EB ウィルス感染状況に関する多施設共同研究、(7)大規模診療報酬データベースを用いたチオプリン製剤関連悪性腫瘍の頻度、についての研究が行われた。

共同研究者

岡崎和一（関西医科大学内科学第三講座）
深田憲将（関西医科大学内科学第三講座）
大宮美香（関西医科大学内科学第三講座）
福井寿朗（関西医科大学内科学第三講座）
松下光伸（関西医科大学内科学第三講座）
佐々木誠人（愛知医科大学消化器内科）
大川清孝（大阪市立十三市民病院）
北村和哉（金沢大学消化器内科）
渡辺 守（東京医科歯科大学消化器内科）
長堀正和（東京医科歯科大学消化器内科）
谷田論史（名古屋市立大学消化器・代謝内科）
花井洋行（浜松南病院 IBD センター）
飯田貴之（浜松南病院 IBD センター）
加藤 順（和歌山県立医科大学第二内科）
鈴木康夫（東邦大学医療センター佐倉病院内科）
仲瀬裕志（札幌医科大学消化器内科）
松浦 稔（京都大学医学部附属病院内視鏡部）
竹内 健（東邦大学佐倉病院 IBD センター）
長沼 誠（慶應義塾大学医学部 消化器内科）
松岡克善（東邦大学医療センター佐倉病院内科）
藤井俊光（東京医科歯科大学消化器内科）
高津典孝（福岡大学筑紫病院消化器内科）
藤谷幹浩（旭川医科大学内科学講座消化器・血液腫瘍制御内科学分野）
安藤勝祥（旭川医科大学内科学講座消化器・血液腫瘍制御内科学分野）
稲場勇平（市立旭川病院消化器病センター）
野村好紀（旭川医科大学内科学講座消化器・血液腫瘍制御内科学分野）
上野伸展（旭川医科大学内科学講座消化器・血液腫瘍制御内科学分野）
盛一健太郎（旭川医科大学内科学講座消化器・血液腫瘍制御内科学分野）
前本篤男（札幌東徳州会病院 IBD センター）

蘆田知史（札幌徳州会病院 IBD センター）
田邊裕貴（国際医療福祉大学病院消化器内科）
高後 裕（国際医療福祉大学病院消化器内科）
猿田雅之（東京慈恵会医科大学内科学講座消化器・肝臓内科）
櫻井俊之（東京慈恵会医科大学内科学講座消化器・肝臓内科）
富田哲也（大阪大学大学院医学系研究科運動器バイオマテリアル学）
久松理一（杏林大学医学部消化器内科学）
三浦みき（杏林大学医学部消化器内科学）
仲瀬裕志（札幌医科大学消化器内科学講座）
清水泰岳（国立成育医療研究センター）
清水俊明（順天堂大学小児科）
岩間 達（埼玉県立小児医療センター）
小林 拓（北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター）
日比紀文（北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター）

A. 研究目的

IBD 診療で経験する各種合併症や副作用に関しては、まだまだ解明されていない部分も多いことから、疫学的な現状の把握、病態や原因の解明、対策法の検討は必須である。そこで今年度は主に、(1)炎症性腸管疾患合併症とリスク因子の解析（担当：岡崎和一）(2)潰瘍性大腸炎における急性増悪・再燃因子の前向き調査（特に腸管感染症との関連性）（担当：岡崎和一）(3)CMV 感染合併潰瘍性大腸炎を

対象とした定量的 PCR 法に基づく抗ウイルス療法の適応選択と有効性に関する臨床試験（担当：松浦 稔）(4) IBD における血栓症発症の予防・治療に関する研究（担当：藤谷幹浩）(5) IBD における骨・関節合併症の実態調査（担当：猿田雅之）(6) 本邦の IBD 患者における EB ウイルス感染状況に関する多施設共同研究（担当：久松理一）(7) 大規模診療報酬データベースを用いたチオプリン製剤関連悪性腫瘍の頻度（担当：小林 拓）についての研究が行われた。

B. 研究方法

(1) 炎症性腸管疾患合併症とリスク因子の解析

IBD における C 型肝炎、発がん、胆管病変の合併などの検討を、アンケート調査で行った。

(2) 潰瘍性大腸炎における急性増悪・再燃因子の前向き調査（特に腸管感染症との関連性）

多施設前向きに、潰瘍性大腸炎（UC）の再燃・増悪因子としての腸管感染症の関与について検討を行った。

(3) CMV 感染合併潰瘍性大腸炎を対象とした定量的 PCR 法に基づく抗ウイルス療法の適応選択と有効性に関する臨床試験

内科的治療抵抗性の CMV 感染合併 UC を対象に、抗ウイルス薬の投与を無作為に割り付け、その治療効果を比較検討する多施設共同前向きランダム比較試験を行った。

(4) IBD における血栓症発症の予防・治療に関する研究

IBD 患者における血栓症による重篤・死亡症例の実態（全国多施設調査）

診療報酬データベースを用いた IBD 合併血栓症の頻度

抗血栓療法の介入による IBD 患者の血栓

予防効果

(5) IBD における骨・関節合併症の実態調査

IBD の合併症としての関節症状の実態調査（多施設後ろ向き研究・アンケート調査）
調査内容：(a) UC の患者数、(b) クローン病（CD）の患者数、(c) IBD 診療における末梢性脊椎関節炎（pSpA、四肢痛）・体軸性脊椎関節炎（axSpA、腰痛、背部痛）の合併を経験の有無と頻度、(d) UC での合併率、(e) CD での合併率、(f) 仙腸関節炎の合併の有無、(g) 抗 TNF- 抗体による paradoxical reaction としての関節障害の経験の有無

(6) 本邦の IBD 患者における EB ウイルス感染状況に関する多施設共同研究

横断的観察研究：現在の段階で年齢別の EBV 感染状況を明らかにし IBD 治療内容と照合する。

前向き観察研究：横断的観察研究の中で EB V 未感染と診断された患者については 5 年間前向きに EBV 感染状況を追跡する。

(7) 大規模診療報酬データベースを用いたチオプリン製剤関連悪性腫瘍の頻度

大規模診療報酬データベースを用いて、チオプリン製剤・抗 TNF 抗体による日本人 IBD 患者における、非黒色腫皮膚がん（NMSC）と悪性リンパ腫の頻度の検討を行う。

C. 研究結果

(1) 炎症性腸管疾患合併症とリスク因子の解析

一次、二次アンケートを実施し、C 型肝炎陽性の UC は 23 名、CD は 9 名で、UC13 名、CD1 名が治療を施行し、C 型肝炎治療中に UC1 名が再燃した。

発がんは、UC18 名、CD17 名に認められ、詳細検討が引き続き行われている。

(2) 潰瘍性大腸炎における急性増悪・再燃因子の 前向き調査（特に腸管感染症との関連性）

UC16 例中の 15 例（94%）は、腸管感染症の合併を起こしても増悪は認めず、1 例のみ増悪し 2 週間以内に手術となった。

(3) CMV 感染合併潰瘍性大腸炎を対象とした定量的 PCR 法に基づく抗ウイルス療法の適応選択と有効性に関する臨床試験

登録 10 例のうち CMV 陽性は 2 例 20%で、割付対象となる CMV-DNA 1,000 copy/□g DNA 以上を示す症例は認めなかった。

(4) IBD における血栓症発症の予防・治療に関する研究

IBD 患者における血栓症による重篤・死亡症例の実態（全国多施設調査）：

1 次アンケートから、血栓症発症は 1.9%、血栓症発症者のうち重篤化・死亡症例は 7.5%で、今後重篤化・死亡症例の詳細について調査継続し、解析を進めている。

診療報酬データを用いた IBD 合併血栓症の頻度：

血栓症の発症例は 1.2%で、血栓症の危険因子は心疾患、遺伝性凝固障害、悪性腫瘍、手術であった。

抗血栓療法の介入による IBD 患者の血栓予防効果：

4 施設で倫理審査済みで症例登録中。

(5) IBD における骨・関節合併症の実態調査

UC の 6.8%、CD の 5.7%に合併症としての関節症状を認め、既報と類似した結果であった。仙腸関節炎を 1.4%に、抗 TNF- 抗体製剤に基づくと考えられる Paradoxical reaction の関節症状も 1.0%認めた。

(6) 本邦の IBD 患者における EB ウィルス感染状況に関する多施設共同研究

計 398 例が登録され、抗体陰性患者の 35 例は 1 年後の追跡が終了した。

(7) 大規模診療報酬データベースを用いたチオプリン製剤関連悪性腫瘍の頻度

日本人の NMSC のベースラインのリスクは 2.94-4.94/100,000 人年（オーストラリア、米国の 1/100 以下）で、悪性リンパ腫のベースラインのリスクは 4.08-5.03/100,000 人年（欧米の約 1/10）であった。

D. 考察：

(1) 炎症性腸管疾患合併症とリスク因子の解析

C 型肝炎陽性は、IBD 患者の 0.6%であり、一般献血者の 1-2%より低かった。1 例が DAA 治療中に再燃しており、注意が必要である。

(2) 潰瘍性大腸炎における急性増悪・再燃因子の前向き調査（特に腸管感染症との関連性）

腸管感染症が UC も増悪因子となっている可能性は低いと思われた。

(3) CMV 感染合併潰瘍性大腸炎を対象とした定量的 PCR 法に基づく抗ウイルス療法の適応選択と有効性に関する臨床試験

2010 年以降に UC に対して抗 TNF-□抗体製剤が保険承認され、CMV 感染を合併しやすい難治例で、ステロイド以外の治療薬の選択ができるようになったことが CMV 感染合併例減少の一因と考えられた。

(4) IBD における血栓症発症の予防・治療に関する研究

入院、高い疾患活動正、高齢者、手術、中心静脈栄養、CRP、D ダイマー高値などが血栓症の危険因子として挙げられ、危険因子を持つ IBD 患者では血栓症スクリーニングを積極的に行うことが重症化を予防する上で重要である。現在進行中の予防的抗血栓

療法に関する前向き試験で有効性と安全性を明らかにすることが重要である。

(5) IBD における骨・関節合併症の実態調査

関節障害では、pSpA の方が多いことが判明し、axSpA で認めることの多い仙腸関節炎は、欧米に比し低い 0.14% であった。関節障害に関して、主治医が疾患活動性と関連すると判断すると治療強化としてステロイドや抗 TNF- 抗体製剤を選択し、一方で一過性あるいは軽症と判断すると、専門家に依頼するよりも先に NSAIDs の内服や湿布薬などの対症療法が選択されることが多かった。

薬剤性の関節障害も一部で経験され、原因薬剤としてステロイドと抗 TNF- 抗体製剤が挙げられ、抗 TNF- 抗体製剤の場合、paradoxical reaction 的に IBD の治療反応性と異なるかたちで出現しているものもあり、さらなる検討が必要と考えられた。

(6) 本邦の IBD 患者における EB ウィルス感染状況に関する多施設共同研究

中間解析では年齢階層別にみた抗 VCA-IgG 抗体陰性（未感染）患者の割合は 20 歳代以上で減少するが、最高 45-49 歳まで存在した。また未成年患者を中心に抗体陰性でありながら AZA・6-MP で治療されている患者が存在したが、EBV の重篤感染やリンパ腫発生はなかった。

(7) 大規模診療報酬データベースを用いたチオプリン製剤関連悪性腫瘍の頻度

日本人においても、NMSC は増加するが、悪性リンパ腫は増加しなかった。

E. 結論：

IBD 診療における各種合併症や副作用の存在や現状が明らかになり、継続した検討を行うことが必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Tsuchido Y, Nagao M, Matsuura M, Nakano S, Yamamoto M, Matsumura Y, Seno H, Ichiyama S. Real-time quantitative PCR analysis of endoscopic biopsies for diagnosing CMV gastrointestinal disease in non-HIV immunocompromised patients: a diagnostic accuracy study. *Eur J Clin Microbiol Infect Dis*. 2018;37(12):2389-2396.

Ando K, Fujiya M, Nomura Y, Inaba Y, Sugiyama Y, Kobayashi Y, Iwama T, Ijiri M, Takahashi K, Ueno N, Kashima S, Moriichi K, Tanabe H, Mizukami Y, Akasaka K, Fujii S, Yamada S, Nakase H, Okumura T. The incidence and risk factors of venous thromboembolism in patients with inflammatory bowel disease: A prospective multicenter cohort study. *Digestion* 100(4): 229-237, 2019.

Horioka K, Tanaka H, Isozaki S, Konishi H, Fujiya M, Okuda K, Asari M, Shiono H, Ogawa K, Shimizu K. Acute Colchicine Poisoning Causes Endotoxemia via the Destruction of Intestinal Barrier Function: The Curative Effect of Endotoxin Prevention in a Murine Model. *Digestive Diseases and Sciences* 65(1): 132-140, 2020.

Kobayashi T, Uda A, Udagawa E, Hibi T. Lack of increased risk of lymphoma by thiopurines or biologics

in Japanese patients with inflammatory bowel disease: A large-scale administrative database analysis. J Crohns Colitis. 2019 Dec 23. pii: jjz204. doi: 10.1093/ecco-jcc/jjz204.

2. 著書

松浦 稔, 本澤有介, 山本修司, 妹尾 浩. サイトメガロウイルス感染症 - 最近の知見. INTESTINE 第 23 巻第 2 号 特集「腸管感染症」. 日本メディカルセンター, 東京, 167-173, 2019

松浦 稔, 本澤有介, 山本修司, 妹尾 浩. 炎症性腸疾患の内科的治療 - CMV 感染合併潰瘍性大腸炎に対する抗ウイルス治療. 「日本臨床 76 巻増刊号 炎症性腸疾患 (第 2 版)」. 日本臨床社, 東京, 404-409, 2018.

猿田雅之、富田哲也. 炎症性腸疾患に伴う脊椎関節炎. 脊椎関節炎診療の手引き. in press.

猿田雅之. IBD に合併する関節炎. IBD Research 13(3): 138-144, 2019.

丸山友希、猿田雅之. 【実地内科医のための潰瘍性大腸炎診療 ABC】治療 腸管外合併症とその対処. 診断と治療 107(7)819-824, 2019.

3. 学会発表

岩間琢哉、安藤勝祥、稲場勇平、杉山雄哉、村上雄紀、久野木健仁、佐々木貴弘、高橋慶太郎、上野伸展、嘉島伸、盛一健太郎、田邊裕貴、山田聡、仲瀬裕志、藤谷幹浩、奥村利勝. 炎症性腸疾患入院患者における静脈血栓塞栓症の発症頻度：多施設前向き試験. JDDW2019 神戸 2019.11.21.

猿田雅之. 炎症性腸疾患関連脊椎関節炎. 脊椎関節炎の疫学調査・診断基準作

成と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究班. 東京. 2019.12.15. Kobayashi T, Uda A, Mineyama T, Udagawa E, Iwasaki K, Tang W, Hibi T. Incidence risk of colorectal cancer, non-melanoma skin cancers and non-Hodgkin lymphoma in Japanese patients with ulcerative colitis based on large-scale claims database. 13th Congress of ECCO. Austria. 2018.2.16.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得：該当なし
2. 実用新案登録：該当なし
3. その他：該当なし

合併症・副作用対策プロジェクト（外科）

研究分担者 池内浩基 兵庫医科大学 炎症性腸疾患外科 教授

研究要旨：合併症・副作用プロジェクトとして行った研究のうち、すでに終了した研究は1. IBD手術の周術期血栓症。2. UC術後の上部消化管病変。3. UC術後の長期 Pouch 機能率。4. クローン病術後吻合部潰瘍に関する調査研究。5. クローン病再手術率の時代的変遷である。また、現在進行中の研究としては潰瘍性大腸炎治療例の予後-QOLの観点から-があり、新規のプロジェクト研究として高齢者潰瘍性大腸炎手術症例の術前治療と術後合併症の検討。-3年間の多施設共同前向き観察研究を次年度より行う予定である。

共同研究者

福島公平	東北大学大学院分子病態外科
杉田 昭	横浜市立市民病院炎症性腸疾患科
二見喜太郎	福岡大学筑紫病院外科
石原聡一郎	東京大学腫瘍外科
畑 啓介	東京大学腫瘍外科
舟山裕士	仙台赤十字病院外科
高橋賢一	東北労災病院炎症性腸疾患センター
板橋道朗	東京女子医科大学消化器外科
小金井一隆	横浜市立市民病院炎症性腸疾患科
木村英明	横浜市立大学総合医療センター
楠 正人	三重大学消化管・小児外科
荒木俊光	三重大学消化管・小児外科
亀岡仁史	新潟大学消化器外科
藤井久男	吉田病院外科
小山文一	奈良県立医科大学消化器総合外科
植田 剛	南奈良総合医療センター外科
根津理一郎	西宮市立中央病院外科
水島恒和	大阪大学消化器外科
内野 基	兵庫医科大学炎症性腸疾患外科
東 大二郎	福岡大学筑紫病院外科

A. 研究目的

炎症性腸疾患（以下 IBD）の領域では、免疫抑制の状態です術となる症例も多く、通常の大腸

癌の術後とは違った臨床経過を示す症例も多い。本プロジェクトでは、潰瘍性大腸炎（以下 UC）領域では、周術期の血栓症、術後に増悪することの多い、上部消化管病変、さらに長期経過を取り上げ、周術期のみならず、長期的な QOL も含めた現状を明らかにすることを目的に検討を行ってきた。また、クローン病（以下 CD）領域では、再発部位、特に吻合部の経時的な変化と新しい治療が導入されたことにより、再手術率がどのように変化したかを明らかにすることを目的として検討を行った。

B. 研究方法

いずれの研究も多施設共同の後ろ向き観察研究である。

（倫理面への配慮）

いずれの研究も各施設の倫理委員会の承認を得たのち、データの集積は連活可の匿名化を行い行った。

C. 研究結果

1. IBD手術の周術期血栓症

UC術後の周術期血栓症の合併率は高く、術前からの D-dimer の測定や陽性者に対する周術期の画像検査は有用である。本研究の要旨は現在

論文作成中である。

2. UC 術後の上部消化管病変

C 術後の上部消化管病変は、術後に増悪する症例が多く、致命的な症状としては大量出血である。本研究の詳細は現在論文投稿中である。

3. UC 術後の長期 Pouch 機能率

積された 2376 例の検討により、累積 10 年の pouch 機能率は 95.8%であった。また、pouch failure の危険因子は CD への術後病名変更であることが明らかとなっている。本研究の詳細はすでに J of gastroenterology に accept されている。

4. CD 術後吻合部潰瘍に関する調査研究

初回内視鏡 267 例の検討：男：女比は 199:68、手術年齢 36 歳（14-84）CD 発症年齢 25 歳（6-79）手術から初回観察期間 366 日（21 - 2610）である。

吻合線上潰瘍 124 例 吻合部近傍潰瘍を 101 例計 163 例（61.0%）に認め、線状潰瘍 75 例、うち 39 例（23.9%）は線状潰瘍のみであった。Rutgeets 内視鏡スコアで評価では、i0/i1/i2/i3/i4 が 104/16/114/33 であり、粘膜治癒率は 39.0%、無再発率 44.9%であった。

5. CD 再手術率の時代的変遷

CD の初回腸管切除症例 1871 例を後ろ向きに検討を行った。主要エンドポイントは再手術率である。時代的変遷としては 2002 年以降に手術を行った群の再手術率が有意に低い。術後治療としては術後に抗 TNF 抗体製剤を使用した症例で再手術率が有意に低いという結果であった。本研究の詳細はすでに Clinical Gastroenterology and Hepatology に accept された。

D. 考察

C 領域では、血栓症合併のリスクは高く、肺梗塞や脳梗塞を発症した場合は QOL が著しく低下するだけでなく、致命的な合併症となりうる。そのため、術前からのスクリーニングは重要である。ただ、術後の抗血栓療法は術後の再出血を生じる症例もあり、賛否が分かれるところで

ある。

UC 術後の上部消化管病変は頻度は低いものの、大量出血は致命的な合併症となり得る。治療としては現状では抗 TNF 抗体製剤の静脈内投与が有効ではないかとの報告が多い。

UC 術後の長期経過の検討では、累積 10 年の Pouch 機能率が 95.8%と極めて良好であることが明らかとなった。pouch failure の要因としては CD への病名変更が最も関連性のある要因であるが、今後、病名変更症例に対する早期の抗 NF 抗体製剤導入により pouch 機能率はさらに改善するのではないかと期待できる。

CD 術後の吻合部は再手術の原因病変として重要な部位である。ただ、口側腸管の縦走潰瘍は再燃病変として治療強化が望まれるが、吻合部線上潰瘍に関しては、傷治癒遅延と考えるのが適当ではないかとの意見が多い。

バイオ製剤の導入により、再手術率が低下していることは明らかとなった。今後は医療経済面での検討も必要で、どのような症例に導入が必要であるかの検討が重要になってくる。

E. 結論

前の投薬による副作用や、術後の合併症の防止には、内科医と外科医の連携がさらに必要である。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Shinagawa T, Hata K, Ikeuchi H et al. Rate of reoperation decreased significantly after year 2002 in patents with Crohn's disease. Clin Gastroenterol Hepatol. 2019 Jul 20 [Epub ahead of print]
- 2) Uchino M, Ikeuchi H, Sugita A et al. Pouch functional outcome after restorative proctocolectomy with ileal-pouch reconstruction in patients with ulcerative colitis: Japanese multi-center nationwide cohort study. J Gastroenterol. 2018 53:

642-651.

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

潰瘍性大腸炎治療例の予後 QOL の観点から (prospective study)

研究分担者 杉田昭 横浜市立市民病院 臨床研究部 部長

研究要旨：

潰瘍性大腸炎に対して種々の内科治療、外科治療についての治療成績が報告されているが、本症の治療の目的であるQOLの改善についての客観的な分析は少ない。QOLの観点から各種内科治療、外科治療の効果と位置づけを明らかにして本症に対する治療法の選択に関する治療指針を作成することが患者のQOL改善に重要である。そのためには内科、外科治療後のQOLを分析する適正なQOL評価法を選択、作成し、各種治療法の評価を行う必要がある。

本プロジェクトはQOL評価法を決定し、その後、各施設で前向きに患者を登録して各種内科治療、各種外科治療のQOL測定を行って各種治療のQOLを分析してその観点からの位置づけを明らかにし、適正な治療法の選択に基づいた治療指針の作成に活用することを目的として2017年7月から開始した。

QOL評価法としてSF36、IBDQ、Modified FIQLに疾患特異性尺度を加え、結果について各種の説明因子の検討が可能となるQOL調査票を作成した。2020年1月から倫理委員会承認施設で各種治療の横断研究のための症例登録と質問票配布を開始した。その結果に基づいてその後縦断研究を行ってQOLの観点からの治療法を評価し、治療指針に反映させる予定である。

共同研究者

橋本秀樹（東京大学保健社会行動学分野）

二見喜太郎（福岡大学筑紫病院外科）

池内浩基（兵庫医科大学炎症性腸疾患講座
外科部門）

福島浩平（東北大学分子病態外科）

畑啓介（東京大学大腸肛門外科）

舟山裕士（仙台赤十字病院外科）

根津理一郎（西宮市立中央病院外科）

小山文一（奈良県立医大中央内視鏡室）

板橋道朗（東京女子医科大学消化器、一般外科）

小金井一隆（横浜市民病院炎症性腸疾患科）

篠崎大（東京医科学研究所腫瘍外科）

水島恒和（大阪大学消化器外科）

荒木俊光（三重大学消化管、小児外科）

松岡克善（東京医科歯科大学消化器内科）

平井郁仁（福岡大学筑紫病院

炎症性腸疾患センター）

中村志郎（兵庫医科大学炎症性腸疾患講座
内科部門）

A. 研究目的

潰瘍性大腸炎に対して新しい治療を含めて種々の内科治療、外科治療についての治療成績が報告されている。しかし、現状では本症の治療の目的であるQOLの改善についての客観的な分析は少ない。QOLの観点から各種内科治療、外科治療の効果と位置づけを明らかにして本症に対する治療法の選択に関する治療指針を作成することが患者のQOL改善に重要である。

そのためには内科、外科治療後のQOLを分析する適正なQOL評価法を作成し、各種治療法の評価、比較などを行う必要がある。

本プロジェクトは2017年7月に開始され、QOL評価法を決定してその後、各施設で前向きに各種

内科治療、各種外科治療での QOL 検討を行い、結果を集積して各種治療法の位置づけを明らかにして QOL の観点からの治療指針の作成に活用することを目的としている。

B. 研究方法

QOL 評価法として SF36、IBDQ、Modified FIQL(fecal incontinence quality of life scale)(1)に疾患特異性尺度を加え、結果について各種の説明因子の検討が可能となる QOL 調査票を作成した。患者に調査票記入を依頼し、担当医は係ることなく、調査票を事務局に送付し、事務局で分析を行う。横断研究の結果をもとに、縦断研究を行う予定である。医師は患者の治療内容、臨床経過を記入シートに記載する。

(倫理面への配慮)

参加施設の症例を匿名化して結果を集積、分析することとしている。

C. 研究成果

2020 年 1 月から倫理委員会承認施設で各種治療の横断研究のための症例登録と質問票配布を開始した。

D. 考察

潰瘍性大腸炎に対する各種内科治療、外科治療例の QOL を客観的に評価し、その結果に基づいて治療指針の検討を行うことが治療による QOL 向上に必要である。

E. 結論

潰瘍性大腸炎に対する各種治療例に対して横断研究を行い、その結果に基づいて縦断研究を行って QOL の観点から各種治療法を評価し、治療指針に反映させる予定である。

F: 健康機関情報

特になし

G: 研究発表

今後予定

H: 知的財産権の出願、登録状況
特になし

I. 文献

(1)Hashimoto H, Schiokawa H, Funahashi K, et al: Development and validation of a modified fecal continence quality of life scale for Japanese patients after intershincteric resection for very low rectal cancer. J Gastroenterol 2010, 45:928-935

IBD の特殊系（小児）統括

研究分担者 清水俊明 順天堂大学小児科 教授

研究要旨：

本研究では、本邦における超早期発症型炎症性腸疾患（VE0-IBD）の実態解明と診断基準の作成、小児期発症炎症性腸疾患患者の理想的なトランジションを目指しての 2 課題につき、それぞれ新井グループリーダーおよび熊谷グループリーダーのもと検討を行った。

VE0-IBD の研究では、全国調査とレジストリ研究により、本邦における VE0-IBD 患者の実態と特徴を明らかにしていくとともに、VE0-IBD の診断アルゴリズムを作成し、monogenic IBD 診療のための遺伝子診断体制の確立を目指した。またトランジションの研究では、小児期発症 IBD 患者のトランジションにおける成人診療科側の問題点や課題を明らかにして、より良い治療と管理が継続されるような体制を構築することを目的とし、成人診療科及び小児の消化器疾患診療施設に対してアンケート調査を行い、その結果を踏まえてマニュアルを作成していく。

共同研究者

新井勝大（国立成育医療研究センター消化器科）

VE0-IBD 研究グループリーダー

熊谷秀規（自治医科大学小児科）

トランジション研究グループリーダー

B. 研究方法

VE0-IBD 研究の方法として、まず全国の小児 IBD 診療施設を対象としたアンケート調査（一次調査、二次調査）の結果をまとめ、本邦の VE0-IBD の疫学的実態を解明する。その後の詳細調査の準備を行う一方で、VE0-IBD の診断基準についての検討を進める。また原発性免疫不全症を含む多彩な疾患を含む monogenic IBD の診断を可能とするための診断アルゴリズムを作成するとともに、そのアルゴリズムにのっとった診療を可能にするための遺伝子診断体制を構築する。

トランジション研究の方法として、まず小児期発症 IBD 患者のトランジションが実際どのように内科や外科で行われているのかの現状をアンケート調査を行い把握する。次に日本小児栄養消化器肝臓学会で作成した手引書について成人領域の先生方からのご意見をお伺いする。アンケート調査からわかったわが国における IBD 患児のトランジションの現状から、海外の現状も参考にしながら理想的なトランジションのマニュアルの作成に着手する。また、小児期発症 IBD 患者のトラ

A. 研究目的

近年、本邦においても報告数が増えている VE0-IBD は、診断の複雑さと、治療抵抗性から、その実態の解明とともに、本邦の実情にあった診断基準の作成、さらには診療ガイドラインの作成が待たれるところである。そこで、本邦の VE0-IBD の疫学的実態ならびに特徴を明らかにするとともに、診断基準の作成を行う。

小児医療の進歩により「移行期患者」が増加している。他方、小児医療では、成人の病態への適切な医療や成人に適した医育環境を提供できないのが実情である。そこで、小児期発症の IBD 患者が成人になっても十分な治療、管理が継続できる体制を構築する。

ンジションの現状と課題について、小児 IBD 診療医に対するアンケート調査を行い、成人領域でのアンケート結果と比較して問題点を明らかにし、より理想的なマニュアルの作成を行っていく。さらに実際に作成したマニュアルを使用し、その有用性を検証しながら修正を加え完成させていく。(倫理面への配慮)

本研究は、参加施設の倫理委員会の承認を得て実施する。

本研究では、通常診療で得られるデータを用いるが、被験者氏名は記号により匿名化(連結可能匿名化)して取扱い、同意書等を取り扱う際も、被験者のプライバシー保護に十分配慮する。なお、研究結果を公表する際も被験者を特定できる情報は使用しないので、被験者のプライバシーは保護される。

遺伝子検査及びアンケート調査項目等、研究にあたっては順天堂大学医学部の倫理委員会で承認を得て実施する。

C. 研究結果

VEO-IBD の全国調査を行い、一次調査では、全国 630 施設の 581 施設(92.2%)から回答を得て、2011 年 4 月から 2016 年 12 月までに、全国で 193 例が VEO-IBD と診断されていることが明らかになった(図 1)。そのうち 24 例(12.4%)は原発性免疫不全症関連腸炎と診断されており、同疾患の評価がされていない患者も考慮すると、VEO-IBD のなかに単一遺伝子以上による原発性免疫不全症患者が一定数含まれることが明らかとなった。また、二次調査では、193 例中 164 例についての診断のために行った検査についての情報を収集し、VEO-IBD における小腸画像評価の難しさと、遺伝子検査の実施検査の少なさが明らかとなった。

2011年以降に診断された6歳未満発症IBD症例



図 1 超早期発症型炎症性腸疾患 (VEO-IBD) の全国調査

さらに原発性免疫不全症を含む多彩な疾患を含む VEO-IBD の診断を可能とするための診断アルゴリズムを作成した(図 2)。日本免疫不全・自己炎症学会との連携のもと保険診療での IBD 遺伝子パネルによる 20 遺伝子のスクリーニング検査が可能となった。また研究ベースでは、同学会との連携のもと、400 遺伝子までのパネル解析実施の道筋がたてられた。

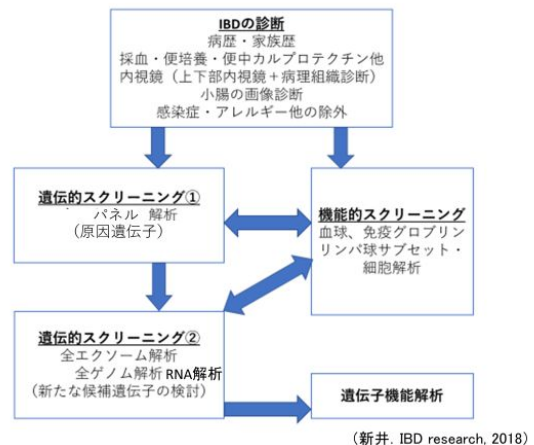


図 2 VEO-IBD の診断アルゴリズム

また、上記パネル検査で診断がつかない患者における新規候補遺伝子・バリエーションを検討するにあたり、これまで行われてきた全エクソーム解析で診断できない患者を診断につなげるための全ゲノム解析や RNA 解析を行うための体制づくりが進み、小児 IBD 診療 11 施設での多施設共同研究としての「遺伝子異常に伴う IBD の病態解明・鑑別診断技術の確立を目指した遺伝学的解析ならびにバイオバンク研究」(成育医療研究開発費 2019A-3)を始動させた(図 3)。

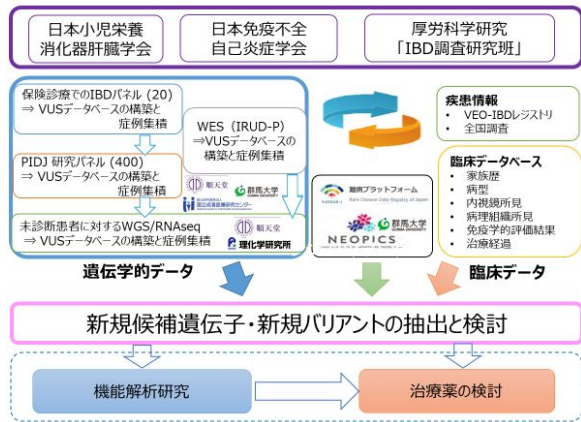


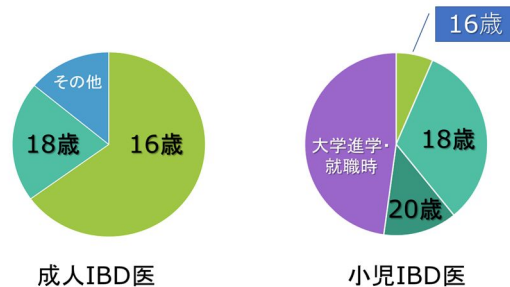
図3 Monogenic IBDの遺伝学的解析ならびにバイオバンク研究

「成人移行期小児炎症性腸疾患患者の自立支援のための手引書」が、日本小児栄養消化器肝臓学会のホームページ、および小児慢性特定疾患情報センターのホームページで公開され、第44回日本小児栄養消化器肝臓学会や第8回日本炎症性腸疾患学会でも紹介した。

理想的なトランジションの形を問う質問では、成人消化器病医の94%が、ある時点で完全にトランスファー（転科）するのが良いとしたのに対し、そのように回答した小児消化器病医は34%で、55%は併設期間を設けて段階的に転科するのがよいとした。また、転科のタイミングを問う質問では、成人消化器病医の65%が16歳と答えたのに対し、小児消化器病医は10%に留まり、18歳との回答が41%を占めた（図4）。小児診療科から患者を引き継ぐことに対しては、73%の成人消化器病医が多かれ少なかれ「ためらいがある」と回答し、他方、成人消化器病医への患者紹介において、51%の小児消化器病医がなんらかの困った事例を経験したと回答した（患者を紹介したものの再び小児科に戻ってきた：17%、成人消化器科での患者のフォローが不規則あるいは途絶えた：21%）。患者の自立とヘルスリテラシーに関する領域やトランジションの障壁に関する領域において、成人と小児の消化器病医へ行った同一の質問項目では、それぞれ双方の見解や認識・態度に大きな差異は見られなかったが、押しなべて小児消化器病医のほうが、トランジションをより重要な課題として位

置付けている傾向がみられた。

トランジションの障壁として挙げられている適切な診療情報の伝達を遂行する目的で図5に示すチェックリストを作成した。



Kumagai, Shimizu, et al. Pediatr Int, 2019.

図4 理想的～重要な転科のタイミングは？

炎症性腸疾患トランジションチェックリスト

患者さんについて

・ 氏名 _____ ID _____ 生年月日 _____ 性別 _____

・ 発症年齢（時期）： _____ 歳 _____ か月（_____ 年 _____ 月）

・ 診断年齢（時期）： _____ 歳 _____ か月（_____ 年 _____ 月）

・ 現在の年齢： _____ 歳 _____ か月

診断について

潰瘍性大腸炎： 全大腸炎型 ・ 左側大腸炎型 ・ 直腸炎型

クローン病： 小腸型 ・ 小腸大腸型 ・ 大腸型

肛門病変 なし ・ あり（痔瘻、肛門周囲膿瘍、皮垂、その他）

IBD-U： 罹患範囲： 胃十二指腸 ・ 小腸 ・ 大腸 ・ 肛門病変（_____）

現在の病状について

・ 症状： 腹痛 あり ・ なし 夜間排便： あり ・ なし

・ 排便： _____ 日に _____ 回 ・ 硬 / 普通 / 軟 / 泥 / 水様

・ 血便： なし ・ あり（少量 / 多量）

・ 重症度（UC）： 軽症 ・ 中等症 ・ 重症

・ IOBD（CD）： _____ 点

・ 血液検査： WBC _____ / μ L, CRP _____ mg/dL, ESR _____ mm/h

・ 便検査： 便潜血 _____ ng/mL, 便中カルプロテクチン _____ μ g/g

・ 最終内視鏡： 日付： _____ 所見： _____

現在の治療について

・ 経口5-ASA なし ・ あり
 ☆ (ベンタサ ・ アサコール ・ リアルダ) _____ mg/日

・ 注腸・座薬5-ASA なし ・ あり (_____ mg/日)

・ 注腸PSL なし ・ あり (_____ mg/日)

・ 経口PSL なし ・ あり (_____ mg/日)

・ 経口BUD なし ・ あり (_____ mg/日)

・ 注腸BUDなし ・ あり (_____ mg/日)

PSL 投与総量 _____ mg

・ 免疫調節薬 なし ・ あり
 AZA _____mg/日 または 6-MP _____mg/日
 ・ 生物学的製剤 なし ・ あり
 IFX ・ ADA ・ GLM ・ UST ・ VDZ ・ TOF ・ その他 (_____)
 _____mg × _____週毎
 ・ 栄養療法 なし ・ あり
 エレンタール ・ その他 (_____) _____kcal/日
 ・ 手術歴 なし ・ あり (_____)
 経過について
 ・ 再燃回数: _____回 (最近の再燃: _____年 _____月)
 ・ その他: (_____)
 合併症 (例: 発達障害、PSC など)

トランスファーの理由

・ 理由: 進学(就職) ・ 転居 ・ 本人の希望 ・ 年齢 ・ 加療目的
 その他 (_____)

トランスファーについてのIC内容とその受け入れ状態

・ IC内容: _____
 ・ 受け入れ状態: 良い ・ 概ね良い ・ 少し悪い ・ 悪い
 (良くない理由: _____)
 家族背景 (例: 父親医師、2回に1回は母親のみの来院など)
 ・ 特記すべき事項: _____
 その他申し送り事項

チェック項目

- 患者が自身の疾患名、疾患概要について理解している。
- 合併症 (消化管合併症、腸管外合併症、癌化リスク) について理解している。
- 自分の疾患経過、手術歴などを把握できている。
- 治療薬の名前、作用、副作用、必要性について理解できている。
- 内服薬などを自己管理できる。
- 栄養や食事内容、規則正しい生活について理解できている。
- 外来診療を一人で受けることができる。
- 自分の腹痛、下痢、血便などの腹部症状についての質問に答えられる。
- 不安、恐怖、心配事などについてスタッフに相談できる。
- 医療費の経済支援、公的助成や医療保険について理解できている。

図5 炎症性腸疾患トランジションチェックリスト

D. 考察

平成30年度に保険承認となった原発性免疫不全症を対象とした遺伝子検査の中に「IBDパネル」が含まれたことで、monogenic IBDが疑われたVEO-IBDを中心とした患者の遺伝子検査が通常診療の中で実施可能となったことの意義は大きい。実際に、骨髄移植が根治につながる可能性もあるXIAP欠損症の確定診断症例も確認されており、今後、この検査をより適正に用いることが、VEO-IBD患者の診断と予後の改善に寄与すると思われた。

今後、研究ベースでの免疫不全・自己炎症関連遺伝子の解析や、難病プラットフォームの使用が推進されることで、より多くのVEO/monogenic IBD患者の診断が進むことが期待されるが、実際には未診断症例に対する新規候補遺伝子ならびに病態の検討が重要となってくる。それに応えるべく、全ゲノム解析、RNA解析までを小児IBDの主要診療施設の連携の中で実施できる体制がととのったことの意義は大き

い。遺伝性のIBDには人種差もあり、本邦のmonogenic IBD疑い患者の病態と遺伝子の解析を行うなかで、本邦から新たなmonogenic IBD情報が発信されることも期待したい。

成人診療科と小児診療科を対象としたアンケート調査の結果を比較すると、患者の自立に向けた理解や態度や保護者の理解や態度、トランジションの障壁に関する各項目で大きな乖離はなかった。一方、最終的にトランスファー(転科)をする年齢や、その運用方法においては、認識の差が顕著であった。今後、こうした乖離を埋めていく作業が必要であり、作成中のマニュアルでは、その辺の配慮も取り入れることが求められると思われる。

E. 結論

VEO-IBD研究の実態調査から、原発性免疫不全症関連腸炎の患者が一定数存在することが判明し、その診断方法の確立が成人症例を含めて重要になってくると思われた。確定診断が難しいmonogenic IBDを含むVEO-IBDの診断アルゴリズムが作成され、保険診療によるIBD遺伝子パネルの実施も可能となった。今後、そこで診断のつかない患者に対する更なる疾患の絞り込みと、新規候補遺伝子やバリエーションを検討する研究の体制づくりと研究の推進を進める必要があると考えられた。

トランジションについては、その実態を明らかにし、十分な対応策を立てていくことが急務と考えられた。成人診療科と小児診療科を対象としたアンケート調査の結果から、両者の連携を強め、診療情報提供書に過不足ない内容を記載することが求められた。また、患者と家族に対しては、患者の自立に向けた早期からの教育が重要であると考えられた。

F. 健康危険情報

該当なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Uchida K, Nakajima A, Ushijima K, Ida S, Seki Y, Kakuta F, Abukawa D, Tsukahara H, Maisawa SI, Inoue M, Araki T, Umeno J, Matsumoto T, Taguchi T. Pediatric-onset Chronic Nonspecific Multiple Ulcers of Small Intestine: A Nationwide Survey and Genetic Study in Japan. *J Pediatr Gastroenterol Nutr.* 2017;64:565-568
2. Nakazawa Y, Kawai T, Arai K, Tamura E, Uchiyama T, Onodera M: Fecal Calprotectin Rise in Chronic Granulomatous Disease-Associated Colitis. *J Clin Immunol.* 2017 ;37:741-743.
3. Ishige T, Tomomasa T, Tajiri H, Yoden A; Japanese Study Group for Pediatric Crohn's Disease : Japanese physicians' attitudes towards enteral nutrition treatment for pediatric patients with Crohn's disease: a questionnaire survey. *Intest Res.* 2017;15:345-351
4. Uchida K, Ohtsuka Y, Yoden A, Tajiri H, Kimura H, Isihige T, Yamada H, Arai K, Tomomasa T, Ushijima K, Aomatsu T, Nagata S, Otake K, Matsushita K, Inoue M, Kudo T, Hosoi K, Takeuchi K, Shimizu T: Immunosuppressive medication is not associated with surgical site infection after surgery for intractable ulcerative colitis in children. *Intractable Rare Dis Res.* 2017;6:106-113.
5. Sato M, Shoda T, Shimizu H, Orihara K, Futamura K, Matsuda A, Yamada Y, Irie R, Yoshioka T, Shimizu T, Ohya Y, Nomura I, Matsumoto K, Arai K: Gene Expression Patterns in Distinct Endoscopic Findings for Eosinophilic Gastritis in Children. *J Allergy Clin Immunol Pract.* 2017;5:1639-1649.
6. Shimizu H, Arai K, Tang J, Hosoi K, Funayama R: 5-Aminosalicylate intolerance causing exacerbation in pediatric ulcerative colitis. *Pediatr Int.* 2017;59:583-587.
7. Hosoi K, Arai K, Matsuoka K, Shimizu H, Kamei K, Nakazawa A, Shimizu T, Tang J, Ito S: Prolonged Tacrolimus Use for Pediatric Gastrointestinal Disorder - A Double-edged Sword?. *Pediatr Int.* 2017;59:588-592.
8. Umeno J, Esaki M, Hirano A, Fuyuno Y, Ohmiya N, Yasukawa S, Hirai F, Kochi S, Kurahara K, Yanai S, Uchida K, Hosomi S, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hisamatsu T, Nagayama M, Yamamoto H, Abukawa D, Kakuta F, Onodera K, Matsui T, Hibi T, Yao T, Kitazono T, Matsumoto T; CEAS study group : Clinical features of chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene: a new entity clinically distinct from Crohn's disease. *J Gastroentero.* 2018; 53:907-915
9. 熊谷秀規, 秋山卓士, 蛇川大樹, 位田忍, 乾あやの, 工藤孝広, 窪田満 : 成人移行期小児炎症性疾患患者の自立支援のための手引書 : 成人診療科へのスムーズな移行のために. *日小児栄消肝会誌* 32; 15-27, 2018.
10. 新井勝大 : 【IBDの類縁疾患を知り、鑑別する!】 原発性免疫不全症に伴う腸炎. *IBD Research* 2018 ; 12 (2) 104-111
11. Kumagai H, Kudo T, Uchida K, Kunisaki R, Sugita A, Ohtsuka Y, Arai K, Kubota M, Tajiri H, Suzuki Y, Shimizu T. Adult Gastroenterologists' Views on Transitional Care: Results from a Survey. *Pediatr Int.* 2019; 61:817-822.
12. Tajiri H, Arai K, Kagimoto S, Kunisaki R, Hida N, Sato N, Yamada H, Nagano M,

- Susuta Y, Ozaki K, Kondo K, Hibi T. Infliximab for pediatric patients with ulcerative colitis: a phase 3, open-label, uncontrolled, multicenter trial in Japan. *BMC Pediatr.* 2019;19:351.
13. Nambu R, Hagiwara SI, Kakuta F, Hara T, Shimizu H, Abukawa D, Iwama I, Kagimoto S, Arai K. Current role of colonoscopy in infants and young children: a multicenter study. *BMC Gastroenterol.* 2019;19:149.
 14. Tsuchida N, Kirino Y, Soejima Y, Onodera M, Arai K, Tamura E, Ishikawa T, Kawai T, Uchiyama T, Nomura S, Kobayashi D, Taguri M, Mitsuhashi S, Mizuguchi T, Takata A, Miyake N, Nakajima H, Miyatake S, Matsumoto N: Haploinsufficiency of A20 caused by a novel nonsense variant or entire deletion of TNFAIP3 is clinically distinct from Behçet's disease. *Arthritis Res Ther.* 2019;21:137
 15. Koike Y, Uchida K, Inoue M, Matsushita K, Okita Y, Toiyama Y, Araki T, Kusunoki M: Predictors for Pouchitis After Ileal Pouch-Anal Anastomosis for Pediatric-Onset Ulcerative Colitis. *J Surg Res.* 2019;238:72-78
 16. Koike Y, Uchida K, Inoue M, Nagano Y, Kondo S, Matsushita K, Okita Y, Toiyama Y, Araki T, Kusunoki M: Early First Episode of Pouchitis After Ileal Pouch-Anal Anastomosis for Pediatric Ulcerative Colitis Is a Risk Factor for Development of Chronic Pouchitis. *J Pediatr Surg.* 2019;54:1788-1793
 17. Takeuchi I, Kaburaki Y, Arai K, Shimizu H, Hirano Y, Nagata S, Shimizu T. Infliximab for Very Early-Onset Inflammatory Bowel Disease: A Tertiary Center Experience in Japan. *J Gastroenterol Hepatol.* 2019 Aug 19. [Epub ahead of print]
 18. Yanagi T, Ushijima K, Koga H, Tomomasa T, Tajiri H, Kunisaki R, Isihige T, Yamada H, Arai K, Yoden A, Aomatsu T, Nagata S, Uchida K, Ohtsuka Y, Shimizu T. Tacrolimus for ulcerative colitis in children: a multicenter survey in Japan. *Intest Res.* 2019 Aug 31. [Epub ahead of print]
 19. Iwama I, Shimizu H, Nambu R, Okuhira T, Kakuta F, Tachibana N, Abe N, Honma H, Kudo T, Nakayama Y. Efficacy and safety of a capsule endoscope delivery device in children. *Eur J Gastroenterol Hepatol.* 2019 Aug 27. [Epub ahead of print]
 20. Mizuochi T, Arai K, Kudo T, Nambu R, Tajiri H, Aomatsu T, Abe N, Kakiuchi T, Hashimoto K, Sogo T, Takahashi M, Etani Y, Takaki Y, Konishi K, Ishihara J, Obara H, Kakuma T, Kurei S, Yamashita Y, Mitsuyama K: Antibodies to Crohn's Disease Peptide 353 as a Diagnostic Marker for Pediatric Crohn's Disease: A Prospective Multicenter Study in Japan. *J Gastroenterol.* 2020 Jan 24 [Online ahead of print]
 21. 虻川大樹, 青松友槻, 井上幹大, 岩間達, 熊谷秀規, 清水泰岳, 神保圭祐, 南部隆亮, 水落建輝, 内田恵一, 国崎玲子, 石毛崇, 福岡智哉, 新井勝大, 清水俊明, 田尻仁. 小児潰瘍性大腸炎治療指針 (2019年). *日小児栄消肝会誌* 33; 110-127, 2019.
 22. 新井勝大, 工藤孝広, 熊谷秀規, 齋藤武, 清水泰岳, 高橋美智子, 立花奈緒, 南部隆亮, 内田恵一, 国崎玲子, 石毛崇, 福岡智哉, 虻川大樹, 清水俊明, 田尻仁. 小児クローン病治療指針 (2019年). *日小児栄消*

肝会誌 33; 90-109, 2019.

2. 学会発表

1. Shimizu H, Arai K, Takeuchi I, Takahashi T, Asahara T, Tsuji H, Matsumoto S, Yamashiro Y: Anaerobic Preparation Method of Solutions for Fecal Microbiota Transplantation is not Superior to Conventional Aerobic Method. ADVANCES in INFLAMMATORY BOWEL DISEASES, Orlando, Florida, USA, 2017.11.10
2. Uchida K, Matsushita K, Inoue M, Koike Y, Nagano Y, Otake K, Uratani R, Yamamoto A, Kondo S, Fujikawa H, Yoshiyama S, Hiro J, Toiyama Y, Araki T, Kusunoki M: Clinical characteristics and surgical outcome of pediatric, adult, elderly patients with ulcerative colitis who underwent surgery in a single center. 4th International Symposium on Pediatric Inflammatory Bowel Disease, Barcelona, Spain, 2017.9.14
3. Arai K, Takeuchi I, Kawai T, Oka I, Hirano Y, Funayama R, Onodera M, Hata K, Shimizu H: Characteristics of very early onset-inflammatory bowel disease: a single center experience using a phenotypic classification. 4th International Symposium on Pediatric Inflammatory Bowel Disease, Barcelona, Spain, 2017.9.14
4. Takeuchi I, Shimizu H, Oka I, Hirano Y, Arai K: Inflammatory Bowel Disease in Children with Special Health Care Needs. 4th International Symposium on Pediatric Inflammatory Bowel Disease, Barcelona, Spain, 2017.9.14
5. Funayama R, Takeuchi I, Oka I, Shimizu H, Yamaoka K, Nomura S, Hirano Y, Arai K: Hypozincemia in children with IBD - a single center retrospective study -. 4th International Symposium on Pediatric Inflammatory Bowel Disease, Barcelona, Spain, 2017.9.14
6. Arai K: Is Nutritional Therapy Still Important in the Biologic Era?. The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, Seoul, Korea, 2017.6.17
7. Hirano Y, Shimizu H, Oka I, Takeuchi I, Funayama R, Arai K: Psychological Approach to Children with IBD: A Single Center Experience. The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, Seoul, Korea, 2017.6.17
8. Oka I, Funayama R, Takeuchi I, Shimizu H, Shimizu T, Arai K: Predictors of Small Intestine Transit Time of Video Capsule Endoscopy in Children and Adolescents with Inflammatory Bowel Disease. The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, Seoul, Korea, 2017.6.17
9. Kudo T, Aoyagi Y, Tokita K, Yoshimura R, Oka I, Kyodo R, Sato M, Miyata E, Hosoi K, Matsumura S, Obayashi N, Ikuse T, Jimbo K, Ohtsuka Y, Shimizu T, Arai N: Fifteen cases of pediatric Crohn's disease with anal fistula in single center in Japan. The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, Seoul, Korea, 2017.6.17
10. Hosoi K, Kudo T, Tokita K, Oka I, Yoshimura R, Arai N, Sato M, Kyodo R, Miyata E, Matsumura S, Obayashi N, Jimbo K, Ikuse T, Aoyagi Y, Ohtsuka Y, Shimizu T: Characteristics of very early onset IBD at a single center in Japan. The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, Seoul, Korea,

- 2017.6.17
11. Arai K, Takeuchi I, Kaburaki Y, Shimizu H, Oka I, Nagata S: Infliximab therapy in very early onset inflammatory bowel disease: experience in Japanese children's Hospital. The 50th Annual Congress of ESPGHAN, Prague, Czech Republic, 2017.5.12
 12. 熊谷秀規ほか. 成人移行期小児炎症性腸疾患患者自立支援のための手引書. 第44回日本小児栄養消化器肝臓学会. 福岡. 2017.10.
 13. 熊谷秀規. IBD診療における小児から成人へのトランジション. 第8回日本炎症性腸疾患学会. 東京. 2017.12.
 14. 新井勝大: 小児クローン病診療における栄養療法の位置づけと問題点. 第21回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2018.1.14
 15. 清水泰岳, 時田万英, 竹内一郎, 新井勝大: 肛門病変を伴う難治性超早期発症型炎症性腸疾患の1女児例. 第2階 Pediatric IBD Case Conference, 東京, 2017.12.16
 16. 清水泰岳: 「IBD-スペシャルシチュエーションにおける対処法」ワクチン接種の考え方と注意点. 日本炎症性腸疾患学会(JSIBD)教育セミナー2017, 東京, 2017.12.2
 17. 竹内一郎, 右田王介, 河合利尚, 清水泰岳, 時田万英, 田村英一郎, 小野寺雅史, 秦健一郎, 新井勝大: 小児期発症難治性クローン病として加療中に、全エクソーム解析でX I A P欠損症の診断に至った3例. 第8回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 東京, 2017.12.1
 18. 細井賢二, 工藤孝広, 新井勝大, 清水泰岳, 大塚宜一, 内田恵一, 田尻仁, 鈴木康夫, 清水俊明: 本邦における超早期発症型炎症性腸疾患の疫学的全国調査. 第8回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 東京, 2017.12.1
 19. 新井勝大: 超早期発症型炎症性腸疾患に対する生物学的製剤治療. 第44回日本小児栄養消化器肝臓学会, 福岡, 2017.10.22
 20. 内田恵一: E0IBD への外科的アプローチ. 第44回日本小児栄養消化器肝臓学会, 福岡, 2017.10.22
 21. 清水泰岳, 竹内一郎, 丘逸宏, 新井勝大: 成育医療研究センターにおける小児潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブの長期成績. 第44回日本小児栄養消化器肝臓学会, 福岡, 2017.10.22
 22. 細井賢二, 工藤孝広, 時田万英, 新井喜康, 佐藤真教, 京戸玲子, 宮田恵理, 神保圭佑, 幾瀬圭, 青柳陽, 大塚宜一, 清水俊明: 当院におけるvery early-onset IBD患者10例の検討. 第44回日本小児栄養消化器肝臓学会, 福岡, 2017.10.22
 23. 新井喜康, 工藤孝広, 青柳陽, 時田万英, 吉村良子, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 神保圭佑, 大塚宜一, 清水俊明: 当科における痔瘻を合併した小児Crohn病症例のまとめ. 第44回日本小児栄養消化器肝臓学会, 福岡, 2017.10.22
 24. 井上幹大, 内田恵一, 長野由佳, 松下耕平, 小池勇樹, 荒木俊光, 楠正人: 術後に抗TNF-抗体を使用している小児クローン病症例の検討. 第44回日本小児栄養消化器肝臓学会, 福岡, 2017.10.22
 25. 竹内一郎, 丘逸宏, 清水泰岳, 河合利尚, 小野寺雅史, 小椋雅夫, 右田王介, 秦健一郎, 新井勝大: 高安病を合併した小児期発症クローン病として加療中に前エクソーム解析でXIAP欠損症の診断に至った1男児例. 第44回日本小児栄養消化器肝臓学会, 福岡, 2017.10.21
 26. 船山理恵, 竹内一郎, 東海林宏道, 南部隆亮, 神保圭佑, 原朋子, 工藤孝広, 丘逸宏, 清水泰岳, 野村伊知郎, 山岡和枝, 清水俊明, 新井勝大: 成分栄養剤を用いた栄養管理の適正化を目指した多施設共同研究 - 乳幼児の脂溶性ビタミン欠乏の予備調査 -. 第44回日本小児栄養消化器肝臓学会, 福岡, 2017.10.21

27. 工藤孝広, 萩原真一郎, 井上幹大, 岩間達, 角田文彦, 横山孝二, 梅津守一郎, 吉年俊文, 龍城真衣子, 中山佳子, 清水俊明: 小児小腸バルーン内視鏡に関する多施設共同研究. 第44回日本小児栄養消化器肝臓学会, 福岡, 2017.10.21
28. 時田万英, 工藤孝広, 青柳陽, 吉村良子, 新井喜康, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 神保圭佑, 大塚宜一, 清水俊明: 当科における小児小腸カプセル内視鏡検査について. 第44回日本小児栄養消化器肝臓学会, 福岡, 2017.10.21
29. 福嶋健志, 倉信奈緒美, 宮原直樹, 村上潤, 田中正則, 竹内一郎, 新井勝大, 神崎晋: 診断に苦慮し、インフリキシマブが有効であった超早期発症型炎症性腸疾患の2歳例. 第44回日本小児栄養消化器肝臓学会, 福岡, 2017.10.21
30. 竹内一郎, 清水泰岳, 時田万英, 河合利尚, 田村英一郎, 小野寺雅史, 右田王介, 秦健一郎, 新井勝大: 難治性炎症性腸疾患の表現型を呈したX I A P欠損症2例. 第8回関東甲越免疫不全症研究会, 東京, 2017.9.23
31. 丘逸宏, 清水泰岳, 船山理恵, 竹内一郎, 清水俊明, 新井勝大: 小児病院における小腸カプセル内視鏡検査の後方視的検討: 1施設188件の検討. 第44回小児内視鏡研究会, 東京, 2017.7.9
32. 竹内一郎, 清水泰岳, 丘逸広, 新井勝大: インフリキシマブ導入後もステロイド依存性の難治性超早期発症型炎症性腸疾患の男児. 仙台IBD研究会, 仙台, 2017.5.20
33. 熊谷秀規ほか, 移行期小児炎症性腸疾患患者の自立支援のための手引書: 日本小児栄養消化器肝臓学会編. 第14回日本消化管学会総会学術集会. 東京. 2018年2月.
34. 竹内一郎, 清水泰岳, 時田万英, 新井勝大: 当院における小児期発症IBD患者に対する全エクソーム解析の実績. 第45回日本小児栄養消化器肝臓学会, 埼玉, 2018.10.6
35. 土田奈緒美, 宮武聡子, 桐野洋平, 石川尊士, 田村英一郎, 河合利尚, 内山徹, 新井勝大, 松本直通, 小野寺雅史: 周期性発熱およびペーチェット病症状を呈したA20ハプロ不全症. 第9回関東甲越免疫不全症研究会, 東京, 2018.9.23
36. 新井喜康, 神保圭佑, 伊藤夏希, 時田万英, 吉村良子, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 幾瀬圭, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明, 小坂征太郎, 矢崎悠汰, 越智崇徳, 山高篤行, 竹内一郎, 清水泰岳, 新井勝大: IL-10受容体異常症と診断した超早期発症型炎症性腸疾患の1乳児例. 第45回日本小児内視鏡研究会, 東京, 2018.7.7
37. 竹内一郎, 時田万英, 清水泰岳, 新井勝大: 難治性肛門病変で発症し、インフチキシマブ(IFX)導入後に、肛門機能廃絶による排便障害と、IFX効果減弱に伴う腸炎再燃と周期的発熱を呈した乳児期発症炎症性腸疾患の1女児例. 第14回仙台小児IBD研究会, 仙台, 2018.5.19
38. Usami M, Takeuchi I, Shoji H, Kudo T, Jimbo K, Nambu R, Iwama I, Hara T, Shimizu H, Shimizu T, Arai K: Evaluation of Deficient Nutrients in Infants and Toddlers Mainly Taking Amino-Acids Based Low-Fat Formula: Exploratory Study. Pediatric Gastroenterology, Hepatology & Nutrition, KTJ Meeting 2019, Seoul, Korea, 2019.10.20
39. Arai K, Sako M, Funayama R, Ishikawa Y, Shimizu H, Takeuchi I, Maekawa T, Horikawa R, Kubota M, Kubota M, Akabane M, Nakamura H: Phase Clinical Trial of Zinc Acetate Granules for Children with Hypozincemia. Pediatric Gastroenterology, Hepatology & Nutrition, KTJ Meeting 2019, Seoul, Korea, 2019.10.20

40. Arai K, Tanaka M, Shimizu H, Akemoto Y, Takeuchi I, Irie R, Yoshioka T: Impaired plasmacytosis as a characteristic histological finding of very early-onset inflammatory bowel disease. 5th INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON PAEDIATRIC INFLAMMATORY BOWEL DISEASE, Budapest, Hungary, 2019.9.12-9.13
41. 新井勝大, 村越孝次, 国崎玲子, 南部隆亮, 加藤沢子, 齋藤武, 水落建輝, 井上幹大, 熊谷秀規, 又吉慶, 石毛崇, 望月貴博, 田尻仁, 日衛嶋栄太郎, 青松友槻, 工藤孝広, 西亦繁雄, 清水泰岳, 平野友梨, 清水俊明: 日本小児炎症性腸疾患レジストリ研究 2019: 診断後3年間での治療の実態. 第19回日本小児IBD研究会, 大阪, 2019.2.3
42. 石毛崇, 村越孝次, 国崎玲子, 萩原真一郎, 清水泰岳, 齋藤武, 中山佳子, 柳忠宏, 井上幹大, 熊谷秀規, 岩間達, 望月貴博, 田尻仁, 平野友梨, 新井勝大: 小児期発症クローン病における栄養療法による維持療法の有効性・維持効果の検討 - 日本小児炎症性腸疾患レジストリ研究 2019 - . 第19回日本小児IBD研究会, 大阪, 2019.2.3
43. 竹内一朗, 河合利尚, 谷口公介, 京戸玲子, 佐藤琢郎, 清水泰岳, 右田王介, 小野寺雅史, 秦健一郎, 新井勝大: 小児希少・未診断疾患イニシアチブ(IRUD-P)による小児炎症性腸疾患患者における全エクソーム解析の成果と今後の展望. 第19回日本小児IBD研究会, 大阪, 2019.2.3
44. 竹内一朗, 吉田美智子, 清水泰岳, 京戸玲子, 佐藤琢郎, 庄司健介, 宮入烈, 新井勝大: 超早期発症型炎症性腸疾患加療中の6歳男児に生じたBCG頸部リンパ節炎の一例. 第15回日本小児消化管感染症研究会, 大阪, 2019.2.2
45. 清水泰岳, 京戸玲子, 佐藤琢郎, 竹内一朗, 今留謙一, 新井勝大: 小児期・青年期IBD患者におけるチオプリン製剤の使用について. 第15回日本消化管学会総会学術集会, 佐賀, 2019.2.2
46. 石毛崇, 村越孝次, 国崎玲子, 萩原真一郎, 清水泰岳, 齋藤武, 中山佳子, 柳忠宏, 井上幹大, 熊谷秀規, 岩間達, 望月貴博, 田尻仁, 平野友梨, 新井勝大: 日本小児炎症性腸疾患レジストリを用いた小児期発症クローン病に対する栄養療法の使用実態の解析. 第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 福岡, 2019.11.29
47. 河合利尚, 竹内一朗, 清水泰岳, 新井勝大: 慢性肉芽腫症腸炎におけるサリドマイドの治療効果と生体防御機構への影響. 第46回日本小児栄養消化器肝臓学会, 奈良, 2019.11.3
48. 石毛崇, 村越孝次, 国崎玲子, 萩原真一郎, 清水泰岳, 齋藤武, 中山佳子, 柳忠宏, 井上幹大, 熊谷秀規, 岩間達, 望月貴博, 田尻仁, 平野友梨, 新井勝大: 日本小児炎症性腸疾患レジストリを用いた小児期発症クローン病に対する栄養療法の使用実態の解析. 第46回日本小児栄養消化器肝臓学会, 奈良, 2019.11.3
49. 新井勝大, 石毛崇, 工藤孝広, 岡崎康司, 江口英孝, 神保圭佑, 竹内一朗, 西澤拓哉, 清水俊明: 超早期発症性腸疾患に対するシームレスな診断・治療・研究体制の構築研究. 第46回日本小児栄養消化器肝臓学会, 奈良, 2019.11.2
50. 京戸玲子, 清水泰岳, 竹内一朗, 平野友梨, 伊藤夏希, 宇佐美雅章, 佐藤琢郎, 清水俊明, 新井勝大: 国立成育医療研究センターにおける小児期発症炎症性腸疾患の診療経験. 第46回日本小児栄養消化器肝臓学会, 奈良, 2019.11.2
51. 伊藤夏希, 竹内一朗, 京戸玲子, 宇佐美雅章, 佐藤琢郎, 清水泰岳, 平野友梨, 清水俊明, 新井勝大: 潰瘍性大腸炎からクローン病に診断が変更となった症例の検討. 第46回日本小児栄養消化器肝臓学会, 奈良,

2019.11.2

52. 熊谷秀規, 清水俊明, 工藤孝広, 内田恵一, 国崎玲子, 杉田昭, 大塚宜一, 新井勝大, 窪田満, 田尻仁, 鈴木康夫. 小児期発症炎症性腸疾患のトランジション. 第 16 回日本消化管学会総会学術集会. 2020 年 2 月 7~9 日. 姫路.
53. 石毛崇, 村越孝次, 国崎玲子, 萩原真一郎, 清水泰岳, 齋藤武, 中山佳子, 柳忠宏, 井上幹大, 熊谷秀規, 岩間達, 望月貴博, 田尻仁, 平野友梨, 新井勝大: 日本小児 I B D レジストリ報告 2020: 小児クローン病治療の経時的変化. 第 20 回日本小児 I B D 研究会, 東京, 2020.2.2
54. 竹内一朗, 清水泰岳, 京戸玲子, 佐藤琢郎, 宇佐美雅章, 伊藤夏希, 平野友梨, 新井勝大: 小児期発症クローン病患者に対するウステキヌマブの使用経験. 第 20 回日本小児 I B D 研究会, 東京, 2020.2.2
55. 新井勝大, 田中正則, 清水泰岳, 明本由衣, 竹内一朗, 義岡孝子: 超早期発症型炎症性腸疾患の病理組織所見の検討. 第 20 回日本小児 I B D 研究会, 東京, 2020.2.2
56. 石毛崇, 新井勝大, 工藤孝広, 江口英孝, 竹内一朗, 西澤拓哉, 神保圭佑, 岡崎康司, 清水俊明: 国内における遺伝性炎症性腸疾患疑い症例の診断体制構築のための研究. 第 20 回日本小児 I B D 研究会, 東京, 2020.2.2
57. 竹内一朗, 船山理恵, 東海林宏道, 南部隆亮, 神保圭佑, 原朋子, 工藤孝広, 清水泰岳, 野村伊知郎, 岩間達, 清水俊明, 新井勝大: 成分栄養剤による栄養管理が行われている乳幼児を対象とした栄養素欠乏の探索的研究. 第 46 回日本小児栄養消化器肝臓学会, 奈良, 2019.11.2
58. 新井喜康, 久保圭佑, 伊藤夏希, 時田万英, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 細井賢二, 工藤孝広, 大塚宜一, 小坂征太郎, 矢崎悠汰, 越智崇徳, 山高篤行, 竹内一朗, 清水泰岳, 新井勝大, 吉村聡, 加藤元博, 清水俊明: IL-

10 受容体異常による超早期発症型炎症性腸疾患と診断した 1 乳児例. 第 122 回日本小児科学会学術集会, 金沢, 2019.4.20

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
該当なし。
2. 実用新案登録
該当なし。
3. その他
該当なし。

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究

総合研究報告書（平成 29 年度～令和元年度）

炎症性腸疾患患者の特殊型への対策

研究分担者 穂苅量太 防衛医科大学校内科学 教授

研究要旨：

研究要旨：本プロジェクトでは、1) 小児 IBD 2) 妊娠者 IBD 3) 高齢者 IBD それぞれの特殊性を明らかにし、各々の診断、治療法の確立を目指した。1) 小児 IBD については清水俊明教授（順天堂大学医学部小児科）が総括した。2) 妊娠者は IBD 合併妊娠の前向き観察研究を実施し妊娠者のアドヒアランス不良が妊娠中の疾患活動性を悪化させることと深く相関することを見出した。3) 高齢者 IBD については治療指針・ガイドライン改定プロジェクトと共同し、高齢者潰瘍性大腸炎治療指針が完成した。同成果は英文論文化し、長寿国日本ならではの研究として世界へ発信した。また、高齢者潰瘍性大腸炎への治療法として白血球除去療法の有用性を後ろ向き観察研究として実施し、安全性と効果につき論文化した。最後に、75 歳以上の超高齢者 IBD の臨床的特徴を明らかにした。

共同研究者

清水俊明（順天堂大学医学部小児科）
新井勝大（国立成育医療研究センター）
大塚宜一（順天堂大学医学部小児科）
国崎玲子（横浜市立大学附属市民総合医療センター IBD センター）
田尻仁（大阪府立急性期・総合医療センター） 角田彦彦（宮城県立こども病院総合診療科・消化器科）
萩原真一郎（埼玉県立小児医療センター総合診療科）
柳忠宏（久留米大学小児科）
石毛崇（群馬大学小児科）
加藤沢子（信州大学小児科）
齋藤武（千葉大学小児外科）
井上幹大（三重大学大学院消化管・小児外科）
青松友規（大阪医科大学小児科）
清水泰岳（国立成育医療研究センター消化器科） 藤原武男（東京医科歯科大学国際健康推進医学分野）
友政 剛（パルこどもクリニック院長）

山田寛之（大阪府立母子センター消化器内分泌科）
余田 篤（大阪医科大学泌尿生殖発達医学講座小児科）
牛島高介（久留米大学医療センター小児科）
永田 智（東京女子医科大学小児科）
内田恵一（三重大学医学部小児外科）
竹内一夫（埼玉大学教育学部学校保健学講座）
渡辺知佳子（防衛医科大学校内科）
高本俊介（防衛医科大学校内科）
東山正明（防衛医科大学校内科）
三浦総一郎（防衛医科大学校）
本谷聡（札幌厚生病院 IBD センター）
田中浩紀（札幌厚生病院 IBD センター）
松本主之（岩手医科大学 内科学講座 消化器内科消化管分野）
長堀正和（東京医科歯科大学消化器内科）
渡辺守（東京医科歯科大学消化器内科）
長沼誠（慶應義塾大学医学部消化器内科）
金井隆典（慶應義塾大学医学部消化器内科）
杉田昭（横浜市立市民病院 炎症性腸疾患センター）

国崎玲子（横浜市立大学附属市民総合医療センター）
 飯塚文瑛（東京女子医科大学 IBD センター（消化器内科）
 仲瀬裕志（京都大学消化器内科）
 山上博一（金沢医療センター 消化器内科）
 渡辺憲治（大阪市立大学 消化器内科）
 中村志郎（兵庫医科大学 内科学下部消化管科）
 石原俊治（島根医科大学 消化器内科）
 江崎 幹宏（九州大学病院 病態機能内科・消化器内科）
 松井敏幸（福岡大学筑紫病院 消化器内科）
 加藤真吾（埼玉医科大学総合医療センター消化器内科）
 飯塚正弘（秋田赤十字病院消化器内科）
 小金井一隆（横浜市立市民病院 炎症性腸疾患センター）
 内野 基 兵庫医科大学 炎症性腸疾患外科
 大森鉄平 東京女子医科大学消化器内科
 高木智久 京都府立医科大学大学院医学研究科
 松本吏弘 さいたま医療センター 消化器内科
 長坂光夫 藤田保健衛生大学消化管内科
 佐上晋太郎 北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター
 北村和哉 金沢大学附属病院 消化器内科
 桂田武彦 北海道大学消化器内科
 杉本 健 浜松医科大学第一内科・消化器内科
 高津典孝 福岡大学筑紫病院消化器内科
 猿田雅之 東京慈恵会医科大学 内科学講座 消化器・肝臓内科
 櫻井俊之 東京慈恵会医科大学 内科学講座 消化器・肝臓内科
 渡辺和宏 東北大学消化器外科

A. 研究目的

2) 妊娠中の IBD 患者の内服薬については国内添付文書には、多くの薬剤は「有益と判断した場合のみ」、一部の薬剤は「使用禁忌」とされており、一般医や患者への説明不足などから、服薬アドヒアランスの低下を招き、

妊娠中の疾患活動性の悪化の一因となっている可能性がある。妊娠検討段階から服薬状況と症状を正確に把握する前向き観察型の研究を行い、炎症性腸疾患の活動性と妊娠転帰について、日本人における炎症性腸疾患合併出産の現状を正確に把握し、安全性や啓蒙活動に役立つ結果を発信することを目的とする。

3) 高齢者の潰瘍性大腸炎患者が増加している。高齢者は免疫力の低下、臨床症状の乏しさ、ポリファーマシー、担癌患者、血栓傾向など若齢者とは異なる治療方針が必要と考えられ、独立した治療指針を策定することとした。

B. 研究方法

2) 臨床データは医師に調査し、アドヒアランスは医師に分からない様に秘匿化して直接妊娠患者にアンケート調査を実施した。疾患活動性、妊娠転帰と相関を調査した。

3) 臨床上問題となる question を総論 10 個、内科系 7 個、外科系 5 個作成した。それぞれにつき、キーワードサーチ+ハンドサーチで論文を選出し、作成メンバーで要約となる短い回答と、解説を作成した。メンバー間で討議、改正を行った。中村史郎先生の治療指針作成メンバーからなる評価者に評価していただき、さらに改正した。最終的に平成 30 年第二回総会で発表し、パブリックコメントを頂き、最終案とした。

（倫理面への配慮）

妊娠者 IBD 研究は倫理委員会の承認のもと実施。高齢者後ろ向き研究は、対応表のない匿名化されたデータを使用して実施した。

C. 研究結果

2) 服薬アドヒアランスの変化は、メサラジン製剤・免疫調節薬・栄養療法で顕著で、ステロイド剤は妊娠期間つねに > 80% を良好だった。メサラジン製剤・免疫調節薬は、とく

に妊娠初期（判明時）に服薬率が低下し、潰瘍性大腸炎患者のメサラジン製剤でその傾向が著明だった（約50%）。その理由はおもに、腹部症状が落ち着いていたことと、服薬に対する不安感による意図的な服薬率の低下であった。また、妊娠後初回の消化器内科受診時の服薬指導によりその後、服薬率は著しく回復した。

3)平成30年度潰瘍性大腸炎治療指針 supplement 高齢者潰瘍性大腸炎編 を作成し、印刷物を作成した。さらにホームページにアップし、医療関係者へ役立つようにした。

D. 考察

2)通常は服薬アドヒアランスが良好な患者において、妊娠判明から判明後初めて外来を受診するまでのあいだに、服薬に対する不安からアドヒアランスが低下することが判明した。またアドヒアランスの低下は服薬指導により著明に改善するため、炎症性腸疾患の活動性が重症再燃につながることはなく、妊娠転帰への影響はないものの、腹部症状・血便や便回数の悪化など炎症性腸疾患の活動性の悪化に関与している可能性が示唆された。

3)高齢発症潰瘍性大腸炎は自然史、経過、病型が異なること、治療による副作用が多いことが明らかになり、若齢発症者と異なる治療法が必要なことを明らかにした。

E. 結論

2)炎症性腸疾患合併妊娠において、服薬アドヒアランスの低下は、妊娠中の炎症性腸疾患の活動性の悪化に、妊娠転帰の悪化に関与している可能性が示唆され、主治医が認識していないことも明らかになった。これを是正することで妊娠転帰の改善が期待される。

3)平成30年度潰瘍性大腸炎治療指針 supplement 高齢者潰瘍性大腸炎編 を作成したことで、本邦の高齢者潰瘍性大腸炎の治療成績が向上することが期待される。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Ito S, Higashiyama M, Horiuchi K, Mizoguchi A, Soga S, et al. Atypical Clinical Presentation of Crohn's Disease with Superior Mesenteric Vein Obstruction and Protein-losing Enteropathy. *J Intern Med.* 2019 Feb 1;58(3):369-374

Higashiyama M, Sugita A, Koganei K, Wanatabe K, et al. Management of elderly ulcerative colitis in Japan. *J Gastroenterol.* 2019 Oct;54(10):936-937

Hanawa Y, Higashiyama M, Horiuchi K, et al. Crohn's Disease Accompanied with Small Intestinal Extramedullary Plasmacytoma. *Intern Med.* 2019 Jul 15;58(14):2019-2023.

Komoto S, Higashiyama M, Watanabe C, et al. Clinical differences between elderly-onset ulcerative colitis and non-elderly-onset ulcerative colitis: A nationwide survey data in Japan. *J Gastroenterol Hepatol.* 2018 Nov;33(11):1839-1843.

Komoto S, Matsuoka K, Kobayashi T, et al. Safety and efficacy of

leukocytapheresis in elderly patients with ulcerative colitis: The impact in steroid-free elderly patients. J Gastroenterol Hepatol. 2018 Aug;33(8):1485-1491.

2.学会発表

Chikako Watanabe, Motohiro Esaki, Kenji Watanabe et al. Non-Adherence to Maintenance Medications is Common in Pregnant Ulcerative Colitis Patients and Contribute to Disease Flares and Adverse Pregnancy Outcomes-A Multicenter Prospective Study Digestive Disease Week 2019 San Diego USA May

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

腸内細菌の関与の追究と治療応用

研究分担者 安藤 朗 滋賀医科大学消化器内科 教授

研究要旨：炎症性腸疾患患者の腸内微生物叢の変化を明らかにし、新たな治療法の開発に結びつけることを目的とした。大腸内視鏡下に挿入したブラシ付き鉗子を用いて大腸粘膜に定着している粘膜関連細菌叢を次世代シーケンサーを用いて解析する方法を開発した。その結果、炎症性腸疾患、特にクローン病で粘膜関連細菌叢に有意な変化（多様性の低下、酪酸産生菌の減少）が起きていることが明らかになった。また、クローン病では便中に存在する真菌叢にも変化が起こり、細菌と真菌の炎症性腸疾患における変化には相関があることが明らかとなった。

共同研究者

井上 亮（京都府立大学 動物機能学研究室）

内藤 裕二（京都府立医科大学消化器内科）

A. 研究目的

炎症性腸疾患患者の腸内微生物叢の変化を明らかにし新たな治療法の開発に結びつける。

B. 研究方法

大腸内視鏡を通してブラシ付き鉗子を挿入し、大腸粘膜表面を出血しないように擦過し粘液を得た。この粘液より得た DNA を用いて 16S rDNA を増幅し次世代シーケンサーで解析した。また、患者糞便より得た DNA サンプルを用いて真菌の ITS 領域を増幅、次世代シーケンサーで解析した。

（倫理面への配慮）

滋賀医科大学倫理委員会の承認のもと、患者個人から直接同意書を得たうえで研究に当たった。

C. 研究結果

1. IBD 患者の粘膜関連細菌叢解析の結果、クロ

ン病で統計学的に有意な多様性、多様性の変化が認められた。多様性の変化は、さまざまな酪酸高産生菌の低下とプロテオバクテリア（大腸菌など）の増加に特徴づけられた。

2. 便中真菌叢の比較では、クローン病で統計学的に有意な真菌叢の変化が認められ、この変化は特定の真菌と細菌の相関を持った変化に特徴づけられていた。

D. 考察

健常人と比較して、IBD 特にクローン病では粘膜関連細菌叢および便中真菌叢に統計学的に有意な変化が認められた。特定の細菌と真菌に有意な相関が認められ、IBD の大腸では細菌、真菌を含めた微生物叢としての変化が生じ病態形成に関与している可能性が示唆された。

E. 結論

IBD では細菌、真菌を含めた微生物叢全体の dysbiosis が生じている。

F. 研究発表

1. 論文発表

- (1) Ng SC, Andoh A et al. Scientific frontiers in faecal microbiota transplantation: joint document of Asia-Pacific Association of Gastroenterology (APAGE) and Asia-Pacific Society for Digestive Endoscopy (APSDE). Gut 69: 83-91, 2020.
- (2) Morita Y, Andoh A et al. Clinical relevance of innovative immunoassays for serum ustekinumab and anti-ustekinumab antibody levels in Crohn's disease. J Gastroenterol Hepatol (in press).
- (3) Tastumi G, Andoh A et al. Thiopurine-mediated impairment of hematopoietic stem and leukemia cells in Nudt15R138C knock-in mice. Leukemia 34:882-894, 2020.
- (4) Nishino K, Andoh A et al. Analysis of endoscopic brush samples identified mucosa-associated dysbiosis in inflammatory bowel disease. J Gastroenterol. J Gastroenterol. 53:95-106, 2018.
- (5) Imai T, Andoh A et al. Characterization of fungal dysbiosis in Japanese patients with inflammatory bowel disease. J Gastroenterol. 54:149-159, 2019.

2. 学会発表

- (1) 高橋憲一郎; 馬場重樹 (滋医大・栄); 村田雅樹、西田淳史、稲富理; 佐々木雅也 (同・栄); 杉本光繁 (同・光診); 安藤 朗 当院クローン病患者の粘膜治癒達成と長期経過 第 105 回 日本消化器病学会総会 (金沢) 令和 1 年 5 月 9 日

- (2) 杉谷義彦 (滋医大・消内 / 草津総合病院・消内); 西田淳史、森田康大、米倉伸彦、今井隆行、酒井滋企、西野恭平、大野将司、稲富理; 馬場重樹 (滋医大・栄); 杉本光繁 (同・光診); 安藤 朗 プレナリーセッション「IBD」炎症性腸疾患におけるプロスタシン (PRSS8) の機能解析 第 105 回 日本消化器病学会総会 (金沢) 令和 1 年 5 月 11 日
- (3) 安藤 朗 ポストグラデュエイトコース I 基礎研究 炎症性腸疾患の病態と腸内細菌の関わり 第 105 回 日本消化器病学会総会 (金沢) 令和 1 年 5 月 11 日
- (4) 高橋憲一郎; 馬場重樹 (滋医大・栄); 村田雅樹、大野将司、杉本光繁; 佐々木雅也 (同・栄); 辻川知之 (東近江総医セ); 安藤 朗 クローン病患者の粘膜治癒の臨床的意義について 第 57 回 日本小腸学会学術集会 (大阪) 令和 1 年 11 月 9 日
- (5) 大野将司 (滋医大・消内 / ミシガン大・病理); 安藤 朗; 猪原直弘 (ミシガン大・病理) 遺伝子組み換え大腸菌のプロバイオティクスへの応用 第 10 回 日本炎症性腸疾患学会学術集会 (福岡) 令和 1 年 11 月 29 日

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

希少疾患プロジェクト：総括

研究分担者 松本主之 岩手医科大学消化器内科消化管分野 教授

研究要旨：希少疾患プロジェクトでは、2017 年から 2019 年の 3 年間を通じて、非特異性多発性小腸潰瘍症（CEAS）、家族性地中海熱（FMF）関連消化管病変、腸管ベーチェット病（BD）、クロンクハイト・カナダ症候群（CCS）の 4 疾患について症例を集積し、診断基準確定・改訂、診療ガイドラインと診断アトラス作成を行った。CEAS のアトラス作成・診断基準改訂、および BD の診療ガイドラインは完成型を提示することができた。FMF は順調に症例の集積が進行しており、遺伝子型と臨床徴候の関係が明らかとなりつつある。CCS に関しては、画像診断と治療を網羅したアトラスの草案が作成されている。以上のように、炎症性腸疾患の鑑別疾患としての上記希少疾患について最も信頼できるエビデンスを創出できたと考える。

共同研究者

久松理一（杏林大学消化器内科）

仲瀬裕志（札幌医科大学消化器内科）

穂苅量太（防衛医科大学校消化器内科）

渡辺憲治（兵庫医科大学腸管病態解析学）

梅野淳嗣（九州大学病態機能内科学）

A. 研究目的

炎症性腸疾患の鑑別疾患は多岐に亘っている。なかでも、希少疾患とされてきた腸管ベーチェット病（BD）と非特異性多発性小腸潰瘍症は、本邦と東アジアで有病率が高いとされている。また、前者は単一遺伝子疾患であることが明らかとなり、chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene（CEAS）と呼称されるようになった。一方、2012 年以降、遺伝性疾患である家族性地中海熱（FMF）の消化管病変が潰瘍性大腸炎やクローン病に酷似することが報告され、注目されている。さらに、クロンクハイト・カナダ症候群（CCS）の主たる病態は、消化管の広範囲におよぶ原因不明の炎症と考えられている。そこで、本研究班では 2017 年

から 2019 年に上記疾患について症例集積や診療ガイドライン作成を行い、希少疾患の広報活動を重なった。

B. 研究方法

1．CEAS：梅野を中心として、全国多施設の CEAS 症例を集積し、SLC02A1 遺伝子解析結果と臨床像を対比した。これらのデータを元に、また、細江は CEAS の上部消化管病変に関する多施設研究を開始した。

2．FMF：仲瀬を中心に、全国多施設の症例を集積し、MEFV 遺伝子解析結果と臨床像を比較した。これらを元に診断基準と内視鏡アトラスの作成に向けた班会議を開催した。

3．BD：久松が 11 名よりなる腸管病変分科会を組織し、厚生労働省難治性疾患政策研究事業「ベーチェット病に関する調査」（水木班）と合同ガイドラインの最終版を確定した。

4．CCS：穂苅を中心に、全国の症例登録データベースの解析結果を元に疾患アトラス作成作業を開始した。症例数の多い全国多施設からメンバーが参集し、疾患概要の解説についてコ

ンセンサスミーティングを行った。

FMF と CEAS に関しては、遺伝子解析を含めて各施設の IRB の承認を得て行なったものであり、倫理的に問題ないとする。

C. 研究結果

本稿では、本研究班で実際の症例を集積した CEAS と FMF について研究結果を報告する。

1. CEAS : 61 例の CEAS 症例 (男性 21 例 , 女性 40 例) が集積され , 14 種類の *SLC02A1* の病的バリエーションが確認された . 発症時年齢の中央値は 18.5 歳 (1-69 歳) であり , 血族結婚は 26% に認められた . 貧血はほぼ全例にみられたが , 肉眼的血便を認めたのは 2 例のみであった . 33 例 (54%) において小腸切除など外科的手術が施行されていた . ほぼ全例で終末回腸を除く回腸に潰瘍性病変がみられ , 44% に十二指腸病変が見られた . 消化管外徴候として , ばち指を 16 例 (26%) , 骨膜炎を 15/59 例 (25%) , 皮膚肥厚所見を 13 例 (21%) に認めた . 臨床徴候を性別に分け比較したところ , 胃病変は女性に多くみられ , ばち指 , 骨膜炎および皮膚肥厚性変化は男性において有意に多くみられた .

2. 74 例の MEFV 遺伝子の病的バリエーション陽性症例が集積された . 診断時の平均年齢は 38 歳、男女比は 2 : 3 であり、FMF 典型例は約 30% . 残りの約 70% は非典型例、あるいは FMF 症状を有さない症例であった . 全消化管に消化管病変が存在し、中でも、空腸 (約 60%) や大腸 (約 80%) に病変が多く認められた . 上部消化管 (食道・胃・十二指腸) にはアフタ、びらんが 23%、潰瘍性病変は 14% に認められ、小腸病変の頻度は、それぞれ約 32% であった . なお縦走潰瘍は約 8% に認められた . 大腸では 71% に潰瘍性大腸炎様の全周性粘膜所見がみられたが、直腸非罹患例が多かった . 加えて、大腸では偽ポリポーシスないし縦走潰瘍病変 (14%) 狭窄例 (10%) も認められた . 以上のように

D. 考察

従来、希少と考えられてきた CEAS は単一遺伝子疾患であることが判明している . 本研究の結果から、従来の臨床診断基準に従って症例を抽出し、遺伝子診断を行うことが妥当と考えられた . そこで、*SLC02A1* に加えて欧米で小腸潰瘍症の原因として単離されている *cPLA2a* を非特異性多発性小腸潰瘍症の診断基準に追記し、令和元年度研究報告書に報告した .

一方、FMF の消化管病変については未だ症例報告をみるのみであり、系統的な解析はない . MEFV 遺伝子変異陽性例を対象とした本研究の結果から、本症の消化管病変として、潰瘍性大腸炎に酷似した大腸病変と、クローン病に類似した空腸の小病変が特徴的と考えられた . また、典型的な FMF の臨床像に欠如する症例が多いことから、これらの腸病変を「MEFV 遺伝子関連腸炎」と呼称することが妥当と考えられた .

E. 結論

炎症性腸疾患の鑑別疾患として、BD に加えて CEAS、MEFV 遺伝子関連腸炎、および CCS は常に留意すべき疾患である .

F. 健康危険情報

特記事項なし .

G. 研究発表

1. Umeno J, et al. Clinical features of chronic enteropathy associated with *SLC02A1* gene: a new entity clinically distinct from Crohn's disease. *J Gastroenterol.* 2018 Aug;53(8):907-915

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし .
2. 実用新案登録
なし .
3. その他

特記事項なし。

IBD の遺伝子解析プロジェクト：総括

研究分担者 松本主之 岩手医科大学消化器内科消化管分野 教授

研究要旨：IBD の遺伝子解析プロジェクトでは、腸管パーチェット病のゲノムワイド関連研究と NUDT15 遺伝子解析プロジェクトの進捗状況を確認した。腸管パーチェット病に関しては今後厚生労働省難治性疾患政策研究事業「パーチェット病に関する調査」との共同研究を推進する必要がある。一方、NUDT15 遺伝子解析プロジェクトで本邦炎症性腸疾患患者の NUDT15 変異の現状が明らかとなり、遺伝子変異が IBD の診療に臨床応用されるに至った。

共同研究者

角田洋一（東北大学病院消化器内科）

梅野淳嗣（九州大学病態機能内科学）

高川哲也（兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座内科部門）

A. 研究目的

2017 年から 2019 年の IBD の遺伝子解析プロジェクトは、希少疾患プロジェクトとともに、いわゆる monogenic IBD の成人型である非特異性多発性小腸潰瘍症および家族性地中海熱について、遺伝子型と臨床徴候の関係を検討した。これらの研究に関しては、「希少疾患プロジェクト」の項をご参照頂きたい。一方、チオプリン代謝と副作用発現に關与する *NUDT15* の解析（MENDEL）と腸管パーチェット病（BD）の遺伝子解析立ち上げを行った。MENDEL の目的は、本邦における *NUDT15* リスクアレルの頻度と遺伝子型別のチオプリンの有害事象を知ることである。

B. 研究方法

1. BD：BD の疾患感受性遺伝子は、HLA 領域に集積することが知られているものの、腸管 BD については不明の点が多い。そこで、冬野ら

が、全国多施設を対象とした BD のゲノムワイド関連研究のプロトコルを報告し、それに対して具体的研究方法を検討した。

2. *NUDT15*：角田らが 2015 年より本研究班で開始した本邦炎症性腸疾患患者における *NUDT15* 変異の解析（MENDEL）を実施した。対象は、東北大学で既収集の IBD255 例、および本研究班で新たに集取された IBD2627 例のゲノムであり、*NUDT15* コドン 139 のバリアオンとチオプリンの副作用の關係、*NUDT15* はプロタイプと脱毛・白血球減少の關係、脱毛・白血球減少に關与する GWAS 解析、*NUDT15* コドン 139 のジェノタイプピングを行った。

いずれの研究も、研究参加施設の倫理審査を受けて施行したものである。

C. 研究結果

1. BD：現在、本邦の複数施設で倫理審査を通過し、症例を集積中である。今後、研究参加施設を増やすとともに、厚生労働省なん知性疾患政策研究事業「パーチェット病に関する調査研究班」と連携しながら非腸管型 BD を対照とした研究を推進することとした。

2. *NUDT15*：本邦 IBD では、*NUDT15* コドン 139 は Arg/Arg (WT) が 80%、Arg/Cys (hetero)

が20%、Cys/Cys (homo) が1%の割合で存在した。また、白血球減少と脱毛に關与する他の遺伝子座は存在しなかったが、本邦 IBD では NUDT コドン 15 およびその他の領域には希なバリエーションやハプロタイプが存在することが示された。ただし、これらのバリエーションでチオプリンに關与するものはなかった。一方、NUDTArg139/Cys は、脱毛と白血球減少のみならず、有害事象としての消化器症状と關係する可能性が示された。

D. 考察

BD に関しては、今後症例の集積が重要と考えられる。一方、MENDEL study の成果により、2019 年 2 月に IBD 患者における NUDT15 コドン 139 の遺伝子検査の保険承認と薬価収載に至った。ヘテロ変異例におけるチオプリンの至適投与法の確立、NUDT15 からみた妊婦におけるチオプリンの投薬管理指針などを確立する必要がある。

E. 結論

BD の遺伝子解析を開始した。また NUDT15 変異とチオプリンによる有害事象の關係を証明した。

F. 健康危険情報

NUDT15 コドン 139 のホモ変異症例に対するチオプリン製剤の投与は禁忌である。

G. 研究発表

1. Kakuta Y, et al. NUDT15 codon 139 is the best pharmacogenetic marker for predicting thiopurine-induced severe adverse events in Japanese patients with inflammatory bowel disease: a multicenter study. J Gastroenterol. J Gastroenterol. 2018 Sep;53(9):1065-1078

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
本研究班としての登録はなし。
3. その他
特記事項なし。

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究

総合研究報告書（平成 29 年度～令和元年度）

バイオマーカーと創薬に関するプロジェクト 総括

研究分担者 金井隆典 慶應義塾大学医学部消化器内科 教授

研究要旨：研究要旨：AMED/厚生労働省科学研究 個別研究班の中で、炎症性腸疾患に関する研究について、難治性炎症性腸管障害に関する調査研究（鈴木班）と連携し、成果の共有を行うことにより相補相互的な研究開発の推進を行うことを本プロジェクトの目的としている。平成 29 年から令和 1 年度は 8 つの研究班の進捗状況が発表された

共同研究者

長沼誠、筋野智久、吉松祐介、杉本真也、中本伸宏、片岡雅晴（慶應義塾大学）、岡本隆一、渡辺守（東京医科歯科大学）、猿田雅之（慈恵会医科大学）、藤谷幹浩（旭川医科大学）研究科消化器内科学）、桂田武彦（北海道大学）、北村和雄（宮崎大学）、仲哲治（高知大学医学部臨床免疫学講座）、吉岡慎一郎（久留米大・消化器内科）、飯塚政弘（秋田赤十字病院 消化器内科）、鈴木康夫（東邦大学医療センター佐倉病院・消化器内科）

A. 研究目的

AMED/厚生労働省科学研究 個別研究班の中で、炎症性腸疾患に関する研究について、難治性炎症性腸管障害に関する調査研究（鈴木班）と連携し、成果の共有を行うことにより相補相互的な研究開発の推進を行うことを本プロジェクトの目的とする。

B. 研究方法

各研究班の進捗状況や成果について年 2 回の班会議において報告をする。各研究において、患者ルクルートが必要な場合は、班長の承認を得て、班会議分担研究者、協力者に依頼を行う。

（倫理面への配慮）

各研究については各施設の IRB や倫理委員会において承認が得られている。

C. 研究結果

平成 29 年から令和 1 年度においては以下の 13 の研究班より、進捗状況・成果が報告された。

「抗菌薬 3 剤併用による難治性潰瘍性大腸炎の治療」

「難治性炎症性腸疾患を対象としたアドレノメデュリン製剤による医師主導治験の実施」

「炎症性腸疾患における食関連リスク因子に関する研究」

「乳酸菌由来分子を用いた新規炎症性腸疾患治療薬の開発」

「青黛の作用メカニズムの解明

青黛に合併する肺高血圧症の病態探索研究

潰瘍性大腸炎患者に対する青黛治療の有害事象実態調査と機序解明

潰瘍性大腸炎患者に対する青黛治療の有害事象実態調査

腸管上皮再生作用を特長とする『インジゴ潰瘍性大腸炎カプセル』の治験開始に向けた開発研究」

「新たな炎症性腸疾患活動性マーカーとしての LRG の実用化について」

「UC を合併した PSC の病態に寄与する腸内細菌叢の探索」

「新規クローン病バイオマーカーACP353 の成人及び小児腸疾患での測定：多施設共同研究

「潰瘍性大腸炎に対する血球成分除去療法の治療効果予測因子としての温感の意義とそのメカニズムとしての皮膚血流量の解析」

「創薬を目指したクローン病を対象とした ガラクシドセラミド類縁物 OCH の臨床第 I/II 相試験」

「潰瘍性大腸炎に対する便中バイオマーカーの内視鏡的寛解および予後予測に対する診断能を検証する多施設共同試験」

「培養腸上皮幹細胞を用いた炎症性腸疾患に対する再生医療の開発」

「乳酸菌由来長鎖ポリリン酸を用いた新規炎症性腸疾患治療薬の開発」

D. 考察

研究班により進捗状況が異なるため、成果の状況により適切な時期に班会議で報告することが好ましいと考えられた。また今後、多施設共同で試験・治験を行う際や成果を診断・治療指針への反映させる場合に班会議のサポートが必要であると考えられる。

E. 結論

3年間にわたりAMED/厚生労働省科学研究個別研究班の中で、多くの炎症性腸疾患に関する研究について、鈴木班にて報告された。実際にLRGについて実用化されており、次年度以降も密に連携をとり、相補相互的な研究開発の推進を行う予定である。

F. 健康危険情報

各個研究の報告書を参照

G. 研究発表

1. 論文発表

Fukuda T, Naganuma M, Kanai T. Current new challenges in the management of ulcerative colitis. *IntestRes*.17(1)36-44 2019

Nakamoto N, Sasaki N, Aoki R, Miyamoto K, Suda W, Teratani T, Suzuki T, Koda Y, Chu PS, Taniki N, Yamaguchi A, Kanamori M, Kamada N, Hattori M, Ashida H, Sakamoto M, Atarashi K, Narushima S, Yoshimura A, Honda K, Sato T, Kanai T. Gut pathobionts underlie intestinal barrier dysfunction and liver T helper 17 cell immune response in primary sclerosing cholangitis. *Nat Microbiol* 101038/s41564-018-0333-1 2019

Matsuoka K, Hamada S, Shimizu M, Nanki K, Mizuno S, Kiyohara H, Arai M, Sugimoto S, Iwao Y, Ogata H, Hisamatsu T, Naganuma M, Kanai T, Mochizuki M, Hashiguchi M. Factors predicting the therapeutic response to infliximab during maintenance therapy in Japanese patients with Crohn's disease. *PLoS One* 13(10)e0204632 2018

Hisamatsu T, Kunisaki R, Nakamura S, Tsujikawa T, Hirai F, Nakase H, Watanabe K, Yokoyama K, Nagahori M, Kanai T, Naganuma M, Michimae H, Andoh A, Yamada A, Yokoyama T, Kamata N, Tanaka S, Suzuki Y, Hibi T, Watanabe M; CERISIER Trial group Effect of elemental diet combined with infliximab dose escalation in patients with Crohn's disease with loss of response to infliximab: CERISIER trial. *Intest Res* 16(3) 494-498 2018

Mizuno S, Nanki K, Kanai T. [Future perspectives on fecal microbiota

transplantation] Nihon Shokakibyō Gakkai
Zasshi 115(5) 449-459 2018

Sugimoto S, Naganuma M, Iwao Y, Matsuoka
K, Shimoda M, Mikami S, Mizuno S, Nakazato
Y, Nanki K, Inoue N, Ogata H, Kanai T.
Endoscopic morphologic features of
ulcerative colitis-associated dysplasia
classified according to the SCENIC
consensus statement Gastrointest
Endosc 0016- 5107(16)30751-9 2017

Naganuma M, Yahagi N, Bessho R, Ohno K,
Arai M, Mutaguchi M, Mizuno S, Fujimoto A,
Uraoka T, Shimoda M, Hosoe N, Ogata H,
Kanai T. Evaluation of the severity of
ulcerative colitis using endoscopic dual
red imaging targeting deep vessels Endosc
Int Open 5(1)E76-E82 2017

Hayashi A, Mikami Y, Miyamoto K, Kamada
N, Sato T, Mizuno S, Naganuma M, Teratani
T, Aoki R, Fukuda S, Suda W, Hattori M,
Amagai M, Ohyama M, Kanai T Intestinal
Dysbiosis and Biotin Deprivation Induce
Alopecia through Overgrowth of
actobacillus murinus in Mice Cell Rep
20(7) 1513-1524 2017

Fukuda T, Naganuma M, Sugimoto S, Nanki
K, Mizuno S, Mutaguchi M, Nakazato Y,
Inoue N, Ogata H, Iwao Y, Kanai T The
risk factor of clinical relapse in
ulcerative colitis patients with low dose
5-aminosalicylic acid as maintenance
therapy: A report from the IBD registry
PLoS One 12(11)e0187737 2017

Kinoshita S, Uraoka T, Nishizawa T,
Naganuma M, Iwao Y, Ochiai Y, Fujimoto A,
Goto O, Shimoda M, Ogata H, Kanai T,
Yahagi N The role of colorectal
endoscopic submucosal dissection in
patients with ulcerative colitis
Gastrointest Endosc S0016-5107(17) 32434-

3 2017

2.学会発表

金井隆典 『食と免疫 潰瘍性大腸炎への
応用』JDDW2019：神戸 2019年11月22日
仲哲治, 新崎信一郎, 松岡克善, 水野慎大,
飯島英樹, 金井隆典, 松本主之 『免疫疾患:消
化器を症状にする疾患 炎症性腸疾患におけ
る疾患活動性マーカーとしてのLRGの意義』
第47回日本臨床免疫学会総会：札幌 2019年
10月17日

三上洋平、林 篤史、宮本健太郎、鎌田信
彦、佐藤俊朗、水野慎大、長沼 誠、寺谷俊
昭、青木 亮、福田真嗣、須田 互、服部正
平、天谷雅行、大山 学、金井隆典 『腸内細
菌叢の異常により引き起こされるピオチン代
謝異常および腸管外病変の検討』第39回日本
炎症・再生医学会 炎症と再生の融合：東
京 2018年7月11日

中本伸宏、谷木信仁、金井隆典 『ヒトフロー
ラ化マウスを用いた原発性硬化性胆管炎病態
に寄与する腸内細菌と肝臓内免疫応答の相互
作用の解明』第104回日本消化器病学会総
会：東京 2018年4月20日

福田知広、長沼誠、金井隆典 『潰瘍性大腸炎
の治療効果予測に内視鏡所見は有用か?』第
93回日本消化器内視鏡学会総会：大阪 2017
年5月12日

大野 恵子、水野 慎大、金井 隆典 『潰瘍性大
腸炎の再燃予測因子としての腸内細菌叢解析
の有用性の検討』第103回日本消化器病学会
総会：東京 2017年4月20日

中里 圭宏、長沼 誠、金井 隆典 『エンドサイ
トスコピーを用いた潰瘍性大腸炎内視鏡的寛
解例の組織学的活動性評価』第103回日本消
化器病学会総会：東京 2017年4月20日

水野 慎大、長沼 誠、金井 隆典 『クローン病
の腸管切除後の生物学的製剤導入時期の検
討』第103回日本消化器病学会総会：東京
2017年4月20日

福田知広、長沼 誠、水野慎大、南木康作、

中里圭宏，緒方晴彦，岩男 泰，金井隆典
『ステロイド使用歴のある潰瘍性大腸炎患者
は低用量 5ASA 製剤で再燃しやすい』第 103
回日本消化器病学会総会：東京 2017 年 4 月
20 日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

- 1 . 特許取得 無
- 2 . 実用新案登録 無
- 3 . その他 無

研究成果の刊行に関する一覧表(書籍)

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
鈴木康夫	1.潰瘍性大腸炎	水澤英洋/五十嵐 隆/北川泰久/高橋和久/弓倉 整	指定難病ペディア 2019	日本医師会	東京	222-2223	2019
山田哲弘、松岡克善、鈴木康夫	炎症性腸疾患の内科治療 抗 TNF- 抗体製剤-ゴリムマブ	監修：鈴木康夫	【臨牀日本消化器内科 6月増刊号】 炎症性腸疾患診療の update-診断・治療の最新知見	日本メディカルセンター	東京	142-145	2019
山田哲弘、竹内 健、鈴木康夫	第6章 症例から学ぶ 症例 5 1) 診断に関する症例 食道気管支	監修：鈴木康夫、編集：飯塚文瑛、田中正則、松田隆秀	腸管ペーチェット病のすべてがわかる：診療ハンドブック	先端医学社	東京	155-156	2018
山田哲弘、竹内 健、鈴木康夫	第6章 症例から学ぶ 症例4 1) 診断に関する症例 食道穿孔を認めた腸管ペーチェット病(不全型)の1例	監修：鈴木康夫、編集：飯塚文瑛、田中正則、松田隆秀	腸管ペーチェット病のすべてがわかる：診療ハンドブック	先端医学社	東京	154-155	2018
竹内 健、鈴木康夫	第2章 腸管ペーチェット病の臨床診断 2 画像診断 C.CT/MRI	監修：鈴木康夫、編集：飯塚文瑛、田中正則、松田隆秀	腸管ペーチェット病のすべてがわかる：診療ハンドブック	先端医学社	東京	41-43	2018
Yasuo Suzuki	【Part III Endoscopy in the Management of IBD】 Chapter 15 Endoscopy in the Management of Inflammatory Bowel Disease	Toshifumi Hibi Tadakazu Hisamatsu Taku Kobayashi	Advances in Endoscopy in Inflammatory Bowel Disease	Springer	tokyo	155-162	2017
Ken Takeuchi, Miyuki Miyamura, Tsunetaka Arai, Rumiko Ishikawa, Akihiro Yamada and Yasuo Suzuki	Current Progress of Endoscopy in Inflammatory Bowel Disease: CT Enterography and CT Colonography in Inflammatory Bowel Disease.	Toshifumi Hibi Tadakazu Hisamatsu Taku Kobayashi	Advances in Endoscopy in Inflammatory Bowel Disease	Springer	tokyo	43-56	2017
鈴木康夫	章 治療法各論 炎症性腸疾患 潰瘍性大腸炎	総編集：佐々木 裕 専門編集：渡辺 守	腸疾患診療の現在	中山書店	東京	214-220	2017
山田哲弘、鈴木康夫	虚血性大腸炎	監修：猿田享男、北村惣一郎	1336専門家による私の治療 2017-18年度版	日本医事新報社	東京	395-396	2017
池内 浩基、内野 基	【潰瘍性大腸炎手術】トラブルシューティング - J-pouch が肛門まで届かない!! -	杉山 政則、正木 忠彦、阿部 展次：編	消化器外科手術起死回生の一手	メジカルビュー社	東京	161-165	2019
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki	Surveillance Colonoscopy (Cases of Small Intestinal Cancers in Crohn's Disease, Cases of Anal Cancers in Crohn's Disease).	Ed.: Hibi Toshifumi, Hisamatsu Tadakazu, Kobayashi Taku	Advances in Endoscopy in Inflammatory Bowel Disease	Springer Japan	Tokyo	221-228	2017
秋田義博、猿田雅之	炎症性腸疾患薬物療法の新展開	小池和彦、山本博徳、瀬戸泰之	消化器疾患の最新の治療 2019-2020	南江堂	東京	12-15	2019
清水俊明、大塚宜一	小児消化器疾患	五十嵐隆	別冊「医学のあゆみ」移行期医療	医歯薬出版株式会社	東京	92-97	2019
Hirosuke Kuroki, Akira Sugita, Kazutaka Koganei, Kenji Tatsumi, Ryo Futatsuki, Katsuhiko Araki,	Two cases of esophageal ulcer after surgical treatment for ulcerative colitis		Clinical Journal of Gastroenterology			Online20 December	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(書籍)

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
Hideki Kumagai, Takahiro Kudo, Kenji Uchida, Reiko Kunisaki, Akira Sugita, Yoshikazu Ohtsuka, Katsuhiko Arai, Mitsuru Kubota, Hitoshi Tajiri, Yasuo Suzuki and Toshiaki Shimizu	Adult gastroenterologists' views on transitional care : Results from a survey		Pediatrics International 34(7)	Springer		817-822	2019
Akira Sugita, Kazutaka Koganei, Kenji Tatsumi, Ryo Futatsuki, Hirosuke Kuroki, Kyoko Ymada, Hideaki Kimura & Tsuneo Fukushima	Postoperative functional outcomes and complications of partially intraanal canal anastomosis in stapled ileal pouch anal anastomosis for ulcerative colitis		International journal of Colorectal Disease Clinical and Molecular Gastroenterology and Surgery 61(8)	Springer		1317-1323	2019
Hiroki Ikeuchi, Motoi Uchino, Akira Sugita, Kitano Futami, Kouhei Fukushima, Keisuke Hata, Kazutaka Koganei, Masato Kusunoki, Keiichi Uchida, Riichiro Nezu, Hideaki Kimura, Kenichi Takahashi, Michio Itabashi, Hitoshi Kameyama, Daijiro Higashi, Fumikazu Koyama, Takeshi Ueda, Tsunekazu Mizushima, Yasuo Suzuki	Long-term outcomes following restorative proctocolectomy ileal pouch-anal anastomosis in pediatric ulcerative colitis patients: Multicenter national study in Japan.		J Gastroenterol (2)			Issue 6	2018
Hirosuke Kuroki, Akira Sugita, Kazutaka Koganei, Kenji Tatsumi, Ryo Futatsuki, Nao Obara, Katsuhiko Arai, Tsuneo Fukushima	Crohn's disease manifesting as ileo-urachal fistula: Two cases reports and review of literatures.		International Journal of Surgery Case Reports (53)			70-74	2018
Kanada S, Sugita A, Mikami T, Ohashi K, Hayashi H	Microcarcinoid arising in patients with long-standing ulcerative colitis: histological analysis		Human Pathology 64			28-36	2017
仲瀬裕志	免疫制御薬 - シクロスポリン, タクロリムス	監修 鈴木康夫 編集 臨牀消化器内科編集委員会	炎症性腸疾患診療の update - 診断・治療の最新知見	日本メディカルセンター	東京	126-130	2019
仲瀬裕志	クローン病		最適治療を極める!	医学と看護社	東京	1-78	2019
仲瀬裕志	腸管(型) Behçet 病と単純性潰瘍	編集 南学正臣	内科学書 改訂第9版 Vol.4	中山書店	東京	193-195	2019
仲瀬裕志	膠原病の消化管病変	編集 南学正臣	内科学書 改訂第9版 Vol.4	中山書店	東京	278-281	2019
仲瀬裕志	11. 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病)	編集: 櫻井晃洋	最新 多因子遺伝性疾患研究と遺伝カウンセリング	メディカルドゥ	大阪	165-169	2018
仲瀬裕志	炎症性腸疾患の免疫学的要因 自然免疫・獲得免疫の関与		炎症性腸疾患(第2版)	日本臨床	大阪	76:83-86	2018
仲瀬裕志	潰瘍性大腸炎とは		最適治療を極める! 潰瘍性大腸炎	医学と看護社	東京	1-82	2018
仲瀬裕志, 飯田智哉	消化器疾患 C 腸 潰瘍性大腸炎	編集: 小池和彦, 山本博徳, 瀬戸泰之	消化器疾患 最新の治療 2017-2018	南江堂	東京	206-211	2017
仲瀬裕志	消化器疾患 小腸・大腸・肛門疾患 薬剤による顕微鏡的大腸炎 放射線性腸炎	監修: 猿田享男, 北村惣一郎	1336 専門家による私の治療 2017-18 年度版	日本医事新報社	東京	406-408	2017

研究成果の刊行に関する一覧表(書籍)

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
仲瀬裕志	章 治療法総論 炎症性腸疾患 免疫調節薬, 免疫制御薬	編集: 渡辺守, 佐々木裕, 木下 芳一, 下瀬川徹	プリンシプル消化 器疾患の臨床2 腸 疾患診療の現在	中山書店	東京	130-134	2017
仲瀬裕志, 飯田智哉	ガイドラインを活かしたクローン 病の診断と治療		IBD Research	先端医学社	東京	11:76-80	2017
飯田智哉, 平山大輔, 仲瀬裕 志	潰瘍性大腸炎に対するカルシニウ ーリン阻害薬の適応と位置づけ		Mebio	メジカルビュ ー	東京	34:41-49	2017
仲瀬裕志	炎症性腸疾患診療について		別冊 BIO Cliniva	北隆館	東京	6:58-62	2017
仲瀬裕志	チオプリン製剤の位置づけ ベネフィットとリスクから		IBD Research	先端医学社	東京	11:207-212	2017
中村 志郎, 樋田 信幸, 渡 辺 憲治.	炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クロ ーン病)	泉 孝英	今日の診療のため に ガイドライン 外来診療 2018	日経メディカ ル開発	東京	447-52	2018
中村 志郎, 横山 陽子.	trisomy8 を合併した高齢発症の腸 管ペーチェット病(疑い)の1例.	飯塚 文瑛, 田 中 正則, 松田 隆秀.	腸管ペーチェット 病のすべてがわか る診療ハンドブック.	先端医学社	東京	178-9	2018
岸 昌廣, 平井郁仁, 八尾 建史	Celiac 病の十二指腸病変	藤城光弘(編 集)	十二指腸内視鏡 ATLAS	日本メディカ ルセンター	東京	104-105	2017
福島浩平, 渡辺和弘, 神山 篤史	わが国炎症性腸疾患の自然史	福島浩平	炎症性腸疾患(第 2版)	日本臨床	東京	40-45	2018
福島浩平, 渡辺和弘, 神山 篤史	術後 pouchitis(回腸囊炎) の診断 と治療	福島浩平	炎症性腸疾患(第 2版)	日本臨床	東京	464-468	2018
福島浩平, 渡辺和弘	回腸囊炎の診断と治療	日比紀文, 久 松理一	IBD を日常診療で 診る	羊土社	東京	212-216	2017
二見 喜太郎, 東 大二郎, 平野 由紀子, 小金井 一 隆, 内野 基, 高橋 賢一, 杉田 昭, 池内 浩基, 佐々 木 巖, 根津 理一郎, 舟山 裕士, 藤井 久男, 福島 浩 平, 板橋 道朗, 荒木 俊 光, 畑 啓介, 篠崎 大, 木 村 英明, 水島 恒和, 亀山 仁史, 佐原 力三郎, 梅枝 寛, 太田 章比古, 江崎 幹 宏, 渡辺 憲治, 平井 郁仁	クローン病肛門部病変のすべて - 診断から治療まで -	厚生労働科学 研究費補助金 難治性疾患等 施策研究事業 「難治性炎症性 腸管障害に関 する調査研 究」(鈴木班)	第二版 クローン病肛門部 病変のすべて - 診 断から治療まで -			1-54	2019
虹川大樹, 四龍美帆	潰瘍性大腸炎	日本小児栄養 消化器肝臓学 会	小児臨床栄養学 改訂第2版	診断と治療社	東京	200-204	2018
新井勝大.	IBD エキスパートをめざして 小児IBD患者の診療.	日比紀文, 久 松理一	IBD を日常診療 で診る 炎症性腸 疾患を疑うべき症 状と、患者にあわ せた治療法.	羊土社	東京	217-221	2017
Kobayasi Yumie, Ohfuji Satoko, Kondo Kyoko, Fukushima Wakaba	Association between dietary iron and zinc intake and development of ulcerative colitis: A case-control study in Japan	Joseph Sung	Journal Gastroenterology and Hepatology	Wiley		2019 Oct;34(10): 1703-1710	2019
熊谷秀規	消化器領域における移行支援	水口雅監修, 石崎優子編著	小児期発症慢性疾 患患者のための移 行支援ガイド. 初 版	じほう	東京	p72-73	2018
Hibi T, Hisamatsu T, Kobayashi T.	Endoscopic Indices for Ulcerative Colitis.	Hibi T, Hisamatsu T, Kobayashi T.	Advances in Endoscopy in Inflammatory Bowel Disease	Springer Japan	東京	163-172	2018
Saitoh Y, Fujiya M.	Chapter 1 Conventional Colonoscopy Including Indigo Carmine Dye Spray	Tanaka S, Saitoh Y.	Endoscopic Management of Colorectal T1(SM) Carcinoma	Springer	Tokyo	in press	2020

研究成果の刊行に関する一覧表(書籍)

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
Saitoh Y, Fujiya M.	Chapter 5 Endoscopic Ultrasound Sonography Including High-Frequency Ultrasound Probes	Tanaka S, Saitoh Y.	Endoscopic Management of Colorectal T1(SM) Carcinoma	Springer	Tokyo	in press	2020
藤谷幹造	III-C. 腸管感染症	小池和彦、山本博徳、瀬戸泰之	消化器疾患最新の治療 2019-2021	南江堂	東京	181-184	2019
齊藤裕輔、稲場勇平、藤谷幹造	超音波内視鏡(EUS)	田尻久雄、長南明道、田中信治、武藤学	内視鏡診断のプロセスと疾患別内視鏡像 改訂第4版	日本メディカルセンター	東京	129-138	2018
藤谷幹造	第III編 乳酸菌 第7章 乳酸菌由来活性質を用いた新規治療薬の開発	五味勝也, 阿部敬悦	酵母菌・酵母菌・麹乳酸の産業応用展開	シーエムシー出版	東京		2018
藤谷幹造	急性腸管虚血の病態	佐々木裕、木下芳一、下瀬川徹、渡辺守	プリンシプル消化器疾患の臨床「腸疾患診療の現在」	中山書店	東京	50-53	2017
藤谷幹造、中村哲也、緒方晴彦	小腸 カプセル内視鏡	日本消化器内視鏡学会、日本消化器内視鏡学会卒後教育委員会	消化器内視鏡ハンドブック改訂第2版	日本メディカルセンター	東京	349-354	2017
松浦 稔	腸管パーチエット病の鑑別診断 サイトメガロウイルス腸炎	久松理一	Intestine	日本メディカルセンター	東京	505-511	2019
松浦 稔	IBD に合併する皮膚病変.	仲瀬裕志	IBD Research	先端医学社	東京	131-137	2019
松浦 稔, 妹尾 浩.	実地内科医のための潰瘍性大腸炎診療 ABC 急性増悪の要因と対処.	穂刈量太	診断と治療	診断と治療社	東京	831-836	2019
松浦 稔, 本澤有介, 山本修司, 妹尾 浩.	炎症性腸疾患診療のupdate-診断・治療の最新知見 サイトメガロウイルス(CMV)腸炎.	鈴木康夫	臨床消化器内科	日本メディカルセンター	東京	888-893	2019
松浦 稔, 本澤有介, 山本修司, 妹尾 浩.	サイトメガロウイルス感染症: 最近の知見	緒方晴彦	Intestine	日本メディカルセンター	東京	167-173	2019
松浦 稔, 本澤有介, 山本修司, 妹尾 浩, 仲瀬裕志	IBDの類縁疾患を知り、鑑別する! 家族性地中海熱	加藤 順	IBD Research	先端医学社	東京	85-92	2018
吉村 直樹	ワンランク上を目指したGMAの治療戦略	桑山 肇	消化器の臨床	ヴァン メディカル	東京	79-80	2019
吉村 直樹	クローン病に対する顆粒球・単球吸着除去療法	桑山 肇	消化器の臨床	ヴァン メディカル	東京	60-66	2018
吉村 直樹	潰瘍性大腸炎での抗 TNF 抗体薬治療の選択	桑山 肇	消化器の臨床	ヴァン メディカル	東京	140-148	2017
吉村 直樹、岡野 荘、酒匂美奈子、高添 正和	難治性潰瘍性大腸炎に対する抗 TNF 抗体製剤アダリムマブの適応と有効性の検討	中村 治雄	Progress in Medicine	ライフサイエンス出版	東京	401-408	2017
吉村 直樹、岡野荘、酒匂美奈子、高添正和	活動期潰瘍性大腸炎における新規MMX型メサラジン放出調節剤(リアルダ錠)の有効性の検討	松岡 光明	Pharma Medica	メディカルレビュー社	大阪	92-99	2017
渡辺憲治	10. 画像強調観察(IEE)、(2) NBI、炎症性腸疾患での有用性	監修 田尻久雄、編集 田中信治、長南明道、武藤学	内視鏡診断のプロセスと疾患別内視鏡像[下部消化管]	日本メディカルセンター	東京	114-118	2018
渡辺憲治、十河光栄、鎌田紀子	第5章 治療法 E. アザチオプリン / 6-メルカプトプリン	監修: 鈴木康夫 編集: 飯塚文瑛、田中正則、松田隆秀 編集協力: 小林清典、長沼誠、星野惠津夫、本間照、渡辺憲治	腸管パーチエット病のすべてがわかる診療ハンドブック	先端医学社	東京	121-124	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(書籍)

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
渡辺憲治、末包剛久、佐野弘治	第5章 治療法 B. ステロイド	監修：鈴木康夫 編集：飯塚文瑛、田中正則、松田隆秀 編集協力：小林清典、長沼誠、星野恵津夫、本間照、渡辺憲治	腸管ベーチェット病のすべてがわかる診療ハンドブック	先端医学社	東京	111 - 113	2018
宮崎孝子、鎌田紀子、渡辺憲治	第6章 症例から学ぶ 症例8 経過中に潰瘍性大腸炎様の内視鏡像を呈した腸管ベーチェット病(不全型)の一例	監修：鈴木康夫 編集：飯塚文瑛、田中正則、松田隆秀 編集協力：小林清典、長沼誠、星野恵津夫、本間照、渡辺憲治	腸管ベーチェット病のすべてがわかる診療ハンドブック	先端医学社	東京	162 - 163	2018
渡辺憲治	Mini Lecture "Treat to Target"	渡辺 守	プリンシプル消化器疾患の臨床 『プリンシプル消化器疾患の臨床』	中山書店	東京	298 - 299	2017
渡辺憲治	炎症性腸疾患 疾患のポイントをおさえよう、潰瘍性大腸炎の治療法はどうやって決めるの?、クローン病の治療法はどうやって決めるの?、IBD患者に非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)を使用してはいけないの?	西口幸雄, 久保健太郎	日ごろの?をまとめて解決 消化器ナースのギモン	照林社	東京	78-79、80-81、82-83、87	2017

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Mari S OBA, Yoshitaka Murakami, Yuji Nishiwaki, Keiko Asakura, Satoko Ohfuji, Wakaba Fukushima, Yoshikazu Nakamura, <u>Yasuo Suzuki</u>	Estimated prevalence of Cronkhite-Canada Syndrome, Chronic Enteropathy Associated with SLC02A1 Gene, and Intestinal Behçet's Disease in Japan in 2017: A Nationwide Survey	J Epidemiol	In press		2020
Yoshitaka Murakami, Yuji Nishiwaki, Mari S Oba, Keiko Asakura, Satoko Ohfuji, Wakaba Fukushima, <u>Yasuo Suzuki</u> , Yosikazu Nakamura	Correction To: Estimated Prevalence of Ulcerative Colitis and Crohn's Disease in Japan in 2015: An Analysis of a Nationwide Survey	J Gastroenterol	55 (1)	131	2019
Kumagai H, Kudo T, Uchida K, Kunisaki R, Sugita A, Ohtsuka Y, Arai K, Kubota M, Tajiri H, <u>Suzuki Y</u> , Shimizu T.	Adult gastroenterologists' views on transitional care: Results from a survey.	Pediatr Int	61 (8)	817-822	2019
Yoshitaka Murakami, Yuji Nishiwaki, Mari S Oba, Keiko Asakura, Satoko Ohfuji, Wakaba Fukushima, <u>Yasuo Suzuki</u> , Yosikazu Nakamura	Estimated Prevalence of Ulcerative Colitis and Crohn's Disease in Japan in 2014: An Analysis of a Nationwide Survey	J Gastroenterol	54(12)	1070-1077	2019
Kondo K, Ohfuji S, Watanabe K, Yamagami H, Fukushima W, Ito K, <u>Suzuki Y</u> , Hirota Y; Japanese Case-Control Study Group for Crohn's disease.	The association between environmental factors and the development of Crohn's disease with focusing on passive smoking: A multicenter case-control study in Japan.	PLoS One	14(6)	e0216429	2019
<u>鈴木康夫</u>	本邦で急増する炎症性腸疾患患者と代謝的側面(消化器)	日本内科学会雑誌	108 (4)	666-672	2019
Keisuke Hata, Hiroyuki Anzai, Hiroki Ikeuchi, Kitaro Futami, Kouhei Fukushima, Akira Sugita, Motoi Uchino, Daijiro Higashi, Michio Itabashi, Kazuhiro Watanabe, Kazutaka Koganei, Toshimitsu Araki, Hideaki Kimura, Tsunekazu Mizushima, Takeshi Ueda, Soichiro Ishihara, <u>Yasuo Suzuki</u> , on behalf of the Research Group for Intractable Inflammatory Bowel Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan (RGIBD)	Surveillance colonoscopy for ulcerative colitis-associated colorectal cancer offers better overall survival in real-world surgically resected cases	American Journal of Gastroenterology	114(3)	483-489	2019
Ikuta K, Ito H, Takahashi K, Masaki S, Terauchi M, <u>Suzuki Y</u> .	Safety and efficacy of intravenous ferric carboxymaltose in Japanese patients with iron-deficiency anemia caused by digestive diseases: an open-label, single-arm study.	Int J Hematol	109(1)	50-58	2018
Kakuta Y, Kawai Y, Okamoto D, Takagawa T, Ikeya K, Sakuraba H, Nishida A, Nakagawa S, Miura M, Toyonaga T, Onodera K, Shinozaki M, Ishiguro Y, Mizuno S, Takahara M, Yanai S, Hokari R, Nakagawa T, Araki H, Motoya S, Naito T, Moroi R, Shiga H, Endo K, Kobayashi T, Naganuma M, Hiraoka S, Matsumoto T, Nakamura S, Nakase H, Hisamatsu T, Sasaki M, Hanai H6, Andoh A, Nagasaki M, Kinouchi Y, Shimosegawa T, Masamune A, <u>Suzuki Y</u> ; MENDEL study group.	NUDT15 codon 139 is the best pharmacogenetic marker for predicting thiopurine-induced severe adverse events in Japanese patients with inflammatory bowel disease: a multicenter study.	J Gastroenterol	53 (9)	1065-1078	2018
Motoya S, Watanabe M, Wallace K., Lazar A, Nishimura Y, Ozawa M, Thakkar R, Robinson A., Singh R, Mostafa N, <u>Suzuki Y</u> , Hibi T	Efficacy and safety of dose escalation to adalimumab 80 mg every other week in Japanese patients with Crohn's disease who lost response to maintenance therapy	Intestinal Inflammatory Diseases	2(4)	228-235	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Shunsuke Komoto, Katsuyoshi Matsuoka, Taku Kobayashi, Yoko, Yokoyama, Yasuo Suzuki, Toshifumi Hibi, Soichiro Miura, Ryota Hokari	Safety and Efficacy of Leukocytapheresis in elderly patients with Ulcerative Colitis: -the impact of Leukocytapheresis in steroid-naive elderly patients	Journal of Gastroenterology	33(8)	1485-1491	2018
Watanabe K, Matsumoto T, Hisamatsu T, Nakase H, Motoya S, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M16, Watanabe M, Hibi T; DIAMOND study group.	Clinical and pharmacokinetic factors associated with adalimumab-induced mucosal healing in patients with Crohn's disease.	Clin Gastroenterol Hepatol	16(4)	542-549	2018
Taku Kobayashi, Tadakazu Hisamatsu, Yasuo Suzuki, Haruhiko Ogata, Akira Andoh, Toshimitsu Araki, Ryota Hokari, Hideki Iijima, Hiroki Ikeuchi, Yoh Ishiguro, Shingo Kato, Reiko Kunisaki, Takayuki Matsumoto, Satoshi Motoya, Masakazu Nagahori, Shiro Nakamura, Hiroshi Nakase, Tomoyuki Tsujikawa, Makoto Sasaki, Kaoru Yokoyama, Naoki Yoshimura, Kenji Watanabe, Miiko Katafuchi, Mamoru Watanabe, Toshifumi Hibi	Predicting outcomes to optimize disease management in inflammatory bowel disease in Japan: their differences and similarities to Western countries	INTESTINAL RESEARCH	16(2)	168-177	2018
山田 哲弘, 鈴木 康夫	【特集 疫学的検討からみるIBD診療の現状と未来への展望】 生物学的製剤の疫学	IBD Research	12(4)	216-221	2018
山田 哲弘, 鈴木 康夫	【特集 潰瘍性大腸炎の内科的治療-進め方と見極め方】潰瘍性大腸炎における各薬物療法の進め方と薬剤・治療変更の見極め方 ステロイド製剤 その有用性とリスクを踏まえて	消化器の臨床	21(4)	253-257	2018
松井 敏幸, 本谷 聡, 渡辺 憲治, 緒方 晴彦, 金井 隆典, 鈴木 康夫, 鹿村 光宏, 杉浦 賢吉, 小田 和健, 堀 徹治, 荒木 孝浩, 渡辺 守, 日比 紀文	中等症・重症の日本人潰瘍性大腸炎患者に対するベドリズムマブ導入・維持療法施行時のQOLの探索的評価	日本消化器病学会雑誌	115巻臨増大会	A719	2018
鈴木 康夫, 本谷 聡, 渡辺 憲治, 緒方 晴彦, 金井 隆典, 松井 敏幸, 鹿村 光宏, 杉浦 賢吉, 小田 和健, 堀 徹治, 荒木 孝浩, 渡辺 守, 日比 紀文	ベドリズムマブで改善した中等症・重症の日本人潰瘍性大腸炎患者での疾患悪化及び治療失敗までの期間に関する探索的評価	日本消化器病学会雑誌	115巻臨増大会	A719	2018
中川 倫夫, 西川 清広, 小林 拓, 浅井 哲, 鮫島 由規則, 鈴木 康夫, 渡辺 守, 日比 紀文	インフリキシマブ・バイオシミラーの炎症性腸疾患を対象とした特定使用成績調査の中間報告	日本消化器病学会雑誌	115巻臨増総会	A272	2018
日比 紀文, 本谷 聡, 渡辺 憲治, 緒方 晴彦, 金井 隆典, 松井 敏幸, 鈴木 康夫, 鹿村 光宏, 杉浦 賢吉, 小田 和健, 堀 徹治, 荒木 孝浩, 渡辺 守	中等症又は重症の日本人潰瘍性大腸炎患者の導入・維持療法におけるベドリズムマブ第3相試験	日本消化器病学会雑誌	115巻臨増総会	A260	2018
江崎 幹宏, 松本 主之, 鈴木 康夫	炎症性腸疾患に対する内視鏡診断の役割 クローン病診断におけるカプセル内視鏡の有用性 検証試験結果報告	Gastroenterological Endoscopy	60(1)	590	2018
篠崎 大(東京大学医科学研究所附属病院 外科), 小林 清典, 国崎 玲子, 久松 理一, 長沼 誠, 高橋 賢一, 岩男 泰, 鈴木 康夫, 渡辺 守, 板橋 道朗, 鳥居 明, 高添 正和, 杉田 昭	潰瘍性大腸炎に対するサーベイランス内視鏡ガイドラインと実際の相違	Gastroenterological Endoscopy	60(4)	1033-1043	2018
山田 哲弘, 鈴木 康夫	【炎症性腸疾患の内科的治療 3.炎症性腸疾患治療薬の使い方と特性】抗TNF- 抗体製剤 ゴリムマブ	日本臨床	76巻増刊3炎症性腸疾患	342-344	2018
Hirai F, Andoh A, Ueno F, Watanabe K, Ohmiya N, Nakase H, Kato S, Esaki M, Endo Y, Yamamoto H, Matsui T, Iida M, Hibi T, Watanabe M, Suzuki Y, Matsumoto T.	Efficacy of endoscopic balloon dilation for small bowel strictures in patients with Crohn's disease: A nationwide, multi-center, open-label, prospective cohort study.	J Crohns Colitis	12(4)	394-401	2018
Yokoyama T, Ohta A, Motoya S, Takazoe M, Yajima T, Date M, Nii M, Nagyp, Suzuki Y, Hibi T	Efficacy and Safety of Oral Budesonide in Patients with Active Crohn's Disease in Japan: A Multicenter, Double-Blind, Randomized, Parallel-Group Phase 3 Study	Inflamm Intest Dis	2(3)	154-162	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Osamura A, <u>Suzuki Y</u>	Fourteen-year anti-TNF therapy in Crohn's disease patients: clinical characteristics and predictive factors	Dig Dis Sci	63(1)	204-208	2018
Toshifumi Hibi, RemoPanaccione, Miiiko Katafuchi, Kaoru Yokoyama, Kenji Watanabe, Toshiyuki Matsui, Takayuki Matsumoto, Simon Travis, <u>Yasuo Suzuki</u>	The 5C Concept and 5S Principles in Inflammatory Bowel Disease Management	Journal of Crohn's and Colitis	11(1)	1302-1308	2017
Fukushima K, Sugita A, Futami K, Takahashi KI, Motoya S, Kimura H, Yoshikawa S, Kinouchi Y, Iijima H, Endo K, Hibi T, Watanabe M, Sasaki I, <u>Suzuki Y</u> ; Surgical Research Group, the Research Committee of Inflammatory Bowel Disease, the Ministry of Health, Welfare and Labor of Japan.	Postoperative therapy with infliximab for Crohn's disease: a 2-year prospective randomized multicenter study in Japan.	Surg Today	48(6)	584-590	2017
Yuga Komaki, Fukiko Komaki, Dejan Micic, Akihiro Yamada, <u>Yasuo Suzuki</u> , Atsushi Sakuraba	Pharmacologic therapies for severe steroid refractory hospitalized ulcerative colitis: A network meta-analysis	Journal of Gastroenterology and Hepatology	32(6)	1143-1151	2017
<u>Suzuki Y</u> , Iida M, Ito H, Nishino H, Ohmori T, Arai T, Yokoyama T, Okubo T, Hibi T.	2.4 g Mesalamine (Asacol 400 mg tablet) Once Daily is as Effective as Three Times Daily in Maintenance of Remission in Ulcerative Colitis: A Randomized, Noninferiority, Multi-center Trial.	Inflamm Bowel Dis	23(5)	822-832	2017
山田哲弘、 <u>鈴木康夫</u>	【特集：コモンな難病 炎症性腸疾患の薬物療法】IBD治療薬の選び方、使い方 カルシニューリン阻害薬	月刊薬事	30(1)	50-52	2018
<u>鈴木康夫</u>	クローン病治療薬 プデソニド(ゼンタコート®)	臨床消化器内科	33(1)	134-137	2017
<u>鈴木康夫</u>	【特集：消化器の臨床20年の歩み -消化器疾患治療はどう変わったか-】 炎症性腸疾患(IBD)	消化器の臨床	20(5)	362-368	2017
竹内 健、 <u>鈴木康夫</u>	【特集：潰瘍性大腸炎の治療選択】 潰瘍性大腸炎治療薬の特徴と適応 抗TNF- 抗体製剤	消化器の臨床	20(4)	276-281	2017
<u>鈴木康夫</u>	対談：クローン病治療におけるステララの可能性-乾癬治療で示されたステララの有効性と安全性から考える-	日経メディカル	(596)	59-61	2017
竹内 健、 <u>鈴木康夫</u>	炎症性腸疾患における新しい便中マーカー：カルプロテクチンを中心に	Mebio	34(7)	88-95	2017
竹内 健、新井典岳、 <u>鈴木康夫</u>	TOPICS:便中カルプロテクチンはバルーン小腸内視鏡とCTエンテログラフィーで確認した小腸クローン病の重症度と相関する	INTESTINE21(3)	21(3)	276-277	2017
<u>鈴木康夫</u>	炎症性腸疾患治療最前線	Medical Tribune	50(14)	13	2017
Ng SC, Kamm MA, Yeoh YK, Chan PKS, Zuo T, Tang W, Sood A, Andoh A, Ohmiya N, Zhou Y, Ooi CJ, Mahachai V, Wu CY, Zhang F, Sugano K, Chan FKL	Scientific frontiers in faecal microbiota transplantation: joint document of Asia-Pacific Association of Gastroenterology (APAGE) and Asia-Pacific Society for Digestive Endoscopy (APSDE)	Gut	69(1)	83-91	2020
Morita Y, Imai T, Bamba S, Takahashi K, Inatomi O, Miyazaki T, Watanabe K, Nakamura S, Yoshida A, Endo Y, Ohmiya N, Tsujikawa T, <u>Andoh A</u>	Clinical relevance of innovative immunoassays for serum ustekinumab and anti-ustekinumab antibody levels in Crohn's disease.	J Gastroenterol Hepatol	Dec 20	Epub ahead of prin	2019
Tatsumi G, Kawahara M, Imai T, Nishishita-Asai A, Nishida A, Inatomi O, Yokoyama A, Kakuta Y, Kito K, <u>Andoh A</u>	Thiopurine-mediated impairment of hematopoietic stem and leukemia cells in Nudt15R138C knock-in mice.	Leukemia	Oct 24	Epub ahead of prin	2019
<u>Andoh A</u> , Inoue R, Kawada Y, Morishima S, Inatomi O, Ohno M, Bamba S, Nishida A, Kawahara M, Naito Y	Elemental diet induces alterations of the gut microbial community in mice	J Clin Biochem Nutr	65(2)	118-124	2019
Nishida A, Imaeda H, Inatomi O, Bamba S, Sugimoto M, <u>Andoh A</u>	The efficacy of fecal microbiota transplantation for patients with chronic pouchitis	Clin Case Rep	12;7(4)	782-788	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Takahashi K, Bamba S, Morita Y, Nishida A, Kawahara M, Inatomi O, Sugimoto M, Sasaki M, Andoh A	pH-Dependent 5-Aminosalicylates Releasing Preparations Do Not Affect Thiopurine Metabolism	Digestion	100(4)	238-246	2019
Sakai S, Nishida A, Ohno M, Inatomi O, Bamba S, Sugimoto M, Kawahara M, Andoh A	Astaxanthin, a xanthophyll carotenoid, prevents development of dextran sulphate sodium-induced murine colitis	J Clin Biochem Nutr	64(1)	66-72	2019
Nishida A, Inoue R, Inatomi O, Bamba S, Naito Y, Andoh A	Gut microbiota in the pathogenesis of inflammatory bowel disease.	Clin J Gastroenterol	11(1)	1-10	2018
Bamba S, Takahashi K, Imaeda H, Nishida A, Kawahara M, Inatomi O, Sugimoto M, Sasaki M, Andoh A	Effect of fermented vegetable beverage containing <i>Pediococcus pentosaceus</i> in patients with mild to moderate ulcerative colitis	Biomed Rep	9(1)	74-80	2018
Nakamura S, Imaeda H, Nishikawa H, Iimuro M, Matsuura M, Oka H, Oku J, Miyazaki T, Honda H, Watanabe K, Nakase H, Andoh A	Usefulness of fecal calprotectin by monoclonal antibody testing in adult Japanese with inflammatory bowel diseases: a prospective multicenter study	Intest Res	16(4)	554-562	2018
Takahashi K, Bamba S, Kawahara M, Nishida A, Inatomi O, Sasaki M, Tsujikawa T, Kushima R, Sugimoto M, Kitoh K, Andoh A	Magnified single-balloon enteroscopy in the diagnosis of intestinal follicular lymphoma: a case series	Intest Res	16(4)	628-634	2018
Imai T, Inoue R, Kawada Y, Morita Y, Inatomi O, Nishida A, Bamba S, Kawahara M, Andoh A	Characterization of fungal dysbiosis in Japanese patients with inflammatory bowel disease	J Gastroenterol	54(2)	149-159	2018
Sakai S, Nishida A, Ohno M, Inatomi O, Bamba S, Sugimoto M, Kawahara M, Andoh A	Ameliorating effects of bortezomib, a proteasome inhibitor, on development of dextran sulfate sodium-induced murine colitis	J Clin Biochem Nutr	63(3)	217-223	2018
Koga A, Matsui T, Takatsu N, Takada Y, Kishi M, Yano Y, Beppu T, Ono Y, Ninomiya K, Hirai F, Nagahama T, Hisabe T, Takaki Y, Yao K, Imaeda H, Andoh A	Trough level of infliximab is useful for assessing mucosal healing in Crohn's disease: a prospective cohort study	Intest Res	16(2)	223-232	2018
Kusaka S, Nishida A, Takahashi K, Bamba S, Yasui H, Kawahara M, Inatomi O, Sugimoto M, Andoh A	Expression of human cathelicidin peptide LL-37 in inflammatory bowel disease	Clin Exp Immunol	191(1)	96-106	2018
Takaoka A, Sasaki M, Nakanishi N, Kurihara M, Ohi A, Bamba S, Andoh A	Nutritional Screening and Clinical Outcome in Hospitalized Patients with Crohn's Disease	Ann Nutr Metab	71(3-4)	266-272	2017
Bamba S, Nishida A, Imaeda H, Inatomi O, Sasaki M, Sugimoto M, Andoh A	Successful treatment by fecal microbiota transplantation for Japanese patients with refractory <i>Clostridium difficile</i> infection: A prospective case series	J Microbiol Immunol Infect	52(4)	663-666	2017
Park DI, Hisamatsu T, Chen M, Ng SC, Ooi CJ, Wei SC, Banerjee R, Hilmi IN, Jeon YT, Han DS, Kim HJ, Ran Z, Wu K, Qian J, Hu PJ, Matsuoka K, Andoh A, Suzuki Y, Sugano K, Watanabe M, Hibi T, Puri AS, Yang SK	Asian Organization for Crohn's and Colitis and Asia Pacific Association of Gastroenterology consensus on tuberculosis infection in patients with inflammatory bowel disease receiving anti-tumor necrosis factor treatment. Park 1: risk assessment	J Gastroenterol Hepatol	16(1)	4-16	2017
Park DI, Hisamatsu T, Chen M, Ng SC, Ooi CJ, Wei SC, Banerjee R, Hilmi IN, Jeon YT, Han DS, Kim HJ, Ran Z, Wu K, Qian J, Hu PJ, Matsuoka K, Andoh A, Suzuki Y, Sugano K, Watanabe M, Hibi T, Puri AS, Yang SK	Asian Organization for Crohn's and Colitis and Asia Pacific Association of Gastroenterology consensus on tuberculosis infection in patients with inflammatory bowel disease receiving anti-tumor necrosis factor treatment. Park 2: management	J Gastroenterol Hepatol	16(1):	17-25	2017
Ohno M, Nishida A, Sugitani Y, Nishino K, Inatomi O, Sugimoto M, Kawahara M, Andoh A	Nanoparticle curcumin ameliorates experimental colitis via modulation of gut microbiota and induction of regulatory T cells	PLoS One	12(10)	e0185999	2017
Nishino K, Nishida A, Inoue R, Kawada Y, Ohno M, Sakai S, Inatomi O, Bamba S, Sugimoto M, Kawahara M, Naito Y, Andoh A	Analysis of endoscopic brush samples identified mucosa-associated dysbiosis in inflammatory bowel disease	J Gastroenterol	53(1)	95-106	2017

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Fujii M, Nishida A, Imaeda H, Ohno M, Nishino K, Sakai S, Inatomi O, Bamba S, Kawahara M, Shimizu T, Andoh A	Expression of Interleukin-26 is upregulated in inflammatory bowel disease	J Gastroenterol	23(30)	5519-5529	2017
Bamba S, Sasaki M, Takaoka A, Takahashi K, Imaeda H, Nishida A, Inatomi O, Sugimoto M, Andoh A	Sarcopenia is a predictive factor for intestinal resection in admitted patients with Crohn's disease	PLoS One	12(6)	e0180036	2017
Otsuka T, Sugimoto M, Inoue R, Ohno M, Ban H, Nishida A, Inatomi O, Takahashi S, Naito Y, Andoh A	Influence of potassium-competitive acid blocker on the gut microbiome of Helicobacter pylori-negative healthy individuals	Gut	66(9)	1723-1725	2017
Kobayashi Masayoshi, Matsubara Nagahide, Nakachi Yutaka, Okazaki Yasushi, Uchino Motoi, <u>Ikeuchi Hiroki</u> , Song Jihyng, Kimura Kei, Yasuhara Michiko, Babaya Akihito, Yamano Tomoki, Ikeda Masataka, Nishikawa Hiroki, Matsuda Ikuko, Hirota Seiichi, Tomita Naohiro	Hypermethylation of corticotropin releasing hormone receptor-2 gene in ulcerative colitis associated colorectal cancer.	In vivo	34	57-63	2020
Yamada Kimiko, Ueda Takashi, Nakajima Kazuhiko, Ichiki Kaoru, Tsuchida Toshie, Otani Naruhito, Takahashi Yoshiko, <u>Ikeuchi Hiroki</u> , <u>Uchino Motoi</u> , Koshiba Masahiro, Takesue Yoshio	Clinical efficacy of teicoplanin in the treatment of bloodstream infection caused by methicilline-resistant coagulase-negative staphylococci.	Journal of Infection and Chemotherapy	Epub ahead of print		2019
Kakiuchi Nobuyuki, Yoshida Kenichi, Uchino Motoi, Kihara Takako, Akaki Kotaro, Inoue Yoshikage, Kawada Kenji, Nagayama Satoshi, Yokoyama Akira, Yamamoto Shuji, Matsuura Minoru, Horimatsu Takahiro, Hirano Tomonori, Goto Norihiro, Takeuchi Yasuhide, Ochi Yotaro, Shiozawa Yusuke, Kogure Yasunori, Watatani Yosaku, Fujii Yoichi, Soo Ki Kim, Kon Ayana, Kataoka Keisuke, Yoshizato Tetsuichi, Nakagawa M.Masahiro, Yoda Akinori, Nanya Yasuhito, Makishima Hideki, Shiraishi Yuichi, Chiba Kenichi, Tanaka Hiroko, Sanada Masashi, Sugihara Eiji, Sato Taka-aki, Maruyama Takashi, Miyoshi Hiroyuki, Makoto Mark Taketo, Oishi Jun, Inagaki Ryosaku, Ueda Yutaka, Okamoto Shinya, Okajima Hideaki, Sakai Yoshiharu, Sakurai Takaki, Haga Hironori, Hirota Seiichi, <u>Ikeuchi Hiroki</u> , Nakase Hiroshi, Marusawa Hiroyuki, Chiba Tsutomu, Takeuchi Osamu, Miyano Satoru, Seno Hiroshi, Ogawa Seishi	Frequent mutations that converge on the NFKBIZ pathway in ulcerative colitis.	Nature	Epub ahead of print		2019
Iida Tomoya, Hirayama Daisuke, Minami Naoki, Matsuura Minoru, Wagatsuma Kohei, Kawakami Kentaro, Nagaishi Kanna, Nojima Masanori, <u>Ikeuchi Hiroki</u> , Hirota Seiichi, Shirakawa Ryutarou, Horiuchi Hisanori, Nakase Hiroshi	Downregulation of RalGTPase-Activating protein promotes colitis-associated cancer via NLRP3 inflammasome activation.	Cellular and Molecular Gastroenterology and Hepatology	Epub ahead of print		2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Hata Keisuke, Okada Satoshi, Ishihara Soichiro, Morimoto Koji, Sahara Rikisaburo, Watanabe Kazuhiro, Fukushima Kouhei, Takahashi Kenichi, Kimura Hideaki, Hirata Keiji, Mizushima Tsunekazu, Araki Toshimitsu, Kusunoki Masato, Nezu Riichiro, Nakao Sayumi, Itabashi Michio, Hirata Akira, Ozawa Heita, Ishida Takashi, Okabayashi Koji, Yamamoto Takayuki, Noake Toshihiro, Arakaki Junya, Watadani Yusuke, Ohge Hiroki, Futatsuki Ryo, Koganei Kazutaka, Sugita Akira, Higashi Daijiro, Futami Kitaro	Changes in the rate of and trends in colectomy for ulcerative colitis during the era of biologics and calcineurin inhibitors based on a Japanese nationwide cohort study.	Surgery Today	49(12)	1066-1073	2019
Minagawa Tomohiro, Ikeuchi Hiroki, Kuwahara Ryuichi, Horio Yuki, Sasaki Hirofumi, Chohno Teruhiro, Bando Toshihiro, Uchino Motoi	Functional outcomes and quality of life in elderly patients after restorative proctocolectomy for ulcerative colitis.	Digestion	5	1-6 (published online)	2019
Shinagawa Takahide, Hata Keisuke, Ikeuchi Hiroki, Fukushima Kouhei, Futami Kitaro, Sugita Akira, Uchino Motoi, Watanabe Kazuhiro, Higashi Daijiro, Kimura Hideaki, Araki Toshimitsu, Mizushima Tsunekazu, Itabashi Michio, Ueda Takeshi, Koganei Kazutaka, Oba Koji, Ishihara Soichiro, Suzuki Yasuo	Rate of Reoperation Decreased Significantly After Year 2002 in Patients With Crohn's Disease.	Clinical Gastroenterology and Hepatology	Epub ahead of print		2019
Ueda Takashi, Takesue Yoshio, Tokimatsu Issei, Miyazaki Taiga, Nakada-Motokawa Nana, Nagao Miki, Nakajima Kazuhiko, Mikamo Hiroshige, Yamagishi Yuka, Kasahara Kei, Yoshihara Shingo, Ukimura Akira, Yoshida Koichiro, Yoshinaga Naomi, Izumi Masaaki, Kakeya Hiroshi, Yamada Koichi, Kawamura Hideki, Endou Kazuo, Yamanaka Kazuaki, Yoshioka Mitsunobu, Amino Kayoko, Ikeuchi Hiroki, Uchino Motoi, Miyazaki Yoshitsugu	The incidence of endophthalmitis or macular involvement and the necessity of a routine ophthalmic examination in patients with candidemia.	PLoS One	14(5)	Published online	2019
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Bando Toshihiro, Chohno Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Horio Yuki, Kuwahara Ryuichi, Minagawa Tomohiro, Goto Yoshiko, Ichiki Kaoru, Nakajima Kazuhiko, Takahashi Yoshiko, Ueda Takashi, Takesue Yoshio	Associations between multiple immunosuppressive treatments before surgery and surgical morbidity in patients with ulcerative colitis during the era of biologics.	International Journal of Colorectal Disease	34(4)	699-710	2019
Takesue Yoshio, Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Ueda Takashi, Nakajima Kazuhiko	Is fixed short-course antimicrobial therapy justified for patients who are critically ill with intra-abdominal infections?.	Journal of the Anus, Rectum and Colon	3(2)	53-59	2019
Hata Keisuke, Anzai Hiroyuki, Ikeuchi Hiroki, Futami Kitaro, Fukushima Kouhei, Sugita Akira, Uchino Motoi, Higashi Daijiro, Itabashi Michio, Watanabe Kazuhiro, Koganei Kazutaka, Araki Toshimitsu, Kimura Hideaki, Mizushima Tsunekazu, Ueda Takeshi, Ishihara Soichiro, Suzuki Yasuo.	Surveillance colonoscopy for ulcerative colitis- Associated colorectal cancer offers better overall survival in real world surgically resected cases.	The American Journal of Gastroenterology	114	483-489	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Bando Toshihiro, Chohnno Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Horio Yuki, Nakajima Kazuhiko, Takesue Yoshio	Efficacy of Preoperative Oral Antibiotic Prophylaxis for the Prevention of Surgical Site Infections in Patients With Crohn Disease.	Annals of Surgery	269(3)	420-426	2019
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 佐々木 寛文, 後藤 佳子, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋	潰瘍性大腸炎関連腫瘍に対する外科治療の現状と課題	胃と腸	55(2)	183-190	2020
池田 正孝, 木村 慶, 別府 直仁, 片岡 幸三, 安原 美千子, 馬場谷 彰仁, 宋 智亨, 松原 孝明, 山野 智基, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕	【“超”高難度手術! 他臓器合併切除術を極める下部消化管の拡大手術】仙骨合併切除を伴う骨盤内臓全摘	臨床外科	75(1)	38-46	2020
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 桑原 隆一, 皆川 知洋	重症潰瘍性大腸炎に対する外科治療	消化器外科	42(12)	1703-1710	2019
堀尾 勇規, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 岡山 カナ子, 内野 基	炎症性腸疾患症例における人工肛門関連合併症の検討	日本消化器外科学会雑誌	52(7)	358-367	2019
木村 慶, 池田 正孝, 宋 智亨, 安原 美千子, 馬場谷 彰仁, 片岡 幸三, 別府 直仁, 山野 智基, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕	外科大腸領域における鏡視下手術の最前線(口ポットを含む) - 進行・再発直腸癌に対する腹腔鏡下骨盤内臓全摘術 -	日本大腸肛門病学会雑誌	72(10)	559-566	2019
桑原 隆一, 池内 浩基, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 内野 基	外科大腸領域における鏡視下手術の最前線(口ポットを含む) - 炎症性腸疾患に対する腹腔鏡手術 -	日本大腸肛門病学会雑誌	72(10)	541-549	2019
内野 基, 池内 浩基, 竹末 芳生	【Operation 手術種類別にみたSSI対策の実実際】消化器外科手術	感染対策ICTジャーナル	14(4)	318-323	2019
内野 基, 池内 浩基	【消化器疾患にまつわる貧血診療】消化器外科における貧血診療	消化器の臨床	22(2)	154-159	2019
桑原 隆一, 池内 浩基, 内野 基	【炎症性腸疾患の外科治療】炎症性腸疾患の外科治療	臨牀消化器内科	34(7)	900-903	2019
池内 浩基, 内野 基	【消化器疾患に対する機能温存・再建手術】下部消化管領域 炎症性腸疾患に対する機能温存手術	外科	81(5)	462-467	2019
堀尾 勇規, 池内 浩基, 荒木 敬士, 坂東 俊宏, 佐々木 寛文, 後藤 佳子, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 内野 基, 竹末 芳生	周術期に心筋性眼病変を併発した炎症性腸疾患手術症例の検討	日本外科感染症学会雑誌	16(2)	87-92	2019
Ikeuchi Hiroki, Uchino Motoi, Sugita Akira, Futami Kitaro, Fukushima Kouhei, Hata Keisuke, Koganei Kazutaka, Kusunoki Masato, Uchida Keiichi, Nezu Riichiro, Kimura Hideaki, Takahashi Kenichi, Itabashi Michio, Kameyama Hitoshi, Higashi Daijiro, Koyama Fumikazu, Ueda Takeshi, Mizushima Tsunekazu, Suzuki Yasuo	Long-term outcomes following restorative proctocolectomy ileal pouch-anal anastomosis in pediatric ulcerative colitis patients: Multicenter national study in Japan.	Ann Gastroenterol Surg	2(6)	428-433	2018
Toiyama Yuji, Okugawa Yoshinaga, Kondo Satoru, Okita Yoshiki, Araki Toshimitsu, Kusunoki Kurando, Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Hirota Seiichi, Mitsui Akira, Takehara Kenji, Umezawa Tsutomu, Kusunoki Masato	Comprehensive analysis identifying aberrant DNA methylation in rectal mucosa from ulcerative colitis patients with neoplasia.	Oncotarget	9(69)	33149-33159	2018
Horio Yuki, Uchino Motoi, Bando Toshihiro, Chohnno Teruhiro, Takesue Yoshio, Ikeuchi Hiroki	Association between Higher Body Mass Index and Pouch-Related Complications during Restorative Proctocolectomy in Patients with Ulcerative Colitis.	Digestion	98	257-262	2018
Chohnno Teruhiro, Uchino Motoi, Sasaki Hirofumi, Bando Toshihiro, Takesue Yoshio, Ikeuchi Hiroki	Associations between the prognostic nutritional index and morbidity/mortality during intestinal resection in patients with ulcerative colitis.	World Journal of Surgery	42	1949-1959	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Bando Toshihiro, Hirata Akihiro, Chohno Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Horio Yuki, Nakamura Shiro	Association between serum tumor necrosis factor-alpha level and the efficacy of infliximab for refractory pouchitis after restorative proctocolectomy in patients with ulcerative colitis.	Journal of the Anus, Rectum and Colon	1(4)	106-111	2018
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Sugita Akira, Futami Kitaro, Watanabe Toshiaki, Fukushima Kouhei, Tatsumi Kenji, Koganei Kazutaka, Kimura Hideaki, Hata Keisuke, Takahashi Kenichi, Watanabe Kazuhiro, Mizushima Tsunekazu, Funayama Yuji, Higashi Daijiro, Araki Toshimitsu, Kusunoki Masato, Ueda Takeshi, Koyama Fumikazu, Itabashi Michio, Nezu Riichiro, Suzuki Yasuo	Pouch functional outcomes after restorative proctocolectomy with ileal pouch reconstruction in patients with ulcerative colitis Japanese multi center nationwide cohort study.	Journal of Gastroenterology	53	642-651	2018
Kobayashi Taku, Hisamatsu Tadakazu, Suzuki Yasuo, Ogata Haruhiko, Andoh Akira, Araki Toshimitsu, Hokari Ryota, Iijima Hideki, Ikeuchi Hiroki, Ishiguro Yoh, Kato Shingo, Kunisaki Reiko, Matsumoto Takayuki, Motoya Satoshi, Nagahori Masakazu, Nakamura Shiro, Nakase Hiroshi, Tsujikawa Tomoyuki, Sasaki Makoto, Yokoyama Kaoru, Yoshimura Naoki, Watanabe Kenji, Katafuchi Miiko, Watanabe Mamoru, Hibi Toshifumi	Predicting outcomes to optimize disease management in inflammatory bowel disease in Japan: their differences and similarities to Western countries.	Intestinal Research	16(2)	168-177	2018
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Bando Toshihiro, Sasaki Hirofumi, Chohno Teruhiro, Horio Yuki, Takesue Yoshio	Ostomy creation with fewer sutures using tissue adhesives (cyanoacrylates) in inflammatory bowel disease: a pilot study.	Annals of the Royal College of Surgeons of England	100	190-193	2018
Fujita Masashi, Matsubara Nagahide, Matsuda Ikuo, Maejima Kazuhiro, Oosawa Ayako, Yamano Tomoki, Fujimoto Akihiro, Furuta Mayuko, Nakano Kaoru, Oku-Sasaki Aya, Tanaka Hiroko, Shiraishi Yuichi, Nicolás Mateos Raúl, Nakai Kenta, Miyano Satoru, Tomita Naohiro, Hirota Seiichi, Ikeuchi Hiroki, Nakagawa Hidewaki	Genomic landscape of colitis-associated cancer indicates the impact of chronic inflammation and its stratification by mutations in the Wnt signaling.	Oncotarget	9(1)	969-981	2018
Matsuoka Hiroki, Uchino Motoi, Horio Yuki, Sasaki Hirofumi, Chohno Teruhiro, Hirata Akihiro, Bando Toshihiro, Ito Takashi, Yamaguchi Toshimasa, Ikeuchi Hiroki	The Use of Oral Herbal Medicine (Hange-Shashin-To) in Patients with Pouchitis: A Pilot Study.	Journal of the Anus, Rectum and Colon	2(1)	9-15	2018
佐々木 寛文, 池内 浩基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 井出 良浩, 廣田 誠一, 内野 基	潰瘍性大腸炎術後 30 年目に J 型回腸囊内に high grade dysplasia を認めた 1 例	日本消化器外科学会雑誌	51(12)	784-790	2018
佐藤 寿行, 内野 基, 横山 陽子, 應田 義雄, 樋田 信幸, 渡辺 憲治, 堀 和敏, 三輪 洋人, 池内 浩基, 中村 志郎	当院における免疫抑制治療中の潰瘍性大腸炎に合併したニューモシスチス肺炎に関する臨床的検討: case-control study	日本外科感染症学会雑誌	15(6)	639-644	2018
蝶野 晃弘, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 竹末 芳生, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎分割手術例における人工肛門閉鎖時ステロイドカバーの必要性	日本外科感染症学会雑誌	15(6)	632-638	2018
池内 浩基, 内野 基, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋	炎症性腸疾患外科における緊急手術の現状	日本腹部救急医学会雑誌	38(7)	1127-1131	2018
桑原 隆一, 池内 浩基, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基	クローン病に対する腸管切除症例1,143例の検討	日本消化器外科学会雑誌	51(11)	671-679	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
池内 浩基, 内野 基	【潰瘍性大腸炎の手術手技】開腹大腸全摘・回腸囊肛門(管)吻合術	臨床外科	73(12)	1344-1348	2018
池田 正孝, 木村 慶, 片岡 幸三, 別府直仁, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕	【直腸癌手術治療の現状】直腸癌に対する拡大手術の適応と治療成績	日本医事新報	4928	34-41	2018
皆川 知洋, 池内 浩基, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 木原 多佳子, 井出 良浩, 廣田 誠一, 内野 基	潰瘍性大腸炎に対し大腸全摘・J型回腸囊肛門吻合術後にileal castを生じた1例	日本消化器外科学会雑誌	51(10)	649-655	2018
内野 基, 岡山 カナ子, 池内 浩基	【特別寄稿】災害時におけるIBD患者への対応: ストーマ患者への対応を中心に	臨牀消化器内科	33(10)	1204-1205	2018
池内 浩基, 内野 基	【あの疾患の外科治療 - 炎症性腸疾患における手術治療の役割】手術の適切なタイミング - 相対的手術適応を中心に -	日本医事新報	4911	28-34	2018
堀尾 勇規, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 内野 基	クローン病に対して行った狭窄形成術の長期経過と開存率の検討	日本消化器外科学会雑誌	51(5)	327-334	2018
内野 基, 池内 浩基	【クローン病合併癌の診断と治療】小腸癌	大腸がん perspective	4(1)	33-38	2018
内野 基, 池内 浩基	【炎症性腸疾患の外科的治療】炎症性腸疾患術後の長期予後	日本臨牀	76(増刊号3)	475-480	2018
蝶野 晃弘, 内野 基, 池内 浩基	【炎症性腸疾患の外科的治療】炎症性腸疾患の手術適応と問題点 クローン病の手術適応と問題点	日本臨牀	76(増刊号3)	441-446	2018
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏	【炎症性腸疾患の外科的治療】炎症性腸疾患の手術適応と問題点 潰瘍性大腸炎の手術適応と問題点	日本臨牀	76(増刊号3)	436-440	2018
塚本 潔, 池田 正孝, 野田 雅史, 山野 智基, 小林 政義, 濱中 美千子, 馬場 谷 彰仁, 木村 慶, 宋 智亨, 今田 絢子, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕	【機能温存と機能再建をめざした消化器外科手術-術後QOL向上のために】家族性大腸癌事務局大腸腺腫症に対する大腸全摘術後のパウチ再建	臨床外科	73(4)	450-456	2018
池田 正孝, 植村 守, 三宅 正和, 塚本 潔, 山野 智基, 内野 基, 野田 雅史, 池内 浩基, 富田 尚裕, 関本 貢嗣	局所進行・再発直腸癌に対する腹腔鏡下骨盤内臓全摘・骨性骨盤合併切除術の検討	兵庫医科大学医学会雑誌	42(2)	17-20	2018
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 竹末 芳生, 富田 尚裕	【急性腹症の外科手術2018】炎症性腸疾患による急性腹症に対する手術	手術	73(3)	285-291	2018
Toiyama Yuji, Okugawa Yoshinaga, Tanaka Koji, Araki Toshimitsu, Uchida Keiichi, Hishida Asahi, Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Hirota Seiichi, Kusunoki Masato, C.Richard Boland, Ajay Goel	A panel of methylated microRNA biomarkers of identifying high-risk patients with ulcerative colitis -Associated colorectal cancer.	Gastroenterology	153(6)	1634-1646	2017
Matsuno Hiroshi, Kayama Hisako, Nishimura Junichi, Sekido Yuki, Osawa Hideki, Barman Soumik, Ogino Takayuki, Takahashi Hidekazu, Haraguchi Naotsugu, Hata Taishi, Matsuda Chu, Yamamoto Hirofumi, Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Doki Yuichiro, Mori Masaki, Takeda Kiyoshi, Mizushima Tsunekazu	CD103 ⁺ dendritic cell function is altered in the colons of patients with ulcerative colitis.	Inflammatory Bowel Diseases	2(9)	1524-1534	2017
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Bando Toshihiro, Chohn Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Horio Yuki	Is an ostomy rod useful for bridging the retraction during the creation of a loop ileostomy? A randomized control trial.	World Journal of Surgery	41(8)	2128-2135	2017
Sato Toshiyuki, Takagawa Tetsuya, Kakuta Yoichi, Nishio Akihiro, Kawai Mikio, Kamikozuru Koji, Yokoyama Yoko, Kita Yuko, Miyazaki Takako, Iimuro Masaki, Hida Nobuyuki, Horii Kazutoshi, Ikeuchi Hiroki, Nakamura Shiro	<i>NUDT15</i> , <i>FTO</i> , and <i>RUNX1</i> genetic variants and thiopurine intolerance among Japanese patients with inflammatory bowel diseases.	Intestinal Research	15(3)	328-337	2017
Horio Yuki, Uchino Motoi, Bando Toshihiro, Chono Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Hirata Akihiro, Takesue Yoshio, Ikeuchi Hiroki	Rectal-sparing type of ulcerative colitis predicts lack of response to pharmacotherapies.	BMC Surgery	17(1)	59	2017

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
内野 基, 池内 浩基	【講座 IBD治療のピットフォール】潰瘍性大腸炎の手術時にJ型回腸嚢が肛門まで届かないときにはどうするのか?	IBD Research	11(4)	247-251	2017
堀尾 勇規, 池内 浩基, 南部 尚子, 坂東 俊宏, 平田 晃弘, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 後藤 佳子, 廣田 誠一, 内野 基	メッケル憩室による内ヘルニアが原因で腸閉塞をきたした1例	日本外科系連合学会誌	42(6)	1052-1056	2017
堀尾 勇規, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 平田 晃弘, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 後藤 佳子, 井出 良浩, 廣田 誠一, 内野 基	予防的直腸切断術後に会陰部創より発癌を認めたクローン病の1例	日本消化器外科学会雑誌	50(11)	921-927	2017
池内 浩基, 内野 基	【直腸癌に対する経肛門アプローチのすべて】潰瘍性大腸炎合併癌に対する粘膜切除術	手術	71(12)	1639-1643	2017
蝶野 晃弘, 池内 浩基, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 平田 晃弘, 坂東 俊宏, 辻村 亨, 宋 美紗, 内野 基	潰瘍性大腸炎に併発した神経内分泌細胞癌の2例	日本消化器外科学会雑誌	50(10)	838-848	2017
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋	【炎症性腸疾患診療の最前線】潰瘍性大腸炎に対する内科・外科の連携と外科的治療の最前線	日本大腸肛門病学会雑誌	70(10)	593-600	2017
池内 浩基, 内野 基	特集:潰瘍性大腸炎の治療選択 潰瘍性大腸炎の外科治療の適応	消化器の臨床	20(4)	288-293	2017
蝶野 晃弘, 池内 浩基, 内野 基	【激変する炎症性腸疾患に対する治療ストラテジー】術後の治療を見据えたクローン病に対する外科治療	Mebio	34(7)	59-64	2017
中嶋 一彦, 竹末 芳生, 一木 薫, 植田 貴史, 石川 かおり, 和田 恭直, 土田 敏恵, 小谷 穰治, 富田 尚裕, 池内 浩基, 内野 基	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌によるアウトブレイク - 下部消化器外科病棟と急性期医療センターにおける発生例と対策	日本外科感染症学会雑誌	14(3)	179-187	2017
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規	【潰瘍性大腸炎・クローン病手術のすべて】潰瘍性大腸炎 - 潰瘍性大腸炎に対する手術の歴史	手術	71(7)	947-952	2017
平田 晃弘, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 廣田 誠一, 井出 良浩, 内野 基	潰瘍性大腸炎に対する大腸全摘・J型回腸嚢肛門吻合術後に発生した残存肛門管癌の1例	日本消化器外科学会雑誌	50(6)	499-505	2017
岡崎和一, 小林三四郎, 浦上富生, 伊藤 崇志	【IBDの腸管外合併症を機序から紐解く!】IBDに合併する原発性硬化性胆管炎・膵炎	IBD Research	13(3)	145-150	2019
岡崎和一, 松井芙美, 宮本早知	【炎症性腸疾患(第2版)-病因解明と診断・治療の最新知見-】炎症性腸疾患と鑑別すべき主な疾患とその鑑別診断 抗生物質起因性腸炎	日本臨床	76 巻増刊 3	621-624	2018
Matsui F, Inaba M, Uchida K, Nishio A, Fukui T, Yoshimura H, Satake A, Yoshioka K, Nomura S, Okazaki K.	Induction of PIR-A/B(+) DCs in the in vitro inflammatory condition and their immunoregulatory function.	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY	53(10)	1131-1141	2018
Fukui T, Takahashi M, Okazaki T, Tomiyama T, Fukata N, Ando Y, Okazaki K.	Multifocal Colonic Wall Abscesses during Anti-Tumor Necrosis Factor (TNF)-Therapy for a Patient with Ulcerative Colitis: A Very Rare Manifestation of Infectious Complications.	Internal medicine	56(10)	1157-1161	2017
Hosoe N, Hayashi Y, Ogata H	Colon Capsule Endoscopy for Inflammatory Bowel Disease.	Clin Endosc.		Epub ahead of print	2020
Watanabe K, Motoya S, Ogata H, Kanai T, Matsui T, Suzuki Y, Shikamura M, Sugiura K, Oda K, Hori T, Araki T, Watanabe M, Hibi	Effects of vedolizumab in Japanese patients with Crohn's disease: a prospective, multicenter, randomized, placebo-controlled Phase 3 trial with exploratory analyses.	J Gastroenterol.		Epub ahead of print	2020
Matsuoka K, Hamada S, Shimizu M, Nanki K, Mizuno S, Kiyohara H, Arai M, Sugimoto S, Iwao Y, Ogata H, Hisamatsu T, Nagauma M, Kanai T, Mochizuki M, Hashiguchi M	Factors contributing to the systemic clearance of infliximab with long-term administration in Japanese patients with Crohn's disease: Analysis using population pharmacokinetics.	Int J Clin Pharmacol Ther.		Epub ahead of print	2020
Yoshimatsu Y, Naganuma M, Sugimoto S, Tanemoto S, Umeda S, Fukuda T, Nomura E, Yoshida K, Ono K, Mutaguchi M, Nanki K, Mizuno S, Mikami Y, Fukuhara K, Sujino T, Takabayashi K, Ogata H, Iwao Y, Kanai T	Development of an Indigo Naturalis Suppository for Topical Induction Therapy in Patients with Ulcerative Colitis.	Digestion.		Epub ahead of print	2020

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Sugimoto S, Shimoda M, Iwao Y, Mutaguchi M, Nanki K, Mizuno S, Kameyama K, <u>Ogata H</u> , Naganuma M, Kanai T	Intramucosal poorly differentiated and signet-ring cell components in patients with ulcerative colitis-associated high-grade dysplasia.	Dig Endosc.	31(6)	706-711	2019
Mutaguchi M, Naganuma M, Sugimoto S, Fukuda T, Nanki K, Mizuno S, Hosoe N, Shimoda M, <u>Ogata H</u> , Iwao Y, Kanai T	Difference in the clinical characteristic and prognosis of colitis-associated cancer and sporadic neoplasia in ulcerative colitis patients.	Dig Liver Dis.	51(9)	1257-1264	2019
Akiyama S, Matsuoka K, Fukuda K, Hamada S, Shimizu M, Nanki K, Mizuno S, Kiyohara H, Arai M, Sugimoto S, Iwao Y, <u>Ogata H</u> , Hisamatsu T, Naganuma M, Motobayashi M, Suzuki K, Takenaka K, Fujii T, Saito E, Nagahori M, Ohtsuka K, Mochizuki M, Watanabe M, Hashiguchi M, Kanai T.	Long-term effect of NUDT15 R139C on hematologic indices in inflammatory bowel disease patients treated with thiopurine.	J Gastroenterol Hepatol.	34(10)	1751-1757	2019
Matsuno Y, Umeno J, Esaki M, Hirakawa Y, Fuyuno Y, Okamoto Y, Hirano A, Yasukawa S, Hirai F, Matsui T, Hosomi S, Watanabe K, Hosoe N, <u>Ogata H</u> , Hisamatsu T, Yanai S, Kochi S, Kurahara K, Yao T, Torisu T, Kitazono T, Matsumoto T.	Measurement of prostaglandin metabolites is useful in diagnosis of small bowel ulcerations.	World J Gastroenterol.	25(14)	1753-1763	2019
Fukuda T, Naganuma M, Sugimoto S, Ono K, Nanki K, Mizuno S, Kimura K, Mutaguchi M, Nakazato Y, Takabayashi K, Inoue N, <u>Ogata H</u> , Iwao Y, Kanai T	Efficacy of Therapeutic Intervention for Patients With an Ulcerative Colitis Mayo Endoscopic Score of 1.	Inflamm Bowel Dis.	25(4)	782-788	2019
福原佳代子、緒方晴彦	炎症性腸疾患診断におけるAI導入の可能性	臨床消化器内科	34(7)	949-951	2019
細江直樹、神谷研次、林由紀恵、宮永亮一、水野慎大、福原佳代子、高林馨、長沼誠、緒方晴彦、金井隆典	IBDにおけるカプセル内視鏡による炎症の評価	IBD Research	13(1)	16-19	2019
Miyoshi J, Matsuoka K, Yoshida A, Naganuma M, Hisamatsu T, Yajima T, Inoue N, Okamoto S, Iwao Y, <u>Ogata H</u> , Ueno F, Hibi T, Kanai T	5-Aminosalicylic acid aggravates colitis mimicking exacerbation of ulcerative colitis.	Intest Res.	16(4)	635-640	2018
Hosoe N, Nakano M, Takeuchi K, Endo Y, Matsuoka K, Abe T, Omori T, Hayashida M, Kobayashi T, Yoshida A, Mizuno S, Yoshihiro N, Naganuma M, Kanai T, Watanabe M, Ueno F, Suzuki Y, Hibi T, <u>Ogata H</u>	Establishment of a Novel Scoring System for Colon Capsule Endoscopy to Assess the Severity of Ulcerative Colitis-Capsule Scoring of Ulcerative Colitis.	Inflamm Bowel Dis.	24(12)	2641-2647	2018
<u>Ogata H</u> , Yokoyama T, Mizushima S, Hagino A, Hibi T	Comparison of efficacy of once daily multimatrix mesalazine 2.4 g/day and 4.8 g/day with other 5-aminosalicylic acid preparation in active ulcerative colitis: a randomized, double-blind study.	Intest Res.	16(2)	255-266	2018
Kobayashi T, Hisamatsu T, Suzuki Y, <u>Ogata H</u> , Andoh A, Araki T, Hokari R, Iijima H, Ikeuchi H, Ishiguro Y, Kato S, Kunisaki R, Matsumoto T, Motoya S, Nagahori M, Nakamura S, Nakase H, Tsujikawa T, Sasaki M, Yokoyama K, Yoshimura N, Watanabe K, Katafuchi M, Watanabe M, Hibi T	Predicting outcomes to optimize disease management in inflammatory bowel disease in Japan: their differences and similarities to Western countries.	Intest Res.	16(2)	168-177	2018
細江直樹、緒方晴彦、金井隆典	炎症性腸疾患の検査・診断 炎症性腸疾患の画像診断 大腸カプセル内視鏡	日本臨牀	76(増刊号3)	204-208	2018
高林馨、細江直樹、長沼誠、金井隆典、緒方晴彦	炎症性腸疾患の検査・診断 炎症性腸疾患の画像診断 炎症性腸疾患における画像診断の進歩	日本臨牀	76(増刊号3)	183-188	2018
中里圭宏、別所理恵子、細江直樹、長沼誠、緒方晴彦	潰瘍性大腸炎の内視鏡的重症度評価 超拡大内視鏡所見からみた重症度	胃と腸	53(2)	183-192	2018
木村佳代子、緒方晴彦	潰瘍性大腸炎に対するタクロリムスの適応	消化器・肝臓内科	3(1)	22-27	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Ogata H, Aoyama N, Mizushima S, Hagino A, Hibi T	Comparison of efficacy of multimatrix mesalazine 4.8 g/day once-daily with other high-dose mesalazine in active ulcerative colitis: a randomized, double-blind study.	Intest Res.	15(3)	368-379	2017
Ogata H, Ohori A, Nishino H, Mizushima S, Hagino A, Hibi T	Comparison of efficacies of once-daily dose multimatrix mesalazine and multiple-dose mesalazine for the maintenance of remission in ulcerative colitis: a randomized, double-blind study.	Intest Res.	15(3)	358-367	2017
Hosoe N, Ohmiya N, Hirai F, Umeno J, Esaki M, Yamagami H, Onodera K, Bamba S, Imaeda H, Yanai S, Hisamatsu T, Ogata H, Matsumoto T	CEAS atlas group: Chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene (CEAS) - Characterization of an enteric disorder to be considered in the differential diagnosis of Crohn's disease.	J Crohns Colitis.	11(10)	1277-1281	2017
Nakazato Y, Naganuma M, Sugimoto S, Bessho R, Arai M, Kiyohara H, Ono K, Nanki K, Mutaguchi M, Mizuno S, Kobayashi T, Hosoe N, Shimoda M, Abe T, Inoue N, Ogata H, Iwao Y, Kanai T	Endocytoscopy can be used to assess histological healing in ulcerative colitis.	Endoscopy.	49(6)	560-563	2017
Naganuma M, Yahagi N, Bessho R, Ohno K, Arai M, Mutaguchi M, Mizuno S, Fujimoto A, Uraoka T, Shimoda M, Hosoe N, Ogata H, Kanai T	Evaluation of the severity of ulcerative colitis using endoscopic dual red imaging targeting deep vessels.	Endosc Int Open.	5(1)	E76-E82	2017
Sugimoto S, Naganuma M, Iwao Y, Matsuo K, Shimoda M, Mikami S, Mizuno S, Nakazato Y, Nanki K, Inoue N, Ogata H, Kanai T	Endoscopic morphological features of ulcerative colitis-associated dysplasia classified according to the SCENIC consensus statement.	Gastrointest Endosc.	85(3)	639-646	2017
Naganuma M, Okuda S, Hisamatsu T, Matsuo K, Mori K, Hosoe N, Nakazato Y, Ogata H, Kanai T	Findings of ulceration and severe stricture on MRE can predict prognosis of Crohn's disease in patients treated with anti-TNF treatment.	Abdom Radiol (N Y).	42(1)	141-151	2017
長沼誠、岩男泰、緒方晴彦、金井隆典	【腸炎まるわかり】炎症性腸疾患(IBD) 潰瘍性大腸炎	消化器内視鏡	29(1)	31-35	2017
Yoshimatsu Y, Naganuma M, Sugimoto S, Tanemoto S, Umeda S, Fukuda T, Nomura E, Yoshida K, Ono K, Mutaguchi M, Nanki K, Mizuno S, Mikami Y, Fukuhara K, Sujino T, Takabayashi K, Ogata H, Iwao Y, Kanai T	Development of an Indigo Naturalis Suppository for Topical Induction Therapy in Patients with Ulcerative Colitis.	Digestion		1-7	2019
Sugimoto S, Shimoda M, Iwao Y, Mutaguchi M, Nanki K, Mizuno S, Kameyama K, Ogata H, Naganuma M, Kanai T	Intramucosal poorly differentiated and signet-ring cell components in patients with ulcerative colitis-associated high-grade dysplasia	Dig Endosc	31	706-711	2019
Fukuda T, Naganuma M, Kanai T	Current new challenges in the management of ulcerative colitis	Intest Res	17	36-44	2019
Naganuma M, Sugimoto S, Suzuki H, Matsuno Y, Araki T, Shimizu H, Hayashi R, Fukuda T, Nakamoto N, Iijima H, Nakamura S, Kataoka M, Tamura Y, Tatsumi K, Hibi T, Suzuki Y, Kanai T	Adverse events in patients with ulcerative colitis treated with indigo naturalis: a Japanese nationwide survey	J Gastroenterol	54	891-896	2018
Nanki K, Toshimitsu K, Takano A, Fujii M, Shimokawa M, Ohta Y, Matano M, Seino T, Nishikori S, Ishikawa K, Kawasaki K, Togasaki K, Takahashi S, Sukawa Y, Ishida H, Sugimoto S, Kawakubo H, Kim J, Kitagawa Y, Sekine S, Koo BK, Kanai T, Sato T	Divergent Routes toward Wnt and R-spondin Niche Independence during Human Gastric Carcinogenesis	Cell	174	856-869.e17	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Naganuma M, Sugimoto S, Mitsuyama K, Kobayashi T, Yoshimura N, Ohi H, Tanaka S, Andoh A, Ohmiya N, Saigusa K, Yamamoto T, Morohoshi Y, Ichikawa H, Matsuoka K, Hisamatsu T, Watanabe K, Mizuno S, Suda W, Hattori M, Fukuda S, Hirayama A, Abe T, Watanabe M, Hibi T, Suzuki Y, Kanai T	Efficacy of Indigo Naturalis in a Multicenter Randomized Controlled Trial of Patients With Ulcerative Colitis	Gastroenterology	154	935-947	2018
Naganuma M, Sugimoto S, Fukuda T, Mitsuyama K, Kobayashi T, Yoshimura N, Ohi H, Tanaka S, Andoh A, Ohmiya N, Saigusa K, Yamamoto T, Morohoshi Y, Ichikawa H, Matsuoka K, Hisamatsu T, Watanabe K, Mizuno S, Abe T, Suzuki Y, Kanai T	Indigo naturalis is effective even in treatment-refractory patients with ulcerative colitis: a post hoc analysis from the INDIGO study	J Gastroenterol			2017
Saruta M, Park DI, Kim YH, Yang SK, Jang BI, Cheon JH, Im JP, Kanai T, Katsuno T, Ishiguro Y, Nagaoka M, Isogawa N, Li Y, Banerjee A, Ahmad A, Hassan-Zahraee M, Clare R, Gorelick KJ, Cataldi F, Watanabe M, Hibi T.	Anti-MAdCAM-1 antibody (PF-00547659) for active refractory Crohn's disease in Japanese and Korean patients: the OPERA study.	Intest Res.	18(1)	45-55	2020
Higashiyama M, Sugita A, Koganei K, Wanatabe K, Yokoyama Y, Uchino M, Nagahori M, Naganuma M, Bamba S, Kato S, Takeuchi K, Omori T, Takagi T, Matsumoto S, Nagasaka M, Sagami S, Kitamura K, Katsurada T, Sugimoto K, Takatsu N, Saruta M, Sakurai T, Watanabe K, Nakamura S, Suzuki Y, Hokari R.	Correction to: Management of elderly ulcerative colitis in Japan.	J Gastroenterol.	54(10)	936-937	2019
Hisamatsu T, Kato S, Kunisaki R, Matsuura M, Nagahori M, Motoya S, Esaki M, Fukata N, Inoue S, Sugaya T, Sakuraba H, Hirai F, Watanabe K, Kanai T, Naganuma M, Nakase H, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T, Nojima M, Matsumoto T; DIAMOND2 Study Group.	Withdrawal of thiopurines in Crohn's disease treated with scheduled adalimumab maintenance: a prospective randomised clinical trial (DIAMOND2).	J Gastroenterol.	54(10)	860-870	2019
Hisamatsu T, Matsumoto T, Watanabe K, Nakase H, Motoya S, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T; DIAMOND study group.	Concerns and Side Effects of Azathioprine During Adalimumab Induction and Maintenance Therapy for Japanese Patients With Crohn's Disease: A Subanalysis of a Prospective Randomised Clinical Trial [DIAMOND Study].	J Crohns Colitis.	13(9)	1097-1104	2019
Higashiyama M, Sugita A, Koganei K, Wanatabe K, Yokoyama Y, Uchino M, Nagahori M, Naganuma M, Bamba S, Kato S, Takeuchi K, Omori T, Takagi T, Matsumoto S, Nagasaka M, Sagami S, Kitamura K, Katsurada T, Sugimoto K, Takatsu N, Saruta M, Sakurai T, Watanabe K, Nakamura S, Suzuki Y, Hokari R.	Management of elderly ulcerative colitis in Japan.	J Gastroenterol.	54(7)	571-586	2019
Arihiro S, Nakashima A, Matsuoka M, Suto S, Uchiyama K, Kato T, Mitobe J, Komoike N, Itagaki M, Miyakawa Y, Kodo S, Hokari A, Saruta M, Tajiri H, Matsuura T, Urashima M.	Randomized Trial of Vitamin D Supplementation to Prevent Seasonal Inflammatory Bowel Disease.	Inflamm Bowel Dis.	25(6)	1088-1095	2019
猿田雅之.	薬の知識 ベドリズマブ(エンタイピオ)	臨床消化器内科	34(12)	1524-1528	2019
猿田雅之.	【IBDの腸管外合併症を機序から紐解く!】IBDに合併する関節炎.	IBD Research	13(3)	129-130	2019
丸山友希, 猿田雅之	【実地内科医のための潰瘍性大腸炎診療ABC】治療 腸管外合併症とその対処.	診断と治療	107(7)	819-824	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
宮下春菜, 猿田雅之	【医薬品副作用学(第3版)上-薬剤の安全使用アップデート-】薬効群別副作用 腸疾患治療薬(消化管運動改善薬、腸機能改善薬、炎症性腸疾患治療薬、過敏性腸症候群治療薬など)。	日本臨床	77(3)	281-287	2019
櫻井俊之, 猿田雅之	【炎症性腸疾患診療の update-診断・治療の最新知見】炎症性腸疾患の内科治療 5-ASA(5-アミノサリチル酸)製剤。	消化器内視鏡	34(7)	807-8011	2019
Watanabe K, Matsumoto T, Hisamatsu T, Nakase H, Motoya S, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T; DIAMOND study group.	Clinical and Pharmacokinetic Factors Associated With Adalimumab-Induced Mucosal Healing in Patients With Crohn's Disease.	Clin Gastroenterol Hepatol.	16(4)	542-549	2018
Ito Z, Uchiyama K, Odahara S, Takami S, Saito K, Kobayashi H, Koido S, Kubota T, Ohkusa T, Saruta M.	Fatty Acids as Useful Serological Markers for Crohn's Disease.	Dig Dis.	36(3)	209-217	2018
Shirakabe K, Higashiyama M, Furuhashi H, Takajo T, Maruta K, Okada Y, Kurihara C, Watanabe C, Komoto S, Tomita K, Nagao S, Miura S, Saruta M, Hokari R.	Amelioration of colitis through blocking lymphocytes entry to Peyer's patches by sphingosine-1-phosphate lyase inhibitor.	J Gastroenterol Hepatol.	Jan 15		2018
猿田雅之.	【血流障害と消化管疾患】 その他 IBDと血流障害	臨床消化器内科	34(1)	95-100	2018
丸山友希, 猿田雅之	【もっともっとフィジカル!-黒帯級の技とパール】消化器系の症候 炎症性腸疾患を疑うとき。	Medicina	55(9)	1378-1382	2018
櫻井俊之, 猿田雅之	【上部消化管疾患の現況と今後の展望-病態・診断から治療を探る】クローン病(上部消化管病変)。	カレントセラピー	36(7)	679-686	2018
白壁和彦, 東山正明, 猿田雅之, 穂苅量太	カラメル色素に含まれるTHIによる炎症性腸疾患モデルの治療効果とその作用機序の動態的検討	消化と吸収	40(2)	91-95	2018
秋田義博, 猿田雅之	【病態から考え出されたIBD治療の進歩】各種 JAK阻害薬。	Intestine	22(3)	255-259	2018
宮下春菜, 猿田雅之	アレルギー消化器疾患】食物アレルギー性消化管疾患の診断と治療。	消化器・内視鏡	3(5)	475-482	2018
宮崎亮佑, 猿田雅之	炎症性腸疾患(第2版)-病因解明と診断・治療の最新知見-】炎症性腸疾患の内科的治療 炎症性腸疾患の内科的治療戦略 潰瘍性大腸炎の内科治療戦略。	日本臨床	76(増3)	279-285	2018
丸山友希, 猿田雅之	【炎症性腸疾患(第2版)-病因解明と診断・治療の最新知見-】炎症性腸疾患の内科的治療 炎症性腸疾患の新規治療薬の開発状況。	日本臨床	76(増3)	386-391	2018
Nakase H, Motoya S, Matsumoto T, Watanabe K, Hisamatsu T, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T; DIAMOND study group.	Significance of measurement of serum trough level and anti-drug antibody of adalimumab as personalised pharmacokinetics in patients with Crohn's disease: a subanalysis of the DIAMOND trial.	Aliment Pharmacol Ther.	46(9)	873-882	2017
Hosoe N, Ohmiya N, Hirai F, Umeno J, Esaki M, Yamagami H, Onodera K, Bamba S, Imaeda H, Yanai S, Hisamatsu T, Ogata H, Matsumoto T; CEAS Atlas Group.	Chronic Enteropathy Associated With SLC02A1 Gene [CEAS]-Characterisation of an Enteric Disorder to be Considered in the Differential Diagnosis of Crohn's Disease.	J Crohns Colitis.	11(10)	1277-1281	2017
櫻井俊之, 猿田雅之	【IBD治療薬のポジショニングを考える~現在と将来展望~】新たなラインナップを加えた5-ASA製剤をどう使いこなすか?	IBD Research	11(4)	202-206	2017
白壁和彦, 東山正明, 猿田雅之, 穂苅量太	2-acetyl-4-tetrahydroxybutyl imidazoleによるSphingosine-1-phosphate lyase抑制がDSS腸炎に及ぼす影響の検討。	リンパ学	40(2)	82-85	2017
宮崎亮佑, 猿田雅之	注目の新薬 リアルダ(メサラジン)。	診断と治療	105(12)	1599-1602	2017

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
宮下春菜, 猿田雅之	【炎症性腸疾患の新しい治療戦略】 タイト・モニタリングにおける treat-to-target を目指した治療戦略.	Medical Science Digest	43(14)	718-721	2017
秋田義博, 猿田雅之	クローン病の内科的治療.	消化器の臨床	20(4)	244-249	2017
筒井佳苗, 猿田雅之	【プライマリ・ケア医のための消化器症候学】 便通異常 慢性下痢 「このところずっと、下痢が続いています」.	Medicina	54(6)	902-905	2017
Takeuchi I, Kaburaki Y, Arai K, Shimizu H, Hirano Y, Nagata S, Shimizu T.	Infliximab for Very Early-Onset Inflammatory Bowel Disease: A Tertiary Center Experience in Japan.	J Gastroenterol Hepatol	In press		2019
Kumagai H, Kudo T, Uchida K, Kunisaki R, Sugita A, Ohtsuka Y, Arai K, Kubota M, Tajiri H, Suzuki Y, Shimizu T.	Adult gastroenterologists' views on transitional care: Results from a survey.	Pediatr Int	61	817-822	2019
Yanagi T, Ushijima K, Koga H, Tomomasa T, Tajiri H, Kunisaki R, Ishige T, Yamada H, Arai K, Yoden A, Aomatsu T, Nagata S, Uchida K, Ohtsuka Y, Shimizu T.	Tacrolimus for ulcerative colitis in children: a multicenter survey in Japan.	Intest Res	17	476-485	2019
Hagiwara SI, Kudo T, Kakuta F, Inoue M, Yokoyama K, Umetsu S, Iwama I, Yodoshi T, Tatsuki M, Shimizu T, Nakayama Y.	Clinical Safety and Utility of Pediatric Balloon Assisted Enteroscopy; A Multicenter Prospective Study in Japan.	J Pediatr Gastroenterol Nutr	68	306-310	2019
日本小児栄養消化器肝臓学会・日本IBD研究会 小児IBD治療指針2019改訂ワーキンググループ 新井勝大, 工藤孝広, 熊谷秀規, 齋藤武, 清水泰岳, 高橋美智子, 立花奈緒, 南部隆亮, 内田恵一, 国崎玲子, 石毛崇, 福岡智哉, 虻川大樹, 清水俊明, 田尻仁.	小児クローン病治療指針(2019年).	日本小児栄養消化器肝臓学会誌	33	90-109	2019
日本小児栄養消化器肝臓学会・日本IBD研究会 小児IBD治療指針2020改訂ワーキンググループ 虻川大樹, 青松友槻, 井上幹大, 岩間達, 熊谷秀規, 清水泰岳, 神保圭佑, 南部隆亮, 水落建輝, 内田恵一, 国崎玲子, 石毛崇, 福岡智哉, 新井勝大, 清水俊明, 田尻仁.	小児潰瘍性大腸炎治療指針(2019年).	日本小児栄養消化器肝臓学会誌	33	110-127.	2019
Sakaguchi K, Koyanagi A, Kamachi F, Harauma A, Chiba A, Hisata K, Moriguchi T, Shimizu T, Miyake S.	Breastfeeding regulates development of immune system through TGF- in mice pups.	Pediatr Int	60	224-231	2018
清水俊明.	【疫学的検討からみるIBD診療の現状と未来への展望】 小児期発症IBDの特徴.	IBD Research	12	226-230	2018
清水俊明.	【炎症性腸疾患(第2版)-病因解明と診断・治療の最新知見-】 小児・高齢炎症性腸疾患の特徴と対応および炎症性腸疾患患者の妊娠への指導 小児炎症性腸疾患の疫学と現状および課題.	日本臨床	76(増)	483-489	2018
清水俊明, 大塚宜一.	移行期医療 成人に達する/達した患者への医療 (Vol.11) 小児消化器疾患.	医学のあゆみ	266	805-810	2018
Hosoi K, Arai K, Matsuoka K, Shimizu H, Kamei K, Nakazawa A, Shimizu T, Tang J, Ito S.	Prolonged Tacrolimus Use for Pediatric Gastrointestinal Disorder - A Double-edged Sword?	Pediatr Int	59	588-582	2017
Hosoi K, Ohtsuka Y, Fujii T, Kudo T, Matsunaga N, Tomomasa T, Tajiri H, Kunisaki R, Ishige T, Yamada H, Arai K, Yoden A, Ushijima K, Aomatsu T, Nagata S, Uchida K, Takeuchi K, Shimizu T.	Treatment with infliximab for pediatric Crohn's disease: Nationwide survey of Japan.	J Gastroenterol Hepatol	32	114-119	2017
Sato M, Shoda T, Shimizu H, Orihara K, Futamura K, Matsuda A, Yamada Y, Irie R, Yoshioka T, Shimizu T, Ohya Y, Nomura I, Matsumoto K, Arai K.	Gene Expression Patterns in Distinct Endoscopic Findings for Eosinophilic Gastritis in Children.	J Allergy Clin Immunol Pract	5	1639-1642	2017

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Uchida K, Ohtsuka Y, Yoden A, Tajiri H, Kimura H, Isihige T, Yamada H, Arai K, Tomomasa T, Ushijima K, Aomatsu T, Nagata S, Otake K, Matsushita K, Inoue M, Kudo T, Hosoi K, Takeuchi K, Shimizu T.	Immunosuppressive medication is not associated with surgical site infection after surgery for intractable ulcerative colitis in children.	Intractable Rare Dis Res	6	106-113	2017
清水俊明.	【小児・妊婦・高齢者に対するIBD診療】小児の炎症性腸疾患の特徴.	INTESTINE	21	107-112	2017
新井喜康, 工藤孝広, 藤井徹, 遠藤周, 安部信平, 春名英典, 青柳陽, 鈴木光幸, 大塚宜一, 清水俊明.	メサラジン製剤に対するアレルギー反応を認めた Crohn 病の幼児例.	小児科臨床	70	492-497	2017
杉田昭, 小金井一隆, 辰巳健志	潰瘍性大腸炎における大腸全摘、J型回腸囊肛門管吻合術(器械吻合)	臨床外科	75(2)	2-5	2020
林宏行, 小野響子, 杉田昭, 小金井一隆	潰瘍性大腸炎における異形成/癌の診断基準と問題点	胃と腸	54(11)	1502-1508	2019
小金井一隆, 辰巳健志, 杉田昭	外科治療	診断と治療	107(7)	825-829	2019
小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 黒木博介, 中尾詠一, 杉田昭	クローン病の肛門病変	臨床外科	74(6)	724-730	2019
福島恒男, 中島光一, 野沢博, 西野晴夫, 杉田昭, 小金井一隆, 二木了, 山口滋紀, 浅野史織, 松島誠	Ustekinumab 投与中にギランバレー症候群を合併したクローン病の1例	日本消化器病学会雑誌	116(4)	324-329	2019
小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 黒木博介, 杉田昭	クローン病の手術適応	臨床外科	73	1372-1376	2018
渡辺和宏, 倉地清隆, 水島恒和, 亀山仁史, 佐々木巖, 杉田昭, 根津理一郎, 舟山裕土, 福島浩平, 内藤剛, 海野倫明, 二見喜太郎	クローン病における直腸肛門癌の癌スクリーニングの現状と問題点: 国内専門施設へのアンケート調査	日本大腸肛門病学会雑誌	7	283-290	2018
小金井一隆, 杉田昭	潰瘍性大腸炎に対する開腹手術の適応と実際	日本医事新報	4911	35-41	2018
杉田昭, 小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 黒木博介, 山田恭子, 荒井勝彦, 福島恒男	クローン病合併癌の診断, 治療の現況と課題	大腸がん perspective	14	28-32	2018
小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 黒木博介, 杉田昭	クローン病人工肛門造設例の経過と合併症	日本臨床増刊号 炎症性腸疾患(第2版)	76	458-463	2018
杉田昭, 小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 黒木博介	炎症性腸疾患に対する外科治療の動向と位置付け	日本臨床増刊号 炎症性腸疾患(第2版)	76	427-435	2018
黒木博介, 小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 山田恭子, 荒井勝彦, 小原尚, 木村英明, 杉田昭, 福島恒男	直腸会陰尿道瘻を合併したクローン病6例の診断, 治療(直腸切断術, 直腸空置術)についての検討	日消誌	115	108-116	2018
杉田昭, 小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 黒木博介, 小原尚	潰瘍性大腸炎の手術適応	手術	71	953-958	2017
小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 黒木博介, 木村英明, 杉田昭	開腹大腸全摘・回腸囊肛門管吻合術	手術	71	127-132	2017
小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 黒木博介, 杉田昭	クローン病	日本臨床	75	426-432	2017
Kakiuchi N, Yoshida K, Uchino M, Kihara T, Akaki K, Inoue Y, Kawada K, Nagayama S, Yokoyama A, Yamamoto S, Matsuura M, Horimatsu T, Hirano T, Goto N, Takeuchi Y, Ochi Y, Shinozawa Y, Kogure Y, Watatani Y, Fujii Y, Kim SK, Kon A, Kataoka K, Yoshizato T, Nakagawa MM, Yoda A, Nanya Y, Makishima H, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Sanada M, Sugihara E, Sato TA, Maruyama T, Miyoshi H, Taketo MM, Oishi J, Inagaki R, Ueda Y, Okamoto S, Okajima H, Sakai Y, Sakurai T, Haga H, Hirota S, Ikeuchi H, Nakase H, Marusawa H, Chiba T, Takeuchi O, Miyano S, Seno H, Ogawa S.	Frequent mutations that converge on the NFKBIZ pathway in ulcerative colitis.	Nature	577	260-265	2020

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Honzawa Y, Matsuura M, Higuchi H, Sakurai T, Seno H, <u>Nakase H.</u>	A novel endoscopic imaging system for quantitative evaluation of colonic mucosal inflammation patients with quiescent ulcerative colitis.	Endosc Int Open	8	E41-E49	2020
Kakuta Y, Izumiyama Y, Okamoto D, Nakano T, Ichikawa R, Naito T, Moroi R, Kuroha M, Kanazawa Y, Kimura T, Shiga H, Kudo H, Minegishi N, Kawai Y, Tokunaga K, Nagasaki M, Kinouchi Y, Suzuki Y, Masamune A, for the MENDEL study.	High-resolution melt analysis enables simple genotyping of complicated polymorphisms of codon 18 rendering the <i>NUDT15</i> diplotype.	J Gastroenterol	55	67-77	2020
<u>Nakase H.</u>	Optimizing the use of current treatments and emerging therapeutic approaches to achieve therapeutic success in patients with inflammatory bowel disease.	Gut Liver	14	7-19	2020
Bossuyt P, <u>Nakase H.</u> , Vermeire S, de Hertogh G, Eelbode T, Ferrante M, Hasegawa T, Willekens H, Ikemoto Y, Makino T, Bisschops R.	Automatic computer-aided determination of endoscopic and histological inflammation in patients with mild to moderate ulcerative colitis based on red density.	Gut	doi:10.1136/gutjnl-2019-320056		2020
Zhu Y, Cui G, Miyauchi E, Nakanishi Y, Mukohira H, Shimba A, Abe S, Tani-Ichi S, Hara T, <u>Nakase H.</u> , Chiba T, Sehara-Fujisawa A, Seno H, Ohno H, Ikuta K.	Intestinal epithelial cell-derived IL-15 determines local maintenance and maturation of intraepithelial lymphocytes in the intestine.	Int Immunol	doi:10.1093/intimm/dxz082.		2019
<u>Nakase H.</u>	Opening the epithelial barrier: osteopontin preserves gut barrier function during intestinal inflammation.	Dis Sci	64	294-296	2019
Hisamatsu T, Kato S, Kunisaki R, Matsuura M, Nagahori M, Motoya S, Esaki M, Fukata N, Inoue S, Sugaya T, Sakuraba H, Hirai F, Watanabe K, Kanai T, Naganuma M, <u>Nakase H.</u> , Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T, Nojima M, Matsumoto T, DIAMOND2 Study Group.	Withdrawal of thiopurines in Crohn's disease treated with scheduled adalimumab maintenance: a prospective randomised clinical trial (DIAMOND2).	J Gastroenterol	54	860-870	2019
<u>Iida T.</u> , Nojima M, <u>Nakase H.</u>	Therapeutic efficacy and adverse events of tacrolimus in patients with Crohn's disease: systematic review and meta-analysis.	Dig Dis Sci	64	2945-2954	2019
Wagatsuma K, Yamada S, Ao M, Matsuura M, Tsuji H, <u>Iida T.</u> , Miyamoto K, Oka K, Takahashi M, Tanaka K, <u>Nakase H.</u>	Diversity of gut microbiota affecting serum level of undercarboxylated osteocalcin in patients with Crohn's Disease.	Nutrients	11	E1541	2019
Hisamatsu T, Matsumoto T, Watanabe K, <u>Nakase H.</u> , Motoya S, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T, DIAMOND study group.	Concerns and side effects of azathioprine during adalimumab induction and maintenance therapy for Japanese patients with Crohn's disease: a subanalysis of a prospective randomised clinical trial (DIAMOND Study).	J Crohns Colitis	13	1097-1104	2019
Saito D, Hibi N, Ozaki R, Kikuchi O, Sato T, Tokunaga S, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Sakuraba A, Hayashida M, Miyoshi J, Matsuura M, <u>Nakase H.</u> , Hisamatsu T.	MEFV gene-related enterocolitis account for some cases diagnosed as inflammatory bowel disease unclassified.	Digestion	6	1-9	2019
<u>Iida T.</u> , Hirayama D, Minami N, Matsuura M, Wagatsuma K, Kawakami K, Nagaishi K, Nojima M, Ikeuchi H, Hirota S, Shirakawa R, Horiuchi H, <u>Nakase H.</u>	Down-regulation of RalGTPase-activating protein promotes colitis-associated cancer via NLRP3 inflammasome activation.	Cell Mol Gastroenterol Hepatol	9	277-293	2019
<u>Iida T.</u> , Wagatsuma K, Hirayama D, Yokoyama Y, <u>Nakase H.</u>	The etiology of pancreatic manifestations in patients with inflammatory bowel disease.	J Clin Med	8	E916	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Yamamoto Y, Masuda S, Nakase H, Matsuura M, Maruyama S, Hisamatsu T, Suzuki Y, Matsubara K.	Influence of pharmaceutical formulation on the mucosal concentration of 5-aminosalicylic acid and <i>N</i> -acetylmethylsalicylic acid in Japanese patients with ulcerative colitis.	Biol Pharm Bull	42	81-86	2019
飯田智哉, 宮川麻希, 那須野正尚, 田中浩紀, 吉田雄一郎, 蔵原晃一, 朝倉謙輔, 梁井俊一, 松本主之, 仲瀬裕志	小腸の非腫瘍性疾患	胃と腸	54	526-531	2019
仲瀬裕志	炎症性腸疾患治療の現状と将来	日本消化器病学会雑誌	116	185-192	2019
仲瀬裕志	薬剤編: ネオプリン製剤	IBD クリニカルカンファレンス	1	62-65	2019
永石歆和, 仲瀬裕志	自己骨髄間葉系幹細胞を用いた再生医療	消化器病学サイエンス	3	23-26	2019
仲瀬裕志	免疫調節薬のメリット、使い方、モニタリングの実際	診断と治療	107	805-809	2019
仲瀬裕志	家族性地中海熱遺伝子関連腸炎	医学のあゆみ	270	354-356	2019
仲瀬裕志	IBD に合併する肺病変	IBD Research	13	151-155	2019
仲瀬裕志	炎症性腸疾患の概説	消化器外科	42	1635-1644	2019
仲瀬裕志	腸管ペーチェット病の鑑別疾患 家族性地中海熱関連腸炎	INTESTINE	23	513-518	2019
仲瀬裕志, 平山大輔, 我妻康平, 風間友江, 横山佳浩	MEFV 遺伝子異常に関連する消化管病変	胃と腸	54	1715-1722	2019
仲瀬裕志	家族性地中海熱遺伝子関連の消化管病変	Gastroenterol Endosc	61	2455-2465	2019
Kakuta Y, Kawai Y, Okamoto D, Takagawa T, Ikeya K, Sakuraba H, Nishiba A, Nakagawa S, Miura M, Toyonaga T, Onodera K, Shinozaki M, Ishiguro Y, Mizuno S, Takahara M, Yanai S, Hokari R, Nakagawa T, Araki H, Motoya S, Naito T, Moroi R, Shiga H, Endo K, Kobayashi T, Naganuma M, Hiraoka S, Matsumoto T, Nakamura S, Nakase H, Hisamatsu T, Sasaki M, Nanai H, Andoh A, Nagasaki M, Kinouchi Y, Shimosegawa T, Masamune A, Suzuki Y, for the MENDEL study.	NUDT15 codon 139 is the best pharmacogenetic marker for predicting thiopurine-induced severe adverse events in Japanese patients with inflammatory bowel disease: a multicenter study.	J Gastroenterol	53	1065-1078	2018
Ando K, Fujiya M, Nomura Y, Inaba Y, Sugiyama Y, Kobayashi Y, Iwama T, Ijiri M, Takahashi K, Ueno N, Kashima S, Moriichi K, Tanabe H, Mizukami Y, Akasaka K, Fujii S, Yamada S, Nakase H, Okumura T.	The Incidence and risk factors of venous thromboembolism in patients with inflammatory bowel disease: a prospective multicenter cohort study.	Digestion	14	1-9	2018
Naganuma M, Sugimoto S, Mitsuyama K, Kobayashi T, Yoshimura N, Ohi H, Tanaka S, Andoh A, Ohmiya N, Saigusa K, Yamamoto T, Morohoshi Y, Ichikawa H, Matsuoka K, Hisamatsu T, Watanabe K, Mizuno S, Suda W, Hattori M, Fukuda S, Hirayama A, Abe T, Watanabe M, Hibi T, Suzuki Y, Kanai T, for the INDIGO Study Group. Nakase H.	Efficacy of indigo naturalis in a multicenter randomized controlled trial of patients with ulcerative colitis.	Gastroenterology	154	935-947	2018
Nakamura S, Imaeda H, Nishikawa H, Iimuro M, Matsuura M, Oka H, Oku J, Miyazaki T, Honda H, Watanabe K, Nakase H, Andoh A.	Usefulness of fecal calprotectin by monoclonal antibody testing in adult Japanese with inflammatory bowel diseases: a prospective multicenter study.	Intest Res	16	554-562	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Hisamatsu T, Kunisaki R, Nakamura S, Tsujikawa T, Hirai F, <u>Nakase H</u> , Watanabe K, Yokoyama K, Nagahori M, Kanai T, Naganuma M, Michimae H, Andoh A, Yamada A, Yokoyama T, Kamata N, Tanaka S, Suzuki Y, Hibi T, Watanabe M.	Effect of elemental diet combined with infliximab dose escalation in patients with Crohn's disease with loss of response to infliximab: CERISIER trial.	Intest Res	16	494-498	2018
Nakajima A, Vogelzang A, Maruya M, Miyajima M, Murata M, Son A, Kuwahara T, Tsuruyama T, Yamada S, Matsuura M, <u>Nakase H</u> , Peterson DA, Fagarasan S, Suzuki K.	IgA regulates the composition and metabolic function of gut microbiota by promoting symbiosis between bacteria.	J Exp Med	215	2019-2032	2018
Kobayashi T, Hisamatsu T, Suzuki Y, Ogata H, Andoh A, Araki T, Hokari R, Iijima H, Ikeuchi H, Ishiguro Y, Kato S, Kunisai R, Matsumoto T, Motoya S, Nagahori M, Nakamura S, <u>Nakase H</u> , Tsujikawa T, Sasaki M, Yokoyama K, Yoshimura N, Watanabe K, Katafuchi M, Watanabe M, Hibi T.	Predicting outcomes to optimize disease management in inflammatory bowel disease in Japan: their differences and similarities to Western countries.	Intest Res	16	168-177	2018
Watanabe K, Matsumoto T, Hisamatsu T, <u>Nakase H</u> , Motoya S, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T, for the DIAMOND study group.	Clinical and pharmacokinetic factors associated with adalimumab-induced mucosal healing in patients with Crohn's disease.	Clinical Gastroenterology and Hepatology	16	542-549	2018
Matsuoka K, Kobayashi T, Ueno F, Matsui T, Hirai F, Inoue N, Kato J, Kobayashi K, Kobayashi K, Koganei K, Kunisaki R, Motoya S, Nagahori M, <u>Nakase H</u> , Omata F, Saruta M, Watanabe T, Tanaka T, Kanai T, Noguchi Y, Takahashi K, Watanabe K, Hibi T, Suzuki Y, Watanabe M, Sugano K, Shimosegawa T.	Evidence-based clinical practice guidelines for inflammatory bowel disease.	J Gastroenterol	53	305-353	2018
Hirai F, Andoh A, Ueno F, Watanabe K, Ohmiya N, <u>Nakase H</u> , et al.	Efficacy of endoscopic balloon dilation for small bowel strictures in patients with Crohn's disease: A nationwide, multi-center, open-label, prospective cohort study.	J Crohns Colitis	12	394-401	2018
Kawakami K, Minami N, Matsuura M, <u>Iida T</u> , Toyonaga T, Nagaishi K, Arimura Y, Fujimiya M, Uede T, <u>Nakase H</u> .	Osteopontin attenuates acute gastrointestinal graft-versus-host disease by preventing apoptosis of intestinal epithelial cells.	Biochem Biophys Res Commun	485	468-485	2017
<u>Iida T</u> , Onodera K, <u>Nakase H</u> .	Role of autophagy in the pathogenesis of inflammatory bowel disease.	World J Gastroenterol	23	1944-1953	2017
<u>Nakase H</u> , Sakuma S, Fukuchi T, et al	Evaluation of a novel fluorescent nanobeacon for targeted imaging of Thomsen-Friedenreich associated colorectal cancer.	Int J Nanomedicine	12	1747-1755	2017
<u>Iida T</u> , Yamashita K, <u>Nakase H</u> .	A Unique Cause of Persistent Diarrhea.	Gastroenterology	38	1291-1292	2017
Ao M, Tsuji H, Shide K, Kosaka Y, Noda A, Inagaki N, <u>Nakase H</u> , Tanaka K.	High prevalence of vitamin B-12 insufficiency in patients with Crohn's disease.	Asia Pac J Clin Nutr	26	1076-1081	2017
<u>Nakase H</u> , Motoya S, Matsumoto T.	Significance of measurement of serum trough level and anti-drug antibody of adalimumab as personalised pharmacokinetics in patients with Crohn's disease: a subanalysis of the DIAMOND trial.	Aliment Pharmacol Ther	46	873-882	2017
<u>Nakase H</u> .	Editorial: therapeutic drug monitoring for anti-TNF agents-has it all been said? Author's reply.	Aliment Pharmacol Ther	46	1114-1115	2017

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Hiejima E, Yasumi T, <u>Nakase H</u> , et al	Tricho-hepato-enteric syndrome with novel SKIV2L gene mutations: A case report.	Medicine (Baltimore)	96	e8601	2017
<u>Iida T</u> , Wagatsuma K, Hirayama D, <u>Nakase H</u> .	Is Osteopontin a Friend or Foe of Cell Apoptosis in Inflammatory Gastrointestinal and Liver Diseases?	Int J Mol Sci	19	E7	2017
Hirayama D, <u>Iida T</u> , <u>Nakase H</u> .	The Phagocytic Function of Macrophage-Enforcing Innate Immunity and Tissue Homeostasis.	Int J Mol Sci	19	E92	2017
Okabayashi S, Kobayashi T, Saito E, Toyonaga T, Ozaki R, Sagami S, <u>Nakano M</u> , Tanaka J, Yagisawa K, Kuronuma S, Takeuchi O, Hibi T.	Individualized treatment based on CYP3A5 single-nucleotide polymorphisms with tacrolimus in ulcerative colitis.	Intest Res.	17(2)	218-226	2019
Sagami S, Kobayashi T, Kikkawa N, Umeda S, <u>Nakano M</u> , Toyonaga T, Okabayashi S, Ozaki R, Hibi T	Combination of colonoscopy and magnetic resonance enterography is more useful for clinical decision making than colonoscopy alone in patients with complicated Crohn's disease.	PLoS One.	14(2)	e0212404	2019
Yagisawa K, Kobayashi T, Ozaki R, Okabayashi S, Toyonaga T, Miura M, Hayashida M, Saito E, <u>Nakano M</u> , Matsubara H, Hisamatsu T, Hibi T	Randomized, crossover questionnaire survey of acceptabilities of controlled-release mesalazine tablets and granules in ulcerative colitis patients.	Intest Res.	17(1)	87-93	2019
Ozaki R, Kobayashi T, Okabayashi S, <u>Nakano M</u> , Morinaga S, Hara A, Ohbu M, Matsuoka K, Toyonaga T, Saito E, Hisamatsu T, Hibi T	Histological Risk Factors to Predict Clinical Relapse in Ulcerative Colitis with Endoscopically Normal Mucosa.	J Crohns Colitis	12(11)	1288-1294	2018
Hosoe N, <u>Nakano M</u> , Takeuchi K, Endo Y, Matsuoka K, Abe T, Omori T, Hayashida M, Kobayashi T, Yoshida A, Mizuno S, Yoshihiro N, Naganuma M, Kanai T, Watanabe M, Ueno F, Suzuki Y, Hibi T, Ogata H	Establishment of a Novel Scoring System for Colon Capsule Endoscopy to Assess the Severity of Ulcerative Colitis-Capsule Scoring of Ulcerative Colitis.	Inflamm Bowel Dis	24(12)	2641-2647	2018
Okabayashi S, Kobayashi T, <u>Nakano M</u> , Toyonaga T, Ozaki R, Carla Tablante M, Kuronuma S, Takeuchi O, Hibi T	A Simple 1-Day Colon Capsule Endoscopy Procedure Demonstrated to be a Highly Acceptable Monitoring Tool for Ulcerative Colitis.	Inflamm Bowel Dis	24(11)	2404-2412	2018
Umeda S, Serizawa H, Kobayashi T, Toyonaga T, Saito E, <u>Nakano M</u> , Higuchi H, Tsunematsu S, Watanabe N, Hibi T, and Morinaga S	Clinical significance of human intestinal spirochetosis: a retrospective study.	Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi	114(2)	230-237	2017
Toyonaga T, Kobayashi T, <u>Nakano M</u> , Saito E, Umeda S, Okabayashi S, Ozaki R, Hibi T	Usefulness of fecal calprotectin for the early prediction of short-term outcomes of remission-induction treatments in ulcerative colitis in comparison with two-item patient-reported outcome.	PLoS One	21;12	9	2017
Okabayashi S, Kobayashi T [corresponding author], Sujino T, Ozaki R, Umeda S, Toyonaga T, Saito E, <u>Nakano M</u> , Tablante MC, Morinaga S, Hibi T.	Steroid-refractory extensive enteritis complicated with ulcerative colitis successfully treated with adalimumab.	Intest Res	15(4)	535-539	2017
Okabayashi S, Kobayashi T [corresponding author], <u>Nakano M</u> , Toyonaga T, Ozaki R, Tablante MC, Kuronuma S, Takeuchi O, Hibi T	A simple 1-day colon capsule endoscopy procedure demonstrated to be a highly acceptable monitoring tool for ulcerative colitis.	Inflamm Bowel Dis	in press		2017
Miyazaki T, Watanabe K, Kojima K, Koshihara R, Fujimoto K, Sato T, Kawai M, Kamikozuru K, Yokoyama Y, Hida N, <u>Nakamura S</u> .	Efficacies and Related Issues of Ustekinumab in Japanese Patients with Crohn's Disease: A Preliminary Study.	Digestion	101	53-9	2020
Higashiyama M, Sugita A, Koganei K, Watanabe K, Yokoyama Y, Uchino M, Nagahori M, Naganuma M, Bamba S, Kato S, Takeuchi K, Omori T, Takagi T, Matsumoto S, Nagasaka M, Sagami S, Kitamura K, Katsurada T, Sugimoto K, Takatsu N, Saruta M, Sakurai T, Watanabe K, <u>Nakamura S</u> , Suzuki Y, Hokari R.	Management of elderly ulcerative colitis in Japan.	Journal of Gastroenterology	54 (7)	571-86	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
中村 志郎, 小島 健太郎, 藤本 晃士, 小柴 良司, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 横山 陽子, 上小鶴 孝二, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 渡辺 憲治.	消化器内科-炎症性腸疾患におけるステロイド療法-	臨床と研究.	96(4)	417-23	2019
渡辺 憲治, 上小鶴 孝二, 横山 陽子, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 中村 志郎.	CT・MRI.	臨床消化器内科	34(7)	751-5	2019
渡辺 憲治, 中村 志郎.	潰瘍性大腸炎 病態分類(拡がりによる病型分類, 病期分類, 重症度分類など)	胃と腸	54(5)	698-9	2019
中村 志郎, 樋田 信幸, 渡辺 憲治, 宮崎 孝子, 横山 陽子, 上小鶴 孝二.	炎症性腸疾患治療指針・ガイドライン	臨床消化器内科	34(7)	104-10	2019
渡辺 憲治, 樋田 信幸, 中村 志郎.	ワクチン接種.	診断と治療	107(7)	855-8	2019
中村 志郎, 小島 健太郎, 藤本 晃士, 小柴 良司, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 横山 陽子, 上小鶴 孝二, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 渡辺 憲治.	潰瘍性大腸炎 新規局所製剤 プデソニド注腸フォーム剤の特徴と仕様の実際	新薬と臨床	68(9)	1165-71	2019
高川 哲也, 中村 志郎.	IBD治療とゲノム情報.	IBD Research	13(2)	77-81	2019
Nakamura S, Watanabe T, Shimada S, Nadatani Y, Otani K, Tanigawa T, Miyazaki T, Iimuro M, Fujiwara Y.	Does discontinuation of antithrombotics affect the diagnostic yield of small bowel capsule endoscopy in patients demonstrating obscure gastrointestinal bleeding?	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition	63(2):	149-53	2018
Nakamura S, Imaeda H, Nishikawa H, Iimuro M, Matsuura M, Oka H, Oku J, Miyazaki T, Honda H, Watanabe K, Nakase H, Andoh A..	Usefulness of fecal calprotectin by monoclonal antibody testing in adult Japanese with inflammatory bowel diseases: a prospective multicenter study.	INTESTINAL RESEARCH	16(4)	554-62	2018
Morita K, Shibano T, Maekawa K, Hattori M, Hida N, Nakamura S, Takeshima Y.	Crohn's disease following rituximab treatment in a patient with refractory nephrotic syndrome.	Gen Case Reports	7		2018
Takagawa T, Kitani A, Fuss I, Levine B, Brant SR, Peter I, Tajima M, Nakamura S, Strober W.	An increase in LRRK2 suppresses autophagy and enhances Dectin-1-induced immunity in a mouse model of colitis.	Science Translational Medicine	10(444)		2018
Nakamura S, Watanabe T, Tanigawa T, Shimada S, Nadatani Y, Miyazaki T, Iimuro Mi, Fujiwara Y.	Isoliquiritigenin Ameliorates Indomethacin-Induced Small Intestinal Damage by Inhibiting NOD-Like Receptor Family, Pyrin Domain-Containing 3 Inflammasome Activation.	Pharmacology	101(5-6)	236-45	2018
西尾 昭宏, 中村 志郎.	炎症性腸疾患治療薬: 5-ASA製剤.	Medicina	55(4)	226-9	2018
河合 幹夫, 中村 志郎.	プデソニド経口剤.	INTESTINE	22(3)	277-81	2018
中村 志郎.	炎症性腸疾患の治療指針 平成28年度クローン病治療指針.	日本臨床	76(3)	303-8	2018
渡辺 憲治, 上小鶴 孝二, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 中村 志郎.	CT・MRI診断概論.	日本臨床	76(3)	220-5	2018
渡辺 憲治, 西下 正和, 横山 陽子, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 中村 志郎.	潰瘍性大腸炎の dysplasia.	臨床消化器内科	33(8)	1045-50	2018
渡辺 憲治, 樋田 信幸, 宮崎 孝子, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 高川 哲也, 横山 陽子, 中村 志郎.	色素拡大内視鏡・NBI.	INTESTINE	22(4)	324-9	2018
中村 志郎, 河合 幹夫, 佐藤 寿行, 藤本 晃士, 小柴 良司, 小島 健太郎, 上小鶴 孝二, 横山 陽子, 高川 哲也, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 渡辺 憲治.	プデソニド経口製剤.	IBD Research	12(3)	151-6	2018
中村 志郎, 樋田 信幸, 渡辺 憲治, 宮崎 孝子, 高川 哲也, 横山 陽子, 上小鶴 孝二, 河合 幹夫, 佐藤 寿行, 藤本 晃士, 小柴 良司, 小島 健太郎.	最新のクローン病に対する内科治療.	臨床外科	73(12)	1327-33	2018
渡辺 憲治, 小島 健太郎, 藤本 晃士, 小柴 良司, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 高川 哲也, 横山 陽子, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 中村 志郎.	IBD患者の感染合併症.	IBD Resarch	12(4)	231-6	2018
渡辺 憲治, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 中村 志郎, 味岡 洋一.	UCにおける IEEを用いたサーベイランスと colitis associated cancer/dysplasiaの IEE診断.	消化器内視鏡	30(12)	1712-4	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
佐藤 寿行, 内野 基, 横山 陽子, 應田 義雄, 樋田 信幸, 渡辺 憲治, 堀 和敏, 三輪 洋人, 池内 浩基, 中村 志郎.	当院における免疫抑制治療中の潰瘍性大腸炎に合併したニューモシスチス肺炎に関する臨床的検討: case-control study.	日本外科感染症学会雑誌	15(6)	639-44	2018
樋田 信幸, 中村 志郎.	潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍の治療方針と経過観察.	INTESTINE	22(1)	59-64	2018
渡辺 憲治, 樋田 信幸, 宮崎 孝子, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 高川 哲也, 横山 陽子, 中村 志郎.	潰瘍性大腸炎関連腫瘍に対する至適サーベイランス法の検討 インジゴカルミン色素散布法 vsNBI法.	INTESTINE	22(1)	53-8	2018
渡辺 憲治, 藤森 絢子, 小柴 良司, 藤本 晃士, 佐藤 寿行, 木田 裕子, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 高川 哲也, 横山 陽子, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 中村 志郎.	今後本邦で承認が見込まれるクローン病治療薬の特徴.	消化器の臨床	21(1)	48-52	2018
渡辺 憲治, 樋田 信幸, 宮崎 孝子, 藤森 絢子, 小柴 良司, 藤本 晃士, 佐藤 寿行, 木田 裕子, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 高川 哲也, 横山 陽子, 中村 志郎.	潰瘍性大腸炎の内視鏡的重症度評価-NBI拡大内視鏡所見からみた重症度.	胃と腸	53(2)	177-81	2018
宮崎 孝子, 渡辺 憲治., 樋田 信幸, 中村 志郎.	潰瘍性大腸炎に対する生物学的製剤の適応	消化器・肝臓内科	3(1)	28-33	2018
中村 志郎, 樋田 信幸, 渡辺 憲治.	炎症性腸疾患治療の最前線-治療指針・ガイドラインを踏まえて.	日本消化器病学会雑誌	115(3)	233-43	2018
Yokoyama Y, Kamikozuru K, Watanabe K, Nakamura S.	Inflammatory bowel disease patients experiencing a loss of response to infliximab regain long-term response after undergoing granulocyte/monocyte apheresis: A case series.	Cytokine	103	25-8	2017
中村 志郎.	潰瘍性大腸炎-内科治療最新の動向	SRL宝函	38(1)	27-37	2017
西尾 昭宏, 中村 志郎.	潰瘍性大腸炎に対する5-ASA製剤をどのように使いこなすか	Mebio	34(7)	18-26	2017
中村 志郎.	炎症性腸疾患内科.	臨床免疫・アレルギー科	68(3)	284-93	2017
中村 志郎, 河合 幹夫, 西尾 昭宏.	5ASA製剤とステロイドの最適化のための進歩.	Medical Science Digest	43(14)	16-9	2017
西尾 昭宏, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 高川 哲也, 木田 裕子, 横山 陽子, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 堀 和敏, 中村 志郎.	Crohn病.	消化器内視鏡	29(1)	36-45	2017
横山 陽子, 上小鶴 孝二, 中村 志郎.	血球成分除去療法.	日本臨牀	75(3)	419-25	2017
中村 志郎, 樋田 信幸.	潰瘍性大腸炎:診断基準・治療指針.	診断と治療	105	79-89	2017
Akiyama S, Matsuoka K, Fukuda K, Hamada S, Shimizu M, Nanki K, Mizuno S, Kiyohara H, Arai M, Sugimoto S, Iwao Y, Ogata H, Hisamatsu T, Naganuma M, Motobayashi M, Suzuki K, Takenaka K, Fujii T, Saito E, Nagahori M, Ohtsuka K, Mochizuki M, Watanabe M, Hashiguchi M, Kanai T	Long-term effect of NUDT15 R139C on hematologic indices in inflammatory bowel disease patients treated with thiopurine.	J Gastroenterol Hepatol	(Epub ahead of print)		2019
Takenaka K, Fujii T, Suzuki K, Shimizu H, Motobayashi M, Hibiya S, Saito E, Nagahori M, Watanabe M, Ohtsuka K	Small Bowel Healing Detected by Endoscopy in Patients With Crohn's Disease After Treatment With Antibodies Against Tumor Necrosis Factor.	Clin Gastroenterol Hepatol	(Epub ahead of print)		2019
Motobayashi M, Matsuoka K, Takenaka K, Fujii T, Nagahori M, Ohtsuka K, Iwamoto F, Tsuchiya K, Negi M, Eishi Y, Watanabe M	Predictors of mucosal healing during induction therapy in patients with acute moderate-to-severe ulcerative colitis.	J Gastroenterol Hepatol	34(6)	1004-1010	2019
Hisamatsu T, Matsumoto T, Watanabe K, Nakase H, Motoya S, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T	Concerns and side effects of azathioprine during adalimumab induction and maintenance therapy for Japanese patients with Crohn's disease: a sub-analysis of a prospective randomized clinical trial (DIAMOND study).	J Crohns Colitis	13(9)	1097-1104	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Hisamatsu T, Kato S, Kunisaki R, Matsuura M, <u>Nagahori M</u> , Motoya S, Esaki M, Fukata N, Inoue S, Sugaya T, Sakuraba H, Hirai F, Watanabe K, Kanai T, Naganuma M, Nakase H, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T, Nojima M, Matsumoto T; DIAMOND2 Study Group	Withdrawal of thiopurines in Crohn's disease treated with scheduled adalimumab maintenance: a prospective randomised clinical trial (DIAMOND2).	J Gastroenterol	54(10)	860-870	2019
Tsuda S, Sameshima A, Sekine M, Kawaguchi H, Fujita D, Makino S, Morinobu A, Murakawa Y, Matsui K, Sugiyama T, Watanabe M, Suzuki Y, <u>Nagahori M</u> , Murashima A, Atsumi T, Oku K, Mitsuda N, Takei S, Miyamae T, Takahashi N, Nakajima K, Saito S	Ministry of Health Labour and Welfare Working Group for "Guideline for The Treatment of Rheumatoid Arthritis or Inflammatory Bowel Disease Bearing Women in Child-bearing Age". Pre-conception status, obstetric outcome and use of medications during pregnancy of systemic lupus erythematosus (SLE), rheumatoid arthritis (RA) and inflammatory bowel disease (IBD) in Japan: Multi-center retrospective descriptive study.	Mod Rheumatol		1-10	2019
鈴木康平、 <u>長堀正和</u> 、渡辺 守	炎症性腸疾患の内科治療 免疫調節薬	臨床消化器内科	34(70)	817-821	2019
大塚和朗、竹中健人、鈴木康平、 <u>長堀正和</u> 、渡辺 守	炎症性腸疾患の検査法 小腸バルーン内視鏡検査	臨床消化器内科	34(7)	746-750	2019
Takenaka K, Ohtsuka K, Kitazume Y, Matsuoka K, <u>Nagahori M</u> , Fujii T, Saito E, Kimura M, Fujioka T, Watanabe M	Utility of magnetic resonance enterography for small bowel endoscopic healing in patients with Crohn's disease.	Am J Gastroenterol	113(2)	283-294	2018
Hisamatsu T, Kunisaki R, Nakamura S, Tsujikawa T, Hirai F, Nakase H, Watanabe K, Yokoyama K, <u>Nagahori M</u> , Kanai T, Naganuma M, Michimae H, Andoh A, Yamada A, Yokoyama T, Kamata N, Tanaka S, Suzuki Y, Hibi T, Watanabe M; CERISIER Trial group	Effect of elemental diet combined with infliximab dose escalation in patients with Crohn's disease with loss of response to infliximab: CERISIER trial.	Intest Res	16(3)	494-498	2018
Iwamoto F, Matsuoka K, Motobayashi M, Takenaka K, Kuno T, Tanaka K, Tsukui Y, Kobayashi S, Yoshida T, Fujii T, Saito E, Yamaguchi T, <u>Nagahori M</u> , Sato T, Ohtsuka K, Enomoto N, Watanabe M	Prediction of disease activity of Crohn's disease through fecal calprotectin evaluated by balloon-assisted endoscopy.	J Gastroenterol Hepatol	33(12)	1984-1989	2018
Kobayashi T, Hisamatsu T, Suzuki Y, Ogata H, Andoh A, Araki T, Hokari R, Iijima H, Ikeuchi H, Ishiguro Y, Kato S, Kunisaki R, Matsumoto T, Motoya S, <u>Nagahori M</u> , Nakamura S, Nakase H, Tsujikawa T, Sasaki M, Yokoyama K, Yoshimura N, Watanabe K, Katafuchi M, Watanabe M, Hibi T	their differences and similarities to Western countries.	Intest Res	16(2)	168-177	2018
Watanabe K, Matsumoto T, Hisamatsu T, Nakase H, Motoya S, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M1, <u>Nagahori M</u> , Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T; DIAMOND study group	Clinical and Pharmacokinetic Factors Associated With Adalimumab-Induced Mucosal Healing in Patients With Crohn's Disease.	Gastroenterol Hepatol	16(4)	542-549	2018
竹中健人、大塚和朗、鈴木康平、勝倉暢洋、福田将義、藤井俊光、齊藤詠子、本林麻衣子、松岡克善、 <u>長堀正和</u> 、北詰良雄、藤岡友之、渡辺 守	【IBDの内視鏡的粘膜治癒-評価法と臨床的意義】 Crohn病の内視鏡的重症度評価 小腸病変の評価法 内視鏡とほかのモダリティの比較	胃と腸	53(2)	203-210	2018
竹中健人、大塚和朗、 <u>長堀正和</u> 、藤井俊光、渡辺 守	クローン病における小腸内視鏡的治癒に対するMRI検査の有用性	INTESRINE	22(5)	201-505	2018
大塚和朗、竹中健人、藤井俊光、松岡克善、 <u>長堀正和</u> 、齊藤詠子、鈴木康平、北詰良雄、渡辺 守	【小腸出血性疾患の診断と治療-最近の進歩】 出血を主徴とする小腸非腫瘍性病変の診断と治療 出血を主な臨床像とするCrohn病	胃と腸	53(6)	823-828	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
大塚和朗、福田将義、竹中健人、鈴木康平、齋藤詠子、松岡克善、藤井俊光、長堀正和、岡田英里子、渡辺 守	【大腸内視鏡挿入法を極める-機器の進化と手技の進歩】 偶発症の予防と対策	消化器内視鏡	30(3)	396-402	2018
大塚和朗、福田将義、和田祥城、松岡克善、長堀正和、藤井俊光、竹中健人、齋藤詠子、本林麻衣子、渡辺 守	手技の解説 潰瘍性大腸炎関連腫瘍の拾い上げ	Gastroenterologic Endoscopy	60(1)	57-63	2018
大塚和朗、福田将義、竹中健人、鈴木康平、長堀正和、藤井俊光、齋藤詠子、小林正典、渡辺 守	【大腸内視鏡の話題-機器と挿入法】 挿入補助具 バルーン内視鏡 a.シングルバルーン	Intestine	22(6)	567-569	2018
Nakase H, Motoya S, Matsumoto T, Watanabe K, Hisamatsu T, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T; DIAMOND study group	Significance of measurement of serum trough level and anti-drug antibody of adalimumab as personalised pharmacokinetics in patients with Crohn's disease: a subanalysis of the DIAMOND trial.	Aliment Pharmacol Ther			2017
Akiyama S, Fujii T, Matsuoka K, Ebana Y, Negi M, Takenaka K, Nagahori M, Ohtsuka K, Isobe M, Watanabe M	Endoscopic features and genetic background of inflammatory bowel disease complicated with Takayasu arteritis.	J Gastroenterol Hepatol	32(5)	1011-1017	2017
Nagahori M, Kochi S, Hanai H, Yamamoto T, Nakamura S, Omuro S, Watanabe M, Hibi T; OPTIMUM Study Group	Real life results in using 5-ASA for maintaining mild to moderate UC patients in Japan, a multi-center study, OPTIMUM Study	BMC Gastroenterol	17(1)	47	2017
Tsuchiya K, Hayashi R, Fukushima K, Hibiya S, Horita N, Negi M, Itoh E, Akashi T, Eishi Y, Motoya S, Takeuchi Y, Kunisaki R, Fukunaga K, Nakamura S, Yoshimura N, Takazoe M, Iizuka B, Suzuki Y, Nagahori M, Watanabe M	Caudal type homeobox 2 expression induced by leukocytapheresis might be associated with mucosal healing in ulcerative colitis.	J Gastroenterol Hepatol	32(5)	1032-1039	2017
Takenaka K, Ohtsuka K, Kitazume Y, Matsuoka K, Fujii T, Nagahori M, Kimura M, Fujioka T, Araki A, Watanabe M	Magnetic resonance evaluation for small bowel strictures in Crohn's disease: comparison with balloon enteroscopy.	J Gastroenterol	52(8)	879-888	2017
Kuwahara E, Murakami Y, Nakamura T, Inoue N, Nagahori M, Matsui T, Watanabe M, Suzuki Y, Nishiwaki Y	Factors associated with exacerbation of newly diagnosed mild ulcerative colitis based on a nationwide registry in Japan.	J Gastroenterol	52(2)	185-193	2017
Takenaka K, Ohtsuka K, Kitazume Y, Matsuoka K, Nagahori M, Fujii T, Saito E, Kimura M, Fujioka T, Watanabe M	Utility of magnetic resonance enterography for small bowel endoscopic healing in patients with Crohn's disease.	Am J Gastroenterol	(in press)	(in press)	2017
竹中健人、大塚和朗、鈴木康平、勝倉暢洋、福田将義、藤井俊光、齋藤詠子、本林麻衣子、松岡克善、長堀正和、北詰良雄、藤岡友之、渡辺 守	小腸病変の評価法：内視鏡とほかのモダリティーの比較	胃と腸	53(2)		2017
長堀正和	X. 高齢者に対する炎症性腸疾患治療における注意点	INTESTINE	21(2)	167-171	2017
長堀正和	特集 IBD の診療ガイドラインを臨床にいかにか活かすか？ ガイドラインを活かした潰瘍性大腸炎の診断と治療	IBD Resarch	11(2)	81-85	2017
長堀正和	炎症性腸疾患（IBD）診療ガイドライン2016 - 改訂のポイント	臨床栄養	131(1)	13-16	2017
長堀正和	特集：炎症性腸疾患 .炎症性腸疾患の検査・診断 問診・血液・生化学・細菌検査	日本臨床	75(3)	376-379	2017
Mari S OBA, Yoshitaka Murakami, Yuji Nishiwaki, Keiko Asakura, Satoko Ohfuji, Wakaba Fukushima, Yoshikazu Nakamura, Yasuo Suzuki	Estimated prevalence of Cronkhite-Canada Syndrome, Chronic Enteropathy Associated with SLC02A1 Gene, and Intestinal Behçet's Disease in Japan in 2017: A Nationwide Survey	J Epidemiol	In press		2020
Kobayashi Y, Ohfuji S, Kondo K, Fukushima W, Sasaki S, Kamata N, Yamagami H, Fujiwara Y, Suzuki Y, Hirota Y; Japanese Case-Control Study Group for Ulcerative Colitis	Association between dietary iron and zinc intake and development of ulcerative colitis: A case-control study in Japan.	J Gastroenterol Hepatol.	34	1703-1710	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Kondo K, Ohfuji S, Watanabe K, Yamagami H, Fukushima W, Ito K, Suzuki Y, Hirota Y; Japanese Case-Control Study Group for Crohn's disease.	Kondo K, Ohfuji S, Watanabe K, Yamagami H, Fukushima W, Ito K, Suzuki Y, Hirota Y; Japanese Case-Control Study Group for Crohn's disease.	PLoS One	14	e0216429	2019
Murakami Y, Nishiwaki Y, Oba MS, Asakura K, Ohfuji S, Fukushima W, Suzuki Y, Nakamura Y.	Estimated prevalence of ulcerative colitis and Crohn's disease in Japan in 2014: an analysis of a nationwide survey.	J Gastroenterol.	54	1070-1077	2019
西脇 祐司, 村上 義孝.	【炎症性腸疾患診療の update-診断・治療の最新知見】炎症性腸疾患の疫学 本邦における IBD の患者動向.	臨床消化器内科	34	710-713	2019
西脇 祐司, 村上 義孝	炎症性腸疾患(第2版)-病因解明と診断・治療の最新知見-】炎症性腸疾患の疫学 わが国炎症性腸疾患の疫学 .	日本臨床 .	76 巻増刊 3	35-39	2018
Hata K, Anzai H, Ikeuchi H, Futami K, Fukushima K, Sugita A, Uchino M, Higashi D, Itabashi M, Watanabe K, Koganei K, Araki T, Kimura H, Mizushima T, Ueda T, Ishihara S, Suzuki Y	Surveillance colonoscopy for ulcerative colitis-associated colorectal cancer offers better overall survival in real-world surgically resected cases	Am J Gastroenterol	114(3)	483-489	2019
Shinagawa T, Hata K, Morikawa T, Takiyama H, Emoto S, Murono K, Kaneko M, Sasaki K, Nishikawa T, Tanaka T, Kawai K, Fukayama M, Nozawa H	Pine-cone and villi patterns are endoscopic signs suggestive of ulcerative colitis-associated colorectal cancer and dysplasia.	Gastrointestinal Endoscopy	89(3)	565-575	2019
Shinagawa T, Hata K, Morikawa T, Matsunaga K, Emoto S, Murono K, Kaneko M, Sasaki K, Nishikawa T, Tanaka T, Kawai K, Nozawa H, Fukayama M, Ishihara S.	Loss of RUNX3 Immunoreactivity in Non-Neoplastic Rectal Mucosa May Predict the Occurrence of Ulcerative Colitis-Associated Colorectal Cancer.	Digestion	In press		2019
Hata K, Okada S, Shinagawa T, Tanaka T, Kawai K, Nozawa H	Meta analysis of the association of extraintestinal manifestations with the development of pouchitis in patients with ulcerative colitis	BJS open	3(4)	436-444	2019
Shinagawa T, Hata K, Ikeuchi H, Fukushima K, Futami K, Sugita A, Uchino M, Watanabe K, Higashi D, Kimura H, Araki T, Mizushima T, Itabashi M, Ueda T, Koganei K, Oba K, Ishihara S, Suzuki Y.	Rate of Reoperation Decreased Significantly After Year 2002 in Patients With Crohn's Disease.	Clin Gastroenterol Hepatol	In press		2019
Hata K, Shinagawa T, Watanabe T.	Efficacy of a Surveillance Endoscopy After an Ileorectal Anastomosis in Patients With Ulcerative Colitis.	Clin Gastroenterol Hepatol	16(1)	150-151	2018
Okada S, Hata K, Yokoyama T, Sasaki K, Kawai K, Tanaka T, Nishikawa T, Otani K, Kaneko M, Murono K, Emoto S, Nozawa H.	Postoperative bleeding after subtotal colectomy in two patients with severe ulcerative colitis.	Journal of digestive diseases	19(10)	641-645	2018
Okada S, Hata K, Emoto S, Murono K, Kaneko M, Sasaki K, Otani K, Nishikawa T, Tanaka T, Kawai K, Nozawa H.	Elevated risk of stoma outlet obstruction following colorectal surgery in patients undergoing ileal pouch-anal anastomosis: a retrospective cohort study.	Surgery Today	48(12)	1060-1067	2018
Ikeuchi H, Uchino M, Sugita A, Futami K, Fukushima K, Hata K, Koganei K, Kusunoki M, Uchida K, Nezu R, Kimura H, Takahashi K, Itabashi M, Kameyama H, Higashi D, Koyama F, Ueda T, Mizushima T, Suzuki Y.	Long-term outcomes following restorative proctocolectomy ileal pouch-anal anastomosis in pediatric ulcerative colitis patients: Multicenter national study in Japan.	Ann Gastroenterol Surg	2(6)	428-433	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Uchino M, Ikeuchi H, Sugita A, Futami K, Watanabe T, Fukushima K, Tatsumi K, Koganei K, Kimura H, Hata K, Takahashi K, Watanabe K, Mizushima T, Funayama Y, Higashi D, Araki T, Kusunoki M, Ueda T, Koyama F, Itabashi M, Nezu R, Suzuki Y; a research grant on intractable disease affiliated with the Japan Ministry of Health Labor Welfare.	Pouch functional outcomes after restorative proctocolectomy with ileal-pouch reconstruction in patients with ulcerative colitis: Japanese multi-center nationwide cohort study.	J Gastroenterol	53(5)	642-651	2018
Hata K, Ishii H, Anzai H, Ishihara S, Nozawa H, Kawai K, Kiyomatsu T, Watanabe T.	Preoperative Extraintestinal Manifestations Associated with Chronic Pouchitis in Japanese Patients with Ulcerative Colitis After Ileal Pouch-anal Anastomosis: A Retrospective Study.	Inflamm Bowel Dis	23(6)	1019-1024	2017
Hata K, Ishihara S, Nozawa H, Kawai K, Kiyomatsu T, Tanaka T, Kishikawa J, Anzai H, Watanabe T.	Pouchitis after ileal pouch-anal anastomosis in ulcerative colitis: Diagnosis, management, risk factors, and incidence.	Dig Endosc	29(1)	26-34	2017
渡邊聡明, 味岡洋一, 光山慶一, 渡辺憲治, 花井洋行, 仲瀬裕志, 国崎玲子, 松田圭二, 岩切 龍, 樋田信幸, 田中信二, 竹内義明, 大塚和朗, 村上 和, 小林清典, 岩男泰, 長堀正和, 飯塚文瑛, 畑啓介, 五十嵐正, 平田一郎, 工藤進英, 松本主之, 上野文昭, 渡辺玄, 池上雅博, 伊東陽子, 大庭幸治, 井上永介, 友次直輝, 武林亨, 杉原健一, 鈴木康夫, 渡辺 守, 日比紀文	潰瘍性大腸炎合併大腸癌に対するサーベイランスにおける狙撃生検とランダム生検の多施設ランダム化比較試験	Intestine	21(2)	179-181	2017
Hayashida M, Miyoshi J, Mitsui T, Miura M, Saito D, Sakuraba A, Kawashima S, Ikegaya N, Fukuoka K, Karube M, Komagata Y, Kaname S, Okada AA, Fujimori S, Matsuura M, Hisamatsu T.	Elevated fecal calprotectin and lactoferrin are associated with small intestinal lesions in patients with Behçet disease.	J Gastroenterol Hepatol.	Jan 30.	[Epub ahead of print]	2020
Matsuoka K, Hamada S, Shimizu M, Nanki K, Mizuno S, Kiyohara H, Arai M, Sugimoto S, Iwao Y, Ogata H, Hisamatsu T, Nagauma M, Kanai T, Mochizuki M, Hashiguchi M.	Factors contributing to the systemic clearance of infliximab with long-term administration in Japanese patients with Crohn's disease: Analysis using population pharmacokinetics .	Int J Clin Pharmacol Ther.	Feb;58(2):	89-102.	2020
Kakuta Y, Izumiyama Y, Okamoto D, Nakano T, Ichikawa R, Naito T, Moroi R, Kuroha M, Kanazawa Y, Kimura T, Shiga H, Kudo H, Minegishi N, Kawai Y, Tokunaga K, Nagasaki M, Kinouchi Y, Suzuki Y, Masasmune A; MENDEL study group(Hisamatsu T.).	High-resolution melt analysis enables simple genotyping of complicated polymorphisms of codon 18 rendering the NUDT15 diplotype.	J Gastroenterol.	Jan;55(1):	67-77.	2020
Naganuma M, Sugimoto S, Fukuda T, Mitsuyama K, Kobayashi T, Yoshimura N, Ohi H, Tanaka S, Andoh A, Ohmiya N, Saigusa K, Yamamoto T, Morohoshi Y, Ichikawa H, Matsuoka K, Hisamatsu T, Watanabe K, Mizuno S, Abe T, Suzuki Y, Kanai T; INDIGO Study Group.	Indigo naturalis is effective even in treatment-refractory patients with ulcerative colitis: a post hoc analysis from the INDIGO study.	J Gastroenterol.	Feb;55(2):	169-180.	2020
Kobayashi T, Udagawa E, Uda A, Hibi T, Hisamatsu T.	Impact of immunomodulator use on treatment persistence in patients with ulcerative colitis: a claims database analysis.	J Gastroenterol Hepatol.	Feb;35(2):	225-232.	2020
Adedokun OJ, Xu Z, Marano C, O'Brien C, Szapary P, Zhang H, Johanss J, Leong RW, Hisamatsu T, van Assche G, Danese S, Abreu MT, Sands BE, Sandborn WJ.	Ustekinumab Pharmacokinetics and Exposure Response in a Phase 3 Randomized Trial of Patients With Ulcerative Colitis: Ustekinumab PK and exposure-response in UC.	Clin Gastroenterol Hepatol.	Dec 6.	[Epub ahead of print]	2019
Suzuki Y, Watanabe M, Matsui T, Motoya S, Hisamatsu T, Yuasa H, Tabira J, Isogawa N, Tsuchiwata S, Arai S, Hibi T.	Tofacitinib as Induction and Maintenance Therapy in Japanese Patients with Active Ulcerative Colitis.	Inflamm Intest Dis.	Oct;4(4):	131-143.	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Schreiner P, Neurath MF, Ng SC, El-Omar EM, Sharara AI, Kobayashi T, Hisamatsu T, Hibi T, Rogler G.	Mechanism-Based Treatment Strategies for IBD: Cytokines, Cell Adhesion Molecules, JAK Inhibitors, Gut Flora, and More.	Inflamm Intest Dis.	Aug;4(3):	79-96	2019
Sands BE, Sandborn WJ, Panaccione R, O'Brien CD, Zhang H, Johanns J, Adedokun OJ, Li K, Peyrin-Biroulet L, Van Assche G, Danese S, Targan S, Abreu MT, Hisamatsu T, Szapary P, Marano C; UNIFI Study Group.	Ustekinumab as Induction and Maintenance Therapy for Ulcerative Colitis.	N Engl J Med.	Sep 26;381(13):	1201-1214.	2019
Yamazaki H, Matsuoka K, Fernandez J, Hibi T, Watanabe M, Hisamatsu T, Fukuhara S.	Ulcerative colitis outcomes research in Japan: protocol for an observational prospective cohort study of YOURS (YOU and Ulcerative colitis: Registry and Social network).	BMJ Open	Sep 8;9(9):	e030134.	2019
Saito D, Hibi N, Ozaki R, Kikuchi O, Sato T, Tokunaga S, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Sakuraba A, Hayashida M, Miyoshi J, Matsuura M, Nakase H, Hisamatsu T.	MEFV Gene-Related Enterocolitis Account for Some Cases Diagnosed as Inflammatory Bowel Disease Unclassified.	Digestion.	Sep 6:	1-9.	2019
Ooi CJ, Hilmi I, Banerjee R, Chuah SW, Ng SC, Wei SC, Makharia GK, Pisesongsap P, Chen MH, Ran ZH, Ye BD, Park DI, Ling KL, Ong D, Ahuja V, Goh KL, Sollano J, Lim WC, Leung WK, Ali RAR, Wu DC, Ong E, Mustaffa N, Limsrivilai J, Hisamatsu T, Yang SK, Ouyang Q, Geary R, De Silva JH, Rerknimitr R, Simadibrata M, Abdullah M, Leong RW; Asia Pacific Association of Gastroenterology (APAGE) Working Group on Inflammatory Bowel Disease and Asian Organization for Crohn's and Colitis.	Best practices on immunomodulators and biologic agents for ulcerative colitis and Crohn's disease in Asia.	Intest Res.	Jul;17(3):	285-310.	2019
Akiyama S, Matsuoka K, Fukuda K, Hamada S, Shimizu M, Naniki K, Mizuno S, Kiyohara H, Arai M, Sugimoto S, Iwao Y, Ogata H, Hisamatsu T, Naganuma M, Motobayashi M, Suzuki K, Takenaka K, Fujii T, Saito E, Nagahori M, Ohtsuka K, Mochizuki M, Watanabe M, Hashiguchi M, Kanai T.	Long-term effect of NUDT15 R139C on hematologic indices in inflammatory bowel disease patients treated with thiopurine.	J Gastroenterol Hepatol.	Oct;34(10):	1751-1757.	2019
Hisamatsu T, Kato S, Kunisaki R, Matsuura M, Nagahori M, Motoya S, Esaki M, Fukata N, Inoue S, Sugaya T, Sakuraba H, Hirai F, Watanabe K, Kanai T, Naganuma M, Nakase H, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T, Nojima M, Matsumoto T; DIAMOND2 Study Group.	Withdrawal of thiopurines in Crohn's disease treated with scheduled adalimumab maintenance: a prospective randomised clinical trial (DIAMOND2).	J Gastroenterol.	Oct;54(10):	860-870.	2019
Matsuno Y, Umeno J, Esaki M, Hirakawa Y, Fuyuno Y, Okamoto Y, Hirano A, Yasukawa S, Hirai F, Matsui T, Hosomi S, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hisamatsu T, Yanai S, Kochi S, Kurahara K, Yao T, Torisu T, Kitazono T, Matsumoto T.	Measurement of prostaglandin metabolites is useful in diagnosis of small bowel ulcerations.	World J Gastroenterol.	Apr 14;25(14):	1753-1763.	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Ooi CJ, Hilmi I, Banerjee R, Chuah SW, Ng SC, Wei SC, Makharia GK, Pisesongsa P, Chen MH, Ran ZH, Ye BD, Park DI, Ling KL, Ong D, Ahuja V, Goh KL, Sollano J, Lim WC, Leung WK, Raja Ali RA, Wu DC, Ong E, Mustafa N, Limsrivilai J, Hisamatsu T, Yang SK, Ouyang Q, Geary R, De Silva JH, Rerknimitr R, Simadibrata M, Abdullah M, Leong RWL; Asia Pacific Association of Gastroenterology (APAGE) Working Group on Inflammatory Bowel Disease and Asian Organization for Crohn's and Colitis.	Best practices on immunomodulators and biological agents for Ulcerative colitis and Crohn's disease in Asia.	J Gastroenterol Hepatol.	Aug;34(8):	1296-1315.	2019
Hisamatsu T, Matsumoto T, Watanabe K, Nakase H, Motoya S, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T; DIAMOND study group.	Concerns and side effects of azathioprine during adalimumab induction and maintenance therapy for Japanese patients with Crohn's disease: a sub-analysis of a prospective randomized clinical trial (DIAMOND study).	J Crohns Colitis.	Sep 19;13(9):	1097-1104.	2019
久松理一, 尾崎 良, 斎藤大祐	IBD 治療における本邦からのエビデンス -クローン病に対するアダリムマブ, monotherapy か combination therapy か? DIAMOND 試験を中心に	日本消化器病学会雑誌	116(3):	193-199.	2019
久松理一	テーマ: 「炎症性腸疾患 - 診断と治療の最前線 - 」	日本消化器内視鏡学会雑誌	Vol.61 (8).	p1523-1537	2019
Hisamatsu T, Matsumoto T, Watanabe K, Nakase H, Motoya S, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T	DIAMOND study group. Concerns and side effects of azathioprine during adalimumab induction and maintenance therapy for Japanese patients with Crohn's disease: a sub-analysis of a prospective randomized clinical trial (DIAMOND study).	J Crohns Colitis.	Feb 8.	doi: 10.1093/ecco-jcc/jjz030. [Epub ahead of print]	2019
Yagisawa K, Kobayashi T, Ozaki R, Okabayashi S, Toyonaga T, Miura M, Hayashida M, Saito E, Nakano M, Matsubara H, Hisamatsu T, Hibi T.	Randomized, crossover questionnaire survey of acceptabilities of controlled-release mesalazine tablets and granules in ulcerative colitis patients.	Intest Res.	Jan;17(1):	87-93.	2019
Yamamoto Y, Masuda S, Nakase H, Matsumura M, Maruyama S, Hisamatsu T, Suzuki Y, Matsubara K.	Influence of Pharmaceutical Formulation on the Mucosal Concentration of 5-Aminosalicylic Acid and N-Acetylmethylamine in Japanese Patients with Ulcerative Colitis.	Biol Pharm Bull.	Jan 1;42(1):	81-86.	2019
Kiyohara H, Sujino T, Teratani T, Miyamoto K, Arai MM, Nomura E, Harada Y, Aoki R, Koda Y, Mikami Y, Mizuno S, Naganuma M, Hisamatsu T, Kanai T.	Toll-Like Receptor 7 Agonist-Induced Dermatitis Causes Severe Dextran Sulfate Sodium Colitis by Altering the Gut Microbiome and Immune Cells.	Cell Mol Gastroenterol Hepatol.	Sep 25;7(1):	135-156.	2018
Miyoshi J, Matsuoka K, Yoshida A, Naganuma M, Hisamatsu T, Yajima T, Inoue N, Okamoto S, Iwao Y, Ogata H, Ueno F, Hibi T, Kanai T.	5-Aminosalicylic acid aggravates colitis mimicking exacerbation of ulcerative colitis.	Intest Res.	Oct;16(4):	635-640.	2018
Matsuoka K, Hamada S, Shimizu M, Nanki K, Mizuno S, Kiyohara H, Arai M, Sugimoto S, Iwao Y, Ogata H, Hisamatsu T, Naganuma M, Kanai T, Mochizuki M, Hashiguchi M.	Factors predicting the therapeutic response to infliximab during maintenance therapy in Japanese patients with Crohn's disease.	PLoS One.	Oct 4;13(10):	e0204632.	2018
Hisamatsu T, Kunisaki R, Nakamura S, Tsujikawa T, Hirai F, Nakase H, Watanabe K, Yokoyama K, Nagahori M, Kanai T, Naganuma M, Michimae H, Andoh A, Yamada A, Yokoyama T, Kamata N, Tanaka S, Suzuki Y, Hibi T, Watanabe M; CERISIER Trial group.	Effect of elemental diet combined with infliximab dose escalation in patients with Crohn's disease with loss of response to infliximab: CERISIER trial.	Intest Res.	Jul;16(3):	494-498.	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Mori K, Naganuma M, Mizuno S, Suzuki H, Kitazume MT, Shimamura K, Chiba S, Sugita A, Matsuoka K, Hisamatsu T, Kanai T.	b-(1,3)-Glucan derived from <i>Candida albicans</i> induces inflammatory cytokines from macrophages and lamina propria mononuclear cells derived from patients with Crohn's disease.	Intest Res.	Jul;16(3):	384-392.	2018
Ozaki R, Kobayashi T, Okabayashi S, Nakano M, Morinaga S, Hara A, Ohbuchi M, Matsuoka K, Toyonaga T, Saito E, Hisamatsu T, Hibi T.	Histological Risk Factors to Predict Clinical Relapse in Ulcerative Colitis with Endoscopically Normal Mucosa.	J Crohns Colitis.	Nov 15;12(11):	1288-1294.	2018
Kakuta Y, Kawai Y, Okamoto D, Takagawa T, Ikeya K, Sakuraba H, Nishida A, Nakagawa S, Miura M, Toyonaga T, Onodera K, Shinozaki M, Ishiguro Y, Mizuno S, Takahara M, Yanai S, Hokari R, Nakagawa T, Araki H, Motoya S, Naito T, Moroi R, Shiga H, Endo K, Kobayashi T, Naganuma M, Hirao S, Matsumoto T, Nakamura S, Nakase H, Hisamatsu T, Sasaki M, Hanai H, Andoh A, Nagasaki M, Kinouchi Y, Shimosegawa T, Masamune A, Suzuki Y; MENDEL study group.	NUDT15 codon 139 is the best pharmacogenetic marker for predicting thiopurine-induced severe adverse events in Japanese patients with inflammatory bowel disease: a multicenter study.	J Gastroenterol.	Sep;53(9):	1065-1078.	2018
Saito D, Hayashida M, Sato T, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Sakuraba A, Hisamatsu T.	Evaluation of the drug-induced lymphocyte stimulation test for diagnosing mesalazine allergy.	Intest Res.	Apr;16(2):	273-281.	2018
Kobayashi T, Hisamatsu T, Suzuki Y, Ogata H, Andoh A, Araki T, Hokari R, Iijima H, Ikeuchi H, Ishiguro Y, Kato S, Kunisaki R, Matsumoto T, Motoya S, Nagahori M, Nakamura S, Nakase H, Tsujikawa T, Sasaki M, Yokoyama K, Yoshimura N, Watanabe K, Katafuchi M, Watanabe M, Hibi T.	Predicting outcomes to optimize disease management in inflammatory bowel disease in Japan: their differences and similarities to Western countries.	Intest Res.	Apr;16(2):	168-177.	2018
Park DI, Hisamatsu T, Chen M, Ng SC, Ooi CJ, Wei SC, Banerjee R, Hilmli IN, Jeon YT, Han DS, Kim HJ, Ran Z, Wu K, Qian J, Hu PJ, Matsuoka K, Andoh A, Suzuki Y, Sugano K, Watanabe M, Hibi T, Puri AS, Yang SK.	Asian Organization for Crohn's and Colitis and Asia Pacific Association of Gastroenterology consensus on tuberculosis infection in patients with inflammatory bowel disease receiving anti-tumor necrosis factor treatment. Part 2: management.	Intest Res.	Jan;16(1):	17-25.	2018
Park DI, Hisamatsu T, Chen M, Ng SC, Ooi CJ, Wei SC, Banerjee R, Hilmli IN, Jeon YT, Han DS, Kim HJ, Ran Z, Wu K, Qian J, Hu PJ, Matsuoka K, Andoh A, Suzuki Y, Sugano K, Watanabe M, Hibi T, Puri AS, Yang SK.	Asian Organization for Crohn's and Colitis and Asia Pacific Association of Gastroenterology consensus on tuberculosis infection in patients with inflammatory bowel disease receiving anti-tumor necrosis factor treatment. Part 1: risk assessment.	Intest Res.	Jan;16(1):	4-16.	2018
Umeno J, Esaki M, Hirano A, Fuyuno Y, Ohmiya N, Yasukawa S, Hirai F, Kochi S, Kurahara K, Yanai S, Uchida K, Hosomi S, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hisamatsu T, Nagayama M, Yamamoto H, Abukawa D, Kakuta F, Onodera K, Matsui T, Hibi T, Yao T, Kitazono T, Matsumoto T; CEAS study group.	Clinical features of chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene: a new entity clinically distinct from Crohn's disease.	J Gastroenterol.	Aug;53(8):	907-915.	2018
久松理一, 斎藤大祐, 林田真理	小腸疾患 (non-CD) を見直す - 腫瘍・血管性病変・炎症・希少疾患まで -	日本消化器病学会雑誌	115(7):	575-586.	2018
Park DI, Hisamatsu T, Chen M, Ng SC, Ooi CJ, Wei SC, Banerjee R, Hilmli IN, Jeon YT, Han DS, Kim HJ, Ran Z, Wu K, Qian J, Hu PJ, Matsuoka K, Andoh A, Suzuki Y, Sugano K, Watanabe M, Hibi T, Puri AS, Yang SK.	Asian Organization for Crohn's and Colitis and Asia Pacific Association of Gastroenterology consensus on tuberculosis infection in patients with inflammatory bowel disease receiving anti-tumor necrosis factor treatment. Part 2: management.	J Gastroenterol Hepatol.	Jan;33(1)	30-36	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Park DI, Hisamatsu T, Chen M, Ng S C, Ooi CJ, Wei SC, Banerjee R, Hilm i IN, Jeon YT, Han DS, Kim HJ, Ran Z, Wu K, Qian J, Hu PJ, Matsuoka K, Andoh A, Suzuki Y, Sugano K, Watanabe M, Hibi T, Puri AS, Yang SK.	Asian Organization for Crohn's and Colitis and Asia Pacific Association of Gastroenterology consensus on tuberculosis infection in patients with inflammatory bowel disease receiving anti-tumor necrosis factor treatment. Park 1: risk assessment.	J Gastroenterol Hepatol.	Jan;33(1)	20-29	2018
Hisamatsu T, Ohno A, Chiba T.	Linked Color Imaging identified UC Associated Colorectal Cancer. A case report.	Dig Endosc.	Mar;30(2):	267.	2018
Naganuma M, Sugimoto S, Mitsuyama K, Kobayashi T, Yoshimura N, Ohi H, Tanaka S, Andoh A, Ohmiya N, Saigusa K, Yamamoto T, Morohoshi Y, Ichikawa H, Matsuoka K, Hisamatsu T, Watanabe K, Mizuno S, Suda W, Hattori M, Fukuda S, Hirayama A, Abe T, Watanabe M, Hibi T, Suzuki Y, Kanai T; INDIGO Study Group.	Efficacy of Indigo naturalis in a Multicenter Randomized Controlled Trial of Patients with Ulcerative Colitis.	Gastroenterology.	Mar;154(4):	935-947.	2018
Watanabe K, Matsumoto T, Hisamatsu T, Nakase H, Motoya S, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T; DIAMOND study group.	Clinical and pharmacokinetic factors associated with adalimumab-induced mucosal healing in patients with Crohn's disease.	Clin Gastroenterol Hepatol.	Apr;16(4):	542-549.	2018
Nakase H, Motoya S, Matsumoto T, Watanabe K, Hisamatsu T, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T; DIAMOND study group.	Significance of measurement of serum trough level and anti-drug antibody of adalimumab as personalised pharmacokinetics in patients with Crohn's disease: a subanalysis of the DIAMOND trial.	Aliment Pharmacol Ther.	Nov;46(9):	873-882	2017
Hosoe N, Ohmiya N, Hirai F, Umeno J, Esaki M, Yamagami H, Onodera K, Bamba S, Imaeda H, Yanai S, Hisamatsu T, Ogata H, Matsumoto T; CEAS at Ias group.	Chronic enteropathy associated with SLC22A1 gene (CEAS) - Characterization of an enteric disorder to be considered in the differential diagnosis of Crohn's disease.	J Crohns Colitis.	Oct 1;11(10):	1277-1281	2017
Hisamatsu T, Hayashida M.	Treatment and outcomes: Medical and surgical treatment for intestinal Behçet's disease, Review.	Intest Res	15(3)	318-327	2017
久松理一	主題 炎症性腸疾患の最前線 3. Crohn病内科的治療の最前線	日本大腸肛門病会誌	70巻10号	p601-610.	2017
Hirai F, Takeda T, Takada Y, Kishi M, Beppu T, Takatsu N, Miyaoka M, Hisabe T, Yao K, Ueki T.	Efficacy of enteral nutrition in patients with Crohn's disease on maintenance anti-TNF-alpha antibody therapy: a meta-analysis.	J Gastroenterol	55(2)	133-141	2020
Matsuno Y, Umeno J, Esaki M, Hirakawa Y, Fuyuno Y, Okamoto Y, Hirano A, Yasukawa S, Hirai F, Matsui T, Hosomi S, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hisamatsu T, Yanai S, Kochi S, Kurahara K, Yao T, Torisu T, Kitazono T, Matsumoto T.	Measurement of prostaglandin metabolites is useful in diagnosis of small bowel ulcerations.	World J Gastroenterol	25(14)	1753-1763	2019
Hisamatsu T, Kato S, Kunisaki R, Matsuura M, Nagahori M, Motoya S, Esaki M, Fukata N, Inoue S, Sugaya T, Sakuraba H, Hirai F, Watanabe K, Kanai T, Naganuma M, Nakase H, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T, Nojima M, Matsumoto T, DIAMOND2 Study Group	Withdrawal of thiopurines in Crohn's disease treated with scheduled adalimumab maintenance: a prospective randomised clinical trial (DIAMOND2)	J Gastroenterol	54(10)	860-870	2019
Yoshimura N, Yokoyama Y, Sako M, Aoyama N, Hirai F, Sawada K, Kashiwagi N, Suzuki Y.	Development of a C1q-immobilized(Cim) assay to measure total antibodies to infliximab and its clinical relevance in patients with inflammatory bowel disease.	Cytokine	120	54-61	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Hirai F, Ishida T, Takeshima F, Yamamoto S, Yoshikawa I, Ashizuka S, Inatsu H, Mitsuyama K, Sou S, Iwakiri R, Nozaki R, Ohi H, Esaki M, Iida M, Matsui T; Additional Power of Elemental Diet on Maintenance Biologics Therapy in Crohn's Disease (ADORE) Study Group.	Effect of a concomitant elemental diet with maintenance anti-tumor necrosis factor- antibody therapy in patients with Crohn's disease: A multicenter, prospective cohort study.	J Gastroenterol Hepatol	34 (1)	132-139	2019
Esaki M, Matsumoto T, Ohmiya N, Washio E, Morishita T, Sakamoto K, Abe H, Yamamoto S, Kinjo T, Togashi K, Watanabe K, Hirai F, Nakamura M, Nouda S, Ashizuka S, Omori T, Kochi S, Yanai S, Fuyuno Y, Hirano A, Umeno J, Kitazono T, Kinjo F, Watanabe M, Matsui T, Suzuki Y.	Capsule endoscopy findings for the diagnosis of Crohn's disease: a nationwide case-control study	J Gastroenterol	54 (3)	249-260	2019
平井郁仁	潰瘍性大腸炎の診断基準 Japanese Diagnostic Criteria of Ulcerative Colitis	臨床消化器内科	34(7)	774-778	2019
平井郁仁	下痢をきたす疾患の診療 炎症性腸疾患	臨床と研究	96(11)	6-13	2019
平井郁仁	炎症性腸疾患の内科治療	消化器外科	42(12)	1645-1652	2019
Hisamatsu T, Kunisaki R, Nakamura S, Tsujikawa T, Hirai F, Nakase H, Watanabe K, Yokoyama K, Nagahori M, Kanai T, Naganuma M, Michimae H, Andoh A, Yamada A, Yokoyama T, Kamata N, Tanaka S, Suzuki Y, Hibi T, Watanabe M; CERISIER Trial group.	Effect of elemental diet combined with infliximab dose escalation in patients with Crohn's disease with loss of response to infliximab: CERISIER trial.	Intest Res	16 (3)	494-498	2018
Yasukawa S, Matsui T, Yano Y, Sato Y, Takada Y, Kishi M, Ono Y, Takatsu N, Nagahama T, Hisabe T, Hirai F, Yao K, Ueki T, Higashi D, Futami K, Sou S, Sakurai T, Yao T, Tanabe H, Iwashita A, Washio M.	Crohn's disease-specific mortality: a 30-year cohort study at a tertiary referral center in Japan.	J Gastroenterol	54 (1)	42-52	2018
Koga A, Matsui T, Takatsu N, Takada Y, Kishi M, Yano Y, Beppu T, Ono Y, Ninomiya K, Hirai F, Nagahama T, Hisabe T, Takaki Y, Yao K, Imaeda H, Andoh A.	Trough level of infliximab is useful for assessing mucosal healing in Crohn's disease: a prospective cohort study.	Intest Res	16 (2)	223-232	2018
Ninomiya K, Hisabe T, Okado Y, Takada Y, Yamaoka R, Sato Y, Kishi M, Takatsu N, Matsui T, Ueki T, Yao K, Hirai F.	Comparison of Small Bowel Lesions Using Capsule Endoscopy in Ulcerative Colitis and Crohn's Disease: A Single-Center Retrospective Analysis.	Digestion	98 (2)	119-126	2018
Matsuoka K, Kobayashi T, Ueno F, Matsui T, Hirai F, Inoue N, Kato J, Kobayashi K, Kobayashi K, Koganei K, Kunisaki R, Motoya S, Nagahori M, Nakase H, Omata F, Saruta M, Watanabe T, Tanaka T, Kanai T, Noguchi Y, Takahashi KI, Watanabe K, Hibi T, Suzuki Y, Watanabe M, Sugano K, Shimosegawa T.	Evidence-based clinical practice guidelines for inflammatory bowel disease.	J Gastroenterol	53 (3)	305-353	2018
Umeno J, Esaki M, Hirano A, Fuyuno Y, Ohmiya N, Yasukawa S, Hirai F, Kochi S, Kurahara K, Yanai S, Uchida K, Hosomi S, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hisamatsu T, Nagayama M, Yamamoto H, Abukawa D, Kakuta F, Onodera K, Matsui T, Hibi T, Yao T, Kitazono T, Matsumoto T; CEAS study group.	Clinical features of chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene: a new entity clinically distinct from Crohn's disease.	J Gastroenterol	53 (8)	907-915	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Hirai F, Andoh A, Ueno F, Watanabe K, Ohmiya N, Nakase H, Kato S, Esaki M, Endo Y, Yamamoto H, Matsui T, Iida M, Hibi T, Watanabe M, Suzuki Y, Matsumoto T.	Efficacy of Endoscopic Balloon Dilation for Small Bowel Strictures in Patients With Crohn's Disease: A Nationwide, Multi-centre, Open-label, Prospective Cohort Study.	J Crohns Colitis	12 (4)	394-401	2018
Naganuma M, Aoyama N, Tada T, Kobayashi K, Hirai F, Watanabe K, Watanabe M, Hibi T.	Correction to: Complete mucosal healing of distal lesions induced by twice-daily budesonide 2-mg foam promoted clinical remission of mild-to-moderate ulcerative colitis with distal active inflammation: double-blind, randomized study.	J Gastroenterol	53 (4)	579-581	2018
Naganuma M, Aoyama N, Tada T, Kobayashi K, Hirai F, Watanabe K, Watanabe M, Hibi T.	Complete mucosal healing of distal lesions induced by twice-daily budesonide 2-mg foam promoted clinical remission of mild-to-moderate ulcerative colitis with distal active inflammation: double-blind, randomized study.	J Gastroenterol	53 (4)	494-506	2018
Inoue N, Kobayashi K, Naganuma M, Hirai F, Ozawa M, Arikawa D, Huang B, Robinson AM, Thakkar RB, Hibi T.	Long-term safety and efficacy of adalimumab for intestinal Behçet's disease in the open label study following a phase 3 clinical trial.	Intest Res	15 (3)	395-401	2018
Hirai F	Current status of endoscopic balloon dilation for Crohn's disease	Intest Res	15 (2)	166-173	2018
平井郁仁	炎症性腸疾患における内視鏡治療の Up to date	Ulcer Research	44	19-24	2017
岸 昌廣、佐藤祐邦、高橋晴彦、武田輝之、高田康道、矢野 豊、平井郁仁	粘膜治療の定義の実際と問題点	IBD Research	11 (3)	143-153	2017
安川重義、平井郁仁、高田康道、金城健、岸 昌廣、別府剛志、二宮夫夫、矢野 豊、久部高司、八尾建史、植木敏晴、松井敏幸、田邊 寛、岩下明德	非特異性多発性小腸潰瘍症/CEASにおける十二指腸病変	胃と腸	52 (11)	1478-1483	2017
Hitoshi Hirashima, Yuna Komori, Yosuke Kohinata, Michio Komai, Kouhei Fukushima	In vitro investigation of antibacterial activity against fecal bacteria infecting wounds	Wound Medicine	26		2019
畑啓介、安西紘幸、池内浩基、二見喜太郎、福島浩平、杉田昭、内野基、東大二郎、板橋道郎、渡辺和宏、小金井一隆、荒木俊光、木村英明、水島恒和、植田剛、石原総一郎、鈴木康夫	潰瘍性大腸炎合併大腸癌に対するサーベイランス大腸内視鏡により全生率が改善する～外科切除症例のリアルワールドデータ	消化器病学サイエンス	Vol.3	483-489	2019
Motoi Uchino, Hiroki Ikeuchi, Akira Sugita, Kitaro Futami, Toshiaki Watanabe, Kouhei Fukushima, Kenji Tatsumi, Kazutaka Koganei, Hideaki Kimura, Keisuke Hata, Kenichi Takahashi, Kazuhiro watanabe, Tsunekazu Mizushima, Yuji Funayama, Daijiro Higashi, Toshimitsu Araki, Masato Kusunoki, Takeshi Ueda, Fumikazu Koyama, Michio Itabashi, Riichiro Nezu, Yasuo Suzuki	Pouch functional Outcomes after restorative proctocolectomy with ileal-pouch reconstruction in patients with ulcerative colitis: Japanese multi-center nationwide cohort study	J Gastroenterol	53	642-651	2018
Hiroki Ikeuchi, Motoi Uchino, Akira Sugita, Kitaro Futami, Kouhei Fukushima, Keisuke Hata, Kazutaka Koganei, Masato Kusunoki, Keiichi Uchida, Riichiro Nezu, Hideaki Kimura, Kenichi Takahashi, Michio Itabashi, Hitoshi Kameyama, Daijiro Higashi, Fumikazu Koyama, Takeshi Ueda, Tsunekazu Mizushima, Yasuo Suzuki	Long-term outcomes following restorative proctocolectomy ileal pouch-anal anastomosis in pediatric ulcerative colitis patients: Multicenter national study in Japan	AGSurg	2018;2	428-433	2018
渡辺和宏、倉知清隆、水島恒和、亀山仁史、佐々木巖、杉田昭、根津理一郎、舟山裕士、福島浩平、内藤剛、海野倫明、二見喜太郎	クローン病における直腸肛門管癌の癌スクリーニングの現状と問題点：国内専門施設へのアンケート調査	日本大腸肛門病学会	第71巻7号	別冊	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Kouhei Fukushima, Sugita Akira, Kitaro Futami, Kenchi Takahashi, Satoshi Motoya, Hideaki Kimura, Shusaku Yoshikawa, Yoshitaka Kinouchi, Hideki Iijima, Katsuya Endo, Toshihumi Hibi, Mamoru Watanabe, Iwao Sasaki, Yasuo Suzuki	Postoperative Therapy with Infliximab for Crohn's disease: A 2-year Prospective Randomized Multicenter Study in Japan	surg Today	48(6)	584-590	2018
Katsuyoshi Kudou, Chikashi Shibata, Yuzi Funayama, Kouhei Fukushima, Kenichi Takahashi, Munenori Nagano, Sho Haneda, Kazuhiro Watanabe, Takeshi Naitoh and Michiaki Unno	Oral rehydration solution normalizes plasma renin and aldosterone levels in patients with ulcerative colitis After proctocolectomy	J Anus Rectum Colon	3	78-83	2017
Motoi Uchino, Hiroki Ikeuchi, Akira Sugita, Kitaro Futami, Toshiaki Watanabe, Kouhei Fukushima, Kenji Tatsumi, Kazutaka Koganei, Hideaki Kimura, Keisuke Hata, Kenichi Takahashi, Kazuhiro Watanabe, Tsunekazu Mizushima, Yuji Funayama, Daijiro Higashi, Toshimitsu Araki, Masato Kusunoki, Takeshi Ueda, Fumikazu Koyama, Michio Itabashi, Riichiro Nezu, Yasuo Suzuki	Pouch functional Outcomes after restorative proctocolectomy with ileal-pouch reconstruction in patients with ulcerative colitis: Japanese multi-center nationwide cohort study	J Gastroenterol	published online 07	7	2017
Tsunekazu Mizushima, Hitoshi Kameyama, Kazuhiro Watanabe, Kiyotaka Kurachi, Kouhei Fukushima, Riichiro Nezu, Motoi Uchino, Akira Sugita, Kitaro Futami	Risk factors of small bowel obstruction following total proctocolectomy and ileal pouch anal anastomosis with diverting loop-ileostomy for ulcerative colitis	Gastroenterol Surg	1	122-128	2017
Shinagawa T, Hata K, Ikeuchi H, Fukushima K, Futami K, Sugita A, Uchino M, Watanabe K, Higashi D, Kimura H, Araki T, Mizushima T, Itabashi M, Ueda T, Koganei K, Oba K, Ishihara S, Suzuki Y.	Rate of Reoperation Decreased Significantly After Year 2002 in Patients With Crohn's Disease.	Clin Gastroenterol Hepatol		Online ahead of print	2019
Uchino M, Ikeuchi H, Hata K, Okada S, Ishihara S, Morimoto K, Sahara R, Watanabe K, Fukushima K, Takahashi K, Kimura H, Hirata K, Mizushima T, Araki T, Kusunoki M, Nezu R, Nakao S, Itabashi M, Hirata A, Ozawa H, Ishida T, Okabayashi K, Yamamoto T, Noake T, Arakaki J, Watadani Y, Ohge H, Futatsuki R, Koganei K, Sugita A, Higashi D, Futami K.	Changes in the Rate of and Trends in Colectomy for Ulcerative Colitis During the Era of Biologics and Calcineurin Inhibitors Based on a Japanese Nationwide Cohort Study.	Surg Today	49(12)	1066-1073	2019
Yasukawa S, Matsui T, Yano Y, Sato Y, Takada Y, Kishi M, Ono Y, Takatsu N, Nagahama T, Hisabe T, Hirai F, Yao K, Ueki T, Higashi D, Futami K, Sou S, Sakurai T, Yao T, Tanabe H, Iwashita A, Washio M	Crohn's disease-specific mortality: a 30-year cohort study at a tertiary referral center in Japan.	J Gastroenterol	54(1)	45-52	2019
二見喜太郎, 東大二郎	【新手術記録の書き方】結腸・直腸・肛門の手術 Crohn病の手術	消化器外科	42(5)	671-677	2019
二見喜太郎, 東大二郎, 平野由紀子, 林貴臣, 増井友恵, 竹下一生	【炎症性腸疾患診療のupdate-診断・治療の最新知見】炎症性腸疾患の外科治療 クロウン病肛門病変の治療	臨床消化器内科	34(7)	904-909	2019
二見喜太郎, 東大二郎, 平野由紀子, 平野公一, 小島大望, 柴田亮輔, 宮坂義浩, 上床崇吾, 竹下一生, 甲斐田大貴, 棟近太郎, 渡部雅人	【これ一冊でわかる 炎症性腸疾患診療のすべて】クロウン病の肛門病変に対する治療	消化器外科	42(12)	1679-1689	2019
Hirano Y, Futami K, Higashi D, Mikami K and Maekawa T.	Anorectal cancer surveillance in Crohn's disease	J Anus Rectum Colon	2(4)	145-154	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Uchino M, Ikeuchi H, Sugita A, Futami K, Watanabe T, Fukushima K, Tatsumi K, Koganei K, Kimura H, Hata K, Takahashi K, Watanabe K, Mizushima T, Funayama Y, Higashi D, Araki T, Kusunoki M, Ueda T, Koyama F, Itabashi M, Nezu R, Suzuki Y; a research grant on intractable disease affiliated with the Japan Ministry of Health Labor Welfare.	Pouch functional outcomes after restorative proctocolectomy with ileal-pouch reconstruction in patients with ulcerative colitis: Japanese multi-center nationwide cohort study.	J Gastroenterol	53(5)	642-651	2018
Fukushima K, Sugita A, Futami K, Takahashi KI, Motoya S, Kimura H, Yoshikawa S, Kinouchi Y, Iijima H, Endo K, Hibi T, Watanabe M, Sasaki I, Suzuki Y; Surgical Research Group, the Research Committee of Inflammatory Bowel Disease, the Ministry of Health, Welfare and Labor of Japan.	Postoperative therapy with infliximab for Crohn's disease: a 2-year prospective randomized multicenter study in Japan.	Surg Today	48(6)	584-590	2018
Ikeuchi H, Uchino M, Sugita A, Futami K, Fukushima K, Hata K, Koganei K, Kusunoki M, Uchida K, Nezu R, Kimura H, Takahashi K, Itabashi M, Kameyama H, Higashi D, Koyama F, Ueda T, Mizushima T, Suzuki Y.	Long-term outcomes following restorative proctocolectomy ileal pouch-anal anastomosis in pediatric ulcerative colitis patients: Multicenter national study in Japan.	Ann Gastroenterol Surg	2(6)	428-433	2018
渡辺和宏, 倉地清隆, 水島恒和, 亀山仁史, 佐々木巖, 杉田昭, 根津理一郎, 舟山裕士, 福島浩平, 内藤剛, 海野倫明, 二見喜太郎	クローン病における直腸肛門管癌の癌スクリーニングの現状と問題点 国内専門施設へのアンケート調査	日本大腸肛門病学会雑誌	71(7)	283-290	2018
二見喜太郎, 東大二郎, 平野由紀子, 林貴臣	【炎症性腸疾患(第2版)-病因解明と診断・治療の最新知見-】 炎症性腸疾患の外科的治療 クローン病肛門病変の治療	日本臨床	76(3)	452-457	2018
二見喜太郎, 東大二郎, 平野由紀子, 林貴臣	【炎症性腸疾患(第2版)-病因解明と診断・治療の最新知見-】 炎症性腸疾患のがん化 炎症性腸疾患におけるがんサーベイランス クローン病における発がんとサーベイランス法	日本臨床	76(3)	531-536	2018
二見喜太郎, 東大二郎, 平野由紀子, 松井敏幸, 平井郁仁, 小野陽一郎	【State of the art クローン病合併癌の診断と治療】 肛門部癌	大腸がん perspective	4(1)	46-52	2018
二見喜太郎, 東大二郎, 平野由紀子, 上床崇吾, 林貴臣, 増井友恵	【これ一冊で迷わない! アップ、ヘモ治療のすべて】 Crohn病に伴う痔瘻の治療	消化器外科	41(8)	1189-1199	2018
二見喜太郎, 東大二郎, 平野由紀子, 上床崇吾, 林貴臣, 増井友恵	【炎症性腸疾患アップデート-いま外科医に求められる知識と技術】 クローン病の手術手技 腸管の瘻孔・膿瘍を伴うクローン病に対する手術	臨床外科	73(12)	1378-1383	2018
Mizushima T, Kameyama H, Watanabe K, Kurachi K, Fukushima K, Nezu R, Uchino M, Sugita A, Futami K.	Risk factors of small bowel obstruction following total proctocolectomy and ileal pouch anal anastomosis with diverting loop-ileostomy for ulcerative colitis.	Annals of Gastroenterological Surgery	1(2)	122-128	2017
二見喜太郎, 東大二郎, 平野由紀子, 三上公治, 愛洲尚哉, 前川隆文	特集 主題Ⅰ: 炎症性腸疾患診察の最前線 Crohn病における肛門病変に対する外科的治療の最前線	日本大腸肛門病学会雑誌	70(10)	623-632	2017
二見喜太郎, 東大二郎, 平野由紀子, 上床崇吾, 林貴臣, 増井友恵	【潰瘍性大腸炎・クローン病手術のすべて】 クローン病 クローン病に合併した癌に対する手術	手術	71(7)	1029-1038	2017

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Higashiyama M, Sugita A, Koganei K, Wanatabe K, Yokoyama Y, Uchino M, Nagahori M, Naganuma M, Bamba S, Kato S, Takeuchi K, Omori T, Takagi T, Matsumoto S, Nagasaka M, Sagami S, Kitamura K, Katsurada T, Sugimoto K, Takatsu N, Saruta M, Sakurai T, Watanabe K, Nakamura S, Suzuki Y, <u>Hokari R.</u>	Management of elderly ulcerative colitis in Japan.	J Gastroenterol.	54(7):	571-586.	2019
Komoto S, Matsuoka K, Kobayashi T, Yokoyama Y, Suzuki Y, Hibi T, Miura S, <u>Hokari R.</u>	Safety and efficacy of leukocytapheresis in elderly patients with ulcerative colitis: The impact in steroid-free elderly patients	J Gastroenterol Hepatol	33(8)	33(8)	2018
Komoto S, Higashiyama M, Watanabe C, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T, Takebayashi T, Asakura K, Nishiwaki Y, Miura S, <u>Hokari R.</u>	Clinical differences between elderly-onset ulcerative colitis and non-elderly-onset ulcerative colitis: A nationwide survey data in Japan	J Gastroenterol Hepatol	33(11)	1839-43	2018
Shirakabe K, Higashiyama M, <u>Hokari R.</u>	Modification of lymphocyte migration to Peyer's patches by inhibition of sphingosine-1-phosphate lyase ameliorates murine colitis.	J Gastroenterol Hepatol	Epub ahead of print		2018
Mizoguchi A, Higashiyama M, Miura S, <u>Hokari R.</u>	Evaluation by MR Enterocolonography of Lansoprazole-induced Collagenous Colitis Accompanied with Protein-losing Enteropathy.	Intern Med.	57(1)	37-41.	2018
Nishii S, Higashiyama M., Miura S, <u>Hokari R.</u>	Human intestinal spirochetosis mimicking ulcerative colitis.	Clin J Gastroenterol.	11(2)	145-149.	2017
<u>Okada Y., Miura S, Hokari R.</u>	Novel probiotics isolated from a Japanese traditional fermented food, Funazushi, attenuates DSS-induced colitis by increasing the induction of high integrin α 8-expressing dendritic cells.	J Gastroenterol Hepatol	53(3)	:407-418	2017
Yasutake Y, Miura S, <u>Hokari R.</u>	Uric acid ameliorates indomethacin-induced enteropathy in mice through its antioxidant activity.	J Gastroenterol Hepatol	32(11)	1839-1845	2017
Akiyama S, <u>Matsuoka K</u> , Fukuda K, Hamada S, Shimizu M, Nanki K, Mizuno S, Kiyohara H, Arai M, Sugimoto S, Iwao Y, Ogata H, <u>Hisamatsu T</u> , Naganuma M, Motobayashi M, Suzuki K, Takenaka K, Fujii T, Saito E, <u>Nagahori M</u> , Ohtsuka K, Mochizuki M, Watanabe M, Hashiguchi M, <u>Kanai T</u>	Long-term effect of NUDT15 R139C on hematologic indices in inflammatory bowel disease patients treated with thiopurine.	Journal of Gastroenterology and Hepatology	34	1751-1757	2019
Motobayashi M, <u>Matsuoka K</u> , Takenaka K, Fujii T, Nagahori M, Ohtsuka K, Iwamoto F, Tsuchiya K, Negi M, Eishi Y, Watanabe M	Predictors of mucosal healing during induction therapy in patients with acute moderate-to-severe ulcerative colitis.	Journal of Gastroenterology and Hepatology	34	1004-1010	2019
<u>Matsuoka K</u> , Hamada S, Shimizu M, Nanki K, Mizuno S, Kiyohara H, Arai M, Sugimoto S, Iwao Y, <u>Ogata H</u> , <u>Hisamatsu T</u> , Naganuma M, <u>Kanai T</u> , Mochizuki M, Hashiguchi M.	Factors predicting the therapeutic response to infliximab during maintenance therapy in Japanese patients with Crohn's disease.	PLoS One	13	E0204632	2018
Miyoshi J, <u>Matsuoka K</u> , Yoshida A, Naganuma M, <u>Hisamatsu T</u> , Yajima T, Inoue N, Okamoto S, Iwao Y, Ogata H, Ueno F, Hibi T, <u>Kanai T</u>	5-Aminosalicylic acid aggravates colitis mimicking exacerbation of ulcerative colitis.	Intestinal Research	16	635-640	2018
Iwamoto F, <u>Matsuoka K</u> , Motobayashi M, Takenaka K, Kuno T, Tanaka K, Tsukui Y, Kobayashi S, Yoshida T, Fujii T, Saito E, Yamaguchi T, Nagahori M, Sato T, Ohtsuka K, Enomoto N, Watanabe M	Prediction of disease activity of Crohn's disease through fecal calprotectin evaluated by balloon-assisted endoscopy.	Journal of Gastroenterology and Hepatology	33	1984-1989	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Matsuoka K, Kobayashi T, Ueno F, Matsui T, Hirai F, Inoue N, Kato J, Kobayashi K, Kobayashi K, Koganei K, Kunisaki R, Motoya S, Nagahori M, Nakase H, Omata F, Saruta M, Watanabe T, Tanaka T, Kanai T, Noguchi Y, Takahashi KI, Watanabe K, Hibi T, Suzuki Y, Watanabe M, Sugano K, Shimosegawa T	Evidence-based clinical practice guidelines for inflammatory bowel disease.	Journal of Gastroenterology	53	305-353	2018
Akiyama S, Fujii T, Matsuoka K, Yusuke E, Negi M, Takenaka K, Nagahori M, Ohtsuka K, Isobe M, Watanabe M	Endoscopic features and genetic background of inflammatory bowel disease complicated with Takayasu arteritis.	Journal of Gastroenterology and Hepatology	32	101101017	2017
Harada A, Kurahara K, Moriyama T, Tanaka T, Nagata Y, Kawasaki K, Yaita H, Maehata Y, Umeno J, Oshiro Y, Fuchigami T, Kitazono T, Esaki M, Matsumoto T.	Risk factors for reflux esophagitis after eradication of Helicobacter pylori.	Scand J Gastroenterol.	54(10)	1183-1188	2019
Matsuno Y, Umeno J, Esaki M, Hirakawa Y, Fuyuno Y, Okamoto Y, Hirano A, Yasukawa S, Hirai F, Matsui T, Hosomi S, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hisamatsu T, Yanai S, Kochi S, Kurahara K, Yao T, Torisu T, Kitazono T, Matsumoto T.	Measurement of prostaglandin metabolites is useful in diagnosis of small bowel ulcerations.	World J Gastroenterol.	25(14)	1753-1763	2019
Kakuta Y, Kawai Y, Naito T, Hirano A, Umeno J, Fuyuno Y, Liu Z, Li D, Nakano T, Izumiyama Y, Ichikawa R, Okamoto D, Nagai H, Matsumoto S, Yamamoto K, Yokoyama N, Chiba H, Shimoyama Y, Onodera M, Moroi R, Kuroha M, Kanazawa Y, Kimura T, Shiga H, Endo K, Negoro K, Yasuda J, Esaki M, Tokunaga K, Nakamura M, Matsumoto T, McGovern DPB, Nagasaki M, Kinouchi Y, Shimosegawa T, Masamune A.	A Genome-wide Association Study Identifying RAP1A as a Novel Susceptibility Gene for Crohn's Disease in Japanese Individuals.	J Crohns Colitis.	13(5)	648-658	2019
Yanai S, Yamaguchi S, Nakamura S, Kawasaki K, Toya Y, Yamada N, Eizuka M, Uesugi N, Umeno J, Esaki M, Okimoto E, Ishihara S, Sugai T, Matsumoto T.	Distinction between Chronic Enteropathy Associated with the SLC02A1 Gene and Crohn's Disease.	Gut Liver.	13(1)	62-66	2019
Nagata Y, Esaki M, Moriyama T, Hirano A, Umeno J, Maehata Y, Torisu T, Matsumoto T, Kitazono T.	Anti-tumor necrosis factor therapy decreases the risk of initial intestinal surgery after diagnosis of Crohn's disease of inflammatory type.	J Gastroenterol.	54(4)	330-338	2019
Esaki M, Matsumoto T, Ohmiya N, Washio E, Morishita T, Sakamoto K, Abe H, Yamamoto S, Kinjo T, Togashi K, Watanabe K, Hirai F, Nakamura M, Nouda S, Ashizuka S, Omori T, Kochi S, Yanai S, Fuyuno Y, Hirano A, Umeno J, Kitazono T, Kinjo F, Watanabe M, Matsui T, Suzuki Y.	Capsule endoscopy findings for the diagnosis of Crohn's disease: a nationwide case-control study.	J Gastroenterol.	54(3)	249-260	2019
貫陽一郎, 北崎 真未, 平野 敦士, 梅野 淳嗣, 鳥巢 剛弘, 川床 慎一郎, 保利 喜史, 藤原 美奈子, 松本 主之, 江崎 幹宏	IgG4 関連疾患に伴った胃潰瘍の1例	胃と腸	54(13)	1739-1745	2019
蔵原 晃一, 河内 修司, 川崎 啓祐, 吉田 雄一朗, 長末 智寛, 鷲尾 恵万, 梅野 淳嗣, 鳥巢 剛弘, 江崎 幹宏, 大城 由美, 中村 昌太郎, 八尾 隆史, 小林 広幸, 松本 主之, 岩下 明德, 瀨上 忠彦	小腸X線造影	胃と腸	54(9)	1254-1269	2019
梁井 俊一, 梅野 淳嗣, 松本 主之	指定難病最前線 非特異性多発性小腸潰瘍症	新薬と臨牀	68(2)	241-245	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Yamaguchi S, Yanai S, Nakamura S, Kawasaki K, Eizuka M, Uesugi N, Sugai T, Umeno J, Esaki M, Matsumoto T.	Immunohistochemical differentiation between chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene and other inflammatory bowel diseases.	Intest Res.	16(3)	393-399	2018
Umeno J, Matsumoto T, Hirano A, Fuyuno Y, Esaki M.	Genetic analysis is helpful for the diagnosis of small bowel ulceration.	World J Gastroenterol.	24(28)	3198-3200	2018
Hirano A, Umeno J, Okamoto Y, Shibata H, Ogura Y, Moriyama T, Torisu T, Fujioka S, Fuyuno Y, Kawarabayasi Y, Matsumoto T, Kitazono T, Esaki M.	Comparison of the microbial community structure between inflamed and non-inflamed sites in patients with ulcerative colitis.	J Gastroenterol Hepatol.	[Epub ahead of print]		2018
Umeno J, Esaki M, Hirano A, Fuyuno Y, Ohmiya N, Yasukawa S, Hirai F, Kochi S, Kurahara K, Yanai S, Uchida K, Hosomi S, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hisamatsu T, Nagayama M, Yamamoto H, Abukawa D, Kakuta F, Onodera K, Matsui T, Hibi T, Yao T, Kitazono T, Matsumoto T; CEAS study group.	Clinical features of chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene: a new entity clinically distinct from Crohn's disease.	J Gastroenterol.	53(8)	907-915	2018
梁井 俊一, 梅野 淳嗣, 江崎 幹宏, 松本 主之	非特異性多発性小腸潰瘍症(chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene:CEAS)	IBD Research	12(2)	93-97	2018
冬野 雄太, 梅野 淳嗣, 平野 敦士, 江崎 幹宏, 松本 主之	疾患感受性遺伝子とはなにか 疾患原因遺伝子との違い	消化器病学サイエンス	2(2)	60-63	2018
江崎 幹宏, 鳥巢 剛弘, 梅野 淳嗣, 平野 敦士, 岡本 康治, 冬野 雄太, 前畠 裕司, 河野 真一, 膳所 圭三, 原田 英, 保利 喜史, 藤原 美奈子, 松本 主之	出血を主徴とする小腸非腫瘍性病変の診断と治療 その他の非腫瘍性疾患	胃と腸	53(6)	838-846	2018
Hosoe N, Ohmiya N, Hirai F, Umeno J, Esaki M, Yamagami H, Onodera K, Bamba S, Imaeda H, Yanai S, Hisamatsu T, Ogata H, Matsumoto T; CEAS Atlas Group.	Chronic Enteropathy Associated With SLC02A1 Gene [CEAS]-Characterisation of an Enteric Disorder to be Considered in the Differential Diagnosis of Crohn's Disease.	J Crohns Colitis.	11(10)	1277-1281	2017
Nuki Y, Umeno J, Washio E, Maehata Y, Hirano A, Miyazaki M, Kobayashi H, Kitazono T, Matsumoto T, Esaki M.	The influence of CYP2C19 polymorphisms on exacerbating effect of rabeprazole in celecoxib-induced small bowel injury.	Aliment Pharmacol Ther.	46(3)	331-336	2017
Yanai S, Nakamura S, Yamaguchi S, Kawasaki K, Ishida K, Sugai T, Umeno J, Esaki M, Matsumoto T.	Gastrointestinal mantle cell lymphoma with isolated mass and multiple lymphomatous polyposis: report of two cases.	Clin J Gastroenterol.	10(4)	327-330	2017
Maehata Y, Nakamura S, Esaki M, Ikeda F, Moriyama T, Hida R, Washio E, Umeno J, Hirahashi M, Kitazono T, Matsumoto T.	Characteristics of Primary and Metachronous Gastric Cancers Discovered after Helicobacter pylori Eradication: A Multicenter Propensity Score-Matched Study.	Gut Liver.	11(5)	628-634	2017
Uchida K, Nakajima A, Ushijima K, Ida S, Seki Y, Kakuta F, Abukawa D, Tsukahara H, Maisawa SI, Inoue M, Araki T, Umeno J, Matsumoto T, Taguchi T.	Pediatric-onset Chronic Nonspecific Multiple Ulcers of Small Intestine: A Nationwide Survey and Genetic Study in Japan.	J Pediatr Gastroenterol Nutr.	64(4)	565-568	2017
梅野 淳嗣, 江崎 幹宏, 平野 敦士, 安川 重義, 平井 郁仁, 松井 敏幸, 八尾 恒良, 松本 主之	Chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene(CEAS、非特異性多発性小腸潰瘍症)の病態と特徴	Intestine	21(6)	518-525	2017
八尾 恒良, 頼岡 誠, 古賀 章浩, 金光 高雄, 森山 幹彦, 石川 智士, 平井 郁仁, 梅野 淳嗣, 松本 主之, 岩下 明徳	肥厚性皮膚骨膜炎を合併し長期にわたって診療中のCEASの1例	胃と腸	52(11)	1467-1476	2017
大宮 直木, 尾崎 隼人, 吉田 大, 前田 晃平, 大森 崇史, 城代 康貴, 小村 成臣, 鎌野 俊彰, 田原 智満, 長坂 光夫, 中川 義仁, 柴田 知行, 梅野 淳嗣, 江崎 幹宏, 松本 主之	非特異性多発性小腸潰瘍症/CEASの遺伝子異常	胃と腸	52(11)	1441-1444	2017

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
梅野 淳嗣, 江崎 幹宏, 平野 敦士, 冬野 雄太, 小林 広幸, 河内 修司, 蔵原 晃一, 渡邊 隆, 青柳 邦彦, 安川 重義, 平井 郁仁, 松井 敏幸, 八尾 恒良, 北園 孝成, 松本 主之	非特異性多発性小腸潰瘍症/CEASの臨床像と鑑別診断	胃と腸	52(11)	1411-1422	2017
松本 主之, 梅野 淳嗣, 江崎 幹宏, 久松 理一, 飯田 三雄, 八尾 恒良	非特異性多発性小腸潰瘍症/CEASとプロスタグランジン腸症	胃と腸	52(11)	1406-1410	2017
八尾 恒良, 梅野 淳嗣, 江崎 幹宏, 松本 主之, 青柳 邦彦, 飯田 三雄, 岡部 治弥, 洲上 忠彦	非特異性多発性小腸潰瘍症/CEASの過去, 現在, そして今後	胃と腸	52(11)	1398-1405	2017
虻川大樹, 青松友規, 井上幹大, 岩間達, 熊谷秀規, 清水泰岳, 神保圭佑, 南部隆亮, 水落建輝, 内田恵一, 国崎玲子, 石毛 崇, 福岡智哉, 新井勝大, 清水俊明, 田尻 仁	小児潰瘍性大腸炎治療指針(2019年)	日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌	33(2)	110-127	2019
新井勝大, 工藤孝広, 熊谷秀規, 齋藤武, 清水泰岳, 高橋美智子, 立花奈緒, 南部隆亮, 水落建輝, 内田恵一, 国崎玲子, 石毛 崇, 福岡智哉, 虻川大樹, 清水俊明, 田尻 仁	小児クローン病治療指針(2019年)	日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌	33(2)	90-109	2019
熊谷秀規, 秋山卓士, 虻川大樹, 位田忍, 乾あやの, 工藤孝広, 窪田満	成人移行期小児炎症性腸疾患患者の自立支援のための手引き書: 成人診療科へのスムーズな移行のために	日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌	32(1)	15-27	2018
虻川大樹	免疫不全関連腸炎の診断と治療	小児科診療 UP-to-DATE	33	44-49	2018
Suzuki T, Sasahara Y, Kikuchi A, Kakuta H, Kashiwabara T, Ishige T, Nakayama Y, Tanaka M, Hoshino A, Kanegane H, Abukawa D, Kure S.	Targeted Sequencing and Immunological Analysis Reveal the Involvement of Primary Immunodeficiency Genes in Pediatric IBD: a Japanese Multicenter Study.	J Clin Immunol	37(1)	67-79	2017
Mizuochi T, Arai K, Kudo T, Nambu R, Tajiri H, Aomatsu T, Abe N, Kakiuchi T, Hashimoto K, Sogo T, Takahashi M, Etani Y, Takaki Y, Konishi KI, Ishihara J, Obara H, Kakuma T, Kurei S, Yamashita Y, Mitsuyama K.	Antibodies to Crohn's disease peptide 353 as a diagnostic marker for pediatric Crohn's disease: a prospective multicenter study in Japan.	J Gastroenterol	Epub ahead of print		2020 Jan 24
Kakuta Y, Izumiya Y, Okamoto D, Nakano T, Ichikawa R, Naito T, Moroi R, Kuroha M, Kanazawa Y, Kimura T, Shiga H, Kudo H, Minegishi N, Kawai Y, Tokunaga K, Nagasaki M, Kinouchi Y, Suzuki Y, Masamune A; MENDEL study group.	Correction to: High-resolution melt analysis enables simple genotyping of complicated polymorphisms of codon 18 rendering the NUDT15 diplotype.	J Gastroenterol	55(1)	132	2020
Kakuta Y, Izumiya Y, Okamoto D, Nakano T, Ichikawa R, Naito T, Moroi R, Kuroha M, Kanazawa Y, Kimura T, Shiga H, Kudo H, Minegishi N, Kawai Y, Tokunaga K, Nagasaki M, Kinouchi Y, Suzuki Y, Masamune A; MENDEL study group.	High-resolution melt analysis enables simple genotyping of complicated polymorphisms of codon 18 rendering the NUDT15 diplotype.	J Gastroenterol	55(1)	67-77	2020
Tajiri H, Arai K, Kagimoto S, Kunisaki R, Hida N, Sato N, Yamada H, Nagano M, Susuta Y, Ozaki K, Kondo K, Hibi T.	Infliximab for pediatric patients with ulcerative colitis: a phase 3, open-label, uncontrolled, multicenter trial in Japan.	BMC Pediatr	13;19(1)	351	2019
Yanagi T, Ushijima K, Koga H, Tomomasa T, Tajiri H, Kunisaki R, Ishige T, Yamada H, Arai K, Yoden A, Aomatsu T, Nagata S, Uchida K, Ohtsuka Y, Shimizu T.	Tacrolimus for ulcerative colitis in children: a multicenter survey in Japan.	Intest Res	17(4)	476-485	2019
Nambu R, Hagiwara SI, Kakuta F, Hara T, Shimizu H, Abukawa D, Iwama I, Kagimoto S, Arai K.	Current role of colonoscopy in infants and young children: a multicenter study.	BMC Gastroenterol	20;19(1)	149	2019
Takeuchi I, Kaburaki Y, Arai K, Shimizu H, Hirano Y, Nagata S, Shimizu T.	Infliximab for Very Early-Onset Inflammatory Bowel Disease: A Tertiary Center Experience in Japan.	J Gastroenterol Hepatol	Epub ahead of print		2019 Aug 19

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Kumagai H, Kudo T, Uchida K, Kunisaki R, Sugita A, Ohtsuka Y, Arai K, Kubota M, Tajiri H, Suzuki Y, Shimizu T.	Adult Gastroenterologists' Views on Transitional Care: Results from a Survey.	Pediatr Int	61(8)	817-822	2019
Tsuchida N, Kirino Y, Soejima Y, Onodera M, Arai K, Tamura E, Ishikawa T, Kawai T, Uchiyama T, Nomura S, Kobayashi D, Taguri M, Mitsuhashi S, Mizuguchi T, Takata A, Miyake N, Nakajima H, Miyatake S, Matsumoto N.	Haploinsufficiency of A20 caused by a novel nonsense variant or entire deletion of TNFAIP3 is clinically distinct from Behçet's disease.	Arthritis Res Ther	4;21(1)	137	2019
Nakazawa Y, Kawai T, Arai K, Tamura E, Uchiyama T, Onodera M.	Fecal Calprotectin Rise in Chronic Granulomatous Disease-Associated Colitis.	J Clin Immunol	37(8)	741-743	2017
Uchida K, Ohtsuka Y, Yoden A, Tajiri H, Kimura H, Isihige T, Yamada H, Arai K, Tomomasa T, Ushijima K, Aomatsu T, Nagata S, Otake K, Matsushita K, Inoue M, Kudo T, Hosoi K, Takeuchi K, Shimizu T.	Immunosuppressive medication is not associated with surgical site infection after surgery for intractable ulcerative colitis in children.	Intractable Rare Dis Res	6(2)	106-113	2017
Shimizu H, Arai K, Tang J, Hosoi K, Funayama R.	5-Aminosalicylate intolerance causing exacerbation in pediatric ulcerative colitis.	Pediatr Int	59(5)	583-587	2017
Hosoi K, Arai K, Matsuoka K, Shimizu H, Kamei K, Nakazawa A, Shimizu T, Tang J, Ito S.	Prolonged Tacrolimus for Pediatric Gastrointestinal Disorder - Double-edged Sword?.	Pediatr Int	59(5)	588-592	2017
Hosoi K, Ohtsuka Y, Fujii T, Kudo T, Matsunaga N, Tomomasa T, Tajiri H, Kunisaki R, Ishige T, Yamada H, Arai K, Yoden A, Ushijima K, Aomatsu T, Nagata S, Uchida K, Takeuchi K, Shimizu T.	Treatment with infliximab for pediatric Crohn's disease: Nationwide survey of Japan.	J Gastroenterol Hepatol	32(1)	114-119	2017
平野友梨, 南部隆亮, 飯塚文瑛, 板橋道朗, 船山理恵, 新井勝大.	炎症性腸疾患児のためのサマーキャンプ参加体験による患児・親の心理的变化についての検討.	小児保健研究	76(1)	65-71	2017
Iijima H, Kobayashi, Nagasaka M, et al.	Management of primary non-responders and partial responders to tumor necrosis factor- inhibitor induction therapy among patients with Crohn's disease.	Inflammatory Intestinal Diseases	In press		2020
Hiyama S, Iijima H, Sakakibara Y, et al.	Endoscopic alterations in Peyer's patches in patients with ulcerative colitis: A prospective, multicenter study.	J Gastroenterol Hepatol.	In press		2020
Kawai S, Iijima H, Shinzaki S, et al.	Usefulness of intestinal real-time virtual sonography in patients with inflammatory bowel disease.	J Gastroenterol Hepatol	34	1743-50	2019
飯島英樹, 新崎信一郎, 竹原徹郎	抗インテグリン製剤	日本消化器病学会誌	116	208-15	2019
飯島英樹	抗TNF 抗体の作用機序について総括する	IBD Research	13	6-11	2019
飯島英樹	炎症性腸疾患の免疫学的メカニズムと薬剤開発	実験医学	18	3081-5	2018
飯島英樹, 新崎信一郎, 井上隆弘, 他	SIP受容体アゴニスト	INTESTINE	22	267-72	2018
飯島英樹, 新崎信一郎, 竹原徹郎	炎症性腸疾患の病態研究の現状と今後の展望	日本消化器病学会誌	115	244-53	2018
Shinzaki S, Iijima H, Fujii H, et al.	A novel pathogenesis of inflammatory bowel disease from the perspective of glyco-immunology.	J Biochem	161	409-15	2017
Araki M, Shinzaki S, Yamada T, Arimitsu S, Komori M, Iijima H, et al.	Age at onset is associated with the seasonal pattern of onset and exacerbation in inflammatory bowel disease.	J Gastroenterol	52	1149-57	2017
Kawai S, Iijima H, Shinzaki S, et al.	Indigo Naturalis ameliorates murine dextran sodium sulfate-induced colitis via aryl hydrocarbon receptor activation.	J Gastroenterol	52	904-19	2017

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Shinzaki S, Matsuoka K, <u>Iijima H</u> , et al.	Leucine-rich Alpha-2 Glycoprotein is a Serum Biomarker of Mucosal Healing in Ulcerative Colitis.	J Crohns Colitis	11	84-91	2017
Yoshihara T, Shinzaki S, Kawai S, <u>Iijima H</u> , et al.	Tissue Drug Concentrations of Anti-tumor Necrosis Factor Agents Are Associated with the Long-term Outcome of Patients with Crohn's Disease.	Inflamm Bowel Dis	23	2172-9	2017
<u>飯島英樹</u>	抗TNF 抗体はなぜ効くのか 使用する際のポイント.	消化器病学サイエンス	1	26	2017
<u>Iizuka M</u> , Etou T, Kumagai M, Matsuoka A, Numata Y, Sagara S.	Long-interval cytapheresis as a novel therapeutic strategy leading to dosage reduction and discontinuation of steroids in steroid-dependent ulcerative colitis.	Intern Med	56	2705-2710	2017
Masayuki Saruta, Dong Il Park, Young-Ho Kim, Suk-Kyun Yang, Byung-Ik Jang, Jae Hee Cheon, Jong Pil Im, Takanori Kanai, Tatsuro Katsuno, <u>Yoh Ishiguro</u> , Makoto Nagaoka, Naoki Isogawa, Yinhua Li, Anindita Banerjee, Alaa Ahmad, Mina Hassan-Zahraee, Robert Clare, Kenneth J. Gorelick ¹⁷ , Fabio Cataldi, Mamoru Watanabe, Toshifumi Hibi	Anti-MAdCAM-1 antibody (PF-00547659) for active refractory Crohn's disease in Japanese and Korean patients: the OPERA study	Intestinal Research	18(1)	45-55	2020
Watanabe R, Sakuraba H, Hiraga H, Kishida D, Ota S, Hasui K, Kikuchi H, Akemoto Y, Tanaka N, Maeda T, Murai Y, Yoshida S, Tatsuta T, Sawaya M, Chinda D, Mikami T, <u>Ishiguro Y</u> , Fukuda S.	Diagnostic approach for patients with unidentified fever according to the classical criteria of fever of unknown origin in the field of autoimmune disorders.	Immunol Med	42(4)	176-184	2019
Akemoto Y, Sakuraba H, Tanaka M, Hiraga H, Kikuchi H, Morohashi S, Ota S, Hasui K, Satake M, Watanabe R, Tanaka N, Kawaguchi S, Tatsuta T, Sawaya M, Chinda D, Mikami T, <u>Ishiguro Y</u> , Kijima H, Fukuda S.	Gastric Focal Neutrophil Infiltration and Wide Duodenal Gastric Foveolar Metaplasia Are Histologic Discriminative Markers for Crohn's Disease and Behçet's Disease.	Digestion	12-Dec	1-10	2018
Kakuta Y, Kawai Y, Okamoto D, Takagawa T, Ikeya K, Sakuraba H, Nishida A, Nakagawa S, Miura M, Toyonaga T, Onodera K, Shinozaki M, <u>Ishiguro Y</u> , Mizuno S, Takahara M, Yanai S, Hokari R, Nakagawa T, Araki H, Motoya S, Naito T, Moroi R, Shiga H, Endo K, Kobayashi T, Naganuma M, Hiraoka S, Matsumoto T, Nakamura S, Nakase H, Hisamatsu T, Sasaki M, Hanai H, Andoh A, Nagasaki M, Kinouchi Y, Shimosegawa T, Masamune A, Suzuki Y	MENDEL study group. NUDT15 codon 139 is the best pharmacogenetic marker for predicting thiopurine-induced severe adverse events in Japanese patients with inflammatory bowel disease: a multicenter study.	J Gastroenterol	53(9)	1065-1078	218
Kobayashi T, Hisamatsu T, Suzuki Y, Ogata H, Andoh A, Araki T, Hokari R, <u>Iijima H</u> , Ikeuchi H, <u>Ishiguro Y</u> , Kato S, Kunisaki R, Matsumoto T, Motoya S, Nagahori M, Nakamura S, Nakase H, Tsujikawa T, Sasaki M, Yokoyama K, Yoshimura N, Watanabe K, Katafuchi M, Watanabe M, Hibi T	Predicting outcomes to optimize disease management in inflammatory bowel disease in Japan: their differences and similarities to Western countries.	Intest Res.	16(2)	168-177	2018
Kanmura S, Hamamoto H, Tanaka A, Arima S, Sasaki F, Tanoue S, Nasu Y, Hashimoto S, Higashi M, <u>Ido A</u> .	Diagnostic utility of linked color imaging in the evaluation of colonic mucosal inflammation in ulcerative colitis: a pilot study.	Endosc Int Open.	7(8)	E937-E943	2019
Komaki Y, Komaki F, Micic D, <u>Ido A</u> , Sakuraba A.	Risk of Fractures in Inflammatory Bowel Diseases: A Systematic Review and Meta-Analysis.	J Clin Gastroenterol.	53(6)	441-448	2019
Kanmura S, Tanaka A, Komaki Y, <u>Ido A</u> .	A case of screening colonoscopy using linked-color imaging to detect ulcerative colitis-associated colorectal cancer.	Dig Liver Dis.	51(7)	1061	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Kawabata K, Kanmura S, Morinaga Y, Tanaka A, Makino T, Fujita T, Arima S, Sasaki F, Nasu Y, Tanoue S, Hashimoto S, <u>Ido A.</u>	A high-fructose diet induces epithelial barrier dysfunction and exacerbates the severity of dextran sulfate sodium-induced colitis.	Int J Mol Med	43(3)	1487-1496	2019
Komaki Y, Kanmura S, Sasaki F, Maeda H, Oda K, Arima S, Tanoue S, Nasu Y, Hashimoto S, Mawatari S, Tsubouchi H, <u>Ido A.</u>	Hepatocyte growth factor facilitates esophageal mucosal repair and inhibits the submucosal fibrosis in a rat model of esophageal ulcer.	Digestion	99(3)	227-238	2019
Tanaka A, Kanmura S, Morinaga Y, Kawabata K, Arima S, Sasaki F, Nasu Y, Tanoue S, Hashimoto S, Takeshita M, Takeda S, <u>Ido A.</u>	Oral administration of Lactobacillus plantarum 06CC2 prevents experimental colitis in mice via an anti-inflammatory response.	Molecular medicine reports	21(3)	1181-1191	2019
Komaki Y, Komaki F, Yamada A, Micic D, <u>Ido A.</u> , Sakuraba A.	Meta-analysis of the risk of immune-related adverse events with anti-cytotoxic T-lymphocyte-associated antigen 4 and anti-programmed death 1 therapies.	Clin Pharmacol Ther.	103(2)	318-331	2018
Komaki Y, Yamada A, Komaki F, Micic D, <u>Ido A.</u> , Sakuraba A.	Systematic review with meta-analysis: the efficacy and safety of CT-P13, a biosimilar of anti-tumour necrosis factor-agent (infliximab), in inflammatory bowel diseases.	Aliment Pharmacol Ther.	45(8)	1043-1057	2017
Sonoda A, Wada Y, Togo K, Mizukami K, Fuyuno Y, Umeno J, Fujioka S, Fukuda K, Okamoto K, Ogawa R, Okimoto T, Murakami K.	Characteristic Facial Appearance Was the Key to Diagnosing Chronic Enteropathy Associated with SLC02A1-Associated Primary Hypertrophic Osteoarthropathy: A Case Report.	Intern Med.	[Epub ahead of print]		2019
Harada A, Kurahara K, Moriyama T, Tanaka T, Nagata Y, Kawasaki K, Yaita H, Maehata Y, Umeno J, Oshiro Y, Fuchigami T, Kitazono T, <u>Esaki M.</u> , <u>Matsumoto T.</u>	Risk factors for reflux esophagitis after eradication of Helicobacter pylori.	Scand J Gastroenterol.	54(10)	1183-1188	2019
Ihara Y, <u>Umeno J.</u> , Hori Y.	Type IV Gastric Carcinoids in the Stomach Caused by ATP4A Gene Mutations.	Clin Gastroenterol Hepatol.	[Epub ahead of print]		2019
Matsuno Y, Hirano A, Torisu T, Okamoto Y, Fuyuno Y, Fujioka S, <u>Umeno J.</u> , Moriyama T, Nagai S, Hori Y, Fujiwara M, Kitazono T, <u>Esaki M.</u>	Short-term and long-term outcomes of indigo naturalis treatment for inflammatory bowel disease.	J Gastroenterol Hepatol.	[Epub ahead of print]		2019
Ihara Y, Torisu T, Moriyama T, <u>Umeno J.</u> , Hirano A, Okamoto Y, Hori Y, Yamamoto H, Kitazono T, <u>Esaki M.</u>	Endoscopic features of gastrointestinal stromal tumor in the small intestine.	Intest Res.	17(3)	398-403	2019
Matsuno Y, <u>Umeno J.</u> , <u>Esaki M.</u> , Hirakawa Y, Fuyuno Y, Okamoto Y, Hirano A, Yasukawa S, Hirai F, Matsui T, Hosomi S, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hisamatsu T, Yanai S, Kochi S, Kurahara K, Yao T, Torisu T, Kitazono T, <u>Matsumoto T.</u>	Measurement of prostaglandin metabolites is useful in diagnosis of small bowel ulcerations.	World J Gastroenterol.	25(14)	1753-1763	2019
Moriyama T, <u>Umeno J.</u> , Hori Y.	Is autofluorescence imaging useful for the diagnosis of dysplasia in ulcerative colitis?	Dig Endosc.	1	45-46	2019
Maehata Y, Nagata Y, Moriyama T, Matsuno Y, Hirano A, <u>Umeno J.</u> , Torisu T, Manabe T, Kitazono T, <u>Esaki M.</u>	Risk of surgery in patients with stricturing type of Crohn's disease at the initial diagnosis: a single center experience.	Intest Res.	17(3)	357-364	2019
Harada A, Torisu T, Okamoto Y, Hirano A, <u>Umeno J.</u> , Moriyama T, Washio E, Fuyuno Y, Fujioka S, Kitazono T, <u>Esaki M.</u>	Predictive Factors for Rebleeding after Negative Capsule Endoscopy among Patients with Overt Obscure Gastrointestinal Bleeding.	Digestion.	1	1-8	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Kakuta Y, Kawai Y, Naito T, Hirano A, Umeno J, Fuyuno Y, Liu Z, Li D, Nakano T, Izumiyama Y, Ichikawa R, Okamoto D, Nagai H, Matsumoto S, Yamamoto K, Yokoyama N, Chiba H, Shimoyama Y, Onodera M, Moroi R, Kuroha M, Kanazawa Y, Kimura T, Shiga H, Endo K, Negoro K, Yasuda J, Esaki M, Tokunaga K, Nakamura M, Matsumoto T, McGovern DPB, Nagasaki M, Kinouchi Y, Shimosegawa T, Masamune A.	A Genome-wide Association Study Identifying RAP1A as a Novel Susceptibility Gene for Crohn's Disease in Japanese Individuals.	J Crohns Colitis.	13(5)	648-658	2019
Yanai S, Yamaguchi S, Nakamura S, Kawasaki K, Toya Y, Yamada N, Eizuka M, Uesugi N, Umeno J, Esaki M, Okimoto E, Ishihara S, Sugai T, Matsumoto T.	Distinction between Chronic Enteropathy Associated with the SLC02A1 Gene and Crohn's Disease.	Gut Liver.	13(1)	62-66	2019
Nagata Y, Esaki M, Moriyama T, Hirano A, Umeno J, Maehata Y, Torisu T, Matsumoto T, Kitazono T.	Anti-tumor necrosis factor therapy decreases the risk of initial intestinal surgery after diagnosis of Crohn's disease of inflammatory type.	J Gastroenterol.	54(4)	330-338	2019
Esaki M, Matsumoto T, Ohmiya N, Washio E, Morishita T, Sakamoto K, Abe H, Yamamoto S, Kinjo T, Togashi K, Watanabe K, Hirai F, Nakamura M, Nouda S, Ashizuka S, Omori T, Kochi S, Yanai S, Fuyuno Y, Hirano A, Umeno J, Kitazono T, Kinjo F, Watanabe M, Matsui T, Suzuki Y.	Capsule endoscopy findings for the diagnosis of Crohn's disease: a nationwide case-control study.	J Gastroenterol.	54(3)	249-260	2019
鳥巢 剛弘, 梅野 淳嗣, 北園 孝成	便秘症の治療 新規薬物治療	臨牀と研究	96(11)	1276-1279	2019
貫 陽一郎, 北崎 真未, 平野 敦士, 梅野 淳嗣, 鳥巢 剛弘, 川床 慎一郎, 保利 喜史, 藤原 美奈子, 松本 主之, 江崎 幹宏	IgG4 関連疾患に伴った胃潰瘍の1例	胃と腸	54(13)	1739-1745	2019
冬野 雄太, 鳥巢 剛弘, 平野 敦士, 梅野 淳嗣, 藤岡 審, 森山 智彦, 江崎 幹宏	難治性腸管 Behcet 病として加療中に trisomy 8 陽性の骨髄異形成症候群を合併した1例	胃と腸	54(13)	1733-1738	2019
岡本 康治, 鳥巢 剛弘, 梅野 淳嗣, 平野 敦士, 冬野 雄太, 森山 智彦, 江崎 幹宏	ループス腸炎	消化器・肝臓内科	6(2)	142-146	2019
蔵原 晃一, 河内 修司, 川崎 啓祐, 吉田 雄一郎, 長末 智寛, 鷲尾 恵万, 梅野 淳嗣, 鳥巢 剛弘, 江崎 幹宏, 大城 由美, 中村 昌太郎, 八尾 隆史, 小林 広幸, 松本 主之, 岩下 明德, 淵上 忠彦	小腸X線造影	胃と腸	54(9)	1254-1269	2019
梅野 淳嗣, 平野 敦士, 鳥巢 剛弘	IBDの診断におけるゲノム情報の利用	IBD Research	13(2)	71-76	2019
河野 真一, 鳥巢 剛弘, 小林 広幸, 永田 豊, 冬野 雄太, 岡本 康治, 藤岡 審, 平野 敦士, 梅野 淳嗣, 森山 智彦, 保利 喜史, 山元 英崇, 藤原 美奈子, 江崎 幹宏	Monomorphic epitheliotropic intestinal T-cell lymphoma の2例	胃と腸	54(4)	543-552	2019
冬野 雄太, 梅野 淳嗣, 平野 敦士, 保利 喜史, 藤原 美奈子, 前畠 裕司, 小林 広幸, 河内 修司, 蔵原 晃一, 安川 重義, 平井 郁仁, 鳥巢 剛弘, 江崎 幹宏	小腸の非腫瘍性疾患 非特異性多発性小腸潰瘍症/CEAS	胃と腸	54(4)	485-495	2019
梁井 俊一, 梅野 淳嗣, 松本 主之	指定難病最前線 非特異性多発性小腸潰瘍症	新薬と臨牀	68(2)	241-245	2019
Eda K, Mizuochi T, Takaki Y, Ushijima K, Umeno J, Yamashita Y.	Successful azathioprine treatment in an adolescent with chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene: A case report.	Medicine	97(41)	e12811	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Yamaguchi S, Yanai S, Nakamura S, Kawasaki K, Eizuka M, Uesugi N, Sugai T, Umeno J, Esaki M, Matsumoto T.	Immunohistochemical differentiation between chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene and other inflammatory bowel diseases.	Intest Res.	16(3)	393-399	2018
Umeno J, Matsumoto T, Hirano A, Fuyuno Y, Esaki M.	Genetic analysis is helpful for the diagnosis of small bowel ulceration.	World J Gastroenterol.	24(28)	3198-3200	2018
Harada A, Umeno J, Esaki M.	Gastrointestinal: Multiple venous malformations and polyps of the small intestine in Cowden syndrome.	J Gastroenterol Hepatol.	33(11)	1819	2018
Hirano A, Umeno J, Okamoto Y, Shibata H, Ogura Y, Moriyama T, Torisu T, Fujioka S, Fuyuno Y, Kawarabayasi Y, Matsumoto T, Kitazono T, Esaki M.	Comparison of the microbial community structure between inflamed and non-inflamed sites in patients with ulcerative colitis.	J Gastroenterol Hepatol.	[Epub ahead of print]		2018
Umeno J, Esaki M, Hirano A, Fuyuno Y, Ohmiya N, Yasukawa S, Hirai F, Kochi S, Kurahara K, Yanai S, Uchida K, Hosomi S, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hisamatsu T, Nagayama M, Yamamoto H, Abukawa D, Kakuta F, Onodera K, Matsui T, Hibi T, Yao T, Kitazono T, Matsumoto T; CEAS study group.	Clinical features of chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene: a new entity clinically distinct from Crohn's disease.	J Gastroenterol.	53(8)	907-915	2018
Tanaka H, Kamata N, Yamada A, Endo K, Fujii T, Yoshino T, Sugaya T, Yokoyama Y, Bamba S, Umeno J, Yanai Y, Ishii M, Kawaguchi T, Shinzaki S, Toya Y, Kobayashi T, Nojima M, Hibi T; ADJUST study group.	Long-term retention of adalimumab treatment and associated prognostic factors for 1189 patients with Crohn's disease.	J Gastroenterol Hepatol.	33(5)	1031-1038	2018
梅野 淳嗣, 平野 敦士, 鳥巢 剛弘, 江崎 幹宏	虚血性腸病変 虚血性小腸炎	臨床消化器内科	34(1)	27-34	2018
岡本 康治, 江崎 幹宏, 蔵原 晃一, 大城 由美, 川崎 啓祐, 前畠 裕司, 梅野 淳嗣, 平野 敦士, 冬野 雄太, 保利 喜史, 藤原 美奈子, 森山 智彦, 鳥巢 剛弘	十二指腸非乳頭部びまん性病変 血管炎・膠原病の十二指腸病変	胃と腸	53(12)	1626-1633	2018
鳥巢 剛弘, 梅野 淳嗣, 平野 敦士	インテグリン阻害薬、抗MAdCAM抗体製剤	IBD Research	12(3)	165-169	2018
梁井 俊一, 梅野 淳嗣, 江崎 幹宏, 松本 主之	非特異性多発性小腸潰瘍症(chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene:CEAS)	IBD Research	12(2)	93-97	2018
梅野 淳嗣, 平野 敦士, 冬野 雄太, 江崎 幹宏	炎症性腸疾患における疾患感受性遺伝子	消化器病学サイエンス	2(2)	75-82	2018
冬野 雄太, 梅野 淳嗣, 平野 敦士, 江崎 幹宏, 松本 主之	疾患感受性遺伝子とはなにか 疾患原因遺伝子との違い	消化器病学サイエンス	2(2)	60-63	2018
田中 貴英, 江崎 幹宏, 平野 敦士, 冬野 雄太, 藤岡 審, 岡本 康治, 梅野 淳嗣, 鳥巢 剛弘, 森山 智彦, 保利 喜史, 藤原 美奈子, 北園 孝成	小腸に主病変を呈した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の1例	胃と腸	53(6)	887-892	2018
江崎 幹宏, 鳥巢 剛弘, 梅野 淳嗣, 平野 敦士, 岡本 康治, 冬野 雄太, 前畠 裕司, 河野 真一, 膳所 圭三, 原田 英, 保利 喜史, 藤原 美奈子, 松本 主之	出血を主徴とする小腸非腫瘍性病変の診断と治療 その他の非腫瘍性疾患	胃と腸	53(6)	838-846	2018
平野 敦士, 梅野 淳嗣, 江崎 幹宏	症例から学ぶ IBD 鑑別診断のコツ(第 37 回) 非特異性多発性小腸潰瘍症(CEAS)	IBD Research	12(1)	59-63	2018
冬野 雄太, 永田 豊, 岡本 康治, 平野 敦士, 梅野 淳嗣, 鳥巢 剛弘, 森山 智彦, 江崎 幹宏	Crohn 病の内視鏡的重症度評価 大腸内視鏡下のスコアリングシステムとその問題点	胃と腸	53(2)	194-202	2018
Hosoe N, Ohmiya N, Hirai F, Umeno J, Esaki M, Yamagami H, Onodera K, Bamba S, Imaeda H, Yanai S, Hisamatsu T, Ogata H, Matsumoto T; CEAS Atlas Group.	Chronic Enteropathy Associated With SLC02A1 Gene [CEAS]-Characterisation of an Enteric Disorder to be Considered in the Differential Diagnosis of Crohn's Disease.	J Crohns Colitis.	11(10)	1277-1281	2017

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Nuki Y, Umeno J, Washio E, Maehata Y, Hirano A, Miyazaki M, Kobayashi H, Kitazono T, Matsumoto T, Esaki M.	The influence of CYP2C19 polymorphisms on exacerbating effect of rabeprazole in celecoxib-induced small bowel injury.	Aliment Pharmacol Ther.	46(3)	331-336	2017
Yanai S, Nakamura S, Yamaguchi S, Kawasaki K, Ishida K, Sugai T, Umeno J, Esaki M, Matsumoto T.	Gastrointestinal mantle cell lymphoma with isolated mass and multiple lymphomatous polyposis: report of two cases.	Clin J Gastroenterol.	10(4)	327-330	2017
Maehata Y, Nakamura S, Esaki M, Ikeda F, Moriyama T, Hida R, Washio E, Umeno J, Hirahashi M, Kitazono T, Matsumoto T.	Characteristics of Primary and Metachronous Gastric Cancers Discovered after Helicobacter pylori Eradication: A Multicenter Propensity Score-Matched Study.	Gut Liver.	11(5)	628-634	2017
Uchida K, Nakajima A, Ushijima K, Ida S, Seki Y, Kakuta F, Abukawa D, Tsukahara H, Maisawa SI, Inoue M, Araki T, Umeno J, Matsumoto T, Taguchi T.	Pediatric-onset Chronic Nonspecific Multiple Ulcers of Small Intestine: A Nationwide Survey and Genetic Study in Japan.	J Pediatr Gastroenterol Nutr.	64(4)	565-568	2017
鳥巢 剛弘, 岡本 康治, 梅野 淳嗣, 永田 豊, 原田 英, 澤野 美由紀, 江崎 幹宏	ANCA関連血管炎の小腸病変	Intestine	21(6)	559-563	2017
梅野 淳嗣, 江崎 幹宏, 平野 敦士, 安川 重義, 平井 郁仁, 松井 敏幸, 八尾 恒良, 松本 主之	Chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene (CEAS, 非特異性多発性小腸潰瘍症)の病態と特徴	Intestine	21(6)	518-525	2017
八尾 恒良, 頼岡 誠, 古賀 章浩, 金光 高雄, 森山 幹彦, 石川 智士, 平井 郁仁, 梅野 淳嗣, 松本 主之, 岩下 明德	肥厚性皮膚骨膜炎を合併し長期にわたって診療中のCEASの1例	胃と腸	52(11)	1467-1476	2017
大宮 直木, 尾崎 隼人, 吉田 大, 前田 晃平, 大森 崇史, 城代 康貴, 小村 成臣, 鎌野 俊彰, 田原 智満, 長坂 光夫, 中川 義仁, 柴田 知行, 梅野 淳嗣, 江崎 幹宏, 松本 主之	非特異性多発性小腸潰瘍症/CEASの遺伝子異常	胃と腸	52(11)	1441-1444	2017
梅野 淳嗣, 江崎 幹宏, 平野 敦士, 冬野 雄太, 小林 広幸, 河内 修司, 蔵原 晃一, 渡邊 隆, 青柳 邦彦, 安川 重義, 平井 郁仁, 松井 敏幸, 八尾 恒良, 北園 孝成, 松本 主之	非特異性多発性小腸潰瘍症/CEASの臨床像と鑑別診断	胃と腸	52(11)	1411-1422	2017
松本 主之, 梅野 淳嗣, 江崎 幹宏, 久松 理一, 飯田 三雄, 八尾 恒良	非特異性多発性小腸潰瘍症/CEASとプロスタグランジン腸症	胃と腸	52(11)	1406-1410	2017
八尾 恒良, 梅野 淳嗣, 江崎 幹宏, 松本 主之, 青柳 邦彦, 飯田 三雄, 岡部 治弥, 瀧上 忠彦	非特異性多発性小腸潰瘍症/CEASの過去, 現在, そして今後	胃と腸	52(11)	1398-1405	2017
鳥巢 剛弘, 岡本 康治, 梅野 淳嗣, 永田 豊, 河野 真一, 原田 英, 清森 亮祐, 澤野 美由紀, 江崎 幹宏	血管炎随伴小腸炎	消化器・肝臓内科	1(5)	485-492	2017
江崎 幹宏, 岡本 康治, 鳥巢 剛弘, 梅野 淳嗣, 平野 敦士, 前嶋 裕司, 森山 智彦, 保利 喜史, 藤原 美奈子	自己免疫疾患・膠原病・血管炎など IgA血管炎を疑う上部消化管病変	消化器内視鏡	29(4)	743-746	2017
梅野 淳嗣, 江崎 幹宏	非特異性多発性小腸潰瘍症(chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene)	胃と腸	52(5)	669	2017
江崎 幹宏, 岡本 康治, 川崎 啓祐, 梅野 淳嗣, 鳥巢 剛弘, 森山 智彦, 平橋 美奈子, 蔵原 晃一	全身疾患に合併 血管炎症候群	消化器内視鏡	29(1)	150-154	2017
Nagata Y, Esaki M, Moriyama T, Hirano A, Umeno J, Maehata Y, Torisu T, Matsumoto T, Kitazono T	Anti-tumor necrosis factor therapy decreases the risk of initial intestinal surgery after diagnosis of Crohn's disease of inflammatory type	J Gastroenterol	54(4)	330-8	2019
Yanai S, Yamaguchi S, Nakamura S, Kawasaki K, Toya Y, Yamada N, Eizuka M, Uesugi N, Umeno J, Esaki M, Okimoto E, Ishihara S, Sugai T, Matsumoto T.	Distinction between chronic enteropathy associated with the SLC02A1 gene and Crohn's disease	Gut Liver	13(1)	62-6	2019
Maehata Y, Nagata Y, Moriyama T, Matsuno Y, Hirano A, Umeno J, Torisu T, Manabe T, Kitazono T, Esaki M.	Risk of surgery in patients with stricturing type of Crohn's disease at the initial diagnosis: a single center experience.	Intest Res	17(3)	357-64	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Matsuno Y, Umeno J, <u>Esaki M</u> , Hirakawa Y, Fuyuno Y, Okamoto Y, Hirano A, Yasukawa S, <u>Hirai F</u> , Matsui T, Hosomi S, <u>Watanabe K</u> , Hosoe N, Ogata H, Hisamatsu T, Yanai S, Kochi S, Kurahara K, Yao T, Torisu T, Kitazono T, <u>Matsumoto T</u>	Measurement of prostaglandin metabolites is useful in diagnosis of small bowel ulcerations.	World J Gastroenterol	25(14)	1753-63	2019
<u>江崎幹宏</u> 、 <u>松本主之</u>	診断編：カプセル内視鏡	IBD クリニカルカンファレンス	1(1)	22-4	2019
<u>Esaki M</u> , <u>Matsumoto T</u> , Ohmiya N, Washio E, Morishita T, Sakamoto K, Abe H, Yamamoto S, Kinjo T, Togashi K, <u>Watanabe K</u> , <u>Hirai F</u> , Nakamura M, Nouda S, Ashizuka S, Omori T, Kochi S, Yanai S, Fuyuno Y, Hirano A, Umeno J, Kitazono T, Kinjo F, <u>Watanabe M</u> , Matsui T, Suzuki Y.	Capsule endoscopy findings for the diagnosis of Crohn's disease: a nationwide case-control study	J Gastroenterol	54(3)	249-60	2019
<u>Hirai F</u> , Ishida T, Takeshima F, <u>Yamamoto S</u> , Yoshikawa I, Ashizuka S, Inatsu H, <u>Mitsuyama K</u> , Sou S, Iwakiri R, Nozaki R, Ohi H, <u>Esaki M</u> , Iida M, Matsui T; Additional Power of Elemental Diet on Maintenance Biologics Therapy in Crohn's Disease (ADORE) Study Group.	Effect of concomitant elemental diet with maintenance anti-tumor necrosis factor-antibody therapy in patients with Crohn's disease: A multicenter, prospective cohort study	J Gastroenterol Hepatol	34(1)	132-9	2019
冬野雄太、永田豊、岡本康治、平野敦士、梅野淳嗣、鳥巢剛弘、森山智彦、 <u>江崎幹宏</u>	主題 Crohn 病の内視鏡的重症度評価-大腸内視鏡下のスコアリングシステムとその問題点	胃と腸	53(2)	194-202	2018
Umeno J, <u>Esaki M</u> , Hirano A, Fuyuno Y, Ohmiya N, Yasukawa S, <u>Hirai F</u> , Kochi S, Kurahara K, Yanai S, Uchida K, Hosomi S, <u>Watanabe K</u> , Hosoe N, Ogata H, Hisamatsu T, Nagayama M, Yamamoto H, Abukawa D, <u>Kakuta F</u> , Onodera K, Matsui T, Hibi T, Yao T, Kitazono T, <u>Matsumoto T</u> ; CEAS study group.	Clinical features of chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene: a new entity clinically distinct from Crohn's disease.	J Gastroenterol	53(8)	907-15	2018
Yamaguchi S, Yanai S, Nakamura S, Kawasaki K, Eizuka M, Uesugi N, Sugai T, Umeno J, <u>Esaki M</u> , <u>Matsumoto T</u> .	Immunohistochemical differentiation between chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene and other inflammatory bowel diseases.	Intest Res	16(3)	393-9	2018
Ng SC, Kamm MA, Yeoh YK, Chan PKS, Zuo T, Tang W, Sood A, Andoh A, <u>Ohmiya N</u> , Zhou Y, Ooi CJ, Mahachai V, Wu CY, Zhang F, Sugano K, Chan FKL.	Scientific frontiers in fecal microbiota transplantation: joint document of Asia-Pacific Association of Gastroenterology (APAGE) and Asia-Pacific Society for Digestive Endoscopy (APSDE).	Gut.	69(1)	83-91.	2020
Naganuma M, Sugimoto S, Fukuda T, Mitsuyama K, Kobayashi T, Yoshimura N, Ohi H, Tanaka S, Andoh A, <u>Ohmiya N</u> , Saigusa K, Yamamoto T, Morohoshi Y, Ichikawa H, Matsuoka K, Hisamatsu T, <u>Watanabe K</u> , Mizuno S, Abe T, Suzuki Y, Kanai T; INDIGO Study Group.	Indigo naturalis is effective even in treatment-refractory patients with ulcerative colitis: a post hoc analysis from the INDIGO study.	J Gastroenterol.	55(2)	169-180.	2020
<u>Hirai F</u> , Andoh A, Ueno F, <u>Watanabe K</u> , <u>Ohmiya N</u> , Nakase H, Kato S, <u>Esaki M</u> , Endo Y, Yamamoto H, Matsui T, Iida M, Hibi T, <u>Watanabe M</u> , Suzuki Y, <u>Matsumoto T</u> .	Efficacy of Endoscopic Balloon Dilatation for Small Bowel Strictures in Patients With Crohn's Disease: A Nationwide, Multi-centre, Open-label, Prospective Cohort Study.	J Crohns Colitis.	12(4)	394-401.	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Naganuma M, Sugimoto S, Mitsuyama K, Kobayashi T, Yoshimura N, Ohi H, Tanaka S, Andoh A, Ohmiya N, Saigusa K, Yamamoto T, Morohoshi Y, Ichikawa H, Matsuoka K, Hisamatsu T, Watanabe K, Mizuno S, Suda W, Hattori M, Fukuda S, Hirayama A, Abe T, Watanabe M, Hibi T, Suzuki Y, Kanai T; INDIGO Study Group.	Efficacy of Indigo Naturalis in a Multicenter Randomized Controlled Trial of Patients With Ulcerative Colitis.	Gastroenterology.	154(4)	935-947.	2018
長坂光夫、大宮直木	潰瘍性大腸炎サーベイランスにおける色素内視鏡と狭帯域光(NBI)観察の前向き無作為化比較試験	IBD Research	12(1)	64-65	2018
Tahara T, Hirata I, Nakano N, Tahara S, Horiguchi N, Kawamura T, Okubo M, Ishizuka T, Yamada H, Yoshida D, Ohmori T, Maeda K, Komura N, Ikuno H, Jodai Y, Kamano T, Nagasaka M, Nakagawa Y, Tuskamoto T, Urano M, Shibata T, Kuroda M, Ohmiya N.	Potential link between Fusobacterium enrichment and DNA methylation accumulation in the inflammatory colonic mucosa in ulcerative colitis.	Oncotarget.	8(37)	61917-61926.	2017
Ohmiya N, Horiguchi N, Tahara T, Nagasaka M, Nakagawa Y, Shibata T, Tsukamoto T, Kuroda M.	In vivo characterization of abnormalities in small-bowel diseases using probe-based confocal laser endomicroscopy.	Endosc Int Open.	5(7)	E547-E558.	2017
城代康貴、尾崎隼人、宮田雅弘、生野浩和、鎌野俊彰、前田晃平、小村成臣、吉田 大、大森崇史、田原智満、長坂光夫、中川義仁、柴田知行、大宮直木	いま知りたい!腸内フローラのABC 糞便移植療法	Medical Technology	45(10)	1066-1068	2017
城代康貴、尾崎隼人、宮田雅弘、生野浩和、鎌野俊彰、前田晃平、小村成臣、吉田 大、大森崇史、田原智満、長坂光夫、中川義仁、柴田知行、大宮直木	プロバイオティクス 小児領域を中心とした基礎と実践のポイント マイクロバイオーム治療・創薬の最前線! 糞便移植の有用性と課題	薬局	68(11)	3477 3480	2017
城代康貴、生野浩和、宮田雅弘、長坂光夫、大宮直木	特集 腸内細菌と消化器疾患の新たな展開 糞便移植療法の安全性、有効性 Safety and effectiveness for fecal microbiota transplantation	Medical Science Digest	43(4)	179-182	2017
Sho Anzai, Ami Kawamoto, Sayaka Nagata, Junichi Takahashi, Mao Kawai, Reiko Kuno, Sakurako Kobayashi, Satoshi Watanabe, Kohei Suzuki, Hiromichi Shimizu, Yui Hiraguri, Sayaka Takeoka, Hady Yuki Sugihara, Shiro Yui, Shigeru Oshima, Mamoru Watanabe, Ryuichi Okamoto	TGF- promotes fetal gene expression and cell migration velocity in a wound repair model of untransformed intestinal epithelial cells.	Biochem Biophys Res Commun	[Epub ahead of print]		2020
Kana Otsubo, Chiaki Maeyashiki, Yoichi Nibe, Akiko Tamura, Emi Aonuma, Hiroki Matsuda, Masanori Kobayashi, Michio Onizawa, Yasuhiro Nemoto, Takashi Nagaishi, Ryuichi Okamoto, Kiichiro Tsuchiya, Tetsuya Nakamura, Satoru Torii, Eisuke Itakura, Mamoru Watanabe	RIPK3 inhibits autophagic flux during necroptosis in intestinal epithelial cells.	FEBS Letters	[Epub ahead of print]		2020
Ryuichi Okamoto, Hiromichi Shimizu, Kohei Suzuki, Ami Kawamoto, Junichi Takahashi, Mao Kawai, Sayaka Nagata, Yui Hiraguri, Sayaka Takeoka, Hady Yuki Sugihara, Shiro Yui, Mamoru Watanabe	Organoid-based regenerative medicine for inflammatory bowel disease.	Regenerative Therapy	[Epub ahead of print]		2019
Yuria Takei, Yasuhiro Nemoto, Ryo Morikawa, Shohei Tanaka, Shigeru Oshima, Takashi Nagaishi, Ryuichi Okamoto, Kiichiro Tsuchiya, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe	T cells show amoeboid shape and frequent morphological change in vitro, and localize to small intestinal intraepithelial region in vivo.	Biochem Biophys Res Commun	[Epub ahead of print]		2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Shohei Tanaka, Yasuhiro Nemoto, Yuria Takei, Ryo Morikawa, Shigeru Oshima, Takashi Nagaishi, <u>Ryuichi Okamoto</u> , Kiichiro Tsuchiya, Tetsuya Nakamura, Susanne Stutte, <u>Mamoru Watanabe</u>	High-fat diet-derived free fatty acids impair the intestinal immune system and increase sensitivity to intestinal epithelial damage.	Biochem Biophys Res Commun	[Epub ahead of print]		2019
Hirofumi Shimizu, Kohei Suzuki, <u>Mamoru Watanabe</u> , <u>Ryuichi Okamoto</u>	Stem cell-based therapy for inflammatory bowel disease.	Intest Res	17	311-316	2019
鈴木康平, <u>渡辺 守</u> , <u>岡本隆一</u>	【腸と健康:腸オルガノイドが挑む次世代パイオモデル】腸上皮オルガノイドによる再生医療最前線	医学のあゆみ	31	252-254	2019
清水寛路, 鈴木康平, <u>岡本隆一</u> , <u>渡辺 守</u>	【炎症性腸疾患診療のupdate-診断・治療の最新知見】炎症性腸疾患の内科治療 粘膜再生治療法	臨床消化器内科	34	894-898	2019
<u>Kakuta Y</u> , Izumiyama Y, Okamoto D, Nakano T, Ichikawa R, Naito T, Moroi R, Kuroha M, Kanazawa Y, Kimura T, Shiga H, Kudo H, Minegishi N, Kawai Y, Tokunaga K, Nagasaki M, <u>Kinouchi Y</u> , <u>Suzuki Y</u> , Masamune A; MENDEL study group.	High-resolution melt analysis enables simple genotyping of complicated polymorphisms of codon 18 rendering the NUDT15 diplotype.	J Gastroenterol	55(1)	67-77.	2020
<u>Kakuta Y</u> , Kawai Y, Naito T, Hirano A, Umeno J, Fuyuno Y, Liu Z, Li D, Nakano T, Izumiyama Y, Ichikawa R, Okamoto D, Nagai H, Matsumoto S, Yamamoto K, Yokoyama N, Chiba H, Shimoyama Y, Onodera M, Moroi R, Kuroha M, Kanazawa Y, Kimura T, Shiga H, <u>Endo K</u> , Negoro K, Yasuda J, <u>Esaki M</u> , Tokunaga K, Nakamura M, <u>Matsumoto T</u> , McGovern DPB, Nagasaki M, <u>Kinouchi Y</u> , Shimosegawa T, Masamune A.	A genome-wide association study identifying RAP1A as a novel susceptibility gene for Crohn's disease in Japanese individuals.	J Crohns Colitis	13(5)	648-658	2019
<u>Kakuta Y</u> , Kawai Y, Okamoto D, Takagawa T, <u>Ikeya K</u> , <u>Sakuraba H</u> , Nishida A, Nakagawa S, Miura M, Toyonaga T, Onodera K, <u>Shinozaki M</u> , <u>Ishiguro Y</u> , Mizuno S, Takahara M, Yanai S, <u>Hokari R</u> , Nakagawa T, Araki H, <u>Motoya S</u> , Naito T, Moroi R, Shiga H, <u>Endo K</u> , Kobayashi T, Naganuma M, <u>Hiraoka S</u> , Matsumoto T, Nakamura S, <u>Nakase H</u> , <u>Hisamatsu T</u> , Sasaki M, <u>Hanai H</u> , <u>Andoh A</u> , Nagasaki M, <u>Kinouchi Y</u> , Shimosegawa T, Masamune A, <u>Suzuki Y</u> ; MENDEL study group.	NUDT15 codon 139 is the best pharmacogenetic marker for predicting thiopurine-induced severe adverse events in Japanese patients with inflammatory bowel disease: a multicenter study.	J Gastroenterol.	53(9)	1065-1078	2018
<u>Kakuta Y</u> , <u>Kinouchi Y</u> , Shimosegawa T	Pharmacogenetics of thiopurines for inflammatory bowel disease in East Asia: prospects for clinical application of NUDT15 genotyping	J Gastroenterol	53(2)	172-180	2018
Kim HS, Cheon JH, Jung ES, Park J, Aum S, Park SJ, Eun S, Lee J, Ruther U, Yeo GSH, Ma M, Park KS, Naito T, <u>Kakuta Y</u> , Lee JH, Kim WH, Lee MG	A coding variant in FTO confers susceptibility to thiopurine-induced leukopenia in East Asian patients with inflammatory bowel disease	Gut	66(11)	1926-1935	2017
Uchino M, Ikeuchi H, Hata K, Okada S, Ishihara S, Morimoto K, Sahara R, Watanabe K, Fukushima K, Takahashi K, Kimura H, Hirata K, Mizushima T, Araki T, <u>Kusunoki M</u> , Nezu R, Nakao S, Itabashi M, Hirata A, Ozawa H, Ishida T, Okabayashi K, Yamamoto T, Noake T, Arakaki J, Watadani Y, Ohge H, Futatsuki R, Koganei K, Sugita A, Higashi D, Futami K.	Changes in the rate of and trends in colectomy for ulcerative colitis during the era of biologics and calcineurin inhibitors based on a Japanese nationwide cohort study.	Surg Today	49(12)	1066-1073	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Munakata K, Koi M, Kitajima T, Tseng-Rogenski S, Uemura M, Matsuno H, Kawai K, Sekido Y, Mizushima T, Toiyama Y, Yamada T, Mano M, Mita E, <u>Kusunoki M</u> , Mori M, Carethers JM	Inflammation-Associated Microsatellite Alterations Caused by MSH3 Dysfunction Are Prevalent in Ulcerative Colitis and Increase With Neoplastic Advancement	Clin Transl Gastroenterol	10(12)	e00105	2019
Okita Y, Araki T, Okugawa Y, Kondo S, Fujikawa H, Hiro J, Inoue M, Toiyama Y, Ohi M, Uchida K, <u>Kusunoki M</u>	The prognostic nutritional index for postoperative infectious complication in patients with ulcerative colitis undergoing proctectomy with ileal pouch-anal anastomosis following subtotal colectomy.	J Anus Rectum Colon	3(2)	91-97	2019
Koike Y, Uchida K, Inoue M, Matsushita K, Okita Y, Toiyama Y, Araki T, <u>Kusunoki M</u> .	Predictors for Pouchitis After Ileal Pouch-Anal Anastomosis for Pediatric-Onset Ulcerative Colitis	J Surg Res	238	72-78	2019
Koike Y, Uchida K, Inoue M, Nagano Y, Kondo S, Matsushita K, Okita Y, Toiyama Y, Araki T, <u>Kusunoki M</u>	Early first episode of pouchitis after ileal pouch-anal anastomosis for pediatric ulcerative colitis is a risk factor for development of chronic pouchitis.	J Pediatr Surg	54(9)	1788-1793	2019
Ikeuchi H, Uchino M, Sugita A, Futami K, Fukushima K, Hata K, Koganei K, <u>Kusunoki M</u> , Uchida K, Nezu R, Kimura H, Takahashi K, Kameyama H, Higashi D, Koyama F, Ueda T, Mizushima T, Suzuki Y.	Long-term outcomes following restorative proctocolectomy ileal pouch - anal anastomosis in pediatric ulcerative colitis patients: Multicenter national study in Japan.	Ann Gastroenterol Surg	2(6)	428-433	2018
Araki T, Hashimoto K, Okita Y, Fujikawa H, Kondo S, Kobayashi M, Ohi M, Toiyama Y, Inoue Y, Uchida K, Mohri Y, <u>Kusunoki M</u>	Colonic Histological Criteria Predict Development of Pouchitis after Ileal Pouch: Anal Anastomosis for Patients with Ulcerative Colitis	Dig Surg.	35(2)	138-143	2018
Uchino M, Ikeuchi H, Sugita A, Futami K, Watanabe T, Fukushima K, Tatsumi K, Koganei K, Kimura H, Hata K, Takahashi K, Watanabe K, Mizushima T, Funayama Y, Higashi D, Araki T, <u>Kusunoki M</u> , Ueda T, Koyama F, Itabashi M, Nezu R, Suzuki Y; a research grant on intractable disease affiliated with the Japan Ministry of Health Labor Welfare	Pouch functional outcomes after restorative proctocolectomy with ileal-pouch reconstruction in patients with ulcerative colitis: Japanese multi-center nationwide cohort study	J Gastroenterol	53(5)	642-651	2018
Toiyama Y, Okugawa Y, Kondo S, Okita Y, Araki T, <u>Kusunoki M</u> , Uchino M, Ikeuchi H, Hirota S, Mitsui A, Takehana K, Umezawa T, <u>Kusunoki M</u> .	Comprehensive analysis identifying aberrant DNA methylation in rectal mucosa from ulcerative colitis patients with neoplasia	Oncotarget	9(69)	33149-33159,	2018
Kondo S, Araki T, Toiyama Y, Tanaka K, Kawamura M, Okugawa Y, Okita Y, Saigusa S, Inoue Y, Uchida K, Mohri Y, <u>Kusunoki M</u> .	Downregulation of trefoil factor-3 expression in rectum is associated with the development of ulcerative colitis-associated cancer	Oncol Lett.	16(3)	3658-3664	2018
Kondo S, Araki T, Okita Y, Yamamoto A, Hamada Y, Katsurahara M, Horiki N, Nakamura M, Shimoyama T, Yamamoto T, Takei Y, <u>Kusunoki M</u>	Colitis with wall thickening and edematous changes during oral administration of the powdered form of Qing-dai in patients with ulcerative colitis: a report of two cases.	Clin J Gastroenterol.	11(4)	268-272	2018
大北喜基, 荒木俊光, 近藤哲, 奥川喜永, 藤川裕之, 廣純一郎, 問山裕二, 大井正貴, 内田恵一, 楠正人	炎症性腸疾患に対する術前ステロイド投与例における周術期の管理	日本外科感染症学会雑誌	15(6)	655-659	2018
Araki T, Okita Y, Kondo S, Hiro J, Toiyama Y, Inoue M, Ohi M, Inoue Y, Uchida K, Mohri Y, <u>Kusunoki M</u>	Risk factors for recurrence of Crohn's disease requiring surgery in patients receiving post-operative anti-tumor necrosis factor maintenance therapy	J Anus Rectum Colon	1(1)	15-21	2017
Toiyama Y, Okugawa Y, Tanaka K, Araki T, Uchida K, Hishida A, Uchino M, Ikeuchi H, Hirota S, <u>Kusunoki M</u> , Boland CR, Goel A	A Panel of Methylated MicroRNA Biomarkers for Identifying High-Risk Patients with Ulcerative Colitis-associated Colorectal Cancer	Gastroenterology	153(6)	1634-1646	2017
Okita Y, Araki T, Hiro J, Kondo S, Fujikawa H, Yoshiyama S, Inoue M, Toiyama Y, Kobayashi M, Ohi M, Inoue Y, Uchida K, Mohri Y, <u>Kusunoki M</u>	Laparoscopic ileopexy for afferent limb syndrome after ileal pouch-anal anastomosis	Asian J Endosc Surg.	10(4)	424-426	2017

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Araki T, Okita Y, Kawamura M, Kondo S, Toiyama Y, Yoshiyama S, Hiro J, Ohi M, Uchida K, Kusunoki M	Modified Martius flap procedure for refractory ileal pouch-vestibular fistula: A report of three cases	Int J Colorectal Dis	32(5)	757-759	2017
Kumagai H, Kudo T, Uchida K, Kunisaki R, Sugita A, Ohtsuka Y, Arai K, Kubota M, Tajiri H, Suzuki Y, Shimizu T.	Adult Gastroenterologists' Views on Transitional Care: Results from a Survey.	Pediatr Int.	61	817-822.	2019
虻川大樹, 青松友樹, 井上幹大, 岩間達, 熊谷秀規, 清水泰岳, 神保圭祐, 南部隆亮, 水落建輝, 内田恵一, 国崎玲子, 石毛 崇, 福岡智哉, 新井勝大, 清水俊明, 田尻 仁.	小児潰瘍性大腸炎治療指針 (2019年)	日小児栄消肝会誌	33	110-127	2019
新井勝大, 工藤孝広, 熊谷秀規, 齋藤武, 清水泰岳, 高橋美智子, 立花奈緒, 南部隆亮, 内田恵一, 国崎玲子, 石毛 崇, 福岡智哉, 虻川大樹, 清水俊明, 田尻 仁.	小児クローン病治療指針 (2019年)	日小児栄消肝会誌	33	90-109	2019
熊谷秀規	トランジション(移行期医療)について	IBD ニュース	64	1	2018
熊谷秀規	移行期医療(トランジション)に対する取り組み	小児科診療UP-to-DATE	29	22-25	2018
熊谷秀規, 秋山卓士, 虻川大樹, 位田忍, 乾あやの, 工藤孝広, 窪田 満	成人移行期小児炎症性疾患患者の自立支援のための手引書: 成人診療科へのスムーズな移行のために.	日小児栄消肝会誌	32	15-27	2018
Kobayashi T, Uda A, Udagawa E, Hibi T.	Lack of Increased Risk of Lymphoma by Thiopurines or Biologics in Japanese Patients with Inflammatory Bowel Disease: A Large-Scale Administrative Database Analysis.	J Crohns Colitis.	in press		2019
Kakuta Y, Izumiya Y, Okamoto D, Nakano T, Ichikawa R, Naito T, Moroi R, Kuroha M, Kanazawa Y, Kimura T, Shiga H, Kudo H, Minegishi N, Kawai Y, Tokunaga K, Nagasaki M, Kinouchi Y, Suzuki Y, Masasmune A; MENDEL study group (Kobayashi T).	High-resolution melt analysis enables simple genotyping of complicated polymorphisms of codon 18 rendering the NUDT15 diplotype.	J Gastroenterol.	55(1)		2019
Yamazaki H, So R, Matsuoka K, Kobayashi T, Shinzaki S, Matsuura M, Okabayashi S, Kataoka Y, Tsujimoto Y, Furukawa TA, Watanabe N.	Certolizumab pegol for induction of remission in Crohn's disease.	Cochrane Database Syst Rev.	29;8		2019
Naganuma M, Sugimoto S, Fukuda T, Mitsuyama K, Kobayashi T, Yoshimura N, Ohi H, Tanaka S, Andoh A, Ohmiya N, Saigusa K, Yamamoto T, Morohoshi Y, Ichikawa H, Matsuoka K, Hisamatsu T, Watanabe K, Mizuno S, Abe T, Suzuki Y, Kanai T; INDIGO Study Group.	Indigo naturalis is effective even in treatment-refractory patients with ulcerative colitis: a post hoc analysis from the INDIGO study.	J Gastroenterol.	in press		2019
Naganuma M, Kobayashi T, Nasuno M, Motoya S, Kato S, Matsuoka K, Hokari R, Watanabe C, Sakamoto H, Yamamoto H, Sasaki M, Watanabe K, Iijima H, Endo Y, Ichikawa H, Ozeki K, Tanida S, Ueno N, Fujiya M, Sako M, Takeuchi K, Sugimoto S, Abe T, Hibi T, Suzuki Y, Kanai T.	Significance of Conducting 2 Types of Fecal Tests in Patients with Ulcerative Colitis.	Clin Gastroenterol Hepatol.	in press		2019
Okabayashi S, Kobayashi T, Saito E, Toyonaga T, Ozaki R, Sagami S, Nakano M, Tanaka J, Yagisawa K, Kuronuma S, Takeuchi O, Hibi T.	Individualized treatment based on CYP3A5 single-nucleotide polymorphisms with tacrolimus in ulcerative colitis.	Intest Res.	17(2)	218-226	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Sagami S, Kobayashi T, Kikkawa N, Umeda S, Nakano M, Toyonaga T, Okabayashi S, Ozaki R, Hibi T	Combination of colonoscopy and magnetic resonance enterography is more useful for clinical decision making than colonoscopy alone in patients with complicated Crohn's disease.	PLoS One.	14(2)	e0212404	2019
Okabayashi S, Kobayashi T [corresponding author], Hibi T.	Drug lag for inflammatory bowel disease treatments in the East and West.	Inflamm Intest Dis	3(1)s	25-31	
Ozaki R, Kobayashi T [corresponding author], Okabayashi S, Nakano M, Morinaga S, Hara A, Ohbu M, Matsuoka K, Toyonaga T, Saito E, Hisamatsu T, Hibi T.	Histological Risk Factors to Predict Clinical Relapse in Ulcerative Colitis with Endoscopically Normal Mucosa.	J Crohns Colitis.	12(11)	1288-1294	
Hosoe N, Nakano M, Takeuchi K, Endo Y, Matsuoka K, Abe T, Omori T, Hayashida M, Kobayashi T, Yoshida A, Mizuno S, Nakazato Y, Naganuma M, Kanai T, Watanabe M, Ueno F, Suzuki Y, Hibi T, Ogata H.	Establishment of a Novel Scoring System for Colon Capsule Endoscopy to Assess the Severity of Ulcerative Colitis-Capsule Scoring of Ulcerative Colitis.	Inflamm Bowel Dis.	24(12)	2641-2647	2018
Shinzaki S, Fujii T, Bamba S, Ogawa M, Kobayashi T, Oshita M, Tanaka H, Ozeki K, Takahashi S, Kitamoto H, Kani K, Nanjo S, Sugaya T, Sakakibara Y, Yoshino T, Matsui A, Nakamura M, Tomizawa T, Sakemi R, Kamata N, Hibi T.	Seven days triple therapy for eradication of Helicobacter pylori does not alter the disease activity of patients with inflammatory bowel disease.	Intest Res	16(4)	609-618	2018
Okabayashi S, Kobayashi T [corresponding author], Nakano M, Toyonaga T, Ozaki R, Tablante MC, Kuronuma S, Takeuchi O, Hibi T.	A simple 1-day colon capsule endoscopy procedure demonstrated to be a highly acceptable monitoring tool for ulcerative colitis.	Inflamm Bowel Dis	24(11)	2404-2412	2018
Komoto S, Matsuoka K, Kobayashi T, Yokoyama Y, Suzuki Y, Hibi T, Miura S, Hokari R	Safety and efficacy of leukocytapheresis in elderly patients with ulcerative colitis: the impact in steroid-free elderly patients.	J Gastroenterol Hepatol	33(8)	1485-91	2018
Kobayashi T, Hisamatsu T, Suzuki Y, Ogata H, Andoh A, Araki T, Hokari R, Iijima H, Ikeuchi H, Ishiguro Y, Kato S, Kunisaki R, Matsumoto T, Motoya S, Nagahori M, Nakamura S, Nakase H, Tsujikawa T, Sasaki M, Yokoyama K, Yoshimura N, Watanabe K, Katafuchi M, Watanabe M, Hibi T.	Predicting Outcomes to Optimize Disease Management in Inflammatory Bowel Disease in Japan: Their Differences and Similarities to Western Countries.	Intest Res	16(2)	168-177	2018
小林 拓	抗TNF 抗体の止め方	IBD News	vol.64	33-36	2018
小林 拓	潰瘍性大腸炎	消化器疾患最新の治療 2019-20	1巻1号	30-33	2018
小林 拓	V. 炎症性腸疾患の検査・診断 2 . 炎症性腸疾患の診断における血液検査及び細菌学的検査	日本臨牀	76(増刊号 3)	173-177	2018
小林 拓	VI. 炎症性腸疾患の内科的治療 3 . 炎症性腸疾患治療薬の使い方と特性 (8) 抗 IL-12 p40 抗体 : ウステキヌマブ	日本臨牀	76(増刊号 3)	345-349	2018
Yamazaki H, So R, Matsuoka K, Kobayashi T, Shinzaki S, Matsuura M, Okabayashi S, Kataoka Y, Tsujimoto Y, Furukawa TA, Watanabe N.	Certolizumab pegol for induction of remission in Crohn's disease.	Cochrane Database of Systematic Reviews 2017	Issue 12	Art. No.: CD012893	2017
Okabayashi S, Kobayashi T [corresponding author], Nakano M, Toyonaga T, Ozaki R, Tablante MC, Kuronuma S, Takeuchi O, Hibi T.	A simple 1-day colon capsule endoscopy procedure demonstrated to be a highly acceptable monitoring tool for ulcerative colitis.	Inflamm Bowel Dis	in press		2017

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Kobayashi T, Hisamatsu T, Suzuki Y, Ogata H, Andoh A, Araki T, Hokari R, Iijima H, Ikeuchi H, Ishiguro Y, Kato S, Kunisaki R, Matsumoto T, Motoya S, Nagahori M, Nakamura S, Nakase H, Tsujikawa T, Sasaki M, Yokoyama K, Yoshimura N, Watanabe K, Katafuchi M, Watanabe M, Hibi T.	Predicting Outcomes to Optimize Disease Management in Inflammatory Bowel Disease in Japan: Their Differences and Similarities to Western Countries.	Intest Res	Published online Dec 7	P.1-10	2017
Ueno A, Jeffery L, Kobayashi T, Hibi T, Ghosh S, Jijon H.	Th17 plasticity and its relevance to inflammatory bowel disease.	J Autoimmun	S0896-8411(17)	30781-3	2017
Naganuma M, Sugimoto S, Mitsuyama K, Kobayashi T, Yoshimura N, Ohi H, Tanaka S, Andoh A, Ohmiya N, Saigusa K, Yamamoto T, Morohoshi Y, Ichikawa H, Matsuoka K, Hisamatsu T, Watanabe K, Mizuno S, Suda W, Hattori M, Fukuda S, Hirayama A, Abe T, Watanabe M, Hibi T, Suzuki Y, Kanai T; INDIGO Study Group.	Efficacy of Indigo naturalis in a Multicenter Randomized Controlled Trial of Patients with Ulcerative Colitis.	Gastroenterology	S0016-5085(17)	36382-5	2017
Okabayashi S, Kobayashi T, Sujino T, Ozaki R, Umeda S, Toyonaga T, Saito E, Nakano M, Tablante MC, Morinaga S, Hibi T.	Steroid-refractory extensive enteritis complicated by ulcerative colitis successfully treated with adalimumab.	Intest Res	15(4)	535-539	2017
Kobayashi T, Hishida A, Tanaka H, Nuki Y, Bamba S, Yamada A, Fujii T, Shinzaki S, Yokoyama Y, Yoshida A, Ozeki K, Ashizuka S, Kamata N, Nanjo S, Kakimoto K, Nakamura M, Matsui A, Yamauchi R, Takahashi S, Tomizawa T, Yoshino T, Hibi T.	Real-world Experience of Anti-tumor Necrosis Factor Therapy for Internal Fistulas in Crohn's Disease: A Retrospective Multicenter Cohort Study.	Inflamm Bowel Dis	23(12)	2245-2251	2017
Nakazato Y, Naganuma M, Sugimoto S, Bessho R, Arai M, Kiyohara H, Ono K, Nanki K, Mutaguchi M, Mizuno S, Kobayashi T, Hosoe N, Shimoda M, Abe T, Inoue N, Ogata H, Iwao Y, Kanai T.	Endocytoscopy can be used to assess histological healing in ulcerative colitis.	Endoscopy	49(6)	560-563	2017
Umeda S, Serizawa H, Kobayashi T, Toyonaga T, Saito E, Nakano M, Higuchi H, Tsunematsu S, Watanabe N, Hibi T, and Morinaga S	Clinical significance of human intestinal spirochetosis: a retrospective study.	Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi	114(2)	230-237	2017
小林 拓	炎症性腸疾患と腸内細菌(3)食事の欧米化と腸内細菌の変化	INTESTINE	Vol.21 No.4	P.2-3	2017
小林 拓、八木澤啓司	患者さんからよく尋ねられる内科診療のFAQ 消化器5「食事はどのようなことに気を付ければ良いでしょうか。」	臨床雑誌 内科	120巻3号	429-430	2017
小林 拓	特集/IBD治療薬のポジショニングを考える～現在と将来展望～現在治験中の新薬とそのポジショニング	IBD Research	Vol.11 No.4	33-36	2017
Ueda T., Fujii H., Nakamoto T., Nishigori N., Kuge H., Sasaki Y., Fujii H., Koyama F.	Anorectal cancer in Crohn's disease has a poor prognosis due to its advanced stage and aggressive histological features: a systematic literature review of Japanese patients.	J. Gastrointest. Cancer	51(1)	1-9	2020
Ikwuchi H., Uchino M., Sugita A., Futami K., Fukushima K., Hata K., Koganei K., Kusunoki M., Uchida K., Nezu R., Kimura H., Takahashi K., Itabashi M., Kameyama H., Higashi D., Koyama F., Ueda T., Mizushima T., Suzuki Y.	Long-term outcomes following restorative proctocolectomy ileal pouch-anal anastomosis in pediatric ulcerative colitis patients Multicenter national study in Japan	Ann Gastroenterol Surg.	2(6)	428-433	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Uchino M, Ikeuchi H, Sugita A, Futami K., Watanabe T., Fukushima K., Tatsumi K., Koganei K., Kimura H., Hata K., Takahashi K., Watanabe K., Mizushima T., Funayama Y., Higashi D., Araki M., Kusunoki M., Ueda T., <u>Koyama F</u> , Itabashi M., Nezu R., Suzuki Y.	Pouch functional outcomes after restorative proctocolectomy with ileal-pouch reconstruction in patients with ulcerative colitis: Japanese multi-center nationwide cohort study.	J. Gastroenterol	53(5)	642-651	2018
稲次直樹、吉川周作、増田勉、内田秀樹、櫻塚久記、横谷倫世、山岡健太郎、稲垣水美、横尾貴史、榎本泰三、香山浩司、山口貴也、宮沢善夫、久下博之、 <u>小山文一</u> 、庄雅之	知っておきたい直腸肛門部の腫瘍性疾患	胃と腸	53(7)	937-952	2018
<u>小山文一</u> 、西林直子、崎山恵美、庄雅之	クローン病でストーマが必要となる病態	WOC Nursing	6(10)	34-39	2018
<u>小山文一</u> 、植田剛、井上隆、久下博之、藤井久男、中島祥介	潰瘍性大腸炎 回腸囊肛門吻合術 (IAA)	手術	71(7)	971-976	2017
Takabayashi K, Hosoe N, Kato M, Hayashi Y, Miyanaga R, Nanki K, Fukuhara K, Mikami Y, Mizuno S, Sujino T, Mutaguchi M, Naganuma M, Yahagi N, <u>Ogata H</u> , Kanai T.	Efficacy of novel ultra-thin single-balloon enteroscopy for Crohn's disease: A propensity score-matched study	Gut and Liver		Epub ahead of print	2020
Yoshimatsu Y, Naganuma M, Sugimoto S, Tanemoto S, Umeda S, Fukuda T, Nomura E, Yoshida K, Ono K, Mutaguchi M, Nanki K, Mizuno S, Mikami Y, Fukuhara K, Sujino T, <u>Takabayashi K</u> , <u>Ogata H</u> , Iwao Y, Kanai T.	Development of an indigo naturalis suppository for topical induction therapy in patients with ulcerative colitis	Digestion	25	1-7	2019
<u>Takabayashi K</u> , <u>Hosoe N</u> , <u>Miyanaga R</u> , <u>Fukuhara S</u> , <u>Kimura K</u> , <u>Mizuno S</u> , <u>Naganuma M</u> , <u>Yahagi N</u> , <u>Ogata H</u> , <u>Kanai T</u>	Clinical utility of novel ultra-thin single-balloon enteroscopy: a feasibility study	Endoscopy	33	1518-1522	2019
Fukuda T, Naganuma M, Sugimoto S, Ono K, Nanki K, Mizuno S, Kimura K, Mutaguchi M, Nakazato Y, <u>Takabayashi K</u> , Inoue N, <u>Ogata H</u> , Iwao Y, Kanai T.	Efficacy of Therapeutic Intervention for Patients With an Ulcerative Colitis Mayo Endoscopic Score of 1.	Inflammatory Bowel Disease	25	782-788	2019
Konishi H, <u>Fujiya M</u> , Kashima S, Sakatani A, Dokoshi T, Ando K, Ueno N, Iwama T, Moriichi K, Tanaka H, Okumura T.	A tumor-specific modulation of heterogeneous ribonucleoprotein A0 promotes excessive mitosis and growth in colorectal cancer cells.	Cell Death Disease	in press		2020
Naganuma M, Kobayashi T, Nasuno M, Motoya S, Kato S, Matsuoka K, Hokari R, Watanabe C, Sakamoto H, Yamamoto H, Sasaki M, Watanabe K, Iijima H, Endo Y, Ichikawa H, Ozeki K, Tanida S, Ueno N, <u>Fujiya M</u> , Sako M, Takeuchi K, Sugimoto S, Abe T, Hibi T, Suzuki Y, Kanai T.	Significance of Conducting Two Types of Fecal Tests in Patients with Ulcerative Colitis	Clinical Gastroenterology and Hepatology	in press		2020
<u>Fujiya M</u> , Ueno N, Kashima S, Tanaka K, Sakatani A, Ando K, Moriichi K, Konishi H, Kamiyama N, Tasaki Y, Omura T, Matsubara K, Taruishi M, Okumura T.	Long-Chain Polyphosphate Is a Potential Agent for Inducing Mucosal Healing of the Colon in Ulcerative Colitis.	Clin Pharmacol Ther	107(2)	452-461	2020
Horioka k, Tanaka H, Isozaki S, Konishi H, <u>Fujiya M</u> , Okuda K, Asari M, Shiono H, Ogawa K, Shimizu K.	Acute Colchicine Poisoning Causes Endotoxemia via the Destruction of Intestinal Barrier Function: The Curative Effect of Endotoxin Prevention in a Murine Model	Digestive Diseases and Sciences	65(1)	132-140	2020
Kashima S, Tanabe H, Tanino M, Kobayashi Y, Murakami Y, Iwama T, Sasaki T, Kunogi T, Takahashi K, Ando K, Ueno N, Moriichi K, Fukudo M, Tasaki Y, Hosokawa M, Mizukami Y, <u>Fujiya M</u> , Okumura T.	Lymph node metastasis from gastroesophageal cancer successfully treated by nivolumab : A case report of a young patient.	Frontier in Oncology	16(9)	1375	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Ando K, <u>Fujiya M</u> , Nomura Y, Inaba Y, Sugiyama Y, Kobayashi Y, Iwama T, Ijiri M, Takahashi K, Ueno N, Kashima S, Moriichi K, Tanabe H, Mizukami Y, Akasaka K, Fujii S, Yamada S, Nakase H, Okumura T.	The incidence and risk factors of venous thromboembolism in patients with inflammatory bowel disease: A prospective multicenter cohort study.	Digestion	100(4)	229-237	2019
Moriichi K, <u>Fujiya M</u> , Kobayashi Y, Murakami Y, Iwama T, Kunogi T, Sasaki T, Ijiri M, Takahashi K, Tanaka K, Sakatani A, Ando K, Nomura Y, Ueno N, Kashima S, Ikuta K, Tanabe H, Mizukami Y, Saitoh Y, Okumura T.	Autofluorescence Imaging Reflects the Nuclear Enlargement of Tumor Cells as well as the Cell Proliferation Ability and Aberrant Status of the p53, Ki-67, and p16 Genes in Colon Neoplasms.	Molecules	24(6)	pii: E1106	2019
Takahashi K, <u>Fujiya M</u> , Ueno N, Ando K, Kashima S, Moriichi K, Okumura T.	Endoscopic fine-needle aspiration is useful for the treatment of pneumatosis cystoides intestinalis with intussusception.	Am J Gastroenterol	114(1)	13	2019
Ando K, <u>Fujiya M</u> , Okumura T.	Minute duodenal metastasis in a patient with thoracic esophageal squamous cell carcinoma successfully treated with chemoradiotherapy.	Digestive Endoscopy	31(1)	102	2019
藤谷幹浩、上野伸展	潰瘍性大腸炎 Mats 分類 (内視鏡所見による分類)	胃と腸	54(5)	701	2019
Tanabe H, Ando K, Ohdaira H, Suzuki Y, Konuma I, Ueno N, <u>Fujiya M</u> , Okumura T.	Successful medical treatment for a Crohn's disease patient with a perforation by a second-generation patency capsule.	Endosc Int Open	6(12)	E1436-E1438	2018
Dokoshi T, Zhang L, Nakatsuji T, Adase CA, Sanford JA, Paladini RD, Tanaka H, <u>Fujiya M</u> , Gallo RL.	Hyaluronidase inhibits reactive adipogenesis and inflammation of colon and skin.	JCI insight	3(21)	e123072	2018
Ando K, <u>Fujiya M</u> , Nomura Y, Inaba Y, Sugiyama Y, Iwama T, Ijiri M, Takahashi K, Tanaka K, Sakatani A, Ueno N, Kashima S, Moriichi K, Mizukami Y, Okumura T.	The incidence and risk factors of venous thromboembolism in Japanese inpatients with inflammatory bowel disease: A retrospective cohort study.	Intest Res	16(3)	416-425	2018
<u>Fujiya M</u> , Kashima S, Sugiyama Y, Iwama T, Ijiri M, Tanaka K, Takahashi K, Ando K, Nomura Y, Ueno N, Goto T, Sasajima J, Moriichi K, Mizukami Y, Okumura T.	Takayasu's Arteritis Associated with Eosinophilic Gastroenteritis, Possibly via the Overactivation of Th17.	Gut Pathogens	10	22	2018
Moriichi K, <u>Fujiya M</u> , Goto T, Okumura T.	Echinococcosis infection diagnosed based on the histological findings of a lymph node involvement obtained by endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration.	Endoscopic ultrasound	7(3)	210-211	2018
<u>Fujiya M</u>	Detection and characterization of colitis-associated cancer/dysplasia: Based on reports from the JDDW2017 and meta-analyses of prospective studies concerning endoscopic procedure.	Digestive Endoscopy	30(3)	332-337	2018
藤谷幹浩	炎症性腸疾患治療の最前線	日本病院薬剤師会雑誌	54(10)	1217-1222	2018
藤谷幹浩	文献紹介 IBD注目のKey論文 潰瘍性大腸炎患者における青黛の治療効果に関する多施設無作為化比較試験	IBD Research	12(3)	200	2018
藤谷幹浩	X 炎症性腸疾患の患者指導、QOL 病診連携の推進	日本臨床	76(増刊号3)	586-591	2018
井尻学見, 藤谷幹浩, 杉山雄哉, 岩間琢哉, 田中一之, 高橋慶太郎, 安藤勝祥, 野村好紀, 上野伸展, 嘉島伸, 盛一健太郎, 奥村利勝	3 .潰瘍性大腸炎の内視鏡的重症度評価 2)画像強調内視鏡所見からみた重症度	胃と腸	53(2)	169-176	2018
Tanaka K, <u>Fujiya M</u> , Sakatani A, Fujibayashi S, Nomura Y, Ueno N, Kashima S, Goto T, Sasajima J, Moriichi K, Okumura T.	Second-line therapy for Helicobacter pylori eradication causing antibiotic-associated hemorrhagic colitis.	Ann Clin Microbiol Antimicrob	16(1)	54	2017

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Ijiri M, <u>Fujiya M</u> , Konishi H, Tanaka H, Ueno N, Kashima S, Moriichi K, Sasajima J, Ikuta K, Okumura T.	Ferrichrome identified from Lactobacillus casei ATCC334 induces apoptosis through its iron binding site in gastric cancer cells.	Tumor Biology	39(6)	1010428317711 311	2017
Takahashi K, Ito T, Sato T, Goto M, Kawamoto T, Fujinaga A, Yanagawa N, Saito Y, Sato K, <u>Fujiya M</u> .	Endoscopic submucosal dissection for depressed-type early adenocarcinoma of the terminal ileum.	Internal Medicine	56(10)	1153-1156	2017
<u>藤谷幹造</u>	腸内細菌を標的とした消化器疾患の治療法	INTESTINE	21(4)	341-350	2017
小西弘晃、 <u>藤谷幹造</u>	文献紹介IBD注目のKey論文 IL-23とIL-17の腸管免疫における役割の相違	IBD Research	11(2)	50	2017
Ryohei shinohara, Kenogo Sasaki, Jun Inoue, <u>Namiko Hoshi</u> , Itsuko Fukuda, Daisuke Sasaki, Akihiko Kondo, Ro Osawa	Butyryl-CoA: acetate-CoA-transferase Gene Associated With the Genus Roseburia Is Decreased in the Gut Microbiota of Japanese Patients with Ulcerative Colitis	Biosci Microbiota Food Health	38(4)	159-163	2019
Kenogo Sasaki, Jun Inoue, Daisuke Sasaki, <u>Namiko Hoshi</u> , Tomokazu Shirai, Itsuko Fukuda, Takeshi Azuma, Akihiko Kondo, Ro Osawa	Construction of a Model Culture System of Human Colonic Microbiota to Detect Decreased Lachnospiraceae Abundance and Butyrogenesis in the Feces of Ulcerative Colitis Patients	Biotechnol J	14(5)	E1800555	2019
Zi Wang, Soichiro Adachi, Lingling Kong, Daisuke Watanabe, Yusuke Nakanishi, Toshiaki Ohteki, <u>Namiko Hoshi</u> , Yuzo Kodama	Role of Eosinophils in a Murine Model of Inflammatory Bowel Disease	Biochem Biophys Res Commun	511(1)	99-104	2019
Takafumi Otsuka, Makoto Ooi, Kazutoshi Tobimatsu, Chika Wakahara, Daisuke Watanabe, Soichiro Adachi, Eiichiro Yasutomi, Haruka Yamairi, Yuna Ku, Masaru Yoshida, <u>Namiko Hoshi</u> , Yuzo Kodama	Short-Term and Long-Term Outcomes of Infliximab and Tacrolimus Treatment for Moderate to Severe Ulcerative Colitis: Retrospective Observational Study	Kobe J Med Sci	64(4)	E140-148	2018
Soichiro Adachi, <u>Namiko Hoshi</u> , Jun Inoue, Eiichiro Yasutomi, Takafumi Otsuka, Ramesh Dhakhwa, Zi Wang Yuna Koo, Toshihiro Takamatsu, Yuriko Matumura, Haruka Yamairi, Daisuke Watanabe, Makoto Ooi, Toshihito Tanahashi, Shin Nishiumi, Masaru Yoshida, Takeshi Azuma	Indigo Naturalis Ameliorates Oxazolone-Induced Dermatitis but Aggravates Colitis by Changing the Composition of Gut Microflora	Int Arch Allergy Immunol	173(1)	23-33	2017
Honzawa Y, <u>Matsuura M</u> , Higuchi H, Sakurai T, Seno H, Nakase H.	A novel endoscopic imaging system for quantitative evaluation of colonic mucosal inflammation in patients with quiescent ulcerative colitis.	Endosc Int Open.	8(1)	E41-E49	2020
Iida T, Hirayama D, Minami N, <u>Matsuura M</u> , Wagatsuma K, Kawakami K, Nagaishi K, Nojima M, Ikeuchi H, Hirota S, Shirakawa R, Horiuchi H, Nakase H.	Down-regulation of RalGTPase-Activating Protein Promotes Colitis-Associated Cancer via NLRP3 Inflammasome Activation.	Cell Mol Gastroenterol Hepatol.	9(2)	277-293	2020
Iida T, Hida T, <u>Matsuura M</u> , Uhara H, Nakase H.	Current clinical issue of skin lesions in patients with inflammatory bowel disease.	Clin J Gastroenterol.	12(6)	501-510	2019
Yamazaki H, So R, Matsuoka K, Kobayashi T, Shinzaki S, <u>Matsuura M</u> , Okabayashi S, Kataoka Y, Tsujimoto Y, Furukawa TA, Watanabe N.	Certolizumab pegol for induction of remission in Crohn's disease.	Cochrane Database Syst Rev.	(8)	CD012893	2019
Wagatsuma K, Yamada S, Ao M, <u>Matsuura M</u> , Tsuji H, Iida T, Miyamoto K, Oka K, Takahashi M, Tanaka K, Nakase H.	Diversity of Gut Microbiota Affecting Serum Level of Undercarboxylated Osteocalcin in Patients with Crohn's Disease.	Nutrients.	11(7)	E1541	2019
Hisamatsu T, Kato S, Kunisaki R, <u>Matsuura M</u> , Nagahori M, Motoya S, Esaki M, Fukata N, Inoue S, Sugaya T, Sakuraba H, Hirai F, Watanabe K, Kanai T, Naganuma M, Nakase H, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T, Nojima M, Matsumoto T	Withdrawal of thiopurines in Crohn's disease treated with scheduled adalimumab maintenance: a prospective randomised clinical trial (DIAMOND2).	J Gastroenterol.	54(10)	860-870	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Yamamoto Y, Masuda S, Nakase H, <u>Matsuura M</u> , Maruyama S, Hisamatsu T, Suzuki Y, Matsubara K.	Influence of Pharmaceutical Formulation on the Mucosal Concentration of 5-Aminosalicylic Acid and N-Acetylmethylsalicylic Acid in Japanese Patients with Ulcerative Colitis.	Biol Pharm Bull.	42 (1)	81-86	2019
Nakamura S, Imaeda H, Nishikawa H, Iimuro M, <u>Matsuura M</u> , Oka H, Oku J, Miyazaki T, Honda H, Watanabe K, Nakase H, Andoh A.	Usefulness of fecal calprotectin by monoclonal antibody testing in adult Japanese with inflammatory bowel diseases: a prospective multicenter study.	Intest Res.	16 (4)	554-562	2018
Tsuchido Y, Nagao M, <u>Matsuura M</u> , Nakano S, Yamamoto M, Matsumura Y, Seno H, Ichiyama S.	Real-time quantitative PCR analysis of endoscopic biopsies for diagnosing CMV gastrointestinal disease in non-HIV immunocompromised patients: a diagnostic accuracy study.	Eur J Clin Microbiol Infect Dis.	37 (12)	2389-2396	2018
Imai T, Yamasaki H, <u>Mitsuyama K</u> , Yamaga O, Sugihara G, Kaida Y, Shibata R, Hazama T, Yoshioka S, Torimura T, Fukami K, Yamashita N	Single Needle Granulocyte and Monocyte Apheresis for Ulcerative Colitis: A Retrospective Safety Analysis	The Kurume medical journal	inpress 2020	inpress 2020	2020
Mizuochi T, Arai K, Kudo T, Nambu R, Tajiri H, Aomatsu T, Abe N, Kakiuchi T, Hashimoto K, Sogo T, Takahashi M, Etani Y, Takaki Y, Konishi KI, Ishihara J, Obara H, Kakuma T, Kurei S, Yamashita Y, <u>Mitsuyama K</u>	Antibodies to Crohn's disease peptide 353 as a diagnostic marker for pediatric Crohn's disease: a prospective multicenter study in Japan	Journal of Gastroenterology	inpress 2020	inpress 2020	2020
Sakisaka H, Takedatsu H, <u>Mitsuyama K</u> , Mochizuki S, Sakurai K, Sakisaka S, Hirai F	Topical Therapy with Antisense Tumor Necrosis Factor Alpha Using Novel - Glucan-Based Drug Delivery System Ameliorates Intestinal Inflammation	International journal of molecular sciences	21,2		2020
Naganuma M, Sugimoto S, Fukuda T, <u>Mitsuyama K</u> , Kobayashi T, Yoshimura N, Ohi H, Tanaka S, Andoh A, Ohmiya N, Saigusa K, Yamamoto T, Morohoshi Y, Ichikawa H, Matsuoka K, Hisamatsu T, Watanabe K, Mizuno S, Abe T, Suzuki Y, Kanai T	Indigo naturalis is effective even in treatment-refractory patients with ulcerative colitis: a post hoc analysis from the INDIGO study	Journal of Gastroenterology	55,2	169-180	2020
Yamasaki H, <u>Mitsuyama K</u> , Yoshioka S, Kuwaki K, Yamauchi R, Fukunaga S, Mori A, Tsuruta O, Torimura T	Leukocyte Apheresis Using a Fiber Filter Suppresses Colonic Injury Through Calcitonin Gene-Related Peptide Induction	Inflammatory bowel diseases	inpress 2019	inpress 2019	2019
Hirai F, Ishida T, Takeshima F, Yamamoto S, Yoshikawa I, Ashizuka S, Inatsu H, <u>Mitsuyama K</u> , Sou S, Iwakiri R, Nozaki R, Ohi H, Esaki M, Iida M, Matsui T	Effect of a concomitant elemental diet with maintenance anti-tumor necrosis factor-alpha antibody therapy in patients with Crohn's disease: A multicenter, prospective cohort study.	Journal of Gastroenterology and Hepatology	34,1	132-139	2019
Fukunaga S, Mori A, Ohuchi A, Yoshioka S, Akiba J, <u>Mitsuyama K</u> , Tsuruta O, Torimura T	Abdominal pain, diarrhea and bloody stools in a patient treated for renal cell carcinoma with sunitinib	Journal of Gastroenterology and Hepatology	35,1	10	2019
Yamasaki H, Kinugasa T, Iwasaki S, Yoshioka S, Mizuochi T, Ishibashi M, Nagatsuka K, Yamauchi R, Ishibashi N, Araki T, Mori A, Akagi Y, <u>Mitsuyama K</u> , Torimura T	Questionnaire Survey from the 1st Kurume University Inflammatory Bowel Disease Center Educational Lecture	The Kurume Medical Journal	65,3	109-112	2019
<u>光山慶一</u>	慢性便秘の診断と治療—最近の話題	久留米内科医会会報	74	24-26	2020
大内彬弘、鶴田 修、荒木俊博、長知徳、草場喜雄、中根智幸、徳安秀紀、永田 務、福永秀平、火野坂淳、向笠道太、江森啓悟、上野恵里奈、河野弘志、 <u>光山慶一</u> 、鳥村拓司	PG typeとNPG type隆起型早期大腸癌における生物学的悪性度の相違	胃と腸	54,6	889-896	2019
石原 潤、水落建輝、榊 忠宏、高木祐吾、吉岡慎一郎、 <u>光山慶一</u>	遺伝子異常が確認されたVEO-IBD症例	胃と腸	54,13	1746-1750	2019
山崎 博、 <u>光山慶一</u>	血球成分除去療法に使い方	診断と治療	107,7	811-814	2019
<u>光山慶一</u>	便秘症の治療 慢性便秘症における非薬物療法	臨牀と研究	96,11	32-33	2019
<u>光山慶一</u>	炎症性腸疾患の病態とサイトカイン	Colonoexpert コロノエキスパート	1,1	10	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
吉岡慎一郎、 <u>光山慶一</u>	潰瘍性大腸炎の重症度を評価するための大腸カプセル内視鏡検査を用いた新しいスコアリングシステムの確立-潰瘍性大腸炎のカプセルスコアリング	IBD Research	13,4	250-251	2019
草場喜雄、鶴田 修、永田 務、大内彬弘、中根智幸、福永秀平、向笠道太、 <u>光山慶一</u> 、鳥村拓司	FIT陰性癌の症例(2) FIT陰性であったpT1b癌	INTESTINE	23,5	457-461	2019
永田 務、鶴田 修、草場喜雄、森田拓、中根智幸、大内彬弘、徳安秀紀、福永秀平、火野坂淳、向笠道太、江森啓悟、上野恵里奈、河野弘志、 <u>光山慶一</u> 、鳥村拓司	大腸 NBI 拡大観察の基本と最新知見	胃と腸	54,1	9-16	2019
河野弘志、鶴田 修、上野恵里奈、菅原脩平、後藤諒介、深水 航、柴田翔、渡邊裕次郎、山田康正、伊藤陽平、小林起秋、 <u>光山慶一</u> 、鳥村拓司	主題：隆起型早期大腸癌の病態と診断 PG type隆起型早期大腸癌の内視鏡診断 通常内視鏡観察の立場から	胃と腸	54,6	847-858	2019
<u>光山慶一</u>	慢性便秘の診断と治療	慢性便秘の診断と治療	43,3	34-36	2019
Naganuma M, Sugimoto S, Mitsuyama K, Kobayashi T, Yoshimura N, Ohi H, Tanaka S, Andoh A, Ohmiya N, Saigusa K, Yamamoto T, Morohoshi Y, Ichikawa H, Matsuoka K, Hisamatsu T, Watanabe K, Mizuno S, Suda W, Hattori M, Fukuda S, Hirayama A, Abe T, Watanabe M, Hibi T, Suzuki Y, Kanai T	Efficacy of Indigo naturalis in a Multicenter Randomized Controlled Trial of Patients with Ulcerative Colitis.	Gastroenterology	154,4	935-947	2018
Fukunaga S, Kuwaki K, Mitsuyama K, Takedatsu H, Yoshioka S, Yamasaki H, Yamauchi R, Mori A, Kakuma T, Tsuruta O, Torimura T	Detection of calprotectin in inflammatory bowel disease: Fecal and serum levels and immunohistochemical localization.	International Journal of Molecular Medicine	41,1	107-118	2018
Fukunaga S, Takedatsu H, Mitsuyama K, Torimura T	A Rare Case of Ulcerative Colitis with Neurofibromatosis Type 1	The Kurume Medical Journal	64,12	25-27	2018
Takedatsu H, Mitsuyama K, Fukunaga S, Yoshioka S, Yamauchi R, Mori A, Yamasaki H, Kuwaki K, Sakisaka H, Sakisaka S, Torimura T	Diagnostic and clinical role of serum proteinase 3 antineutrophil cytoplasmic antibodies in inflammatory bowel disease	Journal of Gastroenterology and Hepatology		1603-1607	2018
Nagata S, Mitsuyama K, Kawano H, Noda T, Maeyama Y, Mukasa M, Takedatsu H, Yoshioka S, Kuwaki K, Akiba J, Tsuruta O, Torimura T	Endoscopic analysis of colorectal serrated lesions with cancer	Oncology Letters	15,6	8655-8662	2018
Maeyama Y, Mitsuyama K, Noda T, Nagata S, Nagata T, Yoshioka S, Yoshida H, Mukasa M, Sumie H, Kawano H, Akiba J, Araki Y, Kakuma T, Tsuruta O, Torimura T	Prediction of colorectal tumor grade and invasion depth through narrow-band imaging scoring	World Journal of Gastroenterology	24,42	4809-4820	2018
Yamauchi R, Araki T, Mitsuyama K, Tokito T, Ishii H, Yoshioka S, Kuwaki K, Mori A, Yoshimura T, Tsuruta O, Torimura T	The characteristics of nivolumab-induced colitis: an evaluation of three cases and a literature review	BMC Gastroenterology	18,1	135	2018
Araki T, Arinaga-Hino T, Koga H, Akiba J, Ide T, Okabe Y, Kuwahara R, Amano K, Yasumoto M, Kawaguchi T, Sano T, Kondou R, Kurata S, Mitsuyama K, Torimura T	Marked accumulation of FDG and inflammatory cells expressing glucose transporter-3 in IgG4-related autoimmune hepatitis	Hepatology Research	48,11	937-944	2018
永田 務、鶴田 修、草場喜雄、森田拓、中根智幸、大内彬弘、徳安秀紀、進藤洋一郎、火野坂淳、向笠道太、秋葉純、宗 祐人、上野恵里奈、河野弘志、 <u>光山慶一</u> 、鳥村拓司	内視鏡的粘膜下層剥離術にて切除し得た肛門管癌	胃と腸	53,7	980-985	2018
竹田津英稔、 <u>光山慶一</u>	炎症性メディエーター・サイトカインの関与	日本臨牀	76,3	87-93	2018
<u>光山慶一</u> 、森 敦、吉岡慎一郎、桑木光太郎、山内亨介	炎症性腸疾患に対する腸内細菌叢の是正を目的とした治療の有用性	日本臨牀	76,3	362-366	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
光山慶一	便秘症の診断と治療	臨牀と研究	95,2	223-226	2018
光山慶一	クローン病に伴う肛門複雑瘻孔に対する幹細胞治療(Cx601)の長期効果と安全性	IBD Research	12,3	201	2018
Yamauchi R, Kominato K, Mitsuyama K, Takedatsu H, Yoshioka S, Kuwaki K, Yamasaki H, Fukunaga S, Mori A, Akiba J, Tsuruta O, Torimura T	Stereomicroscopic features of colitis-associated tumors in mice: Evaluation of pit pattern.	Oncology Letters	14,3	3675-3682	2017
Yoshioka S, Takedatsu H, Fukunaga S, Kuwaki K, Yamasaki H, Yamauchi R, Mori A, Kawano H, Yanagi T, Mizuochi T, Ushijima K, Mitsuyama K, Tsuruta O, Torimura T	Study to determine guidelines for pediatric colonoscopy	World Journal Gastroenterol	23,31	5773-5779	2017
Fukunaga S, Takedatsu H, Muta H, Mitsuyama K, Torimura T	An unusual cause of colonic stricture with polyps	Gut	66,5	1495	2017
Mori A, Yamasaki H, Takedatsu H, Mitsuyama K	Duodenal metastases from lung carcinoma	Internal Medicine	56,5	573-574	2017
河野弘志、鶴田 修、上野恵里奈、深水航、長 知徳、柴田 翔、渡邊裕次郎、山田康正、伊藤陽平、光山慶一、鳥村拓司	主題：大腸小・微小病変に対するcold polypectomyの意義と課題 大腸小・微小病変に対する内視鏡診断-拡大観察	胃と腸	52,12	1535-1543	2017
吉岡慎一郎、光山慶一	【図説「胃と腸」所見用語集2017】画像所見 [腸] アфта,アфта様潰瘍(aphtha, aphthoid ulcer)	胃と腸	52,5	623	2017
福永秀平、光山慶一	【図説「胃と腸」所見用語集2017】画像所見 [腸] 粘膜橋,粘膜紐, polypoid mucosal tag(mucosal bridge, mucosal tag)	胃と腸	52,5	648	2017
Naoki Yoshimura, Yoko Yokoyama, Fumihito Hirai, Koji Sawada, Nobuhito Kashiwagi, Yasuo Suzuki	Development of a C1q-immobilized (Cim) assay to measure total antibodies to infliximab and its clinical relevance in patients with inflammatory bowel disease	Cytokine	120	54-61	2019
岡野 荘、酒匂 美奈子、吉村 直樹、高添 正和	シクロスポリン持続静注療法にて手術を回避し得た巨大結腸症を呈した重症・劇症潰瘍性大腸炎3例の検討	日本消化器病学会雑誌	117(2)	157-164	2020
岡野 荘、石沢 千尋、酒匂 美奈子、吉村 直樹、阿部 佳、高添 正和	潰瘍性大腸炎術後の回腸嚢炎に上部消化管病変を合併した一例	Progress of Digestive Endoscopy	94(1)	49-51	2019
Watanabe K, Ohmiya N, Nakamura M, Fujiwara Y	A Prospective Study Evaluating the Clinical Utility of the Tag-Less Patency Capsule with Extended Time for Confirming Functional Patency	Digestion	in press		2020
Watanabe K, Motoya S, Ogata H, Kanai T, Matsui T, Suzuki Y, Shikamura M, Sugiura K, Oda K, Hori T, Araki T, Watanabe M, Hibi T.	Effects of vedolizumab in Japanese patients with Crohn's disease: a prospective, multicenter, randomized, placebo-controlled Phase 3 trial with exploratory analyses.	J Gastroenterol	55	291-306	2020
Miyazaki T, Watanabe K, Kojima K, Koshiha R, Fujimoto K, Sato T, Kawai M, Kamikozuru K, Yokoyama Y, Hida N, Nakamura S.	Efficacies and related issues of ustekinumab in Japanese patients with Crohn's disease: a preliminary study	Digestion	101	53-59	2020
Shiro Oka, Toshio Uraoka, Kenji Watanabe, Keisuke Hata, Keisuke Kawasaki, Kenichi Mizuno, Masashi Misawa, Naoki Hosoe, Tomohiko Moriyama and Hiroshi Kawachi	Endoscopic diagnosis and treatment of ulcerative colitis-associated neoplasia	Dig Endosc	31 Suppl 1	26-30	2019
渡辺憲治、樋田信幸、岡 志郎、畑 啓介、江崎幹宏、平井郁仁、斎藤彰一、浦岡俊夫、櫻田博史、嶋本文雄、味岡洋一、斎藤 豊、岩男 泰、池内浩基、松本主之、田中信治、工藤進英	UC 関連腫瘍の内視鏡所見分類に関する多施設共同研究(Navigator Study 2)の紹介	胃と腸	55	208-211	2020
渡辺憲治	潰瘍性大腸炎関連腫瘍に対するサーベイランス内視鏡は、リアルワールド外科切除例において全生存率の向上をもたらす	IBD Research	13	252-253	2019
渡辺憲治、樋田信幸、中村志郎	炎症性腸疾患関連腫瘍サーベイランスの精度向上に向けて	日本消化器病学会雑誌	116	878-890	2019

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
渡辺憲治、樋田信幸、中村志郎	実地内科医のための潰瘍性大腸炎診療ABC, Special situationの治療・将来展望: ワクチン接種	診断と治療	107	855-858	2019
渡辺憲治、上小鶴孝二、横山陽子、宮崎孝子、樋田信幸、中村志郎	炎症性腸疾患の検査法 4) CT・MRI診断	臨床消化器内科	34	55-59	2019
渡辺憲治、中村志郎	小腸・大腸【潰瘍性大腸炎】 病態分類(拡がりによる病型分類、病期分類、重症度分類など)	胃と腸 2019年増刊号、消化管疾患の分類2019 使い方、使われ方	54	698-699	2019
Shiro Nakamura, Hirotsugu Imaeda, Hiroki Nishikawa, Masaki Iimuro, Minoru Matsuura, Hideo Oka, Junsuke Oku, Takako Miyazaki, Hirohito Honda, Kenji Watanabe, Hiroshi Nakase, Akira Andoh	Usefulness of fecal calprotectin by monoclonal antibody testing in adult Japanese with inflammatory bowel diseases: A prospective multicenter study	Intest Res.	16	554 - 562	2018
Soetikno R, East J, Suzuki N, Uedo N, Matsumoto T, Watanabe K, Sanduleanu S, Sanchez-Yague A, Kaltenbach T.	Usefulness of fecal calprotectin by monoclonal antibody testing in adult Japanese with inflammatory bowel diseases: A prospective multicenter study	Gastrointest Endosc.	87	1085-1094	2018
Kenji Watanabe, Takayuki Matsumoto, Tadakazu Hisamatsu, Hiroshi Nakase, Satoshi Motoya, Naoki Yoshimura, Tetsuya Ishida, Shingo Kato, Tomoo Nakagawa, Motohiro Esaki, Masakazu Nagahori, Toshiyuki Matsui, Yuji Naito, Takanori Kanai, Yasuo Suzuki, Masanori Nojima, Mamoru Watanabe, and Toshifumi Hibi, the DIAMOND study group.	Clinical and pharmacokinetic factors associated with adalimumab-induced mucosal healing in patients with Crohn's disease	Clin Gastroenterol Hepatol.	16	542-549	2018
Hosomi S, Watanabe K, Nishida Y, Yamagami H, Yukawa T, Otani K, Nagami Y, Tanaka F, Taira K, Kamata N, Tanigawa T, Shiba M, Watanabe T, Nagahara H, Maeda K, Fujiwara Y.	Combined infection of human herpes viruses: a risk factor for subsequent colectomy in ulcerative colitis	Inflamm Bowel Dis.	24	1307-1315	2018
渡辺憲治、樋田信幸、中村志郎	潰瘍性大腸炎関連腫瘍サーベイランス内視鏡の最前線	兵医大医学会誌	43	33 - 37	2019
渡辺憲治、宮崎孝子、樋田信幸、中村志郎、味岡洋一	UCにおける IEE を用いたサーベイランスと Colitis associated dysplasia/cancer の IEE 診断	消化器内視鏡	30	1712 - 1714	2018
渡辺憲治、小島健太郎、藤本晃士、小柴良司、佐藤寿行、河合幹夫、上小鶴孝二、高川哲也、横山陽子、宮崎孝子、樋田信幸、中村志郎	IBD 患者の感染合併症	IBD Research	12	231 - 236	2018
日比紀文、渡辺 守、Laurent Peyrin-Biroulet、本谷 聡、松本主之、久松理一、猿田雅之、渡辺憲治	IBD 治療の展望	医薬ジャーナル	54	1670 - 1676	2018
渡辺憲治、樋田信幸、宮崎孝子、佐藤寿行、河合幹夫、上小鶴孝二、高川哲也、横山陽子、中村志郎	炎症性腸疾患の粘膜治癒を考える 各論 1. 潰瘍性大腸炎 (2) 色素拡大内視鏡・NBI	Intestine	22	324 - 329	2018
渡辺憲治、西下正和、横山陽子、宮崎孝子、樋田信幸、中村志郎	特集: 大腸腫瘍治療後のサーベイランス 潰瘍性大腸炎の dysplasia	臨床消化器内科	8	1045-1050	2018
渡辺憲治、上小鶴孝二、宮崎孝子、樋田信幸、中村志郎	炎症性腸疾患の検査・診断 4. 炎症性腸疾患の画像診断 (6) CT・MRI診断 1) CT・MRI診断概論	日本臨床 増刊号 炎症性腸疾患 (第2版) 病因解明と診断・治療の最新知見	76	220-225	2018
中村志郎、樋田信幸、渡辺憲治	炎症性腸疾患治療の最前線 - 治療指針・ガイドラインを踏まえて -	日本消化器病学会雑誌	115	233-243	2018
渡辺 憲治、樋田 信幸、宮崎 孝子、藤森 絢子、小柴 良司、藤本 晃士、佐藤 寿行、木田 裕子、河合 幹夫、上小鶴 孝二、高川 哲也、横山 陽子、中村 志郎	潰瘍性大腸炎の内視鏡的重症度評価 NBI拡大内視鏡所見からみた重症度	胃と腸	53	177-181	2018
渡辺憲治、村野実之、西下正和、大森敏秀	患者さんのためのIBD治療～GMA治療の位置付けを再考する～	CC Japan	102	34-37	2018

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
渡辺 憲治, 藤森 絢子, 小柴 良司, 藤本 晃士, 佐藤 寿行, 木田 裕子, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 高川 哲也, 横山 陽子, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 中村 志郎	今後本邦で承認が見込まれるクローン病治療薬の特徴	消化器の臨床	21	48-52	2018
渡辺 憲治, 樋田 信幸, 宮崎 孝子, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 高川 哲也, 横山 陽子, 中村 志郎	潰瘍性大腸炎関連腫瘍に対する至適サーベイランス法の検討 インジゴカルミン色素散布法 vs NBI法	Intestine	22	53 - 58	2018
宮崎 孝子, 渡辺 憲治, 樋田 信幸, 中村 志郎	潰瘍性大腸炎に対する生物学的製剤の適応	消化器・肝臓内科	3	28-33	2018
Yoko Yokoyama, Koji Kamikozuru, Kenji Watanabe, Shiro Nakamura	Inflammatory bowel disease patients experiencing a loss of response to infliximab regain long-term response after undergoing granulocyte/monocyte apheresis: A case series	Cytokine	2017 Dec 29;103:25-28. doi: 10.1016/j.cyto.2017.12.030.		2018
Nishida Y, Hosomi S, Watanabe K, Watanabe K, Yukawa T, Otani K, Nagami Y, Tanaka F, Taira K, Kamata N, Yamagami H, Tanigawa T, Watanabe T, Fujiwara Y.	Serum interleukin-6 level is associated with response to infliximab in ulcerative colitis	Scand J Gastroenterol	2017 Nov 24:1-7. doi: 10.1080/00365521.2017.1403647.		2017
Kenji Watanabe, Takayuki Matsumoto, Tadakazu Hisamatsu, Hiroshi Nakase, Satoshi Motoya, Naoki Yoshimura, Tetsuya Ishida, Shingo Kato, Tomoo Nakagawa, Motohiro Esaki, Masakazu Nagahori, Toshiyuki Matsui, Yuji Naito, Takanori Kanai, Yasuo Suzuki, Masanori Nojima, Mamoru Watanabe, and Toshifumi Hibi, the DIAMOND study group.	Clinical and pharmacokinetic factors associated with adalimumab-induced mucosal healing in patients with Crohn's disease	Clin Gastroenterol Hepatol.	2017 Nov 11. pii: S1542-3565(17)31303-4. doi: 10.1016/j.cgh.2017.10.036.		2017
Sugita N, Watanabe K, Kamata N, Yukawa T, Otani K, Hosomi S, Nagami Y, Tanaka F, Taira K, Yamagami H, Tanigawa T, Shiba M, Watanabe T, Tominaga K, Kabata D, Shintani A, Arakawa T, Fujiwara Y.	Efficacy of a concomitant elemental diet to reduce the loss of response to adalimumab in patients with intractable Crohn's disease.	J Gastroenterol Hepatol.	2017 Aug 30. doi: 10.1111/jgh.13969.		2017
Toshifumi Hibi, Remo Panaccione, Miiko Katafuchi, Kaoru Yokoyama, Kenji Watanabe, Toshiyuki Matsui, Takayuki Matsumoto, Simon Travis, Yasuo Suzuki	The 5C Concept and 5S Principles in Inflammatory Bowel Disease Management	J Crohns Colitis	11	1302-1308	2017
Yamamoto H, Ogata H, Matsumoto T, Ohmiya N, Ohtsuka K, Watanabe K, Yano T, Matsui T, Higuchi K, Nakamura T, Fujimoto K	Clinical Practice Guideline for Enteroscopy	Dig Endosc	29	519-546	2017
Daisuke Tokuhara, Kenji Watanabe, Yuki Cho, Haruo Shintaku	Patency Capsule Tolerability in School-Aged Children	Digestion	96	46-51	2017
渡辺憲治	クローン病治療における抗TNF製剤と栄養療法の併用意義	クリニシアン	64	675 - 679	2017

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
鈴木康夫	班長	厚生労働科学研究費補助金「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第2回班会議	東京	2020年1月23-24日
鈴木康夫	潰瘍性大腸炎の新治療時代	各務原消化器病連携講演会 潰瘍性大腸炎治療を学ぶ	岐阜	2019年7月31日
鈴木康夫	班長	厚生労働科学研究費補助金「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度第1回班会議	東京	2019年7月25-26日
鈴木康夫	「炎症性腸疾患治療の変遷と今後の課題～生物学的製剤の貢献と地域医療連携の重要性～」	第21回日本医療マネジメント学会学術総会	名古屋	2019年7月20日
鈴木康夫	UC：実臨床におけるヒュミラの有効性	第97回日本消化器内視鏡学会ランチョンセミナー9	東京	2019年5月31日
鈴木康夫	「IBD領域における適切なバイオ製剤の使い方」	第30回君津木更津消化器病研究会	千葉	2019年5月15日
鈴木康夫	シンポジウム6：特別発言「難治性潰瘍性大腸炎の治療戦略における外科と内科のコラボレーション」	第105回日本消化器病学会総会	石川	2019年5月11日
鈴木康夫	パネルディスカッション7：特別発言「炎症性腸疾患診療のリアルワールド～生物学的製剤に対するクリニカルクエスチョンを解決する」	第105回日本消化器病学会総会	石川	2019年5月9日
鈴木康夫	「潰瘍性大腸炎の新治療時代」	Mito UC Forum	茨城	2019年4月17日
鈴木康夫	クローン病治療 up date～最適なBioの使い方 ステラールを中心に～	日本消化器病学会関東支部第354回例会ランチョンセミナー	東京	2019年4月13日
鈴木康夫	白吸的臨床应用之详细说明	第一届世界华人IBD大会	上海	2018年8月19日
鈴木康夫	「クローン病の病態と薬物治療に関して-New steroidの可能性-」	Pediatrics IBD conference	千葉	2019年2月28日
鈴木康夫	【ランチョンセミナー】「クローン病治療 up date～最適なBioの使い方 ステラールを中心に～」	日本消化器病学会近畿支部第110回例会	京都	2019年2月23日
鈴木康夫	UCにおける抗TNF製剤の長期寛解維持特効効果を実臨床から考察する	第33回大阪クローン病治療研究会	大阪	2019年2月22日
鈴木康夫	「難治性潰瘍性大腸炎の新たな治療戦略～抗TNF抗体製剤の最適な投薬法～」	第60回摩消化器病研究会	東京	2019年2月15日
鈴木康夫	「潰瘍性大腸炎 Up Date～基本から応用へ」	飯伊消化器研究会	長野	2019年1月25日
鈴木康夫	班長	厚生労働科学研究費補助金「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第2回班会議	東京	2019年1月17～18日
鈴木康夫	【ランチョンセミナー】潰瘍性大腸炎治療におけるGolimumabの有用性～実践から見えてきた好適症例像とは？～	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都	2018年11月22日
鈴木康夫	【パネルディスカッション】IBDに対する薬物療法の長期成績	第73回日本大腸肛門学会学術集会	東京	2018年11月9日
鈴木康夫	【デジタルポスターセッション】ベドリズムで改善した中等症・重症の日本人潰瘍性大腸炎患者での疾患悪化及び治療失敗までの期間に関する探索的評価	JDDW2018	神戸	2018年11月1日
鈴木康夫	潰瘍性大腸炎基本治療の押さえるべきポイント～病診連携を踏まえて～	山武IBD治療セミナー	千葉	2018年10月25日
関 駿介, 佐々木大樹, 西宮哲夫, 大内裕香, 木村道明, 柴本麻衣, 岩下裕明, 古川潔人, 宮村美幸, 勝俣雅夫, 岩佐亮太, 菊池秀昌, 山田哲弘, 中村健太郎, 長村愛作, 高田伸夫, 鈴木康夫, 松岡克善	常染色体優性多発性嚢胞腎に小腸憩室出血を合併した1例	日本消化器病学会関東支部第351回例会	東京	2018年9月22日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
鈴木康夫	班長	厚生労働科学研究費補助金「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度第1回班会議	東京	2018年7月26~27日
鈴木康夫	IBD診療 Up To Date	第15回肝・消化器代謝栄養研究会	大阪	2018年6月16日
鈴木康夫	第2回班会議(福田班)	厚生労働科学研究費補助金「難治性疾患等を対象とする持続可能で効果的な医療の提供を実現するための医療経済評価の手法に関する研究」	東京	2018年5月23日
鈴木康夫	炎症性腸疾患の病態と新規治療法～JAK阻害剤の可能性～	第104回日本消化器病学会総会 ランチョンセミナー26	東京	2018年4月21日
Ken Takeuchi, Akihiro Yamada and Yasuo Suzuki	The air-enema image of ultra-low dose CT colonography can be an alternative diagnostic technique for the assessment of mucosal healing in the patients with ulcerative colitis.	13th Congress of ECCO	Messe Wien, Vienna, Austria	2018年2月16日
Ken Takeuchi, Ryuichi Furukawa, Daiki Sasaki and Yasuo Suzuki	The Early Response to Tacrolimus is likely to be a Predictor of the Long-term Outcome in the Patients with Ulcerative Colitis	The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Seoul, Korea	2017年6月17日
鈴木康夫	IBD診療のUp To Date	第12回南大阪内視鏡の会	大阪	2018年1月25日
鈴木康夫	班長	厚生労働科学研究費「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成29年度第2回班会議	東京	2018年1月18~19日
鈴木康夫	会長	第8回日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017年12月1日
鈴木康夫	【イブニングセミナー・総合発言】IBDのアジアチーム医療を考える	第8回日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017年12月1日
鈴木康夫	潰瘍性大腸炎の治療の基本から応用まで～最新の治療戦略～	土浦UCフォーラム	茨城	2017年11月28日
鈴木康夫	【シンポジウム3・特別発言】IBDに対する内科治療の進歩と外科治療	第70回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月11日
鈴木康夫	【ランチタイムセミナー】潰瘍性大腸炎の基本治療を考える	第71回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月11日
鈴木康夫	【教育講演2】炎症性腸疾患診療のup to date	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10日
鈴木康夫	「潰瘍性大腸炎の治療の基本から応用まで」～最新の治療戦略	ホテル・ザ・ウエストヒルズ水戸	茨城	2017年10月27日
岡住慎一, 加藤良二, 鈴木康夫	【統合プログラム5】クローン病手術における2系統造影MD-CTを用いた術前診断による切除と抗TNF-抗体療法による再発防止の成績	JDDW2017福岡	福岡	2017年10月14日
鈴木康夫	【デジタルポスターセッション】活動性潰瘍性大腸炎(UC)患者におけるトファシニブ寛解維持試験(国際共同P3臨床試験)の日本人部分集団解析	JDDW2017福岡	福岡	2017年10月13日
鈴木康夫	潰瘍性大腸炎診療の新展開	大館潰瘍性腸疾患講演会	秋田	2017年10月4日
鈴木康夫	IBDの新規治療	第21回東北北部IBD(炎症性腸疾患)研究会	千葉	2017年9月22日
鈴木康夫	「IBD治療におけるインフリキシマブのLCM(Life Cycle Management)とそのインパクト～医療現場のニーズに応えた育薬～」	第181回東北薬剤師勉強会	茨城	2017年9月8日
鈴木康夫	潰瘍性大腸炎診療の新展開	潰瘍性大腸炎治療の最前線	茨城	2017年8月30日
鈴木康夫	班長	厚生労働科学研究費「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成29年度第1回班会議	東京	2017年7月19~20日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
鈴木康夫	当番会長	日本消化器病学会関東支部第345回例会	東京	2017年7月15日
岩下裕明, 高田伸夫, 佐々木大樹, 勝俣雅夫, 宮村美幸, 菊地秀昌, 岩佐亮太, 長村愛作, 中村健太郎, 竹内 健, 鈴木康夫, 清水直美, 笹井大督, 徳山 宣, 蛭田啓之	B型肝炎加療中に悪性リンパ腫を発症した一例	日本消化器病学会関東支部第345回例会	東京	2017年7月15日
柴本麻衣, 木村道明, 大内裕香, 古川潔人, 岩下裕明, 佐々木大樹, 勝俣雅夫, 菊地秀昌, 岩佐亮太, 長村愛作, 中村健太郎, 竹内 健, 高田伸夫, 鈴木康夫	若年および高齢者潰瘍性大腸炎に対する血球成分除去療法の有効性の検討	日本消化器病学会関東支部第345回例会	東京	2017年7月15日
鈴木康夫	潰瘍性大腸炎治療の基本から応用へ	第21回K-NET病診連携懇話会～IBD診療の実態について～	埼玉	2017年7月13日
鈴木康夫	「クローン病治療 up date」～最適なBioの使い方～	Hitachiクローン病セミナー	茨城	2017年7月4日
鈴木康夫	難治性潰瘍性大腸炎における最新治療戦略	日本消化器病学会東北支部第203回例会/第159回日本消化器内視鏡学会東北支部例会	岩手	2017年7月1日
鈴木康夫	炎症性腸疾患における新治療戦略	第19回IBD治療研究会	名古屋	2017年6月2日
鈴木康夫	IBD内科治療の進歩～過去・現在そして未来～	第10回レミケードカンファレンス	東京	2017年5月31日
鈴木康夫	IBD難治症例に対する治療戦略	水戸共同病院病診連携講演会	茨城	2017年5月30日
竹内 健, 岩佐亮太, 鈴木康夫	潰瘍性大腸炎におけるインフリキシマブ導入2週間後のCRPレベルは長期有効性を予測する	第103回日本消化器病学会総会	東京	2017年4月20日
鈴木康夫	UCにおけるこれからの抗体製剤治療を整理する～臨床成績から～	第104回日本消化器病学会総会 ランチョンセミナー-1	東京	2017年4月20日
Takahashi K, Bamba S, Andoh A	Optimization of Thiopurine Drugs Using the 6-MMP/6-TGN Ratio	The 7th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's and Colitis	Taipei	2019年7月15日
Imai T, Nishida A, Bamba S, Inatomi O, Andoh A	Characterization of Fungal Dysbiosis in Inflammatory Bowel Disease	The 7th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's and Colitis	Taipei	2019年7月15日
Tatsumi G, Kawahara M, Imai T, Nishishita-Asai A, Nishida A, Inatomi O, Yokoyama A, Kakuta Y, Kito K, Andoh A	Thiopurine-Mediated Impairment of Hematopoietic Stem and Progenitor Cells in NUDT15R138C Knock-in Mice and Potentiality of NUDT15 Genotype-based Precision Medicine for Acute Leukemia	The 24th Congress of European Hematology Association	Amsterdam	2019年7月14日
Ohno M, Andoh A, Inohara N	Role of Surface Polysaccharides of Adherent-invasive Escherichia Coli	Digestive Disease Week 2019	San Diego	2019年5月19日
今井隆行, 河原真大, 辰巳剛一, 大野将司, 稲富 理, 角田洋一, 安藤 朗	NUDT15 遺伝子多型を有する妊婦へのチオプリン投与が胎児に与える影響についての検討	第5回 G-PLUS	東京	2019年12月14日
大野将司, 安藤 朗, 猪原直弘	遺伝子組み換え大腸菌のプロバイオティクスへの応用	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
森田康大, 馬場重樹, 今井隆行, 杉谷義彦, 大野将司, 高橋憲一郎, 稲富 理, 安藤 朗	クローン病患者におけるウステキヌマブの有用性の検討	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
Yasuhiro Morita, Shigeki Bamba, Akira Andoh	Clinical significance of ustekinumab trough levels and anti-ustekinumab antibodies in patients with Crohn's disease	JDDW 2019	神戸	2019年11月23日
大野将司, 安藤 朗, 猪原直弘	遺伝子組み換え大腸菌のプロバイオティクス効果	JDDW 2019	神戸	2019年11月22日
森田康大, 馬場重樹, 大野将司, 高橋憲一郎, 安藤 朗	クローン病患者におけるウステキヌマブの薬物動態モニタリングについて	第57回日本小腸学会学術集会	大阪	2019年11月9日
高橋憲一郎; 馬場重樹, 村田雅樹, 大野将司, 杉本光繁, 佐々木雅也, 辻川知之, 安藤 朗	クローン病患者の粘膜治癒の臨床的意義について	第57回日本小腸学会学術集会	大阪	2019年11月9日
馬場重樹, 大野将司, 高橋憲一郎, 濱本奈津美, 芝原あずさ, 稲富 理, 安藤 朗, 佐々木雅也	炎症性腸疾患とCT画像で評価した体組成との関連性について	第50回日本消化吸収学会総会	東京	2019年10月5日
高橋憲一郎, 馬場重樹, 村田雅樹, 西田淳史, 稲富 理, 佐々木雅也, 杉本光繁, 安藤 朗	当院クローン病患者の粘膜治癒達成と長期経過	第105回日本消化器病学会総会	金沢	2019年5月9日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Andoh A	「The cutting edge issues in management of IBD 2018」 Place of TDM in optimal use of biologics	Asian Pacific Digestive Week 2018	Seoul	2018年11月16日
Nishida A, Nishino K, Takahashi K, Bamba S, Andoh A	Protective effect of autophagy on endoplasmic reticulum stress-induced apoptosis of intestinal epithelial cells in chronic colitis model	International Symposium IBD and Liver: East Meets West	Kyoto	2018年9月7日
西田淳史、井上 亮、杉谷義彦、大野将司、稲富 理、馬場重樹、内藤裕二、安藤 朗	成分栄養剤の腸内細菌に対する効果の検討	第16回 日本機能性食品医科学会	新潟	2018年12月16日
西野恭平、西田淳史、森田康大、米倉伸彦、今井隆行、杉谷義彦、酒井滋企、今枝広丞、稲富 理、馬場重樹、杉本光繁、安藤 朗	オートファジーは小胞体ストレス誘導性アポトーシスの抑制を介してDSS誘発慢性腸炎を改善する	第55回 日本消化器免疫学会総会	福岡	2018年12月8日
杉谷義彦、西田淳史、森田康大、米倉伸彦、今井隆行、酒井滋企、西野恭平、今枝広丞、稲富 理、馬場重樹、杉本光繁、安藤 朗	炎症性腸疾患におけるプロスタシン (Prss8) の機能解析	第55回 日本消化器免疫学会総会	福岡	2018年12月8日
高橋憲一郎、馬場重樹、西田淳史、佐々木雅也、安藤 朗	チオプリン製剤の optimization と 6-TGN・6-MMP の測定意義について	第9回 日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都	2018年11月22日
森田康大、馬場重樹、高橋憲一郎、西田淳史、辻川知之、佐々木雅也、杉本光繁、安藤 朗	クローン病小腸狭窄病変に対するシングルバルーン小腸内視鏡を用いた内視鏡的バルーン拡張術の長期成績について	第9回 日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都	2018年11月22日
西野恭平、西田淳史、森田康大、米倉伸彦、今井隆行、杉谷義彦、酒井滋企、今枝広丞、稲富 理、馬場重樹、杉本光繁、安藤 朗	オートファジーは小胞体ストレス誘導性アポトーシスの抑制を介してデキストラン硫酸ナトリウム (DSS) 誘発慢性腸炎を改善する	第9回 日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都	2018年11月22日
西野恭平、西田淳史、森田康大、米倉伸彦、今井隆行、杉谷義彦、酒井滋企、今枝広丞、稲富 理、馬場重樹、杉本光繁、安藤 朗	デキストラン硫酸ナトリウム (DSS) 腸炎に対するプロスタシン (Prss8) の機能解析	第9回 日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都	2018年11月22日
酒井滋企、西田淳史、今井隆行、杉谷義彦、西野恭平、稲富 理、馬場重樹、杉本光繁、安藤 朗	デキストラン硫酸ナトリウム誘発腸炎に対する Bortezomib の効果についての検討	第60回 日本消化器病学会大会	神戸	2018年11月1日
森田康大、馬場重樹、高橋憲一郎、西田淳史、辻川知之、佐々木雅也、杉本光繁、安藤 朗	シングルバルーン小腸内視鏡を用いたクローン病小腸狭窄病変に対する内視鏡的バルーン拡張術の有効性の検討	第56回 日本小腸学会学術集会	東京	2018年10月27日
安藤 朗、井上 亮、高橋憲一郎、西田淳史、馬場重樹、内藤裕二	腸内細菌プロジェクト 日本人 IBD における腸内真菌叢の変化	厚生労働科学研究費 難治性疾患等政策研究事業 「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成30年度 第1回総会	東京	2018年7月27日
今井隆行、西田淳史、酒井滋企、杉谷義彦、西野恭平、今枝広丞、稲富 理、馬場重樹、杉本光繁、安藤 朗	炎症性腸疾患モデルマウスにおける FTY720 の効果の検討	第104回 日本消化器病学会総会 t	東京	2018年4月19日
高橋憲一郎、馬場重樹、西田淳史、安藤 朗	当院で経験した IBD (クローン病) 上部消化管病変の診断と治療	第10回 京滋 IBD コンセンサスマーケティング	京都	2018年4月26日
Andoh A, R. Inoue, Y. Naito	Mucosa-associated dysbiosis in inflammatory bowel disease 13th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation	13th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation	Vienna	2018年2月14日
Bamba S, M. Sasaki, A. Takaoka, A. Nishida, O. Inatomi, M. Sugimoto, A. Andoh	Skeletal Muscle Atrophy is a Predictive Factor for Intestinal Resection in Patients with Crohn's Disease	25th United European Gastroenterology Week	Barcelona	2017年10月30日
Nishino K, Imaeda H, Sakai S, Ohno M, Nishida A, Andoh A	The Abundance of Clostridium Hathewayi, a Potent Inducer of T Helper 17 (Th17) Cells, is Associated with the Disease Severity of Crohn's Disease	Digestive Disease Week 2017	Chicago	2017年5月9日
Nishida A, Imaeda H, Andoh A	NUDT15 R139C-Related Thiopurine Leukocytopenia is Mediated by 6-Thioguanine Nucleotide-Independent Mechanism in Japanese Patients with Inflammatory Bowel Disease	Digestive Disease Week 2017	Chicago	2017年5月9日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Sakai S, Nishida A, Nishino K., Ohno M, Imaeda H, Andoh A	Astaxanthin, a Xanthophyll Carotenoid, Suppresses the Development of Experimental Colitis by Inhibiting the Activation of NF- B and AP-1	Digestive Disease Week 2017	Chicago	2017年5月9日
Ohno M, Nishida A, Sakai S, Nishino K, Fujii M, Morita Y, Imaeda H, Sugimoto M, Andoh A	Highly Bioavailable Curcumin Induces Regulatory Immune Cells via the Increase of Butyrate-Producing Bacteria and Suppresses the Development of Dextran Sulfate Sodium (DSS)-Induced Experimental Colitis	Digestive Disease Week 2017	Chicago	2017年5月9日
Imaeda H, Nishino K, Ohno M, Nishida A, Sugimoto M, Andoh A	Serum Adalimumab Trough Levels Required for Endoscopic Mucosal Healing during Maintenance Therapy of Crohn's Disease	Digestive Disease Week 2017	Chicago	2017年5月9日
Sakai S, A.Nishida, A Andoh	Bortezomib suppresses the development of experimental colitis by inhibiting the activation of NF- B	第46回 日本免疫学会学術集会	仙台	2017年12月14日
Sugitani Y, A.Nishida, H.Imaeda, A.Andoh	The therapeutic effects of elemental diet and intestinal microbiota	第46回 日本免疫学会学術集会	仙台	2017年12月14日
Nishino K, S.Sakai, A.Nishida, A Andoh	Analysis of the role of autophagy in dextran sodium sulfate (DSS) induced experimental colitis	第46回 日本免疫学会学術集会	仙台	2017年12月14日
酒井滋企、西田淳史、今井隆行、杉谷義彦、西野恭平、今枝広丞、稲富 理、馬場重樹、安藤 朗	デキストラン硫酸ナトリウム誘発腸炎に対するアスタキサンチンの効果についての検討	第15回 日本機能性食品医用学会総会	東京	2017年12月9日
馬場重樹、西田淳史、今枝広丞、高橋憲一郎、稲富 理、佐々木雅也、杉本光繁、安藤 朗	潰瘍性大腸炎における発酵野菜飲料の影響について	第15回 日本機能性食品医用学会総会	東京	2017年12月9日
西野恭平、西田淳史、井上 亮、酒井滋企、大野将司、高橋憲一郎、今枝広丞、稲富 理、馬場重樹、杉本光繁、内藤裕二、安藤 朗	内視鏡ブラッシング法を用いた炎症性腸疾患における mucosa-associated microbiota の解析	第8回 日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017年12月1日
酒井滋企、西田淳史、今井隆行、杉谷義彦、西野恭平、今枝広丞、稲富 理、馬場重樹、安藤 朗	デキストラン硫酸ナトリウム (DSS) 誘発腸炎に対する Bortezomib の効果についての検討	第8回 日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017年12月1日
馬場重樹、佐々木雅也、高橋憲一郎、今枝広丞、西田淳史、稲富 理、杉本光繁、安藤 朗	炎症性腸疾患患者におけるサルコペニアが長期予後に与える影響について	第8回 日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017年12月1日
西田淳史、今枝広丞、馬場重樹、安藤 朗	潰瘍性大腸炎術後回腸嚢炎に対する糞便移植法の安全性と有効性についての検討	第8回 日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017年12月1日
高橋憲一郎、馬場重樹、今枝広丞、西田淳史、辻川知之、杉本光繁、安藤 朗	クローン病狭窄病変に対する内視鏡的バルーン拡張術の有効性の検討	第8回 日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017年12月1日
馬場重樹、佐々木雅也、高橋憲一郎、今枝広丞、西田淳史、稲富 理、杉本光繁、安藤 朗	炎症性腸疾患患者における L3 領域筋肉量が長期予後に与える影響について	第8回 日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017年12月1日
馬場重樹、西田淳史、今枝広丞、稲富 理、佐々木雅也、杉本光繁、安藤 朗	難治性 Clostridium difficile 腸炎・感染症に対する糞便細菌叢移植について	第72回 日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10日
西田淳史、今枝広丞、馬場重樹、安藤 朗	潰瘍性大腸炎術後回腸嚢炎に対する糞便移植法の安全性および効果の検討	第72回 日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10日
高橋憲一郎、馬場重樹、今枝広丞、西田淳史、稲富 理、辻川知之、佐々木雅也、杉本光繁、安藤 朗	クローン病狭窄病変に対する内視鏡的バルーン拡張術の有効性の検討	第94回 日本消化器内視鏡学会総会	福岡	2017年10月13日
馬場重樹、西田淳史、今枝広丞、稲富 理、佐々木雅也、杉本光繁、安藤 朗	難治性 Clostridium difficile 腸炎・感染症に対する糞便細菌叢移植の有用性について	第59回 日本消化器病学会大会	福岡	2017年10月13日
西田淳史、日下尚子、高橋憲一郎、今枝広丞、馬場重樹、安藤 朗	炎症性腸疾患における抗菌ペプチド LL-37 の発現	第59回 日本消化器病学会大会	福岡	2017年10月12日
酒井滋企、西田淳史、大野将司、西野恭平、藤井 誠、今枝広丞、馬場重樹、安藤 朗	デキストラン硫酸ナトリウム誘発腸炎に対するアスタキサンチンの効果についての検討	第59回 日本消化器病学会大会	福岡	2017年10月12日
西野恭平、西田淳史、酒井滋企、大野将司、高橋憲一郎、今枝広丞、馬場重樹、杉本光繁、安藤 朗	内視鏡下ブラシで採取した腸管粘液を用いた炎症性腸疾患の mucosa-associated microbiota の検討	第59回 日本消化器病学会大会	福岡	2017年10月12日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
西田淳史、日下尚子、今井隆行、杉谷義彦、西野恭平、酒井滋企、高橋憲一郎、今枝広丞、馬場重樹、稲富 理、安藤 朗	炎症性腸疾患における抗菌ペプチド LL-37 の発現	第 45 回 日本臨床免疫学会総会	東京	2017 年 9 月 29 日
西野恭平、西田淳史、今井隆行、杉谷義彦、酒井滋企、今枝広丞、稲富 理、馬場重樹、杉本光繁、安藤 朗	デキストラン硫酸ナトリウム (DSS) 誘発性腸炎マウスモデルにおけるオートファジーの役割の検討	第 54 回 日本消化器免疫学会総会	東京	2017 年 9 月 29 日
西野恭平、西田淳史、井上 亮、酒井滋企、大野将司、高橋憲一郎、今枝広丞、稲富 理、馬場重樹、杉本光繁、内藤裕二、安藤 朗	炎症性腸疾患の mucosa-associated microbiota の検討	第 54 回 日本消化器免疫学会総会	東京	2017 年 9 月 29 日
酒井滋企、西田淳史、今井隆行、杉谷義彦、西野恭平、今枝広丞、稲富 理、馬場重樹、杉本光繁、安藤 朗	デキストラン硫酸ナトリウム (DSS) 誘発性腸炎に対する Bortezomib の効果についての検討	第 54 回 日本消化器免疫学会総会	東京	2017 年 9 月 29 日
安藤 朗、西田淳史、西野恭平、井上 亮、内山和彦、高木智久、内藤裕二	腸内細菌プロジェクト 内視鏡下ブラッシング法を用いた IBD 粘膜関連腸内細菌叢の構造、機能解析	難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成 29 年度 第 1 回総会	東京	2017 年 7 月 20 日
大野将司、西田淳史、酒井滋企、西野恭平、藤井 誠、森田幸弘、今枝広丞、杉本光繁、安藤 朗	DSS 腸炎に対する高吸収クルクミンの効果及び機序の検討	第 103 回 日本消化器病学会総会	東京	2017 年 4 月 21 日
西野恭平、今枝広丞、酒井滋企、藤井 誠、森田幸弘、大野将司、高橋憲一郎、西田淳史、稲富 理、馬場重樹、辻川知之、杉本光繁、安藤 朗	クローン病腸内細菌叢における Clostridium hathewayi の臨床的意義に関する検討	第 103 回 日本消化器病学会総会	東京	2017 年 4 月 21 日
Minagawa Tomohiro, Ikeuchi Hiroki, Kuwahara Ryuichi, Horio Yuki, Sasaki Hirofumi, Chohn Teruhiro, Bando Toshihiro, Uchino Motoi	Quality of life and functional outcomes in elderly patients after restorative proctocolectomy for ulcerative colitis. (Poster)	The 7 th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn s & Colitis	Taipei	2019.6.15
Horio Yuki, Uchino Motoi, Minagawa Tomohiro, Kuwahara Ryuichi, Goto Yoshiko, Sasaki Hirofumi, Bando Toshihiro, Ikeuchi Hiroki	Perioperative fungal endophthalmitis in inflammatory bowel disease patients. (Poster)	The 7 th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn s & Colitis	Taipei	2019.6.15
池内 浩基、内野 基、坂東 俊宏、佐々木 寛文、後藤 佳子、堀尾 勇規、桑原 隆一、皆川 知洋、山野 智基、池田 正孝、富田 尚裕	後期高齢者に対する IBD 手術症例の現状	第 16 回日本消化管学会総会 学術集会	姫路	2020 年 2 月 8 日
桑原 隆一、池内 浩基、皆川 知洋、堀尾 勇規、後藤 佳子、佐々木 寛文、坂東 俊宏、内野 基	潰瘍性大腸炎術後腸閉塞に対し long-tube を挿入し、大建中湯を投与した症例の検討。(ワークショップ)	第 16 回日本消化管学会総会 学術集会	姫路	2020 年 2 月 7 日
馬場谷 彰仁、松原 孝明、宋 智亨、木村 慶、安原 美千子、片岡 幸三、別府 直仁、内野 基、山野 智基、池田 正孝、池内 浩基、富田 尚裕	直腸癌術後難治性の吻合部狭窄に対し TaTME を用いて再吻合を行った 1 例	第 32 回日本内視鏡外科学会総会	横浜	2019 年 12 月 7 日
佐々木 潤、塚崎 友莉恵、清水 聖世、木村 幸子、橋本 記代子、池田 正孝、別府 直仁、山野 智基、内野 基、池内 浩基、富田 尚裕	ロボット支援下直腸低位切除術における緊急時対応の取り組み	第 32 回日本内視鏡外科学会総会	横浜	2019 年 12 月 7 日
木村 慶、池田 正孝、宋 智亨、馬場谷 彰仁、安原 美千子、片岡 幸三、別府 直仁、山野 智基、内野 基、池内 浩基、富田 尚裕	直腸術後骨盤内再発に対する側方マージンの確保の向上に向けた taTME technique の応用	第 32 回日本内視鏡外科学会総会	横浜	2019 年 12 月 6 日
皆川 知洋、内野 基、桑原 隆一、堀尾 勇規、山野 智基、池田 正孝、富田 尚裕、池内 浩基	潰瘍性大腸炎に対して腹腔鏡下大腸全摘術を施行した 24 例の検討	第 32 回日本内視鏡外科学会総会	横浜	2019 年 12 月 5 日
桑原 隆一、内野 基、皆川 知洋、堀尾 勇規、山野 智基、富田 尚裕、池田 正孝、池内 浩基	クローン病の瘻孔、膿瘍合併症例に対する腹腔鏡手術の検討。(ワークショップ)	第 32 回日本内視鏡外科学会総会	横浜	2019 年 12 月 5 日
佐々木 寛文、池内 浩基、内野 基、坂東 俊宏、後藤 佳子、堀尾 勇規、桑原 隆一、皆川 知洋	口腔内潰瘍の入院治療中に消化管穿孔をきたし、ペーチェット病の診断を得た 1 例	第 187 回兵庫県外科医会学術集会	尼崎	2019 年 11 月 30 日
一木 薫、竹末 芳生、中嶋 一彦、植田 貴史、山田 久美子、内野 基、池内 浩基、石川 かおり、高井 喜子、土田 敏恵	消化器外科手術における SSI 発生率 - 当院 10,000 例のデータより -。(ポスター)	第 32 回日本外科感染症学会総会学術集会	岐阜	2019 年 11 月 30 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 後藤 佳子, 皆川 知洋, 一木 薫, 中嶋 一彦, 竹末 芳生	潰瘍性大腸炎に対する適切な手術タイミングと術式の決定。(パネルディスカッション)	第32回日本外科感染症学会総会学術集会	岐阜	2019年11月29日
内野 基, 池内 浩基, 中嶋 一彦, 竹末 芳生	消化器外科手術における創閉鎖後の予防的陰圧閉鎖療法。(共催シンポジウム)	第32回日本外科感染症学会総会学術集会	岐阜	2019年11月29日
内野 基, 池内 浩基, 中嶋 一彦, 竹末 芳生	術前腸管処置のバリエーションについて考える-経口抗菌薬のみ-(シンポジウム)	第32回日本外科感染症学会総会学術集会	岐阜	2019年11月29日
長野 健太郎, 池内 浩基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 後藤 佳子, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 内野 基	膿瘍を合併したクローン病に対し単孔式腹腔鏡補助下回腸部分切除術を施行した1例。(ポスター)	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
桑原 隆一, 内野 基, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 池内 浩基	当院における潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡補助下大腸全摘術30例の検討。(ポスター)	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
堀尾 勇規, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 池内 浩基	周術期に真菌性眼疾患を併発した炎症性腸疾患手術症例の検討。(ポスター)	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
皆川 知洋, 池内 浩基, 桑原 隆一, 後藤 佳子, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 内野 基	潰瘍性大腸炎に合併する大腸癌術後の血清 p53 抗体値を測定する意義。(ポスター)	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
皆川 知洋, 内野 基, 桑原 隆一, 後藤 佳子, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	クローン病に対して腹腔鏡手術を行った40例の検討。(デジタルポスターセッション)	JDDW2019 第17回日本消化器外科学会大会	神戸	2019年11月23日
Kuwahara Ryuichi, Ikeuchi Hiroki, Uchino Motoi	Clinical results following intestinal resection in 1143 patients with Crohn's disease. (International session [Symposium])	JDDW2019 第17回日本消化器外科学会大会・第61回日本消化器病学会大会・第98回日本消化器内視鏡学会総会	神戸	2019年11月23日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 後藤 佳子, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕	内科的治療の進歩と外科的治療の変遷。(デジタルポスターセッション)	JDDW2019 第17回日本消化器外科学会大会	神戸	2019年11月23日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 佐々木 寛文, 後藤 佳子, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 山野 智基, 別府 直仁, 池田 正孝, 富田 尚裕, 片岡 幸三, 安原 美千子, 木村 慶	潰瘍性大腸炎術後, 回腸囊炎診断における便中カルプロテクチン測定の有用性。(デジタルポスターセッション)	JDDW2019 第17回日本消化器外科学会大会	神戸	2019年11月23日
堀尾 勇規, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	高齢者潰瘍性大腸炎に対する手術症例の検討。(デジタルポスターセッション)	JDDW2019 第17回日本消化器外科学会大会	神戸	2019年11月23日
坂東 俊宏, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 山野 智基, 野田 雅史, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	クローン病 胃空腸吻合術症例の検討。(デジタルポスターセッション)	JDDW2019 第17回日本消化器外科学会大会	神戸	2019年11月22日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 後藤 佳子, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕	潰瘍性大腸炎における高齢者手術症例の検討。(デジタルポスターセッション)	JDDW2019 第61回日本消化器病学会大会	神戸	2019年11月21日
佐藤 寿行, 内野 基, 小島 健太郎, 小柴 良司, 藤本 晃士, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 横山 陽子, 高川 哲也, 宮崎 孝子, 應田 義雄, 渡辺 憲治, 樋田 信幸, 堀 和敏, 三輪 洋人, 池内 浩基, 中村 志郎	免疫抑制治療中の炎症性腸疾患患者に合併したニューモシスチス肺炎に関する臨床的検討	JDDW2019 第61回日本消化器病学会大会	神戸	2019年11月21日
内野 基, 坂東 俊宏, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 馬場谷 彰仁, 片岡 幸三, 安原 美千子, 別府 直仁, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎術後, 回腸囊炎診断における便中カルプロテクチン測定の有用性。(要望演題)	第81回日本臨床外科学会総会	高知	2019年11月14日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
松原 孝明, 片岡 幸三, 木村 慶, 宋 智亨, 安原 美千子, 馬場谷 彰仁, 別府 直仁, 山野 智基, 多田 正晴, 内野 基, 池内 浩基, 波多野 悦郎, 富田 尚裕	大腸癌同時多発肝転移に対し FOLFOXIRI + セツキシマブ投与後に肝先行切除を行った一例。(ポスター)	第 57 回日本癌治療学会 学会学術集会	福岡	2019年10月26日
山野 智基, 宋 智亨, 木村 慶, 馬場谷 彰仁, 安原 美千子, 片岡 幸三, 別府 直仁, 野田 雅史, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕	大腸癌 PDX(Patient derived xenograft)モデルを用いた大腸癌併用療法と比較	第 74 回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2019年10月12日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 宋 智亨, 木村 慶, 馬場谷 彰仁, 安原 美千子, 片岡 幸三, 別府 直仁, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 竹末 芳生	クローン病, 肛門病変に対する生物学的製剤の効果。(シンポジウム)	第 74 回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2019年10月12日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 佐々木 寛文, 後藤 佳子, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕	潰瘍性大腸炎に合併する発癌症例の現状と問題点。(ワークショップ)	第 74 回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2019年10月11日
堀尾 勇規, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	高齢者潰瘍性大腸炎の手術症例における予後栄養指標の臨床的意義についての検討。(パネルディスカッション)	第 74 回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2019年10月11日
木村 慶, 池田 正孝, 宋 智亨, 馬場谷 彰仁, 安原 美千子, 片岡 幸三, 別府 直仁, 山野 智基, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕	直腸癌骨盤内再発手術に対する Transperineal minimally invasive surgery. (パネルディスカッション)	第 74 回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2019年10月11日
佐々木 寛文, 池内 浩基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 坂東 俊宏, 内野 基	潰瘍性大腸炎術後に回腸嚢炎を繰り返し, 回腸嚢穿孔をきたした1例	日本消化器病学会近畿支部 第111回例会	大阪	2019年10月5日
皆川 知洋, 池内 浩基, 桑原 隆一, 後藤 佳子, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 内野 基	潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡補助下大腸全摘術の1例	第 202 回近畿外科学会	大阪	2019年9月28日
馬場谷 彰仁, 木村 慶, 濱中 美千子, 片岡 幸三, 別府 直仁, 山野 智基, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕	当院における腹腔鏡下大腸手術に対する ICG 血流評価の検討。(要望演題)	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月19日
山野 智基, 木村 慶, 馬場谷 彰仁, 濱中 美千子, 片岡 幸三, 別府 直仁, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕	当科における Patient derived xenograft(PDX)作成の現状と将来について。(デジタルポスター)	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月19日
Ikeda Masataka, Kimura Kei, Uemura Mamoru, Miyake Masakazu, Beppu Naohito, Yamano Tomoki, Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Sekimoto Mitsugu, Tomita Naohiro	Laparoscopic beyond TPE based on pelvic anatomy for advanced and locally recurrent rectal cancer. (Video Symposium)	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月19日
皆川 知洋, 内野 基, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	炎症性腸疾患における手術部位感染予防のための術前経口抗生物質の有効性。(ワークショップ)	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月19日
別府 直仁, 木村 慶, 馬場谷 彰仁, 濱中 美千子, 片岡 幸三, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 内野 基, 池内 浩基	左側結腸, 直腸癌に対する#16b2 大動脈周囲リンパ節転移経路とその対策。(要望演題)	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月18日
内野 基, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 池田 正孝, 池内 浩基	炎症性腸疾患手術における腹腔鏡補助手術の導入と問題点。(パネルディスカッション)	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月18日
木村 慶, 池田 正孝, 濱中 美千子, 馬場谷 彰仁, 片岡 幸三, 別府 直仁, 山野 智基, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕	直腸癌仙骨前局所再発手術に対する解剖のポイント。(要望演題)	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月17日
桑原 隆一, 内野 基, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡下大腸全摘 J 型回腸嚢肛門吻合術の現状と問題点。(デジタルポスター)	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月17日
後藤 佳子, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 富田 尚裕, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎手術における免疫抑制治療の手術部位感染への影響。(デジタルポスター)	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月17日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
堀尾 勇規, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎手術症例の high-output syndrome に対する周術期管理 .(デジタルポスター)	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月17日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 池田 正孝, 富田 尚裕	潰瘍性大腸炎に合併した発癌症例 200 例の検討 .(デジタルポスター)	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月17日
池田 正孝, 植村 守, 三宅 正和, 木村 慶, 松原 孝明, 宋 智亨, 濱中 美千子, 馬場谷 彰仁, 片岡 幸三, 別府 直仁, 山野 智基, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕, 関本 貢嗣	直腸がん局所再発に対する腹腔鏡下切除術 .(シンポジウム)	第 32 回日本小切開・鏡視外科学会	大阪	2019年6月29日
桑原 隆一, 池内 浩基, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 内野 基	クローン病に対して単孔式腹腔鏡補助下回盲部切除術を施行した 1 例 .(ポスター)	第 32 回日本小切開・鏡視外科学会	大阪	2019年6月28日
池田 正孝, 宋 智亨, 木村 慶, 濱中 美千子, 馬場谷 彰仁, 片岡 幸三, 別府 直仁, 山野 智基, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕	進行再発直腸癌に対する診療科連携手術 .(シンポジウム)	第 44 回日本外科系連合学会学術集会	金沢	2019年6月21日
桑原 隆一, 内野 基, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 池内 浩基	炎症性腸疾患に対し, 直腸切断後に会陰創陰圧閉鎖療法を施行した症例の検討 .(パネルディスカッション)	第 44 回日本外科系連合学会学術集会	金沢	2019年6月20日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 後藤 佳子	炎症性腸疾患に合併する発癌症例の現状とサポート .(パネルディスカッション)	第 44 回日本外科系連合学会学術集会	金沢	2019年6月20日
池田 正孝, 宋 智亨, 木村 慶, 濱中 美千子, 馬場谷 彰仁, 片岡 幸三, 別府 直仁, 山野 智基, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕	消化器外科領域における VTE 一次予防と二次予防 .(パネルディスカッション)	第 44 回日本外科系連合学会学術集会	金沢	2019年6月20日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋	後期高齢者の炎症性腸疾患手術症例の検討 .(シンポジウム)	第 44 回日本外科系連合学会学術集会	金沢	2019年6月20日
山野 智基, 山内 慎一, 宋 智亨, 木村 慶, 馬場谷 彰仁, 濱中 美千子, 片岡 幸三, 別府 直仁, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕, 杉原 健一	高齢者における大腸癌治療選択の現状について .(シンポジウム)	第 44 回日本外科系連合学会学術集会	金沢	2019年6月20日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏	難治性潰瘍性大腸炎の治療戦略における外科と内科のコラボレーション .(シンポジウム)	第 105 回日本消化器病学会総会	金沢	2019年5月11日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕	潰瘍性大腸炎手術症例におけるバイオ洗剤導入後の臨床的特徴の変遷	第 105 回日本消化器病学会総会	金沢	2019年5月11日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 後藤 佳子, 山野 智基, 野田 雅史, 池田 正孝, 富田 尚裕, 竹末 芳生	潰瘍性大腸炎手術における術前免疫抑制治療と周術期感染合併症の関連性 .(シンポジウム)	第 119 回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019年4月20日
馬場谷 彰仁, 山野 智基, 宋 智亨, 木村 慶, 濱中 美千子, 片岡 幸三, 別府 直仁, 野田 雅史, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕	家族性大腸腺腫症患者の予防的大腸切除術後の予後及び合併症の解析 .(ポスターセッション)	第 119 回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019年4月20日
大谷 雅樹, 富田 尚裕, 池田 正孝, 山野 智基, 野田 雅史, 別府 直仁, 片岡 幸三, 濱中 美千子, 馬場谷 彰仁, 木村 慶, 宋 智亨, 池内 浩基, 内野 基, 山門 享一郎	直腸癌術後の肝・肺・骨盤内への多発転移に対して RFA が有効であった 1 症例 .(研修医発表セッション)	第 119 回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019年4月19日
木村 慶, 池田 正孝, 宋 智亨, 濱中 美千子, 馬場谷 彰仁, 片岡 幸三, 別府 直仁, 野田 雅史, 内野 基, 山野 智基, 池内 浩基, 富田 尚裕	【複数診療科を必要とする拡大手術】当院での複数診療科を必要とする拡大手術 .(ワークショップ)	第 119 回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019年4月19日
池田 正孝, 植村 守, 三宅 正和, 木村 慶, 片岡 幸三, 別府 直仁, 野田 雅史, 山野 智基, 内野 基, 加藤 健志, 池内 浩基, 関本 貢嗣, 富田 尚裕	【直腸癌局所再発に対する治療戦略】直腸癌局所再発に対する積極的外科治療 .(パネルディスカッション)	第 119 回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019年4月19日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
山野 智基, 宋 智亨, 木村 慶, 馬場谷 彰仁, 瀧中 美千子, 片岡 幸三, 別府 直仁, 野田 雅史, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕	希少がんである小腸腺癌に対する基礎研究モデルの構築。(サージカルフォーラム)	第119回日本外科学会 定期学術集会	大阪	2019年4月18日
富田 尚裕, 別府 直仁, 野田 雅史, 山野 智基, 池田 正孝, 片岡 幸三, 瀧中 美千子, 馬場谷 彰仁, 木村 慶, 宋 智亨, 内野 基, 池内 浩基	下部直腸癌に対する術前治療(Pre-operative chemoradiation therapy using S-1+CPT-11 for advanced lower rectal cancer. (パネルディスカッション))	第119回日本外科学会 定期学術集会	大阪	2019年4月18日
皆川 知洋, 池内 浩基, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 野田 雅史, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 内野 基	潰瘍性大腸炎術後に高齢者となった患者の排便機能とQOL。(サージカルフォーラム)	第119回日本外科学会 定期学術集会	大阪	2019年4月18日
桑原 隆一, 池内 浩基, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 野田 雅史, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 内野 基	潰瘍性大腸炎における中毒性巨大結腸症手術61例の検討。(サージカルフォーラム)	第119回日本外科学会 定期学術集会	大阪	2019年4月18日
堀尾 勇規, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	広範囲小腸炎を伴った潰瘍性大腸炎手術症例の検討。(ポスターセッション)	第119回日本外科学会 定期学術集会	大阪	2019年4月18日
蝶野 晃弘, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 野田 雅史, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	腸管型ベーチェット病の予後および予後予測因子の検討。(サージカルフォーラム)	第119回日本外科学会 定期学術集会	大阪	2019年4月18日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 竹末 芳生, 池田 正孝, 富田 尚裕	クローン病で再手術率を減少させるために必要なことは。(ポスターセッション)	第119回日本外科学会 定期学術集会	大阪	2019年4月18日
Chohno Teruhiro, Watanabe Kenji, Minagawa Tomohiro, Kuwahara Ryuichi, Horio Yuki, Sasaki Hirofumi, Bando Toshihiro, Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki	Long-term prognosis and predictive factors for surgical treatment of intestinal lesions in patients with Behcet's disease. (Poster)	14 th Congress of ECCO Inflammatory Bowel Diseases	Copenhagen	2019.3.8
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Bando Toshihiro, Chohno Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Horio Yuki, Kuwahara Ryuichi, Minagawa Tomohiro, Goto Yoshiko	Associations between multiple immunosuppressive treatments before surgery and surgical morbidity in patients with ulcerative colitis during the era of biologics. (Poster)	14 th Congress of ECCO Inflammatory Bowel Diseases	Copenhagen	2019.3.8
Minagawa Tomohiro, Ikeuchi Hiroki, Kuwahara Ryuichi, Horio Yuki, Sasaki Hirofumi, Chohno Teruhiro, Bando Toshihiro, Uchino Motoi	A case of ileal cast after ileal pouch anal anastomosis to treat refractory ulcerative colitis. (Poster Exhibition)	The 6 th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis (AACC 2018)	Shanghai	2018.6.21
Kuwahara Ryuichi, Ikeuchi Hiroki, Minagawa Tomohiro, Horio Yuki, Sasaki Hirofumi, Chohno Teruhiro, Bando Toshihiro, Uchino Motoi	Results of one-stage restorative proctocolectomy for 300 patients with ulcerative colitis. (Poster Exhibition)	The 6 th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis (AACC 2018)	Shanghai	2018.6.21
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Bando Toshihiro, Chohno Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Horio Yuki, Minagawa Tomohiro, Kuwahara Ryuichi, Takesue Yoshio	Efficacy of preoperative oral antibiotic prophylaxis for the prevention of surgical site infection in patients with Crohn's disease -A result of randomized control trial. (Poster)	American Society of Colon & Rectal Surgeons -Annual Scientific Meeting	Nashville	2018.5.21
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋	潰瘍性大腸炎の緊急手術症例の推移と臨床的特徴。(パネルディスカッション)	第55回日本腹部救急医学会 総会	仙台	2019年3月7日
蝶野 晃弘, 内野 基, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎分割手術施行時のoutlet obstructionと最近の工夫。(パネルディスカッション)	第36回日本ストーマ・排泄 リハビリテーション学会総 会・第11回アジアストーマ リハビリテーション学会	大阪	2019年2月23日
佐々木 寛文, 内野 基, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 蝶野 晃弘, 池内 浩基	大腸全摘術後, 左下腹部に人工肛門造設し上部消化管通過障害をきたした潰瘍性大腸炎の1例。(ポスター)	第36回日本ストーマ・排泄 リハビリテーション学会総 会・第11回アジアストーマ リハビリテーション学会	大阪	2019年2月23日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 桑原 隆一, 皆川 知洋	難治性回腸囊炎に対するブデゾナイド注腸の効果。(一般演題)	第15回日本消化管学会総会 学術集会	佐賀	2019年2月1日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋	超高齢者潰瘍性大腸炎手術症例の検討。(一般演題)	第15回日本消化管学会総会 学術集会	佐賀	2019年2月1日
濱中 美千子, 池田 正孝, 宋 智亨, 木村 慶, 馬場谷 章仁, 片岡 幸三, 別府 直仁, 山野 智基, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕	閉鎖孔をこえ骨盤内に進展した脂肪腫に対して腹腔鏡下切除を行った1例。(デジタルポスター)	第31回日本内視鏡外科学会 総会	福岡	2018年12月8日
木村 慶, 池田 正孝, 塚本 潔, 宋 智亨, 濱中 美千子, 馬場谷 章仁, 片岡 幸三, 別府 直仁, 野田 雅史, 内野 基, 山野 智基, 池内 浩基, 富田 尚裕	当院における他臓器合併切除を伴う進行・再発直腸癌に対する腹腔鏡手術。(一般演題)	第31回日本内視鏡外科学会 総会	福岡	2018年12月7日
桑原 隆一, 内野 基, 皆川 知洋, 後藤 佳子, 蝶野 晃弘, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	当院における潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡補助下大腸全摘J型回腸囊肛門吻合術の手術時間短縮の工夫	第31回日本内視鏡外科学会 総会	福岡	2018年12月6日
池田 正孝, 木村 慶, 植村 守, 三宅 正和, 宋 智亨, 濱中 美千子, 馬場谷 章仁, 片岡 幸三, 別府 直仁, 野田 雅史, 山野 智基, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕, 関本 貢嗣	直腸癌に対する腹腔鏡下骨盤内多臓器合併切除。(パネルディスカッション)	第31回日本内視鏡外科学会 総会	福岡	2018年12月6日
長野 健太郎, 池内 浩基, 内野 基, 蝶野 晃弘, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 富田 尚裕, 池田 正孝, 山野 智基	難治性潰瘍性大腸炎に対し、腹腔鏡補助下大腸全摘術を施行した1例。(デジタルポスター)	第31回日本内視鏡外科学会 総会	福岡	2018年12月6日
皆川 知洋, 内野 基, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 蝶野 晃弘, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	クローン病に対して腹腔鏡手術を行った18例の検討。(一般演題)	第31回日本内視鏡外科学会 総会	福岡	2018年12月6日
内野 基, 池内 浩基, 桑原 隆一, 蝶野 晃弘, 後藤 佳子, 皆川 知洋, 富田 尚裕, 山野 智基, 池田 正孝	潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡補助下ハイブリッド手術。(デジタルポスター)	第31回日本内視鏡外科学会 総会	福岡	2018年12月6日
池田 正孝, 宋 智亨, 木村 慶, 濱中 美千子, 馬場谷 章仁, 片岡 幸三, 別府 直仁, 野田 雅史, 山野 智基, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕	当院における直腸癌に対する側方リリノ節郭清。(特別演題)	第80回日本臨床外科学会 総会	東京	2018年11月24日
高川 哲也, 角田 洋一, 小島 健太郎, 小柴 良司, 藤本 晃士, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 横山 陽子, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 渡辺 憲治, 堀 和敏, 池内 浩基, 中村 志郎	炎症性腸疾患におけるNDT15 R139Cヘテロ症例でのチオプリン療法の最適化。(ワークショップ)	第9回日本炎症性腸疾患学会 学術集会	京都	2018年11月22日
中尾 紘由美, 板橋 道朗, 小川 真平, 山本 雅一, 池内 浩基, 木村 英明, 杉田 昭, 藤井 久男, 二見 喜太郎, 福島 浩平, 根津 理一郎, 鈴木 康夫	潰瘍性大腸炎の周術期における血栓塞栓症のスクリーニングの前向き研究。(パネルディスカッション)	第9回日本炎症性腸疾患学会 学術集会	京都	2018年11月22日
問山 裕二, 奥川 喜永, 田中 光司, 荒木 俊光, 内田 恵一, 菱田 朝陽, 内野 基, 池内 浩基, 廣田 誠一, 楠 正人, C.Richard Boland, Ajay Goel	直腸粘膜のmicroRNAsメチル化を用いた潰瘍性大腸炎癌化症例の対処上げ。(シンポジウム)	第9回日本炎症性腸疾患学会 学術集会	京都	2018年11月22日
桑原 隆一, 池内 浩基, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基	当院における潰瘍性大腸炎に対する1期的J型回腸囊肛門吻合術の検討。(ポスターセッション)	第9回日本炎症性腸疾患学会 学術集会	京都	2018年11月22日
堀尾 勇規, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎に対する周術期人工肛門管理の現状。(パネルディスカッション)	第9回日本炎症性腸疾患学会 学術集会	京都	2018年11月22日
皆川 知洋, 池内 浩基, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基	潰瘍性大腸炎に対し大腸全摘・J型回腸囊肛門吻合術後にileal castを生じた1例。(ポスターセッション)	第9回日本炎症性腸疾患学会 学術集会	京都	2018年11月22日
渡辺 憲治, 上小鶴 孝二, 堀 和敏, 佐藤 寿行, 小島 健太郎, 藤本 晃士, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 内野 基, 樋田 信幸, 池内 浩基, 中村 志郎	サイトメガロウイルス腸炎発症後に腹痛を認めた1例。(症例検討)	第73回日本大腸肛門病学会 学術集会	東京	2018年11月10日
堀尾 勇規, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎手術症例におけるBMIとpouch合併症との関連。(要望演題)	第73回日本大腸肛門病学会 学術集会	東京	2018年11月10日
蝶野 晃弘, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 坂東 俊宏, 野田 雅史, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	オストミーロッドは双孔式人工肛門作成の際、必要か?	第73回日本大腸肛門病学会 学術集会	東京	2018年11月10日
池田 正孝, 植村 守, 三宅 正和, 宋 智亨, 木村 慶, 濱中 美千子, 馬場谷 章仁, 片岡 幸三, 別府 直仁, 野田 雅史, 山野 智基, 内野 基, 池内 浩基, 関本 貢嗣, 富田 尚裕	直腸癌局所再発手術における術式の変遷。(要望演題)	第73回日本大腸肛門病学会 学術集会	東京	2018年11月10日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
渡辺 憲治, 高川 哲也, 角田 洋一, 藤森 絢子, 小島 健太郎, 小柴 良司, 藤本 晃土, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 横山 陽子, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 堀 和敏, 池内 浩基, 中村 志郎	NUDT15 R139C C/T ヘテロ症例におけるチオプリン製剤を用いた潰瘍性大腸炎の治療成績。(ワークショップ)	第73回日本大腸肛門病学会 学術集会	東京	2018年11月9日
長野 健太郎, 池内 浩基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基	潰瘍性大腸炎に細菌性肝臓炎を合併した一例。(ポスター)	第73回日本大腸肛門病学会 学術集会	東京	2018年11月9日
皆川 知洋, 池内 浩基, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 内野 基	高齢者潰瘍性大腸炎術後の排便機能とQOL評価。(ポスター)	第73回日本大腸肛門病学会 学術集会	東京	2018年11月9日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 後藤 佳子	潰瘍性大腸炎経腸経腸維持療法の現状 - 術後回腸憩室の発症リスクと維持療法について -	第73回日本大腸肛門病学会 学術集会	東京	2018年11月9日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 野田 雅史, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕	潰瘍性大腸炎手術における多剤免疫抑制の影響と周術期合併症の予測因子。(シンポジウム)	第73回日本大腸肛門病学会 学術集会	東京	2018年11月9日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 野田 雅史, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕	初回手術後長期寛解維持が得られたクローン病症例の臨床的特徴 - 早期に再手術となった症例と比較して。(要旨発表)	第73回日本大腸肛門病学会 学術集会	東京	2018年11月9日
馬場谷 章仁, 山野 智基, 宋 智亨, 木村 慶, 濱中 美千子, 片岡 幸三, 別府 直仁, 野田 雅史, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕	大腸憩室転移に対して手術治療を施行した2例。(ポスター)	第73回日本大腸肛門病学会 学術集会	東京	2018年11月9日
木村 慶, 野田 雅史, 宋 智亨, 馬場谷 章仁, 濱中 美千子, 片岡 幸三, 別府 直仁, 内野 基, 山野 智基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕	直腸GIST切除症例の治療成績。(ポスター)	第73回日本大腸肛門病学会 学術集会	東京	2018年11月9日
野田 雅史, 宋 智亨, 木村 慶, 濱中 美千子, 馬場谷 章仁, 片岡 幸三, 別府 直仁, 山野 智基, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕	切除不能大腸癌転移に対するconversion therapyの治療成績。(パネルディスカッション)	第73回日本大腸肛門病学会 学術集会	東京	2018年11月9日
山野 智基, 宋 智亨, 木村 慶, 馬場谷 章仁, 濱中 美千子, 片岡 幸三, 別府 直仁, 野田 雅史, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕	取扱い規約へのEX導入による病期変更と予後との関係。(ポスター)	第73回日本大腸肛門病学会 学術集会	東京	2018年11月9日
堀尾 勇規, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	多発大腸癌を認めた潰瘍性大腸炎手術症例の検討。(デジタルポスターセッション)	第16回日本消化器外科学会 大会(JDDI/2018 KOBE)	神戸	2018年11月3日
佐々木 寛文, 池内 浩基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基	潰瘍性大腸炎術後, クローン病へと診断が変更となった24症例の検討。(デジタルポスターセッション)	第16回日本消化器外科学会 大会(JDDI/2018 KOBE)	神戸	2018年11月3日
浜中 美千子, 山野 智基, 今田 絢子, 宋 智亨, 木村 慶, 馬場谷 章仁, 小林 政義, 塚本 潔, 野田 雅史, 内野 基, 池内 浩基, 山門 享一郎, 富田 尚裕	直腸癌術後腸管転移, 胸膜腫瘍に対し経皮ラジオ波凝固術を施行した1例。(デジタルポスターセッション)	第16回日本消化器外科学会 大会(JDDI/2018 KOBE)	神戸	2018年11月3日
桑原 隆一, 内野 基, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	当院におけるクローン病に対するReduced port surgery.	第16回日本消化器外科学会 大会(JDDI/2018 KOBE)	神戸	2018年11月3日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 竹末 芳生	クローン病の手術適応は病位期間, 手術回数に影響を受けるのか。(デジタルポスターセッション)	第16回日本消化器外科学会 大会(JDDI/2018 KOBE)	神戸	2018年11月3日
木村 慶, 池田 正孝, 馬場谷 章仁, 濱中 美千子, 小林 政義, 塚本 潔, 野田 雅史, 山野 智基, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕	直腸癌術所再発に対する確実なRO切除を目指した腹腔鏡併用仙骨合併切除術。(デジタルポスターセッション)	第16回日本消化器外科学会 大会(JDDI/2018 KOBE)	神戸	2018年11月2日
山野 智基, 浜中 美千子, 今田 絢子, 宋 智亨, 木村 慶, 馬場谷 章仁, 小林 政義, 塚本 潔, 野田 雅史, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕	大腸癌患者における部位と遺伝学的背景の検討。(デジタルポスターセッション)	第16回日本消化器外科学会 大会(JDDI/2018 KOBE)	神戸	2018年11月2日
池田 正孝, 植村 守, 三宅 正和, 塚本 潔, 山野 智基, 内野 基, 宮崎 道彦, 加藤 健志, 野田 雅史, 池内 浩基, 関本 貢嗣, 富田 尚裕	直腸癌術前画像診断に基づく側方リンパ節転移率における検討。(デジタルポスターセッション)	第16回日本消化器外科学会 大会(JDDI/2018 KOBE)	神戸	2018年11月2日
皆川 知洋, 池内 浩基, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 池田 正孝, 富田 尚裕, 内野 基	潰瘍性大腸炎に合併したcolitic cancerに対し術後補助化学療法を施行したstage1,2症例の検討。(デジタルポスターセッション)	第16回日本消化器外科学会 大会(JDDI/2018 KOBE)	神戸	2018年11月2日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
蝶野 晃弘, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 野田 雅史, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎分割手術例における人工肛門閉鎖時ステロイドカバーの必要性。(デジタルポスターセッション)	第16回日本消化器外科学会大会(JDDN2018 KOBE)	神戸	2018年11月2日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏	炎症性腸疾患における発癌と血清p53抗体価の関連性。(ワークショップ)	第16回日本消化器外科学会大会(JDDN2018 KOBE)	神戸	2018年11月2日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 山野 智基, 池田 正孝, 富田 尚裕	術前診断がついていなかった colitic cancer の特徴と予後。(デジタルポスターセッション)	第16回日本消化器外科学会大会(JDDN2018 KOBE)	神戸	2018年11月1日
池田 正孝, 植村 守, 三宅 正和, 木村 慶, 濱中 美千子, 馬場谷 章仁, 片岡 幸三, 別府 直仁, 野田 雅史, 山野 智基, 加藤 健志, 内野 基, 池内 浩基, 関本 貢嗣, 富田 尚裕	【局所進行・再発直腸癌】骨盤内臓器癌に対する骨盤内臓全摘術の現状と展望。(シンポジウム)	第56回日本高治療学会学術集会	横浜	2018年10月20日
山野 智基, 山内 慎一, 宋 智亨, 木村 慶, 馬場谷 章仁, 濱中 美千子, 片岡 幸三, 別府 直仁, 野田 雅史, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕, 杉原 健一	腫瘍マーカーと脈管侵襲を組み合わせた大腸癌治療後の再発予測。(ポスター)	第56回日本高治療学会学術集会	横浜	2018年10月19日
桑原 隆一, 池内 浩基, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 池田 正孝, 富田 尚裕, 内野 基	潰瘍性大腸炎に対する1期J型回腸盲腸肛門吻合術300例の検討	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月12日
堀尾 勇規, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎における人工肛門閉鎖合併症の検討。(デジタルポスター)	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月12日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 池田 正孝, 富田 尚裕	潰瘍性大腸炎に対する適切な手術タイミングと術式の決定。(要旨演題)	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月12日
池田 正孝, 塚本 潔, 植村 守, 三宅 正和, 山野 智基, 内野 基, 野田 雅史, 池内 浩基, 富田 尚裕, 関本 貢嗣	#263と#283をen blocに切除する腹腔鏡下側方リンパ節廓清術。(要旨演題ビデオ)	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月12日
蝶野 晃弘, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	クローン病術後症例の妊娠・分娩。(デジタルポスター)	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月11日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 池田 正孝, 富田 尚裕	クローン病に合併する colitic cancer の現状。(要旨演題)	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月11日
木村 慶, 山野 智基, 宋 智亨, 馬場谷 章仁, 濱中 美千子, 片岡 幸三, 別府 直仁, 野田 雅史, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕	当院の高年齢早期大腸癌における内視鏡切除後の追加切除症例の検討。(示説)	第89回大腸癌研究会	新潟	2018年7月6日
佐々木 寛文, 池内 浩基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基	潰瘍性大腸炎術後32年でapical bridgeによる腸閉塞をきたした1例	第201回近畿外科学会	大阪	2018年5月19日
桑原 隆一, 池内 浩基, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基	クローン病に対して単孔式腹腔鏡補助下回盲部切除, 狭窄形成術を施行した1例	第201回近畿外科学会	大阪	2018年5月19日
木村 慶, 池田 正孝, 塚本 潔, 宋 智亨, 馬場谷 章仁, 濱中 美千子, 小林 政義, 野田 雅史, 内野 基, 山野 智基, 池内 浩基, 富田 尚裕	進行・再発直腸癌に対して他臓器合併切除を要する腹腔鏡手術の導入。(デジタルポスター)	第72回手術手技研究会	鳴門	2018年5月11日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 塚本 潔, 山野 智基, 野田 雅史, 池田 正孝, 富田 尚裕	クローン病の残存小腸長と短腸症候群の関連性	第104回日本消化器病学会総会	東京	2018年4月21日
山野 智基, 今田 絢子, 宋 智亨, 木村 慶, 馬場谷 章仁, 濱中 美千子, 小林 政義, 塚本 潔, 野田 雅史, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕	希少がんに対するPatients derived xenograftを用いた標準治療確立の試み。(サージカルフォーラム)	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月7日
野田 雅史, 今田 絢子, 木村 慶, 宋 智亨, 濱中 美千子, 馬場谷 章仁, 小林 政義, 塚本 潔, 山野 智基, 池田 正孝, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕	切除不能大腸癌に対するconversion therapy後の再発に対する治療。(ポスターセッション)	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月7日
池田 正孝, 植村 守, 三宅 正和, 塚本 潔, 山野 智基, 内野 基, 宮崎 道彦, 加藤 健志, 野田 雅史, 池内 浩基, 関本 貢嗣, 富田 尚裕	進行・再発直腸癌手術における腹腔鏡手術の可能性。(ポスターセッション)	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月7日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
堀尾 勇規, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 塚本 潔, 山野 智基, 野田 雅史, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	クローン病の会陰創治療遅延症例の検討.(ポスターセッション)	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月7日
坂東 俊宏, 内野 基, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 塚本 潔, 山野 智基, 野田 雅史, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	クローン病術後の再発症例の検討.(ポスターセッション)	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月7日
蝶野 晃弘, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 塚本 潔, 山野 智基, 野田 雅史, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	腸管型パーチェット病当科初回手術症例の検討.(ポスターセッション)	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月7日
桑原 隆一, 内野 基, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 塚本 潔, 山野 智基, 野田 雅史, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	クローン病に合併した難治性痔瘻, 膿瘍に対する手術症例95例の検討.(ポスターセッション)	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月7日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 富田 尚裕, 池田 正孝, 野田 雅史, 山野 智基, 塚本 潔, 竹末 芳生	潰瘍性大腸炎に合併する発癌症例の臨床病理学的検討.(サージカルフォーラム)	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月7日
伊藤 一真, 馬場谷 章仁, 野田 雅史, 今田 絢子, 宋 智亨, 木村 慶, 濱中 美千子, 小林 政義, 塚本 潔, 山野 智基, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕	小腸, 大腸に多発した腸胃腫瘍奇形の一例.(研修医セッション)	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月6日
寺内 美紗, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 塚本 潔, 山野 智基, 野田 雅史, 池田 正孝, 富田 尚裕, 池内 浩基	クローン病に肛門管癌を合併した2例.(研修医セッション)	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月6日
濱中 美千子, 今田 絢子, 宋 智亨, 木村 慶, 馬場谷 章仁, 小林 政義, 塚本 潔, 山野 智基, 野田 雅史, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕	Lynch 症候群の診断のための Universal screening の当科の現状.(ポスターセッション)	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月6日
問山 裕二, 奥川 喜永, 田中 光司, 荒木 俊光, 内田 恵一, 内野 基, 池内 浩基, 廣田 誠一, Richard Boland, Ajay Goel, 楠 正人	Field effect と Epigenetic drift の概念を利用した MicroRNA のメチル化による潰瘍性大腸炎癌化のハイリスク診断【Gastroenterology】	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月5日
木村 慶, 別府 直仁, 今田 絢子, 宋 智亨, 馬場谷 章仁, 濱中 美千子, 小林 政義, 塚本 潔, 山野 智基, 野田 雅史, 内野 基, 池田 正孝, 池内 浩基, 富田 尚裕	局所進行下部直腸癌, 術前化学放射線療法に CPT-11 を追加する意義, およびその治療成績	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月5日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋, 塚本 潔, 山野 智基, 野田 雅史, 池田 正孝, 富田 尚裕, 竹末 芳生	IBD 外科治療の現状と展望【渡邉明先生メモリアルセッション】潰瘍性大腸炎術後の諸問題, Pouch 関連合併症と Pouch 機能について.(シンポジウム)	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月5日
Chohnho Teruhiro, Minagawa Tomohiro, Kuwahara Ryuichi, Horio Yuki, Sasaki Hirofumi, Bando Toshihiro, Takesue Yoshio, Ikeuchi Hiroki	Can the prognostic index be a predicting factor for mortality and morbidity in intestinal resection of patients with ulcerative colitis? (Poster)	13 th Congress of ECCO	Vienna	2018.2.16
Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Bando Toshihiro, Chohnho Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Horio Yuki, Kuwahara Ryuichi, Minagawa Tomohiro	Efficacy of pre-operative oral antibiotic prophylaxis for the prevention of wound infections in patients with Crohn's disease. (Poster)	13 th Congress of ECCO	Vienna	2018.2.16
Horio Yuki, Uchino Motoi, Bando Toshihiro, Chohnho Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Kuwahara Ryuichi, Minagawa Tomohiro, Takesue Yoshio, Ikeuchi Hiroki	Association between obesity and pouch-related complications during restorative proctocolectomy in patients with ulcerative colitis. (Poster Session)	The 1 st International Conference of Surgical Infection Society Asia-Pacific	Tokyo	2017.11.29

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Chohn Teruhiro, Uchino Motoi, Horio Yuki, Bando Toshihiro, Ueda Takashi, Ichiki Kaoru, Nakajima Kazuhiko, Tsuchida Toshie, Takahashi Yoshiko, Takesue Yoshio, <u>Ikeuchi Hiroki</u>	Perineal wound healing in Crohn's Disease patient treated with negative-pressure wound therapy. (Poster Session)	The 1 st International Conference of Surgical Infection Society Asia-Pacific	Tokyo	2017.11.29
Uchino Motoi, <u>Ikeuchi Hiroki</u> , Bando Toshihiro, Chohn Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Horio Yuki, Kuwahara Ryuichi, Minagawa Tomohiro, Ueda Takashi, Ichiki Kaoru, Nakajima Kazuhiko, Tsuchida Toshie, Takahashi Yoshiko, Takesue Yoshio	Efficacy of antimicrobial-coated sutures for prevention of wound infection in colorectal surgery -Meta analysis. (Poster Session)	The 1 st International Conference of Surgical Infection Society Asia-Pacific	Tokyo	2017.11.29
Sato Toshiyuki, Takagawa Tetsuya, Kakuta Yoichi, Fujimori Ayako, Koshihara Ryoji, Fujimoto Koji, Kawai Mikio, Kamikozuru Koji, Yokoyama Yoko, Kita Yuko, Miyazaki Takako, Imuro Masaki, Watanabe Kenji, Hida Nobuyuki, Hori Kazutoshi, <u>Ikeuchi Hiroki</u> , Nakanura Shiro	Thiopurine-induced Leukopenia Is Associated with a Variant in NUDT15, but Not FTO and RUNX1 in Japanese Patients with Inflammatory Bowel Diseases.	The 5 th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Seoul	2017.6.17
Kuwahara Ryuichi, Horio Yuki, Uchino Motoi, <u>Ikeuchi Hiroki</u>	A case of Crohn's disease with carcinoma under the perineal wound after abdominal perineal resection. (Poster)	The 5 th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Seoul	2017.6.17
<u>Ikeuchi Hiroki</u>	Surgery for severe refractory ulcerative colitis patients in Japan. (Clinical forum)	The 5 th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Seoul	2017.6.17
Shinagawa T, Hata K, <u>Ikeuchi Hiroki</u> , Fukushima K, Sugita A, Suzuki Y, Watanabe T	Time trends and risk factors for reoperation after initial intestinal surgery for Crohn's disease in Japan: A retrospective multicenter study. (Poster)	American Society of Colon & Rectal Surgeons	Seattle	2017.6.11-14
Hata K, Anzai H, <u>Ikeuchi Hiroki</u> , Fukushima K, Sugita A, Suzuki Y, Watanabe T	Ulcerative colitis associated colorectal cancer in Japan: A retrospective multicenter study. (Poster)	American Society of Colon & Rectal Surgeons	Seattle	2017.6.11-14
Horio Yuki, Uchino Motoi, <u>Ikeuchi Hiroki</u> , Bando Toshihiro, Chohn Teruhiro, Sasaki Hirofumi, Hirata Akihiro	Rectal sparing type of ulcerative colitis predicts un-responsibility for pharmacotherapies. (Poster)	American Society of Colon & Rectal Surgeons	Seattle	2017.6.11-14
Uchino Motoi, <u>Ikeuchi Hiroki</u> , Bando Toshihiro, Chohn Teruhiro, Hirata Akihiro, Sasaki Hirofumi, Horio Yuki	Association between prognostic nutritional index and morbidity/mortality during restorative proctocolectomy in patients with ulcerative colitis. (Poster)	American Society of Colon & Rectal Surgeons	Seattle	2017.6.11-14
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 塚本 潔, 山野 智基, 野田 雅史, 池田 正孝, 富田 尚裕	小腸病変を合併した劇症寛瘍性大腸炎に対する術式の工夫。(ワークショップ)	第54回日本腹部救急医学会総会	東京	2018年3月9日
蝶野 晃弘, 内野 基, 佐々木 寛文, 池内 浩基	外科的治療が有効であった分類不能型炎症性腸疾患の1例.	第54回日本腹部救急医学会総会	東京	2018年3月8日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋	炎症性腸疾患外科における緊急手術症例の現状	第54回日本腹部救急医学会総会	東京	2018年3月8日
内野 基, 池内 浩基, 蝶野 晃弘, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 岡山 カナ子	【ストーマ造設】ストーマロッドの必要性に関する検討	第35回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	札幌	2018年2月24日
蝶野 晃弘, 内野 基, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 池内 浩基	【ストーマ合併症】潰瘍性大腸炎分割手術施行時のoutlet obstruction	第35回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	札幌	2018年2月24日
桑原 隆一, 内野 基, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 池内 浩基	バイオ製剤の登場により, クロウン病手術症例の臨床的特徴は変化したのか?。(ワークショップ)	第14回日本消化管学会学術集会	東京	2018年2月10日
堀尾 勇規, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 池内 浩基	クローン病術後出血症例の検討	第14回日本消化管学会学術集会	東京	2018年2月9日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 皆川 知洋, 桑原 隆一	潰瘍性大腸炎術後, 回腸囊炎に対する半夏瀉心湯の効果。(ワークショップ)	第14回日本消化管学会学術集会	東京	2018年2月9日
蝶野 晃弘, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎手術症例の予後予測因子の検討。(ワークショップ)	第14回日本消化管学会学術集会	東京	2018年2月9日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋	炎症性腸疾患における地域連携の現状・外科の立場から。(コアシンポジウム)	第 14 回日本消化管学会学術集会	東京	2018年2月9日
池田 正孝, 植村 守, 三宅 正和, 塚本 潔, 山野 智基, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕, 関本 貢嗣	局所進行・再発直腸癌に対する骨盤内臓全摘・骨性骨盤合併切除術の検討。(サージカルフォーラム)	第 30 回日本内視鏡外科学会総会	京都	2017年12月9日
塚本 潔, 池田 正孝, 山野 智基, 小林 政義, 瀧中 美千子, 馬場谷 彰仁, 木村 慶, 宋 智亨, 池内 浩基, 富田 尚裕	横行結腸癌を合併した家族性大腸腺腫症に対する腹腔鏡下大腸全摘術の工夫。(ポスター)	第 30 回日本内視鏡外科学会総会	京都	2017年12月7日
池田 正孝, 植村 守, 三宅 正和, 宮崎 道彦, 塚本 潔, 山野 智基, 野田 雅史, 内野 基, 池内 浩基, 富田 尚裕, 関本 貢嗣	腹腔鏡による直腸癌局所再発治療戦略。(ワークショップ)	第 30 回日本内視鏡外科学会総会	京都	2017年12月7日
皆川 知洋, 池内 浩基, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基	難治性潰瘍性大腸炎に対し大腸全摘術後に ileal cast を認めた 1 例。(ポスターセッション)	第 8 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017年12月1日
内野 基, 池内 浩基	クローン病肛門病変, 回腸囊炎の診断と治療	第 8 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017年12月1日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 竹末 芳生	クローン病手術における術前経口予防抗菌薬の手術部位感染予防効果	第 30 回日本外科感染症学会総会学術集会	東京	2017年11月30日
内野 基, 池内 浩基, 中嶋 一彦, 一木 薫, 植田 貴史, 高橋 佳子, 土田 敏恵, 竹末 芳生	創洗浄と手術部位感染。(シンポジウム)	第 30 回日本外科感染症学会総会学術集会	東京	2017年11月29日
佐々木 寛文, 池内 浩基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基	潰瘍性大腸炎術後に回腸囊穿孔をみとめた 2 例。(一般示説)	第 79 回日本臨床外科学会総会	東京	2017年11月25日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋	潰瘍性大腸炎重症例に対する内科的治療法のスイッチは慎重に行うべきである。(ワークショップ特別演題)	第 79 回日本臨床外科学会総会	東京	2017年11月25日
山本 隆行, 田中 敏明, 横山 正, 下山 貴寛, 池内 浩基, 内野 基, 渡邊 聡明	潰瘍性大腸炎術後の抗菌剤抵抗回腸囊炎に対する顆粒球単球除去療法の安全性と有効性:多施設共同前向き研究。(パネルディスカッション)	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月11日
蝶野 晃弘, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 坂東 俊宏, 池内 浩基	小野寺 Prognostic nutritional index を用いた潰瘍性大腸炎手術症例の検討	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月11日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋	潰瘍性大腸炎に合併する発癌症例の検討 術後症例も含めて。(パネルディスカッション)	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月11日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋	潰瘍性大腸炎術後の pouch 機能に関する検討:多施設アンケート調査結果。(パネルディスカッション)	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10日
神山 篤史, 杉田 昭, 渡邊 聡明, 池内 浩基, 二見 喜太郎, 鈴木 康夫, 仲瀬 裕志, 高橋 賢一, 渡辺 和宏, 福島 浩平	本邦における潰瘍性大腸炎術後小腸出血および重症小腸炎に関する検討。(パネルディスカッション)	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10日
佐々木 寛文, 池内 浩基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 蝶野 晃弘, 内野 基	潰瘍性大腸炎術後左下腹部に人工肛門を造設市上部消化管通過障害をきたした 1 例。(一般ポスター)	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10日
皆川 知洋, 内野 基, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 池内 浩基	肛門管癌を合併したクローン病に対し, 腹会陰式直腸切断術を施行した 2 例。(一般ポスター)	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10日
坂東 俊宏, 内野 基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 池内 浩基	クローン病術後に腸重積を認めた 1 例。(一般ポスター)	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10日
桑原 隆一, 内野 基, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎に合併した SAPHO 症候群の一例。(一般ポスター)	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋	潰瘍性大腸炎における内科的治療法の進歩と外科治療。(シンポジウム)	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10日
池内 浩基, 坂東 俊宏, 内野 基	クローン病発癌症例の現状とサーベイランス。(総合プログラム)	第 59 回日本消化器病学会大会, 第 15 回日本消化器外科学会大会(JDDW 2017)	福岡	2017年10月14日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
佐々木 寛文, 池内 浩基, 後藤 佳子, 堀尾 勇規, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基	回腸囊機能率に関する検討.(デジタルポスターセッション)	第 59 回日本消化器病学会大会, 第 15 回日本消化器外科学会大会(JDDW 2017)	福岡	2017年10月14日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規	潰瘍性大腸炎術後, 回腸囊機能率に関する検討.(デジタルポスターセッション)	第 59 回日本消化器病学会大会, 第 15 回日本消化器外科学会大会(JDDW 2017)	福岡	2017年10月14日
蝶野 晃弘, 池内 浩基, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 平田 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基, 竹末 芳生	クローン病術後の残存病変と再手術に関する検討.(デジタルポスターセッション)	第 59 回日本消化器病学会大会, 第 15 回日本消化器外科学会大会(JDDW 2017)	福岡	2017年10月13日
堀尾 勇規, 池内 浩基, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 平田 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基	胃-空腸吻合バイパス術を施行したクローン病手術症例の検討.(デジタルポスターセッション)	第 59 回日本消化器病学会大会, 第 15 回日本消化器外科学会大会(JDDW 2017)	福岡	2017年10月13日
高川 哲也, 佐藤 寿行, 角田 洋一, 西尾 昭宏, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 横山 陽子, 木田 裕子, 宮崎 孝子, 飯室 正樹, 樋田 信幸, 堀 和敏, 池内 浩基, 中村 志郎	Diploptype 分類に基づいた NUDT15 活性レベルと炎症性腸疾患患者のチオプリン誘発性白血球減少症及び全脱毛の相関.(デジタルポスターセッション)	第 59 回日本消化器病学会大会, 第 15 回日本消化器外科学会大会(JDDW 2017)	福岡	2017年10月13日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 桑原 隆一, 皆川 知洋	潰瘍性大腸炎に合併する発癌症例とサーベイランスとの関連性.(デジタルポスターセッション)	第 59 回日本消化器病学会大会, 第 15 回日本消化器外科学会大会(JDDW 2017)	福岡	2017年10月13日
藤田 征志, 松原 長秀, 松田 育雄, 山野 智基, 藤本 明洋, 宮野 悟, 富田 尚裕, 廣田 誠一, 池内 浩基, 中川 英刀	Colitic cancer の変異解析による Precision Oncology. (Fujita Masashi, Matsubara Nagahide, Matsuda Ikuo, Yamano Tomoki, Fujimoto Akihiro, Miyano Satoru, Tomita Naohiro, Hirota Seiichi, Ikeuchi Hiroki, Nakagawa Hidewaki. Procision oncology by genomic profiling for colitic cancer indicastes potentials for cancer diagnosis and treatment.) (インターナショナルセッション English)	第 76 回日本癌学会学術総会	横浜	2017年9月30日
垣内 伸之, 吉田 健一, 塩澤 裕介, 白石 友一, 桜井 孝規, 坂井 義治, 内野 基, 廣田 誠一, 池内 浩基, 宮野 悟, 丸澤 宏之, 妹尾 浩, 小川 誠司	潰瘍性大腸炎における炎症発癌のゲノム解析	第 76 回日本癌学会学術総会	横浜	2017年9月28日
佐々木 寛文, 池内 浩基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 堀尾 勇規, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基	潰瘍性大腸炎術後 13 年で発症した J 型回腸囊盲端穿孔の 1 例	第 200 回近畿外科学会	京都	2017年9月2日
蝶野 晃弘, 池内 浩基, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 平田 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基	潰瘍性大腸炎に対する回腸囊肛門吻合術後の妊娠・分娩についての検討.(ミニオーラル)	第 72 回日本消化器外科学会総会	金沢	2017年7月22日
平田 晃弘, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 後藤 佳子, 堀尾 勇規, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎術後における肺炎症例の検討	第 72 回日本消化器外科学会総会	金沢	2017年7月22日
堀尾 勇規, 内野 基, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 平田 晃弘, 坂東 俊宏, 池内 浩基	周術期に真菌性眼内炎を併発した炎症性腸疾患手術症例の検討.(ミニオーラル)	第 72 回日本消化器外科学会総会	金沢	2017年7月22日
高橋 佳子, 竹末 芳生, 内野 基, 池内 浩基	炎症性腸疾患患者における術後 MRSA 保菌状態スクリーニング.(要望演題)	第 72 回日本消化器外科学会総会	金沢	2017年7月20日
内野 基, 池内 浩基, 坂東 俊宏, 平田 晃弘, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 後藤 佳子, 堀尾 勇規, 竹末 芳生	【炎症性腸疾患に対する外科治療の変遷と展望】潰瘍性大腸炎手術症例の変遷と予後予測因子.(シンポジウム)	第 72 回日本消化器外科学会総会	金沢	2017年7月20日
池内 浩基, 坂東 俊宏, 平田 晃弘, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 後藤 佳子, 内野 基	潰瘍性大腸炎に対する 1 期的大腸全摘・J 型回腸囊肛門吻合術.(要望演題・ビデオ)	第 72 回日本消化器外科学会総会	金沢	2017年7月20日
桑原 隆一, 内野 基, 皆川 知洋, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎術後 30 年目に回腸囊より high grade dysplasia を合併した 1 例.(示説)	第 87 回大腸癌研究会	四日市	2017年7月7日
堀尾 勇規, 池内 浩基, 皆川 知洋, 桑原 隆一, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基	肛門管粘膜部に癌の合併を認めた潰瘍性大腸炎手術症例の検討.(示説)	第 87 回大腸癌研究会	四日市	2017年7月7日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
奥川 喜永, 問山 裕二, 田中 光司, 荒木 俊光, 内田 恵一, 内野 基, 池内 浩基, 廣田 誠一	Field effect と Epigenetic drift の概念を利用した, MicroRNA メチル化による潰瘍性大腸炎癌化のハイリスク診断	第 87 回大腸癌研究会	四日市	2017年7月7日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 桑原 隆一, 皆川 知洋	クローン病に合併する発癌症例の現状	第 87 回大腸癌研究会	四日市	2017年7月7日
佐々木 寛文, 内野 基, 坂東 俊宏, 平田 晃弘, 蝶野 晃弘, 堀尾 勇規, 池内 浩基	周術期に腹部大動脈瘤破裂を合併したクローン病の1例。(ポスター)	第 42 回日本外科系連合学会学術集会	徳島	2017年6月30日
堀尾 勇規, 池内 浩基, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 平田 晃弘, 坂東 俊宏, 内野 基	メッケル憩室による内鼠径ヘルニアが原因で腸閉塞を来した1例。(ポスター)	第 42 回日本外科系連合学会学術集会	徳島	2017年6月30日
池内 浩基, 坂東 俊宏, 平田 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 内野 基	炎症性腸疾患における地域連携	第 42 回日本外科系連合学会学術集会	徳島	2017年6月29日
蝶野 晃弘, 内野 基, 池内 浩基	【消化器外科領域】臍部 open method 小切開にて手術施行したクローン病症例の検討	第 30 回日本小切開・鏡診外科学会	所沢	2017年6月2日
内野 基, 坂東 俊宏, 平田 晃弘, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 池内 浩基	難治性慢性回腸囊炎に対する biologics の効果。(ポスターセッション)	第 117 回日本外科学会定期学術集会	横浜	2017年4月29日
堀尾 勇規, 内野 基, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 蝶野 晃弘, 平田 晃弘, 坂東 俊宏, 池内 浩基	クローン病における短腸症候群についての検討。(ポスターセッション)	第 117 回日本外科学会定期学術集会	横浜	2017年4月29日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏, 平田 晃弘, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 後藤 佳子	潰瘍性大腸炎術後の合併症の発症率と術後在院日数。(ポスターセッション)	第 117 回日本外科学会定期学術集会	横浜	2017年4月29日
蝶野 晃弘, 内野 基, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 佐々木 寛文, 平田 晃弘, 坂東 俊宏, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎手術症例における予後予測因子としての小野寺 PNI の検討。(ポスターセッション)	第 117 回日本外科学会定期学術集会	横浜	2017年4月29日
内野 基, 坂東 俊宏, 平田 晃弘, 蝶野 晃弘, 佐々木 寛文, 堀尾 勇規, 後藤 佳子, 池内 浩基	潰瘍性大腸炎術後, 回腸囊炎に対する生物学的製剤の効果	第 103 回日本消化器病学会総会	東京	2017年4月21日
池内 浩基, 内野 基, 坂東 俊宏	【IBD 治療における生物学的製剤】これからの課題と対策 クローン病術後にバイオ製剤の予防的投与は必要か。(シンポジウム)	第 103 回日本消化器病学会総会	東京	2017年4月20日
田中敏宏, 福井寿朗, 深田憲将, 安藤祐吾, 大宮美香, 岡崎和一	抗 TNF 製剤の液量と添加物変更に伴う自己注射時疼痛改善により著明な治療効果を認めたクローン病の1例	第 8 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京品川	2017年12月1日
深田憲将 福井寿朗 富山尚 安藤祐吾 岡崎和一	内視鏡検査を施行した感染性大腸炎の検討	第 99 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	京都市	2017年11月18日
細田修司, 大宮美香, 栗島亜希子, 中山新士, 竹尾元裕, 段原直行, 廣原淳子, 岡崎和一	クローン病やベーチェット病と鑑別を要した家族性地中海熱の一例	第 107 回日本消化器病学会近畿支部例会	大阪市	2017年9月23日
Umeno J, Fuyuno Y, Torisu T, Hirano A, Esaki M, Yanai S, Ohmiya N, Hisatatsu T, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hirai F, Hisabe T, Matsui T, Yano T, Kitazono T, Matsumoto T, CEAS Study Group	A nationwide survey of chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene in Japan.	15th Congress of ECCO	Vienna	2020年2月14日
Fukuda M, Naganuma M, Takabayashi K, Hagihara Y, Tanemoto S, Nomura E, Yoshimatsu Y, Sugimoto S, Nanki K, Mizuno S, Mikami Y, Fukuhara K, Suzino T, Mutaguchi M, Inoue N, Ogata H, Iwao Y, Kanai T	Complete endoscopic remission is not only associated with higher mucosal concentrations of 5-aminosalicylic acid but also with N-acetyl-5-aminosalicylic acid in patients with ulcerative colitis.	15th Congress of ECCO	Vienna	2020年2月14日
Ogata H, Motoya S, Watanabe K, Kanai T, Matsui T, Suzuki Y, Shikamura M, Sugiura K, Oda K, Horii T, Araki T, Watanabe M, Hibi T	A phase 3 study of Vedolizumab for induction and maintenance therapy in Japanese patients with moderate to severe Crohn's Disease.	DDW 2019 (AGA)	San Diego	2019年5月21日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Takabayashi K, Hosoe N, Kato M, Hayashi Y, Miyanaga R, Sugimoto S, Nanki K, Kimura K, Mikami Y, Mizuno S, Mutaguchi M, Sujino T, Naganuma M, Ogata H, Kanai T	Clinical utility of balloon assisted enteroscopy to evaluate deep small Bowel Lesions of Crohn's Disease.	DDW 2019 (ASGE)	San Diego	2019年5月19日
高林馨、林由紀恵、福田知広、吉松裕介、吉田康祐、杉本真也、南木康作、福原佳代子、三上洋平、筋野智久、牟田口真、細江直樹、長沼誠、緒方晴彦、金井隆典	小腸疾患の診断・治療における内視鏡の進歩	第57回日本小腸学会 学会集會	大阪	2019年11月09日
三上洋平、福田知広、吉松裕介、水野慎大、長沼誠、緒方晴彦、岩男泰、金井隆典	当院における潰瘍性大腸炎に対する tofacitinib の検討	第56回日本消化器免疫 学会総会	京都	2019年8月1日
Ogata H, Hagiwara T, Ito Y, Kawaberi T, Kobayashi M, Hibi T	Safety and effectiveness of adalimumab treatment in 1523 patients with ulcerative colitis: Results from a prospective, multi-centre, observational study.	14th Congress of ECCO	Copenhagen	2019年3月8日
Motoya S, Watanabe K, Ogata H, Kanai T, Matsui T, Suzuki Y, Shinmura M, Sugiura K, Oda K, Hori T, Arai T, Watanabe M, Hibi T	A Phase 3 study of Vedolizumab in Japanese patients with Ulcerative Colitis: Effects on time to disease worsening and treatment failure.	UEGW 2018	Venue	2018年10月23日
Hosoe N, Nakano M, Takeuchi K, Endo Y, Matsuoka K, Omori T, Hayashida M, Kobayashi T, Yoshida A, Mizuno S, Nakazato Y, Naganuma M, Kanai T, Watanabe M, Ueno F, Suzuki Y, Hibi T, Ogata H	Developing a Colon Capsule Endoscopy score to assess the severity of ulcerative colitis: the capsule scoring of ulcerative colitis (CSUC).	DDW 2018 (ASGE)	Washington D.C.	2018年6月3日
Takabayashi K, Hosoe N, Keiko I, Horie T, Miyanaga R, Fukuhara S, Kimura K, Mizuno S, Naganuma M, Ogata H, Kanai T	Clinical utility of ultra-thin single-balloon enteroscopy; a feasibility study.	DDW 2018 (ASGE)	Washington D.C.	2018年6月3日
Watanabe M, Motoya S, Watanabe K, Ogata H, Kanai T, Matsui T, Suzuki Y, Shikamura M, Igeta M, Oda K, Hori T, Araki T, Hibi T	A phase 3 study of vedolizumab for induction and maintenance therapy in Japanese patients with moderately to severely active Ulcerative colitis.	DDW 2018 (AGA)	Washington D.C.	2018年6月2日
福田知広、水野慎大、久武祐太、南木康作、木村佳代子、高林馨、長沼誠、緒方晴彦、岩男泰、金井隆典	重症潰瘍性大腸炎に対するシクロスポリンによる治療戦略の検討	第9回日本炎症性腸疾患 学会学術集會	京都	2018年11月22日
牟田口真、長沼誠、南木康作、水野慎大、木村佳代子、福田知広、杉本真也、筋野智久、高林馨、井上詠、緒方晴彦、岩男泰、金井隆典	潰瘍性大腸炎における抗TNF 抗体製剤と免疫調節薬併用による効果と予後の検討	第73回日本大腸肛門病 学会学術集會	東京	2018年11月9日
福田知広、長沼誠、杉本真也、大野恵子、南木康作、水野慎大、木村佳代子、牟田口真、高林馨、井上詠、緒方晴彦、岩男泰、金井隆典	Mayo 内視鏡スコア 1 を有する臨床的寛解潰瘍性大腸炎患者に対する治療介入の意義に関する検討	第95回日本消化器内視鏡 学会総会	東京	2018年5月12日
Fukuda T, Naganuma M, Sugimoto S, Ono K, Nanki K, Mizuno S, Kimura K, Mutaguchi M, Takabayashi K, Inoue N, Ogata H, Iwao Y, Kanai T	Efficacy of therapeutic intervention for ulcerative colitis patients with the Mayo Endoscopic Score of 1.	13th Congress of ECCO 2018	Vienna	2018年2月14-17日
Mutaguchi M, Naganuma M, Iwao Y, Fukuda T, Sugimoto S, Nanki K, Mizuno S, Ogata H, Kanai T	Clinical Characteristics in Ulcerative Colitis Patients with Colitis Associated Dysplasia/ Cancer and Sporadic Tumor.	UEGW 2017	Barcelona	2017年10月30日
Fukuda T, Naganuma M, Sugimoto S, Nanki K, Mizuno S, Nakazato Y, Ogata H, Iwao Y, Kanai T	Maintenance Therapy with Lower Dose 5-Aminosalicylate Increases the Clinical Relapse in Patients with Ulcerative Colitis Who Had Previous Use of Corticosteroids.	DDW 2017 (AGA)	Chicago	2017年5月6日
木村佳代子、長沼誠、中里圭宏、緒方晴彦、金井隆典	エンドサイトをを用いた潰瘍性大腸炎内視鏡的寛解例における組織学的活動度評価の意義	第105回日本消化器内視鏡 学会関東支部例会	東京	2017年12月10日
牟田口真、長沼誠、杉本真也、南木康作、水野慎大、細江直樹、緒方晴彦、岩男泰、金井隆典	潰瘍性大腸炎における colitis associated dysplasia/ cancer と sporadic tumor の比較	第8回日本炎症性腸疾患 学会学術集會	東京	2017年12月1日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
木村佳代子、水野慎大、長沼誠、緒方晴彦、岩男泰、金井隆典	クローン病の腸管切除後の生物学的製剤導入時期の検討	第 55 回日本小腸学会	京都	2017 年 11 月 21 日
金井隆典	食と免疫 潰瘍性大腸炎への応用	JDDW2019	神戸	2019 年 11 月 22 日
仲哲治, 新崎信一郎, 松岡克善, 水野慎大, 飯島英樹, 金井隆典, 松本主之	免疫疾患: 消化器を症状にする疾患 炎症性腸疾患における疾患活動性マーカーとしての LRG の意義	第 47 回 日本臨床免疫学会総会	札幌	2019 年 10 月 17 日
三上洋平、林 篤史、宮本健太郎、鎌田信彦、佐藤俊朗、水野慎大、長沼 誠、寺谷俊昭、青木 亮、福田真嗣、須田 互、服部正平、天谷雅行、大山 学、金井隆典	腸内細菌叢の異常により引き起こされるピオチン代謝異常および腸管外病変の検討	第 39 回日本炎症・再生医学会 炎症と再生の融合の検討	東京	2018 年 7 月 11 日
中本伸宏、谷木信仁、金井隆典	ヒトフローラ化マウスを用いた原発性硬化性胆管炎病態に寄与する腸内細菌と肝臓内免疫応答の相互作用の解明	第 104 回日本消化器病学会総会	東京	2018 年 4 月 20 日
福田知広, 長沼誠, 金井隆典	潰瘍性大腸炎の治療効果予測に内視鏡所見は有用か?	第 93 回 日本消化器内視鏡学会総会	大阪	2017 年 5 月 12 日
大野 恵子, 水野 慎大, 金井 隆典	潰瘍性大腸炎の再燃予測因子としての腸内細菌叢解析の有用性の検討	第 103 回日本消化器病学会総会	東京	2017 年 4 月 20 日
中里 圭宏, 長沼 誠, 金井 隆典	エンドサイトスコピーを用いた潰瘍性大腸炎内視鏡的寛解例の組織学的活動性評価	第 103 回日本消化器病学会総会	東京	2017 年 4 月 20 日
水野 慎大, 長沼 誠, 金井 隆典	クローン病の腸管切除後の生物学的製剤導入時期の検討	第 103 回日本消化器病学会総会	東京	2017 年 4 月 20 日
福田知広, 長沼 誠, 水野慎大, 南木康作, 中里圭宏, 緒方晴彦, 岩男 泰, 金井隆典	ステロイド使用歴のある潰瘍性大腸炎患者は低用量 5ASA 製剤で再燃しやすい	第 103 回日本消化器病学会総会	東京	2017 年 4 月 20 日
Sakurai T, Akita Y, Miyashita H, Miyazaki R, Maruyama Y, Saito T, Shimada M, Yamazaki T, Kato T, Saruta M	Comparison of Prostaglandin E-Major Urinary Metabolite (PGE-MUM) with fecal calprotectin and fecal immunochemical tests for determining endoscopic remission in patients with ulcerative colitis.	ECCO 2020	Wein, Austria	2020 年 2 月 14 日
Saruta M	PGE-MUM: Potential urinary disease activity biomarker for UC.	CCFA IBD Biomarker Summit.	Newark, USA	2019 年 11 月 19 日
Saruta M	Current treatment strategy for Inflammatory Bowel Disease with Biologics.	WASOG/JSSOG2019	Yokohama, Japan	2019 年 10 月 11 日
Miyazaki R, Sakurai T, Saito T, Shimada M, Miyashita H, Akita Y, Maruyama Y, Saruta M	Consideration of 80 cases with budesonide enema for patients with ulcerative colitis.	AOCC2019	Taipei, Taiwan	2019 年 6 月 15 日
Watanabe K, Esaki M, Oka S, Shimamoto F, Nishishita M, Fukuchi T, Fujii S, Hirai F, Kakimoto K, Inoue T, Nozaki R, Kashida H, Takeuchi K, Ohmiya N, Saruta M, Saito S, Saito Y, Tanaka S, Ajioka Y, Tajir H.	The detection with targeted biopsy and characterization of neoplastic lesions by magnifying chromoendoscopy and NBI in surveillance colonoscopy of patients with ulcerative colitis: A sub-analysis of the navigator study.	DDW2019	San Diego, USA	2019 年 5 月 20 日
Shibuya N, Higashiyama, Nishii S, Mizoguchi A, Inada K, Sugihara N, Hanawa Y, Wada A, Horiuchi K, Furuhashi H, Kurihara C, Hozumi H, Okada Y, Watanabe C, Komoto S, Tomita K, Saruta M, Hokari R	Deoxycholic acid enhances lymphocyte migration to the small intestinal microvessels possibly through enhancing expression of adhesion molecules on epithelium.	DDW2019	San Diego, USA	2019 年 5 月 18 日
猿田雅之	炎症性腸疾患の治療最前線	第 47 回日本潰瘍学会 / 第 21 回日本神経消化器病学会	小田原 日本	2020 年 1 月 16 日
嶋田真梨子, 櫻井俊之, 宮崎亮佑, 宮下春菜, 猿田雅之	ウステキヌマブ (UST) を導入したクローン病 (CD) 症例における、導入前内視鏡初見と UST 有効性についての検討 .	第 109 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会	東京、日本	2019 年 12 月 14 日
宮崎亮佑, 櫻井俊之, 斎藤知子, 嶋田真梨子, 秋田義博, 宮下春菜, 丸山友希, 山崎琢士, 猿田雅之	当院で潰瘍性大腸炎患者に対してブデゾニド注腸フォーム剤を使用した 131 症例の検討 .	第 10 回 日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡、日本	2019 年 11 月 29 日
好川謙一, 関裕, 猿田雅之	急性膵炎を合併した全結腸型の潰瘍性大腸炎に対して顆粒球除去療法を施行した一例 .	第 10 回 日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡、日本	2019 年 11 月 29 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
秋田義博, 櫻井俊之, 嶋田真梨子, 斎藤知子, 宮下春菜, 丸山友希, 宮崎亮佑, 山崎琢士, 猿田雅之	入院加療された潰瘍性大腸炎のステロイド反応別の血清マーカーの検討.	第10回 日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡、日本	2019年11月29日
澁谷尚希, 東山正明, 西井 慎, 溝口明範, 因幡健一, 杉原奈央, 埜 芳典, 和田晃典, 堀内和樹, 古橋廣崇, 八月朔日英明, 栗原千枝, 岡田義清, 渡辺知佳子, 河本俊介, 富田健吾, 猿田雅之, 穂苅量太	デオキシコール酸は腸管血管内皮細胞の接着分子増加を介してリンパ球マイグレーションを亢進させる.	第10回 日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡、日本	2019年11月29日
猿田雅之	炎症性腸疾患の治療最前線	JDDW2019	神戸、日本	2019年11月22日
澁谷尚樹, 猿田雅之, 穂苅量太	胆汁酸が小腸のリンパ球マイグレーションに与える影響.	JDDW2019	神戸、日本	2019年11月22日
丸山友紀, 櫻井俊之, 宮下春菜, 秋田義博, 宮崎亮佑, 永田祐介, 澤田亮一, 野口正朗, 山崎琢士, 猿田雅之	炎症性腸疾患における血清Zn値動態の検討.	JDDW2019	神戸、日本	2019年11月21日
猿田雅之	クローン病及びその合併症の診断と内視鏡治療	日本内視鏡学会 第46回 重点卒後教育セミナー	横浜、日本	2019年10月6日
猿田雅之	難治性潰瘍性大腸炎の治療戦略	日本消化器病学会 関東支部第356回例会	東京、日本	2019年9月21日
猿田雅之	炎症性腸疾患の病態と治療～エンタビオがもたらす新たな治療の幕開け～	第125回 日本消化器病学会北海道支部例会 / 第119回 日本消化器内視鏡学会北海道支部例会	札幌、日本	2019年9月7日
山根史嗣, 荒井吉則, 遠藤大輔, 柴田駿, 菊地伊都香, 沼田雄, 稲村高志, 安藤理孝, 小川まい子, 佐藤日向菜, 菅原一朗, 中田達也, 横山寛, 中塚佳奈, 有廣誠二, 穂苅厚史, 猿田雅之	メサラジン製剤不耐症の潰瘍性大腸炎の一例	日本消化器病学会 関東支部第355回例会	東京、日本	2019年7月13日
猿田雅之	IBD診療の最前線	日本大腸肛門病学会 第28回教育セミナー	東京、日本	2019年5月26日
猿田雅之	炎症性腸疾患の診断と治療.	第105回 日本消化器病学会総会	金沢、日本	2019年5月11日
猿田雅之	炎症性腸疾患を診るA to Z～“Anti TNF therapy” to “Zinc supplementation”～	第105回 日本消化器病学会総会	金沢、日本	2019年5月11日
猿田雅之	IBDの新規治療を考える～JAK阻害剤の登場で何が変わるのか?～	第105回 日本消化器病学会総会	金沢、日本	2019年5月10日
松永恭典, 宮崎亮佑, 澤田亮一, 及川恒一, 猿田雅之.	グルテンフリー食にて慢性下痢改善を認めたセリアック病の一例.	日本消化器病学会関東支部第354回例会	東京、日本	2019年4月13日
Watanabe K, Esaki M, Oka S, Shimamoto F, Nishishita M, Fukuchi T, Fujii S, Hirai F, Kakimoto K, Inoue T, Kashida H, Takeuchi K, Ohmiya N, Saruta M, Saito S, Saito Y, Tanaka S, Ajioka Y, Tajiri H	Digital oral presentation; The detection with targeted biopsy and characterisation of neoplastic lesions by magnifying chromoendoscopy and NBI in surveillance colonoscopy of patients with Ulcerative Colitis: A sub-analysis of the Navigator Study	ECCO 2019	Copenhagen, Denmark	2019年3月8日
Ando Y, Sakurai T, Miyashita H, Akita Y, Hachiya M, Maruyama Y, Miyazaki R, Nagata Y, Sawada R, Mitobe J, Mitsunaga M, Yamasaki T, Kato T, Saruta M	Clinical assessment of cases of intestinal Behcet disease treated with anti-TNF- antibody at our hospital.	Falk Symposium 212 IBD and Liver: East Meets West.	Kyoto, Japan	2018年9月8日
Saruta M	[Education Forum: Disease evaluation and updated intervention in IBD] Enroll the decision making with patients	AOCC2018	Shanghai, China	2018年6月22日
Miyazaki R, Sakurai T, Miyashita H, Akita Y, Ando Y, Maruyama Y, Nagata Y, Sawada R, Mitobe J, Mitsunaga M, Yamasaki T, Kato T, Saruta M	Comparison of the cases with or without intestinal perforation in the administration by ustekinumab for Crohn's disease.	AOCC2018	Shanghai, China	2018年6月22日
Shirakabe K, Higashiyama M, Inaba K, Sugihara N, Wada A, Hanawa Y, Horiuchi K, Furuhashi H, Takajo T, Kurihara C, Okada Y, Watanabe C, Komoto S, Tomita K, Saruta M, Hokari R	Blockade of lymphocyte entrance to peyer's patches by inhibition of sphingosine-1-phosphate lyase ameliorates DSS-induced colitis.	DDW2018	Washington, D.C. USA	2018年6月5日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Tanida S, Matsuoka K, Naganuma M, Kitamura K, Matsui T, Arai M, Fujiya M, Horiki N, Nebiki H, Kinjo F, Miyazaki T, Matsumoto T, Esaki M, Mitsuyama K, Saruta M, Ido A, Hojo S, Takenaka O, Oketani K, Imai T, Tsubouchi H, Hibi T, Kanai T	Multiple ascending dose, open-label, phase 1/2 study of E6011, an anti-fractalkine monoclonal antibody, to investigate the safety and clinical response in patients with Crohn's disease.	DDW2018	Washington, D.C. USA	2018年6月4日
Watanabe K, Nishishita M, Shimamoto F, Fukuchi T, Esaki M, Okamoto Y, Maehata Y, Oka S, Fujii S, Hirai F, Matsui T, Kakimoto K, Okada T, Inoue T, Hida N, Nozaki R, Sakurai T, Kashida H, Takeuchi K, Ohmiya N, Saruta M, Saito S, Saito Y, Nakamura S, Tanaka S, Suzuki Y, Ajioka Y, Tajiri H	Relevant factors and significant endoscopic findings for detecting colitis-associated neoplasms using pancolonoscopic narrow band imaging surveillance colonoscopy in patients with ulcerative colitis.: a sub-analysis of the navigator study.	DDW2018	Washington, D.C. USA	2018年6月4日
荒井吉則, 永野智久, 楊 英毅, 時田愛子, 小川まい子, 上田 薫, 遠藤大輔, 菅原一郎, 中田達也, 有廣誠二, 穂効厚史, 蜂谷真未, 猪又寛子, 川原洋輔, 加藤正之, 猿田雅之	小腸カプセル内視鏡検査にて腸閉塞を来した1例	第12回日本カプセル内視鏡学会学術集会	佐賀、日本	2019年2月3日
猿田雅之	潰瘍性大腸炎における治療戦略を再考する	第107回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	東京、日本	2018年12月16日
猿田雅之	炎症性腸疾患における内視鏡検査施行のタイミングと意義	第107回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	東京、日本	2018年12月15日
秋田義博, 櫻井俊之, 宮下春菜, 安藤理孝, 丸山友希, 宮崎亮佑, 永田祐介, 澤田亮一, 三戸部慈実, 山崎琢士, 猿田雅之	大腸狭窄を伴った大腸炎の3例	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都、日本	2018年11月22日
猿田雅之	潰瘍性大腸炎の治療最前線	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都、日本	2018年11月22日
猿田雅之	潰瘍性大腸炎治療のUP TO DATE	JDDW2018 / 第60回日本消化器病学会大会	神戸、日本	2018年11月3日
猿田雅之	IBDのReal World-地域で診るIBD	JDDW2018 / 第60回日本消化器病学会大会	神戸、日本	2018年11月2日
猿田雅之	IBD治療の更なる適正化を目指して	JDDW2018 / 第60回日本消化器病学会大会	神戸、日本	2018年11月1日
内山幹, 大瀧雄一郎, 宮内栄治, 佐藤由美子, 川住雅美, 伊藤鮎美, 荒川廣志, 小井戸薫雄, 猿田雅之, 佐藤信紘, 大草敏史, 大野博司	炎症性腸疾患患者における喫煙による腸内環境の変動	JDDW2018 / 第60回日本消化器病学会大会	神戸、日本	2018年11月1日
猿田雅之	炎症性腸疾患の治療最前線	第33回日本消化器病学会教育講演会	東京、日本	2018年6月24日
猿田雅之	クローン病診療 Update	第106回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	東京、日本	2018年6月17日
宮崎亮佑, 櫻井俊之, 秋田義博, 宮下春菜, 猿田雅之	当院で経験した回盲部潰瘍を認めた57例の検討	第106回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	東京、日本	2018年6月16日
猿田雅之	IBD治療戦略: 抗TNF-抗体時代の恩恵と問題点	第62回日本リウマチ学会総会・学術集会	東京、日本	2018年4月26日
猿田雅之	潰瘍性大腸炎診療新時代; 最新の治療指針を踏まえた治療ストラテジー~ブデソニド注腸フォーム剤の位置づけと適切な使用法~	第104回日本消化器病学会総会	東京、日本	2018年4月21日
宮下春菜, 櫻井俊之, 秋田義博, 蜂谷真未, 丸山友希, 宮崎亮佑, 永田祐介, 筒井佳苗, 澤田亮一, 三戸部慈実, 山崎琢士, 猿田雅之	当院で経験した腸管ペーチェット病に対して抗TNF-製剤を用いた症例の検討	第104回日本消化器病学会総会	東京、日本	2018年4月20日
Hachiya M, Sakurai T, Nagata Y, Hidaka A, Akita Y, Miyashita H, Maruyama Y, Miyazaki R, Noguchi M, Sawada R, Mitobe J, Mitsunaga M, Yamasaki T, Kato T, Saruta M	Clinical assessment of prognosis and the prognostic factors in intestinal Bahcet's disease.	ECCO2018	Vienna, Austria	2018年2月16日
Saruta M	Medical Therapy vs. Surgery for Severe Refractory Ulcerative Colitis in Asia.	AOCC2017	Seoul, Korea	2017年6月17日
Ogawa M, Sawada R, Nishimura T, Ishii A, Tsutsui K, Miyazaki R, Kamba S, Saijo H, Arai Y, Mitobe J, Mitsunaga M, Matsuoka M, Kato T, Saruta M	Small intestine capsule endoscopy for the evaluation of obscure gastrointestinal bleeding in the elderly.	DDW2017	Chicago, USA	2017年5月6日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
秋田義博, 宮下春菜, 蜂谷真未, 丸山友希, 宮崎亮佑, 永田祐介, 澤田亮一, 筒井佳苗, 櫻井俊之, 三戸部慈実, 光永真人, 山崎琢士, 猿田雅之	当院で経験した小腸カプセル排出遅延例の検討	第 11 回カプセル内視鏡学会学術集会	東京、日本	2018年2月11日
猿田雅之	潰瘍性大腸炎のマネジメント～明日から役立つ外来診療の工夫～	第 14 回日本消化管学会総会学術集会	東京、日本	2018年2月10日
猿田雅之	クローン病治療のストラテジーの変換と未来	第 204 回日本消化器病学会東北支部例会 / 第 160 回日本消化器内視鏡学会東北支部例会	仙台、日本	2018年2月2日
渡辺憲治, 西下正和, 嶋本文雄, 福知工, 江崎幹宏, 岡志郎, 藤井茂彦, 平井郁仁, 井上拓也, 樋田信幸, 野崎良一, 櫻井俊治, 竹内健, 猿田雅之, 齋藤 彰一, 齋藤豊, 大宮直木, 味岡洋一, 川野伶緒, 田中信治	IBD 発症における諸問題 潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡における NBI 観察と色素内視鏡観察のランダム化比較試験 Navigator Study	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡、日本	2017年11月10日
猿田雅之	難治性潰瘍性大腸炎の治療戦略 外科治療を考慮した薬物治療	JDDW2017 / 第 94 回日本消化器内視鏡学会総会	福岡、日本	2017年10月14日
筒井佳苗, 石井彩子, 小川まい子, 宮崎亮佑, 西村尚, 野口正朗, 伊藤公博, 澤田亮一, 星野優, 西條広起, 荒井吉則, 中尾裕, 三戸部慈実, 光永真人, 有廣誠二, 松岡美佳, 加藤智弘, 猿田雅之	クローン病の狭窄病変に対する内視鏡的バルーン拡張術後の抗 TNF 製剤投与の検討	JDDW2017 / 第 94 回日本消化器内視鏡学会総会	福岡、日本	2017年10月13日
猿田雅之	炎症性腸疾患の病態とメカニズム～接着分子の役割も含めて～	JDDW2017 / 第 59 回日本消化器病学会大会	福岡、日本	2017年10月12日
猿田雅之	IBD 治療における Shared Decision Making 導入と医療現場での取り組み	JDDW2017 / 第 59 回日本消化器病学会大会	福岡、日本	2017年10月12日
星野優, 橋本尚詞, 有廣誠二, 猿田雅之, 日下部守昭	BALB/cA 由来の間葉系幹細胞(MSCs)は、C57BL 由来 MSCs よりも DSS 誘発性腸炎モデルにおいて抗炎症効果を有する	JDDW2017 / 第 59 回日本消化器病学会大会	福岡、日本	2017年10月12日
齋藤知子, 秋田義博, 丸山友希, 三戸部慈実, 及川恒一, 猿田雅之	顕微鏡的多発血管炎(MPA)の経過中に併発した大腸炎の1例	日本消化器病学会第 346 回関東支部例会	東京、日本	2017年9月30日
宮下竜文, 鈴木静香, 内山幹, 大瀧雄一郎, 沖 沙佑美, 金井友哉, 星野優, 高見信一郎, 伊藤善翔, 齋藤恵介, 松本喜弘, 梶原幹生, 小井戸薫雄, 村上友梨, 松本倫, 毛利貴, 河原秀次郎, 猿田雅之	イレウス管留置に起因した腸重積をイレウス管抜去により整復しえたクローン病の一例	日本消化器病学会第 346 回関東支部例会	東京、日本	2017年9月30日
猿田雅之	いま見直す、クローン病治療ストラテジー ～ブデソニド登場でどう変わるか～	第 54 回日本消化器免疫学会総会	東京、日本	2017年9月29日
猿田雅之	原点から未来へ カプセル内視鏡の将来性	第 93 回日本消化器内視鏡学会総会	大阪、日本	2017年5月11日
猿田雅之	IBD 治療におけるヒュミラの位置づけと役割「クローン病」	第 103 回日本消化器病学会総会	東京、日本	2017年4月20日
Arai N, Kudo T, Kashiwagi K, Ito N, Tokita K, Yoshimura R, Oka I, Kyodo R, Sato M, Miyata E, Hosoi K, Matsumura S, Ikuse T, Jimbo K, Ohtsuka Y, Shimizu T.	The expression of oncogenic molecules in pediatric ulcerative colitis	The 7th Annual meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Taipei, Taiwan	2019.6.15
佐藤真教, 工藤孝広, 時田万英, 吉村良子, 丘逸宏, 新井喜康, 京戸玲子, 宮田恵理, 細井賢二, 幾瀬圭, 神保圭佑, 大塚宣一, 清水俊明	小児炎症性腸疾患患児のトランジションにおける取り組み	第 10 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019.11.29
細井賢二, 柏木項介, 伊藤夏希, 徳島香央里, 時田万英, 丘逸宏, 新井喜康, 佐藤真教, 京戸玲子, 宮田恵理, 箕輪圭, 幾瀬圭, 神保圭佑, 工藤孝広, 大塚宣一, 清水俊明	小児期発症炎症性腸疾患関連膵炎と高アミラーゼ/リパーゼ血症に関する当科 10 年間の検討	第 10 回日本炎症性腸疾患学会	福岡	2019.11.29
佐藤真教, 工藤孝広, 伊藤夏希, 時田万英, 新井喜康, 京戸玲子, 宮田恵理, 細井賢二, 幾瀬圭, 神保圭佑, 大塚宣一, 清水俊明	当科における潰瘍性大腸炎患児へのステロイド療法と外科的治療についての検討	第 46 回小児栄養消化器肝臓学会	奈良	2019.11.2
新井勝大, 石毛崇, 工藤孝広, 岡崎康司, 江口英孝, 神保圭佑, 竹内一朗, 西澤拓哉, 清水俊明	超早期発症型炎症性腸疾患に対するチームレスな診断・治療・研究体制の構築 研究.	第 46 回小児栄養消化器肝臓学会	奈良	2019.11.2

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
京戸玲子, 清水泰岳, 竹内一朗, 平野友梨, 伊藤夏希, 宇佐美雅章, 佐藤琢郎, 清水俊明, 新井勝大.	国立成育医療研究センターにおける小児期発症炎症性腸疾患の診療経験.	第 46 回小児栄養消化器肝臓学会	奈良	2019.11.2
伊藤夏希, 竹内一朗, 京戸玲子, 宇佐美雅章, 佐藤琢郎, 清水泰岳, 平野友梨, 清水俊明, 新井勝大.	潰瘍性大腸炎からクローン病に診断が変更となった症例の検討	第 46 回小児栄養消化器肝臓学会	奈良	2019.11.2
新井喜康, 神保圭佑, 工藤孝広, 伊藤夏希, 時田万英, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 細井賢二, 幾瀬圭, 大塚宜一, 小坂征太郎, 矢崎悠太, 越智崇徳, 山高篤行, 竹内一朗, 清水泰岳, 新井勝大, 吉村聡, 加藤元博, 清水俊明.	IL-10 受容体異常による超早期発症型炎症性腸疾患	第 10 回関東甲越免疫不全症研究会	東京	2019.9.29
佐藤真教, 工藤孝広, 伊藤夏希, 時田万英, 吉村良子, 丘逸宏, 新井喜康, 京戸玲子, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 幾瀬圭, 神保圭佑, 大塚宜一, 清水俊明	小児潰瘍性大腸炎の重症度における経年的変化の検討	第 167 回お茶の水木曜勉強会	東京	2019.5.9
佐藤真教, 工藤孝広, 時田万英, 吉村良子, 丘逸宏, 新井喜康, 京戸玲子, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 大林奈穂, 幾瀬圭, 神保圭佑, 青柳陽, 大塚宜一, 清水俊明.	小児の炎症性腸疾患患者におけるトランジションの検討.	第 122 回日本小児科学会学会集會	石川	2019.4.21
佐藤真教, 神保圭佑, 伊藤夏希, 時田万英, 新井喜康, 吉村良子, 京戸玲子, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 幾瀬圭, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明	大腸内視鏡検査による病型分類に基づいた潰瘍性大腸炎の病型進行に関する検討	第 122 回日本小児科学会学会集會	石川	2019.4.20
新井喜康, 神保圭佑, 伊藤夏希, 時田万英, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 細井賢二, 工藤孝広, 大塚宜一, 小坂征太郎, 矢崎悠太, 越智崇徳, 山高篤行, 竹内一朗, 清水泰岳, 新井勝大, 吉村聡, 加藤元博, 清水俊明.	IL-10 受容体異常による超早期発症型炎症性腸疾患と診断した 1 乳児例	第 122 回日本小児科学会学会集會	石川	2019.4.20
細井賢二, 新井勝大, 清水泰岳, 宮入烈, 亀井宏一, 伊藤秀一, 藤原武男, 清水俊明.	小児炎症性腸疾患患者における B 型肝炎ワクチン接種の効果と安全性.	第 122 回日本小児科学会学会集會	石川	2019.4.20
Oka I, Miyazaki O, Takeuchi I, Shimizu H, Shimizu T, Arai K.	MR-enterography with diffusion weighted imaging and apparent diffusion coefficient map for detecting and assessing inflammatory bowel disease in children and adolescents.	Advances in Inflammatory Bowel Diseases	Orlando, Florida, USA.	2018.12.15
Sato M, Kudo T, Ito N, Tokita K, Yoshimura R, Oka I, Arai N, Kyodo R, Miyata E, Hosoi K, Matsumura S, Ikuse T, Jimbo K, Ohtsuka Y, Shimizu T.	The transition of pediatric inflammatory bowel disease.	The 14th Asian Pan - Pacific Society of Pediatric Gastroenterology, Hepatology and Nutrition Meeting	Bangkok, Thailand.	2018.10.24
Tokita K, Shimizu H, Takeuchi I, Shimizu T, Arai K.	Experience using golimumab for childhood onset ulcerative colitis.	The 6th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis.	Shanghai, China.	2018.6.23
新井喜康, 工藤孝広, 伊藤夏希, 時田万英, 吉村良子, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 大林奈穂, 幾瀬圭, 神保圭佑, 大塚宜一, 清水俊明.	分類不能型炎症性腸疾患の 1 幼児例.	第 3 回 Pediatric IBD Case Conference (PIBD-CC)	東京	2018.12.1
工藤孝広, 虻川大樹, 中山佳子, 世川修, 内田恵一, 清水俊明.	小児消化器内視鏡全国調査 実施現状と偶発症.	第 7 回日本小児診療多職種研究会.	北九州	2018.11.24
佐藤真教, 神保圭佑, 伊藤夏希, 時田万英, 新井喜康, 京戸玲子, 宮田恵理, 細井賢二, 幾瀬圭, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明.	小児期発症の潰瘍性大腸炎における病型進行に関する検討.	第 9 回日本炎症性腸疾患学会学会集會	京都	2018.11.22
時田万英, 清水泰岳, 竹内一朗, 清水俊明, 新井勝大.	成育医療研究センターにおける小児期発症潰瘍性大腸炎に対するゴリムマブの使用経験.	第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会	大宮	2018.10.7

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
佐藤真教, 神保圭佑, 伊藤夏希, 時田万英, 新井喜康, 京戸玲子, 宮田恵理, 細井賢二, 幾瀬圭, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明.	当科における大腸内視鏡検査による病型分類に基づいた潰瘍性大腸炎の病型進行に関する検討.	第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会	大宮	2018.10.7
丘逸宏, 竹内一朗, 清水泰岳, 清水俊明, 新井勝大.	小児 IBD 患者における MR enterography の実施経験.	第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会	大宮	2018.10.7
細井賢二, 新井勝大, 清水泰岳, 宮入烈, 亀井宏一, 伊藤秀一, 藤原武男, 清水俊明.	小児炎症性腸疾患患者における B 型肝炎ワクチン接種の効果・安全性と免疫学的評価.	z x	大宮	2018.10.7
新井喜康, 神保圭佑, 伊藤夏希, 時田万英, 吉村良子, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 幾瀬圭, 竹内一朗, 清水泰岳, 小坂征太郎, 矢崎悠太, 越智崇徳, 工藤孝広, 新井勝大, 大塚宜一, 山高篤行, 清水俊明.	IL-10 受容体異常症と診断した超早期発症型炎症性腸疾患の 1 乳児例.	第 45 回日本小児内視鏡研究会	東京	2018.7.7
佐藤真教, 工藤孝広, 伊藤夏希, 時田万英, 吉村良子, 丘逸宏, 新井喜康, 京戸玲子, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 幾瀬圭, 神保圭佑, 大塚宜一, 清水俊明.	当科における潰瘍性大腸炎の重症度の経年的変化についての検討.	第 45 回日本小児内視鏡研究会	東京	2018.7.7
Arai N, Kudo T, Aoyagi Y, Tokita K, Yoshimura R, Oka I, Kyodo R, Sato M, Miyata E, Hosoi K, Matsumura S, Obayashi N, Ikuse T, Jimbo K, Ohtsuka Y, Shimizu T.	Effectiveness of biological agents for the treatment of pediatric Crohn's disease with anal fistula.	The Taiwan-Japan-Korea Joint Meeting & 2017 Annual Meeting of Taiwan Society of Pediatric Gastroenterology, Hepatology, and Nutrition,	Taipei, Taiwan.	2017.12.2
Oka I, Funayama R, Takeuchi I, Shimizu H, Shimizu T, Arai K.	Predictors of small intestine transit time of video capsule endoscopy in children and adolescents with inflammatory bowel disease.	The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis,	Seoul, Korea.	2017.6.17
Arai N, Kudo T, Aoyagi Y, Tokita K, Yoshimura R, Oka I, Kyodo R, Sato M, Miyata E, Hosoi K, Matsumura S, Obayashi N, Ikuse T, Jimbo K, Ohtsuka Y, Shimizu T.	Fifteen cases of pediatric Crohn's disease with anal fistula in single center in Japan.	The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis,	Seoul, Korea.	2017.6.16
Hosoi K, Kudo T, Tokita K, Oka I, Yoshimura R, Arai N, Sato M, Kyodo R, Miyata E, Matsumura S, Obayashi N, Jimbo K, Ikuse T, Aoyagi Y, Ohtsuka Y, Shimizu T.	Characteristics of very early onset inflammatory bowel disease at a single center in Japan.	The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis,	Seoul, Korea.	2017.6.15
佐藤真教, 工藤孝広, 時田万英, 吉村良子, 丘逸宏, 新井喜康, 京戸玲子, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 大林奈穂, 幾瀬圭, 神保圭佑, 青柳陽, 大塚宜一, 清水俊明.	当科の小児炎症性腸疾患患児におけるトランジションの検討.	第 14 回日本消化管学会総会学術集会.	東京	2018.2.9
時田万英, 清水泰岳, 竹内一朗, 清水俊明, 新井勝大.	小児期発症潰瘍性大腸炎に対するゴリムマブの使用経験.	第 18 回日本小児 IBD 研究会	東京	2018.2.4
佐藤真教, 工藤孝広, 青柳陽, 時田万英, 丘逸宏, 新井喜康, 京戸玲子, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 大林奈穂, 幾瀬圭, 神保圭佑, 大塚宜一, 清水俊明.	難治性 IBD-U の 1 例.	第 2 回 Pediatric IBD Case Conference .	東京	2017.12.16
細井賢二, 工藤孝広, 新井勝大, 清水泰岳, 大塚宜一, 内田恵一, 田尻仁, 鈴木康夫, 清水俊明.	本邦における超早期発症型炎症性腸疾患の疫学的全国調査.	第 8 回日本炎症性腸疾患学会学術集会.	東京	2017.12.1
新井喜康, 工藤孝広, 青柳陽, 時田万英, 吉村良子, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 大林奈穂, 幾瀬圭, 神保圭佑, 大塚宜一, 清水俊明.	当科における痔瘻を合併した小児 Crohn 病症例のまとめ.	第 44 回日本小児栄養消化器肝臓学会.	福岡	2017.10.22
細井賢二, 工藤孝広, 時田万英, 新井喜康, 佐藤真教, 京戸玲子, 宮田恵理, 神保圭佑, 幾瀬圭, 青柳陽, 大塚宜一, 清水俊明.	当院における very-early-onset IBD 患者 10 例の検討.	第 44 回日本小児栄養消化器肝臓学会	福岡	2017.10.22

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
佐藤真教, 工藤孝広, 青柳陽, 時田万英, 丘逸宏, 新井喜康, 京戸玲子, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 大林奈穂, 幾瀬圭, 神保圭佑, 大塚宜一, 清水俊明.	潰瘍性大腸炎を疑う経過を示した若年性ポリープ、血管腫、直腸癌の3例.	第44回日本小児栄養消化器肝臓学会.	福岡	2017.10.21
吉村良子, 時田万英, 新井喜康, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 大林奈穂, 幾瀬圭, 神保圭佑, 細澤麻里子, 青柳陽, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明.	潰瘍性大腸炎の治療経過中に著明な体重減少をきたし神経性食欲不振症と診断した1例.	第44回日本小児栄養消化器肝臓学会.	福岡	2017.10.21
佐藤真教, 工藤孝広, 青柳陽, 時田万英, 丘逸宏, 新井喜康, 京戸玲子, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 大林奈穂, 幾瀬圭, 神保圭佑, 大塚宜一, 清水俊明.	当科で経験した痔瘻合併小児 Crohn 病のまとめ.	第156回お茶の水木曜勉強会	東京	2017.5.11
A.Sugita, K.Koganei, R.Futatsuki, H.Kuroki, H.Kimura, T.Fukushima	Dose the Postoperative Inflammation in J Pouch and Anal Canal Need Treatment in Ulcerative Colitis Patients with Pouch Surgery? Historical Examination and New Treatment with Budesonide Foam Pouchitis	ASCRS 2019	Cleveland, Ohio	2019年6月4日
H.Kimura, R.Kunisaki, K.Tatsumi, K.Koganei, A.Sugita, I.Endo	One Stage Restorative Proctocolectomy with a Stapled Ileal Pouch-anal Anastomosis Using Hand-assisted Laparoscopic Surgery (HALS) and Laparoscope-assisted Open Surgery (LAOS) Procedure for Ulcerative colitis	ASCRS 2019	Cleveland, Ohio	2019年6月3日
K.Tatsumi, A.Sugita, K.Koganei, R.Futatsuki, H.Kuroki, H.Kimura, T.Fukushima	Short and Long-term Outcomes of One-stage Stapled Ileal Pouch Anal Anasomosis for Ulcerative colitis	ASCRS 2019	Cleveland, Ohio	2019年6月3日
岩見穂衣, 小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 黒木博介, 中尾詠一, 杉田昭	中毒症状を伴わない巨大結腸癌を合併した重症潰瘍性大腸炎の一例	日本消化器病学会関東支部第357回例会	東京	2019年12月7日
小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 黒木博介, 中尾詠一, 杉田昭	クローン病に合併した結腸癌の臨床学的特徴と予後	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
中尾詠一, 小金井一隆, 黒木博介, 二木了, 辰巳健志, 杉田昭	直腸腫瘍を合併した潰瘍性大腸炎症例の治療と臨床経過の検討	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
二木了, 小金井一隆, 辰巳健志, 黒木博介, 中尾詠一, 荒井勝彦, 杉田昭, 福島恒男	肛門内圧検査と排便機能からみた70歳以上の潰瘍性大腸炎に対する大腸全摘・回腸囊肛門管吻合術の妥当性	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
黒木博介, 小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 中尾詠一, 杉田昭	大腸全摘29年後に回腸囊内に迷入した腸上皮に由来する癌を発症した潰瘍性大腸炎の1例	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
中尾詠一, 小金井一隆, 黒木博介, 二木了, 辰巳健志, 杉田昭	術前診断が可能であったクローン病合併小腸癌の2例	JDDW2019	神戸	2019年11月23日
木村英明, 千田圭悟, 国崎玲子, 辰巳健志, 小金井一隆, 杉田昭, 遠藤格	回腸囊肛門管吻合術の大腸粘膜残存に対する Body mass index の影響	JDDW2019	神戸	2019年11月23日
二木了, 小金井一隆, 辰巳健志, 黒木博介, 中尾詠一, 荒井勝彦, 杉田昭, 福島恒男	高齢者潰瘍性大腸炎手術症例における手術時期の検討	JDDW2019	神戸	2019年11月23日
黒木博介, 小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 中尾詠一, 荒井勝彦, 杉田昭	腸管ペーチェット病と単純性潰瘍に対する手術例の臨床経過	JDDW2019	神戸	2019年11月22日
小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 黒木博介, 中尾詠一, 木村英明, 杉田昭	小腸大腸癌を合併したクローン病症例の臨床学的特徴と経過	JDDW2019	神戸	2019年11月21日
辰巳健志, 杉田昭, 小金井一隆	潰瘍性大腸炎に対する手術治療の現状からみた治療方針 重症例について	JDDW2019	神戸	2019年11月21日
小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 黒木博介, 中尾詠一, 木村英明, 杉田昭	クローン病の難治性直腸肛門病変に対する直腸切断術施行例の長期経過	第74回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2019年10月12日
辰巳健志, 杉田昭, 小金井一隆, 二木了, 黒木博介, 中尾詠一, 木村英明, 荒井勝彦, 福島恒男	潰瘍性大腸炎合併癌に対する至適術式の検討	第74回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2019年10月12日
杉田昭, 小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 黒木博介, 荒井勝彦, 中尾詠一, 木村英明, 福島恒男	Crohn 病に合併した直腸肛門管癌の臨床的特徴と治療経過からみた治療法の検討	第74回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2019年10月12日
黒木博介, 小金井一隆, 辰巳健志, 二木了, 中尾詠一, 荒井勝彦, 杉田昭	高齢者クローン病の手術例からみた臨床経過と治療成績	第74回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2019年10月11日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
二木了、小金井一隆、辰巳健志、黒木博介、中尾詠一、荒井勝彦、杉田昭、福島恒男	高齢者潰瘍性大腸炎手術症例における手術時期の検討	第74回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2019年10月11日
立入仁美、小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、中尾詠一、杉田昭	腸管型ペーチェット病の穿孔に対する手術後出血をきたした一例	日本消化器病学会関東支部第356回例会	東京	2019年9月21日
黒木博介、小金井一隆、辰巳健志、二木了、荒井勝彦、杉田昭	クローン病の直腸切断術後の会陰創に対する陰圧閉鎖療法の有用性と問題点	第74回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月19日
小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、木村英明、杉田昭	就労、就学期の潰瘍性大腸炎難治例に対する外科治療至適選択時期と術式	第74回日本消化器外科学会総会		2019年7月18日
木村英明、千田圭吾、橋本悠、池田礼、小柏剛、国崎玲子、辰巳健志、小金井一隆、杉田昭、遠藤格	Crohn病の吻合法に求められるものは何か？	第74回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月18日
辰巳健志、杉田昭、小金井一隆、二木了、黒木博介、木村英明、荒井勝彦、福島恒男	小児潰瘍性大腸炎手術例の術後長期経過の検討	第74回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月17日
二木了、小金井一隆、辰巳健志、黒木博介、荒井勝彦、杉田昭、福島恒男	70歳以上の潰瘍性大腸炎に対する大腸全摘・回腸囊肛門管吻合術手術例の排便機能についての検討	第74回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月17日
杉田昭、小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、荒井勝彦、木村英明、福島恒男	潰瘍性大腸炎に対する小開腹による一期的J型回腸囊肛門管吻合術の手術手技	第74回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月17日
二木了、小金井一隆、辰巳健志、黒木博介、荒井勝彦、杉田昭、福島恒男	高齢者潰瘍性大腸炎手術症例における術後肺合併症	第105回日本消化器病学会総会	金沢	2019年5月11日
黒木博介、小金井一隆、辰巳健志、二木了、荒井勝彦、杉田昭	残存小腸長100cm以下のクローン病の特徴と予後	第105回日本消化器病学会総会	金沢	2019年5月11日
辰巳健志、杉田昭、小金井一隆、二木了、黒木博介、木村英明、荒井勝彦、福島恒男	潰瘍性大腸炎合併 dysplasia の術前診断の問題点	第105回日本消化器病学会総会	金沢	2019年5月11日
杉田昭、小金井一隆、辰巳健志	Crohn病に対する抗TNF製剤の効果と治療例の予後	第105回日本消化器病学会総会	金沢	2019年5月11日
小金井一隆、辰巳健志、杉田昭	潰瘍性大腸炎難治に対する手術例への術前内科治療の影響と外科治療の効果	第105回日本消化器病学会総会	金沢	2019年5月11日
杉田昭、小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、木村英明、福島恒男	潰瘍性大腸炎に対する外科治療の成績と方向性	第119回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019年4月20日
辰巳健志、杉田昭、小金井一隆、二木了、黒木博介、木村英明、荒井勝彦、福島恒男	潰瘍性大腸炎に対する Pouch 手術後の発癌症例の検討	第119回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019年4月20日
木村英明、田村裕子、三井智広、橋本悠、池田礼、小柏剛、国崎玲子、辰巳健志、小金井一隆、杉田昭、遠藤格	生物学的製剤時代におけるクローン病腸管病変手術の長期予後	第119回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019年4月20日
小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、杉田昭	クローン病に合併した小腸大腸癌症例の臨床学的特徴と予後	第119回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019年4月18日
黒木博介、小金井一隆、辰巳健志、二木了、杉田昭	クローン病に合併した消化管膀胱瘻に対する手術と長期経過に関する検討	第119回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019年4月18日
二木了、小金井一隆、辰巳健志、黒木博介、木村英明、荒井勝彦、杉田昭、福島恒男	潰瘍性大腸炎術後70歳以上の排便機能についての検討	第119回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019年4月18日
小峰佑奈、小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、杉田昭、林宏行、横山薫	発症後短期間で早期小腸癌を合併したクローン病の1例	日本消化器病学会 関東支部第354回例会	東京	2019年4月13日
中尾詠一、小金井一隆、黒木博介、二木了、辰巳健志、杉田昭	80歳代で手術を施行したクローン病の1例	日本消化器病学会 関東支部第354回例会	東京	2019年4月13日
Akira.Sugita,Kazutaka.Koganei,Kenji.Tatsumi, Ryo.Futatsuki, Hirotsuke.Kuroki, Hideaki.Kimura, Tsuneo.Fukushima	Is it Possible to Predict Postoperative Recurrence in the Anastomotic Site After Initial Intestinal Resection With Crohn's Disease?	ASCRS 2018	Nashville	2018年5月21日
Hideaki.Kimura,Reiko.Kunisaki,Kenji.Tatsumi, Kazutaka.Koganei Akira.Sugita, Itaru.Endo	High Body Mass Index as a Risk Factor for a Large Amount of Retained Rectal Mucosa After Stapled Ileal Pouch-Anal Anastomosis for Ulcerative colitis	ASCRS 2018	Nashville	2018年5月21日
松島小百合、小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、杉田昭	潰瘍性大腸炎の診断で加療中に腸閉塞を合併し、術後にクローン病合併 colitic cancer と判明した1例	日本消化器病学会 関東支部第352回例会	東京	2018年12月1日
黒木博介、小金井一隆、辰巳健志、二木了、荒井勝彦、杉田昭	クローン病出血例の臨床経過と特徴	第80回日本臨床外科学会総会	東京	2018年11月22日
木村英明、田村裕子、三井智広、橋本悠、池田礼、小柏剛、国崎玲子、辰巳健志、小金井一隆、杉田昭、遠藤格	重症潰瘍性大腸炎治療における内科と外科の連携	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2018年11月9日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
二木了、小金井一隆、辰巳健志、黒木博介、荒井勝彦、杉田昭、福島恒男	高齢者潰瘍性大腸炎手術例における術後合併症からみた手術のタイミング	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2018年11月9日
杉田昭、小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、荒井勝彦、福島恒男	潰瘍性大腸炎術後回腸嚢炎に対するブデソニド注腸フォーム剤の有用性の検討	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2018年11月9日
小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、荒井勝彦、木村英明、杉田昭	クローン病の直腸肛門病変に対する直腸切断術の術後成績の現状と課題	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2018年11月9日
辰巳健志、杉田昭、小金井一隆、二木了、黒木博介、小原尚、木村英明、荒井勝彦、福島恒男	潰瘍性大腸炎に対する一期的大腸全摘回腸嚢肛門管吻合術の治療成績	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2018年11月9日
黒木博介、小金井一隆、辰巳健志、二木了、荒井勝彦、杉田昭	腸管ペーチェット病と単純性潰瘍の手術例の特徴と経過	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2018年11月9日
小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、木村英明、杉田昭	潰瘍性大腸炎難治例に対する外科治療の有用性	JDDW2018	神戸	2018年11月3日
松島小百合、小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、小原尚、杉田昭、福島恒男	潰瘍性大腸炎に対する大腸全摘・回腸嚢肛門管吻合術後の腸閉塞に回腸嚢固定術を施行した症例の臨床経過	JDDW2018	神戸	2018年11月3日
辰巳健志、杉田昭、小金井一隆	潰瘍性大腸炎合併大腸癌の術前診断の現状と問題点	JDDW2018	神戸	2018年11月2日
黒木博介、小金井一隆、辰巳健志、二木了、松島小百合、荒井勝彦、杉田昭	潰瘍性大腸炎穿孔による手術例の検討	JDDW2018	神戸	2018年11月1日
Akira Sugita, kazutaka Koganei, Kenji Tatsumi	Anorectal cancer with Crohn's disease including cancer of anal fistula and the cancer surveillance program in Japan	JDDW2018	神戸	2018年11月1日
加藤諒、小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、林宏行、杉田昭	発症後短期間で進行直腸癌を合併した潰瘍性大腸炎の1例	日本消化器病学会関東支部第351回例会	東京	2018年9月22日
小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、木村英明、杉田昭	クローン病の難治性直腸肛門病変に対する直腸切断術のタイミング	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月12日
杉田昭、小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、荒井勝彦、小原尚、木村英明、福島恒男	潰瘍性大腸炎に対する回腸嚢肛門管吻合術後内視鏡検査による回腸嚢、肛門管の病理所見と癌サーベイランス	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月12日
木村英明、高橋直行、国崎玲子、辰巳健志、小金井一隆、杉田昭、遠藤格	Body mass index 高値は回腸嚢肛門管吻合術における残存大腸粘膜増加の危険因子である	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月12日
辰巳健志、杉田昭、小金井一隆、二木了、黒木博介、小原尚、木村英明、荒井勝彦、福島恒男	大腸癌合併潰瘍性大腸炎手術例における肛門管の癌・dysplasia 発生率のリスク因子	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月11日
二木了、小金井一隆、辰巳健志、黒木博介、小原尚、木村英明、荒井勝彦、杉田昭、福島恒男	潰瘍性大腸炎術後回腸嚢炎合併症例の臨床経過と問題点	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月11日
黒木博介、小金井一隆、辰巳健志、二木了、小原尚、松島小百合、荒井勝彦、福島恒男、杉田昭	クローン病の難治性直腸肛門病変に対する直腸空置症例の経過と問題点	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月11日
松島小百合、小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、小原尚、杉田昭	クローン病術後症例の妊娠・出産の現状と留意点	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月11日
小金井一隆、辰巳健志、杉田昭	手術例からみた抗 TNF- 抗体製剤治療を行ったクローン病症例の問題点と対策	第104回日本消化器病学会総会	東京	2018年4月21日
辰巳健志、杉田昭、小金井一隆、二木了、黒木博介、小原尚、木村英明、荒井勝彦、福島恒男	浸潤型の肉眼分類を有した大腸癌合併潰瘍性大腸炎の特徴	第104回日本消化器病学会総会	東京	2018年4月19日
二木了、小金井一隆、辰巳健志、黒木博介、荒井勝彦、小原尚、杉田昭、福島恒男	高齢者潰瘍性大腸炎手術症例における術後肺合併症の検討	第104回日本消化器病学会総会	東京	2018年4月19日
黒木博介、小金井一隆、辰巳健志、二木了、小原尚、荒井勝彦、福島恒男、杉田昭	Intestinal failure を合併した残存小腸長 150cm 以下のクローン病の特徴と経過	第104回日本消化器病学会総会	東京	2018年4月19日
辰巳健志、杉田昭、小金井一隆、二木了、黒木博介、小原尚、木村英明、荒井勝彦、福島恒男	大腸癌合併潰瘍性大腸炎手術例の肛門管粘膜除去部における癌・dysplasia 発生率	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月7日
黒木博介、小金井一隆、辰巳健志、二木了、小原尚、荒井勝彦、福島恒男、杉田昭	潰瘍性大腸炎術後回腸嚢不全の長期経過の検討	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月7日
二木了、小金井一隆、辰巳健志、黒木博介、荒井勝彦、小原尚、杉田昭、福島恒男	50歳以上で大腸全摘・回腸嚢肛門管吻合術が行われた症例の術後排便機能についての検討	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月6日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
木村英明、高橋弘毅、橋本悠、西尾匡史、大竹はるか、小柏剛、国崎玲子、辰巳健志、小金井一隆、杉田昭、遠藤格	クローン病腸管病変手術の現況と展望	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月5日
小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、二木了、杉田昭	潰瘍性大腸炎に対する外科治療の現況	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月5日
杉田昭、小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、荒井勝彦、小原尚、木村英明、福島恒男	Crohn 病初回腸管切除後症例の術後再発による再手術例の病態に関する検討	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月5日
Sugita A	State-of-the-Art Treatment of Large Bowel Neoplasia Complicating IBD	ASCRS 2017	Seattle	2017年6月12日
杉田昭、小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、小原尚、荒井勝彦、木村英明、福島恒男	Crohn 病に合併した直腸肛門癌の予後と癌サーベイランス法の有用性の検討	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月12日
杉田昭、山田恭子、小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、荒井勝彦、小原尚、福島恒男	潰瘍性大腸炎に対する回腸囊手術後回腸囊粘膜の形態と難治性潰瘍性大腸炎に対する治療法の検討	JDDW2017	福岡	2017年10月13日
杉田昭、小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、山田恭子、小菅経子、荒井勝彦、木村英明、福島恒男	潰瘍性大腸炎に対する小開腹による一期的J型回腸囊肛門吻合術の工夫	第72回日本消化器外科学会総会	金沢	2017年7月20日
杉田昭、小金井一隆、辰巳健志、二木了、黒木博介、山田恭子、小菅経子、荒井勝彦、小原尚、木村英明、福島恒男	Crohn 病に対する狭窄形成術の術後再発の検討	第117回日本外科学会定期学術集会	横浜	2017年4月27日
Nakase H	Can TDM guide us to de-escalate?	The 7th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Taipei	2019年6月14-16日
仲瀬裕志	炎症と鉄代謝 - IBD 領域における新規鉄欠乏性貧血治療剤の位置づけ	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
仲瀬裕志	IBD 病態における JAK pathway の重要性	第61回日本消化器病学会大会	神戸	2019年11月23日
仲瀬裕志	Role of biosimilars in IBD : What you need to know now	第61回日本消化器病学会大会	神戸	2019年11月21日
横山佳浩、飯田智哉、風間友江、平山大輔、我妻康平、山野泰穂、仲瀬裕志	回腸末端炎による狭窄に対して内視鏡的バルーン拡張術を施行した MEFV 遺伝子関連腸炎の1例	第57回日本小腸学会学術集会	大阪	2019年11月9日
具 潤亜、星 奈美子、大井 充、竹中春香、徳永英里、宮崎はるか、明本由衣、櫻庭裕文、飯田智哉、仲瀬裕志、児玉裕三	クローン病との鑑別を要した家族性地中海熱の1例	第57回日本小腸学会学術集会	大阪	2019年11月9日
仲瀬裕志	日本における今後の IBD 診療への取り組み方について 病診連携の重要性	第7回十勝地区 IBD 研究会	帯広	2019年10月23日
横山佳浩、飯田智哉、風間友江、平山大輔、我妻康平、山野泰穂、仲瀬裕志	回腸末端炎を呈しクローン病との鑑別を要した MEFV 遺伝子関連腸炎の1例	第47回日本臨床免疫学会総会	札幌	2019年10月17-19日
仲瀬裕志	炎症性腸疾患鑑別診断としての家族性地中海熱遺伝子関連腸炎	第47回日本臨床免疫学会総会	札幌	2019年10月17-19日
仲瀬裕志	免疫学的観点から炎症性腸疾患治療を考える	第47回日本臨床免疫学会総会	札幌	2019年10月17-19日
大和田紗恵、山下健太郎、秋田浩太郎、一柳亜貴子、横山佳浩、風間友江、三橋 慧、仲地耕平、能正勝彦、山野泰穂、仲瀬裕志	ステロイド抵抗性 Cronkhite-Canada 症候群の2例	第125回日本消化器病学会北海道支部例会	札幌	2019年9月7-8日
金高弘典、有村佳昭、三浦克予志、井上 亮、沼田泰尚、佐々木 基、大橋広和、矢花 崇、近藤吉宏、飯田智哉、仲瀬裕志	NUDT15 リスクアレルホモ接合体の臨床経過	第125回日本消化器病学会北海道支部例会	札幌	2019年9月7-8日
齋藤大祐、日比則孝、尾崎 良、菊地翁輝、佐藤太龍、徳永創太郎、箕輪慎太郎、池崎修、三井達也、三浦みき、櫻庭彰人、林田真理、仲瀬裕志、久松理一	コルヒチンが有効な MEFV 遺伝子関連腸炎が IBDU に紛れている	第56回日本消化器免疫学会総会	京都	2019年8月1-2日
伊藤貴博、前本篤男、桂田武彦、田中浩紀、本谷 聡、上野伸展、藤谷幹浩、蘆田知史、仲瀬裕志	クローン病に対するウステキヌマブの有効性と安全性 ~ Phoenix Retrospective Cohort Study in Hokkaido ~	第56回日本消化器免疫学会総会	京都	2019年8月1-2日
我妻康平、飯田智哉、南 尚希、松浦 稔、平山大輔、川上賢太郎、野島正寛、池内浩基、廣田誠一、白川龍太郎、堀内久徳、仲瀬裕志	低分子量 GTP 蛋白質 Ral とインフラマソームとの関連から見た炎症性大腸炎癌機序の解明	第56回日本消化器免疫学会総会	京都	2019年8月1-2日
仲瀬裕志	粘膜治癒達成へのチャレンジ ~ 課題と治療戦略 ~ . 潰瘍性大腸炎診療におけるモニタリングの最適化	第97回日本消化器内視鏡学会総会	東京	2019年6月2日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
仲瀬裕志	The involvement of cytomegalovirus in the pathophysiology of inflammatory bowel disease	第 105 回日本消化器病学会総会	金沢	2019 年 5 月 9-11 日
Iida T, Nojima M, Nakase H	Therapeutic efficacy and adverse events of tacrolimus in patients with Crohn's disease: systematic review and meta-analysis	The Asian Pacific Association of Gastroenterology	Cebu City	2018 年 9 月 7-8 日
Iida T, Nojima M, Nakase H	Therapeutic efficacy and adverse events of tacrolimus in patients with Crohn's disease: a systematic review and meta-analysis	Digestive Disease Week2018	Washington	2018 年 6 月 2-5 日
仲瀬裕志	Novel therapies targeting several immune pathways for ulcerative colitis	第 118 回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会	札幌	2019 年 3 月 2-3 日
柴田泰洋, 山下健太郎, 上野あかり, 齋藤潤信, 守谷 洋, 風間友江, 須藤豪太, 三橋 慧, 能正勝彦, 山野泰穂, 菊地剛史, 遠藤高夫, 仲瀬裕志	当初潰瘍性大腸炎と診断された家族性地中海熱の一例	第 124 回日本消化器病学会北海道支部例会	札幌	2019 年 3 月 2-3 日
上野あかり, 山下健太郎, 仲瀬裕志, 山野泰穂, 三橋 慧, 須藤豪太, 五十嵐央祥, 風間友江, 柴田泰洋	Infliximab 投与中に血管炎を併発したクローン病の一例	第 124 回日本消化器病学会北海道支部例会	札幌	2019 年 3 月 2-3 日
三浦克予志, 飯田智哉, 有村佳昭, 沼田泰尚, 矢花 崇, 安達雄哉, 近藤吉宏, 笠井 潔, 仲瀬裕志	サイトメガロウイルス腸炎及び門脈血栓症を合併した高齢発症の潰瘍性大腸炎の 1 例	第 285 回日本内科学会北海道地方会	札幌	2019 年 2 月 16 日
仲瀬裕志	炎症性腸疾患治療 過去・現在・そして未来	第 15 回日本消化管学会総会学術集会	佐賀	2019 年 2 月 1-3 日
平山大輔, 飯田智哉, 一色裕之, 矢和田 敦, 大久保陽介, 菅野伸一, 米澤和彦, 仲瀬裕志	クローン病に対するウステキヌマブの治療効果と安全性の検討	第 15 回日本消化管学会総会学術集会	佐賀	2019 年 2 月 1-3 日
飯田智哉, 川上賢太郎, 仲瀬裕志	炎症性大腸発癌の深部浸潤機序における低分子量 GTP 蛋白質 Ral の機能解析	第 15 回日本消化管学会総会学術集会	佐賀	2019 年 2 月 1-3 日
飯田智哉, 野島正寛, 仲瀬裕志	クローン病患者に対するタクロリムス治療の有効性と安全性: メタアナリシスによる検討	第 9 回日本炎症性腸疾患学会	京都	2018 年 11 月 22 日
仲瀬裕志	炎症性腸疾患領域における生物学的製剤の位置付け	第 46 回日本臨床免疫学会総会	軽井沢	2018 年 11 月 8-10 日
仲瀬裕志, Peter B, Raf B	潰瘍性大腸炎新規内視鏡粘膜評価法を目指した Real-time automated calculating system の開発	第 60 回日本消化器病学会大会	神戸	2018 年 11 月 1-4 日
仲瀬裕志	炎症性腸疾患の診断補助と潰瘍性大腸炎疾患活動性モニタリングにおける上手な使い方	第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会	埼玉	2018 年 10 月 7 日
飯田智哉, 平山大輔, 我妻康平, 川上賢太郎, 仲瀬裕志	低分子量 GTP 蛋白質 Ral とインフラマソームとの関連から見た炎症性大腸発癌機序の解明	第 118 回北海道癌談話会例会	旭川	2018 年 10 月 6 日
仲瀬裕志	炎症性腸疾患に合併する肺病変の発症機序 免疫学的観点からのアプローチ	第 58 回日本呼吸器学会学術講演会	大阪	2018 年 4 月 29 日
Iida T, Minami N, Kawakami K, Ikeuchi H, Hirota S, Shirakawa R, Horiuchi H, Nakase H	Role of small GTPase Ral in the mechanism of colitis-associated cancer	The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Korea	2017 年 6 月 15-17 日
仲瀬裕志	潰瘍性大腸炎の最適治療を模索するブデソニド注腸フォーム剤の可能性を含めて	第 14 回日本消化管学会総会	東京	2018 年 2 月 9-10 日
飯田智哉, 仲瀬裕志	Introduction of Basic Research on Ulcerative Colitis at Advances in Inflammatory Bowel Disease 2016	第 8 回日本炎症性腸疾患学会	東京	2017 年 12 月 1-2 日
仲瀬裕志	MOA からみたクローン病の生物学的製剤の特徴	第 59 回日本消化器病学会大会	福岡	2017 年 10 月 12-15 日
飯田智哉, 南 尚希, 仲瀬裕志	炎症性大腸発癌の機序における低分子量 GTP 蛋白質 Ral の機能解析	第 59 回日本消化器病学会大会	福岡	2017 年 10 月 12-15 日
平山大輔, 飯田智哉, 風間友江, 白田智洋, 小野寺 馨, 久保俊之, 山下健太郎, 山野泰穂, 仲瀬裕志	炎症性腸疾患患者における <i>NUDT15</i> 遺伝子多型と臨床像の検討	第 121 回日本消化器病学会北海道支部例会	札幌	2017 年 9 月 2-3 日
仲瀬裕志	潰瘍性大腸炎の最適治療を模索する	第 93 回日本消化器内視鏡学会総会	大阪	2017 年 5 月 12 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
仲瀬裕志	腸内細菌叢の変化がもたらすクローン病患者骨代謝への影響	第103回日本消化器病学会総会	東京	2017年4月20-22日
飯田智哉, 田中浩紀, 仲瀬裕志	クローン病に対するインフリキシマブ治療における免疫調節薬併用効果に関する検討	第103回日本消化器病学会総会	東京	2017年4月20-22日
日比則孝, 小林 拓, 森久保 拓, 清原裕貴, 松林真央, 佐上晋太郎, 中野 雅, 久松理一, 日比紀文	Drug-tolerant assayによる抗インフリキシマブ抗体測定の有用性	第56回日本消化器免疫学会総会	メルパルク京都	2019年8月2日
S Sagami, T Kobayashi, T Kanazawa, K Aihara, H Morikubo, R Ozaki, S Okabayashi, M Matsubayashi, A Fuchigami, H Kiyohara, M Nakano, T Hibi	Accuracy of Doppler transabdominal ultrasound in assessing disease severity and extent in IBD.	14th Congress of ECCO	Bella Center Copenhagen	2019年3月7日
M Matsubayashi, T Kobayashi, S Okabayashi, R Ozaki, S Sagami, H Kiyohara, A Fuchigami, H Morikubo, M Nakano, T Hibi	Capsule scoring of ulcerative colitis (CSUC) is useful for monitoring inactive ulcerative colitis.	Crohn's & colitis congress Las Vegas	Bellagio Hotel and Casino, Las Vegas	2019年2月7日
細江直樹, 中野雅, 竹内健, 遠藤豊, 松岡克善, 大森鉄平, 林田真理, 水野慎大, 長沼誠, 小林拓, 吉田篤史, 中里圭宏, 金井隆典, 日比紀文, 鈴木康夫, 上野文昭, 渡辺守, 緒方晴彦	カプセル内視鏡による潰瘍性大腸炎の炎症評価スコア: Capsule Scoring of Ulcerative Colitis(CSUC)とそのValidation	第12回日本カプセル内視鏡学会学術集会	グランデはがくれ(佐賀)	2019年2月3日
松林真央, 小林拓, 岡林慎二, 洲上綾子, 尾崎良, 佐上晋太郎, 清原裕貴, 森久保拓, 中野雅, 日比紀文	非活動期潰瘍性大腸炎患者モニタリングにおける Capsule Scoring of Ulcerative Colitis(CSUC)の意義	第12回日本カプセル内視鏡学会学術集会	グランデはがくれ(佐賀)	2019年2月3日
佐上晋太郎, 小林拓, 中野雅, 日比紀文	クローン病の大腸内視鏡前処置中にMRエンテログラフィーを追加すると上乗せ効果は期待できるか?	第107回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	シェーンバツハ・サボ-	2018年12月16日
森久保拓, 小林拓, 尾崎良, 清原裕貴, 洲上綾子, 松林真央, 佐上晋太郎, 中野雅, 久松理一, 日比紀文	潰瘍性大腸炎における5-ASA製剤とチオプリン製剤の相互作用に関する研究	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	メルパルク京都	2018年11月22日
金沢徹雄, 佐上晋太郎, 小林拓, 相原佳那子, 林規隆, 森久保拓, 松林真央, 洲上綾子, 清原裕貴, 尾崎良, 岡林慎二, 中野雅, 日比紀文	潰瘍性大腸炎の活動性評価における腹部超音波検査の精度	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	メルパルク京都	2018年11月22日
清原裕貴, 小林拓, 洲上綾子, 中野雅, 日比紀文	5-アミノサリチル酸不耐潰瘍性大腸炎患者の臨床的特徴	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	京王プラザホテル	2018年11月9日
尾崎 良, 小林 拓, 岡林慎二, 中野 雅, 原 敦子, 大部 誠, 日比紀文	内視鏡的寛解潰瘍性大腸炎における再燃の組織学的リスク因子	第8回日本炎症性腸疾患学会学術集会	海運クラブ(東京)	2017年12月1日
尾崎 良, 小林 拓, 齊藤詠子, 豊永貴彦, 岡林慎二, 梅田智子, 中野 雅, 松岡健太郎, 森永正二郎, 久松理一, 日比紀文	潰瘍性大腸炎における組織学的再燃リスク因子の探索	第59回日本消化器病学会大会	マリンメッセ福岡	2017年10月13日
原 勇輔, 岡林慎二, 小林 拓, 尾崎良, 佐上晋太郎, 豊永貴彦, 中野 雅, 宮本康雄, 牧田遊子, 常松 令, 土本寛二, 日比紀文, 鈴木雄介	結核スクリーニング陰性にもかかわらず抗TNF-抗体治療中に肺結核を発症したクローン病の1例	日本消化器病学会関東支部第346回例会	海運クラブ(東京)	2017年9月30日
渡辺康博, 佐上晋太郎, 小林 拓, 尾崎良, 岡林慎二, 豊永貴彦, 中野 雅, 日比紀文	HIV感染症を併発した潰瘍性大腸炎の1例	日本消化器病学会関東支部第345回例会	海運クラブ(東京)	2017年7月15日
Watanabe K, Kawai M, Koshiba R, Fujimoto K, Kojima K, Kaku K, Kinoshita N, Sato T, Kamikozuru K, Yokoyama Y, Miyazaki T, Hida N, Nakamura S.	Efficacy including rapid response and safety of tofacitinib in Japanese patients with ulcerative colitis: a preliminary investigation in a specialized IBD center	ECCO2020	Vienna	2020年2月14日
Kojima K, Koji Fujimoto, Koshiba R, Sato T, Kawai M, Kamikozuru K, Takagawa T, Yokoyama Y, Miyazaki T, Nobuyuki Hiba, Watanabe K, Nakamura S.	Comparison of therapeutic effects between groups of thiopurine alone and combination of thiopurine with 5-ASA after remission introduced by oral tacrolimus for patients with severe ulcerative colitis.	ECCO2020	Vienna	2020年2月14日
Miyazaki T, Kojima K, Koshiba R, Koji Fujimoto, Sato T, Kawai M, Kamikozuru K, Takagawa T, Yokoyama Y, Hida N, Watanabe K, Nakamura S.	Endoscopic Features for Loss of Response Cases in Patients With Crohn's Disease Who Were treated With Infliximab by Top-down Strategy.	AOCC2019	Taipei	2019年6月15日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Yokoyama Y, Watanabe K, Kojima K, Ryosuke Koshiha, Koji Fujimoto, Sato T, Kawai M, Kamikozuru K, Takagawa T, Miyazaki T, Nobuyuki Hiba, Nakamura S.	Investigations of the characteristics and anti-TNF agents for optimizing treatment in pediatric patients with new-onset Crohn's disease.	DDW2019	San Diego Convention Center	2019年5月19日
Koji Fujimoto, Kojima K, Koshiha R, Sato T, Kawai M, Kamikozuru K, Takagawa T, Yokoyama Y, Miyazaki T, Nobuyuki Hiba, Watanabe K, Nakamura S.	CLINICAL CHARACTERISTICS AND RISK FACTORS FOR PNEUMOCYSTIS JIROVECIII PNEUMONIA IN PATIENTS WITH INFLAMMATORY BOWEL DISEASE.	DDW2019	San Diego Convention Center	2019年5月19日
横山 陽子, 渡辺 憲治, 賀来 宏司, 木下直彦, 小柴 良司, 小島 健太郎, 藤本 晃士, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 中村 志郎.	当院における炎症性腸疾患妊娠例の検討.	第16回日本消化管学会総会学術集会	姫路	2020年2月7日
佐藤 寿行, 内野 基, 小島 健太郎, 小柴 良司, 藤本 晃士, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 横山 陽子, 高川 哲也, 宮崎 孝子, 應田 義雄, 渡辺 憲治, 樋田 信幸, 堀 和敏, 三輪 洋人, 池内 浩基, 中村 志郎.	免疫抑制治療中の炎症性腸疾患患者に合併したニューモシスチス肺炎に関する臨床的検討.	JDDW2019	神戸	2019年11月21日
小島 健太郎, 小島 健太郎, 藤本 晃士, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 横山 陽子, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 渡辺 憲治, 中村 志郎.	当院における大量出血型クローン病に関する臨床的検討.	JDDW2019	神戸	2019年11月22日
横山 陽子, 渡辺 憲治, 宮崎 孝子, 中村 志郎.	高齢者潰瘍性大腸炎患者に対する Cytapheresis の有効性と最適化.	第74回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2019年10月11日
宮崎 孝子, 賀来 宏司, 木下 直彦, 小島 健太郎, 小柴 良司, 藤本 晃士, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 横山 陽子, 樋田 信幸, 渡辺 憲治, 中村 志郎.	高度栄養障害を有するクローン病患者におけるウステキヌマブの有効性.	第57回日本小腸学会学術集会	大阪	2019年11月9日
河合 幹夫, 佐藤 寿行, 藤本 晃士, 小柴 良司, 小島 健太郎, 横山 陽子, 上小鶴 孝二, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 渡辺 憲治, 中村 志郎.	難治性潰瘍性大腸炎に対する TNF 阻害薬の治療成績と薬剤選択.	第84回日本インターフェロンサイトカイン学会	神戸	2019年8月3日
中村 志郎, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 渡辺 憲治.	潰瘍性大腸炎 内科治療の進歩と現状.	第84回日本インターフェロンサイトカイン学会	神戸	2019年8月2日
中村 志郎.	炎症性腸疾患内科治療 update~最新の治療指針と兵庫医科大学の治療成績を中心に~.	第107回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	福岡	2019年5月25日
中村 志郎.	これからの潰瘍性大腸炎の治療戦略.	第105回日本消化器病学会総会.	石川	2019年5月10日
Hida N, Watanabe K, Miyazaki T, Yokoyama Y, Kawai M, Takagawa T, Kamikozuru K, Sato T, Fujimoto, Koshiha R, Kojima K, Nakamura S.	The initial trough concentration at 36 hours after starting tacrolimus is important for the personalized medicine strategy in patients with ulcerative colitis	ECCO2019	Copenhagen	2019年3月8日
Miyazaki T, Kojima K, Koshiha R, Fujimoto K, Sato T, Kawai M, Kamikozuru K, Takagawa T, Yokoyama Y, Hida N, Watanabe K, Nakamura S.	Endoscopic features for loss of response in patients with Crohn's disease who were treated with infliximab by top-down strategy.	ECCO2019	Copenhagen	2019年3月8日
Yokoyama Y, Watanabe K, Kojima K, Koshiha R, Fujimoto K, Sato T, Kawai M, Kamikozuru K, Takagawa T, Miyazaki T, Hida N, Nakamura S.	Investigations of the characteristics and efficacy of anti-TNF agents for optimizing treatment in pediatric patients with new-onset Crohn's disease.	ECCO2019	Copenhagen	2019年3月8日
Koshiha R, Sato T, Kawai M, Kamikozuru K, Yokoyama Y, Takagawa T, Miyazaki T, Hida N, Watanabe K, Nakamura S.	Risk factors and clinical characteristics for Pneumonia in Japanese Patients with Ulcerative Colitis.	ECCO2019	Copenhagen	2019年3月8日
Nakamura S.	Antiviral treatment for stationary virus infection: positive treatment.	AOCC2018.	Shanghai	2018年6月23日
Yokoyama Y, Watanabe K, Kamikozuru K, Fujimori A, Sato T, Koshiha R, Fujimori A, Kawai M, Takagawa T, Kita Y, Miyazaki T, Hida N, Nakamura S.	Efficacy and related issues of cytopheresis in elderly patients with ulcerative colitis.	AOCC2018.	Shanghai	2018年6月22日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Fujimori A, Watanabe K, Yokoyama Y, Koshiha R, Kma K, Fujimoto K, Sato T, Kawai M, Kamikozuru K, Takagawa T, Miyazaki T, Hida N, Nakamura S.	Clinical features of ulcerative colitis complicated by autoimmune hepatitis: a case series in Japan.	AOCC2018.	Shanghai	2018年6月22日
Hida N, Watanabe K, Miyazaki T, Yokoyama Y, Takagawa T, Kamikozuru K, Kawai M, Kita Y, Sato T, Nakamura S.	THE INITIAL TROUGH CONCENTRATION AT 36 HOURS AFTER STARTING TACROLIMUS IS IMPORTANT FOR THE PERSONALIZED MEDICINE STRATEGY IN PATIENTS WITH ULCERATIVE COLITIS.	DDW2018	Washington DC	2018年6月4日
Kita Y, Fujimori A, Koshiha R, Fujimoto K, Sato T, Kawai M, Kamikozuru K, Takagawa T, Yokoyama Y, Miyazaki T, Hida N, Watanabe K, Nakamura S. (CLINICAL CHARACTERISTICS AND COMPLICATIONS IN HOSPITALISED ELDERLY PATIENTS WITH ULCERATIVE COLITIS IN A REAL-WORLD SPECIALISED HOSPITAL.	DDW2018	Washington DC	2018年6月4日
中村 志郎.	これからの潰瘍性大腸炎の治療戦略.	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都	2018年11月22日
中村 志郎, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 渡辺 憲治.	難治性潰瘍性大腸炎に対する TNF 阻害薬の長期成績と薬剤選択.	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2018年11月9日
渡辺 憲治, 高川 哲也, 角田 洋一, 藤森 絢子, 小島 健太郎, 小柴 良司, 藤本 晃士, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 横山 陽子, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 堀 和敏, 池内 浩基, 中村 志郎.	NUDT15 R139C C/T ヘテロ症例におけるチオプリン製剤を用いた潰瘍性大腸炎の治療成績.	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2018年11月9日
樋田 信幸, 渡辺 憲治, 中村 志郎.	潰瘍性大腸炎関連 low grade dysplasia の進展危険因子:SCENIC terminology に準じた検討.	第60回日本消化器病関連学会大会	神戸	2018年11月2日
中村 志郎, 樋田 信幸, 渡辺 憲治, 宮崎 孝子, 横山 陽子, 高川 哲也, 上小鶴 孝二, 河合 幹夫, 木田 裕子, 佐藤 寿行.	潰瘍性大腸炎入院症例における手術適応とタイミングに関する臨床的検討.	第14回日本消化管学会総会学術集会	東京	2018年11月2日
Miyazaki T, Fujimori A, Koshiha R, Fujimoto K, Sato T, Kawai M, Kita Y, Kamikozuru K, Takagawa T, Yokoyama Y, Hida N, Watanabe K, Nakamura S.	Clinical and endoscopic features of secondary loss of response caases in patients with Crohn 's disease treated with infliximab by top-down strategy:a case-control study.	ECCO2018	Vienna	2018年2月16日
Kita Y, Fujimori A, Koshiha R, Fujimoto K, Sato T, Yokoyama Y, Miyazaki T, Watanabe K, Hida N, Nakamura S.	Clinical characteristics and complications in hospitalised elderly patients with ulcerative colitis in a real world specialised hospital.1	ECCO2018	Vienna	2018年2月16日
Hida N, Watanabe K, Miyazaki T, Yokoyama Y, Takagawa T, Kamikozuru K, Kawai M, Kita Y, Sato T, Nakamura S.	Risk factors analysis for progression of low-grade dysplasia to advanced neoplasia in patients with ulcerative colitis according to the SCENIC terminology.	ECCO2018	Vienna	2018年2月16日
Takagawa T, Tajima Masaki, Kitani Atsushi, Fujimori A, Koshiha R, Fujimoto K, Sato T, Kawai M, Kamikozuru K, Yokoyama Y, Kita Y, Miyazaki T, Hida N, Watanabe K, Hori K, Fuss I, Nakamura S, Strober W.	LRRK2 Inhibitor Attenuates Intestinal Inflammation and Becomes a Therapeutic Strategy in Inflammatory Bowel Diseases.	18thInternational Congress of Mucosal Immunology	Washington DC	2017年7月21日
Sato T, Takagawa T, Kakuta Yoichi, Fujimori A, Koshiha R, Fujimoto K, Kawai M, Kamikozuru K, Yokoyama Y, Kita Y, Miyazaki T, Imuro M, Watanabe K, Hida N, Hori K, Ikeuchi H, Nakamura S.	Thiopurine-induced Leukopenia Is Associated with a Variant in NUDT15, but Not FTO and RUNX1 in Japanese Patients with Inflammatory Bowel Diseases.	AOCC2017	Seoul	2017年6月17日
Yokoyama Y, Fujimori A, Koshiha R, Fujimoto K, Sato T, Kawai M, Kamikozuru K, Kita Y, Miyazaki T, Hida N, Watanabe K, Hori K, Nakamura S.	Efficacy of Adsorptive Granulocyte/Monocyte Apheresis in Inflammatory Bowel Disease Patients Experiencing Loss of Response to Infliximab:A Case Series.	AOCC2017	Seoul	2017年6月17日
藤本 晃士, 宮崎 孝子, 藤森 絢子, 小柴 良司, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 木田 裕子, 上小鶴 孝二, 高川 哲也, 横山 陽子, 樋田 信幸, 渡辺 憲治, 中村 志郎.	潰瘍性大腸炎新規小児発症例に関する臨床的検討.	第14回日本消化管学会総会学術集会	東京	2018年2月9日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
横山 陽子, 宮崎 孝子, 藤本 晃士, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 木田 裕子, 樋田 信幸, 渡辺 憲治, 中村 志郎.	Infliximab の Top-down 治療を施行した小児クローン病の特徴と有効性の検討.	第 14 回日本消化管学会総会学術集会	東京	2018 年 2 月 9 日
中村 志郎.	潰瘍性大腸炎診療 up to date~当院における Bio 治療円滑化の工夫も含めて.	第 18 回日本クリニカルバス学会学術集会	大阪	2017 年 12 月 1 日
渡辺 憲治, 中村 志郎, 松井 敏幸, 上野 文昭.	本邦の消化器病学会 IBD 診療ガイドラインと厚生労働省班会議治療指針の特徴と差異.	第 8 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017 年 12 月 1 日
藤森 絢子, 木田 裕子, 小柴 良司, 藤本 晃士, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 高川 哲也, 横山 陽子, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 渡辺 憲治, 中村 志郎.	インフリキシマブ投与により薬剤誘発性ループスを併発した炎症性腸疾患の 2 例.	第 8 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017 年 12 月 1 日
楊 和典, 河合 幹夫, 藤本 晃士, 宮本 優帆, 石井 紀子, 由利 幸久, 長谷川 国大, 高田 亮, 石井 昭生, 高嶋 智之, 坂井 良行, 會澤 信弘, 池田 直人, 西村 貴士, 岩田 恵典, 宮崎 孝子, 榎本 平之, 飯島 尋子, 中村 志郎, 西口 修平.	腸管不全合併肝障害(IFLAD)による肝不全死が疑われた一部検例.	第 42 回日本肝臓学会西部会	福岡	2017 年 12 月 1 日
中村 志郎.	炎症性腸疾患と便中カルプロテクチン.	第 64 回日本臨床検査医学会学術集会	京都	2017 年 11 月 18 日
樋田 信幸, 渡辺 憲治, 中村 志郎.	潰瘍性大腸炎に伴う low grade dysplasia の進展に関する危険因子:SCENIC terminology に準じた検討.	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017 年 11 月 11 日
河合 幹夫, 西尾 昭宏, 藤森 絢子, 小柴 良司, 藤本 晃士, 佐藤 寿行, 木田 裕子, 上小鶴 孝二, 高川 哲也, 横山 陽子, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 渡辺 憲治, 中村 志郎.	当院における腸管ペーチェット病及び単純性潰瘍性症例に対する生物学的製剤の治療成績.	第 55 回日本小腸学会	京都	2017 年 10 月 21 日
横山 陽子, 上小鶴 孝二, 長瀬 和子, 木田 裕子, 福永 健, 渡辺 憲治, 中村 志郎.	潰瘍性大腸炎の内科治療における白血球除去療法の位置づけ.	第 38 回日本アフェレシス学会学術大会	千葉	2017 年 10 月 21 日
木田 裕子, 横山 陽子, 上小鶴 孝二, 長瀬 和子, 中村 志郎.	高齢潰瘍性大腸炎患者における血球成分除去療法の特徴.	第 38 回日本アフェレシス学会学術大会	千葉	2017 年 10 月 21 日
上小鶴 孝二, 木田 裕子, 横山 陽子, 福永 健, 長瀬 和子, 中村 志郎.	生物学的製剤無効難治性潰瘍性大腸炎に対する LCA の検討.	第 38 回日本アフェレシス学会学術大会	千葉	2017 年 10 月 21 日
藤本 晃士, 河合 幹夫, 藤森 絢子, 小柴 良司, 佐藤 寿行, 木田 裕子, 上小鶴 孝二, 高川 哲也, 横山 陽子, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 渡辺 憲治, 中村 志郎.	在宅中心静脈栄養療法中のクローン病に IFALD(Intestinal Failure-associated Liver Disease)を発症した一例.	第 55 回日本小腸学会	京都	2017 年 10 月 21 日
湯浅 翠, 横山 陽子, 上小鶴 孝二, 長瀬 和子, 木田 裕子, 中村 志郎.	糖尿病合併の高齢者潰瘍性大腸炎患者に対して GMA が著効した 1 例.	第 38 回日本アフェレシス学会学術大会	千葉	2017 年 10 月 20 日
中村 志郎.	新たな生物学的製剤時代の潰瘍性大腸炎治療~ゴリムマップの可能性	第 59 回日本消化器病学会大会(JDDW2017)	東京	2017 年 10 月 14 日
高川 哲也, 佐藤 寿行, 角田 洋一, 西尾 昭宏, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 横山 陽子, 木田 裕子, 宮崎 孝子, 飯室 正樹, 樋田 信幸, 堀 和敏, 池内 浩基, 中村 志郎.	Diploptype 分類に基づいた NUDT15 活性レベルと炎症性腸疾患患者のチオプリン誘発性白血球減少及び全脱毛の相関.	第 59 回日本消化器病学会大会(JDDW2017)	東京	2017 年 10 月 13 日
佐藤 寿行, 西尾 昭宏, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 横山 陽子, 木田 裕子, 宮崎 孝子, 飯室 正樹, 樋田 信幸, 堀 和敏, 中村 志郎.	当科における潰瘍性大腸炎の病変口側伸展症例に関する臨床的検討.	第 59 回日本消化器病学会大会(JDDW2017)	東京	2017 年 10 月 13 日
西尾 昭宏, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 高川 哲也, 横山 陽子, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 堀 和敏, 中村 志郎.	潰瘍性大腸炎患者における 5-アミノサリチル酸製剤不耐例の特徴.	第 59 回日本消化器病学会大会(JDDW2017)	東京	2017 年 10 月 13 日
上小鶴 孝二, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 木田 裕子, 高川 哲也, 宮崎 孝子, 樋田 信幸, 堀 和敏, 中村 志郎.	術後 SBC となったクローン病に対する在宅中心静脈栄養療法の長期経過の検討.	第 59 回日本消化器病学会大会(JDDW2017)	東京	2017 年 10 月 12 日
岩田 恵典, 宮本 優帆, 石井 紀子, 中野 智景, 由利 幸久, 長谷川 国大, 高田 亮, 楊 和典, 石井 昭生, 會澤 信弘, 西村 貴士, 池田 直人, 西川 浩樹, 榎本 平之, 飯島 尋子, 神野 良男, 中村 志郎, 西口 修平.	当院におけるダブルバルーン内視鏡を用いた胆膵内視鏡治療の成績と工夫.	第 59 回日本消化器病学会大会(JDDW2017)	東京	2017 年 10 月 12 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
中村 志郎.	潰瘍性大腸炎 最新の内科治療戦略～治療指針と兵庫医科大学の治療成績を中心に.	第 31 回日本臨床内科医学学会	大阪	2017 年 10 月 9 日
中村 志郎.	潰瘍性大腸炎内科診療におけるチオプリン製剤の意義～チオプリン製剤の基本と兵庫医科大学の診療成績を中心に.	第 45 回日本臨床免疫学会総会	東京	2017 年 9 月 29 日
高川 哲也, 藤森 絢子, 小柴 良司, 藤本 晃士, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 上小鶴 孝二, 横山 陽子, 木田 裕子, 宮寄 孝子, 樋田 信幸, 渡辺 憲治, 堀 和敏, Warren Strober, 中村 志郎.	炎症性腸疾患における細胞内分子標的治療の可能性～感受性遺伝子を標的とした新規 LRRK2 阻害剤の検討.	第 54 回日本消化器免疫学会総会	東京	2017 年 9 月 29 日
中村 志郎.	クローン病治療の最適化～新規治療薬ゼンタコート的位置づけ.	第 93 回日本消化器内視鏡学会総会	大阪	2017 年 5 月 13 日
宮寄 孝子, 西尾 昭宏, 佐藤 寿行, 河合 幹夫, 木田 裕子, 上小鶴 孝二, 高川 哲也, 横山 陽子, 樋田 信幸, 堀 和敏, 中村 志郎.	潰瘍性大腸炎におけるインフリキシマブ二次無効時の内視鏡的再燃の特徴.	第 93 回日本消化器内視鏡学会総会	大阪	2017 年 5 月 13 日
中村 志郎.	完全腸管安静(reset TPN)による Bio 難治例へのアプローチ.	第 103 回日本消化器病学会総会	東京	2017 年 4 月 21 日
宮寄 孝子, 樋田 信幸, 中村 志郎.	タクロリムス不応潰瘍性大腸炎におけるインフリキシマブの有用性.	第 103 回日本消化器病学会総会	東京	2017 年 4 月 20 日
森田 啓嗣, 柴野 貴之, 前川 講平, 服部 益治, 竹島 泰弘, 樋田 信幸, 中村 志郎.	リツキシマブ投与後にクローン病を発症したと考えられた難治性ネフローゼ症候群の 1 例.	第 120 回日本小児科学会学会集會	東京	2017 年 4 月 14 日
Saito E, Nagahori M, Watanabe M	The clinical effectiveness of vedolizumab in patients with ulcerative Colitis	JDDW 2019	神戸国際会議場	2019 年 11 月 21 日
Fujii T, Kitazume Y, Takenaka K, Suzuki K, Motobayashi M, Saito E, Nagahori M, Ohtsuka K, Watanabe M	Simplified MR enterocolonography Classification of Crohn's Disease Based on Enteroscopic Findings.	AOCC2018	Shanghai	2018 年 6 月 22 日
Saito E, Suzuki K, Shimizu H, Motobayashi M, Takenaka K, Onizawa M, Fujii T, Nagahori M, Ohtsuka K, Watanabe M	The clinical efficacy of switching cases between Infliximab(IFX) and Adalimumab(ADA) in patients with ulcerative colitis.	AOCC2018	Shanghai	2018 年 6 月 22 日
Ohtsuka K, Takenaka K, Suzuki K, Fujii T, Nagahori M, Matsuoka K, Saito E, Katsukura N, Fukuda M, Araki A, Watanabe M	Usefulness of single-balloon enteroscopy: from a single center 990 experiences.	DDW2018	Washington D.C (USA)	2018 年 6 月 3 日
堀田伸勝, 齋藤詠子, 長堀正和, 大塚和朗, 渡辺 守	【シンポジウム 1 : 炎症性腸疾患診療における内視鏡の役割】潰瘍性大腸炎における 3 つの内視鏡スコアに基づいた再燃リスクの検討	第 107 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会	シェーンバッハ・サボア(東京都千代田区)	2018 年 12 月 15 日
山田倫子, 秋山慎太郎, 堀田伸勝, 福田将義, 齋藤詠子, 藤井俊光, 岡田英理子, 大島 茂, 井津井康浩, 中川美奈, 岡本隆一, 土屋輝一郎, 柿沼 晴, 東 正新, 永石宇司, 中村哲也, 長堀正和, 大塚和朗, 朝比奈靖浩, 渡辺 守	難治性潰瘍性大腸炎経過中に血球貪食症候群を契機に判明した T 細胞性リンパ腫の一例	日本消化器病学会関東支部第 352 回例会	海運クラブ(東京都千代田区)	2018 年 12 月 1 日
齋藤詠子, 秋山慎太郎, 鈴木康平, 本林麻衣子, 竹中健人, 清水寛路, 鬼澤道夫, 藤井俊光, 長堀正和, 大塚和朗, 渡辺 守	クローン病における抗 TNF- 抗体二次無効時のウステキヌマブの治療成績について	第 9 回日本炎症性腸疾患学会学会集會	メルパルク京都(京都府京都市)	2018 年 11 月 22 日
伊藤 晃, 伊東詩織, 渡部太郎, 小林正典, 福田将義, 齋藤詠子, 藤井俊光, 東 正新, 岡本隆一, 土屋輝一郎, 長堀正和, 大塚和朗, 朝比奈靖浩, 渡辺 守	潰瘍性大腸炎の経過中に原発性硬化性胆管炎を併発した一例	日本消化器病学会関東支部第 351 回例会	海運クラブ(東京都千代田区)	2018 年 9 月 22 日
Saito E, Matsuoka K, Fujii T, Nagahori M, Ohtsuka K, Watanabe M	On the clinical course of anti-TNF agent in ulcerative colitis (UC)	BD and Liver: East Meets West	京都ホテルオークラ(京都府京都市)	2018 年 9 月 7 日
Takenaka K, Ohtsuka K, Fujii T, Nagahori M, Saito E, Motobayashi M, Suzuki K, Watanabe M	Small bowel mucosal healing of Crohn's disease treated with anti-TNF antibodies.	FALK シンポジウム	京都ホテルオークラ(京都府京都市)	2018 年 9 月 7 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
川内結加里、秋山慎太郎、福田将義、鈴木康平、竹中健人、鬼澤道夫、北畑富貴子、村川美也子、新田沙由梨、藤井俊光、岡田英理子、中川美奈、柿沼 晴、長堀正和、大塚和朗、渡辺 守	回腸瘻から大量出血を来した小腸型クローン病の1例	日本消化器病学会関東支部第350回例会	海運クラブ (東京都千代田区)	2018年7月14日
齋藤詠子、長堀正和、大塚和朗、渡辺 守	【ワークショップ：炎症性大腸疾患診療における内視鏡の役割 - 感染症からIBDまで】免疫不全症に伴う大腸炎の3例	第106回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	シェーンバッハ・サボーン(東京都千代田区)	2018年6月16日
Fujii T, Kitazume Y, Takenaka K, Kimura M, Sato E, Matsuoka K, Nagahori M, Ohtsuka K, Watanabe M	Simplified MR enteroclonography Classification Based on Endoscopic Findings for Activity Assessment of Crohn's Disease	UEGW2017	Venue: Fira Gran Via	2017年11月1日
Takenaka K, Ohtsuka K, Kitazume Y, Matsuoka K, Fujii T, Nagahori M, Kimura M, Watanabe M	Magnetic resonance evaluation for small bowel endoscopic remission in patients with crohn's disease.	UEGW2017	Venue: Fira Gran Via	2017年10月30日
Takenaka K, Ohtsuka K, Kitazume Y, Fujii T, Matsuoka K, Kimura M, Nagahori M, Watanabe M	Utility of Magnetic Resonance Evaluation for Small Bowel Endoscopic Healing in Patients with Crohn's Disease	UEGW2017	Venue: Fira Gran Via	2017年10月30日
竹中健人、大塚和朗、北詰良雄、鈴木康平、木村麻衣子、藤岡友之、福田将義、藤井俊光、齋藤詠子、松岡克善、長堀正和、渡辺守	クローン病評価における小腸内視鏡の有用性と限界	第55回日本小腸学会学術集会	メルパルク京都	2017年10月21日
北澤優美、松岡克善、藤井俊光、木村麻衣子、竹中健人、長堀正和、檀直彰、大塚和朗、渡辺 守	【デジタルポスターセッション72：大腸(潰瘍性大腸炎)8】潰瘍性大腸炎における便中バイオマーカーによる組織学的治癒の評価	JDDW2017	マリンメッセ福岡	2017年10月13日
近藤有紀、藤井 崇、日比谷秀爾、勝倉暢洋、竹中健人、鬼澤道夫、北畑富貴子、村川美也子、松岡克善、新田沙由梨、藤井俊光、岡田英理子、井津井康浩、齋藤詠子、中川美奈、柿沼 晴、長堀正和、大塚和朗、渡辺 守(東京医科歯科大学消化器内科)、高岡亜弓、山内慎一(東京医科歯科大学大腸肛門外科)	2年間持続する貧血があり、イレウス症状を契機に診断に至った原発性小腸癌の1例	日本消化器病学会 関東支部第346回例会	海運クラブ	2017年9月30日
藤井俊光、秋山慎太郎、松岡克善、江花有亮、根木真理子、竹中健人、齋藤詠子、長堀正和、大塚和朗、磯辺光章、渡辺 守	高安動脈炎に合併した炎症性腸疾患の遺伝的背景と腸炎の表現形	第45回日本臨床免疫学会	京王プラザホテル	2017年9月29日
大庭真梨、村上義孝、西脇祐司、朝倉敬子、大藤さとこ、福島若葉	難治性炎症性腸管障害希少疾患の有病者数推計に関する全国疫学調査	第78回日本公衆衛生学会総会	高知市	2019年10月24日
Murakami Y, Nishiwaki Y, Erika Kuwahara E, Oba M, Asakura K, Ofuji S, Fukushima W, Suzuki Y, Nakamura Y.	Estimated prevalence of ulcerative colitis and Crohn's disease in Japan in 2014: a nationwide survey.	The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology	Saitama	2017年
村上義孝、西脇祐司、桑原絵里加、大庭真梨、朝倉敬子、大藤さとこ、福島若葉、中村好一	潰瘍性大腸炎およびクローン病の有病者数推計に関する全国疫学調査	第76回日本公衆衛生学会総会	鹿児島	2017年
畑啓介、品川貴秀、池内浩基、福島浩平、二見喜太郎、杉田昭、内野基、渡辺和宏、東大二郎、小金井一隆、木村英明、荒木俊光、水島恒和、板橋道朗、植田剛、大庭幸治、石原聡一郎、鈴木康夫	クローン病における腸管再手術率の検討：多施設共同後向き研究	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
Hata K, Shinagawa T, Ishihara S	Risk factors for reoperation in Crohn's disease. A Retrospective Multicenter Study in Japan	JDDW 2019	神戸	2019年11月23日
Shinagawa T, Hata K, Morikawa T, Takiyama H, Emoto S, Muroto K, Kaneko M, Sasaki K, Nishikawa T, Tanaka T, Kawai K, Fukayama M, Nozawa H	Pine-cone and villi patterns are endoscopic signs suggestive of ulcerative colitis-associated colorectal cancer and dysplasia	UEG week 2018	Vienna	2018年10月22日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
畑啓介、渡邊聡明、味岡洋一、光山慶一、渡辺憲治、花井洋行、仲瀬裕志、国崎玲子、松田圭二、岩切 龍一、樋田信幸、田中信治、竹内義明、大塚和朗、村上 和成、小林清典、岩男泰、長堀正和、飯塚文瑛、五十嵐正広、平田一郎、工藤進英、松本主之、上野文昭、渡辺玄、池上雅博、伊東陽子、大庭幸治、井上永介、友次直輝、武林亨、杉原健一、鈴木康夫、渡辺 守、日比紀文	潰瘍性大腸炎合併大腸癌サーベイランスにおける狙撃生検とランダム生検のランダム化比較試験	第 9 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都	2018 年 11 月 22 日
Hata K	New strategy in the surveillance colonoscopy for Colitic Cancer	FALK Symposium	Kyoto	2018 年 9 月 7 日
品川貴秀、畑啓介、川合一茂、室野浩司、金子学、佐々木和人、大谷研介、西川武司、田中敏明、野澤宏彰	Colitic cancer の形態学的特徴の解析に基づくより良い内視鏡サーベイランス法の検討	第 73 回消化器外科学会総会	鹿児島	2018 年 7 月 12 日
岡田 聡、畑 啓介、渡邊 聡明	Colitic cancer の形態学的特徴の解析に基づくより良い内視鏡サーベイランス法の検討	第 73 回消化器外科学会総会	鹿児島	2018 年 7 月 12 日
畑 啓介、品川貴秀、渡邊聡明	外科から見た炎症性腸疾患に対する抗 TNF 抗体治療薬の成績	第 104 回日本消化器病学会総会	東京	2018 年 4 月 21 日
Shinagawa T, Hata K, Morikawa T, Takiyama H, Emoto S, Muro K, Kaneko M, Sasaki K, Nishikawa T, Tanaka T, Kawai K, Fukayama M, Nozawa H	クローン病再手術率の検討 多施設共同研究	第 118 回日本外科学会定期学術集会	東京	2018 年 4 月 5 日
Hata K, Ishihara S, Nozawa H, Kawai K, Kiyomatsu T, Tanaka T, Nishikawa T, Otani K, Yasuda K, Muro K, Sasaki M, Kaneko M, Watanabe T	Laparoscopic Surgery in IBD in Japan	The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Seoul	2017 年 6 月 17 日
Shinagawa T, Hata K, Ikeuchi H, Fukushima K, Sugita A, Suzuki Y, Watanabe T	Time trends and risk factors for reoperation after initial intestinal surgery for Crohn's disease in Japan: A Retrospective Multicenter Study	2017 American Society for Colorectal Surgeon	Seattle	2017 年 6 月 10 日
Hata K, Anzai H, Ikeuchi H, Fukushima K, Sugita A, Suzuki Y, Watanabe T	Ulcerative colitis associated colorectal cancer in Japan: A retrospective multicenter study	2017 American Society for Colorectal Surgeon	Seattle	2017 年 6 月 10 日
Hata K, Anzai H, Ikeuchi H, Fukushima K, Sugita A, Suzuki Y, Watanabe T	Optimizing surveillance colonoscopy for ulcerative colitis-associated colorectal cancer by assessing surgically resected cases: a multicenter retrospective study	Digestive Disease Week 2017	Chicago	2017 年 5 月 6 日
品川貴秀、畑啓介、岸川純子、江本成伸、室野浩司、金子学、佐々木和人、大谷研介、西川武司、田中敏明、清松知充、川合一茂、野澤宏彰、渡邊聡明	潰瘍性大腸炎合併大腸癌の形態学的特徴と最適な内視鏡サーベイランス	第 72 回 日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017 年 11 月 11 日
Shinagawa T, Hata K, Watanabe T	The optimum surveillance and endoscopic clues for ulcerative colitis associated colorectal cancer	JDDW 2017	福岡	2017 年 10 月 14 日
Sands BE, Abreu MT, Leong RW, Marano C4, O'Brien CD, Zhang H, Zhou Y, Johanns J, Rowbotham D, Hisamatsu T, Arasaradnam RP, Ellen Scherl E, Danese D, Peyrin-Biroulet L.	Efficacy and safety of long-term treatment with ustekinumab in moderate-severe ulcerative colitis patients with delayed response to ustekinumab induction: Results from the UNIFI 2-year long-term extension.	15th Congress of ECCO	Vienna	2020 年 2 月 13-15 日
Sands BE, Sandborn WJ, Panaccione R, O'Brien CD, Zhang H, Johanns J, Zhou Y, Peyrin-Biroulet L, Scherl E, Leong RW, Rowbotham DS, Arasaradnam RP, Hisamatsu T, Abreu MT, Danese S, Marano C.	Efficacy of Ustekinumab for Ulcerative Colitis in Biologic Naïve, Biologic Non-failure, and Biologic Failure Populations Through 2 Years: UNIFI Long-term Extension.	15th Congress of ECCO	Vienna	2020 年 2 月 13-15 日
Umeno J, Fuyuno Y, Torisu T, Hirano A, Esaki M, Yanai S, Ohmiya N, Hisamatsu T, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hirai F, Hisabe T, Matsui T, Yao T, Kitazono T, Matsumoto T; CEAS study group.	A nationwide survey of chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene in Japan	15th Congress of ECCO	Vienna	2020 年 2 月 13-15 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Miyoshi J, Saito D, Nakamura M, Miura M, Mitsui T, Kudo T, Murakami S, Matsuura M, Hisamatsu T.	The impact of elemental diet on the human gut microbial structure and intestinal metabolites.	15th Congress of ECCO	Vienna	2020年2月13-15日
Kobayashi T, Motoya S, Nakamura S, Yamamoto T, Nagahori M, Tanaka S, Hisamatsu T, Hirai F, Nakase H, Watanabe K, Matsumoto T, Tanaka M, Abe T, Suzuki Y, Watanabe M, and Hibi T, on behalf of HAYABUSA Study Group.	The first prospective, multicentre, randomised controlled trial on discontinuation of infliximab in ulcerative colitis; endoscopic normalisation does not guarantee successful discontinuation.	15th Congress of ECCO	Vienna	2020年2月13-15日
Sands BE, Sandborn WJ, Panaccione R, O'Brien CD, Hongyan Zhang H, Johanns J, Zhou Y, Tikhonov I, Peyrin-Biroulet L, van Assche G, Danese S, Targan S, Abreu MT, Hisamatsu T, Scherl E, Leong RW, Rowbotham DS, Arasaradnam RP, and Marano C.	Efficacy and Safety of Ustekinumab for Ulcerative Colitis Through 2 Years: UNIFI Long-term Extension	UEGW 2019	Barcelona	2019年10月19-23日
Omoniyi J Adedokun, Zhenhua Xu, Colleen Marano, Chris O'Brien, Philippe Szapary, Hongyan Zhang, Jewel Johanns, Rupert Leong, Tadakazu Hisamatsu, Gert van Assche, Silvio Danese, Maria T. Abreu, Bruce E. Sands, William J. Sandborn. P	Pharmacokinetics and Exposure-Response Relationships of Ustekinumab in Patients with Ulcerative Colitis: Results from the UNIFI Induction and Maintenance Studies.	UEGW 2019	Barcelona	2019年10月19-23日
Omoniyi J Adedokun, Zhenhua Xu, Colleen Marano, Chris O'Brien, Philippe Szapary, Hongyan Zhang, Jewel Johanns, Rupert Leong, Tadakazu Hisamatsu, Gert van Assche, Silvio Danese, Maria T. Abreu, Bruce E. Sands, William J. Sandborn.	Pharmacokinetics and Exposure-Response Relationships of Ustekinumab in Patients with Ulcerative Colitis: Results from the UNIFI Induction and Maintenance Studies.	ACG 2019	San Antonio	2019年10月25-30日
Hisamatsu T, Kato S, Kunisaki R, Matsuura M, Nagahori M, Motoya S, Esaki M, Fukata M, Inoue S, Sugaya T, Sakuraba H, Hirai F, Watanabe K, Kanai T, Naganuma M, Nakase H, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T, Nojima M, Matsumoto T, DIAMOND2 Study Group.	Withdrawal of thiopurines in Crohn's disease treated with scheduled adalimumab maintenance: a prospective randomised clinical trial (DIAMOND2)	Falk Symposium 215	St Petersburg	2019年7月5-6日
Hisamatsu T	From Asia to Worldwide - Education for IBD	AOCC 2019	Taipei	2019年6月15-16日
Hisamatsu T	What Clinician Should Know about the Animal Model Results?	AOCC 2019	Taipei	2019年6月15-16日
Sakuraba A, Hisamatsu T, Nemoto N, Ozaki R, Sato T, Okunaga S, Kikuchi O, Minowa S, Ikezaki O, Miura M, Saito D, Hayashida H, Mori H, Yoneyama M, Ohnishi H.	The ability to differentiate mucosal healing using fecal biomarkers is affected by the extension of inflammation in ulcerative colitis.	AOCC 2019	Taipei	2019年6月15-16日
Sands BE, Sandborn WJ, Panaccione R, O'Brien CD, Zhang H, Johanns J, Peyrin-Biroulet L, Van Assche GA, Danes S, Targan SR, Abreu MT, Hisamatsu T, Szapary P, Marano CW.	EFFICACY AND SAFETY OF USTEKINUMAB AS MAINTENANCE THERAPY IN ULCERATIVE COLITIS: WEEK 44 RESULTS FROM UNIFI.	Digestive Disease Week 2019.	San Diego	2019年5月19-21日
Adedokun OJ, Xu Z, Marano CW, O'Brien CD, Szapary P, Zhang H, Johanns J, Leong RW, Hisamatsu T, Van Assche GA, Danes S, Abreu MT, Sands BE, Sandborn WJ.	PHARMACOKINETICS AND EXPOSURE-RESPONSE RELATIONSHIP OF INTRAVENOUSLY ADMINISTERED USTEKINUMAB DURING INDUCTION TREATMENT WITH ULCERATIVE COLITIS: RESULTS FROM THE UNIFI INDUCTION STUDY	Digestive Disease Week 2019.	San Diego	2019年5月19-21日
Hisamatsu T, Kato S, Kunisaki R, Matsuura M, Nagahori M, Motoya S, Esaki M, Fukata M, Inoue S, Sugaya T, Sakuraba H, Hirai F, Watanabe K, Kanai T, Naganuma M, Nakase H, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T, Nojima M, Matsumoto T, DIAMOND2 Study Group.	Withdrawal of thiopurines in Crohn's disease treated with scheduled adalimumab maintenance: a prospective randomised clinical trial (DIAMOND2)	Digestive Disease Week 2019.	San Diego	2019年5月19-21日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Van Assche GA, Targan SR, Baker T, O'Brien CD, Zhang H, Johanss J, Szapary P, Marano CW, Leong RW, Rowbotham D, Hisamatsu T, Danes S, Sands BE Peyrin-Biroulet L.	SUSTAINED REMISSION IN PATIENTS WITH MODERATE TO SEVERE ULCERATIVE COLITIS: RESULTS FROM THE PHASE 3 UNIFI MAINTENANCE STUDY	Digestive Disease Week 2019.	San Diego	2019年5月19-21日
Morikubo H, Ozaki R, Okabayashi S, Kiyohara H, Matsubayashi M, Sagami S, Nakano M, Ikezaki O, Hisamatsu T, Hibi T, Kobayashi T.	DOES SWITCHING BETWEEN 5-AMINOSALICYLATES AFFECT THIOPURINE METABOLISM AND CLINICAL OUTCOMES IN PATIENT WITH ULCERATIVE COLITIS?	Digestive Disease Week 2019.	San Diego	2019年5月19-21日
Sujino T, Kiyohara H, Teratani T, Miyamoto K, Arai M, Nomura E, Harada Y, Aoki R, Koda Y, Mikami Y, Mizuno S, Naganuma M, Hisamatsu T, Kanai T.	TLR7 AGONIST INDUCED DERMATIS EXACERBATED COLITIS VIA ALTERING HOST IMMUNE CELLS AND GUT MICROBIOTA.	Digestive Disease Week 2019.	San Diego	2019年5月19-21日
林田真理, 三好 潤, 和田晴香, 尾崎良, 菊地翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 松浦 稔, 久松理一	ベーチェット病患者における小腸用カプセル内視鏡を用いた小腸病変の検討	第13回日本カプセル内視鏡学会	ホテル日航姫路	2020年2月9日
三好 潤, 齋藤大祐, 三浦みき, 三井達也, 村上慎之介, 工藤 徹, 久松理一	成分栄養剤の摂取による腸内細菌叢の変化 - 健常人における非炎症下での腸管microbiomeおよび代謝物の検討	第16回日本消化管学会	ホテル日航姫路&姫路キャッスルグランヴィリオホテル	2020年2月7-8日
久松理一	腸管ベーチェット病の診断と治療	第16回日本消化管学会	ホテル日航姫路&姫路キャッスルグランヴィリオホテル	2020年2月7-8日
齋藤大祐, 松浦 稔, 和田晴香, 尾崎良, 菊地翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好 潤, 久松理一	潰瘍性大腸炎に対する Vedolizumab による寛解導入療法の治療効果予測に関する検討	第47回日本潰瘍学会	ヒルトン小田原リゾート&スパ	2020年1月16-17日
久松理一	炎症性腸疾患に対する分子標的治療の進歩	第47回日本潰瘍学会	ヒルトン小田原リゾート&スパ	2020年1月16-17日
久松理一	CD に対する Ustekinumab のエビデンスと今後の課題	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	アクロス福岡	2019年11月29日
齋藤大祐, 松浦 稔, 和田晴香, 尾崎良, 菊地翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好 潤, 久松理一	潰瘍性大腸炎に対する Vedolizumab による寛解導入療法の治療効果予測に関する検討	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	アクロス福岡	2019年11月29日
徳永創太郎, 齋藤大祐, 三浦みき, 尾崎良, 菊地翁輝, 箕輪慎太郎, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好 潤, 松浦 稔, 久松理一	高齢発症潰瘍性大腸炎患者の予後予測因子に関する検討	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	アクロス福岡	2019年11月29日
三好 潤, 齋藤大祐, 三浦みき, 三井達也, 村上慎之介, 工藤 徹, 久松理一	成分経腸栄養剤の摂取による腸内細菌の変化 - 健常人におけるパイロット検討	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	アクロス福岡	2019年11月29日
久松理一, 青山伸郎, Shu-Chen Wei, Wangang Xie, 佐藤真弘, 浅部伸一, Wen Zhou, 谷田諭志	中等症~重症の活動性潰瘍性大腸炎アジア人患者でのウパダシチニブの有効性・安全性: 第2b相導入療法試験	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	アクロス福岡	2019年11月29日
久松理一	潰瘍性大腸炎の国内外の診療ガイドライン	JDDW 2019	神戸コンベンションセンター	2019年11月21-24日
齋藤大祐, 三浦みき, 久松理一	潰瘍性大腸炎における5-ASA 不耐症例に対する5-ASA ローターションの有効性の検討	JDDW 2019	神戸コンベンションセンター	2019年11月21-24日
徳永創太郎, 齋藤大祐, 久松理一	高齢発症潰瘍性大腸炎患者の転帰に関する予後因子の検討	JDDW 2019	神戸コンベンションセンター	2019年11月21-24日
林田真理, 三好 潤, 和田晴香, 尾崎良, 菊地翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 松浦 稔, 久松理一	ベーチェット病の小腸病変に対するカプセル内視鏡検査と便中カルプロテクチン測定の有効性	第57回日本小腸学会	リーガロイヤルホテル大阪	2019年11月9日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
齋藤大祐, 松浦 稔, 尾崎 良, 菊地翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好潤, 仲瀬裕志, 久松理一	当院における MEFV 遺伝子関連腸炎の臨床的特徴に関する検討	第 57 回日本小腸学会	リーガロイヤルホテル大阪	2019 年 11 月 9 日
久松理一	難治性小腸疾患の診断と治療 (基調講演)	第 57 回日本小腸学会	リーガロイヤルホテル大阪	2019 年 11 月 9 日
齋藤大祐, 松浦 稔, 尾崎 良, 菊地翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好潤, 仲瀬裕志, 久松理一	MEFV 遺伝子解析を実施した IBD unclassified の検討	第 37 回日本大腸検査学会総会	JA 共催ビルカンファレンスホール	2019 年 11 月 1-2 日
久松理一	炎症性腸疾患に対する分子標的治療の進歩 (教育講演)	第 37 回日本ヒト細胞学会学術集会	杏林大学井の頭キャンパス	2019 年 10 月 19 日
三好 潤, Leone Vanessa, 三好佐和子, Lee Sonny, Eren A. Murat, 久松理一, Chang Eugene	周産期母体への抗生剤曝露により子に生じる腸管 dysbiosis, 免疫発達異常, 炎症性腸疾患リスクの上昇	第 56 回日本消化器免疫学会総会	メルパルク京都	2019 年 8 月 1-2 日
齋藤大祐, 日比則孝, 尾崎 良, 菊地翁輝, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 池崎 修, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 仲瀬裕志, 久松理一	コルヒチンが有効な MEFV 遺伝子関連腸炎が IBDU に紛れている	第 56 回日本消化器免疫学会総会	メルパルク京都	2019 年 8 月 1-2 日
久松理一	潰瘍性大腸炎のモニタリングとバイオマーカー	第 56 回日本消化器免疫学会総会	メルパルク京都	2019 年 8 月 1-2 日
徳永創太郎, 齋藤大祐, 三浦みき, 尾崎 良, 菊地翁輝, 箕輪慎太郎, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好 潤, 松浦 稔, 久松理一	高齢発症潰瘍性大腸炎患者の転帰に関する予後予測因子の解析	第 22 回日本高齢消化器病学会総会	神戸ポートピアホテル	2019 年 8 月 2-3 日
Tadakazu Hisamatsu, Bruce E. Sands, Colleen Marano	Efficacy and Safety of Ustekinumab as Maintenance Therapy in Ulcerative Colitis: Week 44 Results from UNIFI	第 105 回日本消化器病学会総会	石川県立音楽堂	2019 年 5 月 9 日
根本展希, 櫻庭彰人, 池崎 修, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 林田真理, 久松理一	病変範囲を考慮した潰瘍性大腸炎における便中バイオマーカーの特性についての検討	第 105 回日本消化器病学会総会	ホテル日航金沢	2019 年 5 月 11 日
久松理一, 鈴木康夫, 栗本沙理奈, 日比紀文	クローン病を対象としたアダリムマブ長期使用での安全性と有効性の検討: 特定使用成績調査 (DEEP survey)	第 105 回日本消化器病学会総会	ホテル金沢	2019 年 5 月 10 日
久松理一	IBD における便バイオマーカーの展望と課題	第 105 回日本消化器病学会総会	ホテル日航金沢	2019 年 5 月 9 日
Sandborn WJ, Sands BE, Panaccione R, O'Brien CD, Zhang H, Johanss J, Peyrin-Biroulet L, Van Assche G, Danese S, Targan SR, Abreu MT, Hisamatsu T, Szapary TP, Marano C.	Efficacy and safety of ustekinumab as maintenance therapy in ulcerative colitis: Week 44 results from UNIFI (Oral Presentation).	14th Congress of ECCO,	Copenhagen.	2019 年 3 月 6-9 日
Hisamatsu T, Kato S, Kunisaki R, Matsuura M, Nagahori M, Motoya S, Esaki M, Fukata M, Inoue S, Sugaya T, Sakuraba H, Hirai F, Watanabe K, Kanai T, Naganuma M, Nakase H, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T, Nojima M, Matsumoto T, DIAMOND2 Study Group.	Withdrawal of thiopurines in Crohn's disease treated with scheduled adalimumab maintenance: a prospective randomised clinical trial (DIAMOND2) (Digital Oral Presentation).	14th Congress of ECCO,	Copenhagen.	2019 年 3 月 6-9 日
Van Assche G, Targan SR, Baker T, O'Brien CD, Zhang H, Johanss J, Szapary P, Marano C, Leong RW, Rowbotham D, Hisamatsu T, Danese S, Sands BE, Peyrin-Biroulet L.	Sustained remission in patients with moderate to severe ulcerative colitis: Results from the Phase 3 UNIFI maintenance study. (Digital Oral Presentation).	14th Congress of ECCO,	Copenhagen.	2019 年 3 月 6-9 日
Nemoto N, Sakuraba A, Ozaki R, Sato T, Tokunaga S, Kikuchi O, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Saito D, Hayashida M, Yoneyama M, Mori H, Ohnishi H, Hisamatsu T.	Value of faecal biomarkers are affected by extension of inflammation in ulcerative colitis (Poster Presentation).	14th Congress of ECCO,	Copenhagen.	2019 年 3 月 6-9 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Adedokun OJ, Xu Z, Marano C, O'Brien CD, Szapary P, Zhang H, Johanns J, Leong RW, Hisamatsu T, Van Assche G, Danese S, Abreu MT, Sands BE, Sandborn WJ.	Pharmacokinetics and exposure-response relationships of intravenously administered ustekinumab during induction treatment in patients with ulcerative colitis: Results from the UNIFI induction study (Poster Presentation).	14th Congress of ECCO,	Copenhagen.	2019年3月6-9日
Lichtenstein G.R., Tinsley A., Roblin X., Hisamatsu T., Vong C., Tsuchiwa S., Tsilkos K., Zhang H., Mukherjee A., Su C.7, Rubin D.T.	BASELINE ALBUMIN LEVEL IS NOT A SIGNIFICANT PREDICTOR OF TOFACITINIB EFFICACY IN PATIENTS WITH ULCERATIVE COLITIS: RESULTS OF MULTIVARIATE EXPOSURE-RESPONSE ANALYSIS	ACG 2018	Philadelphia, Pennsylvania	2018年10月5-10日
Sands, BE, M.D., Sandborn WJ, M.D., Panaccione R, M.D., O'Brien CD, M.D., Ph.D., Zhang H., Ph.D., Johanns J, Ph.D., Peyrin-Biroulet L., M.D., Ph.D., van Assche G, M.D., Ph.D., Danese S., M.D., Ph.D., Targan S., M.D., Abreu MT., M.D., Hisamatsu T, M.D., Ph.D., Szapary P., M.D., Marano C., Ph.D.	Safety and Efficacy of Ustekinumab Induction Therapy in Patients with Moderate to Severe Ulcerative Colitis: Results from the Phase 3 UNIFI Study.	ACG 2018	Philadelphia, Pennsylvania	2018年10月5-10日
Sands B.E., Sandborn W.J., Panaccione R., O'Brien C., Zhang H., Johanns J., Peyrin-Biroulet L., van Assche G., Danese S., Targan S., Abreu M.T., Hisamatsu T., Szapary P., Marano C.W.	SAFETY AND EFFICACY OF USTEKINUMAB INDUCTION THERAPY IN PATIENTS WITH MODERATE TO SEVERE ULCERATIVE COLITIS: RESULTS FROM THE PHASE 3 UNIFI STUDY	UEG Week 2018	Vienna, Austria.	2018年10月20-24日
Lichtenstein G.R., Tinsley A., Roblin X., Hisamatsu T., Vong C., Tsuchiwa S., Tsilkos K., Zhang H., Mukherjee A., Su C.7, Rubin D.T.	BASELINE ALBUMIN LEVEL IS NOT A SIGNIFICANT PREDICTOR OF TOFACITINIB EFFICACY IN PATIENTS WITH ULCERATIVE COLITIS: RESULTS OF MULTIVARIATE EXPOSURE-RESPONSE ANALYSIS	UEG Week 2018	Vienna, Austria.	2018年10月20-24日
Miura M, Saito D, Ozaki R, Kikuchi O, Sato T, Tokunaga S, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Sakuraba A, Hayashida M, Hisamatsu T.	Predictive factors of clinical remission by infliximab in ulcerative colitis.	The 6th Annual meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Shanghai, China	2018年6月21-23日
Tokunaga S, Saito D, Kikuchi O, Sato T, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Sakuraba A, Hayashida M, Hisamatsu T.	Risk factors for surgery in patients with ulcerative colitis.	The 6th Annual meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Shanghai, China	2018年6月21-23日
Hisamatsu T, Matsumoto T, Watanabe K, Nakase H, Motoya S, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima N, Watanabe M, Hibi T, DIAMOND study group.	CLINICAL FACTORS ASSOCIATED WITH DISCONTINUATION OF COMBO OR MONOTHERAPY FOR CROHN'S DISEASE: A SUB-ANALYSIS OF A PROSPECTIVE RANDOMIZED CLINICAL TRIAL (DIAMOND STUDY)	Digestive Disease Week	Washington DC.	2018年6月2-5日
Hisamatsu T, Sands BE, Sandborn WJ, Panaccione R, O'Brien CD, Zhang H, Johanns J, Peyrin-Biroulet L, van Assche G, Silvio Danese S, Targan S, Abreu MT, Szapary P, Colleen Marano C.	Safety and Efficacy of Ustekinumab Induction Therapy in Patients with Moderate to Severe Ulcerative Colitis: Results from the Phase 3 UNIFI Study	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	メルパルク京都	2018年11月22日
櫻庭彰人, 根本展希, 尾崎良, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 菊地翁輝, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 林田真理, 米山正芳, 大西宏明, 森秀明, 久松理一	潰瘍性大腸炎における便中バイオマーカーの罹患範囲を考慮した臨床活用について	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	メルパルク京都	2018年11月22日
菊地翁輝, 齋藤大祐, 日比則孝, 尾崎良, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 佐藤洋平, 櫻庭彰人, 林田真理, 大山学, 久松理一	線状IgA水疱性皮膚症を合併した潰瘍性大腸炎の1例	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	メルパルク京都	2018年11月22日
森久保拓, 小林拓, 尾崎良, 清原裕貴, 瀧上綾子, 松林真央, 左上晋太郎, 中野雅, 久松理一, 日比紀文	潰瘍性大腸炎における5-ASA製剤とチオプリン製剤の相互作用に関する研究	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	メルパルク京都	2018年11月22日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
梅野淳嗣, 冬野雄太, 松野雄一, 鳥巢剛弘, 江崎幹宏, 梁井俊一, 大宮直木, 久松理一, 渡辺憲治, 細江直樹, 緒方晴彦, 平井郁仁, 松井敏幸, 八尾恒良, 北園孝成, 松本主之, CEAS study group	非特異性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候について-全国調査報告-	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	メルパルク京都	2018年11月22日
三浦みき, 齋藤大祐, 森久保拓, 菊池翁輝, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 久松理一	潰瘍性大腸炎に対するInfliximabにおける臨床的寛解の予測因子の検討	JDDW 2018	神戸国際会議場	2018年11月1-4日
徳永創太郎, 齋藤大祐, 三浦みき, 森久保拓, 菊池翁輝, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 久松理一	入院潰瘍性大腸炎患者における外科手術基危険因子の検討	JDDW 2018	神戸国際会議場	2018年11月1-4日
關里和, 林田真理, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 田中弦, 櫻庭彰人, 木村徹, 櫻井裕之, 久松理一	CEASにおける変異SLC02A1トランスポーターの機能解析	第56回日本小腸学会	東京ガーデンパレス	2018年10月27日
久松理一	教育講演 3 炎症性腸疾患治療の新しい時代	第12回日本消化管学会教育集会	東京国際フォーラム	2018年9月9日
徳永創太郎, 齋藤大祐, 三浦みき, 尾崎良, 菊池翁輝, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 正木忠彦, 久松理一	潰瘍性大腸炎における外科手術の危険因子の検討-高齢者は危険因子となりうるか	第21回日本高齢消化器病学会	ホテルグランデはがくれ佐賀	2018年8月3-4日
齋藤大祐, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 久松理一	MEFV遺伝子解析を実施したIBD unclassifiedの検討 内視鏡所見を中心に	第106回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	シェーンパッハ・サボ-	2018年6月16-17日
Hisamatsu T.	AOCC Forum II What are the predicting factors for poor outcomes in IBD in Asia?	The 5th Abbuual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	ソウル	2017年6月17日
Saito D, Sato T, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Sakuraba A, Hayashida M, Tokunaga K, Mori H, Hismatsu T.	Evaluation of usefulness of Drug-induced Lymphocyte Stimulation Test (DLST) for the diagnosis of mesalazine allergy	The 5th Abbuual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	ソウル	2017年6月17日
Nakase N, Motoya S, Matsumoto T, Watanabe W, Hisamatsu T, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T.	ASSOCIATION BETWEEN PHARMACOKINETICS OF ADALIMUMAB AND DISEASE OUTCOME IN JAPANESE PATIENTS WITH BIOLOGICS NAIVE CROHN'S DISEASE: A SUBANALYSIS OF DIAMOND STUDY	Digestive Disease Week 2017	シカゴ	2017年5月6-9日
Watanabe K, Matsumoto T, Motoya S, Hisamatsu T, Nakase H, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Nagahori M, Esaki M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T.	COMPARISON OF ENDOSCOPIC RESPONSES TO ADALIMUMAB MONOTHERAPY AND COMBINATION THERAPY WITH AZATHIOPRINE IN PATIENTS WITH CROHN'S DISEASE: A SUB-ANALYSIS OF DIAMOND TRIAL	Digestive Disease Week 2017	シカゴ	2017年5月6-9日
三浦みき, 齋藤大祐, 森久保拓, 菊池翁輝, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 松岡弘芳, 森秀明, 正木忠彦, 久松理一	当院の入院潰瘍性大腸炎患者治療における内科と外科の連携	第14回日本消化管学会総会	京王プラザホテル	2018年2月9-10日
久松理一	炎症性腸疾患治療における新たに登場する分子標的治療薬 ~mode of action からみた抗TNFα抗体製剤との相違点~ (教育講演)	第204回日本消化器病学会東北支部例会 第160回日本消化器内視鏡学会東北支部例会	仙台国際センター	2018年2月2日
森久保拓, 三浦みき, 齋藤大祐, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 松岡弘芳, 正木忠彦, 久松理一	潰瘍性大腸炎患者治療における内科外科の連携-当院入院患者の成績から-	第8回日本炎症性腸疾患学会学術集会	TKP ガーデンシティ品川	2017年12月1日
久松理一	腸管ベーチットと単純性潰瘍	第45回日本潰瘍学会	ハイアットリージェンシー京都	2017年11月20-21日
久松理一	IBDの新規治療薬オーバービュー	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡国際会議場	2017年11月10-11日
齋藤大祐, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 徳永健吾, 森秀明, 久松理一	潰瘍性大腸炎におけるメサラジン製剤に対する薬剤リソパル球刺激試験の有用性の評価	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡国際会議場	2017年11月10-11日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
林田真理, 三浦みき, 徳永創太郎, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎 修, 三井達也, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 正木忠彦, 久松理一	当院におけるクローン病に対する外科治療適応症例についてのマネージメントについて	第 55 回日本小腸学会学術集会	京都メルパルク	2017 年 10 月 21 日
久松理一	患者目線で考える潰瘍性大腸炎の実臨床 医師と患者の認識の乖離 Discrepancy of physician-patient recognition in IBD	JDDW 2017	福岡国際会議場	2017 年 10 月 14 日
久松理一	日本発の DIAMOND スタディから見たもの What has been seen from analysis of the reason for withdrawal - Physician's concerns and the risk factor of withdrawal - (DIAMOND study sub-analysis)	JDDW 2017	福岡国際会議場	2017 年 10 月 13 日
齋藤大祐, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 徳永健吾, 森 秀明, 久松理一	潰瘍性大腸炎におけるメサラジン製剤に対する薬剤リンパ球刺激試験の有用性の評価	JDDW 2017	福岡国際会議場	2017 年 10 月 13 日
三浦みき, 齋藤大祐, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎 修, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 徳永健吾, 森 秀明, 久松理一	当院における潰瘍性大腸炎に対する抗 TNF- α 抗体製剤の治療成績	JDDW 2017	福岡国際会議場	2017 年 10 月 13 日
鈴木康夫, 渡辺 守, 松井敏幸, 本谷聡, 久松理一, 湯浅博俊, 田平淳一, 五十嵐直樹, 新井洋子, 日比紀文	活動期潰瘍性大腸炎患者におけるトファシニブ寛解維持試験 (国際共同 P3 臨床試験) の日本人部分集団解析	JDDW 2017	福岡国際会議場	2017 年 10 月 13 日
尾崎良, 小林拓, 齋藤詠子, 豊永貴彦, 岡林慎二, 梅田智子, 中野雅, 松岡健太郎, 森永正二郎, 久松理一, 日比紀文	潰瘍性大腸炎における組織学的再燃リスク因子の探索	JDDW 2017	福岡国際会議場	2017 年 10 月 13 日
久松理一	炎症性腸疾患に対する Linked Color Imaging の有用性	JDDW 2017	福岡国際会議場	2017 年 10 月 12 日
久松理一	IBD 治療の up to date	第 346 回 日本消化器病学会関東支部例会	海運クラブ	2017 年 9 月 30 日
久松理一	炎症性腸疾患と脊椎関節炎	第 27 回日本脊椎関節炎学会 学術集会	高知市文化プラザかるぼーと	2017 年 9 月 9 日
久松理一	炎症性腸疾患に対する分子標的治療の進歩	第 38 回日本炎症・再生医学会	大阪国際会議場	2017 年 7 月 18-19 日
久松理一	炎症性腸疾患治療の現在と今後の展望 (教育講演)	日本消化器病学会関東支部 第 30 回教育講演会	シェーンパッハ・サボ	2017 年 6 月 25 日
尾崎良, 小林拓, 齋藤詠子, 豊永貴彦, 岡林慎二, 梅田智子, 中野雅, 松岡健太郎, 森永正二郎, 久松理一, 日比紀文	潰瘍性大腸炎における大腸内視鏡下生検組織による臨床的再燃予測	第 93 回日本消化器内視鏡学会	大阪国際会議場	2017 年 5 月 11 - 13 日
久松理一	クローン病治療の新時代	第 103 回日本消化器病学会総会	京王プラザホテル	2017 年 4 月 20-22 日
Bruce E.Sands, William J. Sandborn, Laurent Peyrin-Biroulet, Peter DR Higgins, Fumihito Hirai, Vipul Jairath, Ruth Belin, Yan Dong, Elisa Gomez Valderas, Debra Miller, MaryAnn Morgan-Cox, April N. Naegeli, Paul Pollack, Jay Tuttle, Toshifumi Hibi.	Impact of Mirikizumab Treatment on Inflammatory Bowel Disease Questionnaire Scores in Patients With Moderate to Severely Active Crohn's Disease.	27 th United European Gastroenterology Week (UEGW)	バルセロナ	2019 年 10 月 19-23 日
Takeda T, Hirai F, Takatsu N, Kishi M, Beppu T, Yao K, Ueki T	Long-term outcomes of endoscopic balloon dilation for small-bowel strictures using double balloon enteroscopy in patients with Crohn's disease	14 th Congress of European Crohns and Colitis Organisation (ECCO)	コペンハーゲン	2019 年 3 月 6 日-9 日
阿部光市, 今給黎宗, 松岡弘樹, 向坂秀人, 松岡 賢, 萱嶋善行, 久能宣昭, 石橋英樹, 船越禎広, 竹田津英稔, 平井郁仁	迅速に行った小腸カプセル内視鏡検査が診断に有用であった小腸動静脈奇形の一例	第 13 回日本カプセル内視鏡学会総会	姫路	2020 年 2 月 9 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
平井郁仁、Bruce E Sands、William J. Sandborn、Laurent Peyrin-Biroulet、Peter DR Higgins、中條 航、里井洋一、Ruth Belin、Elisa Gomez Valderas、Debra Miller、MaryAnn Morgan-Cox、April Naegeli、Paul Pollack、Jay Tuttle、渡辺 守、日比紀文	Mirikizumab(抗 IL23p19 抗体製剤)の日本人を含むクローン病(CD)患者での第 相試験の12週の有効性及び安全性	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
平井郁仁、宇田晃仁、田中圭祐	大規模診療データ解析からみた本邦のクローン病治療及び診断の実態	第27回日本消化器関連学会週間(JDDW2019)	神戸	2019年11月21-24日
今給黎 宗、松岡弘樹、向坂秀人、松岡賢、萱嶋善行、久能宣昭、阿部光市、船越禎広、石橋英樹、竹田津英稔、平井郁仁	回腸末端に高度の潰瘍性病変を認めたIgA血管炎の一例	第57回日本小腸学会学術集会	大阪	2019年11月9日
久能宣昭、今給黎 宗、松岡弘樹、向坂秀人、松岡 賢、萱嶋善行、阿部光市、船越禎広、石橋英樹、竹田津英稔、平井郁仁	直腸尿道瘻を伴うクローン病に対しステクヌマブを投与し、外科的治療が回避できた1例	第114回日本消化器病学会九州支部例会	宮崎	2019年11月8-9日
柴田 衛、久能宣昭、阿部光市、北口恭規、松岡弘樹、今給黎 宗、向坂秀人、松岡 賢、萱嶋善行、船越禎広、石橋英樹、竹田津英稔、平井郁仁	典型的な全身症状を欠き、診断に難渋したループス腸炎の一例	第114回日本消化器病学会九州支部例会	宮崎	2019年11月8-9日
Kishi M, Hirai F, Yano Y, Takatsu N, Takada Y, Takeda T, Yao K, Ueki T	A Prospective Study to Assess the Effectiveness of Tacrolimus Therapy in Ulcerative Colitis	6 th Asian Organization for Crohn's & Colitis (AOCC)	上海	2018年6月21-23日
Fukushima Y, Kishi M, Yano Y, Hirai F, Ueki T	Use of ustekinumab in patients with refractory Crohn's disease at our hospital	6 th Asian Organization for Crohn's & Colitis (AOCC)	上海	2018年6月21-23日
高田康道、平井郁仁、武田輝之、別府剛志、岸 昌廣、矢野 豊、八尾建史、植木敏晴	当院における難治性クローン病に対するUstekinumabの使用経験	第26回日本消化器関連学会週間(JDDW2018)	神戸	2018年11月1-4日
Takada Y, Yasukawa S, Beppu T, Kishi M, Yano Y, Hirai F	Therapeutic efficacy and predictors of efficacy of infliximab in the treatment of refractory ulcerative colitis	5 th Asian Organization for Crohn's & Colitis (AOCC)	ソウル	2017年6月15日
Yasukawa S, Yano Y, Takada Y, Kishi M, Beppu T, Hisabe T, Takaki Y, Hirai F, Yao K, Ueki T, Matsui T	Clinical outcome and predictive factors influencing the efficacy of biological agents for intestinal Beçet disease	5 th Asian Organization for Crohn's & Colitis (AOCC)	ソウル	2017年6月15日
Yano Y, Takada Y, Yasukawa S, Beppu T, Hirai F, Yao K, Ueki T, Matsui T, Hirano Y, Higashi D, Futami K, Tanabe H, Iwashita A	Clinical features of colorectal cancer associated with Crohn's disease	5 th Asian Organization for Crohn's & Colitis (AOCC)	ソウル	2017年6月15日
Beppu T, Yasukawa S, Yamasaki K, Yano Y, Hirai F, Yao K, Ueki T, Matsui T, Hirano Y, Higashi D, Futami K, Chuman K, Tanabe H, Iwashita A	Clinical and pathological features of 4 cases of small intestine cancer occurring in association with Crohn's disease	5 th Asian Organization for Crohn's & Colitis (AOCC)	ソウル	2017年6月15日
平井郁仁、矢野 豊、岸 昌廣	クローン病の寛解維持治療における栄養療法の有用性と限界 - 抗 TNF- 抗体との併用例を中心に -	第21回日本病態栄養学会	京都	2018年1月12-14日
平井郁仁、岸 昌廣、高田康道、武田輝之、佐藤祐邦、別府剛志、矢野 豊	クローン病狭窄病変に対する内視鏡的バルーン拡張術の有用性	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10-11日
矢野 豊、高田康道、武田輝之、別府剛志、佐藤祐邦、岸 昌廣、平井郁仁、八尾建史、松井敏幸、植木敏晴	アダリムマブのクローン病に対する長期成績と効果減弱例に対する倍量投与の治療成績	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10-11日
渡辺憲治、西下正和、嶋本文雄、福知工、江崎幹宏、岡 志郎、藤井茂彦、平井郁仁、井上拓也、樋田信幸、野崎良一、櫻井俊治、竹内 健、猿田雅之、斎藤彰一、斎藤 豊、大宮直木、味岡洋一、川野怜諸、田中信治	潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡におけるNBI観察と色素内視鏡観察のランダム化比較試験: Navigator Study	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10-11日
山崎一朋、平井郁仁、久部高司、石原裕士、八坂達尚、矢野 豊、八尾建史、松井敏幸、二見喜太郎、岩下明徳	潰瘍性大腸炎におけるLow grade dysplasiaの取り扱いと経過	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10-11日
武田輝之、二宮風夫、久部高司、大門裕貴、高田康道、山岡梨乃、金城 健、佐藤祐邦、岸 昌廣、高津典孝、矢野 豊、平井郁仁、松井敏幸、八尾建史、植木敏晴	カプセル内視鏡による潰瘍性大腸炎とCrohn病の小腸病変の評価	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10-11日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
小島俊樹、長濱 孝、平井郁仁、八尾建史、植木敏晴、松井敏幸	当院における難治性クローン病に対するウステキヌマブの使用経験	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10-11日
宇野駿太郎、武田輝之、高田康道、山崎一朋、安川重義、別府剛志、岸 昌廣、矢野豊、平井郁仁、八尾建史、植木敏晴、松井敏幸、平野由紀子、東 大二郎、二見喜太郎、中馬健太、田邊 寛、岩下明德	クローン病に合併した早期小腸癌の一例	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10-11日
別府剛志、矢野 豊、平井郁仁、武田輝之、山崎一朋、植木敏晴、八尾建史、松井敏幸、平野由紀子、東大二郎、二見喜太郎、中馬健太、田邊 寛、岩下明德	クローン病に合併した小腸癌の臨床的特徴	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10-11日
渡辺憲治、大宮直木、平井郁仁、松井敏幸	クローン病診断におけるカプセル内視鏡の有用性：J-POP Study 追加検討から	第 55 回日本小腸学会	京都	2017年10月21日
別府剛志、山崎一朋、武田輝之、矢野豊、平井郁仁、八尾建史、植木敏晴、松井敏幸、平野由紀子、東大二郎、二見喜太郎、中馬健太、田邊 寛、岩下明德	術後病理組織検査にて診断し得たクローン病に合併した早期小腸癌の2例	第 55 回日本小腸学会	京都	2017年10月21日
平井郁仁、矢野 豊、岸 昌廣	クローン病狭窄病変に対する内視鏡的バルーン拡張術の有用性	第 25 回日本消化器関連学会週間（JDDW2017）	福岡	2017年10月12-15日
岸 昌廣、平井郁仁、矢野 豊、松井敏幸、高田康道、武田輝之、別府剛志、二宮風夫、山本博則、矢野智則、坂本長逸、三井啓吾、後藤秀実、中村正直、田中信治、岡 志郎、江崎幹宏、浅野光一、八尾建史、植木敏晴	3.2 鉗子チャンネル搭載 DBE を使用した EBD の有用性に関する検討	第 25 回日本消化器関連学会週間（JDDW2017）	福岡	2017年10月12-15日
山崎一朋、平井郁仁、久部高司、矢野 豊	潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡の有用性についての検討	第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	福岡	2017年5月19-20日
福島 浩平	Postoperative therapy with infliximab for Crohn's disease :A2-year prospective randomized multicenter study in japan	第 119 回日本外科学会	リーガロイヤルホテル大阪	2019年4月19日
福島浩平、斉藤 喬 東北大学大学院総合外科学 神山篤史、渡辺和宏 東北労災病院 高橋賢一、羽根田祥	回腸炎症治療における gyrA および parC 遺伝子変異	第 9 回日本炎症性腸疾患学会	メルパルク京都	2018年11月22日
Keisuke Hatahata, Hiroyuki Anzai, Hiroki Ikeuchi, Kouhei Fukushima, Akira Sugita Yasuo Suzuki, Toshiaki Watanabe	Optimizing surveillance colonoscopy for ulcerative colitis-associated colorectal cancer by assessing surgically resected cases: A multicenter retrospective study gastroentlogy 2017 :374-373	American Gastroenterological Association	シカゴ	2017年5月9日
神山篤史、杉田昭、渡辺聡明、池内浩基、二見喜太郎、鈴木康夫、仲瀬裕志、高橋賢一、渡辺和宏、福島浩平	本邦における潰瘍性大腸炎術後小腸出欠および重症小腸炎に関する検討	第 72 回日本大腸肛門病学会	福岡	2017年11月10日
東大二郎、平野由紀子、上床崇吾、林貴臣、増井友恵、小島大望、竹下一生、二見喜太郎、前川隆文	クローン病の穿孔型、非穿孔型の病態別にみた外科治療	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月18日
上床崇吾、東大二郎、平野由紀子、林貴臣、増井友恵、二見喜太郎、前川隆文	中毒性巨大結腸症を来し手術を行った潰瘍性大腸炎の検討	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019年7月17日
上床崇吾、竹下一生、小島大望、林貴臣、平野由紀子、東大二郎、三上公治、二見喜太郎、前川隆文	クローン病十二指腸狭窄に対するパイパス術、Jabouley 手術症例の検討	日本消化器病学会九州支部例会第 113 回例会	福岡	2019年5月25日
竹下一生、林貴臣、上床崇吾、小島大望、平野由紀子、東大二郎、三上公治、二見喜太郎、前川 隆文	サーベイランスにより早期発見できたクローン病に合併した小腸癌	第 56 回九州外科学会	鹿児島	2019年5月17日
小島大望、三上公治、林貴臣、竹下一生、増井友恵、上床崇吾、永田旭、横研二、平野由紀子、平野公一、吉田康浩、東大二郎、二見喜太郎、前川隆文	ハルトマン手術後の人工肛門閉鎖の工夫	第 56 回九州外科学会	鹿児島	2019年5月17日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
二見喜太郎	炎症性腸疾患に対する外科治療の成績と方向性 クローン病に対する外科治療のこれまでとこれから	第119回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019年4月20日
東大二郎, 平野由紀子, 二見喜太郎, 上床崇吾, 林貴臣, 小島大望, 平野公一, 横研二, 増井友恵, 竹下一生, 吉田康浩, 永田旭, 三上公治, 前川隆文	下部消化管癌を合併したクローン病患者の外科治療とサーベイランス	第119回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019年4月18日
Futami K, Higashi D, Hirano Y	Long-term clinical study of Perianal lesion with Crohn's Disease.	Falk symposium 2018	京都	2018年9月7日
東大二郎, 平野由紀子, 二見喜太郎, 小島大望, 林貴臣, 前川隆文, 平井郁仁	検査発見によるクローン病下部消化管癌合併症	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2018年11月10日
上床崇吾, 東大二郎, 平野由紀子, 小島大望, 二見喜太郎, 前川隆文	クローン病十二指腸病変に対する外科治療	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2018年11月10日
二見喜太郎	IBD治療における内科・外科・肛門科の連携 特別発言	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2018年11月9日
東大二郎, 平野由紀子, 林貴臣, 二見喜太郎, 前川隆文	クローン病合併大腸癌症例の臨床的特徴	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月11日
安川重義, 佐藤祐邦, 矢野豊, 久部高司, 平井郁仁, 植木敏晴, 松井敏幸, 東大二郎, 二見喜太郎, 鷲尾 昌一	当院におけるクローン病患者の生命予後と死因の検討	第104回日本消化器病学会総会	東京	2018年4月20日
東大二郎, 二見喜太郎, 平野由紀子, 林貴臣, 増井友恵, 上床崇吾, 長野秀紀, 愛洲尚哉, 横研二, 平野公一, 諸鹿俊彦, 濱武大輔, 三上公治, 前川隆文	クローン病における外科治療の現状と今後の課題	第118回日本外科学会定期学術集会	東京	2018年4月5日
東大二郎, 二見喜太郎, 平野由紀子, 上床崇吾, 前川隆文, 松井敏幸	当科における潰瘍性大腸炎の術後経過についての検討	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10日
平野由紀子, 東大二郎, 二見喜太郎, 前川隆文, 松井敏幸	クローン病に合併した下部消化管癌についての検討	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10日
二見喜太郎	内科治療の進歩からみたIBDに対する外科治療の変遷	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月10日
東大二郎, 平野由紀子, 上床崇吾, 山本希治, 林貴臣, 増井友恵, 二見喜太郎, 前川隆文	クローン病十二指腸瘻孔に対する外科治療	第72回日本消化器外科学会総会	金沢	2017年7月20日
二見喜太郎, 東大二郎, 平野由紀子, 上床崇吾, 平野公一, 三上公治, 前川隆文	手術症例からみたIBD癌サーベイランスの有用性と問題点	日本消化器病学会九州支部例会第109回例会	福岡	2017年5月19日
宇野駿太郎, 小島俊樹, 石川智士, 石原裕士, 久部高司, 平井郁仁, 八尾健史, 松井敏幸, 植木敏晴, 平野由紀子, 東大二郎, 二見喜太郎, 原岡誠司, 岩下明徳	腸重積を伴った上行結腸悪性リンパ腫の1例	第93回日本消化器内視鏡学会総会	大阪	2017年5月13日
東大二郎, 平野由紀子, 二見喜太郎, 林貴臣, 増井友恵, 上床崇吾, 山本希治, 前川隆文	下部消化管癌を合併したクローン病症例の検討	第117回日本外科学会定期学術集会	横浜	2017年4月27日
Chikako Watanabe, Motohiro Esaki, Kenji Watanabe, Shiro Nakamura, Hirokazu Yamagami, Naoki Yoshimura, Makoto Naganuma, Katsuyoshi Matsuoka, Kaoru Yokoyama, Toshimitsu Fujii, Masakazu Nagahori, Taku Kobayashi, Toshifumi Hibi, Ryota Hokari	NON-ADHERENCE TO MAINTENANCE MEDICATIONS IS COMMON IN PREGNANT ULCERATIVE COLITIS PATIENTS AND CONTRIBUTE TO DISEASE FLARES AND ADVERSE PREGNANCY OUTCOMES-A MULTICENTER PROSPECTIVE STUDY.	DIGESTIVE DISEASE WEEK 2019	米国サンディエゴ	2019年5月19日
角田 知之, 松尾 洋孝, 穂苅 量太	血清尿酸値は小腸上障害のマーカーとなる ABCG2 遺伝子解析による病態生理学モデルの提唱	第59回日本消化器病学会大会	福岡	2017年10月13日
岡田義清, 穂苅 量太, 三浦 総一郎	米みそ由来新規プロバイオティック酵母の実験大腸炎に対する抑制効果とその作用機序	第103回日本消化器病学会総会	東京	2017年4月22日
古橋廣崇, 三浦総一郎, 穂苅量太	乳化剤がNSAID腸炎を増悪させる機序について	第103回日本消化器病学会総会	東京	2017年4月22日
Umeno J, Fuyuno Y, Torisu T, Hirano A, Esaki M, Yanai S, Ohmiya N, Hisamatsu T, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hirai F, Hisabe T, Matsui T, Yao T, Kitazono T, Matsumoto T, CEAS Study Group	A nationwide survey of chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene in Japan	The 15th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation	Vienna, Austria	2020, 2

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Okamoto D, Kakuta Y, Takeo N, Moroi R, Kuroha M, Kanazawa Y, Hisashi S, Fuyuno Y, Umeno J, Hirano A, Torisu T, Nakamura M, Esaki M, Matsumoto T, Kinouchi Y, Masamune A	Genetic analysis of ulcerative colitis in Japanese individuals using population-specific SNP array	The 15th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation	Vienna, Austria	2020, 2
Okamoto Y, Esaki M, Morishita T, Hara Y, Hirano A, Umeno J, Maehata Y, Kobayashi H, Ishikawa H, Torisu T, Matsumoto T, and Kitazono T	Preventive effect of lactobacillus salivarius wb21 on small bowel injuries in subjects who take both nsaid and ppi: a randomized, double-blind, placebo-controlled trial	27th United European Gastroenterology Week	Barcelona, Spain	2019, 10
Matsuno Y, Umeno J, Esaki M, Hirakawa Y, Fuyuno Y, Okamoto Y, Yasukawa S, Hirai F, Watanabe K, Hosoe N, Kochi S, Kurahara K, Yao T, Kitazono T, and Matsumoto T	Usefulness of Prostaglandin E-major urinary metabolite measurement for the differentiation between chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene (CEAS) and Crohn's disease.	Asian Pacific Association of Gastroenterology	Cebu, Philippine	2018, 9
梅野淳嗣, 冬野雄太, 松野雄一, 鳥巢剛弘, 江崎幹宏, 梁井俊一, 大宮直木, 久松理一, 渡辺憲治, 細江直樹, 緒方晴彦, 平井郁仁, 松井敏幸, 八尾恒良, 北園孝成, 松本主之, CEAS study group.	非特異性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候について - 全国調査報告 -	第9回日本炎症性腸疾患学会	京都	2018, 11
松野雄一, 梅野淳嗣, 平川洋一郎, 冬野雄太, 岡本康治, 安川重義, 平井郁仁, 渡辺憲治, 細江直樹, 河内修司, 蔵原晃一, 八尾恒良, 鳥巢剛弘, 北園孝成, 松本主之, 江崎幹宏	CEASとCrohn病の鑑別における尿中プロスタグランジンE主要代謝産物濃度測定の有用性に関する検討	第9回日本炎症性腸疾患学会	京都	2018, 11
梁井俊一, 中村昌太郎, 川崎啓祐, 永塚真, 上杉憲幸, 梅野淳嗣, 菅井有, 松本主之	非特異性多発性小腸潰瘍症とクローン病の上部消化管粘膜におけるSLC02A1蛋白発現	第56回日本小腸学会学術集会	東京	2018, 10
Esaki M, Washio E, Morishita T, Sakamoto K, Fuyuno Y, Hirano A, Umeno J, Kitazono T, Matsumoto T, Suzuki Y	Inter- and intra-observer variation of capsule endoscopic findings for the diagnosis of Crohn's disease: A case control study	The 14th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation	Vienna, Austria	2018, 3
Nagata Y, Esaki M, Hirano A, Umeno J, Maehata Y, Torisu T, Moriyama T, Matsumoto T, Kitazono T	The preventive effect of anti-tumor necrosis factor therapy against initial intestinal surgery in patients with Crohn's disease	The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Seoul, Korea	2017, 6
Nuki Y, Umeno J, Washio E, Maehata Y, Hirano A, Kobayashi H, Kitazono T, Matsumoto T, Esaki M	Influence of cytochrome P450 2C19 polymorphisms on exacerbating effect of proton pump inhibitor in nonsteroidal anti-inflammatory drugs-induced small bowel injury.	Digestive Disease Week 2017	Chicago, USA	2017, 5
伊藤貴伸, 星雄介, 本間貴士, 角田文彦, 虻川大樹, 武山淳二	TNF- 阻害薬関連血管炎を発症した潰瘍性大腸炎の1例	第46回日本小児栄養消化器肝臓学会	奈良市	2019年11月2日
鈴鴨由美子, 鈴木千鶴, 伊藤貴伸, 星雄介, 本間貴士, 角田文彦, 虻川大樹	当院における小児炎症性腸疾患の成人移行期支援の取り組み	第45回日本小児栄養消化器肝臓学会	さいたま市	2018年10月7日
内田崇, 菊池敦生, 虻川大樹, 余田篤, 大沼真輔, 水落建輝, 南部隆亮, 藤原伸一, 石毛崇, 柏原俊彦, 笹原洋二, 呉繁夫	小児期発症腸管疾患に関する網羅的ゲノム解析: 本邦における多施設研究	第45回日本小児栄養消化器肝臓学会	さいたま市	2018年10月6日
Usami M, Takeuchi I, Shoji H, Kudo T, Jimbo K, Nambu R, Iwama I, Hara T, Shimizu H, Shimizu T, Arai K.	Evaluation of Deficient Nutrients in Infants and Toddlers Mainly Taking Amino-Acids Based Low-Fat Formula: Exploratory Study.	Pediatric Gastroenterology, Hepatology & Nutrition, KTJ Meeting 2019	Seoul, Korea	2019年10月20日
Arai K, Tanaka M, Shimizu H, Akemoto Y, Takeuchi I, Irie R, Yoshioka T.	Impaired plasmacytosis as a characteristic histological finding of very early-onset inflammatory bowel disease.	5th International Symposium on Paediatric Inflammatory Bowel Disease	Budapest, Hungary	2019年9月12日
Shimizu H, Arai K, Takahashi T, Asahara T, Tsuji H, Matsumoto S, Takeuchi I, Kyodo R, Yamashiro Y.	Stool preparation under anaerobic conditions contributes to retaining obligate anaerobes for faecal microbiota transplantation.	5th International Symposium on Paediatric Inflammatory Bowel Disease	Budapest, Hungary	2019年9月12日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
石毛崇, 村越孝次, 国崎玲子, 萩原真一郎, 清水泰岳, 齋藤武, 中山佳子, 柳忠宏, 井上幹大, 熊谷秀規, 岩間達, 望月貴博, 田尻仁, 平野友梨, 新井勝大.	日本小児IBDレジストリ報告 2020: 小児クローン病治療の経時的変化.	第20回日本小児IBD研究会	神奈川	2020年2月2日
竹内一朗, 清水泰岳, 京戸玲子, 佐藤琢郎, 宇佐美雅章, 伊藤夏希, 平野友梨, 新井勝大.	小児期発症クローン病患者に対するウステキヌマブの使用経験.	第20回日本小児IBD研究会	神奈川	2020年2月2日
平野友梨, 板橋道朗, 齋藤武, 内田恵一, 井上幹大, 新井勝大, 平山敦大, 木村英明, 国崎玲子.	思春期に大腸全摘術を受けた潰瘍性大腸炎患者の手術に対する心理的受容の検討.	第20回日本小児IBD研究会	神奈川	2020年2月2日
新井勝大, 田中正則, 清水泰岳, 明本由衣, 竹内一朗, 義岡孝子.	超早期発症型炎症性腸疾患の病理組織所見の検討.	第20回日本小児IBD研究会	神奈川	2020年2月2日
石原潤, 新井勝大, 工藤孝広, 南部隆亮, 田尻仁, 青松友槻, 阿部直紀, 垣内俊彦, 橋本邦生, 十河剛, 高橋美智子, 恵谷ゆり, 坂本廣高, 小西健一郎, 水落建輝.	本邦の小児炎症性腸疾患における血清亜鉛・セレンの検討: 後方視的多施設研究.	第20回日本小児IBD研究会	神奈川	2020年2月2日
水落建輝, 新井勝大, 工藤孝広, 南部隆亮, 田尻仁, 青松友槻, 阿部直紀, 垣内俊彦, 橋本邦生, 十河剛, 高橋美智子, 恵谷ゆり, 高木祐吾, 小西健一郎, 石原潤, 樽井俊介, 光山慶一.	小児潰瘍性大腸炎の診断における血清PR3-ANCAの有用性: 前方視的多施設研究.	第20回日本小児IBD研究会	神奈川	2020年2月2日
石毛崇, 新井勝大, 工藤孝広, 江口英孝, 竹内一朗, 西澤拓哉, 神保圭佑, 岡崎康司, 清水俊明.	国内における遺伝性炎症性腸疾患疑い症例の診断体制構築のための研究.	第20回日本小児IBD研究会	神奈川	2020年2月2日
新井勝大, 清水俊明, 工藤孝広, 清水泰岳, 細井賢二, 大塚宜一, 石毛崇, 内田恵一, 田尻仁, 鈴木康夫.	本邦における腸早期発症型炎症性腸疾患(VEO-IBD)の実態解明と診断基準の作成.	厚生労働科学研究費 難治性疾患政策研究事業 「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度 第2回総会	東京	2020年1月23日
石毛崇, 村越孝次, 国崎玲子, 萩原真一郎, 清水泰岳, 齋藤武, 中山佳子, 柳忠宏, 井上幹大, 熊谷秀規, 岩間達, 望月貴博, 田尻仁, 平野友梨, 新井勝大.	日本小児炎症性腸疾患レジストリを用いた小児期発症クローン病に対する栄養療法の使用実態の解析.	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
水落建輝, 新井勝大, 工藤孝広, 南部隆亮, 田尻仁, 青松友槻, 阿部直紀, 垣内俊彦, 橋本邦生, 十河剛, 高橋美智子, 恵谷ゆり, 高木祐吾, 小西健一郎, 石原潤, 樽井俊介, 光山慶一.	小児潰瘍性大腸炎の診断における血清PR3-ANCAの有用性: 前方視的多施設研究.	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
石原潤, 新井勝大, 工藤孝広, 南部隆亮, 田尻仁, 青松友槻, 阿部直紀, 垣内俊彦, 橋本邦生, 十河剛, 高橋美智子, 恵谷ゆり, 坂口廣高, 小西健一郎, 水落建輝.	小児炎症性腸疾患における血清亜鉛およびセレン値の検討: 後方視的多施設研究.	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
平野友梨, 野村智実, 清水泰岳, 竹内一朗, 田中恭子, 新井勝大.	思春期炎症性腸疾患患者におけるQOLの低下とメンタルヘルスの障害についての調査研究.	第32回日本総合病院精神医学会総会	岡山	2019年11月15日
河合利尚, 竹内一朗, 清水泰岳, 新井勝大.	慢性肉芽腫性腸炎におけるサリドマイドの治療効果と生体防御機構への影響.	第46回日本小児栄養消化器肝臓学会	奈良	2019年11月3日
石毛崇, 村越孝次, 国崎玲子, 萩原真一郎, 清水泰岳, 齋藤武, 中山佳子, 柳忠宏, 井上幹大, 熊谷秀規, 岩間達, 望月貴博, 田尻仁, 平野友梨, 新井勝大.	日本小児炎症性腸疾患レジストリを用いた小児期発症クローン病に対する栄養療法の使用実態の解析.	第46回日本小児栄養消化器肝臓学会	奈良	2019年11月3日
新井勝大, 石毛崇, 工藤孝広, 岡崎康司, 江口英孝, 神保圭佑, 竹内一朗, 西澤拓哉, 清水俊明.	超早期発症型炎症性腸疾患に対するシームレスな診断・治療・研究体制の構築研究.	第46回日本小児栄養消化器肝臓学会	奈良	2019年11月2日
京戸玲子, 清水泰岳, 竹内一朗, 平野友梨, 伊藤夏希, 宇佐美雅章, 佐藤琢郎, 清水俊明, 新井勝大.	国立成育医療研究センターにおける小児期発症炎症性腸疾患の診療経験.	第46回日本小児栄養消化器肝臓学会	奈良	2019年11月2日
伊藤夏希, 竹内一朗, 京戸玲子, 宇佐美雅章, 佐藤琢郎, 清水泰岳, 平野友梨, 清水俊明, 新井勝大.	潰瘍性大腸炎からクローン病に診断が変更となった症例の検討.	第46回日本小児栄養消化器肝臓学会	奈良	2019年11月2日
小林まどか, 中尾寛, 伊藤夏希, 竹内一朗, 清水泰岳, 新井勝大, 窪田満.	右股関節炎を初発症状とした潰瘍性大腸炎の一例.	第46回日本小児栄養消化器肝臓学会	奈良	2019年11月2日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
石原潤, 新井勝大, 工藤孝広, 南部隆亮, 田尻仁, 青松友槻, 阿部直紀, 垣内俊彦, 橋本邦生, 十河剛, 小西健一郎, 水落建輝, 高橋美智子, 恵谷ゆり.	小児炎症性腸疾患における血清亜鉛およびセレン値の検討 後方視的多施設研究.	第46回日本小児栄養消化器肝臓学会	奈良	2019年11月2日
竹内一朗, 船山理恵, 東海林宏道, 南部隆亮, 神保圭佑, 原朋子, 工藤孝広, 清水泰岳, 野村伊知郎, 岩間達, 清水俊明, 新井勝大.	成分栄養剤による栄養管理が行われている乳幼児を対象とした栄養素欠乏の探索的研究.	第46回日本小児栄養消化器肝臓学会	奈良	2019年11月2日
新井勝大, 河合利尚, 清水俊明, 鈴木康夫.	慢性肉芽腫症に関連する腸炎患者を対象としたサリドマイド口腔内崩壊錠のプラセボ対照二重盲検比較試験.	厚生労働科学研究費 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度 第1回総会	東京	2019年7月25日
新井勝大, 清水俊明, 工藤孝広, 石毛崇, 清水泰岳, 細井賢二, 大塚宜一, 内田恵一, 田尻仁, 鈴木康夫.	本邦における超早期発症型炎症性腸疾患 (VE0-IBD) の実態解明と診断基準の作成.	厚生労働科学研究費 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度 第1回総会	東京	2019年7月25日
新井喜康, 久保圭佑, 伊藤夏希, 時田万英, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 細井賢二, 工藤孝広, 大塚宜一, 小坂征太郎, 矢崎悠汰, 越智崇徳, 山高篤行, 竹内一朗, 清水泰岳, 新井勝大, 吉村聡, 加藤元博, 清水俊明.	IL-10 受容体異常による超早期発症型炎症性腸疾患と診断した1乳児例.	第122回日本小児科学会 学術集会	金沢	2019年4月20日
水落建輝, 新井勝大, 工藤孝広, 南部隆亮, 青松友槻, 阿部直紀, 垣内俊彦, 橋本邦生, 十河剛, 田尻仁.	小児クローン病の診断における血清マーカーACP353の有用性 前方視的多施設研究.	第122回日本小児科学会 学術集会	金沢	2019年4月20日
清水泰岳, 竹内一朗, 新井勝大, 大西英理子, 嘉村浩美, 秦健一郎, 清水俊明.	小児潰瘍性大腸炎患者8例に対する抗菌薬前処置併用糞便移植の実施経験.	第122回日本小児科学会 学術集会	金沢	2019年4月20日
Toita N, Tanaka H, Arai K, Shimizu H, Abukawa D, Kobayashi T, Yoshimura N, Tanida S, Hosoi E.	Safety and effectiveness of granulocyte and monocyte adsorptive apheresis in paediatric patients with inflammatory bowel disease: a multicentre cohort study.	14 th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation.	Copenhagen, Denmark	2019年3月6日
Shimizu H, Ohnishi E, Arai K, Takeuchi I, Kamura H, Hata K.	Outcome of the repetitive fecal microbiota transplantation using fecal solution prepared under the anaerobic condition following the antibiotic pretreatment in eight children with ulcerative colitis.	Crohn's & Colitis Congress 2019	Las Vegas, USA	2019年2月7日
Takeuchi I, Shimizu H, Tokita K, Hirano Y, Arai K.	Ustekinumab Treatment for Patients with Pediatric-Onset Crohn's Disease in a Tertiary Children's Hospital.	The 14th Asian Pan - Pacific Society of Pediatric Gastroenterology, Hepatology and Nutrition Meeting	Bangkok, Thailand	2018年10月24日
Tokita K, Shimizu H, Takeuchi I, Shimizu T, Arai K.	Golimumab for pediatric-onset ulcerative colitis; A single center experience.	The 6 th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Shanghai, China	2018年6月23日
新井勝大, 村越孝次, 国崎玲子, 南部隆亮, 加藤沢子, 齋藤武, 水落建輝, 井上幹大, 熊谷秀規, 又吉慶, 石毛崇, 望月貴博, 田尻仁, 日衛嶋栄太郎, 青松友槻, 工藤孝広, 西亦繁雄, 清水泰岳, 平野友梨, 清水俊明.	日本小児炎症性腸疾患レジストリ研究 2019 診断後3年間での治療の実態.	第19回日本小児IBD研究会	大阪	2019年2月3日
水落建輝, 新井勝大, 工藤孝広, 南部隆亮, 田尻仁, 青松友槻, 阿部直紀, 垣内俊彦, 橋本邦生, 十河剛, 高橋美智子, 恵谷ゆり, 高木祐吾, 小西健一郎, 石原潤, 樽井俊介, 小原仁, 角間辰之, 光山慶一.	複数の血清抗体の比較と組み合わせによる小児クローン病診断法の検討: 前方視的多施設研究.	第19回日本小児IBD研究会	大阪	2019年2月3日
石毛崇, 村越孝次, 国崎玲子, 萩原真一郎, 清水泰岳, 齋藤武, 中山佳子, 柳忠宏, 井上幹大, 熊谷秀規, 岩間達, 望月貴博, 田尻仁, 平野友梨, 新井勝大.	小児期発症クローン病における栄養療法による維持療法の有用性・維持効果の検討 日本小児炎症性腸疾患レジストリ研究 2019.	第19回日本小児IBD研究会	大阪	2019年2月3日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
竹内一朗, 河合利尚, 谷口公介, 京戸玲子, 佐藤琢郎, 清水泰岳, 右田王介, 小野寺雅史, 秦健一郎, 新井勝大.	小児希少・未診断疾患イニシアチブ (IRUD-P) による小児炎症性腸疾患患者における全エクソーム解析の成果と今後の展望.	第 19 回日本小児 I B D 研究会	大阪	2019 年 2 月 3 日
竹内一朗, 吉田美智子, 清水泰岳, 京戸玲子, 佐藤琢郎, 庄司健介, 宮入烈, 新井勝大.	超早期発症型炎症性腸疾患加療中の 6 歳男児に生じた B C G 頸部リンパ節炎の一例.	第 15 回日本小児消化管感染症研究会	大阪	2019 年 2 月 2 日
清水泰岳, 京戸玲子, 佐藤琢郎, 竹内一朗, 今留謙一, 新井勝大.	「炎症性腸疾患: シームレスなアプローチを目指して」Special situation におけるコンセンサスとピットフォール 小児期・青年期 I B D 患者におけるチオプリン製剤の使用について.	第 15 回日本消化管学会総会学術集会	佐賀	2019 年 2 月 2 日
清水泰岳, 大西英理子, 竹内一朗, 嘉村浩美, 秦健一郎, 新井勝大.	微生物叢から見た消化管病態の新知見 小児潰瘍性大腸炎 8 例に対する抗菌薬前処置併用複数回反復糞便移植の報告.	第 15 回日本消化管学会総会学術集会	佐賀	2019 年 2 月 1 日
新井勝大, 清水俊明, 工藤孝広, 清水泰岳, 細井賢二, 大塚宜一, 石毛崇, 内田恵一, 田尻仁, 鈴木康夫.	本邦における超早期発症炎症性腸疾患 (VE0-IBD) の実態解明と診断標準の作成.	厚生労働科学研究費 難治性疾患等政策研究事業 「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成 30 年度 第 2 回総会	東京	2019 年 1 月 17 日
水落建輝, 新井勝大, 工藤孝広, 南部隆亮, 田尻仁, 青松友槻, 阿部直紀, 垣内俊彦, 橋本邦生, 十河剛, 高橋美智子, 恵谷ゆり, 高木祐吾, 小西健一郎, 石原潤, 樽井俊介, 光山慶一.	新規血清マーカー ACP353 の小児クローン病診断に対する有用性: 前方視的多施設研究.	第 9 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都	2018 年 11 月 22 日
水落建輝, 新井勝大, 工藤孝広, 南部隆亮, 青松友槻, 阿部直紀, 垣内俊彦, 橋本邦生, 十河剛, 田尻仁, 高橋美智子, 恵谷ゆり, 光山慶一.	新規血清マーカー ACP353 の小児クローン病診断に対する有用性・前方視的多施設研究.	第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会	埼玉	2018 年 10 月 7 日
丘逸宏, 竹内一朗, 清水泰岳, 清水俊明, 新井勝大.	小児 I B D 患者における MR enterography の実施経験.	第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会	埼玉	2018 年 10 月 7 日
時田万英, 清水泰岳, 竹内一朗, 清水俊明, 新井勝大.	成育医療研究センターにおける小児期発症潰瘍性大腸炎に対するゴリムマブの使用経験.	第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会	埼玉	2018 年 10 月 6 日
細井賢二, 新井勝大, 平野友梨, 清水泰岳, 宮入烈, 亀井宏一, 伊藤秀一, 藤原武男, 清水俊明.	小児炎症性腸疾患患者における B 型肝炎ワクチン接種の効果と安全性.	第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会	埼玉	2018 年 10 月 6 日
竹内一朗, 清水泰岳, 時田万英, 新井勝大.	当院における小児期発症 I B D 患者に対する全エクソーム解析の実績.	第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会	埼玉	2018 年 10 月 6 日
土田奈緒美, 宮武聡子, 桐野洋平, 石川尊士, 田村英一郎, 河合利尚, 内山徹, 新井勝大, 松本直通, 小野寺雅史.	周期性発熱およびペーチェット病症状を呈した A 2 0 ハプロ不全症.	第 9 回関東甲越疫疫不全症研究会	東京	2018 年 9 月 23 日
新井勝大, 清水俊明, 工藤孝広, 清水泰岳, 細井賢二, 大塚宜一, 内田恵一, 石毛崇, 田尻仁, 鈴木康夫.	本邦における超早期発症型炎症性腸疾患 (VE0-IBD) の実態解明と診断基準の作成.	厚生労働科学研究費 難治性疾患等政策研究事業 「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成 30 年度 第 1 回総会	東京	2018 年 7 月 26 日
新井勝大, 清水泰岳, 竹内一朗, 時田万英.	小児炎症性腸疾患診療における全消化管評価の有用性.	第 45 回日本小児内視鏡研究会	東京	2018 年 7 月 7 日
新井喜康, 神保圭佑, 伊藤夏希, 時田万英, 吉村良子, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 幾瀬圭, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明, 小坂征太郎, 矢崎悠太, 越智崇徳, 山高篤行, 竹内一朗, 清水泰岳, 新井勝大.	I L - 1 0 受容体異常症と診断した超早期発症型炎症性腸疾患の 1 乳児例.	第 45 回日本小児内視鏡研究会	東京	2018 年 7 月 7 日
竹内一朗, 時田万英, 清水泰岳, 新井勝大.	難治性肛門病変で発症し、インフチキシマブ (I F X) 導入後に、肛門機能廃絶による排便障害と、 I F X 効果減弱に伴う腸炎再燃と周期的発熱を呈した乳児期発症炎症性腸疾患の 1 女児例.	第 14 回仙台小児 I B D 研究会	仙台	2018 年 5 月 19 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
吉村聡, 寺島慶太, 木村由依, 白井了太, 山田悠司, 塩田曜子, 清谷知賀子, 大隅朋生, 吉田馨, 安藤理恵, 津村悠介, 竹内一朗, 加藤元博, 富澤大輔, 宮寄治, 新井勝大, 松本公一.	VIP 産生神経芽腫と炎症性腸疾患を合併していた難治性下痢症の幼児例.	第 121 回日本小児科学会 学会集會	福岡	2018 年 4 月 21 日
細井賢二, 新井勝大, 清水泰岳, 宮入烈, 亀井宏一, 伊藤秀一, 藤原武男, 清水俊明.	小児炎症性腸疾患患者における B 型肝炎ワクチン接種の効果と安全性.	第 121 回日本小児科学会 学会集會	福岡	2018 年 4 月 21 日
Shimizu H, Ohnishi E, Arai K, Takeuchi I, Kamura H, Hata K.	Outcome of the Repetitive Fecal Microbiota Transplantation Using Fecal Solution Prepared Under the Anaerobic Condition Following the Antibiotic Pretreatment in Eight Children with Ulcerative Colitis.	Crohn's & Colitis Congress	Las Vegas, USA	2018 年 2 月 7 日
Shimizu H, Arai K, Takeuchi I, Takahashi T, Asahara T, Tsuji H, Matsumoto S, Yamashiro Y.	Anaerobic Preparation Method of Solutions for Fecal Microbiota Transplantation is not Superior to Conventional Aerobic Method.	ADVANCES in INFLAMMATORY BOWEL DISEASES	Florida, USA	2017 年 11 月 10 日
Arai K, Takeuchi I, Kawai T, Oka I, Hirano Y, Funayama R, Onodera M, Hata K, Shimizu H.	Characteristics of very early onset-inflammatory bowel disease: a single center experience using a phenotypic classification.	4th International Symposium on Pediatric Inflammatory Bowel Disease	Barcelona, Spain	2017 年 9 月 14 日
Takeuchi I, Shimizu H, Oka I, Hirano Y, Arai K.	Inflammatory Bowel Disease in Children with Special Health Care Needs.	4th International Symposium on Pediatric Inflammatory Bowel Disease	Barcelona, Spain	2017 年 9 月 14 日
Funayama R, Takeuchi I, Oka I, Shimizu H, Yamaoka K, Nomura S, Hirano Y, Arai K.	Hypozincemia in children with IBD - a single center retrospective study -.	4th International Symposium on Pediatric Inflammatory Bowel Disease	Barcelona, Spain	2017 年 9 月 14 日
Arai K.	Is Nutritional Therapy Still Important in the Biologic Era?.	The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Seoul, Korea	2017 年 6 月 17 日
Hirano Y, Shimizu H, Oka I, Takeuchi I, Funayama R, Arai K.	Psychological Approach to Children with IBD: A Single Center Experience.	The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Seoul, Korea	2017 年 6 月 17 日
Oka I, Funayama R, Takeuchi I, Shimizu H, Shimizu T, Arai K.	Predictors of Small Intestine Transit Time of Video Capsule Endoscopy in Children and Adolescents with Inflammatory Bowel Disease.	The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Seoul, Korea	2017 年 6 月 17 日
Arai K, Takeuchi I, Kaburaki Y, Shimizu H, Oka I, Nagata S.	Infliximab therapy in very early onset inflammatory bowel disease: experience in Japanese children's Hospital.	The 50th Annual Congress of ESPGHAN	Prague, Czech Republic	2017 年 5 月 12 日
船山理恵, 竹内一朗, 東海林宏道, 南部隆亮, 神保圭佑, 原朋子, 工藤孝広, 丘逸宏, 清水泰岳, 野村伊知郎, 山岡和枝, 清水俊明, 新井勝大.	成分栄養剤による栄養管理が行われている乳幼児における脂溶性ビタミン欠乏の予備調査.	第 33 回日本静脈経腸栄養 学会学会集會	横浜	2018 年 2 月 23 日
新井勝大.	小児発症の炎症性腸疾患の現状とトランジション 小児期発症炎症性腸疾患患者のトランジションにおける課題と解決策の検討.	第 14 回日本消化管学会総 会学会集會	東京	2018 年 2 月 9 日
清水泰岳, 時田万英, 竹内一朗, 新井勝大.	「炎症性腸疾患: シームレスなアプローチを目指して」 Total Care から Microbiota まで 成育医療研究センターにおける小児潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブの長期成績.	第 14 回日本消化管学会総 会学会集會	東京	2018 年 2 月 9 日
時田万英, 清水泰岳, 竹内一朗, 清水俊明, 新井勝大.	小児期発症潰瘍性大腸炎に対するゴリムマブの使用経験.	第 18 回日本小児 I B D 研 究会	東京	2018 年 2 月 4 日
竹内一朗, 清水泰岳, 時田万英, 新井勝大.	小児期発症クローン病患者に対するウステキスマブの使用経験.	第 18 回日本小児 I B D 研 究会	東京	2018 年 2 月 4 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
齋藤武, 井上幹大, 国崎玲子, 南部隆亮, 村越孝次, 角田文彦, 石毛崇, 田尻仁, 水落建輝, 加藤沢子, 吉年俊文, 岩田直美, 吉田英生, 内田恵一, 清水泰岳, 平野友梨, 新井勝大.	日本小児炎症性腸疾患レジストリ研究報告 2018 手術症例の検討.	第 18 回日本小児 I B D 研究会	東京	2018 年 2 月 4 日
新井勝大, 清水俊明, 工藤孝広, 清水泰岳, 細井賢二, 大塚宜一, 内田恵一, 田尻仁, 鈴木康夫.	本邦における超早期発症型炎症性腸疾患 (V E O - I B D) の実態解明と診断基準の作成.	厚生労働科学研究費 難治性腸疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸疾患障害に関する調査研究」平成 29 年度第 2 回総会	東京	2018 年 1 月 18 日
新井勝大.	炎症性腸疾患治療における栄養管理の重要性を見つめ直す!小児クローン病診療における栄養療法の位置づけと問題点.	第 21 回日本病態栄養学会年次学術集会	京都	2018 年 1 月 14 日
清水泰岳, 時田万英, 竹内一朗, 新井勝大.	肛門病変を伴う難治性超早期発症炎症性腸疾患の 1 女児例.	第 2 回 Pediatric IBD Case Conference	東京	2017 年 12 月 16 日
竹内一朗, 右田王介, 河合利尚, 清水泰岳, 時田万英, 田村英一郎, 小野寺雅史, 秦健一郎, 新井勝大.	小児期発症難治性クローン病として加療中に、全エクソーム解析で X I A P 欠損症の診断に至った 3 例.	第 8 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017 年 12 月 1 日
細井賢二, 工藤孝広, 新井勝大, 清水泰岳, 大塚宜一, 内田恵一, 田尻仁, 鈴木康夫, 清水俊明.	本邦における超早期発症型炎症性腸疾患の疫学的全国調査.	第 8 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017 年 12 月 1 日
新井勝大.	早期発症型炎症性腸疾患 (Early Onset IBD; EOIBD) の診断と治療 超早期発症型炎症性腸疾患に対する生物学的製剤治療.	第 44 回日本小児栄養消化器肝臓学会	福岡	2017 年 10 月 22 日
清水泰岳, 竹内一朗, 丘逸宏, 新井勝大.	成育医療研究センターにおける小児潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブの長期成績.	第 44 回日本小児栄養消化器肝臓学会	福岡	2017 年 10 月 22 日
福嶋健志, 倉信奈緒美, 宮原直樹, 村上潤, 田中正則, 竹内一朗, 新井勝大, 神崎晋.	診断に苦慮し、インフリキシマブが有効であった超早期発症型炎症性腸疾患の 2 歳児例.	第 44 回日本小児栄養消化器肝臓学会	福岡	2017 年 10 月 21 日
竹内一朗, 丘逸宏, 清水泰岳, 河合利尚, 小野寺雅史, 小椋雅夫, 右田王介, 秦健一郎, 新井勝大.	高安病を合併した小児期発症クローン病として加療中に、全エクソーム解析で XIAP 欠損症の診断に至った 1 男児例.	第 44 回日本小児栄養消化器肝臓学会	福岡	2017 年 10 月 21 日
船山理恵, 竹内一朗, 東海林宏道, 南部隆亮, 神保圭佑, 原朋子, 工藤孝広, 丘逸宏, 清水泰岳, 野村伊知郎, 山岡和枝, 清水俊明, 新井勝大.	成分栄養剤を用いた栄養管理の適正化を目指した多施設共同研究 - 乳幼児の脂溶性ビタミン欠乏の予備調査 - .	第 44 回日本小児栄養消化器肝臓学会	福岡	2017 年 10 月 21 日
竹内一朗, 清水泰岳, 時田万英, 河合利尚, 田村英一郎, 小野寺雅史, 右田王介, 秦健一郎, 新井勝大.	難治性炎症性腸疾患の表現型を呈した X I A P 欠損症 2 例.	第 8 回関東甲越免疫不全症研究会	東京	2017 年 9 月 23 日
新井勝大, 清水俊明, 工藤孝広, 清水泰岳, 細井賢二, 大塚宜一, 内田恵一, 田尻仁, 鈴木康夫.	本邦における超早期発症型炎症性腸疾患 (V E O - I B D) の実態解明と診断基準の作成.	厚生労働科学研究費 難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成 29 年度第 1 回総会	東京	2017 年 7 月 19 日
丘逸宏, 清水泰岳, 船山理恵, 竹内一朗, 清水俊明, 新井勝大.	小児病院における小腸カプセル内視鏡検査の後方視的調査研究 1 施設 188 件の検討.	第 44 回小児内視鏡研究会	東京	2017 年 7 月 9 日
竹内一朗, 清水泰岳, 丘逸宏, 新井勝大.	インフリキシマブ導入後もステロイド依存性の難治性超早期発症型炎症性腸疾患の男児.	仙台 IBD 研究会	仙台	2017 年 5 月 20 日
Amano T, Shinzaki S, Iijima H, et al.	Strategy of selecting anti-TNF agent in patients with Crohn's Disease: A multi-center retrospective cohort study by the Osaka Gut Forum	ECCO	Vienna, Austria	2020 年 2 月 14 日
Iijima H, Mizuno S, Shinzaki S, et al.	SEFULNESS OF LEUCINE-RICH ALPHA-2-GLYCOPROTEIN (LRG) TO MONITOR THE EFFICACY OF ADALIMUMAB TREATMENT IN PATIENTS WITH ULCERATIVE COLITIS (PLANET STUDY).	UEGW	Barcelona, Spain	2019 年 10 月 21 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Shinzaki S, Matsuoka K, Iijima H, et al.	USEFULNESS OF SERUM LEUCINE-RICH ALPHA-2-GLYCOPROTEIN (LRG) FOR MONITORING THE EFFICACY OF ADALIMUMAB TREATMENT IN PATIENTS WITH CROHN'S DISEASE (PLANET STUDY)	UEGW	Barcelona, Spain	2019年10月21日
Iwatani S, Iijima H, Amano T, et al.	TARGETED LIPIDOMIC ANALYSIS OF THE PLASMA OF INFLAMMATORY BOWEL DISEASE PATIENTS.	Digestive Disease Week	San Diego, USA	2019年5月10日
Tani M, Shinzaki S, Amano T, Iijima H, et al.	SEASONAL VARIATION OF FECAL MICROBIOTA IN IBD PATIENTS.	Digestive Disease Week	San Diego, USA	2019年5月10日
Yoshihara T, Shinzaki S, Amano T, Iijima H, et al.	CONCENTRATION OF INFLIXIMAB IN THE NON-INFLAMED MUCOSA AS A PREDICTOR FOR SECONDARY LOSS OF RESPONSE TO INFLIXIMAB FOR CROHN'S DISEASE PATIENTS: A 4-YEAR PROSPECTIVE STUDY.	Digestive Disease Week	San Diego, USA	2019年5月10日
Amano T, Shinzaki S, Iijima H, et al.	MODIFIED GLASGOW PROGNOSTIC SCORE IS USEFUL FOR PREDICTING LONG-TERM CONTINUATION OF ANTI-TNF THERAPY IN PATIENTS WITH CROHN'S DISEASE.	Digestive Disease Week	San Diego, USA	2019年5月9日
Araki M, Iijima H, Yoshihara T, et al.	Depressive psychological status is associated with disease exacerbation in remissive Crohn's disease patients: a prospective observational study.	Digestive Disease Week	San Diego, USA	2019年5月9日
Otake Y, Shinzaki S, Iijima H, et al.	LYSOPHOSPHATIDYL SERINE DETERIORATES MURINE TNBS-INDUCED COLITIS	Digestive Disease Week	San Diego, USA	2019年5月9日
谷瑞季, 新崎信一郎, 田代拓, 飯島英樹, 他.	炎症性腸疾患患者の腸内細菌叢でみられる季節性変化	第10回炎症性腸疾患学会	福岡	2019年11月29日
飯島英樹, 金井隆典, 松本主之	潰瘍性大腸炎のアダリムマブ治療における Leucine-rich alpha-2-glycoprotein (LRG)の有用性 (PLANET study)	JDDW 2019	神戸	2019年11月21日
谷瑞季, 新崎信一郎, 天野孝広, 飯島英樹, 他.	IBD患者の便検体における季節性変化と増悪との関連	第56回日本消化器免疫学会総会	京都	2019年8月1日
岩谷修子, 新崎信一郎, 飯島英樹, 他.	炎症性腸疾患における Galectin-1 の糖鎖を介した抗炎症作用の解明	第56回日本消化器免疫学会総会	京都	2019年8月1日
Iwatani S, Shinzaki S, Iijima H, et al.	OLIGOSACCHARIDE-DEPENDENT ANTI-INFLAMMATORY ROLE OF GALECTIN-1 IN INFLAMMATORY BOWEL DISEASE.	Digestive Disease Week	Washington D.C., USA	2018年6月5日
Yamaguchi T, Iijima H, Tani M, et al.	DEFICIENCY OF CCR7 IS RESPONSIBLE FOR THE DETERIORATION OF NON-STEROIDAL ANTI-INFLAMMATORY DRUG-INDUCED ENTEROPATHY IN MICE.	Digestive Disease Week	Washington D.C., USA	2018年6月2日
谷瑞季, 新崎信一郎, 飯島英樹, 竹原徹郎.	Leucin-rich alpha-2 glycoprotein (LRG)の潰瘍性大腸炎粘膜治癒マーカーとしての有用性.	日本消化器病学会近畿支部第110回例会	京都	2019年2月23日
岩谷修子, 飯島英樹, 天野孝広, 他.	IBD患者の Lipidomics 解析	第55回日本消化器免疫学会総会	福岡	2018年12月8日
岩谷修子, 新崎信一郎, 飯島英樹, 他.	炎症性腸疾患における Galectin-1 の糖鎖を介した抗炎症作用の解明	JDDW2018 (消化器病学会)	神戸	2018年11月1日
飯島英樹	潰瘍性大腸炎に対する青黛の臨床的効果と腸炎改善メカニズム	第3回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会	大阪	2018年6月23日
Kawai S, Iijima H, Shinzaki S, et al.	Indigo naturalis ameliorates murine dextran sodium sulfate induced-colitis through the activation of aryl hydrocarbon receptor independently of IL-10.	Digestive Disease Week	Chicago, USA	2017年5月7日
Yamaguchi T, Iijima H, Hiyama S, et al.	Deficiency of CCR7 deteriorates non-steroidal anti-inflammatory drug-induced enteropathy in mice.	Digestive Disease Week	Chicago, USA	2017年5月7日
良原丈夫, 新崎信一郎, 飯島英樹, 他.	クローン病における生物学的製剤の血中濃度、組織濃度と治療効果	日本消化器病学会第108回近畿支部例会	京都	2018年3月17日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
岩谷修子, 新崎信一郎, 飯島英樹, 竹原徹郎.	炎症性腸疾患における Galectin-1 を介した抗炎症作用の解明	第 54 回日本消化器免疫学会総会	東京	2017 年 9 月 28 日
日山智史, 飯島英樹, 竹原徹郎.	バイエル板 NBI 拡大観察による潰瘍性大腸炎の臨床的再燃予測	第 93 回 日本消化器内視鏡学会総会	大阪	2017 年 5 月 12 日
衛藤 武, 飯塚政弘, 相良志穂, 宮澤秀彰	当科クローン病患者におけるインフリキシマブ投与間隔短縮治療の治療成績	第 16 回日本消化管学会総会	ホテル日航姫路	2020 年 2 月 7 日
飯塚 政弘, 衛藤 武, 相良 志穂	潰瘍性大腸炎難治例における血球成分除去療法の長期治療成績と再有効性に関する検討.	第 27 回日本消化器関連学会週間	神戸国際会議場	2019 年 11 月 22 日
相良 志穂, 保坂 薫子, 佐藤 真喜子, 飯塚 政弘	パネルディスカッション 当センターのヘリコバクター・ピロリ検査、除菌勧奨の実態と新たな試み	第 57 回日本消化器がん検診学会東北地方会	秋田にぎわい交流館 AU	2019 年 7 月 6 日
Toshihide Ohmori, Yoh Ishiguro, Ken Umemura, Masahiro Iizuka.	Safety and effectiveness of granulocyte and monocyte adsorptive apheresis for 90 patients with corticosteroids naïve ulcerative colitis patients: a multicenter cohort study.	United European Gastroenterology Week (UEGW)2018	Austria Center Vienna	2018 年 10 月 22 日
Yoh ISHIGURO, Toshihide Ohmori, Ken Umemura, Masahiro Iizuka.	Safety and effectiveness of granulocyte and monocyte adsorptive apheresis for 90 patients with corticosteroids naïve ulcerative colitis patients. A multicenter cohort study.	ASIAN ORGANIZATION FOR CROHN'S & COLITIS (AOCC) 2018	Shanghai Marriott Hotel Parkview	2018 年 6 月 22 日
飯塚 政弘, 衛藤 武, 吉川健二郎, 相良志穂, 石井 透, 八木澤 仁	潰瘍性大腸炎ステロイド依存例に対する Long-Interval CAP の長期治療成績についての検討.	第 26 回日本消化器関連学会週間	神戸国際会議場	2018 年 11 月 1 日
保坂 薫子, 佐藤 真喜子, 佐々木 留美子, 一関 智子, 川井 美代子, 高橋 典子, 宮崎 昌子, 三森 加奈子, 相良 志穂, 飯塚 政弘	40 以上の受診者におけるピロリ菌と胃がん・胃がん検診に関する意識調査.	第 59 回日本人間ドック学会学術大会	朱鷺メッセ (新潟)	2018 年 8 月 31 日
飯塚 政弘	特別講演 炎症性腸疾患における血球成分除去療法の実際	第 28 回東北アフェレンス研究会	江陽グランドホテル鳳凰の間 (仙台)	2018 年 3 月 3 日
飯塚 政弘, 衛藤 武, 吉川健二郎, 相良志穂, 石井 透, 八木澤 仁.	潰瘍性大腸炎ステロイド依存例に対する Long-Interval CAP の長期治療成績に関する検討.	第 8 回日本炎症性腸疾患学会学術集会.	東京 (TKP ガーデンシティ品川)	2017 年 12 月 1 日
Y. Ishiguro, T. Ohmori, K. Umemura, M. Iizuka.	Safety and effectiveness of granulocyte and monocyte adsorptive apheresis for 90 patients with corticosteroids naïve ulcerative colitis : A multicentre cohort study.	AOCC	上海	2018 年 6 月 23 日
Tanaka A, Kanmura S, Yutsudo K, Komaki Y, Iwaya H, Tanoue S, Arima S, Sasaki F, Hashimoto S, Ido A.	The very interesting small bowel lesions of Cronkhite-Canada syndrome.	Advances In Inflammatory Bowel Diseases (AIBD2019)	Florida, USA	2019 年 12 月 12 日
田中啓仁, 上村修司, 湯通堂和樹, 小牧祐雅, 佐々木文郷, 井戸章雄.	カプセル内視鏡で特徴的な小腸所見を確認した Cronkhite-Canada 症候群の一例.	第 10 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019 年 11 月 29 日
湯通堂和樹, 小牧祐雅, 小牧路子, 田中啓仁, 佐々木文郷, 平野敦士, 梅野淳嗣, 上村修司, 井戸章雄.	アザチオプリン投与による急性膵炎が疑われた潰瘍性大腸炎の 2 例	第 10 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019 年 11 月 29 日
小牧祐雅, 上村修司, 小牧路子, 田中啓仁, 西俣伸亮, 鮫島洋一, 佐々木文郷, 那須雄一郎, 大井秀久, 中村勇一, 徳重浩一, 鮫島由規則, 井戸章雄.	難治性潰瘍性大腸炎に対するゼルヤンツの有効性の検討	第 114 回日本消化器病学会九州支部例会 / 第 108 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	宮崎	2019 年 11 月 8, 9 日
小野陽平, 大井秀久, 生駒今日子, 鮫島洋一, 徳元 攻, 上村 修司, 井戸章雄.	アザチオプリン投与による急性膵炎が疑われた潰瘍性大腸炎の 2 例	第 114 回日本消化器病学会九州支部例会 / 第 108 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	宮崎	2019 年 11 月 8, 9 日
田中啓仁, 上村修司, 湯通堂和樹, 小牧祐雅, 井戸章雄.	当院で経験した Cronkhite-Canada 症候群 3 例の小腸病変の検討.	第 57 回日本小腸学会学術集会	大阪	2019 年 11 月 9 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Tanaka A, Kanmura S, Komaki Y, Sasaki F, Nasu Y, Sameshima Y, Nakamura Y, Tokushige K, Ohi H, Sameshima Y, <u>Ido A.</u>	Infliximab treatment intensification based on endoscopic activity contributes to clinical response in patients with Crohn's disease.	CROHN'S & COLITIS CONGRESS	Las Vegas, USA	2019年2月7-9日
Tanaka A, Kanmura S, Hamamoto H, Kabayama M, Nakamura Y, Maeda H, Hinokuchi M, Arima S, Sasaki F, Nasu Y, Tanoue S, Hashimoto S, <u>Ido A.</u>	The diagnostic utility of linked-color imaging for the evaluation of colonic mucosal inflammation in ulcerative colitis.	ASIAN ORGANIZATION FOR CROHN'S & COLITIS(AOCC2018)	SHANGHAI, CHINA	2018年6月21-23日
Kanmura S, Tanaka A, Hamamoto H, Arima S, Sasaki F, Nasu Y, Tanoue S, Hashimoto S, <u>Ido A.</u>	Optimizing surveillance colonoscopy for colitic cancer in ulcerative colitis: A focus on interfacility differences.	Digestive Disease Week 2018 (DDW2018)	Washington, DC	2018年6月2-5日
Hamamoto H, Kanmura S, Arima S, Tanoue S, Nasu Y, Sasaki F, Hashimoto S, <u>Ido A.</u>	The diagnostic utility of linked-color imaging in the evaluation of mucosal inflammation in patients with ulcerative colitis.	United European Gastroenterology Week 2017 (UEGW2017)	Barcelona, Spain	2017年10月28日
上村修司, 濱元ひとみ, 田中啓仁, 小野陽平, 鮫島洋一, 藤田俊浩, 小園雅哉, 小牧祐雅, 佐々木文郷, 山路尚久, 藤田 浩, 寄山敏男, 徳重浩一, 鮫島由紀則, 大井秀久, 井戸章雄.	当院ならびに関連施設における潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡の現状と問題点.	第110回日本消化器病学会九州支部例会 / 第104回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	東京	2017年11月17,18日
濱元ひとみ, 上村修司, 井戸章雄.	潰瘍性大腸炎の活動性評価における内視鏡画像強調システム Linked Color Imaging (LCI) の有用性についての検討.	第94回日本消化器内視鏡学会総会 (JDDW2017)	福岡	2017年10月12-15日
濱元ひとみ, 上村修司, 有馬志穂, 田ノ上史郎, 那須雄一郎, 佐々木文郷, 橋元慎一, 井戸章雄.	潰瘍性大腸炎の内視鏡的活動性評価における内視鏡画像強調システム Linked Color Imaging(LCI)の有用性	第93回日本消化器内視鏡学会総会	大阪	2017年5月11-13日
田中啓仁, 上村修司, 井戸章雄	乳酸菌 Lactobacillus plantarum 06CC2 株のプロバイオティクス効果の検討	第103回日本消化器病学会総会	東京	2017年4月20-22日
Umeno J, Fuyuno Y, Torisu T, Hirano A, <u>Esaki M</u> , Yanai S, Ohmiya N, Hisamatsu T, Watanabe K, Hosoe N, Ogata H, Hirai F, Hisabe T, Matsui T, Yao T, Kitazono T, <u>Matsumoto T</u> , CEAS Study Group	A nationwide survey of chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene in Japan	The 15th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation	Vienna, Austria	2020, 2
Okamoto D, Kakuta Y, Takeo N, Moroi R, Kuroha M, Kanazawa Y, Hisashi S, Fuyuno Y, Umeno J, Hirano A, Torisu T, Nakamura M, <u>Esaki M</u> , <u>Matsumoto T</u> , Kinouchi Y, Masamune A	Genetic analysis of ulcerative colitis in Japanese individuals using population-specific SNP array	The 15th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation	Vienna, Austria	2020, 2
Matsuno Y, Hirano A, Torisu T, Fuyuno Y, Okamoto Y, Shin F, Tomohiko M, <u>Umeno J</u> , Hirakawa Y, <u>Esaki M</u> , Kitazono T	The clinical efficacy and safety of indigo naturalis in induction & maintenance therapy for moderate-to-severe ulcerative colitis: A single-centre prospective uncontrolled open-label study	The 15th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation	Vienna, Austria	2020, 2
Hirano A, <u>Umeno J</u> , Torisu T	Characteristics of mucosal microbial composition of patients with inflammatory bowel disease susceptibility HLA genotype	The 15th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation	Vienna, Austria	2020, 2
Matsuno Y, Torisu T, Fuyuno Y, Okamoto Y, Fujioka S, Hirano A, <u>Umeno J</u> , Moriyama T, Kitazono T, <u>Esaki M</u>	Long-term outcome of watch and wait strategy for gastric antibiotic-resistant mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma.	27th United European Gastroenterology Week	Barcelona, Spain	2019, 10
Okamoto Y, <u>Esaki M</u> , Morishita T, Hara Y, Hirano A, <u>Umeno J</u> , Maehata Y, Kobayashi H, Ishikawa H, Torisu T, <u>Matsumoto T</u> , and Kitazono T	Preventive effect of lactobacillus salivarius wb21 on small bowel injuries in subjects who take both nsaid and ppi: a randomized, double-blind, placebo-controlled trial	27th United European Gastroenterology Week	Barcelona, Spain	2019, 10
Fuyuno Y, Torisu T, Hirano A, Shin Fujioka, <u>Umeno J</u> , Moriyama T, Kitazono T, <u>Esaki M</u>	Prediction of loss of response to anti-TNF antibody therapy using SES-CD in Crohn's disease patients <poster>	The 7th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Taipei Taiwan	2019, 6

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Hirano A, Shibata H, Kakuta Y, Nagasaki M, Tokunaga K, Khor S, Kawai Y, Umeno J, Torisu T, Kitazono T, Esaki M	The association study between HLA genotype and mucosal microbial composition in patients with inflammatory bowel disease.	The 7th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Taipei Taiwan	2019, 6
Matsuno Y, Hirano A, Okamoto Y, Fuyuno Y, Fujioka S, Umeno J, Moriyama T, Torisu T, Kitazono T, Esaki M	Short- and long-term outcome of patients treated with Indigo naturalis for inflammatory bowel disease: a single center retrospective study.	The 7th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Taipei Taiwan	2019, 6
佐藤大晃, 田中貴英, 藤岡審, 岡本康治, 冬野雄太, 平野敦士, 梅野淳嗣, 鳥巢剛弘, 森山智彦, 川床慎一郎, 保利喜史, 孝橋賢一, 北園孝成	巨大腹部デスマイド腫瘍により尿瘻を生じた家族性大腸腺腫症の一例	第114回日本消化器病学会九州支部例会	宮崎	2019, 11
吉村悠花, 仁田畑智紀, 藤岡審, 梅野淳嗣, 平野敦士, 冬野雄太, 鳥巢剛弘, 北園孝成	IFXによる加療中に多関節炎を合併し paradoxical arthritis が疑われた潰瘍性大腸炎の一例	第114回日本消化器病学会九州支部例会	宮崎	2019, 11
森下寿文, 藤岡審, 森山智彦, 冬野雄太, 岡本康治, 梅野淳嗣, 平野敦士, 鳥巢剛弘, 北園孝成	当科における食道内視鏡的粘膜下層剥離術施行(ESD)後狭窄の臨床的検討	第114回日本消化器病学会九州支部例会	宮崎	2019, 11
井原勇太郎, 梅野淳嗣, 保利喜史, 藤原美奈子, 鳥巢剛弘, 江崎幹宏, 北園孝成	IV型胃神経内分分泌腫瘍患者におけるATP4A遺伝子変異の同定	第114回日本消化器病学会九州支部例会	宮崎	2019, 11
田中貴英, 梅野淳嗣, 東晃一, 岡本康治, 冬野雄太, 藤岡審, 平野敦士, 鳥巢剛弘, 森山智彦, 川床慎一郎, 保利喜史, 大石善文, 江崎幹宏, 北園孝成	Tenofovir disoproxil 投与により胃潰瘍を発症したと考えられたB型慢性肝炎の1例	第114回日本消化器病学会九州支部例会	宮崎	2019, 11
井原勇太郎, 藤岡審, 鳥巢剛弘, 梅野淳嗣, 平野敦士, 岡本康治, 冬野雄太, 森山智彦, 江崎幹宏, 北園孝成	炎症性腸疾患診療の現状と展望 自験クローン病患者におけるウステキヌマブの短期および長期治療効果	第114回日本消化器病学会九州支部例会	宮崎	2019, 11
横手章人, 冬野雄太, 増原裕之, 平野敦士, 梅野淳嗣, 藤岡審, 保利喜史, 藤原美奈子, 山本英崇, 森山智彦, 鳥巢剛弘, 北園孝成	潰瘍性大腸炎に合併した直腸リンパ増殖性疾患の1例	第114回日本消化器病学会九州支部例会	福岡	2019, 5
増原裕之, 岡本康治, 永吉絹子, 冬野雄太, 藤岡審, 平野敦士, 梅野淳嗣, 森山智彦, 山本充了, 保利善史, 藤原美奈子, 鳥巢剛弘, 北園孝成	全周性の腸狭窄を来した diverticular colitis の一例	第114回日本消化器病学会九州支部例会	福岡	2019, 5
吉原崇正, 岡本康治, 長末智寛, 冬野雄太, 藤岡審, 平野敦士, 梅野淳嗣, 貞効良彦, 永井俊太郎, 保利喜史, 藤原美奈子, 森山智彦, 鳥巢剛弘, 北園孝成	空腸原発平滑筋肉腫の1例	第114回日本消化器病学会九州支部例会	福岡	2019, 5
野田真也佳, 吉原崇正, 河野真一, 藤岡審, 永吉絹子, 永井俊太郎, 中村雅史, 保利喜史, 藤原美奈子, 天野良祐, 冬野雄太, 平野敦士, 梅野淳嗣, 森山智彦, 鳥巢剛弘, 北園孝成	腸閉塞症状を契機に発見された空腸神経内分分泌腫瘍の1例	第114回日本消化器病学会九州支部例会	福岡	2019, 5
野坂佳愛, 岡本康治, 増原裕之, 田中貴英, 冬野雄太, 藤岡審, 平野敦士, 梅野淳嗣, 森山智彦, 鳥巢剛弘, 北園孝成	健常な高齢女性に発症したサイトメガロウイルス腸炎の一例	第114回日本消化器病学会九州支部例会	福岡	2019, 5
田中貴英, 平野敦士, 蓑田洋介, 岡本康治, 冬野雄太, 藤岡審, 梅野淳嗣, 鳥巢剛弘, 森山智彦, 保利喜史, 藤原美奈子, 北園孝成	胃GISTと鑑別を要した胃迷入腺の1例	第114回日本消化器病学会九州支部例会	福岡	2019, 5
原田英, 藤岡審, 平野敦士, 梅野淳嗣, 鳥巢剛弘	消化管出血に対するベストプラクティス 出血源不明Overt-UGIB患者における再出血リスク因子の検討	第114回日本消化器病学会九州支部例会	福岡	2019, 5
長末智寛, 平野敦士, 河野真一, 藤岡審, 梅野淳嗣, 保利善史, 藤原美奈子, 鳥巢剛弘, 森山智彦	胃底腺ポリーポスを背景に発生した胃癌の臨床病理学的特徴	第97回日本消化器内視鏡学会総会	東京	2019, 5
Nagata Y, Esaki M, Fuyuno Y, Okamoto Y, Fujioka S, Hirano A, Umeno J, Torisu T, Moriyama T, Nakamura S, Kitazono T	Postoperative immunosuppressive therapies decrease the risk of second intestinal surgery in patients with Crohn's disease: a retrospective cohort study	The 14th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation	Copenhagen, Denmark	2019, 3
Fuyuno Y, Torisu T, Hirano A, Fujioka S, Umeno J, Moriyama T, Kitazono T, Esaki M	Prediction of loss of response to anti-TNF therapy using SES-CD in patients with Crohn's disease	The 14th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation	Copenhagen, Denmark	2019, 3

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Matsuno Y, Hirano A, Okamoto Y, Fuyuno Y, Fujioka S, Umeno J, Moriyama T, Torisu T, Kitazono T, Esaki M	Short- and long-term outcome of patients treated with Indigo naturalis for inflammatory bowel disease: a single center retrospective study.	Crohn's & Colitis Congress 2019	Las Vegas, USA	2019, 2
Hirano A, Shibata H, Kakuta Y, Nagasaki M, Tokunaga K, Khor S, Kawai Y, Umeno J, Torisu T, Kitazono T, Esaki M	The association study between hla genotype and mucosal microbial composition in patients with inflammatory bowel diseases	Crohn's & Colitis Congress 2019	Las Vegas, USA	2019, 2
Matsuno Y, Umeno J, Esaki M, Hirakawa Y, Fuyuno Y, Okamoto Y, Yasukawa S, Hirai F, Watanabe K, Hosoe N, Kochi S, Kurahara K, Yao T, Kitazono T, and Matsumoto T	Usefulness of Prostaglandin E-major urinary metabolite measurement for the differentiation between chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene (CEAS) and Crohn's disease.	Asian Pacific Association of Gastroenterology	Cebu, Philippine	2018, 9
長末智寛, 藤岡審, 梅野淳嗣, 鳥巢剛弘, 池田祥紀, 藤田恒平, 増原裕之, 江崎幹宏, 北園孝成	インフリキシマブ導入により保存的に改善が得られた下行結腸穿孔を合併した潰瘍性大腸炎の一例	第15回日本消化管学会総会	佐賀	2019, 2
井原勇太郎, 鳥巢剛弘, 梅野淳嗣, 平野敦士, 岡本康治, 冬野雄太, 原田英, 藤岡審, 森山智彦, 江崎幹宏, 北園孝成	炎症性腸疾患に対する新規治療薬の位置付け 当院クローン病患者におけるウステクスマブの臨床的效果	第15回日本消化管学会総会	佐賀	2019, 2
横手章人, 原田英, 井原勇太郎, 吉原崇正, 冬野雄太, 貫陽一郎, 藤岡審, 平野敦士, 梅野淳嗣, 保利喜史, 山本英崇, 藤田逸人, 森山智彦, 鳥巢剛弘, 北園孝成	原因不明の消化管出血を契機に発見された小腸消化管間質腫瘍の1例	第106回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	鹿児島	2018, 11
児浦末季史, 吉原崇正, 田中貴英, 岡本康治, 冬野雄太, 藤岡審, 平野敦士, 梅野淳嗣, 鳥巢剛弘, 保利喜史, 藤原美奈子, 北園孝成	ダブルバルーン小腸内視鏡で止血しえた高齢者 Meckel 憩室出血の1例	第106回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	鹿児島	2018, 11
吉原崇正, 河野真一, 横手章人, 長末智寛, 冬野雄太, 岡本康治, 藤岡審, 平野敦士, 梅野淳嗣, 保利善史, 藤原美奈子, 鳥巢剛弘, 北園孝成	ポリグリコール酸シートとフィブリン糊を併用した被覆法が有効であったESD 後出血性胃潰瘍の1例	第106回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	鹿児島	2018, 11
田中貴英, 藤岡審, 河野真一, 冬野雄太, 岡本康治, 平野敦士, 梅野淳嗣, 鳥巢剛弘, 森山智彦, 永井俊太郎, 保利喜史, 藤原美奈子, 江崎幹宏, 北園孝成	炎症性腸疾患のトータルマネジメント<ワークショップ>当科における悪性腫瘍合併 IBD 症例の検討	第112回日本消化器病学会九州支部例会	鹿児島	2018, 11
増原裕之, 岡本康治, 川井康弘, 冬野雄太, 藤岡審, 平野敦士, 梅野淳嗣, 森山智彦, 鳥巢剛弘, 北園孝成	Mg 製剤による大腸内視鏡検査前処置が誘因となり高 Mg 血症を来した S 状結腸吻合部狭窄の1例	第112回日本消化器病学会九州支部例会	鹿児島	2018, 11
野田真也佳, 冬野雄太, 藤岡審, 平野敦士, 梅野淳嗣, 森山智彦, 貞苺良彦, 保利喜史, 藤原美奈子, 甲斐貴大, 鳥巢剛弘, 北園孝成	腹壁膿瘍加療中にメトロニダゾール脳症を発症した瘻孔部瘻を伴った小腸大腸型クローン病の1例	第112回日本消化器病学会九州支部例会	鹿児島	2018, 11
梅野淳嗣, 冬野雄太, 松野雄一, 鳥巢剛弘, 江崎幹宏, 梁井俊一, 大宮直木, 久松理一, 渡辺憲治, 細江直樹, 緒方晴彦, 平井郁仁, 松井敏幸, 八尾恒良, 北園孝成, 松本主之, CEAS study group.	非特異性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候について - 全国調査報告 -	第9回日本炎症性腸疾患学会	京都	2018, 11
松野雄一, 梅野淳嗣, 平川洋一郎, 冬野雄太, 岡本康治, 安川重義, 平井郁仁, 渡辺憲治, 細江直樹, 河内修司, 藏原晃一, 八尾恒良, 鳥巢剛弘, 北園孝成, 松本主之, 江崎幹宏	CEAS と Crohn 病の鑑別における尿中プロスタグランジン E 主要代謝産物濃度測定の有用性に関する検討	第9回日本炎症性腸疾患学会	京都	2018, 11
梁井俊一, 中村昌太郎, 川崎啓祐, 永塚真, 上杉憲幸, 梅野淳嗣, 菅井有, 松本主之	非特異性多発性小腸潰瘍症とクローン病の上部消化管粘膜における SLC02A1 蛋白発現	第56回日本小腸学会学術集会	東京	2018, 10
甲斐貴大, 岡本康治, 平野敦士, 梅野淳嗣, 鳥巢剛弘, 江崎幹宏, 北園孝成	肥厚性皮膚骨膜炎の3主徴を伴った非特異性多発性小腸潰瘍症の1例	第111回日本消化器病学会九州支部例会	北九州	2018, 6
今津愛介, 河野真一, 平野敦士, 梅野淳嗣, 鳥巢剛弘, 江崎幹宏, 北園孝成	多彩な消化管病変を形成した ATL/L の一例	第105回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	北九州	2018, 6
永田豊, 梅野淳嗣, 貫陽一郎, 保利喜史, 藤原美奈子, 江崎幹宏	胃 myeloid sarcoma の一例	第95回日本消化器内視鏡学会総会	東京	2018, 5

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Esaki M, Washio E, Morishita T, Sakamoto K, Fuyuno Y, Hirano A, Umeno J, Kitazono T, Matsumoto T, Suzuki Y	Inter- and intra-observer variation of capsule endoscopic findings for the diagnosis of Crohn's disease: A case control study	The 14th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation	Vienna, Austria	2018, 3
Hirano A, Umeno J, Shibata H, Kitazono T, Esaki M	A comparison study of the mucosa-associated microbiota between inflamed and non-inflamed sites in ulcerative colitis patients	The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Seoul, Korea	2017, 6
Nagata Y, Esaki M, Hirano A, Umeno J, Maehata Y, Torisu T, Moriyama T, Matsumoto T, Kitazono T	The preventive effect of anti-tumor necrosis factor therapy against initial intestinal surgery in patients with Crohn's disease	The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Seoul, Korea	2017, 6
Esaki M, Nagata Y, Okamoto Y, Umeno J, Hirano A, Maehata Y, Torisu T, Moriyama T, Kitazono T	Long-term prophylactic effect of anti-TNF therapy against postoperative recurrence in Crohn's disease: 12 years single center experience. <poster>	The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Seoul, Korea	2017, 6
Nuki Y, Umeno J, Washio E, Maehata Y, Hirano A, Kobayashi H, Kitazono T, Matsumoto T, Esaki M	Influence of cytochrome P450 2C19 polymorphisms on exacerbating effect of proton pump inhibitor in nonsteroidal anti-inflammatory drugs-induced small bowel injury.	Digestive Disease Week 2017	Chicago, USA	2017, 5
Moriyama T, Esaki Y, Morishita T, Maehata Y, Torisu T, Umeno J, Hirano A, Okamoto Y, Kitazono T	Learning curve analysis for colorectal endoscopic submucosal dissection	Digestive Disease Week 2017	Chicago, USA	2017, 5
平野敦士, 梅野淳嗣, 江崎幹宏	トランスポーターの機能から紐解く生命現象と病態<シンポジウム> 小腸潰瘍症におけるプロスタグランジン輸送体の役割	日本薬学会第 138 年会	金沢,	2018, 3
田中貴英, 江崎幹宏, 平野敦士, 森山智彦, 鳥巢剛弘, 梅野淳嗣, 岡本康治, 藤岡審, 冬野雄太, 原田英, 藤原美奈子, 北園孝成	薬剤性消化管障害の診断・治療の課題<ワークショップ> 免疫チェックポイント阻害剤関連腸炎 4 例の臨床病理学的特徴に関する検討	第 14 回日本消化管学会総会	東京	2018, 2
永田豊, 江崎幹宏, 冬野雄太, 岡本康治, 藤岡審, 平野敦士, 梅野淳嗣, 鳥巢剛弘, 森山智彦, 北園孝成.	クローン病の薬物療法・手術療法のすべて<ワークショップ> クローン病患者の腸管再手術に対する術後内科治療の影響	第 14 回日本消化管学会総会学術集会	東京	2018, 2
平野敦士, 梅野淳嗣, 森山智彦, 鳥巢剛弘, 柴田弘紀, 江崎 幹宏	潰瘍性大腸炎における炎症部と非炎症部での腸内細菌叢の比較検討	第 8 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017, 12
田中貴英, 江崎幹宏, 平野敦士, 森山智彦, 鳥巢剛弘, 梅野淳嗣, 岡本康治, 藤岡審, 冬野雄太, 原田英, 土橋賢司, 藤原美奈子, 保利喜史, 北園孝成	胃癌に対し Pembrolizumab 投与中に広範な腸炎を認めた 1 例	第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	沖縄	2017, 11
和智博信, 原田英, 梅野淳嗣, 伊崎智子, 川久保尚徳, 濱田洋, 江崎幹宏, 北園孝成	多発する消化管血管腫に対し内視鏡的クリッピング術が有効であった blue rubber bleb nevus syndrome の 1 例	第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	沖縄	2017, 11
永田豊, 池上幸治, 梅野淳嗣, 保利喜史, 山元崇英, 江崎幹宏, 北園孝成	内視鏡検査を契機に診断されたマンデル細胞リンパ腫の一例	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017, 11
甲斐貴大, 坂本圭, 平野敦士, 古川大祐, 藤岡審, 梅野淳嗣, 鳥巢剛, 森山智彦, 江崎幹宏, 北園孝成	内科的治療が奏功し全大腸切除術を回避しえた急性心筋梗塞を合併した重症潰瘍性大腸炎の 1 例	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017, 11
井原勇太郎, 江崎幹宏, 森山智彦, 鳥巢剛弘, 梅野淳嗣, 平野敦士, 岡本康治, 鷲尾恵万, 北園孝成	小腸 Gastrointestinal stromal tumor のバルーン内視鏡所見に関する検討	第 55 回日本小腸学会	京都	2017, 10
加藤嘉一, 山遠剛, 林田良啓, 柳忠宏, 水落建輝, 梅野淳嗣	遺伝子解析により非特異性多発性小腸潰瘍症と診断した 12 歳女児	第 166 回日本小児科学会鹿児島地方会	鹿児島	2017, 10
永井博, 木村智哉, 松本信, 下山雄丞, 千葉宏文, 山本勝利, 横山直信, 小野寺基之, 日下順, 内藤健夫, 川上瑠子, 平本圭一郎, 黒羽正剛, 金澤義丈, 角田洋一, 遠藤克哉, 梅野淳嗣, 江崎幹宏, 木内喜孝, 下瀬川徹	肥厚性皮膚骨膜炎を合併した非特異性多発性小腸潰瘍(CEAS)の一例	第 93 回日本消化器内視鏡学会総会	大阪	2017, 5

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Esaki M, Takamori A, Umeno J, Hirano A, Fuyuno Y, Torisu T, Taketomi H, Akutagawa T, Tsuruoka N, Sakata Y, Shimoda R, <u>Matsumoto T.</u>	Development of capsule endoscopy scoring system for the diagnosis of small bowel Crohn's disease	The 7th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis,	Taipei, Taiwan	2019年6月14-16日
Hirano A, Shibata H, Kakuta Y, Nagasaki M, Tokunaga K, Khor SS, Kawai Y, Umeno J, Torisu T, Kitaono T, <u>Esaki M</u>	The association study between HLA genotype and mucosal microbial composition in patients with inflammatory bowel diseases	The 7th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis,	Taipei, Taiwan	2019年6月14-16日
Matsuno Y, Hirano A, Okamoto Y, Fuyuno Y, Fujioka S, Umeno J, Moriyama T, Torisu T, Kitazono T, <u>Esaki M</u>	Short- and long-term outcome of patients treated with Indigo naturalis for inflammatory bowel disease: a single center retrospective study.	The 7th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis,	Taipei, Taiwan	2019年6月14-16日
Zeze K, Hirano A, Torisu T, Kitazono T, <u>Esaki M</u>	DIFFERENCE IN CLINICAL EFFICACY AND SAFETY PROFILE IN CROHN'S DISEASE PATIENTS TREATED WITH INFLIXIMAB ACCORDING TO TIMING FOR ADDITION OF THIOPURINE	The 7th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis,	Taipei, Taiwan	2019年6月14-16日
Fuyuno Y, Torisu T, Hirano A, Fujioka S, Umeno J, Moriyama T, Kitazono T, <u>Esaki M</u>	Prediction of loss of response to anti-TNF antibody therapy using SES-CD in Crohn's disease patients	The 7th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis,	Taipei, Taiwan	2019年6月14-16日
<u>江崎幹宏</u>	炎症性腸疾患の診断と治療の進歩	第327回日本内科学会九州地方会/第65回九州支部生涯教育講演会	佐賀	2019年11月17日
<u>江崎幹宏</u>	内視鏡の進歩は小腸疾患診断をどのように変えたか?	第75回九州消化器内視鏡技師研究会	久留米	2019年5月26日
井原 勇太郎, 藤岡 審, 鳥巢 剛弘, 梅野 淳嗣, 平野 敦士, 岡本 康治, 冬野 雄太, 森山 智彦, <u>江崎 幹宏</u> , 北園 孝成	炎症性腸疾患診療の現状と展望 自験クローン病患者におけるウステキヌマブの短期および長期治療効果	第114回日本消化器病学会九州支部例会	宮崎	2019年11月8-9日
Nagata Y, <u>Esaki M</u> , Fuyuno Y, Okamoto Y, Fujioka S, Hirano A, Umeno J, Torisu T, Moriyama T, Nakamura S, Kitazono T	Postoperative immunosuppressive therapies decrease the risk of second intestinal surgery in patients with Crohn's disease: A retrospective cohort study	14th Congress of European Crohn's and Colitis Organization	Copenhagen, Denmark	2019年3月
Hirano A, Shibata H, Kakuta Y, Nagasaki M, Tokunaga K, Khor SS, Kawai Y, Umeno J, Torisu T, Kitaono T, <u>Esaki M</u>	The association study between HLA genotype and mucosal microbial composition in patients with inflammatory bowel diseases	Crohn's & Colitis Congress™ 2019,	Las Vegas, USA,	2019年2月
Matsuno Y, Hirano A, Okamoto Y, Fuyuno Y, Fujioka S, Umeno J, Moriyama T, Torisu T, Kitazono T, <u>Esaki M</u>	Short- and long-term outcome of patients treated with Indigo naturalis for inflammatory bowel disease: a single center retrospective study.	Crohn's & Colitis Congress™ 2019,	Las Vegas, USA,	2019年2月
Zeze K, Hirano A, Torisu T, Kitazono T, <u>Esaki M</u>	DIFFERENCE IN CLINICAL EFFICACY AND SAFETY PROFILE IN CROHN'S DISEASE PATIENTS TREATED WITH INFLIXIMAB ACCORDING TO TIMING FOR ADDITION OF THIOPURINE	Crohn's & Colitis Congress™ 2019,	Las Vegas, USA,	2019年2月
梅野淳嗣、冬野雄太、松野雄一、鳥巢剛弘、 <u>江崎幹宏</u> 、梁井俊一、大宮直木、久松理一、渡辺憲治、細江直樹、緒方晴彦、平井郁仁、松井敏幸、八尾恒良、北園孝成、 <u>松本主之</u>	CEAS study group 非特異性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候について—全国調査報告	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都	2018年11月22日
松野雄一、梅野淳嗣、鳥巢剛弘、平川洋一郎、冬野雄太、岡本康治、安川重義、平井郁仁、渡辺憲治、細江直樹、河内修司、蔵原晃一、八尾恒良、北園孝成、 <u>松本主之</u> 、 <u>江崎幹宏</u>	CEASとCrohn病の鑑別における尿中プロスタグランジンE主要代謝産物濃度測定の有用性に関する検討	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都	2018年11月22日
冬野雄太、永田豊、 <u>江崎幹宏</u>	Crohn病におけるSES-CDを用いた抗TNF-抗体製剤の二次無効予測(シンポジウム)	第26回日本消化器関連学会週間(JDDW 2018)	神戸	2018年11月1-4日
<u>江崎幹宏</u> 、鷲尾恵万、森下寿文、坂本圭、 <u>松本主之</u> 、鈴木康夫	クローン病診断におけるカプセル内視鏡の有用性 検証結果報告	第95回日本消化器内視鏡学会総会(パネルディスカッション)	東京	2018年5月10-12日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Matsuno Y, Umeno J, Fuyuno Y, Okamoto Y, Yasukawa S, <u>Hirai F</u> , Watanabe K, Hosoe N, Kochi S, Kurahara K, Yao Y, Kitazono T, <u>Matsumoto T</u> , <u>Esaki M</u> .	Usefulness of Prostaglandin E-major urinary metabolite measurement for the differentiation between chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene (CEAS) and Crohn's disease.	2018 Crohn's & Colitis Congress	Las Vegas, USA	2018年1月18-20日
Hirano A, Umeno J, Kitazono T, <u>Esaki M</u>	A Comparison Study of the Mucosa-Associated Microbiota between Inflamed and Non-Inflamed Sites in Ulcerative Colitis Patients.	2018 Crohn's & Colitis Congress	Las Vegas, USA	2018年1月18-20日
永田豊、 <u>江崎幹宏</u> 、冬野雄大、岡本康治、藤岡審、平野敦士、梅野淳嗣、鳥巢剛弘、森山智彦、北園孝成	クローン病患者の腸管再手術に対する術後内科治療の影響	第14回日本消化管学会総会学術集会(ワークショップ)	東京	2018年2月9-10日
小林 由美恵 <u>大藤さとこ</u> <u>福島若葉</u>	食物中の鉄・亜鉛摂取量と潰瘍性大腸炎発症との関連	第105回消化器病学会総会	金沢	2019年5月11日
尾崎隼人、城代康貴、 <u>大宮直木</u>	糞便移植療法の有効性と腸内細菌叢および短鎖脂肪酸の変化	JDDW	神戸	2019年11月22日
城代康貴、尾崎隼人、 <u>大宮直木</u>	再発性 C.difficile 腸炎と炎症性腸疾患に対する糞便移植療法における腸内細菌叢、短鎖脂肪酸の解析	第57回日本小腸学会学術集会	大阪	2019年11月9日
尾崎隼人、城代康貴、 <u>大宮直木</u>	再発性 C.difficile 腸炎と炎症性腸疾患に対する糞便移植療法における腸内細菌叢の変化	第105回日本消化器病学会総会	金沢	2019年5月9日
尾崎隼人、城代康貴、 <u>大宮直木</u>	再発性 C.difficile 腸炎と炎症性腸疾患に対する糞便移植療法の有効性と腸内細菌叢の変化	第61回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	名古屋	2018年11月24日
城代康貴、尾崎隼人、 <u>大宮直木</u>	当院におけるクローン病に対する糞便移植療法 (fecal microbiota transplantation: FMT) の有効性の検討	第56回日本小腸学会学術集会	東京	2018年10月27日
尾崎隼人、城代康貴、 <u>大宮直木</u>	糞便移植の有効性と腸内細菌叢変化との関連	第104回日本消化器病学会総会	東京	2018年4月20日
尾崎隼人、城代康貴、山田日向、寺田剛、河村知彦、内堀遥、吉田大、前田晃平、大森崇史、堀口徳之、生野浩和、小村成臣、大久保正明、鎌野俊彰、田原智満、長坂光夫、中川義仁、柴田知行、 <u>大宮直木</u>	ダブルバルーン小腸内視鏡を用いたクローン病に対する糞便移植の有効性	第22回小腸内視鏡研究会	東京	2018年2月24日
尾崎隼人、城代康貴、生野浩和、山田日向、吉田大、内堀遥、寺田剛、河村知彦、前田晃平、堀口徳之、大森崇史、小村成臣、大久保正明、鎌野俊彰、田原智満、 <u>長坂光夫</u> 、 <u>中川義仁</u> 、 <u>柴田知行</u> 、 <u>大宮直木</u>	炎症性腸疾患に対する糞便移植の有効性と腸内細菌叢の変化	第8回日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017年12月1日
城代康貴、生野浩和、 <u>大宮直木</u>	当院における潰瘍性大腸炎、クローン病、クロストリジウム・ディフィシル腸炎に対する糞便移植の有効性と課題	日本消化器病学会東海支部第126回例会	岐阜	2017年6月24日
<u>大宮直木</u> 、城代康貴、生野浩和	クロストリジウム・ディフィシル感染症、潰瘍性大腸炎、クローン病に対する糞便移植の有効性と腸内細菌叢の変化	第93回日本消化器内視鏡学会総会	大阪	2017年5月12日
Shuji Hibiya, Kiichiro Tsuchiya, Ryu Nishimura, Sho Watanabe, Nobuhiro Katsukura, Tomoaki Shirasaki, <u>Ryuichi Okamoto</u> , <u>Mamoru Watanabe</u>	Establishment of chronic inflammation model using human small intestinal and colonic organoids	UEG Week 2019	Fira Gran Via, Barcelona, Spain	2019年10月23日
<u>Okamoto R</u> , <u>Watanabe M</u>	【Focus Session: Cutting Edge Regenerative Medicine Using Stem Cells】Intestinal Epithelial Stem Cell Organoids and IBD	ISSCR2019	Los Angeles (USA)	2019年6月26日
Shuji Hibiya, Kiichiro Tsuchiya, Ryu Nishimura, Tomoaki Shirasaki, Sho Watanabe, Nobuhiro Katsukura, Shigeru Oshima, <u>Ryuichi Okamoto</u> , Tetsuya Nakamura, <u>Mamoru Watanabe</u>	Long-term inflammation model using human colonic organoids	AOCC2019	Taipei (Taiwan)	2019年6月15日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Kawai M, Hama M, Nagata S, Kawamoto A, Suzuki K, Shimizu H, Anzai S, Takahashi J, Kuno R, Takeoka S, Hiraguri Y, Yui S, Okamoto R, Watanabe M	Functional analysis of isoflavones using patient-derived intestinal organoids	AOCC2019	Taipei (Taiwan)	2019年6月14日
岡本隆一、清水寛路、鈴木康平、高橋純一、川井麻央、平栗優衣、竹岡さや香、杉原ハディ優樹、永田紗矢香、竹中健人、齋藤詠子、福田将義、藤井俊光、長堀正和、油井史郎、土屋輝一郎、大塚和朗、渡辺守	【バイオマーカーと創薬に関するプロジェクト】培養腸上皮幹細胞を用いた炎症性腸疾患に対する再生医療の開発	厚生労働科学研究費 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度 第2回総会	コングレスクエア日本橋(東京都中央区)	2020年1月24日
岡本隆一	【Keynote lecture】腸上皮オルガノイドを用いた再生医療の開発	ヒューマン・オルガノイド技術の最前線 2019	コングレスクエア日本橋(東京都中央区)	2019年11月25日
岡本隆一、清水寛路、渡辺守	【消化器疾患と再生医療】炎症性腸疾患に対する再生医療の開発	JDDW2019	ポートピアホテル南館(兵庫県神戸市)	2019年11月23日
川井麻央、河本亜美、永田紗矢香、安斎翔、高橋純一、久野玲子、平栗優衣、鈴木康平、清水寛路、油井史郎、岡本隆一、渡辺守	患者由来腸上皮オルガノイドを用いたイソフラボン類による腸上皮機能調節機構の解析	第56回日本消化器免疫学会総会	メルパルク京都(京都府京都市)	2019年8月2日
岡本隆一、清水寛路、鈴木康平、高橋純一、川井麻央、平栗優衣、竹岡さや香、杉原ハディ優樹、永田紗矢香、竹中健人、齋藤詠子、福田将義、藤井俊光、長堀正和、油井史郎、土屋輝一郎、大塚和朗、渡辺守	培養腸上皮幹細胞を用いた炎症性腸疾患に対する再生医療の開発	厚生労働科学研究費 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和元年度 第1回総会	コングレスクエア日本橋(東京)	2019年7月26日
岡本隆一	炎症性腸疾患に対する再生医療の開発	第103回IBDミニカンファレンス	竹橋安田ビル(東京都千代田区)	2019年7月26日
岡本隆一	【シンポジウム13:組織再生とオルガノイド】腸上皮幹細胞オルガノイドによる粘膜再生医療	第40回日本炎症・再生医学学会	神戸国際会議場(兵庫県神戸市)	2019年7月17日
Ryuichi Okamoto, Mao Kawai, Minami Hama, Sayaka Nagata, Ami Kawamoto, Kohei Suzuki, Hiromichi Shimizu, Sho Anzai, Junichi Takahashi, Reiko Kuno, Sayaka Takeoka, Yui Hiraguri, Shiro Yui, Mamoru Watanabe	【The 6th JSGE International Topic Conference Lifestyle-related Diseases in Gastroenterology】Gastrointestinal tract (role of gut microbiome and diet): Food-borne factors in inflammatory bowel disease	第105回日本消化器病学会総会	ホテル日航金沢(石川県金沢市)	2019年5月10日
Kakuta Y, Kawai Y, Naito T, Onodera M, Moroi R, Kanazawa Y, Kuroha M, Shiga H, Kohr S, Tokunaga K, Nagasaki M, Kinouchi Y, Masamune A.	Genetic Background of Thiopurine-induced Pancreatitis in Japanese Patients with Inflammatory Bowel Disease.	Digestive Disease Week 2019	San Diego	2019年5月21日
角田洋一	遺伝的背景などを踏まえたIBDの既存治療の適正化に向けた取り組み	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
角田洋一、木内喜孝、正宗淳	チオプリンの副作用を予測するNUDT15遺伝子多型検査の有用性について	JDDW2018	神戸	2018年11月3日
角田洋一、木内喜孝、下瀬川徹	個人ゲノム情報から考えるIBD診療の将来像	第8回日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017年12月1日
桂田 武彦、大草 敏史、小早川 雅男	抗菌薬3剤併用による難治性潰瘍性大腸炎の治療	第103回日本消化器病学会総会	京王プラザホテル東京	2017年4月20日
Omura Y, Toiyama Y, Okugawa Y, Yamamoto A, Yin C, Shigemori T, Kusunoki K, Kusunoki Y, Ide S, Kitajima T, Fujikawa H, Yasuda H, Hiro J, Yoshiyama S, Ohi M, Araki T, Kusunoki M	Crohn's like lymphoid reaction is associated with oncological prognosis and host nutrition in pathological Srage / gastric cancer	The Digestive Disease Week (DDW) 2019	San Diego	2019年5月18日
内田恵一、井上幹大、小池勇樹、松下航平、長野由佳、重盛恒彦、山本 晃、北嶋貴仁、近藤 哲、大北喜基、間山裕二、楠正人	小児炎症性腸疾患の外科治療における課題.	第16回日本消化管学会総会学術集会	姫路	2020年2月7日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
廣 純一郎、大北喜基、問山裕二、志村匡信、藤川裕之、山本 晃、北嶋貴仁、安田裕美、横江 毅、大井正貴、井上幹大、楠正人	潰瘍性大腸炎および Colitic cancer に対する腹腔鏡下手術.	第 32 回日本内視鏡外科学会総会	横浜	2019 年 12 月 5 日
近藤 哲、大北喜基、小林美奈子、奥川喜永、藤川裕之、安田裕美、横江 毅、廣 純一郎、大井正貴、問山裕二、内田恵一、楠正人	消化管手術後腹腔内膿瘍に対する経皮的膿瘍ドレナージの有効性.	第 32 回外科感染症学会学術集会	岐阜	2019 年 11 月 29 日
井上幹大、内田恵一、長野由佳、近藤 哲、松下航平、小池勇樹、大北喜基、問山裕二、荒木俊光、楠正人	小児クローン病症例に対する腹会陰式直腸切断術後の会陰創管理における予防的閉鎖陰圧療法の実験.	第 32 回日本外科感染症学会総会学術集会	岐阜	2019 年 11 月 29 日
大北喜基、小林美奈子、北嶋貴仁、近藤 哲、藤川裕之、廣 純一郎、問山裕二、大井正貴、荒木俊光、楠正人	待機的大腸手術における full preparation の有用性.	第 32 回日本外科感染症学会総会学術集会	岐阜	2019 年 11 月 29 日
大北喜基、荒木俊光、近藤 哲、奥川喜永、藤川裕之、廣 純一郎、井上幹大、問山裕二、大井正貴、内田恵一、楠正人	潰瘍性大腸炎術後難治性回腸嚢炎の臨床像.	第 27 回消化器関連学会週間 JDDW2019	神戸	2019 年 11 月 23 日
大北喜基、問山裕二、小林美奈子、山本 晃、北嶋貴仁、近藤 哲、奥川喜永、藤川裕之、安田裕美、横江 毅、廣 純一郎、大井正貴、荒木俊光、内田恵一、楠正人	消化管外科病棟における血液培養要請例の検討.	第 81 回日本臨床外科学会総会	高知	2019 年 11 月 14 日
近藤 哲、荒木俊光、大北喜基、今岡裕基、安田裕美、小池勇樹、廣純一郎、吉山繁幸、井上幹大、大井正貴、問山裕二、内田恵一、楠正人	クローン病に対する腹会陰式直腸切断術の検討	第 81 回日本臨床外科学会総会	高知	2019 年 11 月 14 日
井上幹大、内田恵一、長野由佳、松下航平、小池勇樹、楠正人	小児炎症性腸疾患症例における術前骨格筋量と術後合併症との関連性に関する検討.	第 46 回日本小児栄養消化器肝臓学会	奈良	2019 年 11 月 3 日
松下航平、長野由佳、小池勇樹、井上幹大、内田恵一、楠正人	胎児期に腹部腫瘍を指摘された尿道閉鎖、尿道直腸瘻の 1 例.	第 35 回日本小児外科学会秋季シンポジウム	大阪	2019 年 10 月 17 日
大北喜基、荒木俊光、近藤 哲、奥川喜永、藤川裕之、廣純一郎、井上幹大、問山裕二、大井正貴、内田恵一、楠正人	痔瘻合併クローン病に対する人工肛門造設術の治療成績.	第 74 回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2019 年 10 月 11 日
問山裕二、山本 晃、奥川喜永、楠 蔵人、大村悠介、藤川裕之、大北喜基、廣純一郎、大井正貴、内田恵一、楠正人	網羅的 DNA メチル化解析から抽出した潰瘍性大腸炎合併大腸癌診断マーカー.	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019 年 7 月 19 日
井上幹大、内田恵一、長野由佳、松下航平、小池勇樹、大北喜基、問山裕二、荒木俊光、楠正人	新生児手術症例の SSI 減少を目指して: MRSA 保菌リスク因子の検討と口腔内母乳塗布による MRSA 保菌予防効果.	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019 年 7 月 19 日
大北喜基、荒木俊光、近藤 哲、奥川喜永、藤川裕之、廣 純一郎、井上幹大、問山裕二、大井正貴、内田恵一、楠正人	潰瘍性大腸炎手術症例における回腸嚢関連感染症合併症予防のための適切な術式選択	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019 年 7 月 18 日
楠 蔵人、問山裕二、奥川喜永、藤川裕之、安田裕美、大北喜基、廣 純一郎、大井正貴、荒木俊光、楠正人	小腸型、小腸大腸型クローン病における回腸の炎症部と非炎症部の IL6 発現量の比の臨床的意義.	第 74 回日本消化器外科学会総会	東京	2019 年 7 月 17 日
小池勇樹、市川 崇、松下航平、井上幹大、内田恵一、溝口 昭、楠正人	マウス小腸壁内における消化管神経叢の生体観察とその有用性の検討.	第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会	松本	2019 年 7 月 13 日
内田恵一、井上幹大、小池勇樹、松下航平、長野由佳、山本 晃、井出正造、北嶋貴仁、大竹耕平、藤川裕之、荒木俊光、問山裕二、楠正人	潰瘍性大腸炎手術開発における小児外科医の関わりと現在の課題.	第 56 回日本小児外科学会学術集会	久留米	2019 年 5 月 25 日
井上幹大、内田恵一、長野由佳、近藤 哲、松下航平、小池勇樹、大北喜基、問山裕二、荒木俊光、楠正人	小児の潰瘍性大腸炎における回腸人工肛門造設後 outlet obstruction 発症のリスク因子の検討.	第 56 回日本小児外科学会学術集会	久留米	2019 年 5 月 23 日
小池勇樹、問山裕二、奥川喜永、長野由佳、松下航平、大北喜基、井上幹大、荒木俊光、内田恵一、楠正人	小児潰瘍性大腸炎患者の直腸粘膜における microRNA-124 メチル化の意義.	第 119 回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019 年 4 月 18 日
大北喜基、荒木俊光、近藤 哲、井出正造、北嶋貴仁、藤川裕之、奥川喜永、廣純一郎、問山裕二、大井正貴、内田恵一、楠正人	人工肛門閉鎖術における予防的局所陰圧閉鎖療法.	第 119 回日本外科学会定期学術集会	大阪	2019 年 4 月 18 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Toiyama Y, Okugawa Y, Araki T, Uchino M, Ikeuchi H, <u>Kusunoki M</u>	Comprehensive analysis to identify aberrant DNA methylation for predicting colitis associated cancer in ulcerative colitis patients.	IBD and Liver: East Meets West.	京都.	2018年9月8日
Inoue M, Koike Y, Uchida K, Nagano Y, Kondo S, Matsushita K, Okita Y, Araki T, <u>Kusunoki M</u>	Predictors of pouchitis after ileal pouch-anal anastomosis for ulcerative colitis in pediatric patients.	APPSPGHAN 2018	Bangkok,	2018年10月25日
近藤 哲、荒木俊光、大北喜基、浦谷亮、井出正造、北嶋貴仁、松下航平、重盛恒彦、藤川裕之、安田裕美、小池勇樹、廣純一郎、吉山繁幸、井上幹大、大井正貴、問山裕二、内田恵一、 <u>楠正人</u>	クローン病に対する腹会陰直腸切断術の検討.	日本臨床外科学会三重県支部会第291回三重外科集談会、	津、	2018年12月15日
大北喜基、荒木俊光、近藤 哲、藤川裕之、廣 純一郎、井上幹大、問山裕二、大井正貴、内田恵一、 <u>楠正人</u>	潰瘍性大腸炎術後 afferent limb syndrome に対する腹腔鏡下回腸固定術の経験.	第31回日本内視鏡外科学会総会	福岡	2018年12月6日
大北喜基、荒木俊光、近藤 哲、藤川裕之、廣 純一郎、問山裕二、大井正貴、内田恵一、 <u>楠正人</u>	潰瘍性大腸炎の3期分割手術計画における prognostic nutritional index の意義	第31回日本外科感染症学会総会学術集会	大阪	2018年11月28日
荒木俊光、大北喜基、近藤 哲、廣 純一郎、吉山繁幸、安田裕美、藤川裕之、北嶋貴仁、井出正造、浦谷 亮、市川 崇、重盛恒彦、山本 晃、問山裕二、大井正貴、 <u>楠正人</u>	回腸囊肛門吻合前後の腔瘻の治療戦略.	第80回日本臨床外科学会総会	東京、	2018年11月23日
問山裕二、奥川喜永、田中光司、荒木俊光、内田恵一、菱田朝陽、内野 基、池内浩基、廣田誠一、 <u>楠正人</u> 、C. Richard Boland、Ajay Goel	直腸粘膜の microRNAs メチル化を用いた潰瘍性大腸炎癌化症例の拾い上げ.	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会、	京都、	2018年11月22日
大北喜基、荒木俊光、近藤 哲、藤川裕之、吉山 繁幸、廣 純一郎、井上幹大、問山裕二、大井正貴、内田恵一、 <u>楠正人</u>	:潰瘍性大腸炎に対する大腸全摘・J型回腸囊肛門吻合術後 Stoma-Related Obstruction の特徴	第73回大腸肛門病学会学術集会	東京	2018年11月10日
荒木俊光、大北喜基、近藤 哲、北嶋貴仁、藤川裕之、安田裕美、奥川喜永、小池勇樹、廣 純一郎、吉山繁幸、問山裕二、井上幹大、大井正貴、内田恵一、 <u>楠正人</u>	潰瘍性大腸炎術後の回腸囊関連合併症に対する手術治療成績	第73回大腸肛門病学会学術集会	東京	2018年11月9日
山本 晃、問山裕二、 <u>楠正人</u>	孤発性大腸癌ならびに潰瘍性大腸炎関連癌診断マーカーとしての OPLAH メチル化レベルの有用性	JDDW2018 KOBE 第26回日本消化器関連学会週間、	神戸	2018年11月3日
荒木俊光、大北喜基、近藤 哲、北嶋貴仁、藤川裕之、安田裕美、奥川喜永、廣純一郎、吉山 繁幸、問山 裕二、井上 幹大、大井正貴、内田恵一、 <u>楠正人</u>	潰瘍性大腸炎術後回腸囊肛門再吻合術の成績	JDDW2018KOBE 第26回日本消化器関連学会週間	神戸、	2018年11月3日
問山裕二、奥川喜永、 <u>楠正人</u>	潰瘍性大腸炎癌化リスク診断としての直腸粘膜生検による DNA メチル化測定法	JDDW2018 KOBE 第26回日本消化器関連学会週間	神戸	2018年11月2日
奥川喜永、問山 裕二、山本 晃、重盛恒彦、藤川裕之、安田裕美、廣 純一郎、吉山繁幸、望木郁代、内田恵一、荒木俊光、中谷 中、 <u>楠正人</u> 、Boland C. Richard、Goel Ajay	:miR-1 メチル化の Fild effct を利用した潰瘍性大腸炎関連癌リスクマーカーとしての有用性の検討	日本人類遺伝学会第63回大会	横浜	2018年10月11日
小池勇樹、長野由佳、松下航平、井上幹大、内田恵一、 <u>楠正人</u>	小児潰瘍性大腸炎術後 Pouchitis 発症に関するリスクファクターの検討	第45回 小児栄養消化器肝臓学会、	埼玉	2018年10月7日
問山裕二、近藤 哲、井出正造、北嶋貴仁、藤川裕之、廣 純一郎、安田裕美、奥川喜永、大北喜基、吉山繁幸、大井正貴、荒木俊光、 <u>楠正人</u>	:癌合併潰瘍性大腸炎患者診断マーカー同定のための直腸粘膜における網羅的 DNA メチル化解析.	第77回日本癌学会学術集会	大阪	2018年9月29日
大北喜基、荒木 俊光、近藤 哲、藤川 裕之、廣 純一郎、吉山 繁幸、問山 裕二、大井 正貴、内田恵一、 <u>楠正人</u>	残存直腸切除・回腸囊肛門吻合術における術後感染性合併症予測因子としての予後推定栄養指数(PNI)の有用性.	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月13日
山本 晃、問山裕二、奥川喜永、重盛恒彦、市川 崇、近藤 哲、藤川裕之、廣純一郎、荒木俊光、 <u>楠正人</u>	:遺伝子のメチル化レベルを指標にした潰瘍性大腸炎関連大腸癌の診断に有用なバイオマーカーの確立.	第73回日本消化器外科学会総会	鹿児島	2018年7月11日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
松下航平、井上幹大、長野由佳、小池勇樹、大北喜基、荒木俊光、問山裕二、内田恵一、天野敬史郎、平山雅浩、楠正人	潰瘍性大腸炎治療と悪性リンパ腫の関連性について。	第 45 回日本内視鏡研究会、	東京、	2018 年 7 月 7 日
小池勇樹、長野由佳、橋本 清、松下航平、大竹耕平、井上幹大、内田恵一、楠正人	: 虫垂炎症状を呈したクローン病の 2 例。	第 32 回日本小児救急医学会学術集会、	つくば	2018 年 6 月 2 日
内田恵一、井上幹大、小池勇樹、松下航平、長野由佳、橋本 清、大竹耕平、毛利靖彦、近藤 哲、大北喜基、問山裕二、荒木俊光、楠正人	超早期発症型炎症性腸疾患の外科治療	第 55 回日本小児外科学会学術集会	新潟、	2018 年 5 月 30 日
荒木俊光、近藤 哲、大北喜基、廣 純一郎、吉山繁幸、藤川裕之、安田裕美、北嶋貴仁、志村匡信、沖 哲、浦谷 亮、奥川喜永、井出正造、市川 崇、山本 晃、重盛恒彦、問山裕二、大井正貴、内田恵一、楠正人	炎症性腸疾患に対する抗 TNF- 抗体が維持療法中 paradoxical reaction 発生	第 104 回日本消化器病学会総会、	東京	2018 年 4 月 20 日
近藤 哲、荒木俊光、大北喜基、廣 純一郎、吉山繁幸、藤川裕之、安田裕美、北嶋貴仁、志村匡信、沖 哲、浦谷 亮、奥川喜永、井出正造、市川 崇、山本 晃、重盛恒彦、問山裕二、大井正貴、内田恵一、楠正人	: 炎症性腸疾患に対する抗 TNF- 抗体バイオ後続品スイッチ治療成績。	第 104 回日本消化器病学会総会	東京	2018 年 4 月 19 日
問山裕二、奥川喜永、楠正人	Colitis Associated Cancer の存在診断としての遺伝子検査。	第 104 回日本消化器病学会総会、	東京、	2018 年 4 月 19 日
内田恵一、井上幹大、小池勇樹、松下航平、長野由佳、大竹耕平、橋本 清、問山裕二、荒木俊光、田口智章、毛利靖彦、楠正人	小児期発症非特異性多発性小腸潰瘍症の遺伝子診断と外科治療	第 118 回日本外科学会定期学術集会	東京	2018 年 4 月 7 日
Uchida K, Matsushita K, Inoue M, Koike Y, Nagano Y, Otake K, Uratani R, Yamamoto A, Kondo S, Fujikawa H, Yoshiyama S, Hiro J, Toiyama Y, Araki T, Kusunoki M	Clinical characteristics and surgical outcome of pediatric, adult, elderly patients with ulcerative colitis who underwent surgery in a single center.	4 th International Symposium on Pediatric Inflammatory Bowel Disease(PIBD2017),	Barcelona, Spain	2017 年 9 月 14 日
Toiyama Y, Okugawa Y, Hur K, Tanaka K, Araki T, Uchida K, Uchino M, Ikeuchi H, Hirota S, Kusunoki M, Boland CR, Goel A	: The clinical significance of epigenetic microRNA-137 silencing in patients with ulcerative colitis.	AACR Annual Meeting,	Washington, D.C., USA	2017 年 4 月 4 日
内田恵一、井上幹大、小池勇樹、松下航平、長野由佳、近藤 哲、大北喜基、問山裕二、荒木俊光、楠正人	小児炎症性腸疾患の外科治療における全人的アプローチ。	第 14 回日本消化管学会総会学術集会	東京、	2018 年 2 月 9 日
近藤 哲、荒木俊光、市川 崇、安田裕美、森本雄貴、吉山繁幸、大井正貴、楠正人	: 肛門部瘻状瘻を合併したクローン病難治性痔瘻の 1 例	第 24 回三重県クローン病研究会	津	2018 年 2 月 8 日
荒木俊光、大北喜基、廣 純一郎、近藤 哲、藤川裕之、安田裕美、小池勇樹、奥川喜永、井上幹大、問山裕二、小林美奈子、大井正貴、内田恵一、楠正人	腹腔鏡下大腸全摘・回腸囊肛門吻合術における回腸囊関連合併症発生抑制のための工夫。	第 30 回日本内視鏡外科学会総会、	京都	2017 年 12 月 9 日
井上幹大、廣 純一郎、内田恵一、長野由佳、松下航平、小池勇樹、荒木俊光、楠正人	: 小児に対する腹腔鏡下大腸全摘術における learning curve の検討	第 30 回日本内視鏡外科学会総会	京都	2017 年 12 月 8 日
松下航平、井上幹大、長野由佳、小池勇樹、荒木俊光、内田恵一、阿部直紀、岩田直美、楠正人	敗血症を繰り返した下行結腸狭窄を伴う乳児期発症炎症性腸疾患の一例	第 51 回日本小児外科学会東海北陸地方会	金沢	2017 年 12 月 3 日
荒木俊光、近藤 哲、吉山繁幸、廣純一郎、安田裕美、藤川裕之、問山裕二、内田恵一、楠正人	: クローン病術後寛解維持のための治療戦略。	第 79 回日本臨床外科学会総会	東京	2017 年 11 月 25 日
山本 晃、問山裕二、大村悠介、近藤 哲、大北喜基、今岡裕基、北嶋貴仁、松下航平、藤川裕之、安田裕美、小池勇樹、奥川喜永、吉山繁幸、廣 純一郎、井上幹大、小林美奈子、大井正貴、内田恵一、楠正人	経口メサラジンが潰瘍性大腸炎組織中メチル化に与える影響の検討。	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017 年 11 月 10 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
近藤 哲、荒木俊光、大北喜基、沖 哲、今岡裕基、北嶋貴仁、松下航平、藤川裕之、安田裕美、小池勇樹、奥川喜永、吉山繁幸、廣 純一郎、井上幹大、小林美奈子、大井正貴、問山裕二、内田恵一、楠正人	クローン病術後の抗 TNF- 抗体の維持治療についての検討.	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017 年 11 月 10 日
荒木俊光、大北喜基、近藤哲、山本晃、藤川裕之、安田裕美、廣純一郎、吉山繁幸、問山裕二、小林美奈子、大井正貴、今岡裕基、北嶋貴仁、沖 哲、松下航平、小池勇樹、井上幹大、井出正造、内田恵一、楠正人	潰瘍性大腸炎術後の回腸囊関連合併症とその手術治療成績.	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会、	福岡、	2017 年 11 月 10 日
重盛恒彦、荒木俊光、近藤 哲、大北喜基、山本 晃、濱田康彦、葛原正樹、堀木紀行、中村美咲、小池勇樹、奥川喜永、吉山繁幸、廣 純一郎、井上幹大、小林美奈子、大井正貴、問山裕二、内田恵一、竹井謙之、楠正人	青黛内服中に大腸炎を併発した潰瘍性大腸炎の 1 例 .	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017 年 11 月 10 日
松下航平、井上幹大、小池勇樹、長野由佳、大竹耕平、北嶋貴仁、問山裕二、荒木俊光、楠正人	潰瘍性大腸炎手術における両下肢コンパートメント症候群の経験と現在の予防対策について.	第 28 回日本小児外科 QOL 研究会	静岡	2017 年 11 月 4 日
井上幹大、内田恵一、長野由佳、近藤哲、松下航平、小池勇樹、荒木俊光、楠正人	小児クローン病術後症例における抗 TNF - 抗体製剤の有効性 - 短腸症候群を予防するため - .	第 33 回日本小児外科学会 秋季シンポジウム PSJM2017	川崎	2017 年 10 月 28 日
井上幹大、内田恵一、長野由佳、松下航平、小池勇樹、荒木俊光、楠正人	術後に抗 TNF - 抗体製剤を使用している小児クローン病症例の検討 .	第 44 回日本小児栄養消化器肝臓学会	福岡	2017 年 10 月 22 日
内田恵一、井上幹大、小池勇樹、松下航平、長野由佳、近藤哲、大北喜基、荒木俊光、問山裕二、楠正人	E01BD への外科的アプローチ .	第 44 回日本小児栄養消化器肝臓学会、	福岡、	2017 年 10 月 22 日
荒木俊光、近藤 哲、大北喜基、藤川裕之、安田裕美、奥川喜永、廣 純一郎、吉山繁幸、問山裕二、井上幹大、小林美奈子、大井正貴、田中光司、井上靖浩、内田恵一、毛利靖彦、楠正人	クローン病腸管切除術後再手術抑制としての抗 TNF - 抗体維持療法	JDDW2017 第 25 回日本消化器関連学会週間第 15 回日本消化器外科学会大会	福岡	2017 年 10 月 13 日
Kondo S, Araki T, Okita Y, Omura Y, Yamamoto A, Fujikawa H, Yasuda H, Okugawa Y, Hiro J, Yoshiyama S, Toiyama Y, Ohi M, Kobayashi M, Inoue Y, Uchida K, Mohri Y, Kusunoki M	The interval between surveillance colonoscopies and the prognosis of colitis-associated colorectal cancer	JDDW2017 第 25 回日本消化器関連学会週間第 15 回日本消化器外科学会大会	福岡	2017 年 10 月 13 日
中村美咲、堀木紀行、小島真一、三浦広嗣、佐野 隆、原田哲朗、山田玲子、井上宏之、葛原正樹、濱田康彦、田中匡介、近藤 哲、大北喜基、荒木俊光、楠正人、竹井謙之	クローン病における Infliximab 単独療法の効果維持予測因子の検討 .	JDDW2017 第 25 回日本消化器関連学会週間第 15 回日本消化器外科学会大会	福岡、	2017 年 10 月 12 日
廣 純一郎、荒木俊光、問山裕二、井上靖浩、藤川裕之、大北喜基、小林美奈子、毛利靖彦、楠正人	潰瘍性大腸炎に対する Reduced Port Surgery ~ 手術時間短縮の工夫 ~	第 72 回日本消化器外科学会総会	金沢	2017 年 7 月 22 日
問山裕二、奥川 喜永、荒木 俊光、小林美奈子、大北 喜基、田中 光司、井上 靖浩、内田 恵一、毛利 靖彦、楠正人	: miRNAs メチル化マーカーパネルを用いた潰瘍性大腸炎患者の癌化リスク診断	第 72 回日本消化器外科学会総会	金沢	2017 年 7 月 21 日
荒木俊光、大北 喜基、藤川 裕之、安田裕美、廣 純一郎、吉山 繁幸、問山 裕二、小林 美奈子、大井 正貴、楠正人	潰瘍性大腸炎術後の難治性回腸囊関連合併症に対する salvage 手術 (How to salvage the complications of ileal pouch-anal anastomosis for ulcerative colitis) .	第 72 回日本消化器外科学会総会、	金沢、	2017 年 7 月 20 日
奥川喜永、問山裕二、田中光司、荒木俊光、内田恵一、内野 基、池内浩基、廣田誠一、Richard Boland、Ajay Goel、楠正人	Field effect と Epigenetic drift の概念を利用した、MicroRNA メチル化による潰瘍性大腸炎癌化のハイリスク診断	第 87 回大腸癌研究会	四日市	2017 年 7 月 7 日
内田恵一、井上幹大、大竹耕平、小池勇樹、松下航平、長野由佳、橋本 清、問山裕二、荒木俊光、田口智章、楠正人	当科で経験した CEAS (SLC02A1 関連腸症) の検討 .	第 54 回日本小児外科学会学術集会	仙台	2017 年 5 月 12 日
荒木俊光、大北喜基、藤川裕之、安田裕美、廣純一郎、吉山繁幸、問山裕二、小林美奈子、大井正貴、楠正人	潰瘍性大腸炎大腸全摘時回腸粘膜における回腸囊炎予測因子発現の検討.	第 117 回日本外科学会定期学術集会	横浜	2017 年 4 月 29 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
大北喜基、荒木俊光、近藤 哲、浦谷亮、奥川喜永、藤川裕之、安田裕美、重盛恒彦、廣 純一郎、吉山繁幸、井上幹大、問山裕二、小林美奈子、大井正貴、田中光司、井上靖浩、内田恵一、毛利靖彦、楠正人	潰瘍性大腸炎における SSI 予測因子としての prognostic あ nutritional index の有用性	第 117 回日本外科学会定期学術集会	横浜	2017 年 4 月 29 日
近藤 哲、荒木俊光、大北喜基、浦谷亮、重盛恒彦、藤川裕之、安田裕美、奥川喜永、廣 純一郎、吉山繁幸、問山裕二、大井正貴、小林美奈子、田中光司、井上靖浩、毛利靖彦、内田恵一、楠正人	加齢が潰瘍性大腸炎に対する大腸全摘・回腸囊肛門吻合術後の排便機能に与える影響の検討。	第 117 回日本外科学会定期学術集会	横浜	2017 年 4 月 29 日
大北喜基、近藤 哲、浦谷 亮、奥川喜永、藤川裕之、安田裕美、重盛恒彦、廣純一郎、吉山繁幸、井上幹大、問山裕二、小林美奈子、大井正貴、田中光司、井上靖浩、内田恵一、毛利靖彦、楠正人	潰瘍性大腸炎術後慢性回腸囊炎の臨床像	第 103 回日本消化器病学会総会	東京、	2017 年 4 月 22 日
荒木俊光、大北喜基、楠正人	クローン病腸管切除術後抗 TNF 抗体維持療法の再手術抑制効果と危険因子。	第 103 回日本消化器病学会総会、	東京、	2017 年 4 月 20 日
熊谷秀規	小児 IBD の治療戦略	栃木県 IBD 学術講演会 2020	宇都宮	2020 年 2 月 12 日
熊谷秀規、清水俊明、工藤孝広、内田恵一、国崎玲子、杉田 昭、大塚直一、新井勝大、窪田 満、田尻 仁、鈴木康夫。	小児期発症炎症性腸疾患のトランジション	第 16 回日本消化管学会総会学術集会	姫路	2020 年 2 月 7・8 日
熊谷秀規	小児 IBD (炎症性腸疾患) の特徴。	第 117 回 おやま薬・薬連携研修会	下野	2020 年 1 月 15 日
熊谷秀規	<パネルディスカッション・小児発症炎症性腸疾患の現状とトランジション> 成人移行期小児炎症性腸疾患患者の自立支援のための手引書：日本小児栄養消化器肝臓学会編。	第 14 回日本消化管学会総会学術集会	東京	2018 年 2 月 9・10 日
熊谷秀規	IBD 診療における小児から成人へのトランジション。	第 8 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017 年 12 月 1 日
熊谷秀規、秋山卓士、虻川大樹、位田忍、乾 あやの、工藤孝広、窪田 満	成人移行期小児炎症性腸疾患患者の自立支援のための手引書。	第 44 回日本小児栄養消化器肝臓学会	福岡	2017 年 10 月 20~22 日
日比則孝、小林 拓、森久保 拓、清原裕貴、松林真央、佐上晋太郎、中野 雅、久松理一、日比紀文	Drug-tolerant assay による抗インフリキシマブ抗体測定の有用性	第 56 回日本消化器免疫学会総会	メルパルク 京都	2019 年 8 月 2 日
S Sagami, T Kobayashi, T Kanazawa, K Aihara, H Morikubo, R Ozaki, S Okabayashi, M Matsubayashi, A Fuchigami, H Kiyohara, M Nakano, T Hibi	Accuracy of Doppler transabdominal ultrasound in assessing disease severity and extent in IBD.	14th Congress of ECCO	Bella Center Copenhagen	2019 年 3 月 7 日
M Matsubayashi, T Kobayashi, S Okabayashi, R Ozaki, S Sagami, H Kiyohara, A Fuchigami, H Morikubo, M Nakano, T Hibi	Capsule scoring of ulcerative colitis (CSUC) is useful for monitoring inactive ulcerative colitis.	Crohn's & colitis congress Las Vegas	Bellagio Hotel and Casino, Las Vegas	2019 年 2 月 7 日
細江直樹、中野雅、竹内健、遠藤豊、松岡克善、大森鉄平、林田真理、水野慎大、長沼誠、小林拓、吉田篤史、中里圭宏、金井隆典、日比紀文、鈴木康夫、上野文昭、渡辺守、緒方晴彦	カプセル内視鏡による潰瘍性大腸炎の炎症評価スコア：Capsule Scoring of Ulcerative Colitis(CSUC)とその Validation	第 12 回日本カプセル内視鏡学会学術集会	グランデはがくれ(佐賀)	2019 年 2 月 3 日
松林真央、小林拓、岡林慎二、淵上綾子、尾崎良、佐上晋太郎、清原裕貴、森久保拓、中野雅、日比紀文	非活動期潰瘍性大腸炎患者モニタリングにおける Capsule Scoring of Ulcerative Colitis(CSUC)の意義	第 12 回日本カプセル内視鏡学会学術集会	グランデはがくれ(佐賀)	2019 年 2 月 3 日
佐上晋太郎、小林拓、中野雅、日比紀文	クローン病の大腸内視鏡前処置中に MR エンテログラフィーを追加すると上乗せ効果は期待できるか？	第 107 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	シェーンパッハ・サボ	2018 年 12 月 16 日
森久保拓、小林拓、尾崎良、清原裕貴、淵上綾子、松林真央、佐上晋太郎、中野雅、久松理一、日比紀文	潰瘍性大腸炎における 5-ASA 製剤とチオプリン製剤の相互作用に関する研究	第 9 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	メルパルク 京都	2018 年 11 月 22 日
金沢徹雄、佐上晋太郎、小林拓、相原佳那子、林規隆、森久保拓、松林真央、淵上綾子、清原裕貴、尾崎良、岡林慎二、中野雅、日比紀文	潰瘍性大腸炎の活動性評価における腹部超音波検査の精度	第 9 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	メルパルク 京都	2018 年 11 月 22 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
清原裕貴、 <u>小林拓</u> 、 <u>淵上綾子</u> 、 <u>中野雅</u> 、 <u>日比紀文</u>	5-アミノサリチル酸不耐潰瘍性大腸炎患者の臨床的特徴	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	京王プラザホテル	2018年11月9日
<u>尾崎良</u> 、 <u>小林拓</u> 、 <u>岡林慎二</u> 、 <u>中野雅</u> 、 <u>原敦子</u> 、 <u>大部誠</u> 、 <u>日比紀文</u>	内視鏡的寛解潰瘍性大腸炎における再燃の組織学的リスク因子	第8回日本炎症性腸疾患学会学術集会	海運クラブ(東京)	2017年12月1日
<u>尾崎良</u> 、 <u>小林拓</u> 、 <u>齊藤詠子</u> 、 <u>豊永貴彦</u> 、 <u>岡林慎二</u> 、 <u>梅田智子</u> 、 <u>中野雅</u> 、 <u>松岡健太郎</u> 、 <u>森永正二郎</u> 、 <u>久松理一</u> 、 <u>日比紀文</u>	潰瘍性大腸炎における組織学的再燃リスク因子の探索	第59回日本消化器病学会大会	マリメッセ福岡	2017年10月13日
<u>原勇輔</u> 、 <u>岡林慎二</u> 、 <u>小林拓</u> 、 <u>尾崎良</u> 、 <u>佐上晋太郎</u> 、 <u>豊永貴彦</u> 、 <u>中野雅</u> 、 <u>宮本康雄</u> 、 <u>牧田遊子</u> 、 <u>常松令</u> 、 <u>土本寛二</u> 、 <u>日比紀文</u> 、 <u>鈴木雄介</u>	結核スクリーニング陰性にもかかわらず抗TNF-抗体治療中に肺結核を発症したクローン病の1例	日本消化器病学会関東支部第346回例会	海運クラブ(東京)	2017年9月30日
<u>渡辺康博</u> 、 <u>佐上晋太郎</u> 、 <u>小林拓</u> 、 <u>尾崎良</u> 、 <u>岡林慎二</u> 、 <u>豊永貴彦</u> 、 <u>中野雅</u> 、 <u>日比紀文</u>	HIV感染症を併発した潰瘍性大腸炎の1例	日本消化器病学会関東支部第345回例会	海運クラブ(東京)	2017年7月15日
<u>福岡晃平</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>久下博之</u> 、 <u>井上隆</u> 、 <u>中本貴透</u> 、 <u>石岡興平</u> 、 <u>佐々木義之</u> 、 <u>岩佐陽介</u> 、 <u>松本弥生</u> 、 <u>庄雅之</u>	当科におけるブデソニド注腸フォームの使用経験について	第10回日本炎症性腸疾患学会	アクロス福岡	2019年11月29日
<u>久下博之</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>中本貴透</u> 、 <u>石岡興平</u> 、 <u>佐々木義之</u> 、 <u>福岡晃平</u> 、 <u>岩佐陽介</u> 、 <u>松本弥生</u> 、 <u>庄雅之</u>	潰瘍性大腸炎に対する回腸嚢再建術後の治療成績	第10回日本炎症性腸疾患学会	アクロス福岡	2019年11月29日
<u>中本貴透</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>久下博之</u> 、 <u>井上隆</u> 、 <u>佐々木義之</u> 、 <u>石岡興平</u> 、 <u>福岡晃平</u> 、 <u>岩佐陽介</u> 、 <u>竹井健</u> 、 <u>松本弥生</u> 、 <u>庄雅之</u>	潰瘍性大腸炎難治例に対するタクロリムスの位置付け	第27回日本消化器関連学会週間(JDDW2019KOBE)	神戸コンベンションセンター	2019年11月23日
<u>松本弥生</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>久下博之</u> 、 <u>井上隆</u> 、 <u>中本貴透</u> 、 <u>石岡興平</u> 、 <u>佐々木義之</u> 、 <u>福岡晃平</u> 、 <u>岩佐陽介</u> 、 <u>庄雅之</u>	当科における高齢発症潰瘍性大腸炎患者の臨床像についての検討	第27回日本消化器関連学会週間(JDDW2019KOBE)	神戸コンベンションセンター	2019年11月23日
<u>久下博之</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>井上隆</u> 、 <u>中本貴透</u> 、 <u>石岡興平</u> 、 <u>佐々木義之</u> 、 <u>福岡晃平</u> 、 <u>岩佐陽介</u> 、 <u>松本弥生</u> 、 <u>庄雅之</u>	潰瘍性大腸炎に対する回腸嚢再建術後の治療成績	第27回日本消化器関連学会週間(JDDW2019KOBE)	神戸コンベンションセンター	2019年11月23日
<u>松本弥生</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>久下博之</u> 、 <u>井上隆</u> 、 <u>中本貴透</u> 、 <u>石岡興平</u> 、 <u>佐々木義之</u> 、 <u>福岡晃平</u> 、 <u>岩佐陽介</u> 、 <u>庄雅之</u>	当科における高齢発症潰瘍性大腸炎患者の臨床像についての検討	第74回日本大腸肛門病学会学術集会	ヒルトン東京お台場	2019年10月11日
<u>中本貴透</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>久下博之</u> 、 <u>井上隆</u> 、 <u>佐々木義之</u> 、 <u>石岡興平</u> 、 <u>福岡晃平</u> 、 <u>岩佐陽介</u> 、 <u>松本弥生</u> 、 <u>庄雅之</u>	難治性潰瘍性大腸炎症例に対するタクロリムス使用例の検討	第74回日本消化器外科学会総会	グランドプリンスホテル新高輪	2019年7月18日
<u>中本貴透</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>久下博之</u> 、 <u>井上隆</u> 、 <u>佐々木義之</u> 、 <u>石岡興平</u> 、 <u>福岡晃平</u> 、 <u>岩佐陽介</u> 、 <u>松本弥生</u> 、 <u>竹井健</u> 、 <u>庄雅之</u>	診断に苦慮した末梢性T細胞リンパ腫を合併した潰瘍性大腸炎の一例	第97回日本消化器内視鏡学会総会	グランドプリンスホテル新高輪	2019年6月1日
<u>中本貴透</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>久下博之</u> 、 <u>井上隆</u> 、 <u>佐々木義之</u> 、 <u>石岡興平</u> 、 <u>福岡晃平</u> 、 <u>岩佐陽介</u> 、 <u>竹井健</u> 、 <u>松本弥生</u> 、 <u>庄雅之</u>	潰瘍性大腸炎に対する手術術式の検討	第119回日本外科学会定期学術集会	大阪国際会議場	2019年4月18日
<u>福岡晃平</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>久下博之</u> 、 <u>井上隆</u> 、 <u>中本貴透</u> 、 <u>石岡興平</u> 、 <u>佐々木義之</u> 、 <u>岩佐陽介</u> 、 <u>竹井健</u> 、 <u>松本弥生</u> 、 <u>庄雅之</u>	潰瘍性大腸炎癌化例に対する最適なリンパ節郭清の検討	第119回日本外科学会定期学術集会	大阪国際会議場	2019年4月18日
<u>中本貴透</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>井上隆</u> 、 <u>庄雅之</u>	潰瘍性大腸炎難治例に対するタクロリムス使用例の検討	第110回日本消化器病学会近畿支部例会	京都テルサ	2019年2月23日
<u>中本貴透</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>久下博之</u> 、 <u>井上隆</u> 、 <u>中本貴透</u> 、 <u>佐々木義之</u> 、 <u>石岡興平</u> 、 <u>福岡晃平</u> 、 <u>岩佐陽介</u> 、 <u>竹井健</u> 、 <u>松本弥生</u> 、 <u>庄雅之</u>	狭窄を伴う潰瘍性大腸炎手術症例5例の検討	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	メルパルク京都	2018年11月22日
<u>小山文一</u> 、 <u>久下博之</u> 、 <u>井上隆</u> 、 <u>中本貴透</u> 、 <u>佐々木義之</u> 、 <u>石岡興平</u> 、 <u>福岡晃平</u> 、 <u>岩佐陽介</u> 、 <u>稲次直樹</u> 、 <u>吉川周作</u> 、 <u>横尾貴史</u> 、 <u>山岡健太郎</u> 、 <u>庄雅之</u>	直腸肛門部瘻孔を合併した潰瘍性大腸炎症例の病像と外科治療	第26回日本消化器関連学会週間(JDDW2018KOBE)	神戸コンベンションセンター	2018年11月3日
<u>植田剛</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>藤井久男</u>	本邦におけるクローン病術後吻合部潰瘍の現状 吻合部線上潰瘍は再発病変か？	第26回日本消化器関連学会週間(JDDW2018KOBE)	神戸コンベンションセンター	2018年11月3日
<u>植田剛</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>藤井久男</u>	本邦報告例集積から見たクローン病関連直腸肛門部癌症例の特徴とサーベイランスの可能性について	第26回日本消化器関連学会週間(JDDW2018KOBE)	神戸コンベンションセンター	2018年11月3日
<u>中村保幸</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>久下博之</u> 、 <u>井上隆</u> 、 <u>中本貴透</u> 、 <u>石岡興平</u> 、 <u>佐々木義之</u> 、 <u>福岡晃平</u> 、 <u>岩佐陽介</u> 、 <u>庄雅之</u>	潰瘍性大腸炎 IACA 後の吻合部瘻孔にたいし再吻合術を施行した一例	第8回日本炎症性腸疾患学会学術集会	TKP ガーデンシティ品川	2017年12月1日
<u>尾原伸作</u> 、 <u>久下博之</u> 、 <u>植田剛</u> 、 <u>井上隆</u> 、 <u>中本貴透</u> 、 <u>佐々木義之</u> 、 <u>中村保幸</u> 、 <u>小山文一</u> 、 <u>庄雅之</u>	潰瘍性大腸炎に起因する colitis associated colorectal cancer 手術症例の後方視的検討	第55回日本癌治療学会学術集会	パシフィコ横浜	2017年10月20日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
小山文二、庄雅之、吉川周作、久下博之、植田剛、井上隆、中本貴透、尾原伸作、佐々木義之、中村保幸、山岡健太郎、稲次直樹、藤井久男、錦織直人	直腸肛門部瘻孔を合併した潰瘍性大腸炎症例のマネージメント	第 25 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2017FUKUOKA)	福岡国際会議場	2017 年 10 月 14 日
植田剛、小山文二、久下博之、井上隆、尾原伸作、中本貴透、佐々木義之、中村保幸、庄雅之	クローン病関連直腸肛門管癌症例の特徴から見たサーベイランスの可能性について	第 87 回大腸癌研究会	四日市都ホテル	2017 年 7 月 7 日
尾原伸作、久下博之、植田剛、井上隆、中本貴透、佐々木義之、中村保幸、小山文二、庄雅之	Colitis associated colorectal cancer に対する手術症例の後方視的検討	第 87 回大腸癌研究会	四日市都ホテル	2017 年 7 月 7 日
尾原伸作、植田剛、井上隆、中本貴透、佐々木義之、中村保幸、小山文二、金廣裕道	潰瘍性大腸炎手術症例に対するタクロリムス・TNF- 抗体製剤の影響	第 117 回日本外科学会定期学術集会	パシフィコ横浜	2017 年 4 月 29 日
小山文二、植田剛、吉川周作	瘻孔を合併した潰瘍性大腸炎のマネージメント - 自験例と本邦報告例の検討から	第 103 回日本消化器病学会総会	京王プラザホテル	2017 年 4 月 22 日
Takabayashi K, Hosoe N, Kato M, Hayashi Y, Miyanaga R, Sugimoto S, Nanki K, Kimura K, Mikami Y, Mizuno S, Mutaguchi M, Sujino T, Naganuma M, Ogata H, Kanai T	Clinical utility of balloon assisted enteroscopy to evaluate deep small bowel lesions of crohn's disease	DDW	San Diego	2019 年 5 月 14 日
長沼 誠、牟田口 真、福田 知広、脇坂悠介、市川 将隆、萩原 裕也、高田 祐明、種本 俊、梅田 智子、吉松 裕介、吉田 康祐、南木 耕作、福原 佳代子、三上 洋平、筋野 智久、高林 馨、緒方晴彦、岩男 泰、金井 隆典	実臨床における潰瘍性大腸炎に対する新規治療法の短期有効性と安全性	日本消化管学会総会	姫路	2020 年 2 月 9 日
三上 洋平、吉松 裕介、長沼 誠、杉本真也、種本 俊、梅田 智子、福田 知広、野村 絵奈、吉田 康祐、大野 恵子、牟田口 真、南木 康作、水野 慎大、福原 佳代子、筋野 智久、高林 馨、緒方 晴彦、岩男 泰、金井 隆典	当院における潰瘍性大腸炎における青黛坐剤の有用性の検討	日本炎症性腸疾患学会	福岡	2019 年 11 月 29 日
牟田口 真、長沼 誠、福田 知広、南木康作、福原 佳代子、三上 洋平、筋野智久、高林 馨、緒方 晴彦、岩男 泰、金井 隆典	潰瘍性大腸炎における Tofacitinib と Vedolizumab の治療の短期有効性の比較	日本炎症性腸疾患学会	福岡	2019 年 11 月 29 日
福田 知広、長沼 誠、杉本 真也、南木康作、三上 洋平、福原 佳代子、筋野智久、牟田口 真、高林 馨、井上 詠、緒方 晴彦、岩男 泰、金井 隆典	潰瘍性大腸炎における 5-ASA および N-acetyl 5-ASA の大腸粘膜内濃度と粘膜治癒の関係	日本炎症性腸疾患学会	福岡	2019 年 11 月 29 日
高林 馨、細江 直樹、金井 隆典	クローン病におけるバルーン内視鏡を用いた深部小腸評価の有用性の検討	JDDW	神戸	2019 年 11 月 22 日
高林 馨、林 由紀恵、福田 知広、吉松裕介、吉田 康祐、杉本 真也、南木耕作、福原 佳代子、三上 洋平、筋野 智久、牟田口 真、細江 直樹、長沼 誠、緒方 晴彦、金井 隆典	クローン病におけるバルーン内視鏡を用いた深部小腸評価の有用性	日本小腸学会	大阪	2019 年 11 月 9 日
高林 馨、細江 直樹、金井 隆典	Clinical utility of single balloon enteroscopy to evaluate deep small bowel lesions of Crohn's Disease	日本消化器内視鏡学会総会	東京	2019 年 5 月 31 日
Takabayashi K, Hosoe N, Miyanaga R, Fukuhara S, Kimura K, Mizuno S, Naganuma M, Yahagi N, Kanai T, Ogata H	Clinical utility of novel ultra-thin single-balloon enteroscopy ; a feasibility study	DDW	Washington	2018 年 5 月 24 日
杉本 真也、長沼 誠、福田 知広、南木康作、水野 慎大、木村 佳代子、高林 馨、井上 詠、緒方 晴彦、岩男 泰、金井 隆典	潰瘍性大腸炎患者に対する青黛の現状の位置付け	日本消化管学会	佐賀	2019 年 2 月 1 日
高林 馨、木村 佳代子、細江 直樹、緒方 晴彦、金井 隆典	クローン病に適したシングルバルーン内視鏡の選択	日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2018 年 12 月 16 日
林 由紀恵、細江 直樹、宮永 亮一、木村 佳代子、水野 慎大、高林 馨、長沼 誠、緒方 晴彦、金井 隆典	潰瘍性大腸炎患者に対する大腸カプセル内視鏡の工夫	日本炎症性腸疾患学会	京都	2018 年 11 月 22 日
福田 知広、水野 慎大、久武 祐太、南木 康作、木村 佳代子、高林 馨、長沼 誠、緒方 晴彦、岩男 泰、金井 隆典	重症潰瘍性大腸炎に対するシクロスポリンによる治療戦略の検討	日本炎症性腸疾患学会	京都	2018 年 11 月 22 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
水野 慎大、福田 知広、長沼 誠、野村 絵奈、吉田 康祐、吉松 裕介、梅田 智子、杉本 真也、南木 康作、木村 佳代子、高林 馨、緒方 晴彦、岩男 泰、金井 隆典	潰瘍性大腸炎患者の5-ASA製剤不耐は入院の危険因子になる	日本炎症性腸疾患学会	京都	2018年11月22日
高林 馨、細江 直樹、金井 隆典	炎症性腸疾患に対する新型細径シングルバルーン内視鏡の有用性	JDDW	神戸	2018年11月2日
高林 馨、木村 佳代子、細江 直樹、緒方 晴彦、金井 隆典	新型細径シングルバルーン内視鏡の臨床応用	日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2018年6月17日
高林 馨、細江 直樹、緒方 晴彦	新型細径シングルバルーン内視鏡の有用性	日本消化器内視鏡学会総会	東京	2018年5月12日
福田 知広、長沼 誠、杉本 真也、大野 恵子、南木康作、水野 慎大、木村 佳代子、牟田口 真、高林 馨、井上 詠、緒方 晴彦、岩男 泰、金井 隆典	Mayo内視鏡スコア1を有する臨床的寛解潰瘍性大腸炎患者に対する治療介入の意義に関する検討	日本消化器内視鏡学会総会	東京	2018年5月12日
福田 知広、長沼 誠、杉本 真也、南木康作、水野 慎大、木村 佳代子、高林 馨、井上 詠、緒方 晴彦、岩男 泰、金井 隆典	潰瘍性大腸炎における青黛の副作用に関する検討	日本消化器病学会総会	東京	2018年4月24日
木下 聡、浦岡 俊夫、西澤 俊宏、高林 馨、中里 圭宏、長沼 誠、岩男 泰、緒方 晴彦、金井 隆典、矢作 直久	潰瘍性大腸炎の罹患範囲に発生した大型の腫瘍性病変に対する内視鏡診断とESD治療について	日本消化管学会	東京	2018年2月1日
Moriichi K, Fujiya M, Kobayashi Y, Ijiri M, Murakami Y, Iwama T, Kunogi T, Sasaki T, Takahashi K, Ando K, Ueno N, Kashima S, Tanabe H, Okumura T.	Prediction of relapse in patients with ulcerative colitis using conventional endoscopy and autofluorescence imaging	DDW2019	San Diego	2019年5月18日
Konishi H, Fujiya M, Kita A, Tanaka H, Kashima S, Sakatani A, Dokoshi T, Ando K, Ueno N, Moriichi K, Iwama T, Takahashi K, Murakami Y, Ikuta K, Mizukami Y, Goto T, Okumura T.	Abnormal activation of hnRNPA0 inhibits cancer cell apoptosis and promotes excessive mitosis in cancer cells	DDW2019	San Diego	2019年5月18日
安藤勝祥、藤谷幹造、奥村利勝	寛解期潰瘍性大腸炎における通常・拡大内視鏡を用いた活動性評価と再燃予測	第47回日本潰瘍学会	小田原	2020年1月17日
鈴木歩実、久保百合香、須美隼登、上野伸展、藤谷幹造、太田一美	炎症性腸疾患を抱える患者の就労支援における看護師の役割	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
村上雄紀、安藤勝祥、杉山雄哉、岩間琢哉、久野木健仁、佐々木貴弘、高橋慶太郎、上野伸展、嘉島伸、盛一健太郎、田邊裕貴、藤谷幹造、桑井志麻、奥村利勝	不明熱が診断の契機となり、腎機能障害・二次性血小板増多症を伴ったMEFV遺伝子変異合併クローン病の一例	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
安藤勝祥、杉山雄哉、村上雄紀、岩間琢哉、久野木健仁、佐々木貴弘、高橋慶太郎、上野伸展、嘉島伸、盛一健太郎、田邊裕貴、藤谷幹造、奥村利勝	寛解維持療法中の潰瘍性大腸炎患者における通常・拡大内視鏡観察による活動性のモニタリングと治療適正化に関する検討	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
杉山雄哉、上野伸展、村上雄紀、岩間琢哉、佐々木貴弘、久野木健仁、高橋慶太郎、安藤勝祥、嘉島伸、盛一健太郎、田邊裕貴、藤谷幹造、奥村利勝	シンポジウム1「Total care for IBD whole life-IBD special situationにおける適切なアプローチ」	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
岩間琢哉、安藤勝祥、稲場勇平、杉山雄哉、村上雄紀、久野木健仁、佐々木貴弘、高橋慶太郎、上野伸展、嘉島伸、盛一健太郎、田邊裕貴、山田聡、仲瀬裕志、藤谷幹造、奥村利勝	炎症性腸疾患入院患者における静脈血栓塞栓症の発症頻度：多施設前向き試験	JDDW2019	神戸	2019年11月21日
立花史音、杉山雄哉、村上雄紀、佐々木貴弘、高橋慶太郎、上野伸展、藤谷幹造、奥村利勝	T-SPOT陰性であったが抗TNF-製剤導入後に活動性肺結核を発症したベトナム人クローン病の1例	第287回日本内科学会北海道地方会	札幌	2019年11月9日
Konishi H, Kita A, Fujiya M.	Ferrichrome derived from Lactobacillus casei is a potential antitumor agent for gastrointestinal cancer cells	第57回日本癌治療学会学術集会	福岡	2019年10月26日
上野伸展、藤谷幹造、奥村利勝	ワークショップ8「小腸疾患診療の現状と今後の展望」クローン病小腸評価におけるMR-e、拡散強調画像、腸管動画像撮像法と小腸カプセル内視鏡の相関性とその有用性に関する検討	第105回日本消化器病学会総会	金沢	2019年5月10日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
安藤勝祥、藤谷幹造、奥村利勝	シンポジウム3「消化器疾患におけるサルコペニア」クローン病に対する生物学的製剤投与時における骨格筋肉量・内臓脂肪量と臨床経過	第105回日本消化器病学会総会	金沢	2019年5月10日
Ueno N, Murakami Y, Iwama T, Sasaki T, Kunogi T, Takahashi K, Tanaka K, Ando K, Kashima S, Inaba Y, Moriichi K, Tnabe H, Taruishi M, Fujiya M, Okumura T.	The utility of fecal calprotectin as a biomarker for predicting the clinical outcome of granulocyte and monocyte adsorptive apheresis treatment in patients with ulcerative colitis	ECCO 2019	Kopenhagen	2019年3月6日
Fujiya M, Ueno N, Kashima S, Tanaka K, Sakatani A, Moriichi K, Konishi H, Okumura T.	Probiotic-derived super-long-chain polyphosphate induces mucosal healing in patients with refractory ulcerative colitis.	FALK symposium IBD and Liver: East Meets West	Kyoto	2018年9月7日
Ando K, Fujiya M, Nomura Y, Inaba Y, Kobayashi Y, Murakami Y, Iwama T, Kunoki T, Ijiri M, Takahashi K, Ueno N, Kashima S, Moriichi K, Tanabe H, Yamada S, Nakase H, Okumura T.	The incidence of venous thromboembolism with inflammatory bowel disease in Japanese inpatients: A prospective cohort study.	AOCC2018	Shanghai	2018年6月21日
Tanida S, Matsuoka K, Naganuma M, Kitamura K, Matsui T, Arai M, Fujiya M, Horiki N, Nebiki H, Kinjo F, Miyazaki T, Matsumoto T, Esaki M, Mitsuyama K, Saruta M, Ido A, Hojo S, Takenaka O, Oketani K, Imai T, Tsubouchi H, Hibi T, Kanai T.	Multiple ascending dose, open-label, phase 1/2 study of E6011, an anti-fractalkine monoclonal antibody, to investigate the safety and clinical response in patients with Crohn's disease	DDW2018	Washington D.C.	2018年6月2日
佐藤允洋、上野伸展、藤谷幹造、奥村利勝、久野木健仁、佐々木貴弘、岩間琢哉、高橋慶太郎、村上雄紀、嘉島伸、盛一健太郎、安藤勝祥、田邊裕貴、水上裕輔	早期発見が可能であったクローン病を背景としたcolitic cancerの1例	第118回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会	札幌	2019年3月3日
石垣憲一、佐藤允洋、齋藤豪志、村上雄紀、岩間琢哉、久野木健仁、高橋慶太郎、安藤勝祥、上野伸展、嘉島伸、盛一健太郎、生田克哉、田邊裕貴、藤谷幹造、奥村利勝	多発性骨髄腫に合併し腸重積をきたした小腸形質細胞腫の一例	第124回日本消化器病学会北海道支部例会、第118回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会	札幌	2019年3月2日
上野伸展、小林祐、村上雄紀、岩間琢哉、久野木健仁、佐々木貴弘、高橋慶太郎、安藤勝祥、嘉島伸、盛一健太郎、田邊裕貴、藤谷幹造、奥村利勝	クローン病におけるMR-enterographyと小腸カプセル内視鏡の相関性と最適化に関する検討	第12回日本カプセル内視鏡学会学術集会	佐賀	2019年2月3日
安藤勝祥、藤谷幹造、小西弘晃、上野伸展、奥村利勝	腸炎モデルマウスにおけるRNA結合蛋白hnRNP A1の腸管粘膜修復作用	第55回日本消化器免疫学会	福岡	2018年12月18日
安藤勝祥、藤谷幹造、奥村利勝	ワークショップ「消化管粘膜障害・修復研究の最前線」小腸障害モデルマウスにおけるRNA結合蛋白hnRNP A1の粘膜修復作用	第46回日本潰瘍学会	名古屋	2018年12月1日
藤谷幹造、奥村利勝	ミニシンポジウム「乳酸菌由来長鎖ポリリン酸による腸バリア機能増強作用と新規治療への応用」	第46回日本潰瘍学会	名古屋	2018年12月1日
上野伸展、藤谷幹造、奥村利勝	顆粒球除去療法(GMA)の効果予測における便中カルプロテクチン測定の有効性	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都	2018年11月22日
村上雄紀、上野伸展、小林裕、岩間琢哉、久野木健仁、佐々木貴弘、高橋慶太郎、安藤勝祥、嘉島伸、盛一健太郎、田邊裕貴、藤谷幹造、奥村利勝	脾腫による胃静脈瘤形成および汎血球減少を呈したクローン病の一例	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都	2018年11月22日
小林裕、上野伸展、村上雄紀、岩間琢哉、久野木健仁、佐々木貴弘、高橋慶太郎、安藤勝祥、嘉島伸、盛一健太郎、田邊裕貴、藤谷幹造、奥村利勝	早期発見が可能であったクローン病を背景としたColitic cancerの1例	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都	2018年11月22日
安藤勝祥、小林裕、村上雄紀、岩間琢哉、佐々木貴弘、久野木健仁、高橋慶太郎、上野伸展、嘉島伸、盛一健太郎、田邊裕貴、藤谷幹造、奥村利勝	手術前後のサルコペニア・内臓脂肪量の変化とクローン病術後経過に関する検討	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都	2018年11月22日
小林裕、井尻学見、盛一健太郎、齋藤成亮、岩間琢哉、高橋慶太郎、安藤勝祥、野村好紀、上野伸展、嘉島伸、藤谷幹造、奥村利勝	通常内視鏡およびAFIによる潰瘍性大腸炎の再燃予測	JDDW2018(第96回日本消化器内視鏡学会総会)	神戸	2018年11月3日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
藤谷幹浩、盛一健太郎、奥村利勝	シンポジウム6「炎症性腸疾患における内視鏡的重症度分類とその意義」通常・拡大観察、AFIによる潰瘍性大腸炎の重症度評価	JDDW2018(第96回日本消化器内視鏡学会総会)	神戸	2018年11月2日
嘉島伸、小林裕、岩間拓哉、高橋慶太郎、安藤勝祥、上野伸展、盛一健太郎、藤谷幹浩、奥村利勝	炎症性腸疾患診療における通院距離と入院頻度・期間および手術頻度との関連性	JDDW2018(第60回日本消化器病学会大会)	神戸	2018年11月1日
上野伸展、藤谷幹浩、奥村利勝	統合プログラム2(W)「腸内細菌叢の制御による消化器疾患の治療の試み」菌由来活性物質である長鎖ポリリン酸の潰瘍性大腸炎患者に対する臨床試験	JDDW2018	神戸	2018年11月1日
安藤勝祥、小林裕、村上雄紀、佐藤裕基、岩間琢哉、久野木健仁、高橋慶太郎、河端秀賢、林明宏、上野伸展、後藤拓磨、嘉島伸、笹島順平、盛一健太郎、田邊裕貴、藤谷幹浩、奥村利勝	内臓脂肪と腸腰筋肉量の変化からみたクローン病術後長期経過の検討	JDDW2018(第60回日本消化器病学会大会)	神戸	2018年11月1日
藤谷幹浩	通常・拡大・自家蛍光内視鏡およびMRIによる炎症性腸疾患の重症度診断	第36回日本大腸検査学会総会	岩手	2018年10月13日
久野木健仁、安藤勝祥、田邊裕貴、小林裕、村上雄紀、岩間琢哉、高橋慶太郎、上野伸展、嘉島伸、盛一健太郎、水上裕輔、藤谷幹浩、奥村利勝、小野裕介	Crohn病に合併した痔瘻瘻の一例 -遺伝子解析の結果も含めて-	第123回日本消化器病学会北海道支部例会	札幌	2018年9月23日
上野伸展、小林裕、岩間琢哉、高橋慶太郎、安藤勝祥、嘉島伸、盛一健太郎、藤谷幹浩、島本悦宏、奥村利勝	クローン病発症後11年で発生したColitic cancerの一例	第16回日本臨床腫瘍学会学術集会	神戸	2018年7月19日
上野伸展、藤谷幹浩、奥村利勝	ワークショップ4「カプセル内視鏡診療の現状と将来」クローン病の治療戦略におけるカプセル内視鏡の有用性と適正な使用法の検討	第95回日本消化器内視鏡学会総会	東京	2018年5月10日
Matsuoka K, Naganuma M, Tanida S, Kitamura K, Matsui T, Arai M, Fujiya M, Horiki N, Nebiki H, Kinjo F, Miyazaki T, Matsumoto T, Esaki M, Mitsuyama K, Saruta M, Ido A, Hojo S, Takenaka O, Oketani K, Imai T, Tsubouchi H, Hibi T, Kanai T.	Efficacy and safety of anti-fractalkine monoclonal antibody, E6011, in patients with Crohn's Disease who had lost response to anti-TNFalpha agents : A multicentre, open-label, Phase 1/2 study	ECCO2018	Vienna	2018年2月18日
Moriichi K, Fujiya M, Sugiyama Y, Iwama T, Ijiri M, Tanaka K, Takahashi K, Ando K, Nomura Y, Ueno N, Kashima S, Inaba Y, Ito T, Okumura T.	Efficacy of quantitated autofluorescence imaging endoscopy in patients with ulcerative colitis: A multicenter study	AIBD2017	Orlando	2017年11月19日
Ando K, Fujiya M, Nomura Y, Ueno N, Inaba Y, Sugiyama Y, Iwama T, Ijiri M, Takahashi K, Tanaka K, Goto T, Kashima S, Sasajima J, Moriichi K, Mizukami Y, Yamada S, Nakase H, Okumura T.	The incidence and risk factors of venous thromboembolism in Japanese inpatients with inflammatory bowel disease: A retrospective and prospective study	AIBD2017	Orlando	2017年11月19日
Konishi H, Fujiya M, Ijiri M, Tanaka K, Fujibayashi S, Goto T, Kashima S, Ando K, Takahashi K, Ueno N, Sasajima J, Moriichi K, Tanaka H, Ikuta K, Okumura T.	Ferrichrome, a tumor suppressive molecule derived from Lactobacillus casei, inhibits the progression of colorectal cancer via the endoplasmic reticulum stress pathway.	DDW 2017 (AGA)	Chicago	2017年5月6日
杉山 雄哉、嘉島 伸、岩間 琢哉、佐藤 裕基、岡田 哲弘、井尻 学見、田中 一之、高橋慶太郎、安藤 勝祥、林 明宏、河端 秀賢、野村 好紀、上野 伸展、後藤 拓磨、笹島順平、高氏 修平、盛一 健太郎、水上 裕輔、藤谷 幹浩、奥村 利勝	QOLの観点から検討したインフリキシマブバイオシミュラー投与の妥当性	第121回日本消化器病学会北海道支部例会	札幌	2018年3月4日
杉山雄哉、上野伸展、岩間琢哉、田中一之、高橋慶太郎、野村好紀、嘉島伸、盛一健太郎、藤谷幹浩、奥村利勝	インフリキシマブバイオシミュラー投与におけるクローン病患者のQOLから見た妥当性の検討	第8回日本炎症性腸疾患学会	東京	2017年12月1日
上野伸展、杉山雄哉、岩間琢哉、井尻学見、田中一之、高橋慶太郎、安藤勝祥、野村好紀、嘉島伸、盛一健太郎、藤谷幹浩、奥村利勝	顆粒球除去療法の効果予測マーカーとしての便中カルプロテクチン測定の意義	第8回日本炎症性腸疾患学会	東京	2017年12月1日
杉山雄哉、嘉島伸、岩間琢哉、井尻学見、田中一之、高橋慶太郎、安藤勝祥、野村好紀、上野伸展、盛一健太郎、藤谷幹浩、奥村利勝	潰瘍性大腸炎における炎症状態評価に有用なCT重症度scoreの検討	JDDW2017(第59回日本消化器病学会)	福岡	2017年10月13日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
上野伸展、岩間琢哉、井尻学見、田中一之、高橋慶太郎、安藤勝祥、野村好紀、嘉島伸、盛一健太郎、藤谷幹造、奥村利勝	便中カルプロテクチンを用いた顆粒球除去療法の効果予測に関する検討	JDDW2017 (第59回日本消化器病学会)	福岡	2017年10月13日
安藤勝祥、野村好紀、杉山雄哉、岩間琢哉、井尻学見、田中一之、高橋慶太郎、上野伸展、嘉島伸、盛一健太郎、藤谷幹造、奥村利勝	炎症性腸疾患入院患者における静脈血栓塞栓症の発症頻度とリスク層別化についての検討	JDDW2017 (第59回日本消化器病学会)	福岡	2017年10月13日
井尻学見、藤谷幹造、上野伸展、奥村利勝	乳酸菌由来フェリクロームによる抗腫瘍メカニズムの解析	第54回日本消化器免疫学会総会	東京	2017年9月28日
上野伸展、杉山雄哉、岩間琢哉、岡田哲弘、井尻学見、田中一之、高橋慶太郎、河端秀賢、林明宏、安藤勝祥、野村好紀、嘉島伸、後藤拓磨、笹島順平、盛一健太郎、水上裕輔、藤谷幹造、奥村利勝	当院におけるクローン病に対するカプセル内視鏡の使用成績とその有用性に関する検討	第115回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会	札幌	2017年9月3日
高氏修平、嘉島伸、上野伸展、五十嵐将、杉山雄哉、佐藤裕基、岩間琢哉、岡田哲弘、井尻学見、高橋慶太郎、田中一之、安藤勝祥、川端秀賢、林明宏、野村好紀、笹島順平、盛一健太郎、水上裕輔、藤谷幹造、奥村利勝、垂石正樹	ビタミンK欠乏により出血傾向を示したクローン病の1例	第121回日本消化器病学会北海道支部例会	札幌	2017年9月3日
稲場勇平、佐々木貴弘、杉山隆治、助川隆士、小澤賢一郎、垂石正樹、斉藤裕輔、藤谷幹造、奥村利勝	難治性クローン病における術後吻合部潰瘍の特徴と予後の検討	第121回日本消化器病学会北海道支部例会	札幌	2017年9月3日
盛一健太郎、杉山雄哉、岩間琢哉、佐藤裕基、岡田哲弘、井尻学見、田中一之、高橋慶太郎、河端秀賢、林明宏、安藤勝祥、野村好紀、上野伸展、嘉島伸、後藤拓磨、笹島順平、高氏修平、水上裕輔、藤谷幹造、奥村利勝	内視鏡非専門医における潰瘍性大腸炎の活動性診断能の検討	第115回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会	札幌	2017年9月2日
藤谷幹造	創薬シンポジウム4「薬理学的アカデミア研究から医師主導治験への橋渡し」長鎖ポリリン酸による潰瘍性大腸炎に対する基礎研究～医師主導治験	生体機能と創薬シンポジウム2017	京都	2017年8月25日
藤谷幹造	シンポジウム13 臨床応用された腸内細菌研究の進歩 乳酸菌由来分子による腸炎治療	第17回日本抗加齢医学会総会	東京	2017年6月3日
安藤勝祥、藤谷幹造	潰瘍性大腸炎におけるUlcerative Colitis Endoscopic Index of Severity(UCEIS)と拡大内視鏡所見を用いた疾患活動性評価と再燃予測に関する検討	第103回日本消化器病学会総会	東京	2017年4月20日
Namiko Hoshi	Therapeutic Management update for IBD in Japan	The Conference of Qingdao Digestive Disease in 2019	青島	2019年6月22日
Namiko Hoshi, Kengo Sasaki, Jun Inoue, Daisuke Sasaki, Itsuko Fukuda, Yuzo Kodama, Ro Osawa	Pathological intestinal environmental status of ulcerative colitis detected by in vitro human colonic microbiota culture system	The 7 th Asian Organization for Crohn's and Colitis	台湾	2019年6月15日
Namiko Hoshi	Evaluation of Impaired Intestinal Environment of Ulcerative Colitis Patients using in vitro Culture System of Human Intestinal Microbiota Model	Qingdao Digestive Disease Summit Forum	青島	2018年11月17日
Namiko Hoshi	Evaluation of Impaired Intestinal Environment of Ulcerative Colitis Patients using in vitro Culture System of Human Intestinal Microbiota Model	The 7 th Qingdao Sino-Japanese Academic Exchange Meeting on Digestive Endoscopy	青島	2018年11月16日
Namiko Hoshi, Takafumi Otsuka, Makoto Ooi, Daisuke Watanabe, Haruka Yamairi, Yuna Koo, Chika Wakahara, Masaru Yoshida, Yuzo Kodama	Comparison of long-term data of Infliximab vs Tacrolimus for the treatment of moderate to severe ulcerative colitis	The 8 th Asian Organization for Crohn's and Colitis	上海	2018年6月23日
大井充、星奈美子、児玉裕三	生物学的製剤投与中の炎症性腸疾患患者における妊娠・出産の経験	第15回日本消化管学会総会	佐賀	2019年2月
星奈美子、佐々木建吾、井上潤、佐々木大介、福田伊津子、大澤朗	単槽培養系ヒト大腸細菌叢モデルを利用した潰瘍性大腸炎の病態評価の検討	第22回腸内細菌学会	東京	2018年5月

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
大塚崇史, 大井充, 星奈美子	潰瘍性大腸炎(UC)に対する Infliximab(IFX)と Tacrolimus(TAC)の 長期予後の比較検討	第8回日本炎症性腸疾患 学会	東京	2017年12月1日
足立聡一郎, 星奈美子, 井上潤, 安富栄一郎, 大塚崇史, Ramesh Dhakhwa, 王梓, 孔玲玲, 渡 邊大輔, 大井充, 吉田優	複数の腸炎モデルマウスに対する漢方 薬青黛の効果の検討	第8回日本炎症性腸疾患 学会	東京	2017年12月1日
Matsuura M, Yamamoto S, Honzawa Y, Yamada S, Okabe M, Kitamoto H, Seno H.	Long-term efficacy of combined therapies with corticosteroids and thiopurines (accelerated step- care) for induction and remission in biologic-naïve Crohn's disease patients.	The 7 th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Taipei	2019年6月15日
松浦 稔	炎症性腸疾患 診断と治療の update 基本からリスク管理まで.	第37回日本消化器内視鏡 学会近畿セミナー	大阪	2019年12月8日
齋藤大祐, 松浦 稔, 和田晴香, 尾崎良, 菊池翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井 達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 林 田真理, 三好潤, 久松理一	潰瘍性大腸炎に対する Vedolizumab に よる寛解導入療法の治療効果予測に関 する検討.	第10回 日本炎症性腸疾 患学会学術集会	福岡	2019年11月29日
齋藤大祐, 松浦 稔, 尾崎 良, 菊池翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井達也, 三浦 みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 三好 潤, 仲 瀬裕志, 久松理一.	当院における MEFV 遺伝子関連腸炎の 臨床的特徴に関する検討.	第57回日本小腸学会学術 集会	大阪	2019年11月9日
林田真理, 三好 潤, 和田晴香, 尾崎良, 菊池翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 三井 達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 松 浦 稔, 久松理一.	ペーチェット病の小腸病変に対するカ プセル内視鏡検査と便中カルプロテク チン測定の有用性.	第57回日本小腸学会学術 集会	大阪	2019年11月9日
山田 聡, 山本修司, 本澤有介, 北本博 規, 岡部 誠, 松浦 稔, 妹尾 浩.	MEFV 遺伝子の SNP がクローン病臨床経 過に及ぼす影響についての検討.	第56回日本消化管免疫学 会学会総会	京都	2019年8月1日
我妻康平, 飯田智哉, 南 尚希, 松浦 稔, 平山大輔, 川上賢太郎, 野島正寛, 池内浩 基, 廣田誠一, 白川龍太郎, 堀内久徳, 仲 瀬裕志.	低分子量 GTP タンパク質 Rai とインフ ラマソームとの関連から見た炎症性大 腸癌発癌機序の解明.	第56回日本消化管免疫学 会学会総会	京都	2019年8月1日
Okabe M, Matsuura M, Yamamoto S, Yamada S, Kitamoto H, Honzawa Y, Seno H.	Efficacy and safety of thiopurine and allopurinol cotherapy in thiopurine-naïve Japanese UC patients.	The 6 th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Shanghai	2018年6月23日
Honzawa Y, Matsuura M, Yamamoto S, Okabe M, Kitamoto H, Yamada S, Seno H.	Endoscopic findings to predict therapeutic efficacy of anti-TNF agents on patients with ulcerative colitis.	The 6 th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Shanghai	2018年6月23日
Kitamoto H, Yamamoto S, Honzawa Y, Yamada S, Okabe M, Seno H, Matsuura M.	Impact of advance in medical therapies on clinical outcome in patients with ulcerative colitis concomitant cytomegalovirus infection.	The 6 th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Shanghai	2018年6月23日
松浦 稔	「IBD 治療薬」抗 TNF- α 抗体療法	日本炎症性腸疾患学会 教 育セミナー	京都	2018年11月23日
北本博規, 松浦 稔, 岡部 誠, 山田 聡, 本澤有介, 山本修司, 妹尾 浩.	サイトメガロウイルス再活性化を伴っ た潰瘍性大腸炎の大腸内視鏡所見と臨 床的背景に関する検討.	第9回日本炎症性腸疾患 学会学術集会	京都	2018年11月22日
山田 聡, 松浦 稔, 北本博規, 岡部 誠, 本澤有介, 山本修司, 妹尾 浩.	活動期潰瘍性大腸炎の大腸粘膜にお ける Epstein-Barr virus 再活性化につ いての検討	第9回日本炎症性腸疾患 学会学術集会	京都	2018年11月22日
松浦 稔, 山本修司, 妹尾 浩	Bio ナイブ Crohn 病に対するステロ イドおよびチオプリン製剤による早期 強化療法 (Accelerated step-up) の 長期治療成績	第26回日本消化器関連学 会週間 (JDDW 2018)	神戸	2018年11月3日
Matsuura M, Nakase H, Andoh A, Tsujiikawa T, Naito Y, Kawamura T, Katsushima S, Kusaka T, Okuyama Y, Obata H, Kogawa T.	Long-term Efficacy and Safety of Thiopurine Maintenance Treatment in Biologic-Naïve Patients with Ulcerative Colitis:A Retrospective Multicenter Cohort from JAPAN.	The 5 th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Seoul	2017年6月17日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Okabe M, <u>Matsuura M</u> , Yamamoto S, Honzawa Y, Koshikawa Y, Yamada S, Kitamoto H, Seno H.	Early induction of immunosuppressive agents prior to endoscopic balloon dilatation contributes to avoidance of surgery in patients with Crohn's disease.	The 5 th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Seoul	2017年6月17日
Honzawa Y, <u>Matsuura M</u> , Yamamoto S, Yamada S, Koshikawa Y, Okabe M, Kitamoto H, Seno H	Long-term outcome of patients with ulcerative colitis after initial tacrolimus rescue therapy.	The 5 th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Seoul	2017年6月17日
北本博規、 <u>松浦 稔</u> 、山本修司、岡部 誠、 <u>越川頼光</u> 、山田 聡、本澤有介、妹尾 浩	CMV感染合併潰瘍性大腸炎の臨床転帰に関する検討	第8回日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017年12月1日
岡部 誠、 <u>松浦 稔</u> 、妹尾 浩	クローン病の腸管狭窄例における内視鏡的拡張術後の手術回避に関する検討	第103回日本消化器病学会総会	東京	2017年4月20日
山田 聡、 <u>松浦 稔</u> 、本澤有介、岡部 誠、 <u>越川頼光</u> 、南 尚希、山本修司、仲瀬裕志、妹尾 浩	寛解期クローン病患者におけるビタミンK不足と腸内細菌叢の関連性についての検討	第103回日本消化器病学会総会	東京	2017年4月20日
山本修司、 <u>松浦 稔</u> 、妹尾 浩.	潰瘍性大腸炎患者に対するインフリキシマブ治療の長期予後の検討 - インフリキシマブにチオプリン併用は必要か? -	第103回日本消化器病学会総会	東京	2017年4月20日
Yoshioka S, <u>Mitsuyama K</u> , Hirai F, Esaki M, Araki T, Morita M, Yoshimura T, Mori A, Yamauchi R, Kuwaki K, Torimura T	Usefulness of ACP 353 (anti-Crohn's disease peptide 353) as a new biomarker in the diagnosis of inflammatory bowel disease: A multicenter study	27th United European Gastroenterology Week (UEGW 2019)	Barcelona, Spain	2019年10月23日
Yamauchi R, <u>Mitsuyama K</u> , Yamasaki H, Araki T, Morita M, Yoshimura T, Mori A, Yoshioka S, Torimura T	Expression Profiling of Transient Receptor Potential Channels in Peripheral Blood from Inflammatory Bowel Disease Patients	27th United European Gastroenterology Week (UEGW 2019)	Barcelona, Spain	2019年10月22日
Araki T, Yamauchi R, Yamasaki H, Morita M, Yoshimura T, Mori A, Fukunaga S, Kuwaki K, Yoshioka S, <u>Mitsuyama K</u> , Torimura T	Self-assembling peptide hydrogel enhances intestinal barrier function in topical TNBS model in rats	27th United European Gastroenterology Week (UEGW 2019)	Barcelona, Spain	2019年10月22日
Shindo Y, <u>Mitsuyama K</u> , Yamasaki H, Imai T, Kaida Y, Shibata R, Yoshioka S, Torimura T	シンポジウム(4) Apheresis therapy for inflammatory bowel disease - Past, Present, Future-2 Safety and efficacy of single needle leucocyte apheresis for ulcerative colitis: A retrospective analysis	The 12th World Congress of International Society for Apheresis & The 40 th Annual Meeting of Japanese Society for Apheresis2019 (ISFA & JSFA 2019)	Kyoto, Japan	2019年10月18日
Mizuochi T, Arai K, Kudo T, Nambu R, Tajiri H, Aomatsu T, Abe N, Kakiuchi T, Hashimoto K, Sogo T, Takahashi M, Etani Y, Takaki Y, Konishi K, Ishihara J, Kurei S, <u>Mitsuyama K</u>	DIAGNOSTIC ACCURACY of serum proteinase 3 antineutrophil cytoplasmic antibodies FOR pAediatric PATIENTS WITH ULCERATIVE COLITIS: a prospective multicenter study in Japan	5th International Symposium on Paediatric Inflammatory Bowel Disease	Budapest, Hungary	2019年9月11日
酒見亮介、吉岡慎一郎、山内亨介、森 敦、吉村哲広、森田 俊、荒木俊博、桑木光太郎、溝口充志、宗 祐人、 <u>光山慶一</u> 、鳥村拓司	炎症性腸疾患患者における血中 Interleukin-22 (IL22) および IL22-binding protein (IL22BP)	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会 (JSIBD)	福岡市	2019年11月29日
水落建輝、新井勝大、工藤孝広、南部隆亮、田尻 仁、青松友規、阿部直紀、垣内俊彦、橋本邦生、十河 剛、高橋美智子、恵谷ゆり、高木祐吾、小西健一郎、石原潤、樽井俊介、 <u>光山慶一</u>	小児潰瘍性大腸炎の診断における血清 PR3-ANCA の有用性：前方視的多施設研究	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会 (JSIBD)	福岡市	2019年11月29日
衣笠哲史、山崎 博、石原 潤、水落建輝、溝口充志、秋葉 純、田中美穂、南小百合、高木考実、鳥越優子、石橋幹雄、多賀百合、今井徹朗、 <u>光山慶一</u> 、赤木由人	IBD患者に対する Total care を目的とした多職種サポートチームの活動	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会 (JSIBD)	福岡市	2019年11月29日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
山崎 博、光山慶一、衣笠哲史、石原潤、水落建輝、溝口充志、秋葉 純、田中美穂、南小百合、高木考実、鳥越優子、石橋幹雄、多賀百合、今井徹郎、荒木俊博、森田 俊、吉村哲広、森 敦、山内亨介、桑木光太郎、吉岡慎一郎、赤木由人、鳥村拓司	久留米大学炎症性腸疾患センター市民公開講座で実施したアンケート調査に関する検討	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会(JSIBD)	福岡市	2019年11月29日
森 敦、吉岡慎一郎、桑木光太郎、山内亨介、吉村哲広、森田 俊、荒木俊博、酒見亮介、光山慶一、鳥村拓司	炎症性腸疾患患者における血清カルプロテクチンの検討	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会(JSIBD)	福岡市	2019年11月29日
吉村哲広、桑木光太郎、吉岡慎一郎、荒木俊博、森田 俊、森 敦、山内亨介、水落建輝、光山慶一、鳥村拓司	小児～若年炎症性腸疾患における内視鏡的活動度の指標としての便中カルプロテクチンの意義	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会(JSIBD)	福岡市	2019年11月29日
鶴田耕三、吉岡慎一郎、荒木俊博、森田 俊、吉村哲広、森 敦、山内亨介、桑木光太郎、光山慶一	活動期炎症性腸疾患における新規治療薬 vedplizumab の有用性	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会(JSIBD)	福岡市	2019年11月29日
吉岡慎一郎、森 敦、鶴田耕三、荒木俊博、森田 俊、吉村哲広、山内亨介、山崎博、桑木光太郎、光山慶一	潰瘍性大腸炎における Golimumab 長期有効例の臨床的特徴	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会(JSIBD)	福岡市	2019年11月29日
吉岡慎一郎、光山慶一、鶴田 修	原発性免疫不全症に合併した下部消化管病変の特徴	27th JDDW (第98回日本消化器内視鏡学会総会、第61回日本消化器病学会大会、第57回日本消化器がん検診学会大会)	神戸市	2019年11月23日
吉岡慎一郎、光山慶一、鳥村拓司	新規 IBD 血清抗体マーカーを用いたマルチバイオマーカー診断の有用性：多施設共同研究	27th JDDW (第61回日本消化器病学会大会、第98回日本消化器内視鏡学会総会、第23回日本肝臓学会大会)	神戸市	2019年11月22日
山崎 博、今井徹郎、荒木俊博、森田 俊、吉村哲弘、森 敦、山内亨介、桑木光太郎、吉岡慎一郎、深水 圭、光山慶一、鳥村 拓司	潰瘍性大腸炎に対する single-needle 法を用いた血球成分除去療法 (GMA/LCAP) : 後ろ向き予備的な安全性解析	27th JDDW (第61回日本消化器病学会大会)	神戸市	2019年11月22日
草場喜雄、鶴田 修、永田 務、大内彬弘、中根智幸、福永秀平、向笠道太、光山慶一、鳥村拓司	潰瘍性大腸炎に発生した早期大腸癌の一例	第114回日本消化器病学会九州支部例会 第108回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	宮崎市	2019年11月9日
永田 務、鶴田 修、荒木俊博、長 知徳、草場喜雄、中根智幸、大内彬弘、向笠道太、光山慶一、鳥村拓司	鋸歯状病変を背景に腫瘍化した病変の1例	第114回日本消化器病学会九州支部例会 第108回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	宮崎市	2019年11月9日
久賀征一郎、長田修一郎、森田恭代、長田英輔、光山慶一、鶴田 修、鳥村拓司	当院での術前原因診断が困難であった腸閉塞症例の検討	第114回日本消化器病学会九州支部例会 第108回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	宮崎市	2019年11月9日
山内亨介、光山慶一、鳥村拓司	新規蛍光プローブ散布による潰瘍性大腸炎関連腫瘍の内視鏡診断の可能性	第51回日本臨床分子形態学会総会・学術集会	久留米市	2019年9月20日
永田 務、鶴田 修、荒木俊博、長 知徳、草場喜雄、中根智幸、大内彬弘、福永秀平、向笠道太、光山慶一、鳥村拓司	回腸末端腫瘍に対して ESD を施行した1例	第16回拡大内視鏡研究会	東京	2019年9月14日
南 真平、田中寛士、相野 一、白地美紀、梶原雅彦、光山慶一、鶴田 修、鳥村拓司	腸重積症を契機に診断された小腸神経鞘腫の症例	第113回日本消化器病学会九州支部例会 第107回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	福岡市	2019年5月25日
福永秀平、吉岡慎一郎、草場喜雄、森田 俊、吉村哲広、森 敦、山内亨介、桑木光太郎、永田 務、徳安秀紀、大内彬弘、向笠道太、秋葉 純、光山慶一、鶴田 修、鳥村拓司	青黛服用中に発見され内視鏡的粘膜剥離術を行った潰瘍性大腸癌関連腫瘍の一例	第113回日本消化器病学会九州支部例会 第107回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	福岡市	2019年5月25日
永田 務、鶴田 修、草場喜雄、中根智幸、大内彬弘、福永秀平、向笠道太、光山慶一、鳥村拓司	診断に苦慮した盲腸部粘膜下腫瘍の1例	第113回日本消化器病学会九州支部例会 第107回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	福岡市	2019年5月25日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
吉村哲広、吉岡慎一郎、森田 俊、森敦、山内亨介、桑木光太郎、鶴田 修、光山慶一、鳥村拓司	スニチニブによる薬剤性大腸炎と診断した一例	第 113 回日本消化器病学会九州支部例会 第 107 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	福岡市	2019 年 5 月 24 日
吉岡慎一郎、吉村哲広、桑木光太郎、森田俊、森 敦、福永秀平、山内亨介、水落建輝、光山慶一、鶴田 修、鳥村拓司	若年 IBD 診療における便中カルプロテクチン測定の意義 成人 IBD との比較	第 113 回日本消化器病学会九州支部例会 第 107 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	福岡市	2019 年 5 月 24 日
井上誠一、菅原脩平、山田康生、後藤諒介、深水 航、柴田 翔、渡邊裕次郎、小林起秋、上野恵里菜、河野弘志、光山慶一、鶴田 修、鳥村拓司	A 型インフルエンザ感染症に対するパロキサビルマルボキシル内服後に発症した急性虚血性大腸炎の 1 例	第 113 回日本消化器病学会九州支部例会 第 107 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	福岡市	2019 年 5 月 24 日
吉岡慎一郎、光山慶一、鳥村拓司	炎症性腸疾患診断における新規血清バイオマーカーの有用性：多施設共同研究	第 105 回日本消化器病学会総会	金沢市	2019 年 5 月 10 日
Mizuochi T, Arai K, Kudo T, Nambu R, Tajiri H, Aomatsu T, Abe N, Kakiuchi T, Hashimoto K, Sogo T, Takahashi M, Etani Y, Takaki Y, Konishi K, Ishihara J, Kurei S, Mitsuyama K.	ACP353 as a potential serologic marker for diagnosis of pediatric Crohn's disease: a prospective multicenter study in Japan.	2018 North American Society For Pediatric Gastroenterology, Hepatology & Nutrition annual meeting	Hollywood, Florida, USA	2018 年 10 月 2 日
Maeyama Y, Mitsuyama K, Yoshioka S, Kawano H, Tsuruta O, Torimura T	Prediction of Tumor Grade and Invasion Depth of Colorectal Tumors Through The Scoring of Narrow-Band Imaging Findings	DDW-2018	Washington D.C., USA	2018 年 6 月 2 日
森 敦、吉岡慎一郎、荒木俊博、森田俊、吉村哲広、山内亨介、桑木光太郎、光山慶一、鶴田 修、鳥村拓司	当院でのクローン病小腸病変診断における小腸カプセル内視鏡検査の実際	第 12 回日本カプセル内視鏡学会学術集会	佐賀市	2019 年 2 月 3 日
古賀琢真、日高由紀子、吉田裕美、林真樹子、藤本京子、海江田信二郎、岩本一亜、藤田久美、光山慶一、西小森隆太、星野友昭、井田弘明	本邦初の PAC 症候群における臨床的・遺伝的解析	第 2 回日本免疫不全・自己炎症学会総会・学術集会	東京	2019 年 2 月 3 日
長沼 誠、光山慶一、金井隆典	治療抵抗性潰瘍性大腸炎に対する生薬青黛の有用性	第 46 回日本潰瘍学会	名古屋市	2018 年 12 月 1 日
水落建輝、新井勝大、工藤孝広、南部隆亮、田尻 仁、青松友樹、阿部直紀、垣内俊彦、橋本邦生、十河 剛、高橋美智子、恵谷ゆり、高木祐吾、小西健一郎、石原潤、樽井俊介、光山慶一	新規血清マーカー ACP353 の小児クローン病診断に対する有用性：前方視的多施設研究	第 9 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都市	2018 年 11 月 22 日
衣笠哲史、吉田直裕、吉村哲広、桑木光太郎、吉岡慎一郎、吉田武史、溝部智亮、光山慶一、藤田文彦、赤木由人	潰瘍性大腸炎患者術後 QOL 評価方法の検討-便中カルプロテクチン測定の意義-	第 9 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都市	2018 年 11 月 22 日
畑 啓介、渡邊聡明、味岡洋一、光山慶一、渡辺憲治、花井洋行、仲瀬裕志、国崎玲子、松田圭二、岩切龍一、樋田信幸、田中信治、竹内義明、大塚和朗、村上和成、小林清典、岩男 泰、長堀正和、飯塚文瑛、五十嵐正広、平田一郎、工藤進英、松本主之、上野文昭、渡辺 玄、池上雅博、伊東陽子、大庭幸治、井上永介、友次直輝、武林 亨、杉原健一、鈴木康夫、渡辺守、日比紀文	潰瘍性大腸炎合併大腸癌サーベイランスにおける狙撃生検とランダム生検のランダム化比較試験	第 9 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都市	2018 年 11 月 22 日
山崎 博、今井徹朗、荒木俊博、森田俊、吉村哲広、森 敦、山内亨介、桑木光太郎、吉岡慎一郎、光山慶一、深水 圭、鳥村拓司	潰瘍性大腸炎に対する single-needle 法を用いた血球成分除去療法 (GCAP/LCAP) の有用性	第 9 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都市	2018 年 11 月 22 日
森田 俊、吉岡慎一郎、山崎 博、荒木俊博、吉村哲広、森 敦、山内亨介、桑木光太郎、鶴田 修、光山慶一、鳥村拓司	活動期潰瘍性大腸炎患者に対するブデゾニド注腸フォーム剤の有用性の検討	第 9 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都市	2018 年 11 月 22 日
吉岡慎一郎、平井郁仁、江崎幹宏、荒木俊博、森田 俊、吉村哲広、森 敦、山内亨介、桑木光太郎、山崎 博、鶴田 修、光山慶一、鳥村拓司	各種腸疾患における ACP353(Anti-Crohn's disease peptide No.353)血中濃度の測定：多施設共同研究	第 9 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都市	2018 年 11 月 22 日
荒木俊博、山崎 博、森田 俊、吉村哲広、森 敦、山内亨介、桑木光太郎、吉岡慎一郎、小林 智、光山慶一、鳥村拓司	ラット TNBS 大腸潰瘍モデルにおける自己組織化ハイドロゲルの有用性の検討	第 9 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都市	2018 年 11 月 22 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
吉村哲広、桑木光太郎、水落建輝、吉岡慎一郎、山内亨介、森 敦、森田 俊、荒木俊博、 <u>光山慶一</u> 、鳥村拓司	若年炎症性腸疾患患者における便中カルプロテクチンの有用性	第 9 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都市	2018 年 11 月 22 日
菅原脩平、小林起秋、後藤諒介、深水航、柴田 翔、渡邊裕次郎、山田康生、上野恵里奈、秋山哲司、河野弘志、 <u>光山慶一</u> 、鳥村拓司、鶴田 修	腹痛を契機に診断された精巣摘出後の seminoma の一例	第 112 回日本消化器病学会九州支部例会 第 106 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	鹿児島市	2018 年 11 月 9 日
吉岡慎一郎、福永秀平、荒木俊博、森田俊、吉村哲広、森 敦、山内亨介、桑木光太郎、岡部義信、 <u>光山慶一</u> 、鶴田 修、鳥村拓司	当院でのクローン病小腸病変診断マネージメントにおける小腸内視鏡検査の有用性	第 112 回日本消化器病学会九州支部例会 第 106 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	鹿児島市	2018 年 11 月 9 日
渡邊裕次郎、河野弘志、上野恵里奈、伊藤陽平、山田康正、柴田 翔、長 知徳、深水航、後藤諒介、秋山哲司、 <u>光山慶一</u> 、鶴田 修、鳥村拓司	腸閉塞に対するガストログランフィン腸造影の有用性の検討	26th JDDW (第 60 回日本消化器病学会大会)	神戸市	2018 年 11 月 1 日
森 敦、吉岡慎一郎、山崎 博、荒木俊博、森田 俊、吉村哲広、福永秀平、山内亨介、桑木光太郎、鶴田 修、 <u>光山慶一</u> 、鳥村拓司	当院でゴリムマブを使用した潰瘍性大腸炎患者の臨床背景とその効果	26th JDDW (第 60 回日本消化器病学会大会)	神戸市	2018 年 11 月 1 日
山内亨介、荒木俊博、吉村哲広、森 敦、桑木光太郎、吉岡慎一郎、 <u>光山慶一</u> 、鶴田 修、鳥村拓司	Nivolumab 投与後に大腸炎が認められた当院 3 症例の検討	26th JDDW (第 96 回日本消化器内視鏡学会総会)	神戸市	2018 年 11 月 1 日
吉岡慎一郎、 <u>光山慶一</u> 、荒木俊博、森田俊、吉村哲広、森 敦、福永秀平、山内亨介、山崎 博、桑木光太郎、鶴田 修、荒木靖三、鳥村拓司	クローン病新規バイオマーカー ACP353 はインフリキシマブ治療と腸管切除に関連する	26th JDDW (第 60 回日本消化器病学会大会)	神戸市	2018 年 11 月 1 日
吉村哲広、桑木光太郎、吉岡慎一郎、山内亨介、森 敦、森田 俊、 <u>光山慶一</u> 、鶴田 修、鳥村拓司	クローン病での経口デブソニド製剤の臨床的効果の検討	第 43 回日本大腸肛門病学会九州地方会、第 34 回九州ストーマリハビリテーション研究会	福岡市	2018 年 10 月 6 日
草場喜雄、鶴田 修、永田 務、徳安秀紀、大内彬弘、向笠道太、 <u>光山慶一</u> 、鳥村拓司	当院における Cold polypectomy の現状と今後	第 43 回日本大腸肛門病学会九州地方会、第 34 回九州ストーマリハビリテーション研究会	福岡市	2018 年 10 月 6 日
向笠道太、鶴田 修、永田 務、徳安秀紀、大内彬弘、草場喜雄、 <u>光山慶一</u> 、鳥村拓司	抗血栓薬内服の有無における大腸 ESD 後出血の検討	第 43 回日本大腸肛門病学会九州地方会、第 34 回九州ストーマリハビリテーション研究会	福岡市	2018 年 10 月 6 日
福永秀平、吉岡慎一郎、荒木俊博、森田俊、吉村哲広、森 敦、山内亨介、桑木光太郎、秋葉 純、衣笠哲史、赤木由人、 <u>光山慶一</u> 、鶴田 修、鳥村拓司	当院で経験した炎症性腸疾患関連腫瘍の特徴とサーベイランス内視鏡の実際	第 43 回日本大腸肛門病学会九州地方会、第 34 回九州ストーマリハビリテーション研究会	福岡市	2018 年 10 月 6 日
草場喜雄、鶴田 修、森田 拓、中根智幸、永田 務、徳安秀紀、大内彬弘、福永秀平、火野坂淳、向笠道太、 <u>光山慶一</u> 、鳥村拓司	当院における Cold polypectomy の現状と今後	第 26 回日本大腸検査学会九州支部会	福岡市	2018 年 8 月 18 日
山崎 博、今井徹朗、荒木俊博、森田俊、吉村哲広、森 敦、山内亨介、桑木光太郎、吉岡慎一郎、 <u>光山慶一</u>	潰瘍性大腸炎に対するシングルニードル法を用いた GMA 療法についての検討	第 13 回九州消化器 GCAP 療法研究会	博多市	2018 年 6 月 30 日
永田 務、鶴田 修、草場喜雄、森田拓、中根智幸、大内彬弘、徳安秀紀、進藤洋一郎、火野坂淳、向笠道太、 <u>光山慶一</u> 、鳥村拓司	回腸末端腫瘍に対して ESD を施行した 1 例	第 111 回日本消化器病学会九州支部例会、第 105 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	北九州市	2018 年 6 月 8 日
福永秀平、吉岡慎一郎、荒木俊博、森田俊、吉村哲広、森 敦、山内亨介、山崎 博、桑木光太郎、岡部義信、 <u>光山慶一</u> 、鶴田 修、鳥村拓司	ショート型シングルパルーン内視鏡を用いた小腸病変診断の有用性	第 95 回日本消化器内視鏡学会総会	東京	2018 年 5 月 10 日
山内亨介、荒木俊博、吉村哲広、森 敦、桑木光太郎、吉岡慎一郎、 <u>光山慶一</u> 、鶴田 修、鳥村拓司	当院の炎症性腸疾患合併妊娠症例における治療と経過	第 104 回日本消化器病学会総会	東京	2018 年 4 月 19 日
Fukunaga S, Kuwaki K, Mitsuyama K, Takedatsu H, Yoshioka S, Yamasaki H, Yamauchi R, Mori A, Tsuruta O, Torimura T	Detection of Calprotectin in Inflammatory Bowel Disease: Fecal and Serum Levels and Immunohistochemical Localization	DDW-2017(Meeting of the American Gastroenterological Association)(AGA)	Chicago, USA	2017 年 5 月 6 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Yamasaki H, Mitsuyama K, Meifu S, Mori A, Yamauchi R, Fukunaga S, Kuwaki K, Yoshioka S, Torimura T	Expression of Transient Receptor Potential Channels in Peripheral Blood Mononuclear Cells from Inflammatory Bowel Disease Patients	DDW-2017(Meeting of the American Gastroenterological Association)(AGA)	Chicago, USA	2017年5月6日
柴田 翔、河野弘志、深水 航、長 知徳、渡邊裕次郎、山田康生、蒲池直紀、小林哲平、上野恵里奈、伊藤陽平、秋山哲司、光山慶一、鶴田 修、鳥村拓司	術後再建腸管患者におけるバルーン内視鏡使用下胆道結石の治療成績	第110回日本消化器病学会九州支部例会、第104回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	那覇市	2017年11月18日
小林哲平、高木孝太、後藤諒介、南 真平、白地美紀、梶原雅彦、小野典之、光山慶一、鶴田 修、鳥村拓司	超高齢の上腸間膜動脈閉塞症の1例	第110回日本消化器病学会九州支部例会、第104回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	那覇市	2017年11月18日
野見山美香、山内亨介、福永秀平、森 敦、山崎 博、吉岡慎一郎、小金丸雅道、秋葉 純、光山慶一、鶴田 修、鳥村拓司	リンパ管造影後に蛋白漏出性胃腸症が改善した Turner 症候群の一例	第110回日本消化器病学会九州支部例会、第104回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	那覇市	2017年11月17日
齊東京祿、山内亨介、有永照子、石田祐介、光山慶一、鶴田 修、鳥村拓司	難治性術後胆管炎に続発したと考えられる AA 型腸管アミロイドーシスの一例	第110回日本消化器病学会九州支部例会、第104回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	那覇市	2017年11月17日
荒木俊博、山内亨介、森 敦、福永秀平、吉岡慎一郎、鶴田 修、光山慶一、鳥村拓司	原発性肺癌に対するニボルマブ投与に起因したと考えられる大腸炎の一例	第110回日本消化器病学会九州支部例会、第104回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	那覇市	2017年11月17日
吉岡慎一郎、光山慶一、鶴田 修、鳥村拓司	エビデンスに基づいて再考した潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡検査の検討	第110回日本消化器病学会九州支部例会、第104回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	那覇市	2017年11月17日
永田 務、鶴田 修、草場喜雄、森田拓、徳安秀紀、進藤洋一郎、火野坂淳、向笠道太、秋葉 純、河野弘志、光山慶一、鳥村拓司	鋸歯状病変を併存した大腸癌の臨床病理学的特徴	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡市	2017年11月10日
光山慶一、吉岡慎一郎、鶴田 修	潰瘍性大腸炎におけるサーベイランス大腸内視鏡-ランダム生検と狙撃生検の比較を中心に	25th JDDW (第59回日本消化器病学会大会、第15回日本消化器外科学会大会 合同)	福岡市	2017年10月14日
永田 務、鶴田 修、草場喜雄、森田拓、中根智幸、徳安秀紀、進藤洋一郎、火野坂淳、向笠道太、光山慶一、鳥村拓司	拡大内視鏡観察が SSA/P with cytological dysplasia の診断に有用であった1例	第27回大腸 IIC 研究会	札幌市	2017年9月17日
草場喜雄、鶴田 修、永田 務、森田拓、中根智幸、徳安秀紀、進藤洋一郎、火野坂淳、向笠道太、光山慶一、鳥村拓司	腫瘍径7mmの c病変の1例	第27回大腸 IIC 研究会	札幌市	2017年9月17日
中根智幸、鶴田 修、草場喜雄、森田拓、永田 務、徳安秀紀、向笠道太、河野弘志、光山慶一、鳥村拓司	肛門管癌(扁平上皮癌)に対して内視鏡的切除術を施行した2例	第318回日本内科学会九州地方会	鹿児島市	2017年8月5日
永田 務、鶴田 修、草場喜雄、森田拓、徳安秀紀、進藤洋一郎、火野坂淳、前山泰彦、向笠道太、光山慶一、鳥村拓司	貧血精査にて指摘された collagenous colitis の1例	第109回日本消化器病学会九州支部例会、第103回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	福岡市	2017年5月20日
徳安秀紀、鶴田 修、草場喜雄、永田 務、進藤洋一郎、火野坂淳、前山泰彦、向笠道太、秋葉 純、光山慶一、鳥村拓司	急性骨髄性白血病に対する移植後に併発した消化管 GVHD の1例	第109回日本消化器病学会九州支部例会、第103回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	福岡市	2017年5月20日
福永秀平、桑木光太郎、光山慶一、竹田津英稔、吉岡慎一郎、山崎 博、山内亨介、森 敦、鶴田 修、鳥村拓司	炎症性腸疾患における便中カルプロテクチン測定の有用性	第109回日本消化器病学会九州支部例会、第103回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	福岡市	2017年5月20日
南 真平、田中寛士、渡邊裕次郎、白地美紀、梶原雅彦、鶴田 修、光山慶一、鳥村拓司	診断および治療方針決定に難渋した非特異性大腸炎の一症例	第109回日本消化器病学会九州支部例会、第103回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	福岡市	2017年5月20日
草場喜雄、鶴田 修、永田 務、徳安秀紀、進藤洋一郎、火野坂淳、前山泰彦、向笠道太、秋葉 純、光山慶一、鳥村拓司	便潜血陽性で施行した大腸内視鏡検査で赤痢アメーバ症の診断となった1例	第109回日本消化器病学会九州支部例会、第103回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	福岡市	2017年5月20日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
永田 務、鶴田 修、草場喜雄、森田拓、徳安秀紀、進藤洋一郎、火野坂淳、前山泰彦、向笠道太、秋葉 純、光山慶一、鳥村拓司	自然脱落を来した大腸癌の1例	第109回日本消化器病学会九州支部例会、第103回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	福岡市	2017年5月20日
吉岡慎一郎、光山慶一、森 敦、福永秀平、山内亨介、桑木光太郎、竹田津英稔、秋葉 純、衣笠哲史、赤木由人、鶴田修、鳥村拓司	サーベイランス内視鏡におけるヒト潰瘍性大腸炎(UC)関連腫瘍の詳細ーマウスDSS腸炎モデル関連腫瘍の特徴も含めて	第109回日本消化器病学会九州支部例会、第103回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	福岡市	2017年5月20日
荒木俊博、森 敦、福永秀平、山内亨介、山崎 博、吉岡慎一郎、有永照子、井出達也、光山慶一、鶴田 修、鳥村拓司	B型肝炎ウイルス無症候性キャリアに発症した難治性潰瘍性大腸炎の一例	第109回日本消化器病学会九州支部例会、第103回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 合同	福岡市	2017年5月19日
吉岡慎一郎、竹田津英稔、光山慶一、森敦、福永秀平、山内亨介、山崎 博、桑木光太郎、柳 忠宏、河野弘志、鶴田 修、鳥村拓司	当院における小児大腸内視鏡検査の現状-前処置や鎮静における実際と工夫-	第93回日本消化器内視鏡学会総会	大阪市	2017年5月13日
山内亨介、米湊 健、光山慶一、竹田津英稔、山崎 博、吉岡慎一郎、桑木光太郎、福永秀平、森 敦、秋葉 純、鶴田 修、鳥村拓司	マウス大腸炎関連腫瘍における実体顕微鏡を用いた観察: pit pattern の評価	第103回日本消化器病学会総会	東京	2017年4月22日
山崎 博、森 敦、山内亨介、福永秀平、桑木光太郎、吉岡慎一郎、光山慶一、鳥村拓司	炎症性腸疾患患者の末梢血単核球におけるTransient receptor potential (TRP) チャンネルの発現	第103回日本消化器病学会総会	東京	2017年4月20日
Naoki Yoshimura, Soh Okano, Minako Sako, Masakazu Takazoe	Efficacy and Safety of Tofacitinib in Patients with Moderate to Severe Ulcerative Colitis: A Real-World Retrospective Study	第15回欧州クローン病・大腸炎会議(ECCO2020)	Vienna	2020年2月14日
吉村 直樹、酒匂美奈子、高添 正和	難治性潰瘍性大腸炎に対する新規薬剤トファシチニブの有効性の検討	JDDW2019	神戸	2019年11月21日
吉村 直樹、岡野 荘、酒匂美奈子、高添 正和	活動期クローン病に対する新規生物学的製剤ウスステキヌマブの有効性の検討	日本消化器病学会 関東支部第356回例会	東京	2019年9月21日
酒匂美奈子、吉村 直樹、高添 正和	クローン病患者における妊娠中のインフリキシマブ投与と新生児の血中濃度について	第105回日本消化器病学会総会	金沢	2019年5月11日
吉村 直樹、酒匂美奈子、高添 正和	難治性潰瘍性大腸炎に対する新規生物学的製剤ゴリムマブの有効性の検討	第105回日本消化器病学会総会	金沢	2019年5月9日
Naoki Yoshimura, Soh Okano, Minako Sako, Masakazu Takazoe	Efficacy of Once a Day Multi Matrix Mesalamine Formulation, Lialda in Patients with Active Mild to Moderate Ulcerative Colitis after Inadequate Response to the pH-Dependent Release Mesalamine Formulation, Asacol	第13回欧州クローン病・大腸炎会議(ECCO2018)	Vienna	2018年2月15日
岡野 荘、酒匂美奈子、吉村 直樹、高添 正和	内視鏡的粘膜治癒を認める潰瘍性大腸炎における組織学的治癒の有無と臨床的所見の検討	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会	京都	2018年11月22日
岡野 荘、酒匂美奈子、吉村 直樹、高添 正和	巨大結腸症を呈した重症・劇症潰瘍性大腸炎に対する内科治療の有効性と限界の検討	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2018年11月9日
吉村 直樹、岡野 荘、酒匂美奈子、高添 正和	潰瘍性大腸炎に対するバイオシミラーの有効性と安全性の検討	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2018年11月9日
酒匂美奈子、吉村 直樹、高添 正和	クローン病におけるインフリキシマブの効果減弱症例に対する増量の効果と難治例に対する減量・期間短縮投与	第104回日本消化器病学会総会	東京	2018年4月21日
岡野 荘、酒匂美奈子、吉村 直樹、高添 正和	活動期潰瘍性大腸炎に対する新規5-ASA製剤リアルダの有効性の検討	第104回日本消化器病学会総会	東京	2018年4月20日
Soh Okano, Naoki Yoshimura, Minako Sako, Masakazu Takazoe	Comparative Short and Long Term Efficacy of Infliximab vs Adalimumab in Patients with Active Ulcerative Colitis: Retrospective Evaluation Undertaking	米国消化器病週間(DDW2017)	Chicago	2017年5月7日
小林 美緒、岡野 荘、酒匂美奈子、吉村 直樹、畑田 康政、高添 正和	潰瘍性大腸炎と鑑別を要した高齢発症の大腸型クローン病の一例	第638回内科学会関東支部例会	東京	2017年12月9日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
岡野 荘、酒匂美奈子、吉村 直樹、高添 正和	当院における潰瘍性大腸炎を背景とした Dysplasia と Colitic Cancer の検討	第 8 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	東京	2017 年 12 月 1 日
吉村 直樹、岡野 荘、酒匂美奈子、高添 正和	活動期潰瘍性大腸炎に対する新規 5-ASA 製剤リアルダの有効性の検討	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017 年 11 月 11 日
吉村 直樹、酒匂美奈子、高添 正和	難治性潰瘍性大腸炎に対する TNF 抗体療法の有効性の検討	第 103 回日本消化器病学会総会	東京	2017 年 4 月 20 日
K. Watanabe, M. Kawai, R. Koshiba, K. Fujimoto, K. Kojima, K. Kaku, N. Kinoshita, T. Sato, K. Kamikozuru, Y. Yokoyama, T. Miyazaki, N. Hida, S. Nakamura	Efficacy including rapid response and safety of tofacitinib in Japanese patients with ulcerative colitis: A preliminary investigation in a specialised IBD centre	The 15th Congress of European Crohn 's and Colitis Organisation	Vienna, Austria	2020 年 2 月 14 日
K. Fujimoto, K. Watanabe, K. Hori, K. Kaku, N. Kinoshita, R. Koshiba, K. Kojima, T. Sato, M. Kawai, K. Kamikozuru, Y. Yokoyama, T. Miyazaki, N. Hida, S. Nakamura	Evaluation of histological inflammation by a novel image enhanced endoscopy technique, dual red imaging, in patients with ulcerative colitis: Preliminary study	The 15th Congress of European Crohn 's and Colitis Organisation	Vienna, Austria	2020 年 2 月 14 日
T. Sato, K. Kojima, R. Koshiba, K. Fujimoto, M. Kawai, K. Kamikoduru, Y. Yokoyama, T. Miyazaki, K. Watanabe, N. Hida, S. Nakamura	Comparison of therapeutic effects between groups of thiopurine alone and combination of thiopurine with 5-ASA after remission introduced by oral tacrolimus for patients with severe ulcerative colitis	The 15th Congress of European Crohn 's and Colitis Organisation	Vienna, Austria	2020 年 2 月 14 日
Kenji Watanabe	The optimization of biologic treatment in UC: maximizing efficacy and safety	The Forum 6th China-Japan GI Medical Exchange Forum	中国、貴陽	2019 年 9 月 27 日
Kenji Watanabe	Small Bowel Endoscopy for IBD, When and How	The 7th Annual Meeting of AOCC, Endoscopy Workshop I (Diagnostic, Therapeutic, Colitis Screen Endoscopy in IBD)	台北、台湾	2019 年 6 月 15 日
Kenji Watanabe, Motohiro Esaki, Shiro Oka, Fumio Shimamoto, Masakazu Nishishita, Takumi Fukuchi, Shigehiko Fujii, Fumihito Hirai, Kazuki Kakimoto, Takuya Inoue, Ryoichi Nozaki, Hiroshi Kashida, Ken Takeuchi, Naoki Ohmiya, Masayuki Saruta, Shoichi Saito, Yutaka Saito, Shinji Tanaka, Yoichi Ajioka, Hisao Tajiri	THE DETECTION WITH TARGETD BIOPSY AND CHARACTERIZATION OF NEOPLASTIC LESIONS BY MAGNIFYING CHROMOENDOSCOPY AND NBI IN SURVEILLANCE COLONOSCOPY OF PATIENTS WITH ULCERATIVE COLITIS: A SUB-ANALYSIS OF THE NAVIGATOR STUDY	Digestive Disease Week 2019	San Diego, US	2019 年 5 月 20 日
Toshiyuki Sato, Motoi Uchino, Ryoji Koshiba, Kentaro Kojima, Koji Fujimoto, Mikio Kawai, Koji Kamikozuru, Yoko Yokoyama, Tetsuya Takagawa, Nobuyuki Hida, Kenji Watanabe, Hiroki Ikeuchi, Shiro Nakamura	CLINICAL CHARACTERISTICS AND RISK FACTORS FOR PNEUMOCYSTIS JIROVECI1 PNEUMONIA IN PATIENTS WITH INFLAMMATORY BOWEL DISEASE.	Digestive Disease Week 2019	San Diego, US	2019 年 5 月 19 日
Yoko Yokoyama, Kenji Watanabe, Kentaro Kojima, Koji Fujimoto, Ryoji Koshiba, Toshiyuki Sato, Mikio Kawai, Koji Kamikozuru, Tetsuya Takagawa, Takako Miyazaki, Nobuyuki Hida, Shiro Nakamura	INVESTIGATIONS OF THE CHARACTERISTICS AND ANTI-TNF AGENTS FOR OPTIMIZING TREATMENT IN PEDIATRIC PATIENTS WITH NEW-ONSET CROHN 'S DISEASE	Digestive Disease Week 2019	San Diego, US	2019 年 5 月 18 日
渡辺憲治	小腸内視鏡によるクローン病診療の最適化	第 13 回 日本カプセル内視鏡学会学術集会 ランチョンセミナー2	姫路市	2020 年 2 月 9 日
渡辺憲治、中村正直、大宮直木、藤原靖弘	パテンシーカプセルによる消化管開通性評価時間延長の可能性	第 13 回 日本カプセル内視鏡学会学術集会 シンポジウム-4 小腸カプセル内視鏡の未来	姫路市	2020 年 2 月 9 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
横山陽子、渡辺憲治、賀来宏司、木下直彦、小柴良司、小島健太郎、藤本晃士、佐藤寿行、河合幹夫、上小鶴孝二、宮寄孝子、樋田信幸、中村志郎	当院における炎症性腸疾患妊娠例の検討	第16回日本消化管学会総会学術集会 コアシンポジウム2「炎症性腸疾患：シームレスなアプローチを目指して」	姫路市	2020年2月7日
渡辺憲治	特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとステロイドの前向き無作為化比較試験 Castle Study：国内多施設共同試験	第16回日本消化管学会総会学術集会 研究助成成果発表2	姫路市	2020年2月7日
上小鶴孝二、渡辺憲治、佐藤寿之、河合幹夫、中村志郎	生物学的製剤二次無効クローン病症例に対する Reset TPN の内視鏡的有効性の検討	第103回 日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 パネルディスカッション2 下部消化管内視鏡診療の現状と課題	大阪市	2020年1月18日
渡辺憲治	IBD 新時代の潮流：新規薬剤とトータルケア	第10回日本炎症性腸疾患学会学術集会イブニングセミナー1	博多市	2019年11月29日
Yoko Yokoyama, Kenji Watanabe, Shiro Nakamura	Investigations of the characteristics and efficacy of anti-TNF agents for optimizing treatment in pediatric patients with new-onset Crohn's disease	International Session (Symposium) 2, JDDW2019	神戸市	2019年11月21日
渡辺憲治	UC の T2T 戦略"内視鏡的寛解か？組織学的寛解か？"	JDDW2019 ブレックファーストセミナー5	神戸市	2019年11月21日
渡辺憲治、飯田智哉、宮寄孝子、樋田信幸、中村志郎、仲瀬裕志	当院における MEFV 遺伝子関連腸炎小腸病変の検討	第57回日本小腸学会学術集会 主題セッション2 「難治性小腸疾患の診断と治療」	大阪市	2019年11月9日
横山陽子、渡辺憲治、宮寄孝子、中村志郎	高齢者潰瘍性大腸炎患者に対する Cytapheresis の有効性と最適化	第74回日本大腸肛門病学会学術集会、パネルディスカッション2 高齢者に対する炎症性腸疾患の治療	東京都	2019年10月11日
上小鶴孝二、河合幹夫、渡辺憲治	クローン病狭窄性病変に対する内視鏡的バルーン拡張術の有効性と内視鏡的予測因子の検討	第97回 日本消化器内視鏡学会総会、パネルディスカッション5 消化管狭窄に対する内視鏡治療の現状と課題	東京都	2019年6月2日
渡辺憲治	T2T 時代の UC 5-ASA 製剤（経口、局所）の最適化と課題	第113回日本消化器病学会九州支部例会、第107回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	博多市	2019年5月24日
宮寄孝子、樋田信幸、渡辺憲治	Ustekinumab によるクローン病治療の適正化の検討	第105回日本消化器病学会総会 パネルディスカッション7 炎症性腸疾患診療のリアルワールド～生物学的製剤に対するクリニカルクエスチョンを解決する	金沢市	2019年5月9日
K. Watanabe, M. Esaki, S. Oka, F. Shimamoto, M. Nishishita, T. Fukuchi, S. Fujii, F. Hirai, K. Kakimoto, T. Inoue, N. Hida, H. Kashida, K. Takeuchi, N. Ohmiya, M. Saruta, S. Saito, Y. Saito, S. Tanaka, Y. Ajioka, H. Tajiri	The detection with targeted biopsy and characterization of neoplastic lesions by magnifying chromoendoscopy and NBI in surveillance colonoscopy of patients with ulcerative colitis: a sub-analysis of the Navigator Study	14th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation	コペンハーゲン	2019年3月8日
T. Sato, R. Koshiba, K. Kojima, K. Fujimoto, M. Kawai, K. Kamikoduru, Y. Yokoyama, T. Takagawa, M. Uchino, N. Hida, K. Watanabe, H. Miwa, H. Ikeuchi, S. Nakamura	Risk factors and clinical characteristics for Pneumocystis jirovecii pneumonia in Japanese patients with ulcerative colitis	14th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation	コペンハーゲン	2019年3月8日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Y. Yokoyama, <u>K. Watanabe</u> , K. Kojima, R. Koshiba, K. Fujimoto, T. Sato, M. Kawai, K. Kamikozuru, T. Takagawa, T. Miyazaki, <u>N. Hida</u> , <u>S. Nakamura</u>	Investigations of the characteristics and efficacy of anti-TNF agents for optimising treatment in paediatric patients with new-onset Crohn's disease	14th Congress of European Crohn's and Colitis Organisatio	コペンハーゲン	2019年3月8日
T. Miyazaki, <u>K. Watanabe</u> , K. Kojima, R. Koshiba, K. Fujimoto, T. Sato, M. Kawai, K. Kamikozuru, T. Takagawa, Y. Yokoyama, <u>N. Hida</u> , <u>S. Nakamura</u>	Endoscopic features for loss of response in patients with Crohn's disease who were treated with infliximab by top-down strategy	14th Congress of European Crohn's and Colitis Organisatio	コペンハーゲン	2019年3月8日
<u>N. Hida</u> , <u>K. Watanabe</u> , T. Miyazaki, Y. Yokoyama, M. Kawai, T. Takagawa, K. Kamikozuru, T. Sato, K. Fujimoto, R. Koshiba, K. Kojima, <u>S. Nakamura</u>	The initial trough concentration at 36 h after starting tacrolimus is important for the personalised medicine strategy in patients with ulcerative colitis	14th Congress of European Crohn's and Colitis Organisatio	コペンハーゲン	2019年3月8日
T. Chohno, <u>K. Watanabe</u> , T. Minagawa, R. Kuwahara, Y. Horio, H. Sasaki, T. Bando, <u>M. Uchino</u> , <u>H. Ikeuchi</u>	Long-term prognosis and predictive factors for surgical treatment of intestinal lesions in patients with Behcet's disease	14th Congress of European Crohn's and Colitis Organisatio	コペンハーゲン	2019年3月8日
Kenji Watanabe, Reo Kawano, Masakazu Nishishita, Fumio Shimamoto, Takumi Fukuchi, <u>Motohiro Esaki</u> , Shiro Oka, Shigehiko Fujii, <u>Fumihito Hirai</u> , Kazuki Kakimoto, Takuya Inoue, Ryoichi Nozaki, Hiroshi Kashida, <u>Ken Takeuchi</u> , <u>Naoki Ohmiya</u> , <u>Masayuki Saruta</u> , Shoichi Saito, Yutaka Saito, <u>Shinji Tanaka</u> , <u>Yoichi Ajioka</u> , Hisao Tajiri	Relevant factors and significant endoscopic findings for detecting UC-associated neoplasms using pancolonoscopic NBI surveillance colonoscopy: a sub-analysis of Navigator Study	2018 Advances in Inflammatory Bowel Diseases	オランダ	2018年12月15日
<u>Kenji Watanabe</u>	Management of colorectal dysplasia in IBD	APDW2018, Recent advances in radiologic and endoscopic monitoring of IBD	ソウル	2018年11月18日
Kenji Watanabe, Reo Kawano, Masakazu Nishishita, Fumio Shimamoto, Takumi Fukuchi, <u>Motohiro Esaki</u> , Shiro Oka, Shigehiko Fujii, <u>Fumihito Hirai</u> , Kazuki Kakimoto, Takuya Inoue, Ryoichi Nozaki, Hiroshi Kashida, <u>Ken Takeuchi</u> , <u>Naoki Ohmiya</u> , <u>Masayuki Saruta</u> , Shoichi Saito, Yutaka Saito, <u>Shinji Tanaka</u> , <u>Yoichi Ajioka</u> , Hisao Tajiri	Relevant Factors and Significant Endoscopic Findings for Detecting UC-Associated Neoplasms Using Pancolonoscopic NBI Surveillance Colonoscopy: A Sub-Analysis of Navigator Study	American College of Gastroenterology 2018 Annual Scientific Meeting	Philadelphia	2018年10月9日
Tetsuya Takagawa, Yoishi Kakuta, Ayako Fujimori, Kentaro Kojima, Ryoji Koshiba, Koji Fujimori, Toshiyuki Sato, Mikio Kawai, Koji Kamikozuru, Yoko Yokoyama, Takako Miyazaki, <u>Nobuyuki Hida</u> , <u>Kenji Watanabe</u> , Kazutoshi Hori, <u>Hiroki Ikeuchi</u> , Shiro Nakamura	Treatment outcome of thiopurines in patients with ulcerative colitis who were heterozygous for NUDT15 R139C (C/T)	FALK Symposium 212, IBD and Liver: East Meets West	京都	2018年9月7日
Yoko Yokoyama, <u>Kenji Watanabe</u> , Koji Kamikozuru, Ayako Fujimori, Toshiyuki Sato, Ryoji Koshiba, Koji Fujimoto, Mikio Kawai, Tetsuya Takagawa, Yuko Kita, Takako Miyazaki, <u>Nobuyuki Hida</u> , <u>Shiro Nakamura</u>	Efficacy and related issues of cytapheresis in elderly patients with ulcerative colitis	FALK Symposium 212, IBD and Liver: East Meets West	京都	2018年9月7日
Ayako Fujimori, <u>Kenji Watanabe</u> , Yoko Yokoyama, Ryoji Koshiba, Koji Fujimoto, Toshiyuki Sato, Mikio Kawai, Tetsuya Takagawa, Takako Miyazaki, <u>Nobuyuki Hida</u> , <u>Shiro Nakamura</u>	Clinical features of Ulcerative Colitis complicated with Autoimmune hepatitis: A Case Series in Japan	6th Annual Meeting of the Asian Organization for Crohn's and Colitis	上海	2018年6月23日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
Yoko Yokoyama, Kenji Watanabe, Koji Kamikozuru, Toshiyuki Sato, Ayako Fujimori, Ryoji Koshiba, Koji Fujimoto, Mikio Kawai, Tetsuya Takagawa, Yuko Kita, Takako Miyazaki, Nobuyuki Hida, Shiro Nakamura	Efficacy and related issues of cytapheresis in elderly patients with ulcerative colitis	6th Annual Meeting of the Asian Organization for Crohn's and Colitis	上海	2018年6月23日
Kenji Watanabe, Masakazu Nishishita, Fumio Shimamoto, Takumi Fukuchi, Motohiro Esaki, Yasuharu Okamoto, Yuji Maehata, Shiro Oka, Shigehiko Fujii, Fumihito Hirai, Toshiyuki Matsui, Kazuki Kakimoto, Toshihiko Okada, Takuya Inoue, Nobuyuki Hida, Ryoichi Nozaki, Toshiharu Sakurai, Hiroshi Kashida, Ken Takeuchi, Naoki Ohmiya, Masayuki Saruta, Shoichi Saito, Yutaka Saito, Shiro Nakamura, Shinji Tanaka, Yasuo Suzuki, Yoichi Ajioka, Hisao Tajiri	Relevant factors and significant endoscopic findings for detecting UC-associated neoplasms using pancolonoscopic NBI surveillance colonoscopy: a sub-analysis of Navigator Study	6th Annual Meeting of the Asian Organization for Crohn's and Colitis	上海	2018年6月23日
Kenji Watanabe, Masakazu Nishishita, Fumio Shimamoto, Takumi Fukuchi, Motohiro Esaki, Yasuharu Okamoto, Yuji Maehata, Shiro Oka, Shigehiko Fujii, Fumihito Hirai, Toshiyuki Matsui, Kazuki Kakimoto, Toshihiko Okada, Takuya Inoue, Nobuyuki Hida, Ryoichi Nozaki, Toshiharu Sakurai, Hiroshi Kashida, Ken Takeuchi, Naoki Ohmiya, Masayuki Saruta, Shoichi Saito, Yutaka Saito, Shiro Nakamura, Shinji Tanaka, Yasuo Suzuki, Yoichi Ajioka, Hisao Tajiri	Relevant factors and significant endoscopic findings for detecting UC-associated neoplasms using pancolonoscopic NBI surveillance colonoscopy: a sub-analysis of Navigator Study	Digestive Disease Week 2018: ASGE Topic Forum: Updates on Lower GI Bleeding and Colitis Surveillance Techniques	ワシントン DC	2018年6月4日
Nobuyuki Hida, Kenji Watanabe, Takako Miyazaki, Yoko Yokoyama, Tetsuya Takagawa, Koji Kamikozuru, Mikio Kawai, Yuko Kita, Toshiyuki Sato, Shiro Nakamura	THE INITIAL TROUGH CONCENTRATION AT 36 HOURS AFTER STARTING TACROLIMUS IS IMPORTANT FOR THE PERSONALIZED MEDICINE STRATEGY IN PATIENTS WITH ULCERATIVE COLITIS	Digestive Disease Week 2018	ワシントン DC	2018年6月4日
Yuko Kita, Ayako Fujimori, Ryoji Koshiba, Koji Fujimoto, Toshiyuki Sato, Mikio Kawai, Koji Kamikozuru, Tetsuya Takagawa, Yoko Yokoyama, Takako Miyazaki, Nobuyuki Hida, Kenji Watanabe, Shiro Nakamura	CLINICAL CHARACTERISTICS AND COMPLICATIONS IN HOSPITALISED ELDERLY PATIENTS WITH ULCERATIVE COLITIS IN A REAL-WORLD SPECIALISED HOSPITAL	Digestive Disease Week 2018	ワシントン DC	2018年6月4日
横山陽子、渡辺憲治、長瀬和子、上小鶴孝二、小島健太郎、小柴良司、藤本晃士、佐藤寿行、河合幹夫、高川哲也、宮崎孝子、樋田信幸、中村志郎	高齢者潰瘍性大腸炎患者に対する Cytapheresis の最適化とチームアプローチ	第15回 日本消化管学会 総会学術集会 コアシンポジウム2	佐賀	2019年2月2日
宮崎孝子、渡辺憲治、小島健太郎、小柴良司、藤本晃士、佐藤寿行、河合幹夫、上小鶴孝二、高川哲也、横山陽子、樋田信幸、中村志郎	当科におけるクローン病 (CD) に対する ustekinumab の有用性の検討	第15回 日本消化管学会 総会学術集会 ワークショップ1	佐賀	2019年2月1日
渡辺憲治、上小鶴孝二、堀和敏、佐藤寿行、小島健太郎、藤本晃士、佐々木寛文、坂東俊宏、内野基、樋田信幸、池内浩基、中村志郎	サイトメガロウイルス腸炎軽快後に腹痛を認めた1例	第73回日本大腸肛門病学会学術集会 症例検討1 内科 (IBD) - 慢性大腸虚血性病変 (IBD の鑑別として) -	東京	2018年11月10日
渡辺憲治、高川哲也、角田洋一、藤森絢子、小島健太郎、小柴良司、藤本晃士、佐藤寿行、河合幹夫、上小鶴孝二、横山陽子、宮崎孝子、樋田信幸、堀和敏、池内浩基、中村志郎	NUDT15 R139C C/T ヘテロ症例におけるチオプリン製剤を用いた潰瘍性大腸炎の治療成績	第73回日本大腸肛門病学会学術集会 ワークショップ1「潰瘍性大腸炎緩解維持療法の現状」	東京	2018年11月9日
上小鶴孝二、佐藤寿行、樋田信幸、渡辺憲治、中村志郎	IBD 専門施設で経験した Cronkhite-Canada 症候群の3例	第100回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 ワークショップ「知っていて得する内視鏡所見」	大阪	2018年5月26日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
八上佳和、板東具樹、柳生利彦、渡辺憲治	当科の経験例に基づく胃蜂窩織炎の内視鏡所見と鑑別診断の検討	第100回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 ワークショップ「知っていて得する内視鏡所見」	大阪	2018年5月26日
渡辺憲治、湯川知洋、山上博一	クローン病直腸肛門管腫瘍に対する内視鏡的サーベイランスの検討	第95回日本消化器内視鏡学会総会パネルディスカッション-4: 炎症性腸疾患に対する内視鏡診断の役割	東京	2018年5月12日
渡辺憲治、岡 志郎、江崎幹宏	潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡における NBI と色素内視鏡の多施設共同前向きランダム化比較試験: Navigator Study	第95回日本消化器内視鏡学会総会シンポジウム2 下部消化管病変における画像強調内視鏡 (Image Enhanced Endoscopy: IEE) の現況と将来	東京	2018年5月11日
宮寄孝子、渡辺憲治、樋田信幸	クローン病インフリキシマブ top-down 治療における臨床課題 の検討	第104回日本消化器病学会総会パネルディスカッション6 炎症性腸疾患に対する抗 TNF- 交代治療薬導入により見えてきた臨床課題	東京	2018年4月21日
K. Watanabe, R. Kawano, M. Nishishita, F. Shimamoto, T. Fukuchi, M. Esaki, Y. Okamoto, Y. Maehata, S. Oka, S. Nishiyama, S. Fujii, F. Hirai, T. Matsui, K. Kakimoto, T. Okada, T. Inoue, N. Hida, R. Nozaki, T. Sakurai, H. Kashida, K. Takeuchi, N. Ohmiya, M. Saruta, S. Saito, Y. Saito, S. Nakamura, S. Tanaka, Y. Suzuki, Y. Ajioka, H. Tajiri	Relevant factors and significant endoscopic findings for detecting colitis-associated neoplasms using pancolonoscopic narrow band imaging surveillance colonoscopy in patients with Ulcerative Colitis: A sub-analysis of prospective randomised trial	13th Congress of ECCO	Vienna	2018年2月16日
Kenji Watanabe	Diagnostic Endoscopy in IBD	TSIBD Annual Meeting, 2017 IBD Update Symposium	Taipei	2017年12月2日
Kenji Watanabe	Therapeutic Endoscopy in IBD	TSIBD Annual Meeting, 2017 IBD Update Symposium	Taipei	2017年12月2日
Naoko Sugita, Kenji Watanabe, Noriko Kamata, Yasuhiro Fujiwara	Clinical and pharmacokinetic investigation of the efficacy of concomitant elemental diet therapy to prevent loss of response to adalimumab in patients with Crohn's disease	AOCC2017	Seoul	2017年6月17日
Watanabe K, Matsumoto T, Motoya S, Hisamatsu T, Nakase H, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Nagahori M, Esaki M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T.	Comparison of Endoscopic Responses to Adalimumab Monotherapy and Combination Therapy with Azathioprine in Patients with Crohn's Disease: A sub-analysis of DIAMOND trial	AOCC2017	Seoul	2017年6月16日
Omori, Teppei; Watanabe, Kenji; Ohmiya, Naoki; Hirai, Fumihito; Nakamura, Masanao; Kagaya, Takashi; Oka, Shiro; Ozeki, Keiji; Kawano, Seiji; Ninomiya, Kazuo; Nakaji, Konosuke; Iimuro, Masaki; Handa, Osamu; Tokuhara, Daisuke; Sagawa, Tamotsu; Wakamatsu, Takahiro; Kato, Shingo; Araki, Akihiro; Koike, Yuji; Hashimoto, Shinichi; Mannami, Tomohiko; Higaki, Shingo; Hayashida, Mari; SAMESHIMA, Yukinori; Hasegawa, Daisuke; Tokushige, Katsutoshi; Matsui, Toshiyuki	A nationwide multicenter study on adverse events associated with a patency capsule: additional survey for the Japanese Association for Capsule Endoscopy-oriented appropriate use survey for patency capsule (J-POP) Study	DDW2017	Chicago	2017年5月7日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	年月日
K. Watanabe, T. Matsumoto, S. Motoya, T. Hisamatsu, H. Nakase, N. Yoshimura, T. Ishida, S. Kato, T. Nakagawa, M. Nagahori, M. Esaki, T. Matsui, Y. Naito, T. Kanai, Y. Suzuki, M. Nojima, M. Watanabe, T. Hibi, the DIAMOND Study Group	Comparison of endoscopic responses to adalimumab monotherapy and combination therapy with azathioprine in patients with Crohn's disease: A sub-analysis of DIAMOND trial	DDW2017	Chicago	2017年5月6日
Yu Nishida, Kenji Watanabe, Shuhei Hosomi, Hirokazu Yamagami, Koji Otani, Yasuaki Nagami, Fumio Tanaka, Noriko Kamata, Koichi Taira, Masatsugu Shiba, Kazunari Tominaga, Toshio Watanabe, Yasuhiro Fujiwara	Serum interleukin-6 level predicts short-term clinical response/future outcomes of anti-tumor necrosis factor therapy in patients with ulcerative colitis	DDW2017	Chicago	2017年5月6日
Nakamura, Masanao ; Watanabe, Kenji ; Ohmiya, Naoki ; Hirai, Fumihito ; Omori, Teppei ; Tokuhara, Daisuke ; Nakaji, Konosuke ; Nouda, Sadaharu ; Washio, Ema ; SAMESHIMA, Yukinon ; Mannami, Tomohko ; Maeda, Kohei ; Ninomiya, Kazeo ; Wakamatsu, Takahiro ; Araki, Akihiro ; Ishii, Manabu ; Higaki, Shingo ; Abe, Takashi ; Handa, Osamu ; Kawano, Seiji ; Iwamoto, Maho ; Kato, Shingo ; Kagaya, Takashi ; Goto, Hidemi ; Matsui, Toshiyuki	Prospective, multicenter study for evaluation of the clinical efficacy and safety of PillCam patency capsule in 1,096 cases with suspected small bowel stenosis	DDW2017	Chicago	2017年5月6日
渡辺憲治, 中村志郎, 松井敏幸, 上野文昭	本邦の消化器病学会 IBD 診療ガイドラインと厚労省班会議治療指針の特徴と差異	第8回 JSIBD 学術集会	東京	2017年12月1日
渡辺憲治, 西下正和, 嶋本文雄, 福知工, 江崎幹宏, 岡志郎, 藤井茂彦, 平井郁仁, 井上拓也, 樋田信幸, 野崎良一, 櫻井俊治, 竹内健, 猿田雅之, 斎藤彰一, 斎藤豊, 大宮直木, 味岡洋一, 川野伶緒, 田中信治	潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡における NBI 観察と色素内視鏡観察のランダム化比較試験:Navigator Study	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	福岡	2017年11月11日
渡辺憲治, 大宮直木, 平井郁仁, 松井敏幸	クローン病診断におけるカプセル内視鏡の有用性: J-POP Study 追加検討から	第55回日本小腸学会	京都	2017年10月21日
Kenji Watanabe, Nishishita Masakazu, Shimamoto Fumio	Comparison between newly-developed NBI and panchromoendoscopy for surveillance colonoscopy in patients with longstanding ulcerative colitis; A sub-analysis of Navigator Study	JDDW2017、International Session (Symposium) 9	福岡	2017年10月14日
渡辺憲治, 大宮直木, 松井敏幸	クローン病診断におけるカプセル内視鏡の有用性: J-POP Study 追加検討から	第103回日本消化器病学会総会	東京	2017年4月22日

知的財産権

種類	受付(識別)番号	出願日
藤谷幹浩 その他(特許公開)	W02017/126626	2017年7月27日
佐々木建吾、星奈美子、井上潤、 東健、大澤朗、近藤明彦 出願中	2017-104859 潰瘍性大腸炎の検査方法および装置ならびに治療薬のスクリーニング方法 (国立大学法人神戸大学)	2017年5月26日

社会活動に関する一覧表

活動者名(所属施設)	会の名称および講演演題等	会場および新聞名等	活動年月日
鈴木康夫(東邦大学医療センター)	千葉県・千葉市難病指定医研修	千葉市総合保健医療センター	2019年7月28日
鈴木康夫(東邦大学医療センター)	「消化器系難病の最新事情について～クローン病、潰瘍性大腸炎を中心に～」	千葉市総合保健医療センター	2018年12月8日
鈴木康夫(東邦大学医療センター)	平成30年度千葉県難病指定医研修会：代表的な疾患の診断等について(炎症性腸疾患)	千葉県教育会館	2018年11月25日
鈴木康夫(東邦大学医療センター)	【市民公開講座 知っていますか? 「潰瘍性大腸炎」のこと】潰瘍性大腸炎治療の進歩～基本の応用へ～	沖縄県市町村自治会館	2018年5月20日
鈴木康夫(東邦大学医療センター)	きょうのセカンドオピニオン 「A免疫を抑える新薬も」	毎日新聞	2018年1月28日
鈴木康夫(東邦大学医療センター)	レミケードの新しい使い方 投与期間短縮	CCJAPAN vol.101	2017年12月26日
鈴木康夫(東邦大学医療センター)	患者の身体的負担を軽減する【潰瘍性大腸炎の最新治療】	安心	2017年12月1日
鈴木康夫(東邦大学医療センター)	平成29年度千葉県難病指定医研修会：代表的な疾患の診断等について(炎症性腸疾患)	千葉県教育会館	2017年10月8日
鈴木康夫(東邦大学医療センター)	潰瘍性大腸炎の最新医療情報	千葉市総合保健医療センター	2017年10月7日
鈴木康夫(東邦大学医療センター)	先生の知りたい最新医学がここにある【潰瘍性大腸炎】	健	2017年8月1日
鈴木康夫(東邦大学医療センター)	なんでも健康相談【大腸憩室から出血を繰り返します】	NHK テキストきょうの健康	2017年7月21日
鈴木康夫(東邦大学医療センター)	クローン病治療におけるステララの可能性	日経メディカル	2017年7月10日
池内 浩基(兵庫医科大学)	炎症性腸疾患の外科治療の現状 - 薬物療法と栄養療法も含めて - .(特別講演)第5回新東京消化器疾患研究会	東京	2020年3月6日
池内 浩基(兵庫医科大学)	炎症性腸疾患の手術と長期経過 . 第18回 Nagasaki Bowel Club	長崎	2019年10月17日
池内 浩基(兵庫医科大学)	炎症性腸疾患の内科的治療法の変遷と外科治療 .(特別講演)第38回淡路消化器病懇話会	洲本	2019年9月26日
池内 浩基(兵庫医科大学)	バイオ製剤は潰瘍性大腸炎、クローン病の手術症例にどのような影響を与えたのか . 第4回兵庫IBD Total Care Meeting	神戸	2019年9月12日
池内 浩基(兵庫医科大学)	炎症性腸疾患の手術適応 こんな時は手術をお勧めします .(特別講演)IBD講演会 in和歌山	和歌山	2019年6月13日
池内 浩基(兵庫医科大学)	炎症性腸疾患手術症例の変遷 . 世界IBDの日 姫路城ライトアップイベント 炎症性腸疾患医療講演会	姫路	2019年5月19日
池内 浩基(兵庫医科大学)	IBDの手術と術後経過 .(特別講演)IBD学術講演会	東京	2019年5月17日
池内 浩基(兵庫医科大学)	クローン病の術後管理 - Bio製剤の臨床的意義 - .(基調講演)クローン病の診療アプローチ2019 - 抗TNF 交替製剤による治療最適化 -	東京	2019年3月23日
池内 浩基(兵庫医科大学)	潰瘍性大腸炎手術症例の現状 .(Opening Lecture) エンタピオ発売記念講演会 in KOBE	神戸	2019年2月28日
池内 浩基(兵庫医科大学)	炎症性腸疾患に対する外科治療の現状と今後の展望 .(特別講演)宮崎胃と腸懇話会	宮崎	2019年1月18日
池内 浩基(兵庫医科大学)	炎症性腸疾患 - こんな時は手術をお勧めします - .(特別講演)第3回IBD MEET the EXPERT in 埼玉	埼玉	2018年11月15日
池内 浩基(兵庫医科大学)	炎症性腸疾患における内科的治療の進歩と手術適応の変遷 .(スポンサーセッション)第39回日本大腸肛門病学会北海道支部例会	札幌	2018年10月6日
池内 浩基(兵庫医科大学)	炎症性腸疾患の内科的治療法の変遷と外科治療 .(特別講演)IBD Clinical Seminar	広島	2018年9月11日
池内 浩基(兵庫医科大学)	クローン病における外科的治療戦略 .(特別講演)美作地区Crohn's disease seminar	津山	2018年8月22日
池内 浩基(兵庫医科大学)	炎症性腸疾患の手術のタイミング - 周術期死亡症例を出さないために - . 第18回北九州炎症性腸疾患懇話会	北九州	2018年4月12日
池内 浩基(兵庫医科大学)	炎症性腸疾患(IBD)こんな時は手術をおすすめします .(特別講演)日本消化器病学会関東支部第31回教育講演会ランチョンセミナー	東京(シェーンバハ・サボ - 「利根」)	2017年11月3日
池内 浩基(兵庫医科大学)	炎症性腸疾患の外科治療 .(講演)第79回手術手技懇話会	大阪(ホテルグランヴィア大阪)	2017年10月28日

社会活動に関する一覧表

活動者名(所属施設)	会の名称および講演演題等	会場および新聞名等	活動年月日
池内 浩基(兵庫医科大学)	炎症性腸疾患 こんなときは手術をおすすめします。(特別講演)第2回旭川 IBD 研究会	旭川(旭川グランドホテル)	2017年10月27日
池内 浩基(兵庫医科大学)	クローン病の外科的治療戦略.(特別講演)ステララ®点滴静注 130mg 新発売記念講演会 in 兵庫	神戸(ホテルモントレ神戸)	2017年10月5日
池内 浩基(兵庫医科大学)	炎症性腸疾患内科的治療の進歩が手術適応に影響を与えたか.IBD Management Forum	名古屋(ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋)	2017年8月25日
池内 浩基(兵庫医科大学)	炎症性腸疾患内科的治療の進歩と手術適応の変遷.(特別講演)第24回千葉 IBD フォーラム	千葉(京成ホテルミラマーレ)	2017年7月8日
猿田雅之 (東京慈恵会医科大学 内科学講座 消化器・肝臓内科)	日本炎症性腸疾患協会(CCFJ)講演会 「炎症性腸疾患の治療の最前線」	東京女子医科大学附属病院 総合外来センター 5F 大会議室	2020年3月14日
猿田雅之 (東京慈恵会医科大学 内科学講座 消化器・肝臓内科)	平成31年度 第5回難病医療ネットワーク医療従事者向け研修 「炎症性腸疾患の診断と治療」	東京慈恵会医科大学附属病院 大学1号館6階講堂	2020年1月28日
猿田雅之 (東京慈恵会医科大学 内科学講座 消化器・肝臓内科)	第18回長野県クローン病市民公開講座 「クローン病の診断と治療の最前線」	松本市中央公民会館「ウイング」	2018年1月20日
猿田雅之 (東京慈恵会医科大学 内科学講座 消化器・肝臓内科)	港区薬剤師連携勉強会 「炎症性腸疾患の診断と治療の最前線」	東京慈恵会医科大学 大学管理棟9階「カンファレンスA・B」	2018年3月6日
猿田雅之 (東京慈恵会医科大学 内科学講座 消化器・肝臓内科)	ラジオNIKKEI「薬学の時間」 「潰瘍性大腸炎の治療ストラテジー」	ラジオNIKKEI	2018年8月2日
猿田雅之 (東京慈恵会医科大学 内科学講座 消化器・肝臓内科)	第57回 国際治療談話会総会 消化器疾患の撲滅をめざして 「炎症性腸疾患治療の変遷と展望」	学士会館(東京)	2017年11月29日
猿田雅之 (東京慈恵会医科大学 内科学講座 消化器・肝臓内科)	第261回 平成29年度 東京薬科大学卒業後教育講座(春期) 「消化器疾患の変遷と未来」	東京医科大学病院 「臨床講堂」(東京)	2017年7月9日
猿田雅之 (東京慈恵会医科大学 内科学講座 消化器・肝臓内科)	第3回 MEET THE PHARMACIST 「炎症性腸疾患の現状と治療選択～治療の変遷と未来～」	日本工業倶楽部5階 「第6会議室」	2017年7月8日
清水俊明(順天堂大学)	小児・思春期の IBD 診療を考える会[小児の炎症性腸疾患の診断と治療]	福岡	2019.12.11
清水俊明(順天堂大学)	キッセイ薬品工業 社内研修会「小児の炎症性腸疾患」	東京	2019.3.29
清水俊明(順天堂大学)	第639回日本小児科学会東京都地方会講話会「小児の炎症性腸疾患 - 適切な診断と治療法 - .」	東京	2017.9.9
清水俊明(順天堂大学)	キッセイ薬品工業社内研修会「小児の炎症性腸疾患 - 適切な診断と治療法 - .」	東京	2017.11.2
杉田昭(横浜市立市民病院炎症性腸疾患科)	第13回埼玉 IBD フォーラム:炎症性腸疾患に対する外科治療の位置付け	埼玉	2019年2月15日
杉田昭(横浜市立市民病院炎症性腸疾患科)	第200回大腸肛門病懇談会:炎症性腸疾患の外科治療腸管病変について	東京	2018年9月8日
杉田昭(横浜市立市民病院炎症性腸疾患科)	TBS ラジオ「腸から始まる健康ライフ」	東京	2018年6月4日
杉田昭(横浜市立市民病院炎症性腸疾患センター)	CCFJ 講演会:IBD に合併する癌	日本大学病院 大会議室	2017年9月23日
杉田昭(横浜市立市民病院炎症性腸疾患センター)	第14回熊本 IBD カンファレンス:炎症性腸疾患に対する外科治療の位置づけ	ホテルニュー熊本	2017年9月1日
Sugita A(IBD Center, Yokohama Municipal Citizen's Hospital)	International Lecture:Treatment of Anorectal Crohn's Disease Clinical Course of Intestinal Stoma and Anorectal Cancer Surveillance	Weill Cornell Medical College	2017年4月24日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	【炎症性腸疾患治療道内医療機関が連携】	十勝毎日新聞	2020年2月1日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	第208回日本消化器病学会東北支部例会・第164回日本消化器内視鏡学会東北支部例会ランチョンセミナー 【The challenges in assessing mucosal healing of ulcerative colitis more objectively, more exactly】	フォレスト仙台	2020年2月1日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	第61回日本消化器病学会大会教育講演会 【我が国における IBD の動向と治療の最前線】	神戸コンベンションセンター	2019年11月24日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	NHK Eテレ「きょうの健康」 【過敏性腸症候群】【潰瘍性大腸炎】【クローン病】	NHK	2019年9月23-25日

社会活動に関する一覧表

活動者名(所属施設)	会の名称および講演演題等	会場および新聞名等	活動年月日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	いきいきライフセミナー 市民公開講座 【腸と健康 - 腸内細菌は旧友! ?】	神戸新聞松方ホール	2019年9月14日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	第56回日本消化器免疫学会総会教育講演会 【家族性地中海熱遺伝子関連腸炎と炎症性腸疾患】	メルパルク京都	2019年8月2日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	平成30年度 消費生活講座 【健康長寿! 腸内細菌パワー】	札幌エルプラザ	2019年2月15日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	チョイス@病気になったとき 【潰瘍性大腸炎・クローン病】	NHK	2019年1月19日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	第110回日本消化器病学会四国支部例会 【炎症性腸疾患治療を病態から考える】	松山市総合コミュニティセンター	2018年11月18日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	日本消化器病学会北海道支部第20回教育講演会 【炎症性腸疾患治療薬の作用機序を紐解く】	札幌医科大学	2018年3月17日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	第204回日本消化器病学会東北支部例会・第160回日本消化器内視鏡学会東北支部例会ランチョンセミナー 【Positioning of Golimumab in UC treatment based on immunogenicity to biologics】	仙台国際センター	2018年2月3日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	【炎症性腸疾患喫煙成分と関連】	十勝毎日新聞	2018年1月19日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	第110回日本消化器病学会九州支部例会・第104回日本消化器内視鏡学会九州支部例会ランチョンセミナー 【Review of current treatments for IBD based on molecular and immunological date】	沖縄かりゆしアーバンリゾート	2017年11月17日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	日本消化器病学会東北支部第19回教育講演会 【免疫学的機序の観点からみた今後の炎症性腸疾患治療】	ホテルメトロポリタン盛岡	2017年11月12日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	第50回日本消化器病学会北海道支部市民公開講座 【ここまでわかってきた炎症性腸疾患の病態】	札幌医科大学	2017年10月1日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	第109回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会教育講演会 【炎症性腸疾患の内視鏡診断・治療】	富山県医師会館	2017年6月25日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	TBSラジオ・HBCラジオ 【腸から始まる健康ライフ】	TBS放送センター	2017年6月23日
仲瀬裕志(札幌医科大学)	第71回生涯教育講演会 【炎症性腸疾患診療の進歩】	富山県民会館	2017年6月18日
中野雅(北里大学北里研究所病院)	北里研究所病院市民公開講座	北里大学薬学部	2019年2月23日
中野雅(北里大学北里研究所病院)	第102回日本消化器病学会関東支部 市民公開講座	北里大学白金キャンパス	2018年9月15日
中野雅(北里大学北里研究所病院)	第31回アポトック21研究会	杏林製薬株式会社東京支店 会議室	2018年9月6日
中野雅(北里大学北里研究所病院)	相模原市難病講演会	相模原市	2017年7月25日
中村 志郎(兵庫医科大学)	新ひょうごの医療	神戸新聞	2019年11月2日
中村 志郎(兵庫医科大学)	第19回長野県クローン病市民公開講座「クローン病 内科治療の最新情報」	長野市	2018年12月15日
中村 志郎(兵庫医科大学)	和泉市クローン病学習会「クローン病 内科治療の基本と最新情報」	和泉市	2018年9月19日
中村 志郎(兵庫医科大学)	潰瘍性大腸炎学習会(市民講演会)「潰瘍性大腸炎の治療と生活上の注意点」	泉佐野市	2017年5月17日
長堀正和(東京医科歯科大学)	日本炎症性腸疾患学会市民公開講座「潰瘍性大腸炎に対する新しい治療法」	アクロス福岡	2019年12月1日
長堀正和(東京医科歯科大学)	金沢区難病講演会「炎症性腸疾患の検査と最新の治療」	金沢区役所福祉保健センター	2019年10月28日
長堀正和(東京医科歯科大学)	難病講演会「潰瘍性大腸炎・クローン病 治療の最新情報」	板橋区保健所	2019年2月28日
長堀正和(東京医科歯科大学)	東京都難病相談・支援センター講演会「炎症性腸疾患の検査と最新の治療 - 普通の人と変わらぬ生活を -」	都民ホール	2018年2月12日
長堀正和(東京医科歯科大学)	「炎症性腸疾患の治療の進歩」	ラジオNIKKEI	2017年11月21日
畑啓介(東京大学腫瘍外科)	IBD とがん	IBD ニュース vol.64	2018年7月1日
畑啓介(東京大学腫瘍外科)	第9回日本炎症性腸疾患学会学術集会教育セミナー・教育講演「IBD に合併する消化管癌 疫学・特徴(外科治療を含めて)」	京都	2018年11月23日
久松理一(杏林大学)	社会保険指導者講習会 潰瘍性大腸炎の診断と治療	日本医師会館	2019年10月3日
久松理一(杏林大学)	千葉 IBD 講演会(患者会) IBD マネージメントの肝~Treat to Target とは? ~	2千葉市生涯学習センター	2019年6月29日
久松理一(杏林大学)	病態栄養講習会(栄養管理士向け) 炎症性腸疾患の基礎と最新治療	東京医科歯科大学3号館2階	2019年6月7日

社会活動に関する一覧表

活動者名(所属施設)	会の名称および講演演題等	会場および新聞名等	活動年月日
久松理一(杏林大学)	日野市医師会学術講演会 潰瘍性大腸炎の治療 Up to Date	日野市立病院講堂	2019年5月7日
久松理一(杏林大学)	日本炎症性腸疾患学会メディカルスタッフ教育セミナー IBDの新薬について	TKPガーデンシティ品川	2017年12月2日
久松理一(杏林大学)	杏林医学会市民公開講演会 特別講演 腸内細菌のトピックスと新しいIBD治療薬について	杏林大学付属病院	2017年11月18日
久松理一(杏林大学)	府中市医師会学術講演会 日常診療で注意すべき下痢 - 感染性腸炎と炎症性腸疾患の鑑別, 治療など -	ルミエール府中	2017年7月26日
平井郁仁(福岡大学医学部)	第3回 IBD メディカルセミナー in 九州	TKP ガーデンシティ博多 新幹線口	2020年1月25日
平井郁仁(福岡大学医学部)	過敏性腸症候群	九州朝日放送	2020年1月11日
平井郁仁(福岡大学医学部)	福岡中央病院 第2回 健康講座 大腸の病気あれこれ～日常的な病気から癌まで～	福岡中央病院	2019年12月14日
平井郁仁(福岡大学医学部)	特定非営利活動法人 福岡高齢者排泄改善委員会 市民公開講座 快便で“健やか” “長生き”を目指そう!	イムズホール	2019年10月19日
平井郁仁(福岡大学筑紫病院)	第7回福岡大学筑紫病院 炎症性腸疾患センター 市民公開講座	JR九州ホール	2018年5月27日
平井郁仁(福岡大学筑紫病院)	第6回福岡大学筑紫病院 炎症性腸疾患センター 市民公開講座	JR九州ホール	2017年6月11日
福島浩平(東北大学)	東北大学 EMBEE プロジェクト「技術者のための医学・ 医工学教育プログラム」消化器 解剖生理消化器 診断 治療	東京堂ホール	2019年11月9日
福島浩平(東北大学)	ジャパンバイオデザインプログラム委員会	東北大学青葉山キャンパス	2019年4月から 毎月第一水曜日
福島浩平(東北大学)	東北大学 REDEEM プロジェクト「医療工学技術者創生 のための再教育システム」外科学各論(腹部一般外科)	東京堂ホール	2018年11月10日
福島浩平(東北大学)	ジャパンバイオデザインプログラム委員会	東北大学青葉山キャンパス	2018年4月から 毎月第一水曜日
福島浩平(東北大学)	東北大学 REDEEM プロジェクト「医療工学技術者創生 のための再教育システム」外科学各論(腹部一般外科)	東京堂ホール	2017年12月9日
福島浩平(東北大学)	ジャパンバイオデザインプログラム委員会	東北大学青葉山キャンパス	2017年4月から 毎月第一水曜日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	岡山IBDカンファレンス クローン病に対する外科治療	グランヴィア岡山	2019年9月19日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	第34回IBD mini conference IBDにおける肛門病変を考える - 最近経験した2症例 -	福岡ソラリア西鉄ホテル	2019年8月30日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	第8回福岡大学筑紫病院 炎症性腸疾患センター 市民公開講座 IBD診療と私 - 外科医の立場から -	福岡JR九州ホール	2019年6月23日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	第111回九州大腸肛門病懇談会 クローン病関連小腸癌への対応	久留米リサーチパーク	2019年6月8日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	クローン病の肛門病変に対するBio治療の最適化を考 える会 in 関西 クローン病肛門病変の治療 - seton法の適応とポイント -	ホテルグランヴィア大阪	2019年5月25日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	クローン病の診療アプローチ2019 - 抗TNF 抗体製剤による治療最適化-閉会の挨拶	TKPガーデンシティ PREMIUM田町	2019年3月23日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	第2回IBDメディカルセミナー IBD(炎症性腸疾患)に対する外科治療の最前線	TKP博多駅前 シティセンター	2019年3月9日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	福岡大学筑紫病院 IBD教室 IBDに対する外科治療	福岡大学筑紫病院	2019年2月19日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	第110回九州大腸肛門病懇談会 IBDにおける死亡症例の検討	久留米リサーチパーク	2019年2月9日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	第18回埼玉IBDカンファレンス IBDにおける肛門部の臨床	さいたま新都心 ラフレさいたま	2019年1月26日

社会活動に関する一覧表

活動者名(所属施設)	会の名称および講演演題等	会場および新聞名等	活動年月日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	平成30年度日本炎症性腸疾患学会 市民公開講座 潰瘍性大腸炎とクローン病 - 日頃の疑問や悩みにお答えします - 閉会の挨拶	東京医科歯科大学 鈴木幸夫記念講堂	2019年1月19日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	第7回IBD治療を考える会 for young 知ってほしいIBD肛門部病変の諸々	ホテルアルモニーサンク	2018年10月15日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	第200回大腸肛門病懇談会 「IBDのすべて - 肛門外科」 IBD肛門部病変の診断と治療	TKPガーデンシティ品川	2018年9月8日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	沖縄消化器内視鏡会55周年記念講演会 炎症性腸疾患の現在・過去・未来 - 外科領域のこれまでとこれから -	沖縄県市町村自治会館	2018年8月4日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	第36回北河内炎症性腸疾患カンファレンス クローン病の外科治療を考える	ホテルアゴラ 大阪守口	2018年7月21日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	第7回福岡大学筑紫病院 炎症性腸疾患センター市民公開講座 IBDにおける外科治療	JR九州ホール	2018年5月27日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	第29回鹿児島大腸肛門病懇話会	城山観光ホテル	2018年3月17日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	第1回IBDメディカルセミナー in九州	福岡大学筑紫病院	2018年3月4日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	福岡大学筑紫病院 IBD教室	福岡大学筑紫病院	2018年2月20日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	平成29年度日本炎症性腸疾患学会 市民公開講座	コンgresクエア日本橋	2018年2月11日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	クローン病の肛門部病変に対するBio治療の最適化を考える会 in 関西	ホテルグランヴィア大阪	2018年1月20日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	平成29年日本炎症性腸疾患学会 教育セミナー	TKPガーデンシティ品川	2017年12月2日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	多摩Biological Forum	吉祥寺第一ホテル	2017年9月15日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	第22回青森IBD研究会	アートホテル弘前シティ	2017年9月2日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	第15回IBD Club Jr. Kyushu	アクロス福岡	2017年8月5日
二見喜太郎(福岡大学筑紫病院外科)	戸畑セミナー 特別講演会	戸畑共立病院	2017年6月26日
虹川大樹(みやぎ県立こどもクリニック)	小児科診療UP-to-DATE「免疫不全関連腸炎の診断と治療」	ラジオ NIKKEI	2018年9月26日
虹川大樹(みやぎ県立こどもクリニック)	第3回小児慢性特定疾病医療講演会「こどもの慢性消化器疾患と成人移行(トランジション)」	日立システムズホール仙台 (仙台市)	2018年10月20日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	IBDワークショップ in 福山, IBD診療の新時代への挑戦.	広島	2020年3月26日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第3回日本免疫不全・自己炎症学会総会・学術集会スポンサーードシンポジウム, 小児消化器医からみた炎症性腸疾患~早期診断と治療の適正化を目指して~.	東京	2020年2月16日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第15回日本小児栄養消化器肝臓学会卒後教育セミナー スポンサーードセミナー, Biologic for Pediatric IBD in 2020.	福岡	2020年1月25日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	2019年度日本炎症性腸疾患学会 市民公開講座, 小児期のIBDの治療とケア.	福岡	2019年12月1日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	日本炎症性腸疾患学会 医師向け教育セミナー, 小児期に発症するIBD.	福岡	2019年11月30日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	IBDトランジションケア連携セミナー, 小児期発症IBD患者の輝く未来を目指して!.	福岡	2019年10月5日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	鳥取県IBD研究会, 小児IBD診療の新時代へ - 遺伝子診断から抗TNF- 製剤まで - .	鳥取	2019年9月20日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	IBDの未来を考える会 in 東海, IBD診療の新時代へ - 診療そして質の高い治療を考える.	名古屋	2019年9月19日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第10回上本町IBDミーティング, 小児IBDの診断と治療の新時代.	大阪	2019年8月30日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第24回藤田歯科大学医学部小児科後期研修セミナー, 小児IBDの診断と治療 ~ 遺伝子研究が開く新しい世界 ~ .	名古屋	2019年7月20日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第3回IBDワークショップ, IBD診療の新時代への挑戦.	岡山	2019年7月12日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第一回群馬IBDエキスパートセミナー, 当院における潰瘍性大腸炎に対するシンポニーの位置付けと展望.	群馬	2019年6月25日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	Ustekinumab Advisory Board of Pediatric Crohn's Disease, 小児クローン病に対するウステキヌマブの可能性.	東京	2019年4月5日

社会活動に関する一覧表

活動者名(所属施設)	会の名称および講演演題等	会場および新聞名等	活動年月日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	群馬バイオミラーFORUM, 炎症性腸疾患におけるバイオミラー導入の意義について.	群馬	2019年2月22日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	九州小児IBDセミナー, Biologic for Pediatric IBD.	福岡	2019年2月15日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	栃木県IBD学術講習会2019, 増え続ける小児IBD患者の診療~診療からチーム医療まで~.	栃木	2019年2月13日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	日本小児栄養消化器肝臓学会 第13回卒業後教育セミナー, 超早期発症性炎症性腸疾患(VEO-IBD)の臨床と研究.	東京	2019年1月12日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第7回浜松IBD道場, 小児IBD診療の最前線2018.	静岡	2018年12月15日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第38回IBD&ベーチェット病(IBD&B)研究会, Monogenic IBD診療の現状と未来.	東京	2018年11月30日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	CD Web Seminar Meet The Specialist, IBD治療における今後の可能性.	東京	2018年11月15日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	JDDW 2018 Kobe サテライトシンポジウム91, 小児における生物学的製剤.	兵庫	2018年11月2日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第56回日本小腸学会学術集会, 小児における小腸内視鏡検査の実態と展望.	東京	2018年10月27日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	Meet it Expert Seminar on UC ~潰瘍性大腸炎治療における免疫原性の重要性を考える~, 小児潰瘍性大腸炎治療における免疫原性の重要性.	北海道	2018年10月11日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第45回日本小児臨床薬理学会学術集会ランチョンセミナー, 小児IBD診療における生物学的製剤の位置付け.	東京	2018年10月7日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第23回青森IBD研究会, IBD診断の新時代へ! - 小児IBDにおける遺伝子診断の取り組み - .	青森	2018年9月22日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	IBD Expert Meeting 小児IBDに学ぶ, 小児IBDの病態と診療Management.	大阪	2018年9月20日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第16回IBDの子どもと歩む会, 進化する小児IBD診療 新薬からQOL改善の取り組みまで.	大阪	2018年6月10日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第18回IBDフォーラム in 札幌, 小児IBD患者におけるバイオ治療 ~過去から未来へ~.	北海道	2017年6月2日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	SENDAI IBD FORUM 2018, 小児IBDの生物学的製剤 最新情報~バイオシミラーから新薬まで~.	宮城	2018年5月18日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第104回日本消化器病学会総会ランチョンセミナー2, 小児IBD患者にバイオを始めるタイミングと留意点.	東京	2018年4月19日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	NPO法人日本炎症性腸疾患協会シンポジウム, みんなで考えようIBDライフ - IBD患者の抱える問題点とその対策.	東京	2018年3月17日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	IBDカンファレンス, 小児IBD診療の最前線.	広島	2018年2月20日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第46回杏林医学学会総会における市民公開講演会, 小児の炎症性腸疾患 小児科と内科の連携について.	東京	2017年11月18日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	平成29年度厚生連薬剤師会秋季研修会, 小児IBD診療の最前線から - 子供たちの未来を開く - .	新潟	2017年11月11日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第27回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 小児炎症性腸疾患診療の進歩と抗TNF 抗体製剤の位置づけ.	京都	2017年10月7日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	小児炎症性腸疾患市民公開講座2017, IBDの子どもたちとともに! - QOLをあげるための取り組み - .	大阪	2017年10月7日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	Biologics Seminar for Pharmacists, 炎症性腸疾患の子どもたちの未来を開く~小児への投与対象拡大の取り組み.	東京	2017年9月30日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第121回日本消化器病学会北海道支部例会・第115回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会ランチョンセミナー3, 若年層からのIBD治療の現状.	札幌	2017年9月2日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	IBD最新情報報告会, 小児IBD治療の最前線と留意点.	東京	2017年7月18日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第24回茨城県炎症性腸疾患研究会, IBDの診断と治療の向上.	茨城	2017年6月28日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	第8回IBD若鷹の会, 小児IBDの治療戦略.	福岡	2017年6月25日
新井勝大(国立成育医療研究センター)	IBDメディカルスタッフ教育セミナー in 大阪, IBD患者の栄養と食事、ランチョンセミナー.	大阪	2017年5月21日

社会活動に関する一覧表

活動者名(所属施設)	会の名称および講演演題等	会場および新聞名等	活動年月日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	令和元年度第2回難病及び小児慢性特定疾病指定医研修. 講演名: 潰瘍性大腸炎、	秋田県医師会館	2019年10月27日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	秋田 IBD 医療連携ミーティング講演名: 高齢者潰瘍性大腸炎の治療指針について、	秋田拠点センターアルベ	2019年9月26日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	令和元年度第1回難病及び小児慢性特定疾病指定医研修. 講演名: 潰瘍性大腸炎、	秋田県医師会館	2019年6月31日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	第6回秋田炎症性腸疾患市民公開講座、一般演題・パネルディスカッション司会および講演「IBDの最新情報」	遊学舎(秋田市)	2018年9月29日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	平成30年度第2回難病及び小児慢性特定疾病指定医研修. 講演「潰瘍性大腸炎」	秋田県医師会館	2018年7月22日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	平成30年度第1回難病及び小児慢性特定疾病指定医研修. 講演「潰瘍性大腸炎」	秋田県医師会館	2018年6月17日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	「知りたい!がん検診」. 大腸がんに立ち向かうために.	秋田朝日放送	2018年5月20日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	「知りたい!がん検診」. 大腸がんの治療.	秋田朝日放送	2018年5月13日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	「知りたい!がん検診」. 大腸がん検診について.	秋田朝日放送	2018年5月6日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	「知りたい!がん検診」. 知りたい!大腸がん検診.	秋田朝日放送	2018年4月29日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	平成29年度第2回難病及び小児慢性特定疾病指定医研修. 潰瘍性大腸炎(講演)	秋田県医師会館	2017年7月23日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	平成29年度第1回難病及び小児慢性特定疾病指定医研修. 潰瘍性大腸炎(講演)	秋田県医師会館	2017年6月25日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	「知りたい!がん検診」. 大腸がんに立ち向かうために.	秋田朝日放送	2017年5月21日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	「知りたい!がん検診」. 大腸がんの治療.	秋田朝日放送	2017年5月14日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	「知りたい!がん検診」. 大腸がん検診について.	秋田朝日放送	2017年5月7日
飯塚政弘(秋田赤十字病院)	「知りたい!がん検診」. 知りたい!大腸がん検診.	秋田朝日放送	2017年4月30日
上村修司, 井戸章雄(鹿児島大学)	鹿児島県難病支援医療相談, 巡回相談会: 潰瘍性大腸炎について	鹿児島県首於市おおすみ健康ふれあい館	2019年9月18日
小牧祐雅, 井戸章雄(鹿児島大学)	度鹿児島県難病支援医療相談 炎症性腸疾患, クロウン病~病気との上手なつきあい方~	鹿児島市ハートピア鹿児島	2018年11月11日
上村修司, 井戸章雄(鹿児島大学)	鹿児島県難病支援医療相談, 巡回相談会: 潰瘍性大腸炎について	鹿児島県出水市保健所	2018年9月18日
上村修司, 井戸章雄(鹿児島大学)	平成30年度「難病指定医」・「協力難病指定医」研修会2018「代表的な疾患の診療等について(消化器疾患)」	鹿児島市鹿児島県医師会会館	2018年8月11日
岡本隆一(東京医科歯科大学)	炎症性腸疾患に対する再生医療	ラジオ NIKKEI「医学講座」	2020年1月14日
角田洋一(東北大学)	第13回NEXTSURG市民公開講座「身近な難病、潰瘍性大腸炎とクローン病はどんな病気?」	仙台	2020年2月2日
加藤順(三井記念病院)	地域連携フォーラム 炎症性腸疾患の病態と治療法	三井記念病院講堂	2018年5月16日
加藤順(和歌山県立医大)	難病医療相談会 潰瘍性大腸炎・クローン病の治療と日常生活の注意点について	海南市	2018年1月27日
加藤順(和歌山県立医大)	和歌山市薬剤師会研修会 潰瘍性大腸炎・クローン病の病態と治療法の進歩	和歌山市	2017年9月21日
加藤順(和歌山県立医大)	難病指定医・協力難病指定医研修会 潰瘍性大腸炎・クローン病の診断・治療および臨床調査個人票の記載について	和歌山市	2017年7月9日
楠 正人, 問山 裕二(三重大学)	潰瘍性大腸炎癌化リスク診断法の開発 記者会見	三重大学広報室 記者会見	2020年1月9日
楠 正人, 問山 裕二(三重大学)	潰瘍性大腸炎癌化リスク診断法の開発	NHK	2020年1月14日
楠 正人, 問山 裕二(三重大学)	潰瘍性大腸炎癌化リスク診断法の開発	中日新聞, 伊勢新聞, 毎日新聞	2020年1月15日
楠 正人, 問山 裕二(三重大学)	潰瘍性大腸炎癌化リスク診断法の開発	朝日新聞	2020年1月20日
熊谷秀規(自治医科大学小児科学)	IBD診療における小児から成人へのトランジション	【取材協力】株式会社三雲社 CCJAPAN	2018年2月26日
熊谷秀規(自治医科大学小児科学)	小児科診療 UP-to-DATE 移行期医療(トランジション)への取り組み	【出演】ラジオ NIKKEI	2018年1月3日
小林 拓(北里大学北里研究所病院)	北里研究所病院市民公開講座	北里大学薬学部	2019年2月23日
小林 拓(北里大学北里研究所病院)	病気を抱えながら働くことを考えるD&Iフォーラム	フクラシア東京ステーション	2018年5月12日
小林 拓(北里大学北里研究所病院)	第102回日本消化器病学会関東支部 市民公開講座	北里大学白金キャンパス	2018年9月15日
小林 拓(北里大学北里研究所病院)	IBD医療連携勉強会	八芳園	2018年10月17日
小山文一(奈良県立医科大学)	奈良県難病医療従事者向け研修会	かしはら万葉ホール	2020年2月16日
小山文一(奈良県立医科大学)	奈良県難病相談支援センター 医療相談会	大和郡山総合庁舎	2019年8月22日
小山文一(奈良県立医科大学)	NARA FRIENDS IBD市民公開講座	春日野国際フォーラム	2019年6月9日
小山文一(奈良県立医科大学)	奈良県難病相談支援センター 医療相談会	大和郡山総合庁舎	2018年8月23日

社会活動に関する一覧表

活動者名(所属施設)	会の名称および講演演題等	会場および新聞名等	活動年月日
小山文一(奈良県立医科大学)	NARA FRIENDS IBD 市民公開講座	奈良県産業会館	2018年8月5日
小山文一(奈良県立医科大学)	奈良県難病相談支援センター 医療相談会	大和郡山総合庁舎	2017年8月24日
小山文一(奈良県立医科大学)	NARA FRIENDS IBD 市民公開講座	奈良商工会議所	2017年8月6日
藤谷幹造(旭川医科大学)	乳酸菌と腸のバリア機能	市民向け講演会であるヤクルト健康フォーラムにて講演(北海道千歳市)	2019年11月17日
藤谷幹造(旭川医科大学)	乳酸菌と腸のバリア機能	市民向け講演会であるヤクルト健康フォーラムにて講演(h北海道千歳市)	2019年11月4日
藤谷幹造(旭川医科大学)	IBD新しい検査法と新薬開発	市民・患者向け講演会である北海道潰瘍性大腸炎・クローン病友の会 医療講演会&交流会 inオホーツクにて講演(北海道北見市)	2019年10月27日
藤谷幹造(旭川医科大学)	IBD診療の最先端 新しい検査法と新薬開発	患者向け講演会である第27回腸寿会にて講演(北海道旭川市)	2019年10月27日
藤谷幹造(旭川医科大学)	臨床研究とバイオシミラー最近の話題 - 炎症性腸疾患を中心に -	Asahikawa Pharmacy Director Seminarにて講演	2019年8月8日
藤谷幹造、尾川直樹	医師への軌跡 副作用が少なく効果の高い薬を患者さんのもとへ	医学生向け雑誌DOCTORASEに記事掲載	2019年7月25日
藤谷幹造(旭川医科大学)	炎症性腸疾患治療の現状とアカデミア創薬	旭川薬剤師セミナーにて講演	2019年6月12日
藤谷幹造(旭川医科大学)	潰瘍性大腸炎治療の新たなアプローチ	Pharmacy of University (PU) 研究会にて講演(東京)	2019年1月26日
藤谷幹造(旭川医科大学)	IBD 新しい検査法と新薬開発	市民・患者向け講演会である北海道潰瘍性大腸炎・クローン病友の会 医療講演会にて講演(北海道旭川市)	2018年12月16日
藤谷幹造(旭川医科大学)	胃・大腸がんの予防と早期発見	東光公民館市民講座にて講演(北海道旭川市)	2018年9月26日
藤谷幹造(旭川医科大学)	腸内細菌と健康	北海道栄養士会北海道支部研修会にて講演(北海道旭川市)	2018年8月29日
藤谷幹造(旭川医科大学)	腸内細菌と健康	あたご市民大学にて講演(北海道旭川市)	2018年6月14日
藤谷幹造(旭川医科大学)	旭医大2つの共同研究講座	北海道医療新聞に掲載	2018年6月1日
藤谷幹造(旭川医科大学)	炎症性腸疾患の新薬開発へ	北海道医療新聞に掲載	2018年5月25日
藤谷幹造(旭川医科大学)	旭川医大発VBに出資	日本経済新聞に掲載	2018年5月17日
藤谷幹造(旭川医科大学)	炎症性腸疾患治療薬開発へ	北海道新聞に掲載	2018年5月17日
藤谷幹造(旭川医科大学)	腸内細菌と健康	市民向け講演会である平成29年度雄武町民健康講話にて講演(北海道雄武町)	2018年2月22日
藤谷幹造(旭川医科大学)	プロバイオティクス由来分子を用いた難病・癌治療薬の開発	一般向け講演会である第60回ヒューマンサイエンス・バイオインターフェースにて講演(東京)	2017年11月27日
藤谷幹造(旭川医科大学)	潰瘍性大腸炎における臨床ニーズとモデル作製・評価「潰瘍性大腸炎における治療の現状・臨床ニーズ」	一般向け講演会である技術情報協会セミナーにて講演(東京)	2017年7月18日
松浦 稔(京都大学医学部附属病院)	京都市委託事業 平成30年度難病疾患医療講演相談会・「進歩するIBD治療薬」	ハートピア京都	2018年12月9日
松浦 稔(京都大学医学部附属病院)	京都市委託事業 平成29年度難病疾患医療講演相談会・「炎症性腸疾患と腸内細菌」	ハートピア京都	2017年12月10日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	久留米医師会学術講演会『～潰瘍性大腸炎の診断と治療～』	ホテルマリタレ創世	2020年3月16日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	第3回炎症性腸疾患(IBD)市民公開講座&相談会	久留米大学病院	2020年3月15日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	令和元年度第8回長崎県病院薬剤師会学術講演会『最近の慢性便秘症の治療 -腸内細菌の話題を含めて-』	ザ・マーカススクエア長崎	2020年3月10日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	TAKEDA IBD Web セミナー『IBDの病態と治療-ベドリズムの有効性を考える-』	ホテルオークラ福岡	2020年2月20日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	『久留米大学におけるIBD治療について』	久留米リサーチパーク	2020年2月6日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	中央区内科医会学術講演会『便秘症の診断と治療：最近の話題』	西鉄グランドホテル	2020年1月14日

社会活動に関する一覧表

活動者名(所属施設)	会の名称および講演演題等	会場および新聞名等	活動年月日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	熊本市薬剤師会研修会『炎症性腸疾患の病態と治療～腸内細菌の話題を含めて～』	熊本県薬剤師会館	2020年1月7日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	ヤンセンファーマ社内研修会『炎症性腸疾患の診断・治療における新展開』	オリエンタルホテル福岡	2019年10月11日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	消化器病疾患地域ケアフォーラム『便秘症の診断と治療：最近の話題』	福岡県済生会大牟田病院	2019年9月26日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	第157回久留米臨床研究会『炎症性腸疾患の病態と診断・治療』	久留米医師会館	2019年9月20日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	延岡医学会学術講演会『便秘症の診断と治療：最近の話題』	エンシティホテル延岡	2019年8月9日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	第25回筑紫消化器フォーラムのご案内『IBDの診断・治療における新展開』	大丸別荘	2019年7月31日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	内分泌代謝連携研究会『慢性便秘診療-新たな時代を迎えて-』	萃香園ホテル	2019年7月29日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	第172回福岡県筑後地区薬剤師研修会『慢性便秘診療-新たな時代を迎えて-』	久留米ビジネスプラザ	2019年7月19日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	社内医学教育会『IBDの病態と治療』	武田薬品工業(株)九州北支店	2019年5月21日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	日本化薬(株)社内勉強会『IBD関連腫瘍について』	久留米シティプラザ	2019年5月16日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	くるめIBD友の会『IBDの診断と治療～腸内細菌の話題を含めて～』	くるめ病院	2019年3月30日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	筑後地区排泄ケアを考える会『便秘症の診断と治療：最近の話題』	萃香園ホテル	2019年3月14日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	七隈便秘症治療講演会『便秘症の診断と治療：最近の話題』	ソラリア西鉄ホテル福岡	2019年3月6日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	宮崎慢性便秘症治療講演会『便秘症の診断と治療：最近の話題』	ホテルJALシティ宮崎	2019年3月5日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	EAファーマ(株)社内研修会『久留米大学でのレクタブル使用状況及びレクタブルの対象患者について』	ハynesホテル	2019年2月26日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	消化管最新医療フォーラム in 柳川病院『便秘症の診断と治療～最新の話について～』	柳川病院	2019年2月12日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	ゼリア新薬工業(株)社内研修会『クローン病の病態と治療』	久留米シティプラザ	2018年12月4日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	小郡三井医師会学術講演会『便秘症の診断と治療：最近の話題』	小郡三井医師会館	2018年11月14日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	久留米内科医会・臨床外科医会合同学術講演会『便秘症の診断と治療：最近の話題』	萃香園ホテル	2018年10月23日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	腸内細菌と腸関連疾患社内講演会『腸内細菌と腸関連疾患』	キリン(株)中野本社ビル	2018年10月2日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	ファイザー(株)社内勉強会『潰瘍性大腸炎の病態および診断・治療』	ファイザー(株)福岡事業所	2018年9月30日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	玉名郡市・荒尾市医師会講演会『便秘症の診断と治療：最近の話題』	司ロイヤルホテル	2018年9月20日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	旭化成メディカル(株)社内講演会『炎症性腸疾患の治療と診断』	旭化成メディカル(株)九州営業所	2018年8月2日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	慢性便秘症診療セミナー『慢性便秘症の診断と治療』	久留米大学病院	2018年7月25日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	第2回炎症性腸疾患(IBD)市民公開講座&相談会	久留米大学病院	2018年6月24日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	第162回福岡県筑後地区薬剤師研修会『慢性便秘症の診断と治療』	ホテルマリターレ創世久留米	2018年6月15日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	南総IBD研究会『IBDの病態・治療における新たな展開』	亀田総合病院Kタワー	2018年5月30日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	ピオフェルミン製薬(株)社外講師勉強会『炎症性腸疾患と腸内細菌』	久留米ホテルエスプリ	2018年5月18日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	第16回広島消化器免疫研究会『炎症性腸疾患の診断・治療における新たな展開』	広島大学霞キャンパス 公仁会館	2018年5月15日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	持田製薬株式会社社内研修会『慢性便秘症の診断と治療』	持田製薬株式会社 福岡支店	2018年3月19日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	リアルグ錠発売1周年記念研究会 -これからのUC診断・治療の展望- 『潰瘍性大腸炎の診断・治療における新たな展開』 -便中カルプロテクチンも含めて-』	ホテルニューガイアオームタガーデン	2018年1月15日

社会活動に関する一覧表

活動者名(所属施設)	会の名称および講演演題等	会場および新聞名等	活動年月日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	久留米大学先端癌治療研究センター市民公開講座『男女ともに増加する大腸の病気：炎症性腸疾患』	久留米大学先端癌治療研究センター市民公開講座	2018年1月13日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	沖縄ワークショップ『「IBDの病態と治療」』	沖縄県医師会館	2017年12月14日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	持田製薬株式会社社内研修会『潰瘍性大腸炎における便中カルプロテクチンの臨床応用』	持田製薬株式会社 福岡支店	2017年12月11日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	リアルタ発売1周年記念研究会『潰瘍性大腸炎における便中カルプロテクチンの臨床応用』	萃香園ホテル	2017年12月5日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	第9回徳島炎症性腸疾患講演会『「炎症性腸疾患の診断と治療-最新の知見-」』	ホテルグランドパレス徳島	2017年11月21日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	リアルタ錠発売1周年記念講演会in大分『「潰瘍性大腸炎の診断・治療における新たな展開」-便中カルプロテクチンも含めて-』	レンブラントホテル大分	2017年11月7日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	筑紫医師会学術講演会『慢性便秘の日常診療』	筑紫医師会館	2017年10月19日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	大腸疾患セミナー『「バイオマーカーを活用した炎症性腸疾患の治療戦略」～便中カルプロテクチンを中心に～』	ホテルメルパルク熊本	2017年9月8日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	第1回炎症性腸疾患(IBD) 市民公開講座『IBDについて知ってほしいこと』	久留米シティプラザ	2017年6月25日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	三月会学術講演会『便秘症の診断と治療：最近の話題』	八女筑後医師会館	2017年6月19日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	大牟田医師会学術講演会『便秘症の診断と治療：最近の話題』	ホテルニューガイアオームタガーデン	2017年6月14日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	第27回朝倉臨床栄養談話会『炎症性腸疾患の診断と治療-腸内細菌の話題を含めて-』	朝倉医師会病院	2017年6月13日
光山慶一(久留米大学医学部内科学講座)	豊前築上医師会学術講演会『便秘症の診断と治療：最近の話題』	ホテル築上館	2017年6月9日
渡辺憲治(兵庫医科大学)	第36回日本消化器内視鏡学会近畿支部セミナー-日本消化器内視鏡学会近畿支部、小腸内視鏡の基礎とリスク管理	大阪国際交流センター	2019年8月25日
渡辺憲治(兵庫医科大学)	日本炎症性腸疾患学会教育セミナー、IBDに合併する消化管癌 内視鏡診断	メルパルク京都	2018年11月23日
渡辺憲治(兵庫医科大学)	堺市医師会内科医会・外科医会合同学術講演会、日本最多の特定疾患、潰瘍性大腸炎の最前線	堺市医師会館	2018年9月25日
渡辺憲治(兵庫医科大学 腸管病態解析学)	第33回日本消化器内視鏡学会近畿支部セミナー、IBDの診断と治療：Up Date	大阪国際交流センター	2018年1月14日
渡辺憲治(兵庫医科大学 腸管病態解析学)	日本消化器病学会近畿支部第54回教育講演	京都テルサ	2017年6月25日